令和8年度　第1回介護保険事業運営等協議会･地域包括支援センター運営協議会
･地域密着型サービス等運営委員会

令和8年5月 29 日(金)午後2時
岸和田市役所　新館4階　第1委員会室

次　　第

1.開　会

2.委員委嘱

3.案　件

（１）第 10 期介護保険事業計画について

①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告　報告書（冊子）

②在宅生活改善調査、居所変更実態調査報告　報告書

③在宅介護実態アンケート調査報告　資料１－１

④第 10 期計画の骨子（案）　資料１－２

（２）令和７年度地域包括支援センター事業評価　資料２

（３）令和８年度地域包括支援センター実施計画について　資料３

（４）地域密着型サービス事業所の指定・更新状況について　資料４

（５）第９期介護保険事業計画における施設整備について　資料５

（６）その他

4.閉　会

岸和田市介護保険事業運営等協議会
地域包括支援センター運営協議会　　委員名簿
地域密着型サービス等運営委員会

（令和8年5月29日現在）

氏　名		所 属 団 体 等	
大谷　悟	ｵｵﾀﾆ ｻﾄﾙ	学識経験者（大阪体育大学）	元教授
山田　隆人	ﾔﾏﾀﾞ　ﾀｶﾋﾄ	学識経験者（関西医療大学）	准教授
原田　和明	ﾊﾗﾀﾞ　ｶｽﾞｱｷ	学識経験者（関西学院大学・立命館大学）	非常勤講師
浦田　尚巳	ｳﾗﾀ　ﾀｶｼ	岸和田市医師会	会長
森田　和伸	ﾓﾘﾀ　ｶｽﾞﾉﾌﾞ	岸和田市歯科医師会	副会長
炭谷　英司	ｽﾐﾀﾆ ｴｲｼﾞ	岸和田市薬剤師会	副会長
井元　三弘	ｲﾓﾄ　ﾐﾂﾋﾛ	岸和田市町会連合会	委員
徳久　貴男	ﾄｸﾋｻ　ﾀｶｵ	岸和田市社会福祉協議会	事務局長
小林　京美	ｺﾊﾞﾔｼ　ｷｮｳﾐ	岸和田市民生委員・児童委員協議会	副会長
吉田　美喜子	ﾖｼﾀﾞ　ﾐｷｺ	岸和田市老人クラブ連合会	副会長
大浪　雅子	ｵｵﾅﾐ　ﾏｻｺ	岸和田女性会議	役員
庄禮　博文	ｼｮｳﾚｲ　ﾋﾛﾌﾐ	大阪介護支援専門員協会　岸和田・忠岡支部	支部長
野本　晴之	ﾉﾓﾄ　ﾊﾙﾕｷ	（市民委員）	
山本　博司	ﾔﾏﾓﾄ　ﾋﾛｼ	介護サービス事業者（居宅サービス）	居宅介護支援事業所 マエダケアサービス
野内　清幸	ﾉｳﾁ ｷﾖﾕｷ	介護サービス事業者（施設サービス）	軽費老人ホーム 幸福荘
金井　雅子	ｶﾅｲ　ﾏｻｺ	介護サービス事業者（施設サービス）	特別養護老人ホーム 千亀利荘

岸和田市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書

令和８年３月

岸和田市

目 次

Ⅰ　アンケート調査の概要 1
　１　調査の目的 1
　２　調査概要 1
　３　報告書の見方 1
Ⅱ　アンケート調査結果 2
　ご回答される方について 2
　問１　あなたのご家族や生活状況について 5
　問２　からだを動かすことについて 13
　問３　食べることについて 18
　問４　毎日の生活について 25
　問５　地域での活動について 31
　問６　就労について 39
　問７　たすけあいについて 40
　問８　健康について 52
　問９　認知症について 59
　問 10　在宅医療について 68
　問 11　高齢者福祉全般について 78
　生活機能評価項目別のリスク判定 91
Ⅲ　アンケート調査票 128

Ⅰ　アンケート調査の概要

1　調査の目的

岸和田市では、「岸和田市高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画」（計画期間：令和９年度～令和 11 年度）の策定にあたり、皆様の生活状況について把握するため、岸和田市内にお住まいの高齢者 3,300 人（65 歳以上の方で介護認定を受けておられない方と要支援１、２の方から無作為に抽出した方）に対してアンケート調査を実施しました。

2　調査概要

項目	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
調査対象者	岸和田市内在住の 65 歳以上の方 （65 歳以上の方で介護認定を受けておられない方と 要支援１、２の方から無作為に抽出した方）
調査期間	令和７年 12 月 18 日（木）～令和８年１月 30 日（金）
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式
配布数	3,300 件
有効回収数	2,523 件
有効回収率	76.5%

3　報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「ｎ（number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

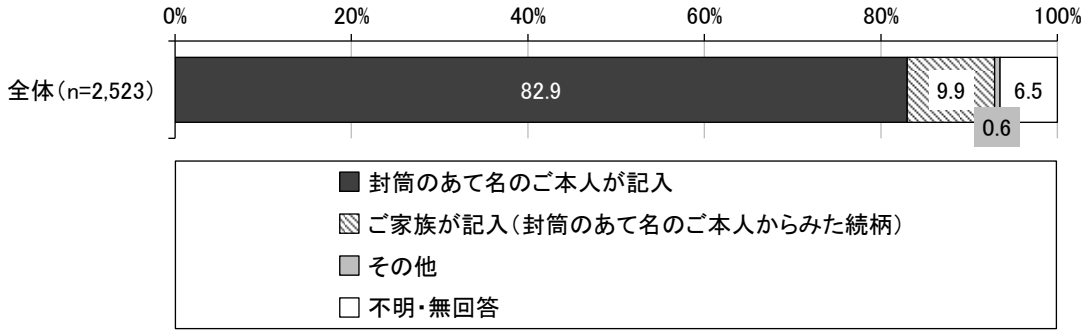
◇「その他」「不明・無回答」を除き、回答数の割合が高いもの第１位に網掛けをしています。

Ⅱ　アンケート調査結果

ご回答される方について

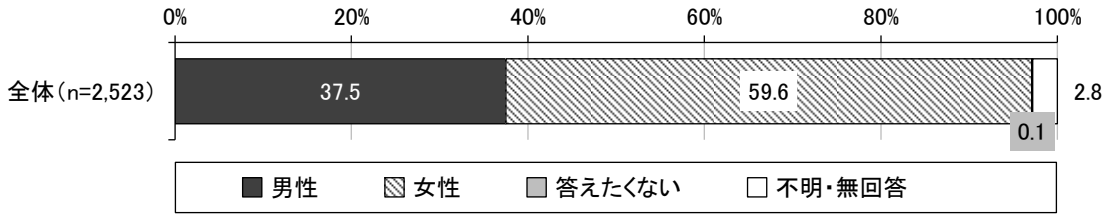
○この調査票に記入された方は、どなたですか。（１つに○）

「封筒のあて名のご本人が記入」が 82.9%と最も高く、次いで「ご家族が記入」が 9.9%、「その他」が 0.6%となっています。



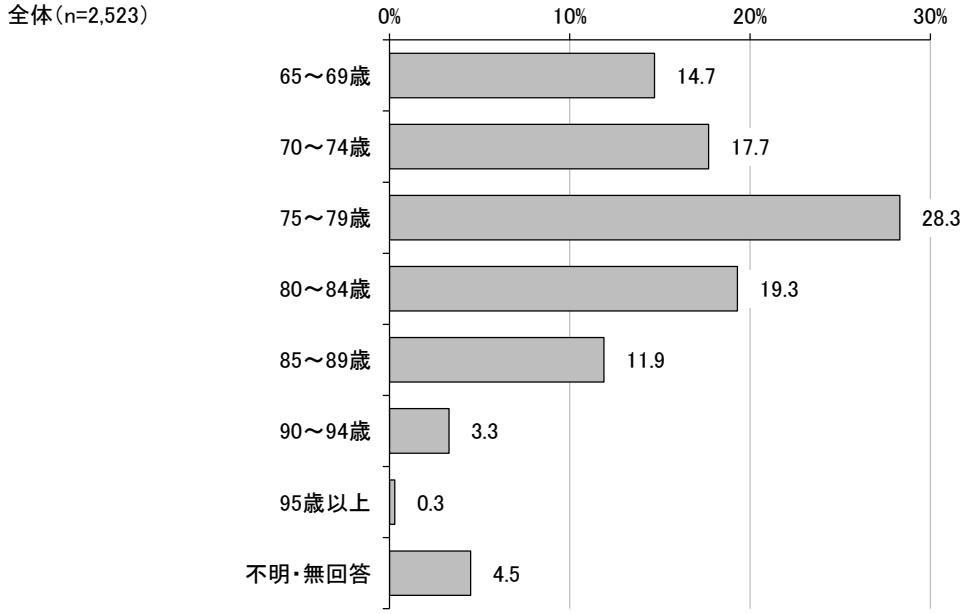
○　あなたの性別をお答えください。（１つに○）

「女性」が 59.6%、「男性」が 37.5%となっています。



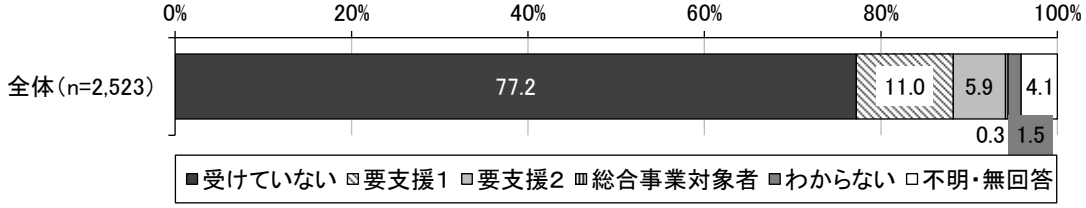
○　あなたの年齢をお答えください。

「75 歳～79 歳」が 28.3%と最も高く、次いで「80 歳～84 歳」が 19.3%、「70 歳～74 歳」が 17.7%となっています。



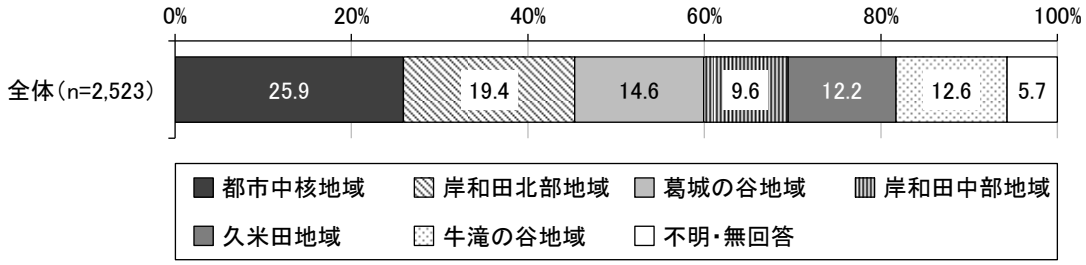
○　あなたの現在の認定状況を教えてください。（１つに○）

「受けていない」が 77.2%と最も高く、次いで「要支援１」が 11.0%、「要支援２」が 5.9%となっています。



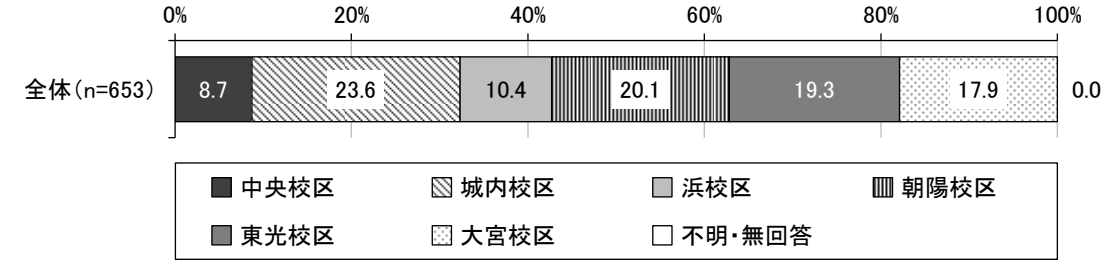
○　あなたのお住まいの地域はどこですか。

「都市中核地域」が 25.9%と最も高く、次いで「岸和田北部地域」が 19.4%、「葛城の谷地域」が 14.6%となっています。



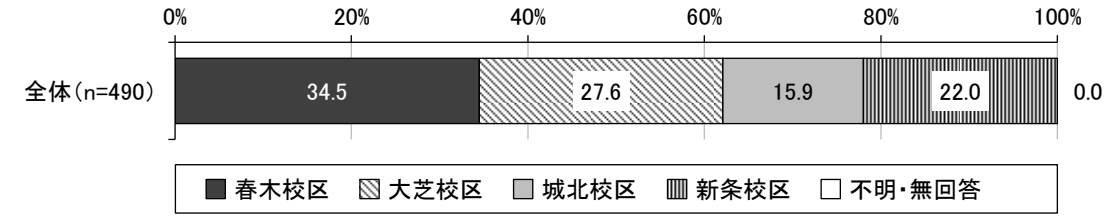
【都市中核地域】あなたのお住まいの地域はどこですか。

「城内校区」が 23.6%と最も高く、次いで「朝陽校区」が 20.1%、「東光校区」が 19.3%となっています。



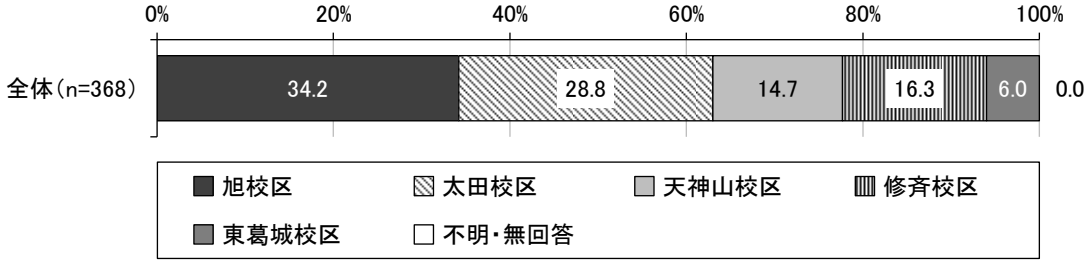
【岸和田北部地域】あなたのお住まいの地域はどこですか。

「春木校区」が 34.5%と最も高く、次いで「大芝校区」が 27.6%、「新条校区」が 22.0%となっています。



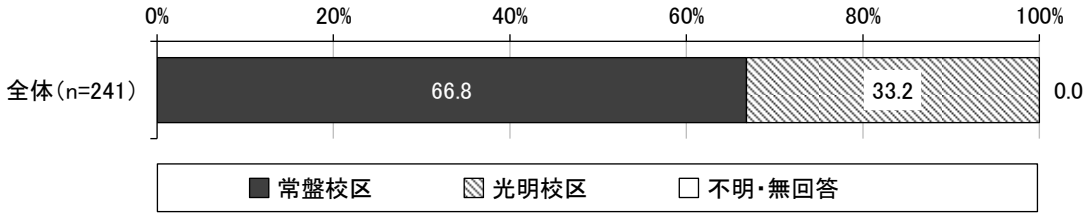
【葛城の谷地域】あなたのお住まいの地域はどこですか。

「旭校区」が 34.2%と最も高く、次いで「太田校区」が 28.8%、「修斉校区」が 16.3%となっています。



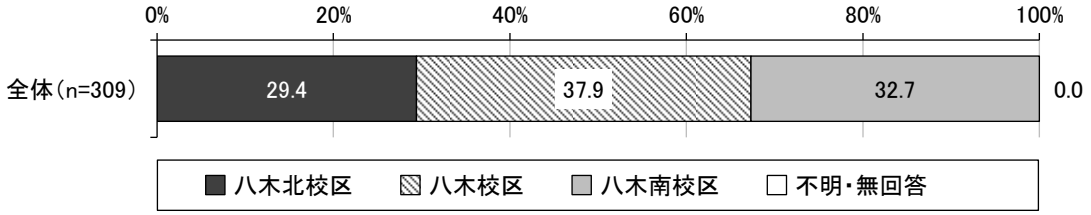
【岸和田中部地域】あなたのお住まいの地域はどこですか。

「常盤校区」が 66.8%と、「光明校区」の 33.2%を上回っています。



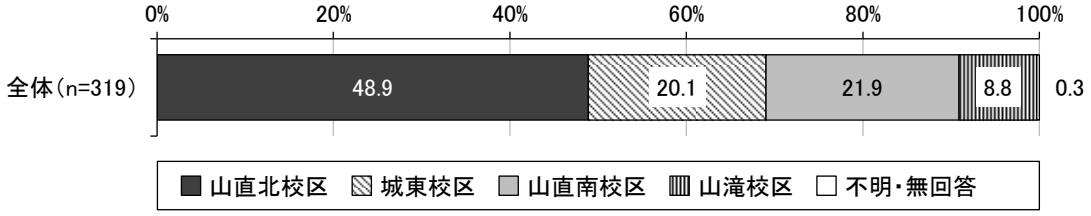
【久米田地域】あなたのお住まいの地域はどこですか。

「八木校区」が 37.9%と最も高く、次いで「八木南校区」が 32.7%、「八木北校区」が 29.4%となっています。



【牛滝の谷地域】あなたのお住まいの地域はどこですか。

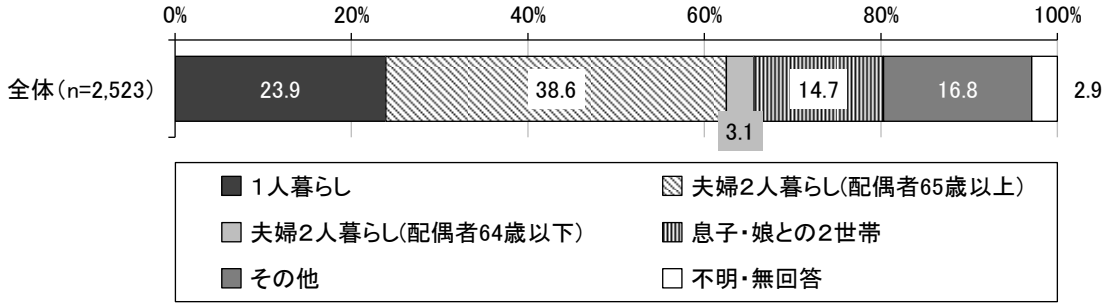
「山直北校区」が 48.9%と最も高く、次いで「山直南校区」が 21.9%、「城東校区」が 20.1%となっています。



問１　あなたのご家族や生活状況について

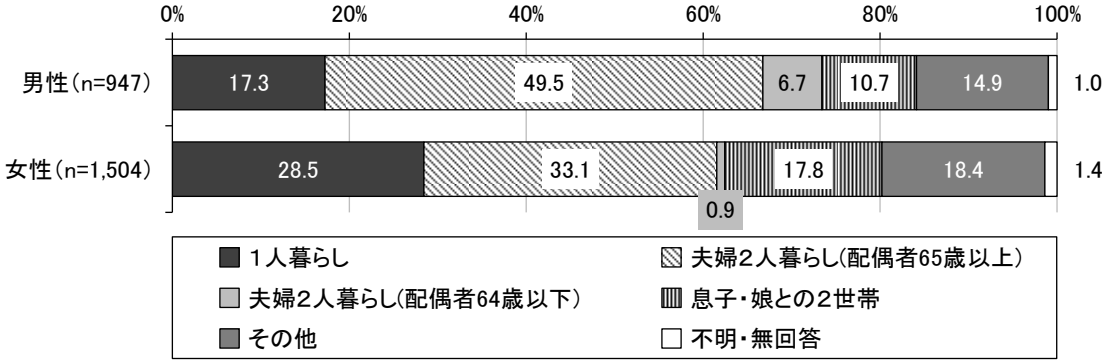
（１）家族構成をお教えください。（１つに○）

「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 38.6%と最も高く、次いで「１人暮らし」が 23.9%、「その他」が 16.8%となっています。



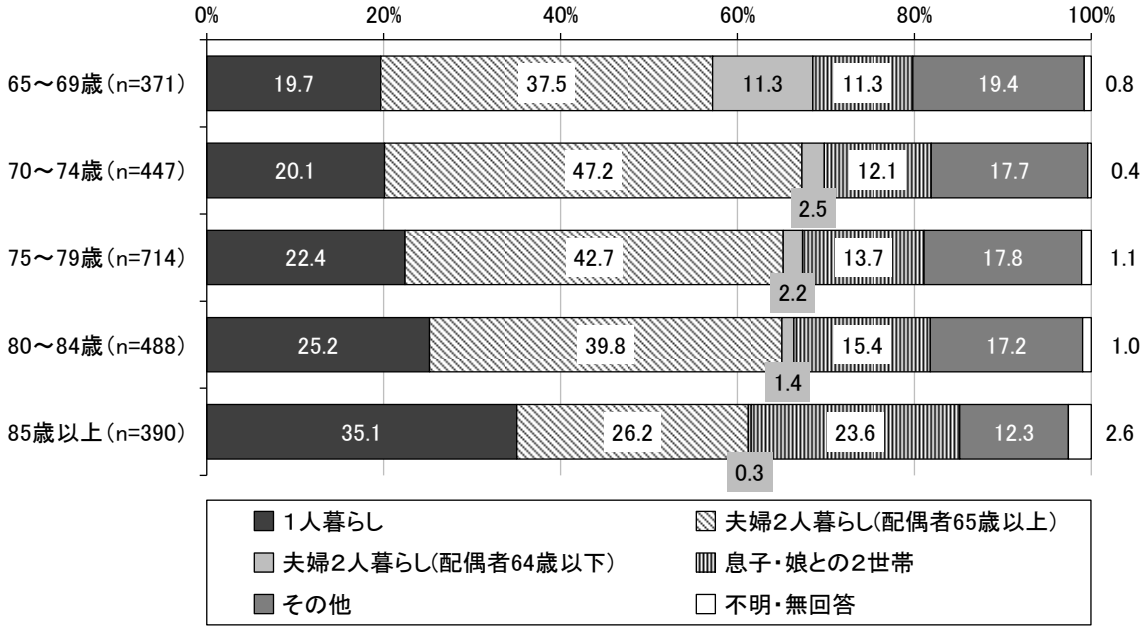
【性別】〔問１（１）家族構成をお教えください。〕

性別にみると、男女ともに「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も高くなっていますが、男性が 49.5%と女性を 16.4 ポイント上回っています。



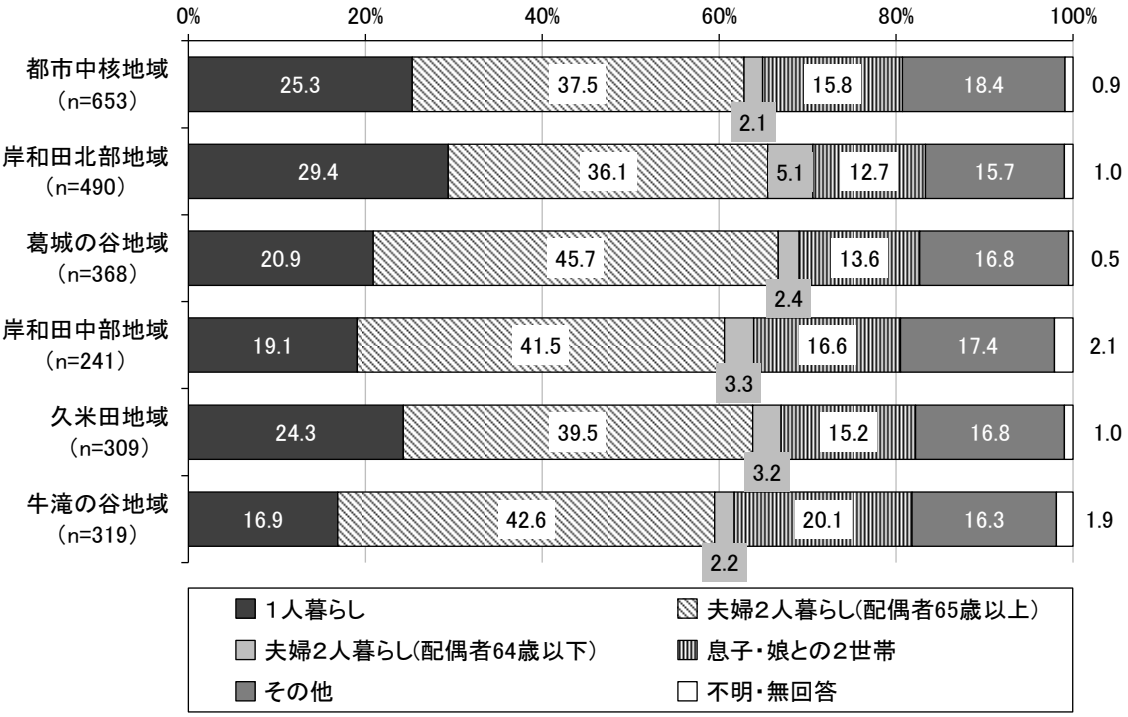
【年齢別】〔問１（１）家族構成をお教えください。〕

年齢別にみると、85 歳以上で「１人暮らし」、その他の年齢では「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」がそれぞれ最も高くなっています。



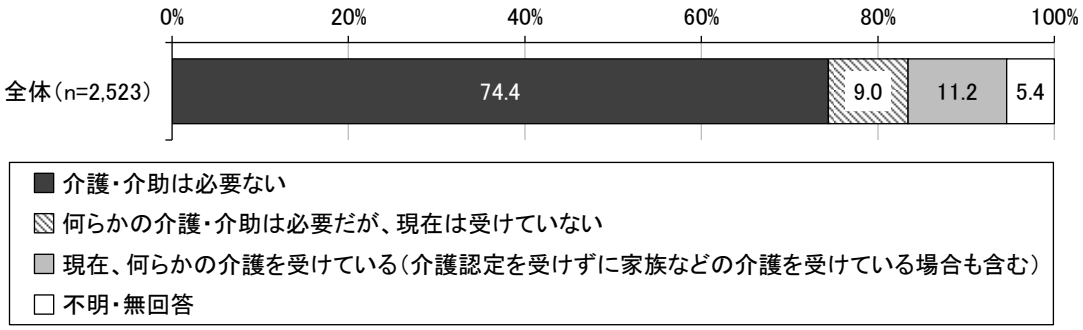
【地域別】〔問１（１）家族構成をお教えください。〕

地域別にみると、すべての地域で「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が最も高くなっています。



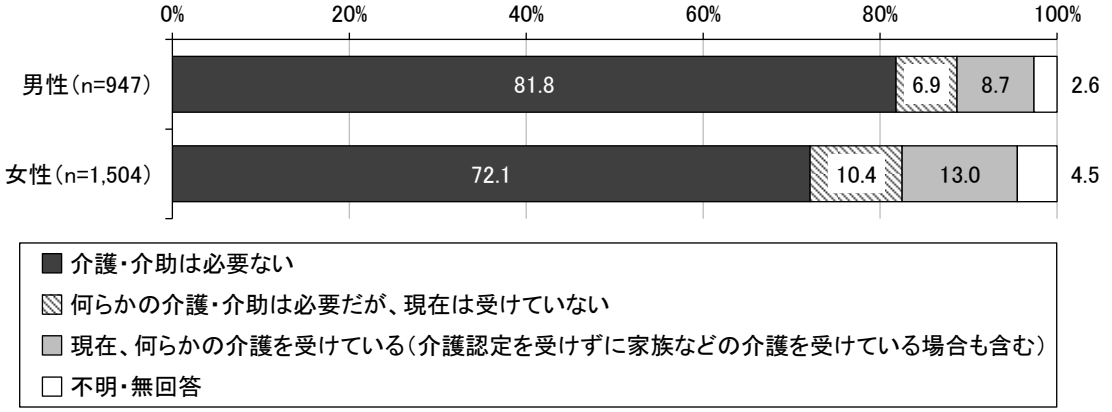
（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（１つに○）

「介護・介助は必要ない」が 74.4%と最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が 11.2%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 9.0%となっています。



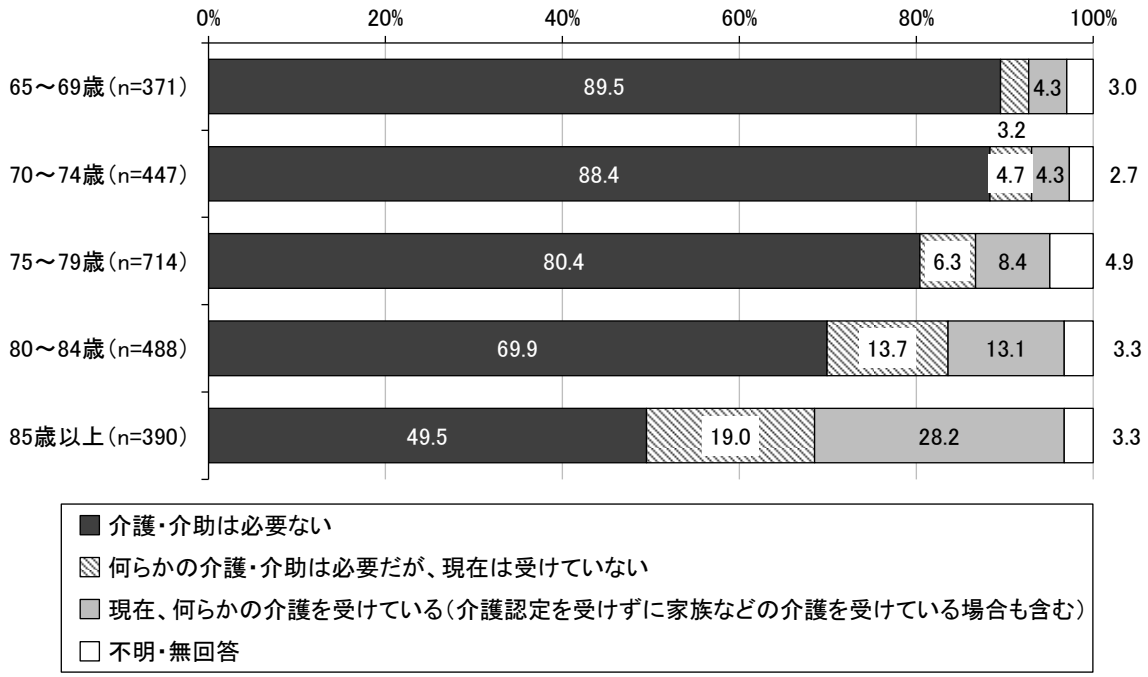
【性別】〔問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。〕

性別にみると、男女ともに「介護・介助は必要ない」が最も高くなっていますが、男性が 81.8%と女性を 9.7 ポイント上回っています。



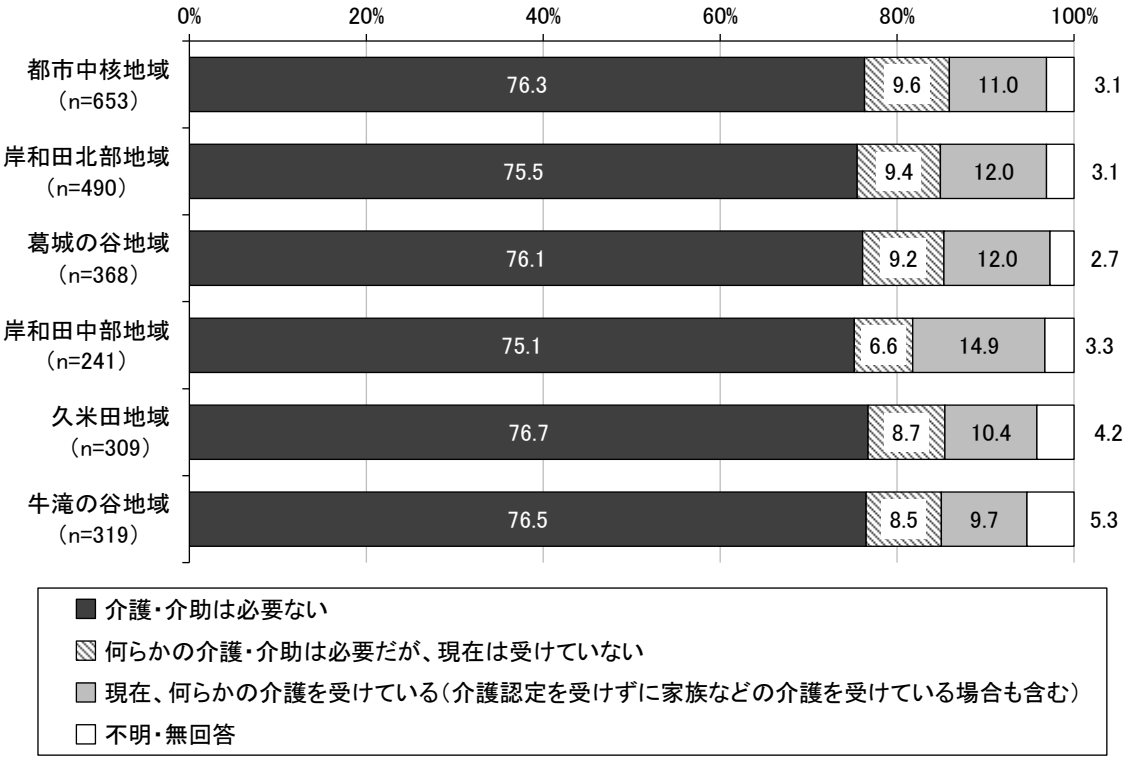
【年齢別】〔問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。〕

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「介護・介助は必要ない」が低くなっています。



【地域別】〔問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。〕

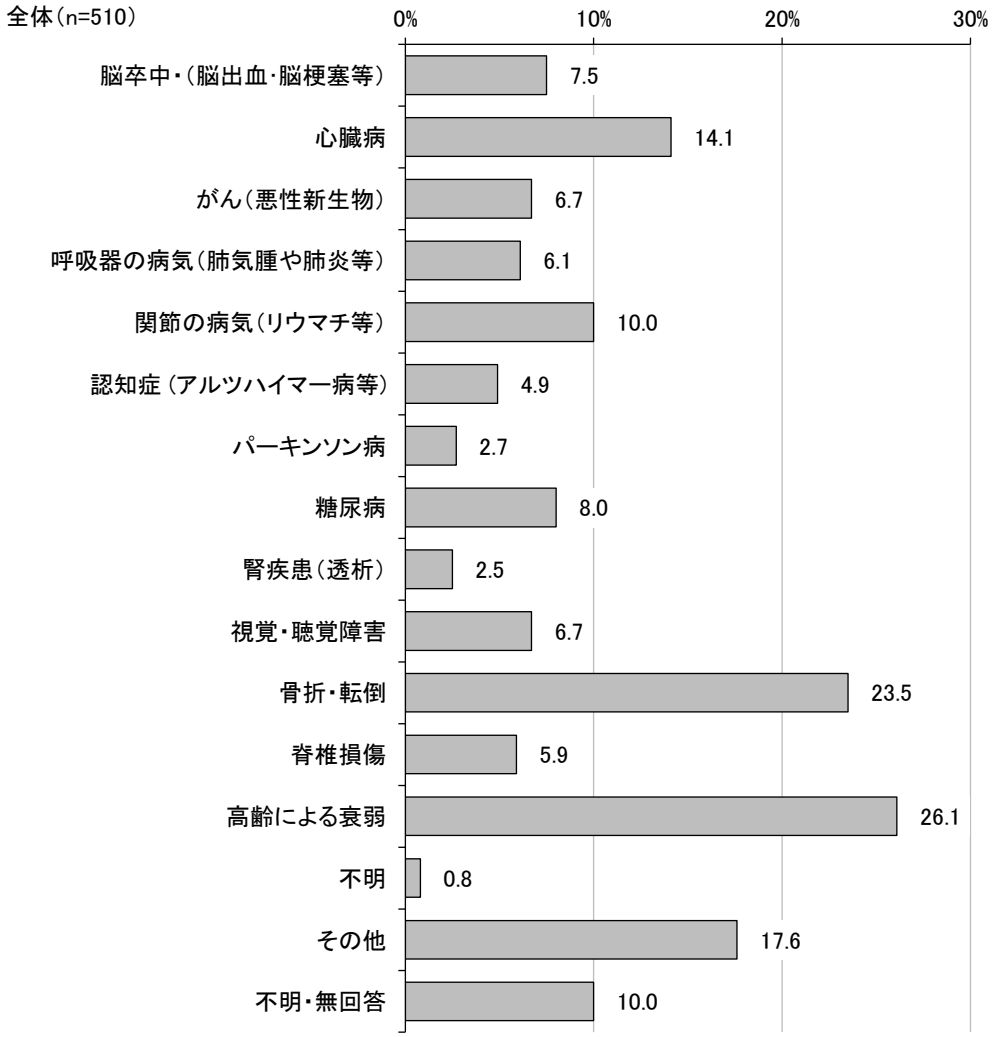
地域別にみると、すべての地域で「介護・介助は必要ない」が最も高くなっています。



（２）で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」を回答した方にお伺いします。

（２）－１　介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

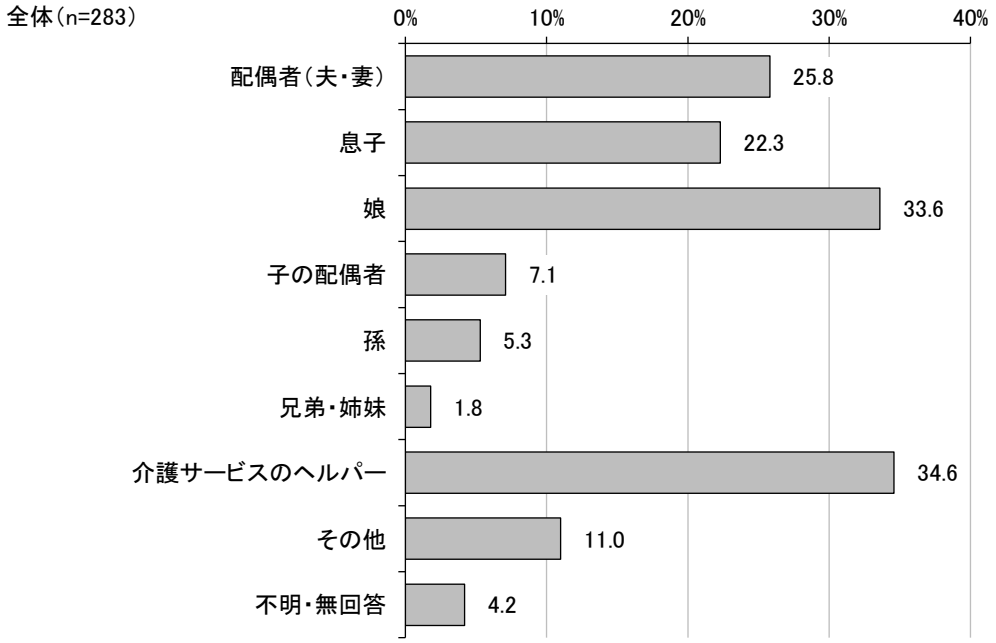
「高齢による衰弱」が 26.1％と最も高く、次いで「骨折・転倒」が 23.5％、「心臓病」が 14.1％となっています。



（２）で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします。

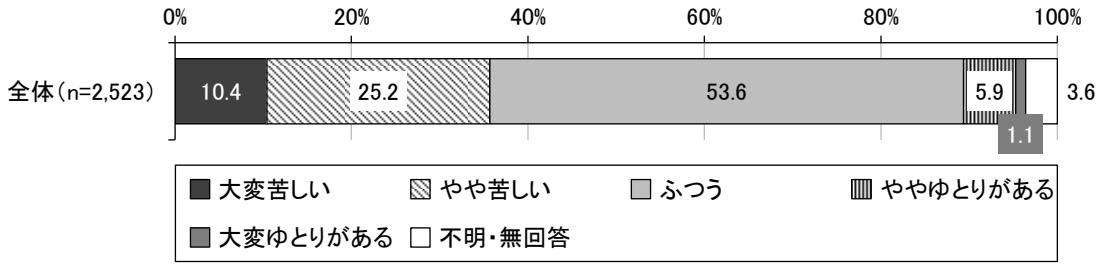
（２）－２　主にどなたからの介護、介助を受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

「介護サービスのヘルパー」が 34.6％と最も高く、次いで「娘」が 33.6％、「配偶者（夫・妻）」が 25.8％となっています。



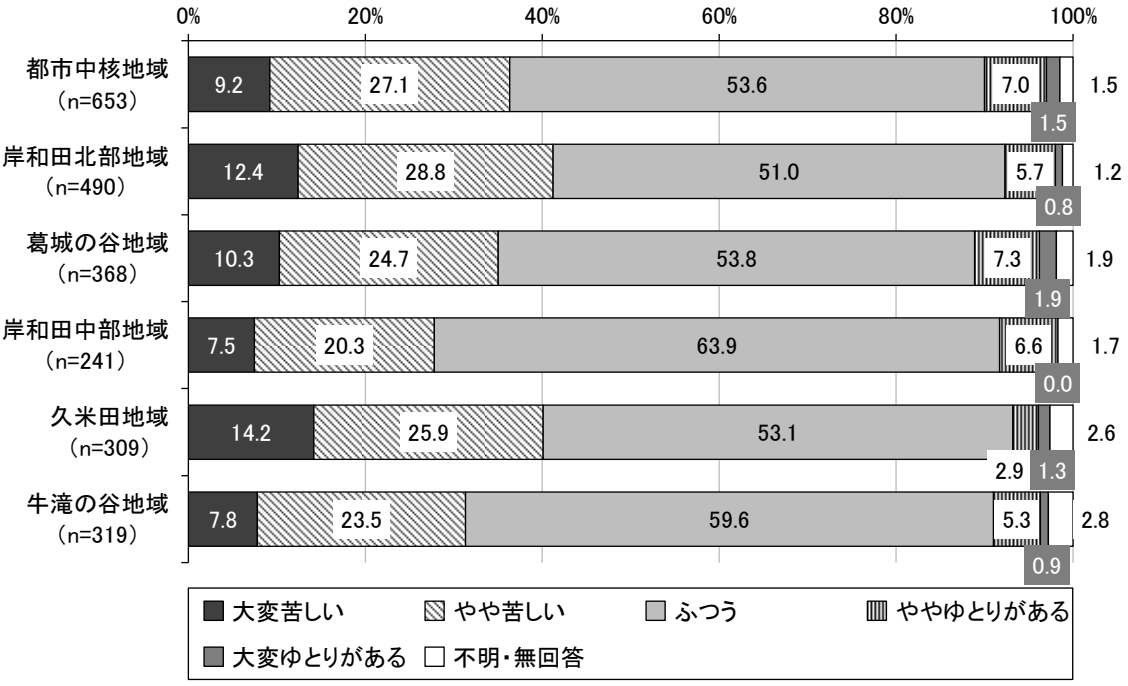
（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（１つに○）

「ふつう」が 53.6％と最も高く、次いで「やや苦しい」が 25.2％、「大変苦しい」が 10.4％となっています。



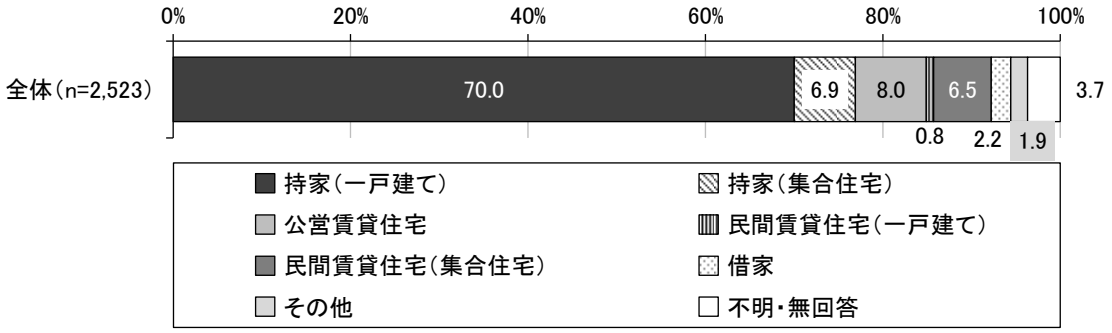
【地域別】〔問１（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「ふつう」が最も高くなっています。



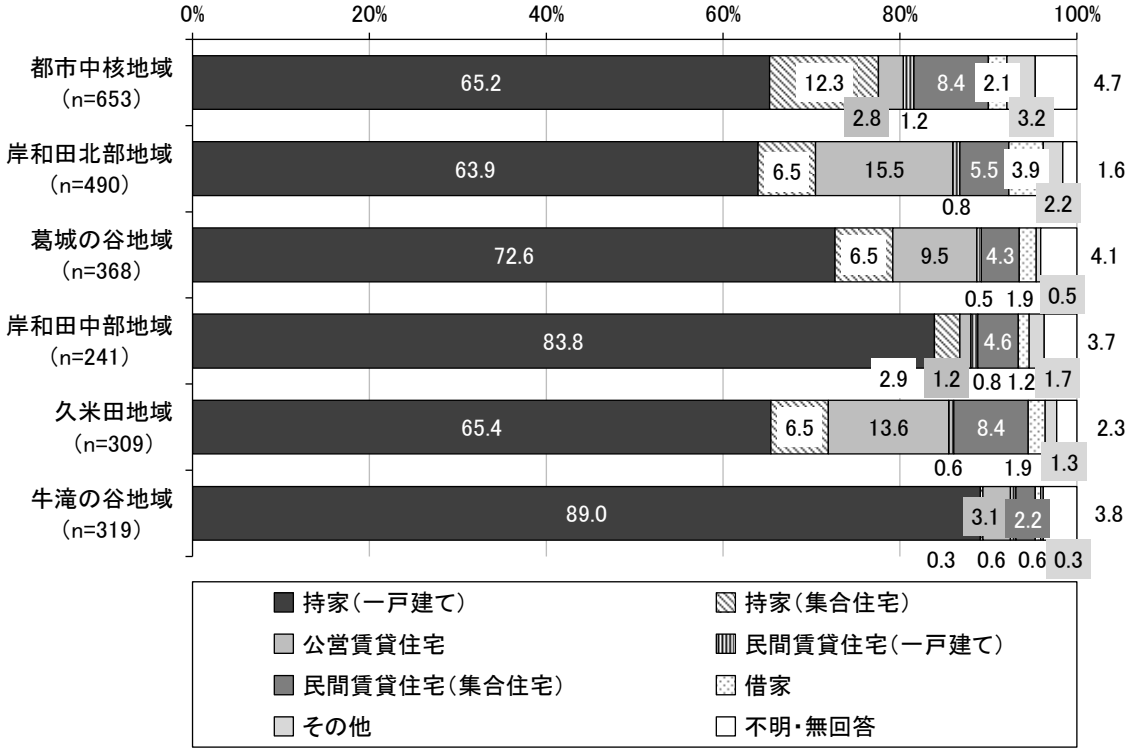
（４）　お住いは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（１つに○）

「持家（一戸建て）」が 70.0％と最も高く、次いで「公営賃貸住宅」が 8.0％、「持家（集合住宅）」が 6.9％となっています。



【地域別】〔問１（４）　お住いは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。〕

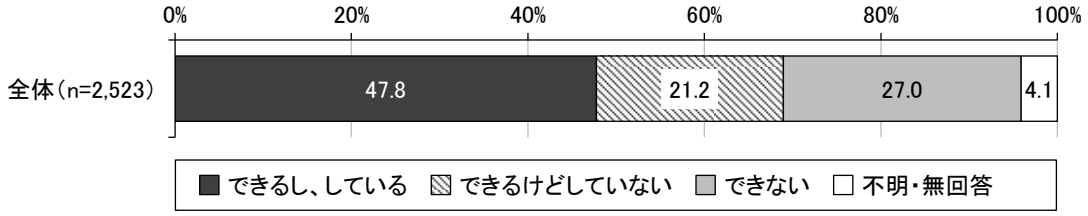
地域別にみると、すべての地域で「持家（一戸建て）」が最も高くなっていますが、岸和田中部地域と牛滝の谷地域ではやや高くなっています。



問２　からだを動かすことについて

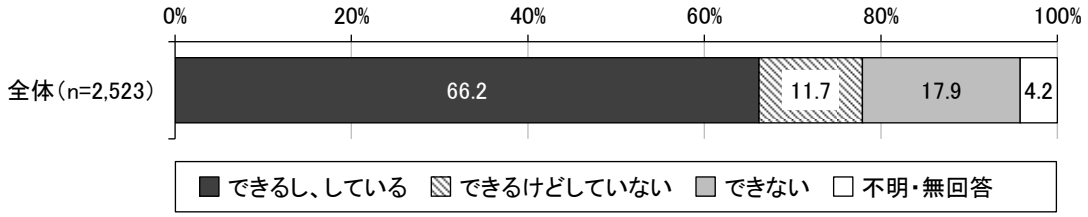
（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 47.8%と最も高く、次いで「できない」が 27.0%、「できるけどしていない」が 21.2%となっています。



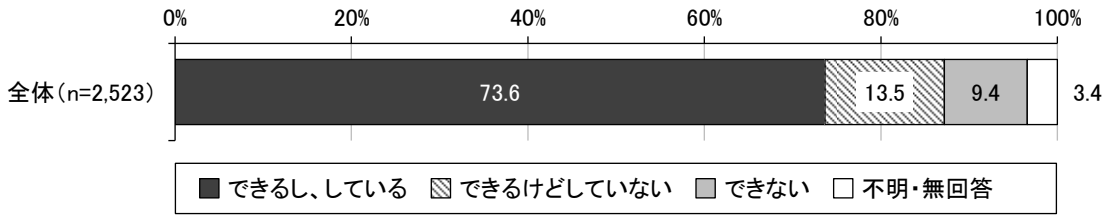
（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（１つに○）

「できるし、している」が 66.2%と最も高く、次いで「できない」が 17.9%、「できるけどしていない」が 11.7%となっています。



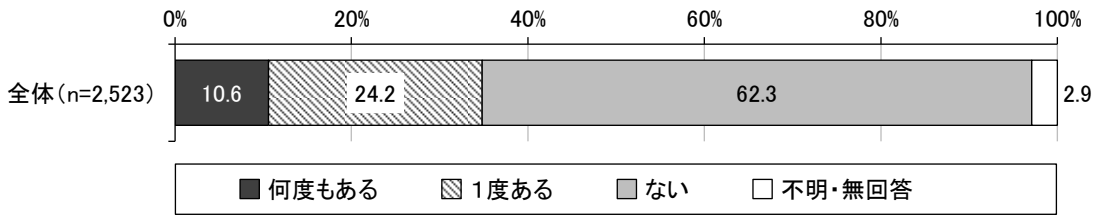
（３）15 分位続けて歩いていますか。（杖や歩行器を使用している場合も含みます）（１つに○）

「できるし、している」が 73.6%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が 13.5%、「できない」が 9.4%となっています。



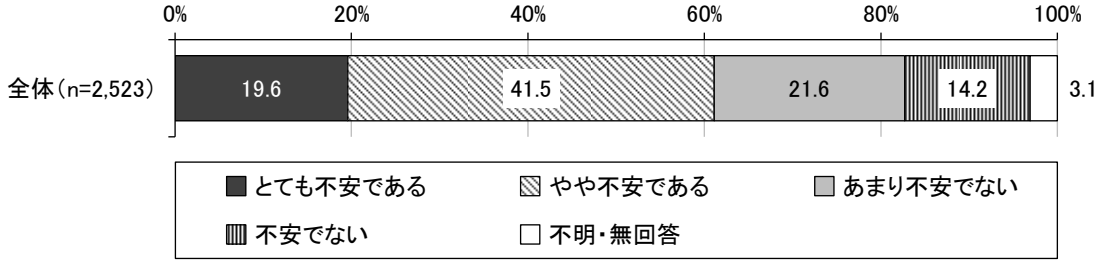
（４）過去１年間に転んだ経験がありますか。（１つに○）

「ない」が 62.3%と最も高く、次いで「１度ある」が 24.2%、「何度もある」が 10.6%となっています。



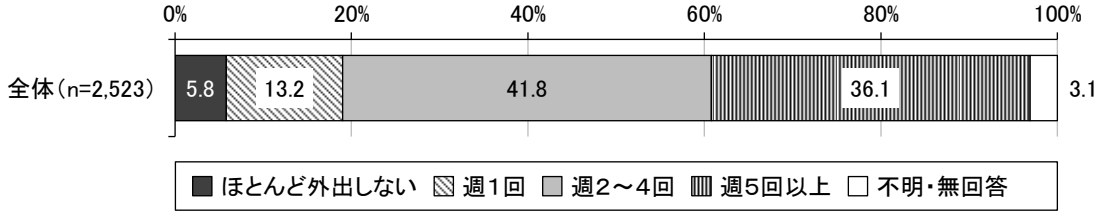
（５）転倒に対する不安は大きいですか。（１つに○）

「やや不安である」が 41.5%と最も高く、次いで「あまり不安でない」が 21.6%、「とても不安である」が 19.6%となっています。



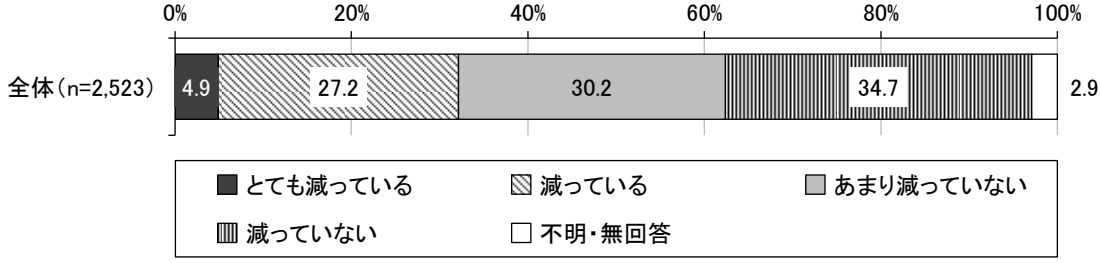
（６）週に１回以上は外出していますか。（１つに○）

「週２～４回」が 41.8%と最も高く、次いで「週５回以上」が 36.1%、「週１回」が 13.2%となっています。



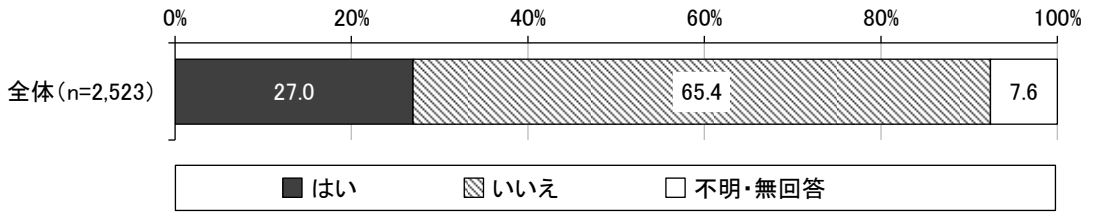
（７）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（１つに○）

「減っていない」が 34.7%と最も高く、次いで「あまり減っていない」が 30.2%、「減っている」が 27.2%となっています。



（８）外出を控えていますか。（１つに○）

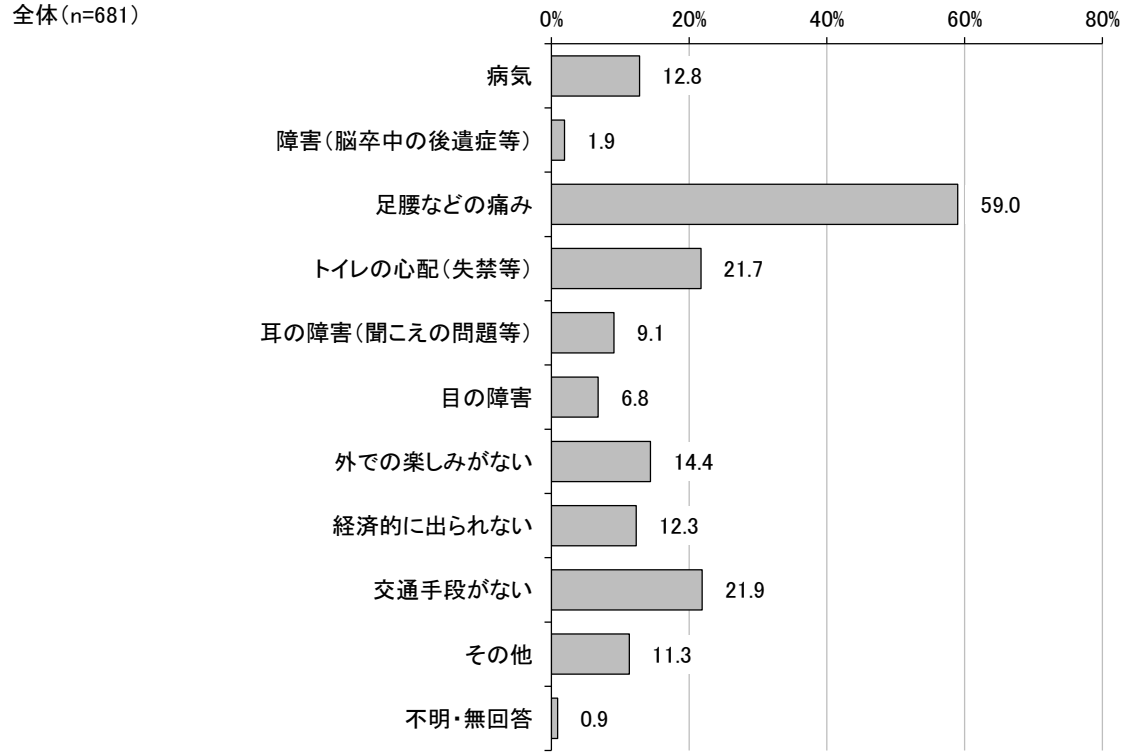
「いいえ」が 65.4%と、「はい」の 27.0%を上回っています。



（８）で「はい」（外出を控えている）と回答した方にお伺いします。

（８）－１　外出を控えている理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「足腰などの痛み」が 59.0%と最も高く、次いで「交通手段がない」が 21.9%、「トイレの心配（失禁等)」が 21.7%となっています。



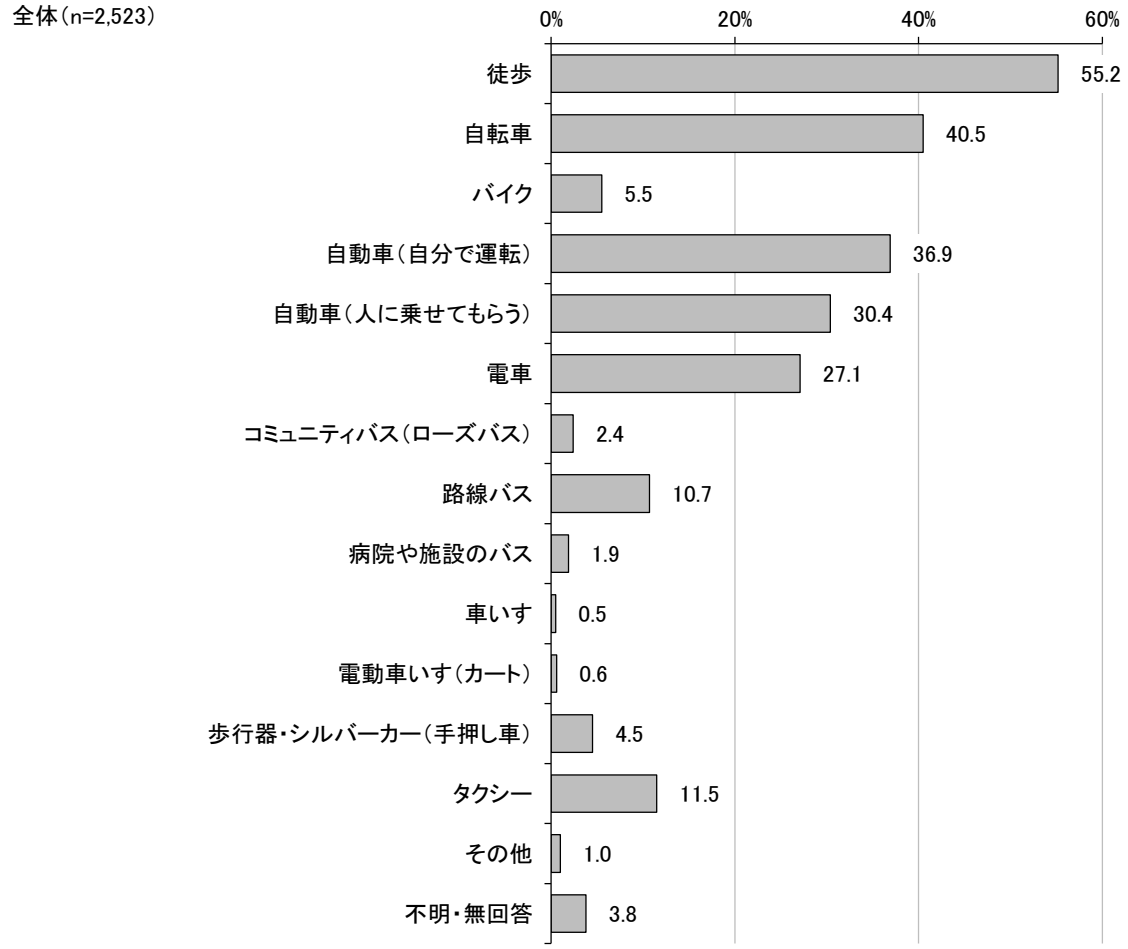
【年齢別】〔問２（８）－１　外出を控えている理由は、次のうちどれですか。〕

年齢別にみると、すべての年齢で「足腰などの痛み」が最も高くなっています。

単位:%		病気	障害（脳卒中の後遺症等）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁等）	耳の障害（聞こえの問題等）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	不明・無回答
全体(n=681)		12.8	1.9	59.0	21.7	9.1	6.8	14.4	12.3	21.9	11.3	0.9
年齢別	65～69歳(n=41)	14.6	2.4	46.3	17.1	0.0	19.5	14.6	34.1	12.2	14.6	0.0
	70～74歳(n=68)	13.2	4.4	52.9	20.6	2.9	4.4	17.6	17.6	11.8	19.1	0.0
	75～79歳(n=169)	17.8	3.6	55.0	21.9	6.5	4.1	16.0	13.0	18.3	8.3	1.8
	80～84歳(n=174)	12.6	1.1	59.8	21.8	9.2	6.9	12.6	12.1	20.1	11.5	1.1
	85歳以上 (n=201)	7.0	0.5	67.7	21.9	13.9	7.0	14.4	5.0	30.3	10.0	0.0

（９）外出する際の移動手段は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

「徒歩」が 55.2％と最も高く、次いで「自転車」が 40.5％、「自動車（自分で運転)」が 36.9％となっています。



【年齢別】〔問２（９）外出する際の移動手段は何ですか。〕

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「徒歩」が低くなっています。

単位:%		徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	コミュニティバス（ローズバス）	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー（手押し車）	タクシー	その他	不明・無回答
全体(n=2,523)		55.2	40.5	5.5	36.9	30.4	27.1	2.4	10.7	1.9	0.5	0.6	4.5	11.5	1.0	3.8
年齢別	65～69歳(n=371)	61.5	47.4	8.1	58.8	26.1	38.8	1.9	10.2	0.3	0.5	0.5	0.0	4.9	0.5	3.2
	70～74歳(n=447)	58.4	42.5	6.5	54.8	24.6	31.5	1.1	8.3	1.1	0.2	0.0	1.6	4.9	0.2	4.5
	75～79歳(n=714)	55.6	45.2	6.9	38.0	28.2	28.9	2.5	11.8	1.4	0.3	0.7	1.7	9.8	1.0	2.8
	80～84歳(n=488)	53.1	38.5	4.1	24.2	33.0	21.5	2.9	11.3	2.3	0.4	0.0	4.9	15.8	1.4	4.9
	85歳以上(n=390)	47.9	24.1	1.5	12.1	42.8	14.4	3.3	11.8	4.4	1.5	1.5	16.9	23.6	1.8	3.6

【地域別】〔問２（９）外出する際の移動手段は何ですか。〕

地域別にみると、岸和田北部地域では「自転車」、牛滝の谷地域では「自動車（自分で運転)」、その他の地域では「徒歩」がそれぞれ最も高くなっています。

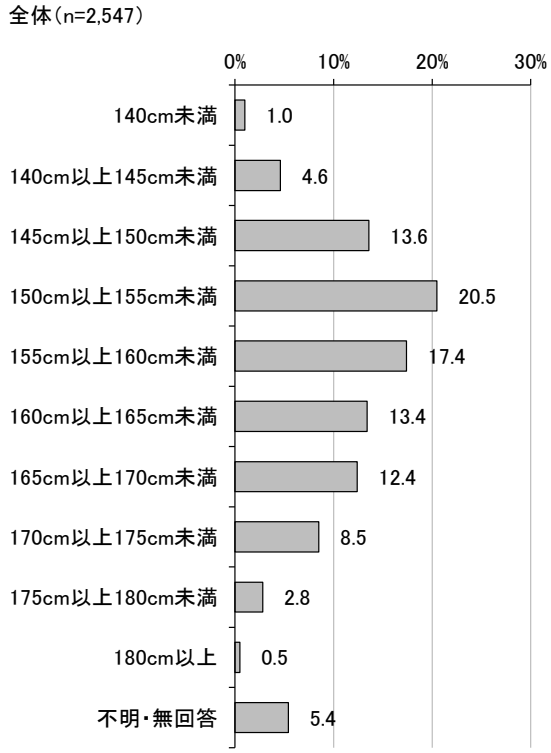
単位:%		徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	コミュニティバス（ローズバス）	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー（手押し車）	タクシー	その他	不明・無回答
全体(n=2,523)		55.2	40.5	5.5	36.9	30.4	27.1	2.4	10.7	1.9	0.5	0.6	4.5	11.5	1.0	3.8
地域別	都市中核地域(n=653)	65.2	49.6	3.1	31.4	30.9	31.7	3.2	6.4	1.5	0.6	0.2	4.9	13.2	0.5	3.7
	岸和田北部地域(n=490)	52.7	56.1	3.7	33.3	29.0	31.0	2.4	3.1	2.9	0.8	0.6	6.3	11.0	0.6	2.0
	葛城の谷地域(n=368)	53.5	29.3	6.5	38.0	30.4	24.7	1.4	23.1	2.7	0.3	0.8	3.0	11.1	1.1	4.6
	岸和田中部地域(n=241)	52.3	28.6	8.7	47.3	29.0	24.9	4.1	7.9	0.8	0.4	0.4	3.7	9.5	0.8	5.0
	久米田地域(n=309)	54.4	37.2	5.8	35.9	33.3	24.9	2.9	11.7	1.3	0.3	1.6	5.5	12.3	2.3	2.6
	牛滝の谷地域(n=319)	45.8	23.8	10.0	47.6	32.0	18.5	0.3	19.1	0.9	0.3	0.3	1.9	10.0	1.3	5.3

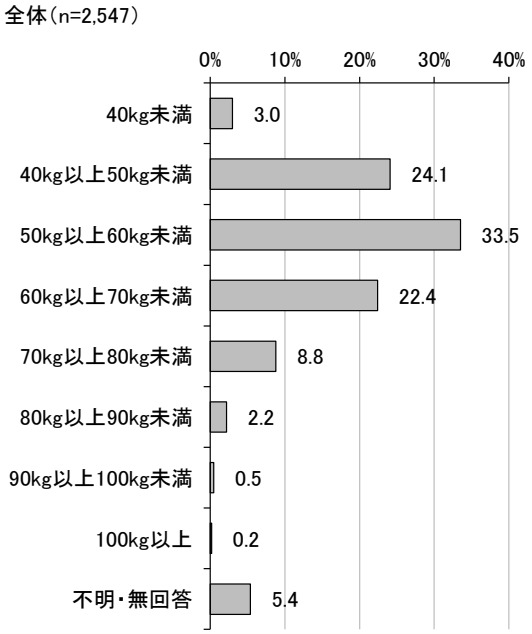
問３　食べることについて

（１）身長・体重をご記入ください。（数字を右詰めで記入）

身長について、「150cm 以上 155cm 未満」が 20.5%と最も高く、次いで「155cm 以上 160cm 未満」が 17.4%、「145cm 以上 150cm 未満」が 13.6%となっています。

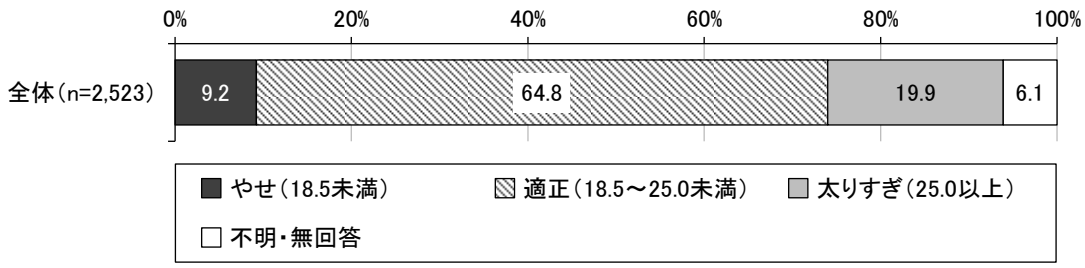
体重について、「50kg 以上 60kg 未満」が 33.5%と最も高く、次いで「40kg 以上 50kg 未満」が 24.1%、「60kg 以上 70kg 未満」が 22.4%となっています。





ＢＭＩ※（身長・体重より算出）

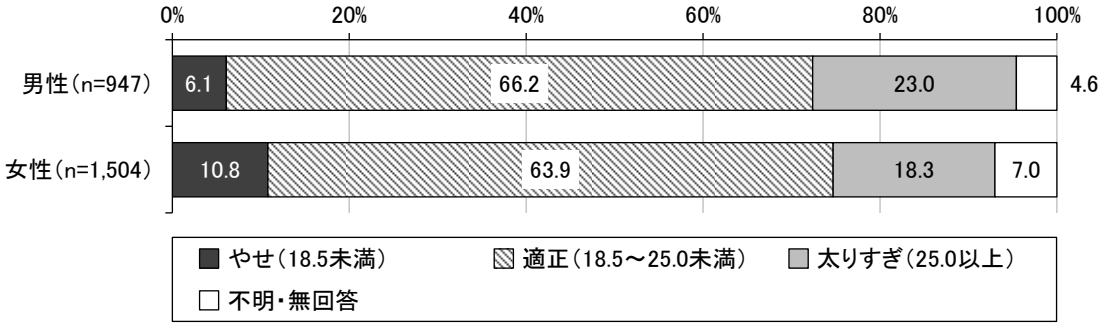
「適正（18.5～25.0 未満）」が 64.8%と最も高く、次いで「太りすぎ（25.0 以上）」が 19.9%、「やせ（18.5 未満）」が 9.2%となっています。



※ＢＭＩ（Body Mass Index）は体格を表す国際的な指標であり、体重（kg）を身長（m）の二乗で除して算出します。厚生労働省「健康日本 21」では、BMI 18.5 未満を「低体重（やせ）」、18.5 以上 25.0 未満を「普通体重」、25.0 以上を「肥満」と定義しており、特定健診・特定保健指導においても肥満・やせの判定基準として用いられています。

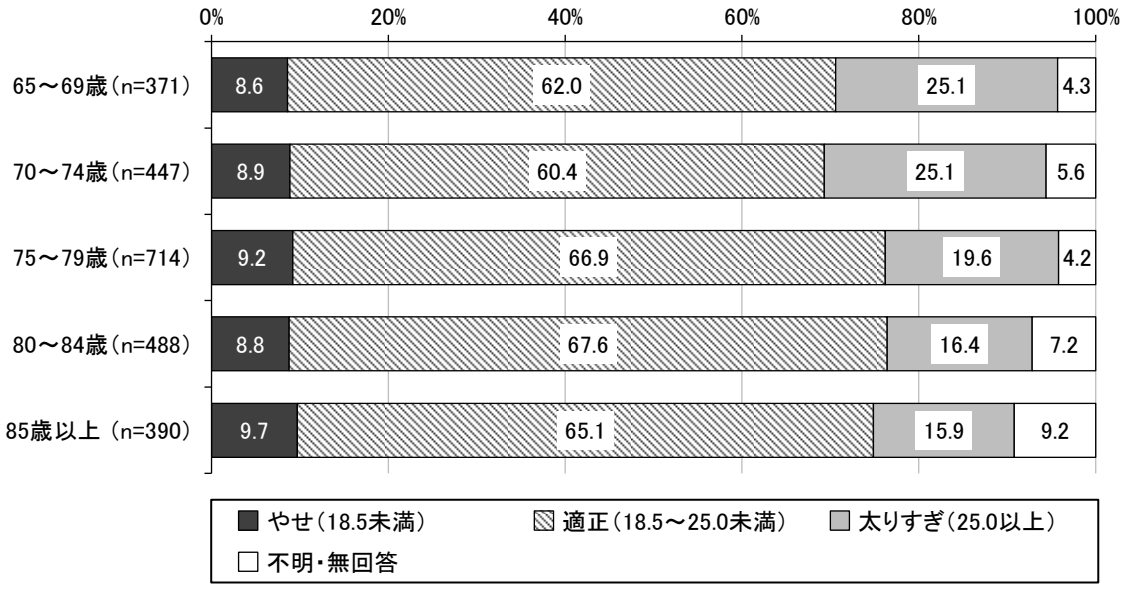
【性別】〔問３ＢＭＩ〕

性別にみると、男女ともに「適正（18.5～25.0 未満)」が最も高くなっていますが、男性は「太りすぎ（25.0 以上)」が 23.0%と女性の 18.3%より高くなっている一方、女性は「やせ（18.5 未満)」が 10.8%と男性の 6.1%より高くなっています。



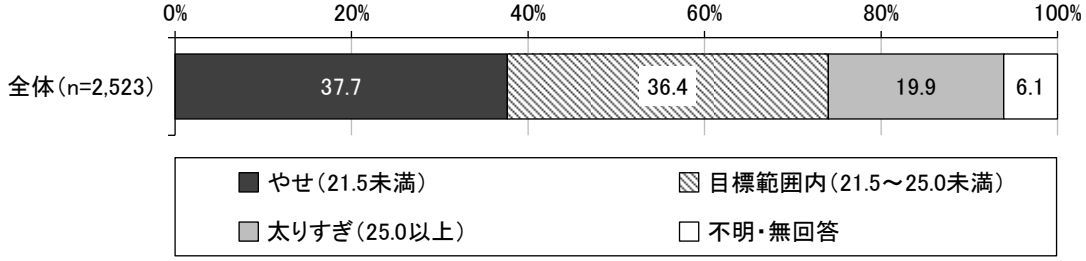
【年齢別】〔問３ＢＭＩ〕

年齢別にみると、全ての年齢層で「適正（18.5～25.0 未満)」が最も高くなっていますが、「太りすぎ（25.0 以上)」は 65～69 歳、70～74 歳でともに 25.1%と高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。



ＢＭＩ（高齢期における目標数値※）

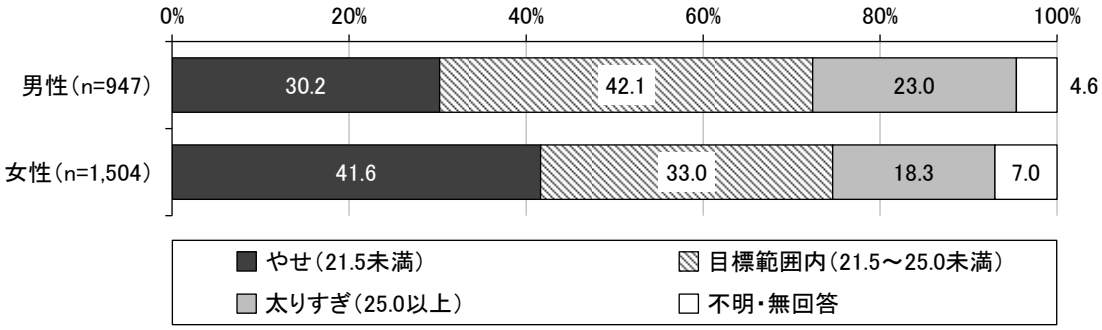
「やせ（21.5未満）」が37.7％と最も高く、次いで「目標範囲内（21.5～25.0未満）」が36.4％、「太りすぎ（25.0以上）」が19.9％となっています。



※厚生労働省「日本人の食事摂取基準（2025年版）」では、主な生活習慣病の有病率、医療費、高齢期における身体機能の低下等との関連を考慮して、目標とするＢＭＩの範囲が定められており、65歳以上が目標とするＢＭＩは、21.5～24.9となっています。

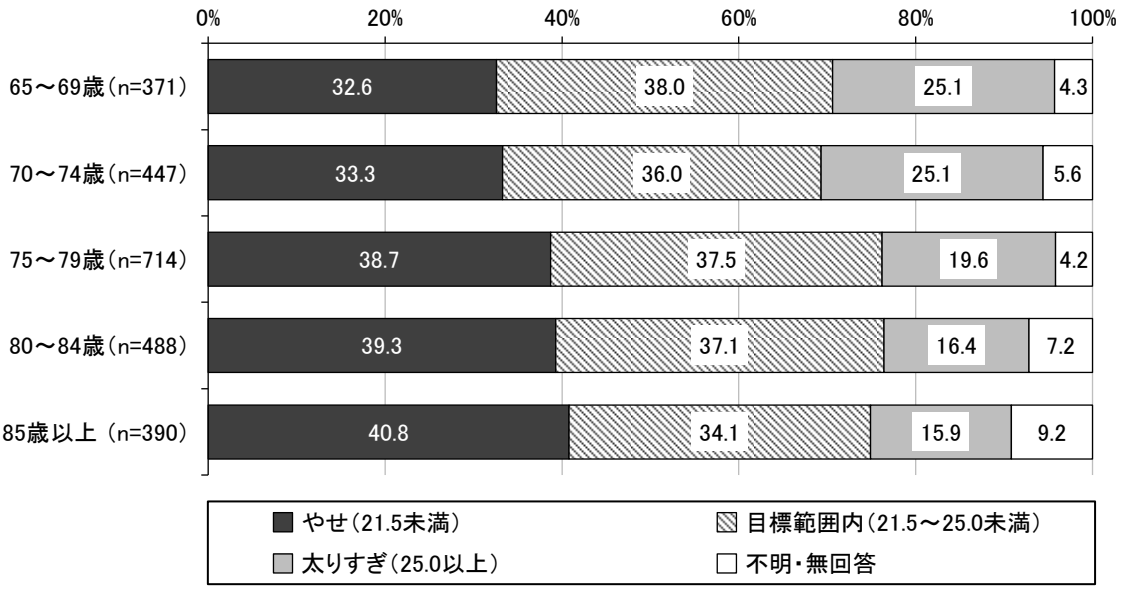
【性別】〔問３ＢＭＩ（高齢期における目標数値）〕

性別にみると、男性では「目標範囲内（21.5～25.0未満）」が42.1％、女性では「やせ（21.5未満）」が41.6％と高くなっています。



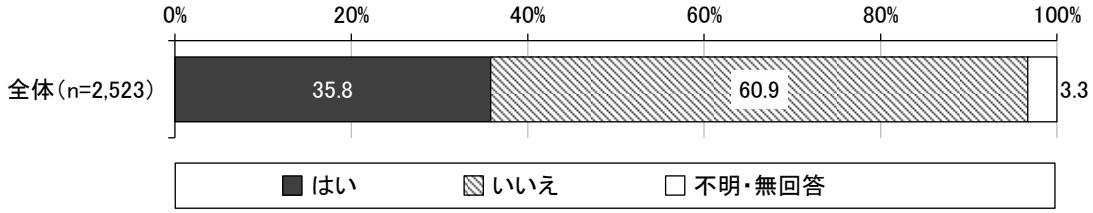
【年齢別】〔問３ＢＭＩ（高齢期における目標数値）〕

年齢別にみると、65～69歳、70～74歳では「目標範囲内（21.5～25.0未満）」が高く、その他の年齢では「やせ（21.5未満）」が高くなっています。



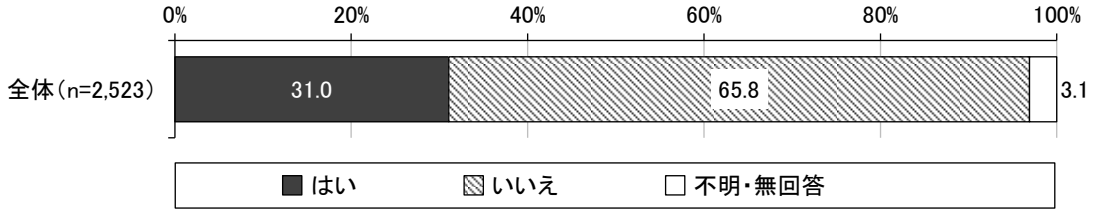
（２）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（１つに○）

「いいえ」が 60.9％と、「はい」の 35.8％を上回っています。



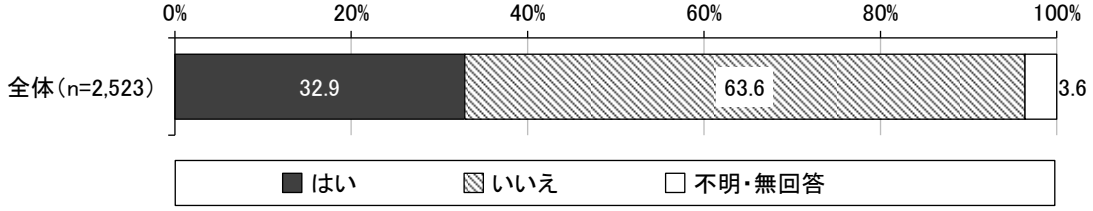
（３）お茶や汁物等でむせることがありますか。（１つに○）

「いいえ」が 65.8％と、「はい」の 31.0％を上回っています。



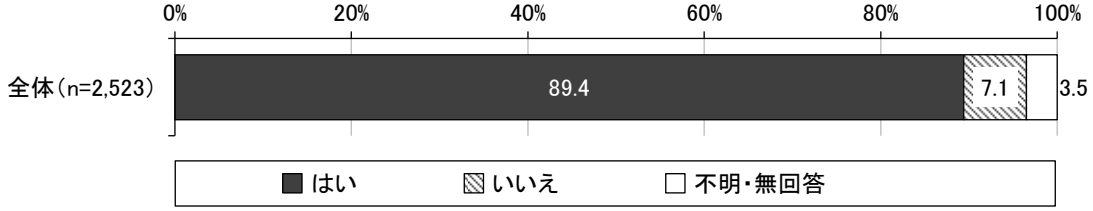
（４）口の渇きが気になりますか。（１つに○）

「いいえ」が 63.6％と、「はい」の 32.9％を上回っています。



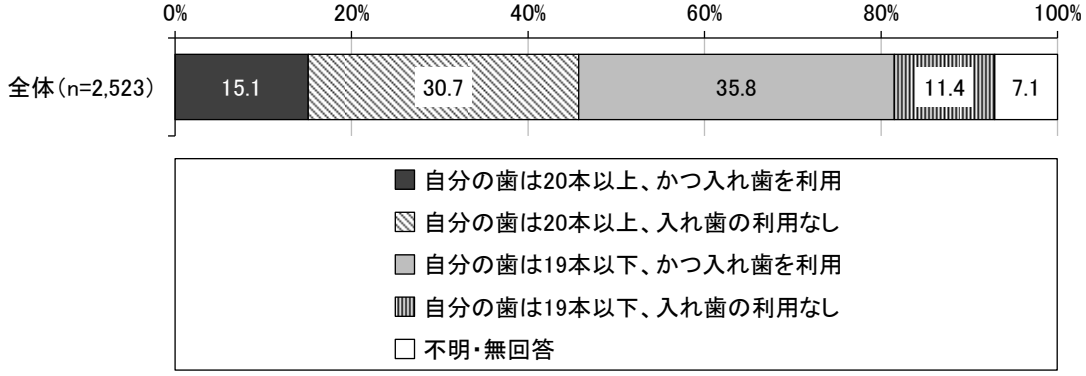
（５）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（１つに○）

「はい」が 89.4％と、「いいえ」の 7.1％を上回っています。



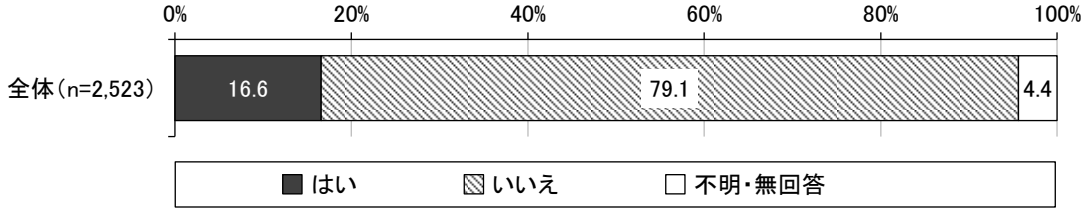
（６）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。（１つに○）

「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 35.8％と最も高く、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 30.7％、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 15.1％となっています。



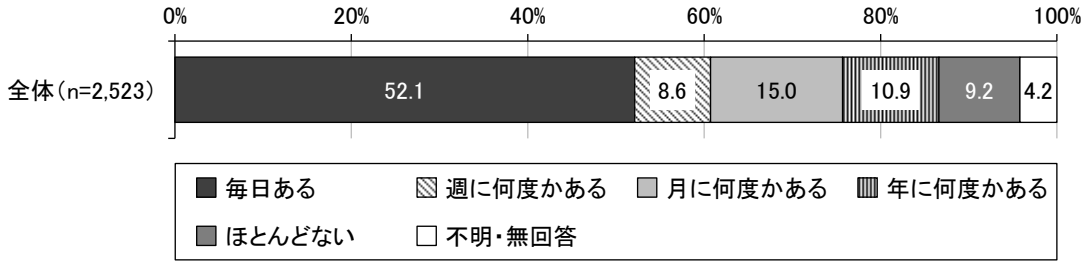
（７）６カ月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか。（１つに○）

「いいえ」が 79.1％と、「はい」の 16.6％を上回っています。



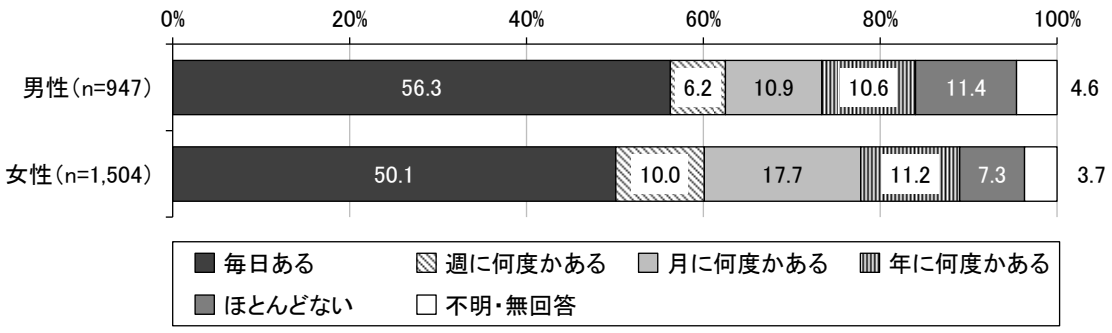
（８）どなたかと食事をともにする機会はありますか。（１つに○）

「毎日ある」が 52.1％と最も高く、次いで「月に何度かある」が 15.0％、「年に何度かある」が 10.9％となっています。



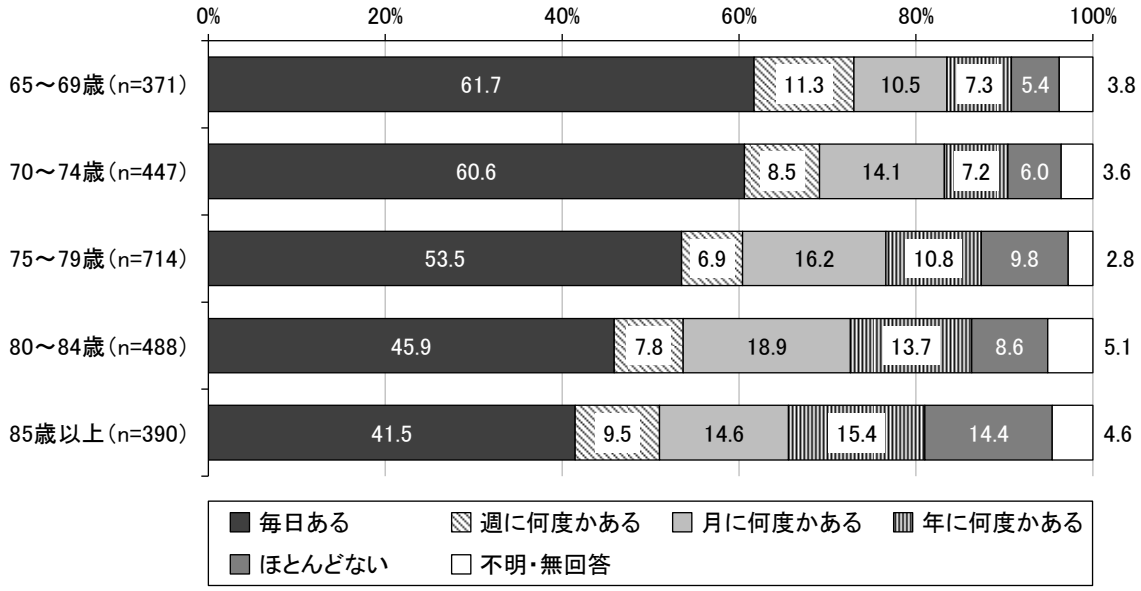
【性別】〔問３（８）どなたかと食事をともにする機会はありますか。〕

性別にみると、男女ともに「毎日ある」が最も高くなっています。



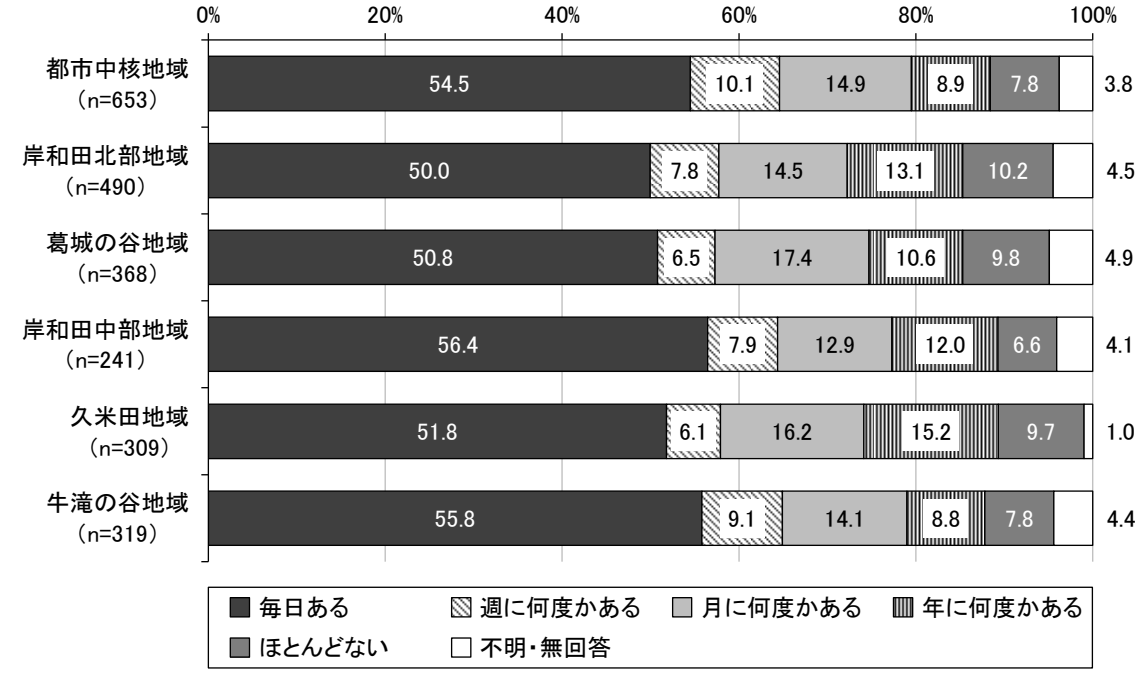
【年齢別】〔問３（８）どなたかと食事をともにする機会はありますか。〕

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「毎日ある」が低くなっています。



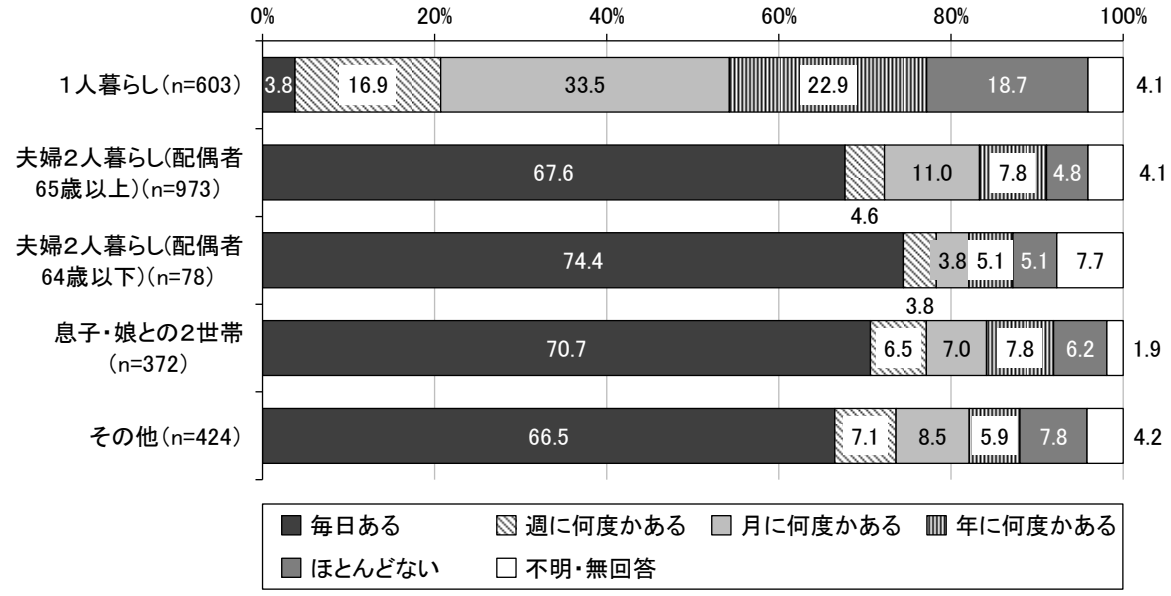
【地域別】〔問３（８）どなたかと食事をともにする機会はありますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「毎日ある」が最も高くなっています。



【家族構成別】〔問３（８）どなたかと食事をともにする機会はありますか。〕

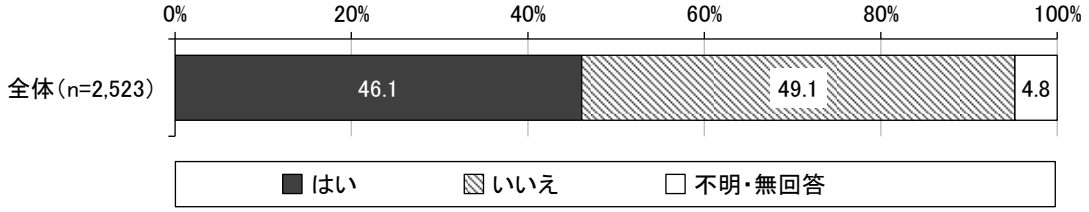
家族構成別にみると、１人暮らしでは「月に何度かある」、その他の家族構成では「毎日ある」がそれぞれ最も高くなっています。



問４　毎日の生活について

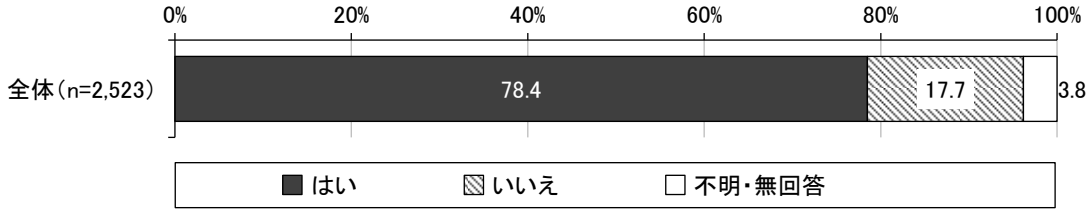
（１）物忘れが多いと感じますか（１つに○）

「いいえ」が 49.1%と、「はい」の 46.1%を上回っています。



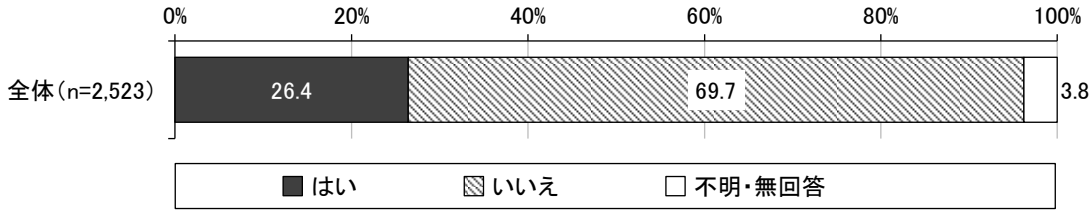
（２）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（１つに○）

「はい」が 78.4%と、「いいえ」の 17.7%を上回っています。



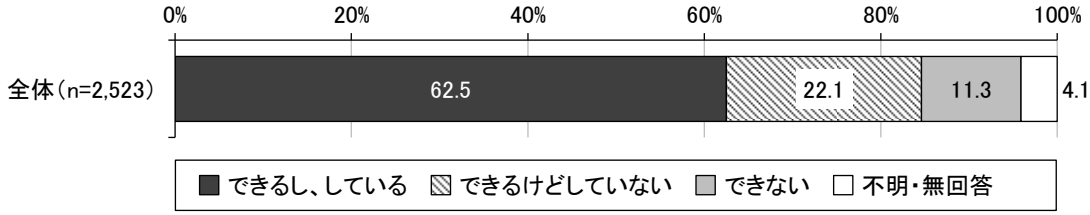
（３）今日が何月何日かわからないときがありますか（１つに○）

「いいえ」が 69.7%と、「はい」の 26.4%を上回っています。



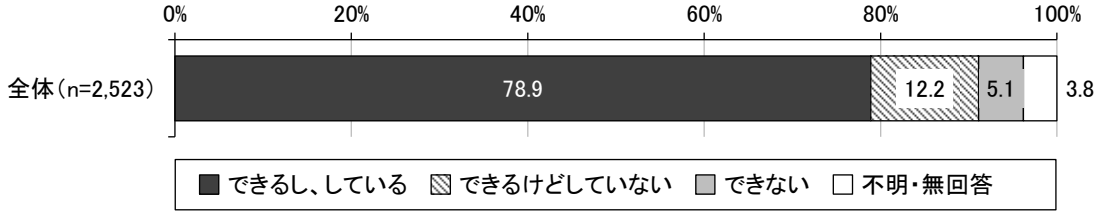
（４）バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）（１つに○）

「できるし、している」が 62.5%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が 22.1%、「できない」が 11.3%となっています。



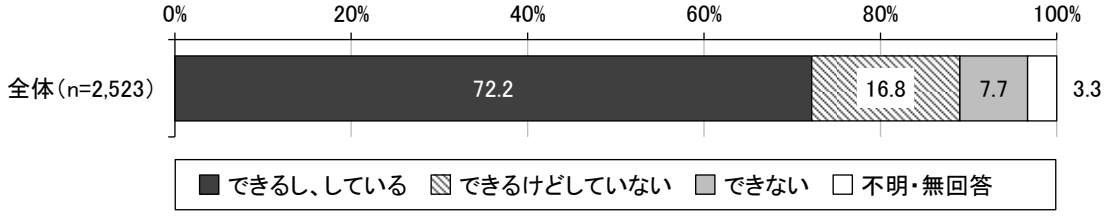
（５）自分で食品・日用品の買物をしていますか（１つに○）

「できるし、している」が 78.9%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が 12.2%、「できない」が 5.1%となっています。



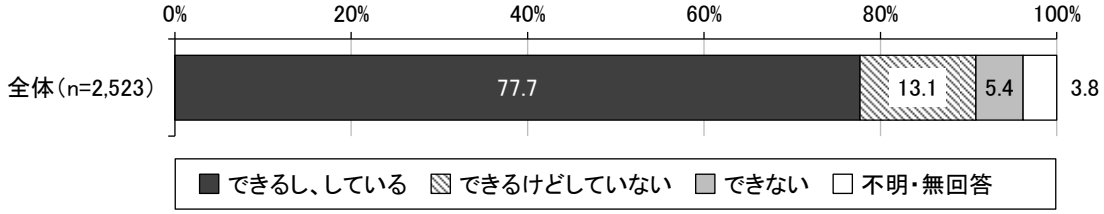
（６）自分で食事の用意をしていますか（１つに○）

「できるし、している」が 72.2%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が 16.8%、「できない」が 7.7%となっています。



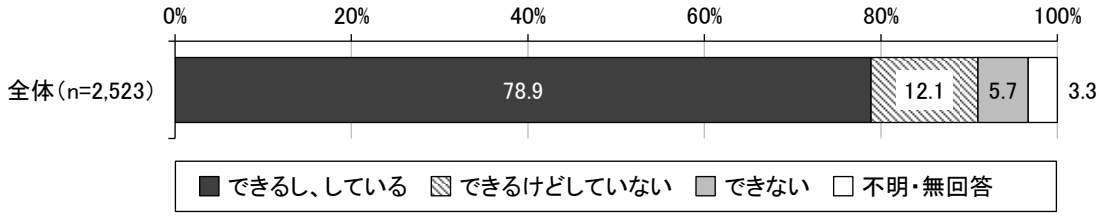
（７）自分で請求書の支払いをしていますか（１つに○）

「できるし、している」が 77.7%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が 13.1%、「できない」が 5.4%となっています。



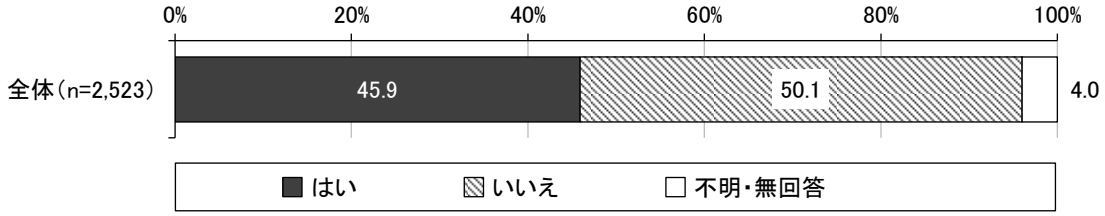
（８）自分で預貯金の出し入れをしていますか（１つに○）

「できるし、している」が 78.9%と最も高く、次いで「できるけどしていない」が 12.1%、「できない」が 5.7%となっています。



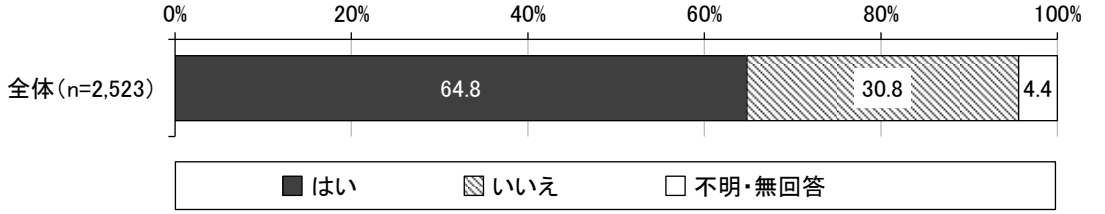
（９）友人の家を訪ねていますか（１つに○）

「いいえ」が 50.1％と、「はい」の 45.9％を上回っています。



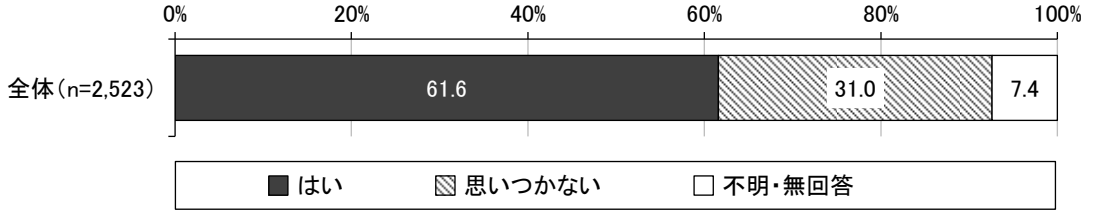
（10）家族や友人の相談にのっていますか（１つに○）

「はい」が 64.8％と、「いいえ」の 30.8％を上回っています。



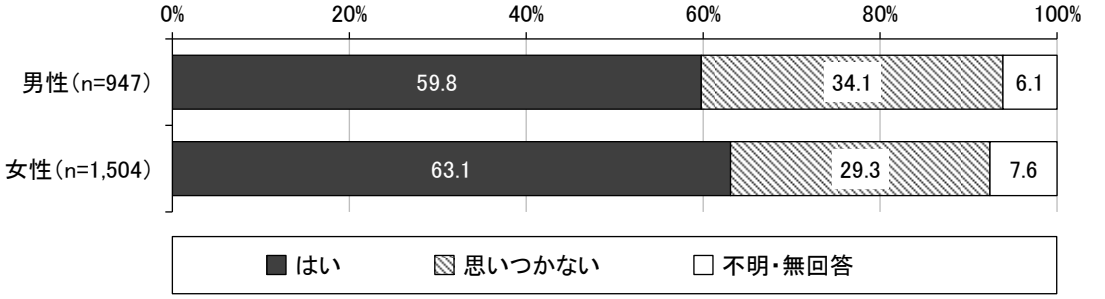
（11）趣味はありますか（１つに○）

「はい」が 61.6％と、「思いつかない」の 31.0％を上回っています。



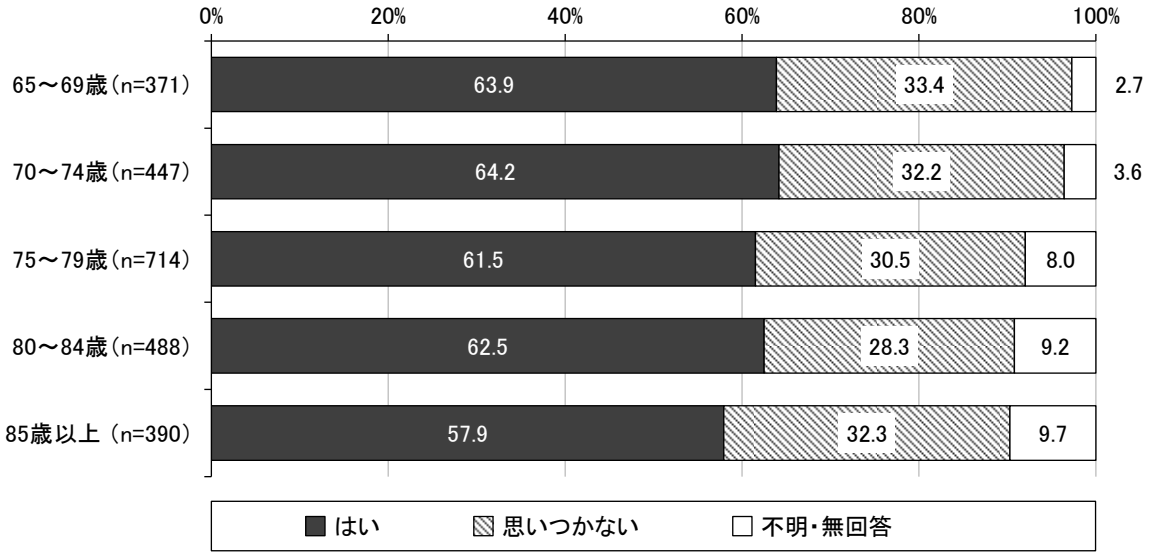
【性別】〔問４（11）趣味はありますか〕

性別にみると、男女ともに「はい」が最も高くなっています。



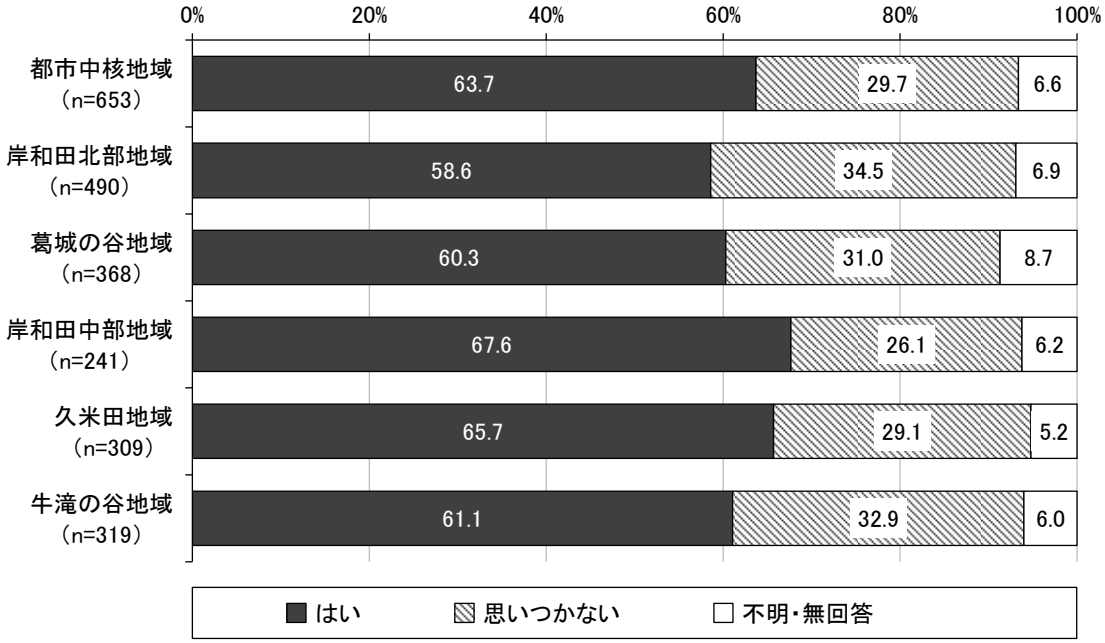
【年齢別】〔問４（11）趣味はありますか〕

年齢別にみると、すべての年齢層でも「はい」が最も高くなっています。



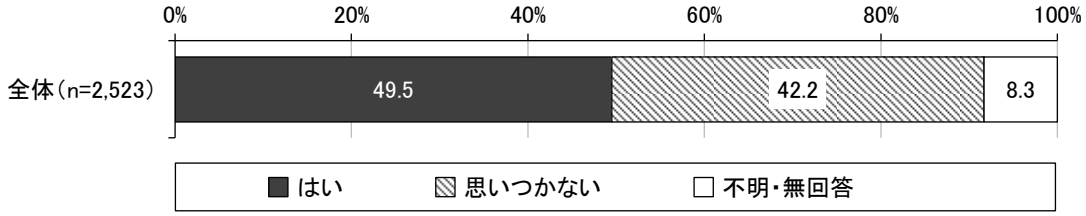
【地域別】〔問４（11）趣味はありますか〕

地域別にみると、すべての地域で「はい」が最も高くなっています。



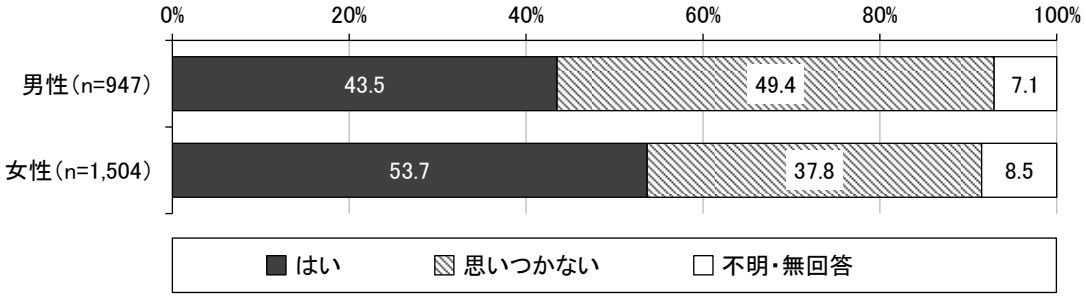
（12）生きがいはありますか（１つに○）

「はい」が 49.5％と、「思いつかない」の 42.2％を上回っています。



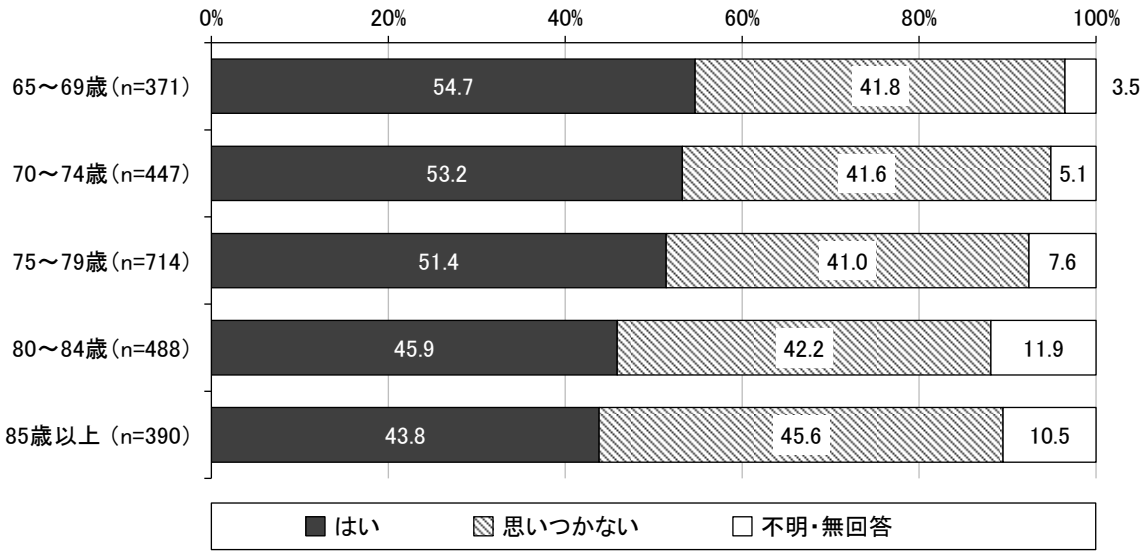
【性別】〔問４（12）生きがいはありますか〕

性別にみると、男性では「思いつかない」、女性では「はい」がそれぞれ最も高くなっています。



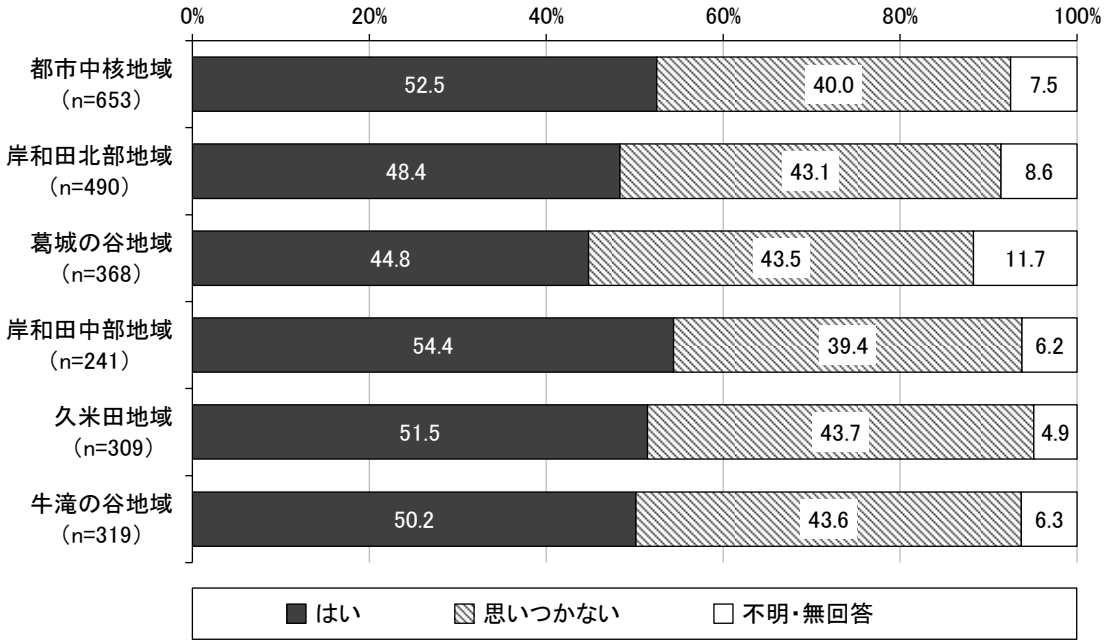
【年齢別】〔問４（12）生きがいはありますか〕

年齢別にみると、85 歳以上では「思いつかない」、その他の年齢では「はい」がそれぞれ最も高くなっています。



【地域別】〔問４（12）生きがいはありますか〕

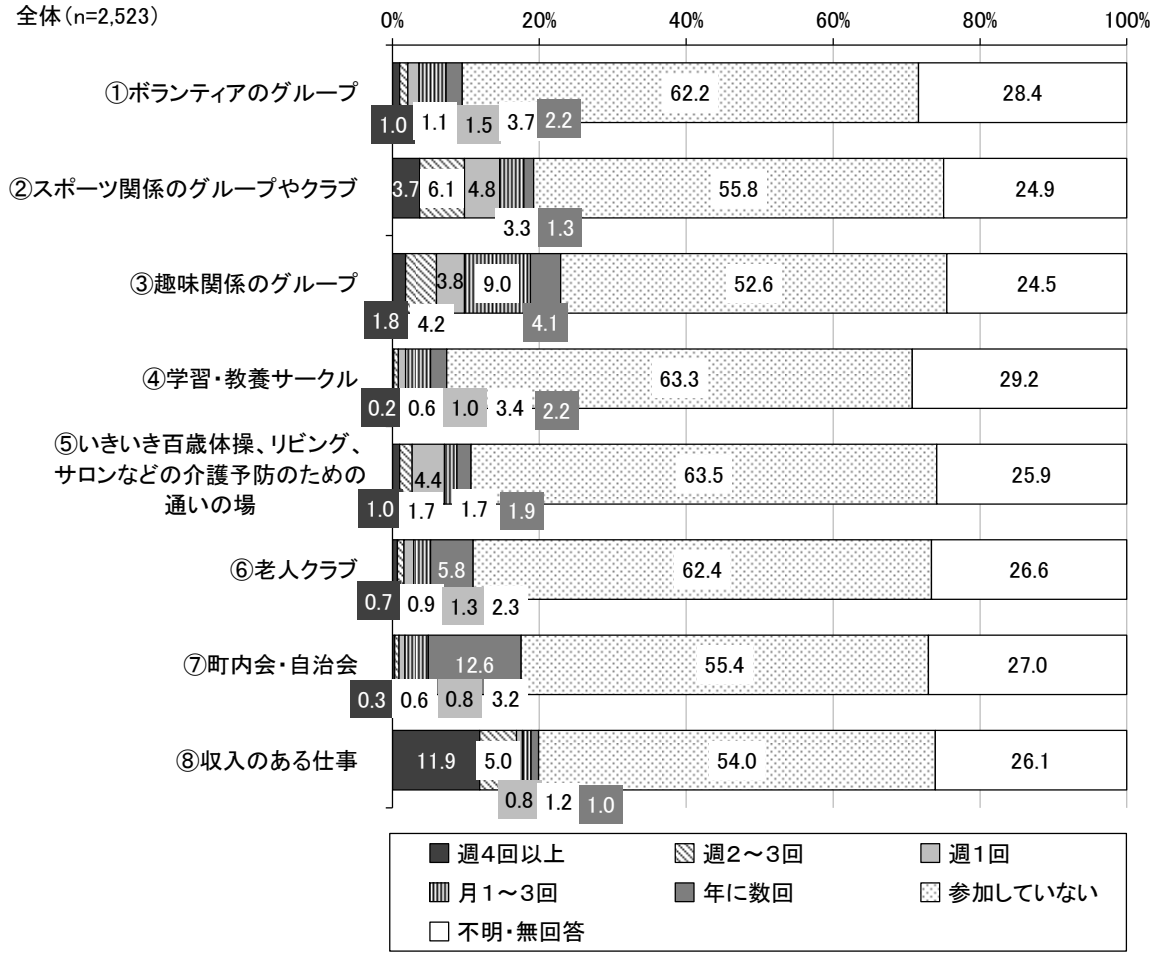
地域別にみると、すべての地域で「はい」が最も高くなっています。



問５　地域での活動について

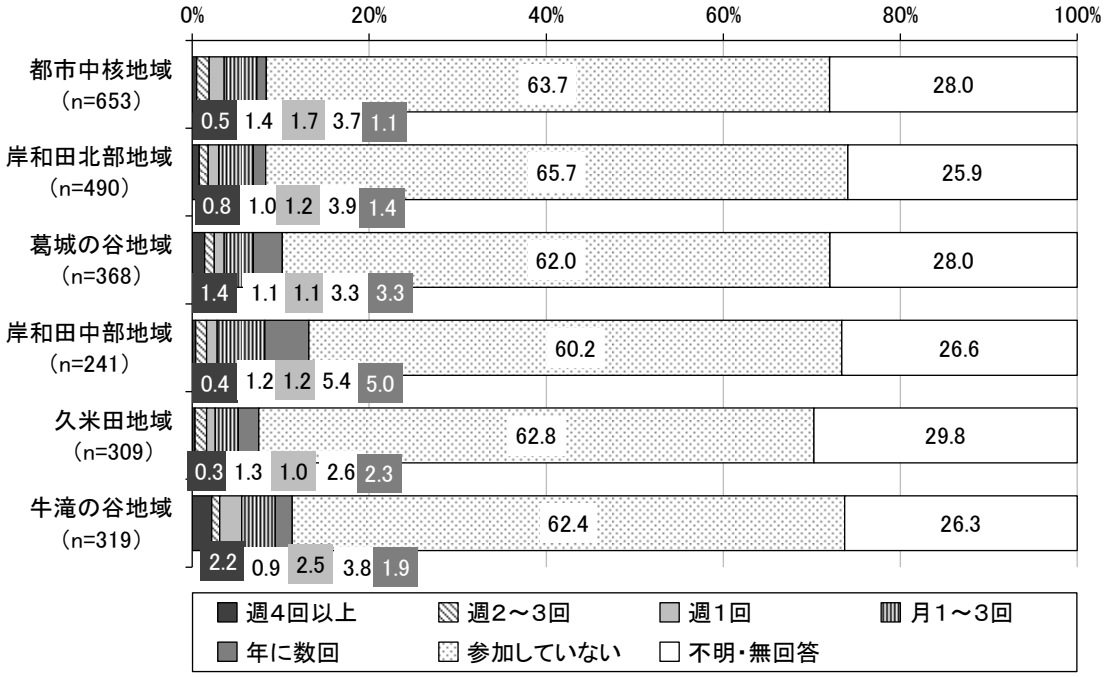
（１）以下のようなサークル・グループ活動等にどのくらいの頻度で参加していますか。
（①～⑧それぞれ１つに○）

すべての種別についてみると、「参加していない」が最も高く、次いで“①ボランティアのグループ”“③趣味関係のグループ”“④学習・教養サークル”では「月１～３回」、“②スポーツ関係のグループやクラブ”では「週２～３回」、“⑤いきいき百歳体操、リビング、サロンなどの介護予防のための通いの場”では「週１回」、“⑥老人クラブ”“⑦町内会・自治会”では「年に数回」、“⑧収入のある仕事”では「週４回以上」が高くなっています。



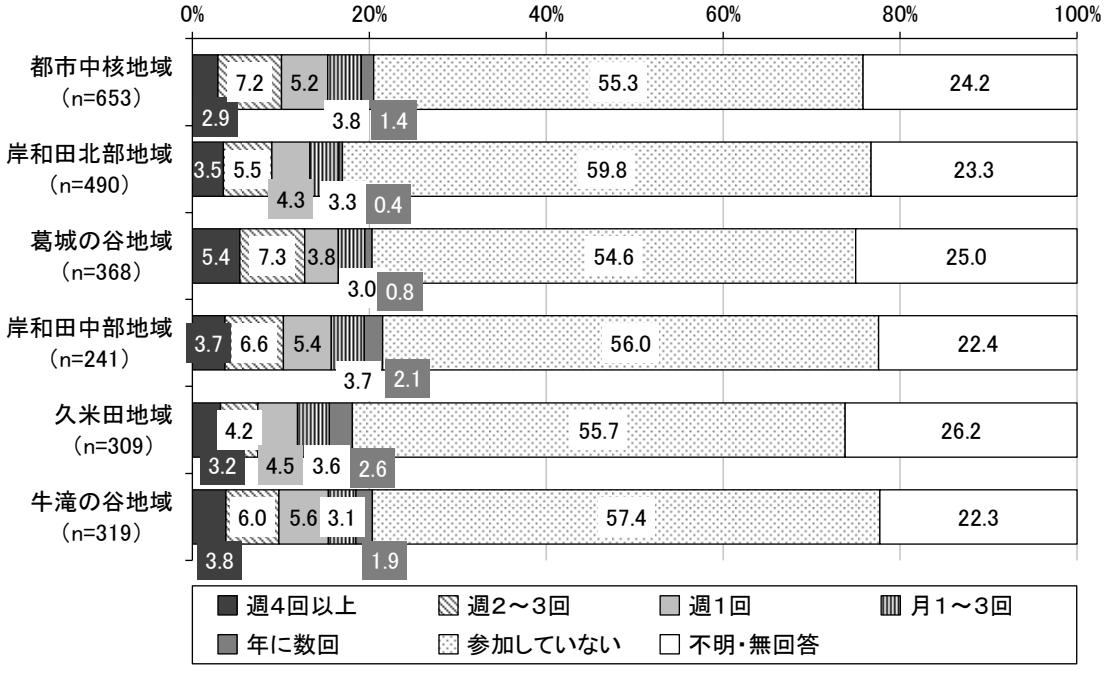
【地域別　①ボランティアのグループ】

地域別にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、岸和田中部地域ではやや低くなっています。



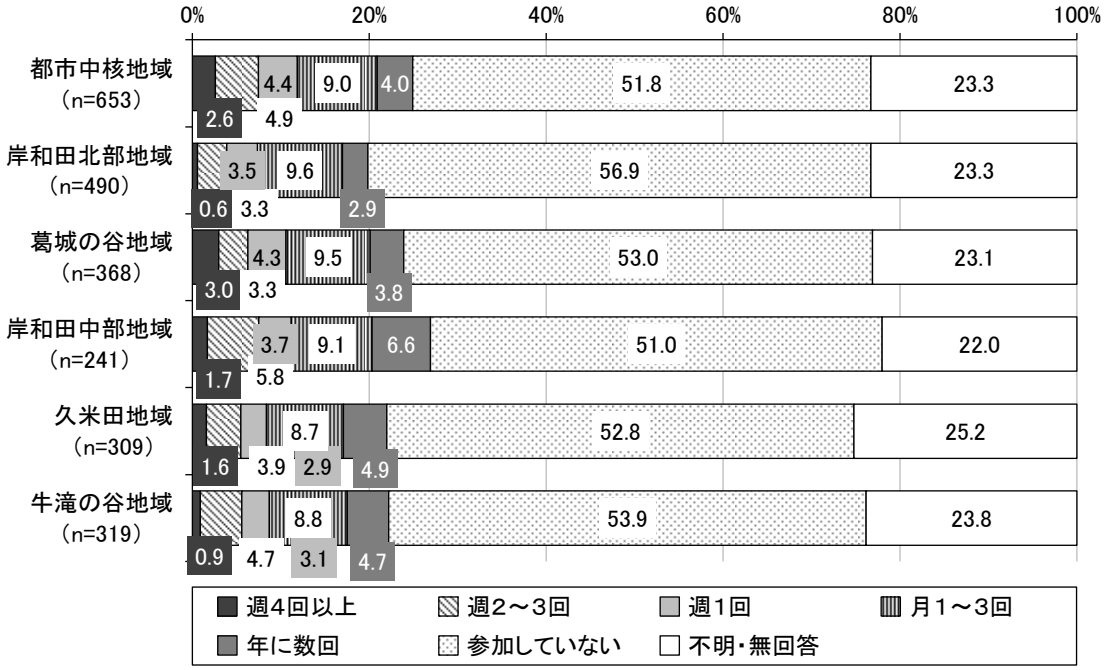
【地域別　②スポーツ関係のグループやクラブ】

地域別にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、葛城の谷地域ではやや低くなっています。



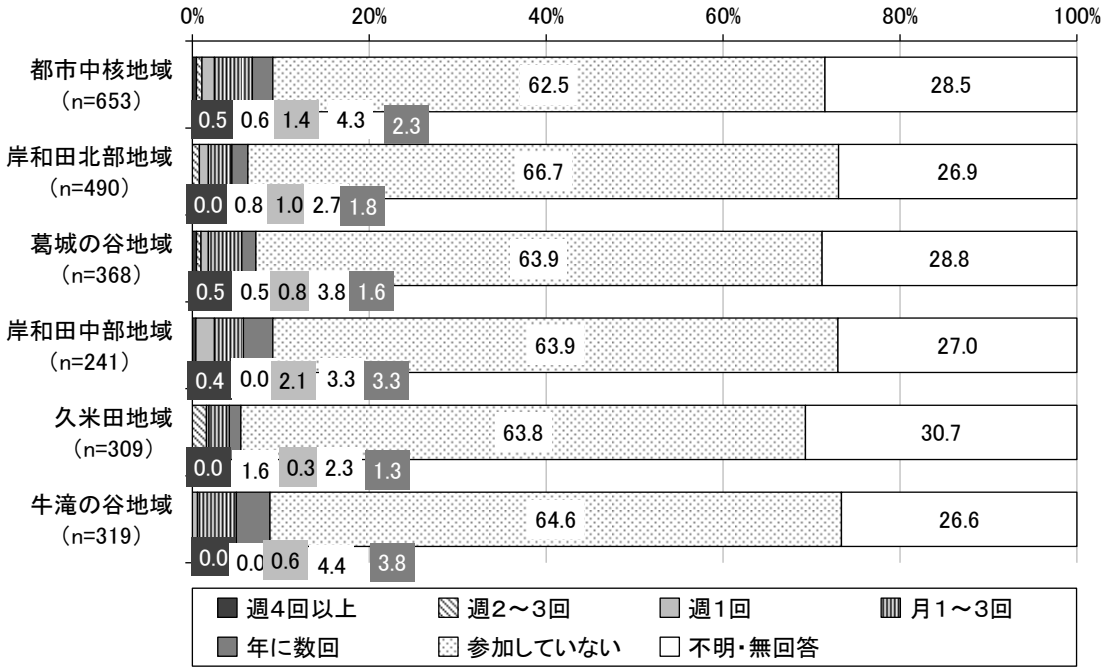
【地域別　③趣味関係のグループ】

地域別にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、岸和田中部地域ではやや低くなっています。



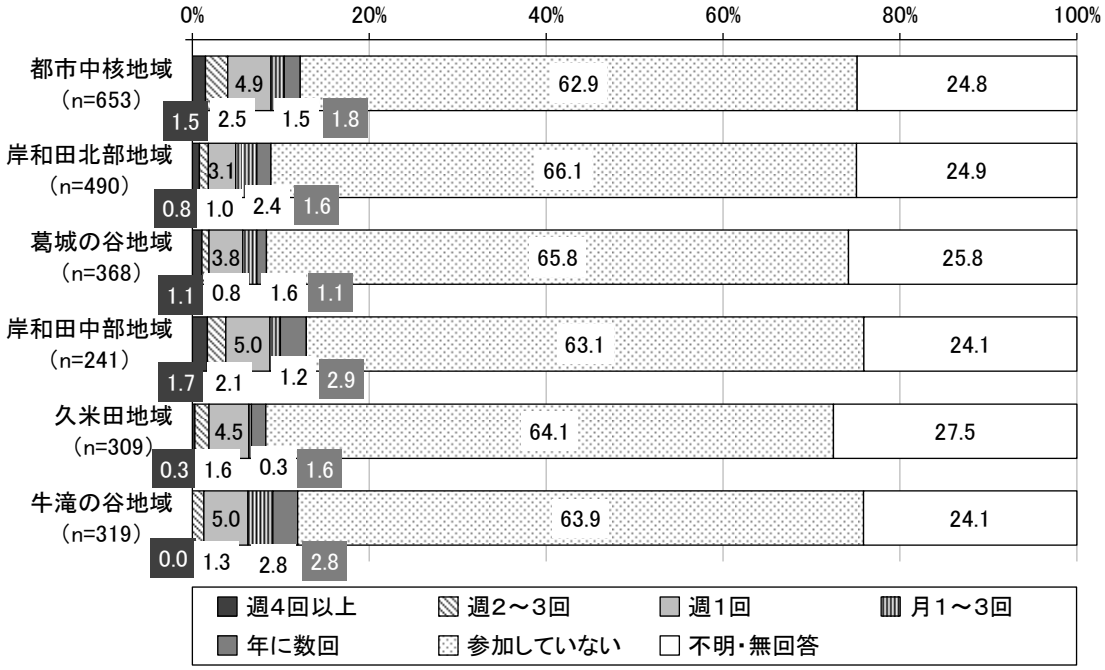
【地域別　④学習・教養サークル】

地域にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、都市中核地域ではやや低くなっています。



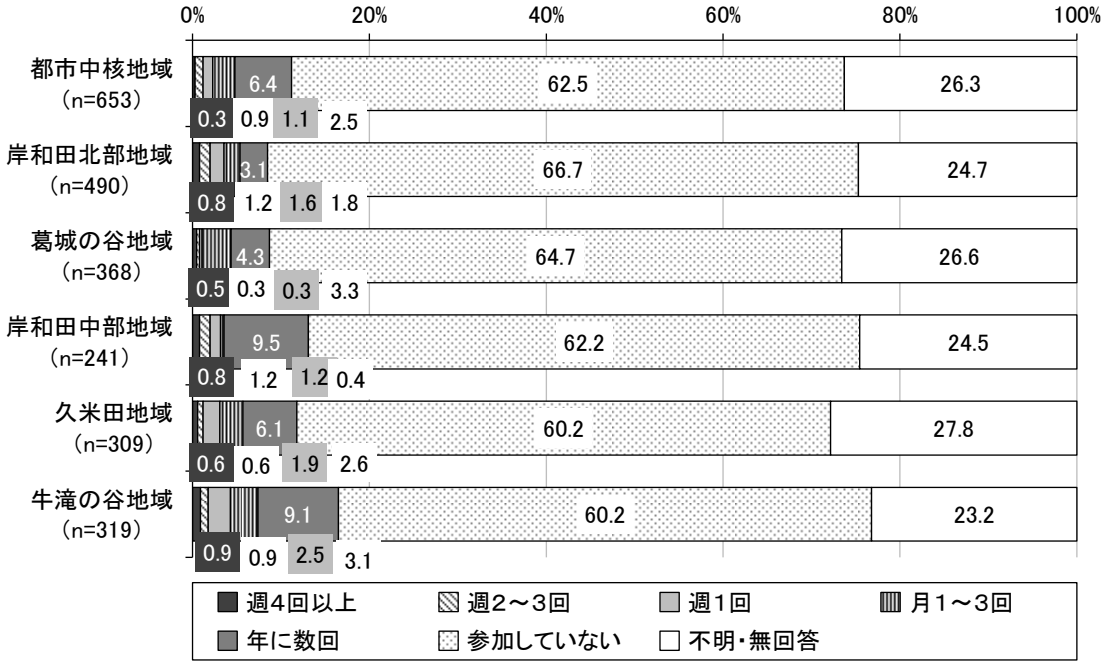
【地域別　⑤いきいき百歳体操、リビング、サロンなどの介護予防のための通いの場】

地域にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、都市中核地域ではやや低くなっています。



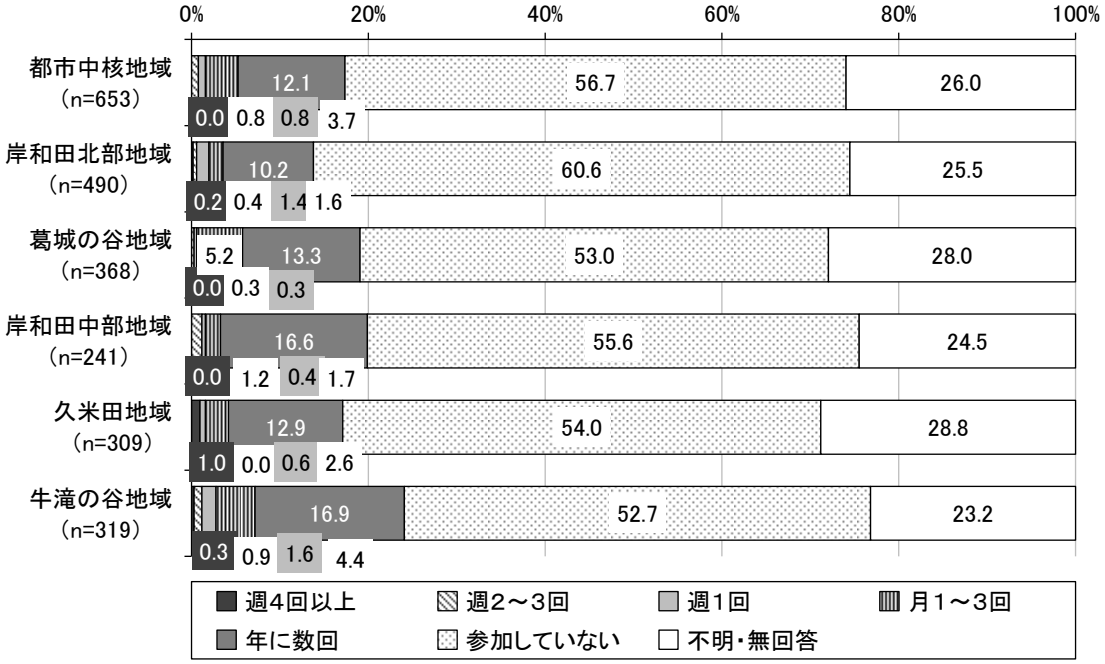
【地域別　⑥老人クラブ】

地域別にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、久米田地域、牛滝の谷地域ではやや低くなっています。



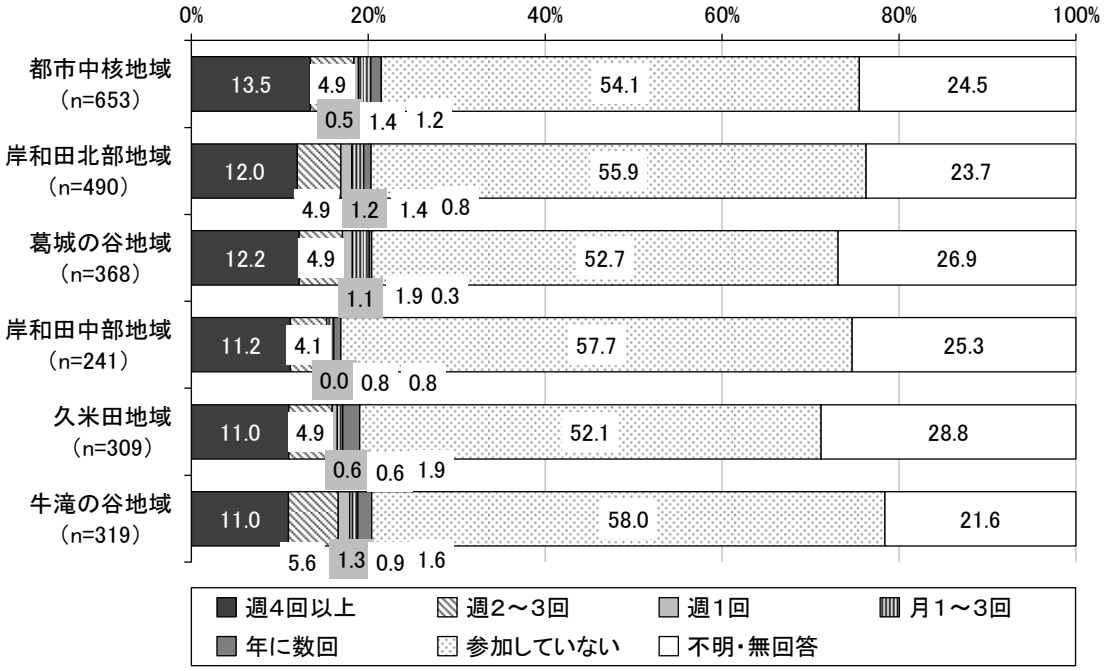
【地域別　⑦町内会・自治会】

地域にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、牛滝の谷地域ではやや低くなっています。



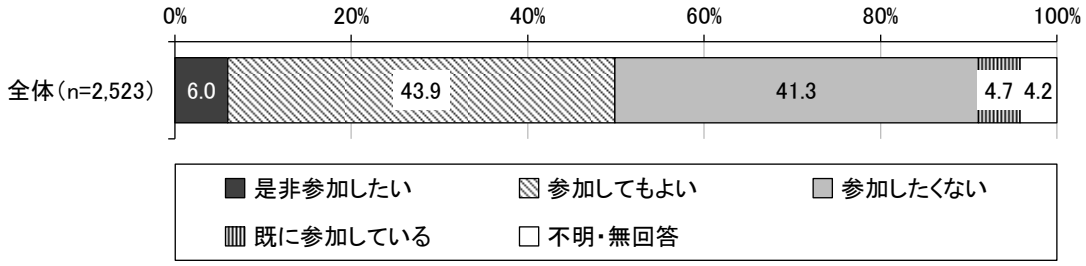
【地域別　⑧収入のある仕事】

地域にみると、すべての地域で「参加していない」が最も高くなっていますが、久米田地域ではやや低くなっています。



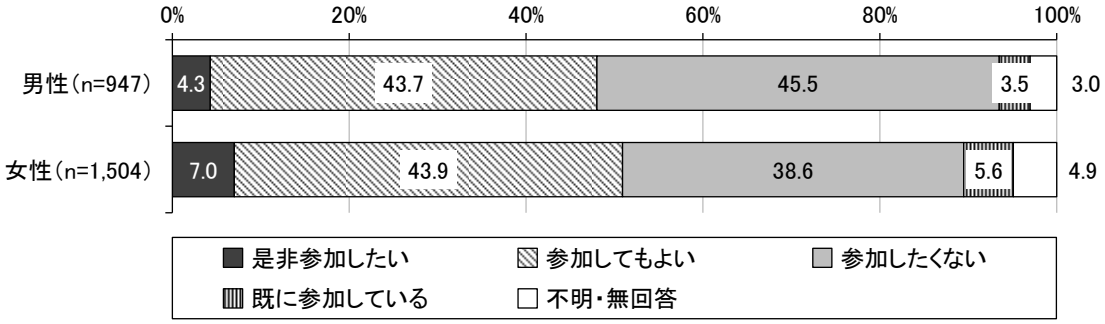
（２）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（１つに○）

「参加してもよい」が 43.9%と最も高く、次いで「参加したくない」が 41.3%、「是非参加したい」が 6.0%となっています。



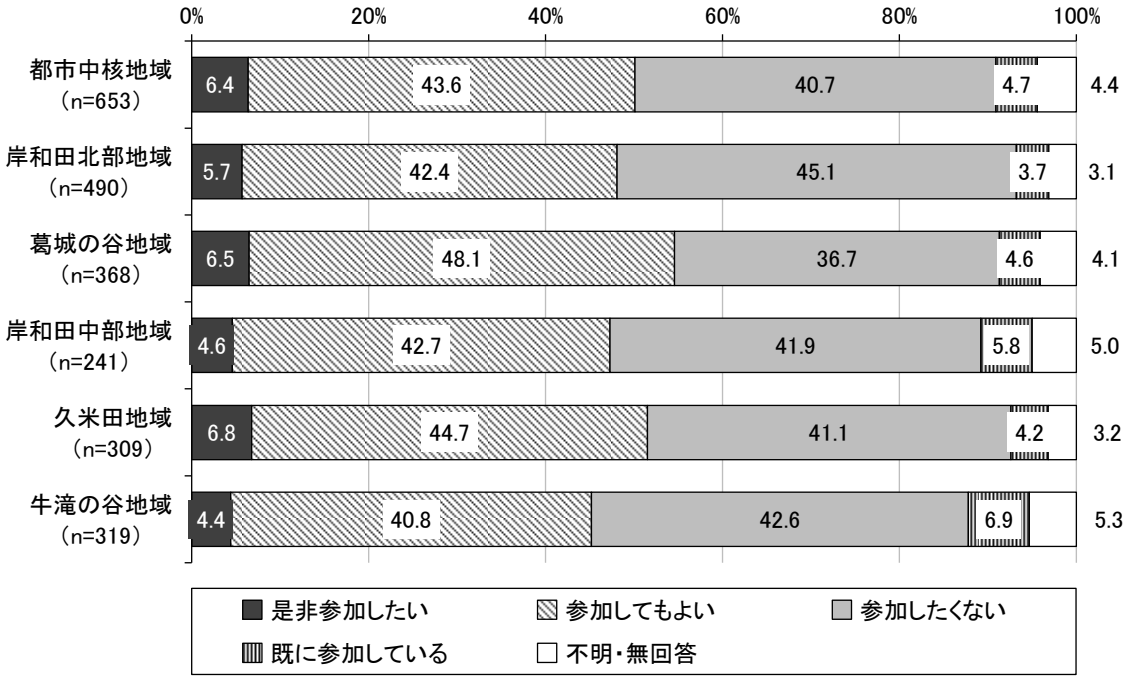
【性別】〔問５（２）活動に参加者として参加してみたいと思いますか。〕

性別にみると、男性では「参加したくない」、女性では「参加してもよい」がそれぞれ最も高くなっています。



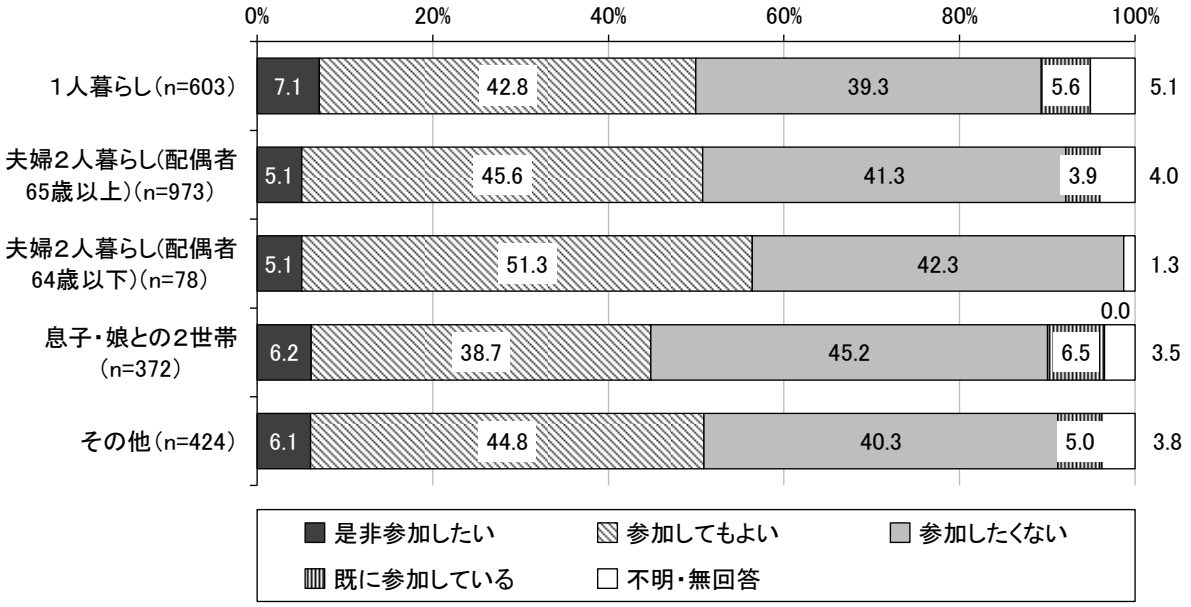
【地域別】〔問５（２）活動に参加者として参加してみたいと思いますか。〕

地域別にみると、岸和田北部地域と牛滝の谷地域では「参加したくない」、その他の地域では「参加してもよい」がそれぞれ最も高くなっています。



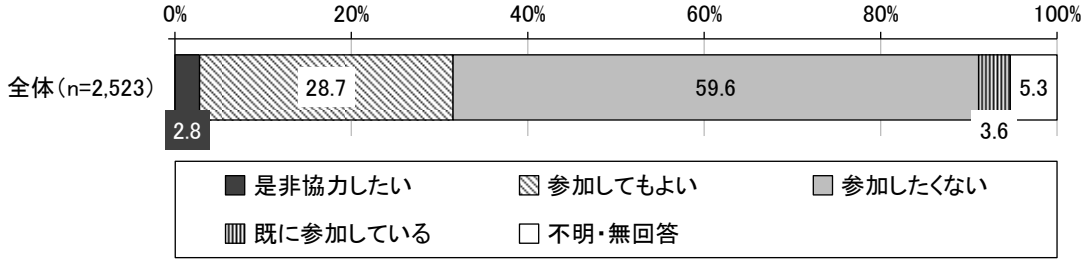
【家族構成別】〔問５（２）活動に参加者として参加してみたいと思いますか。〕

家族構成別にみると、息子と娘との２世帯では「参加したくない」、その他の家族構成では「参加してもよい」がそれぞれ最も高くなっています。



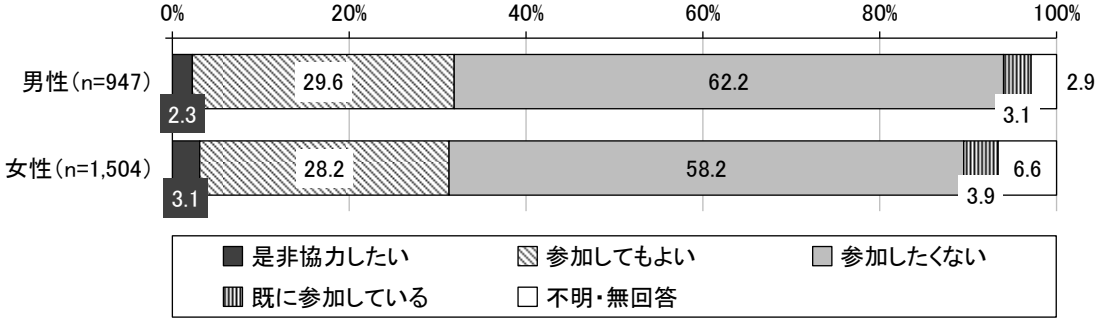
（３）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（１つに○）

「参加したくない」が 59.6%と最も高く、次いで「参加してもよい」が 28.7%、「既に参加している」が 3.6%となっています。



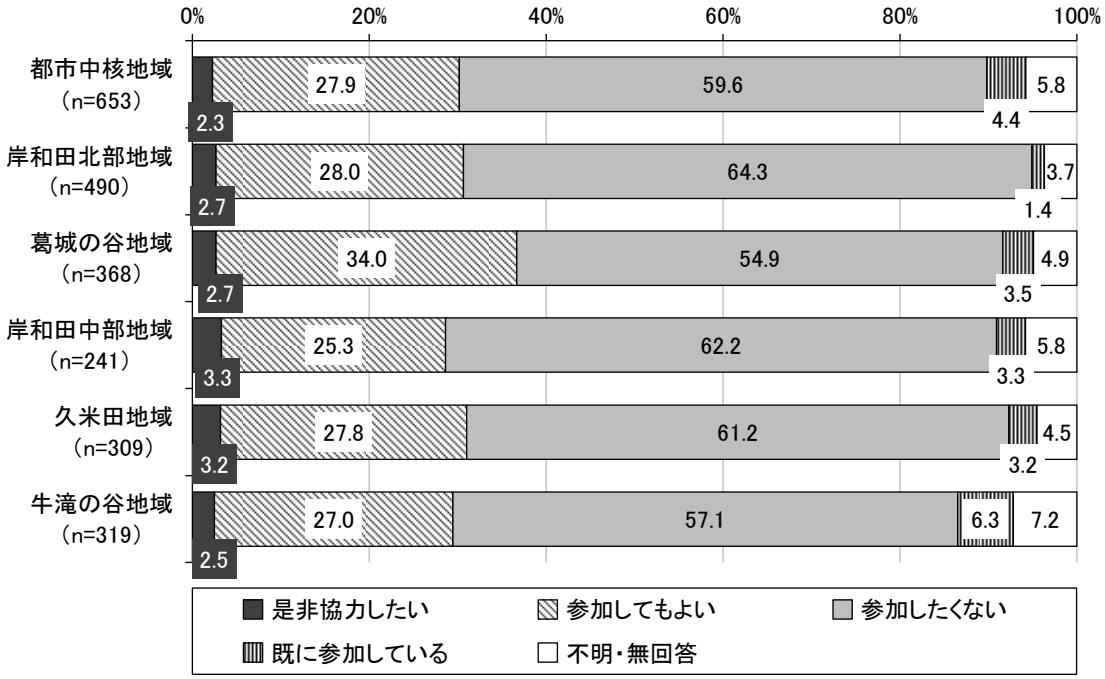
【性別】〔問５（３）活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。〕

性別にみると、男女ともに「参加したくない」が最も高くなっています。



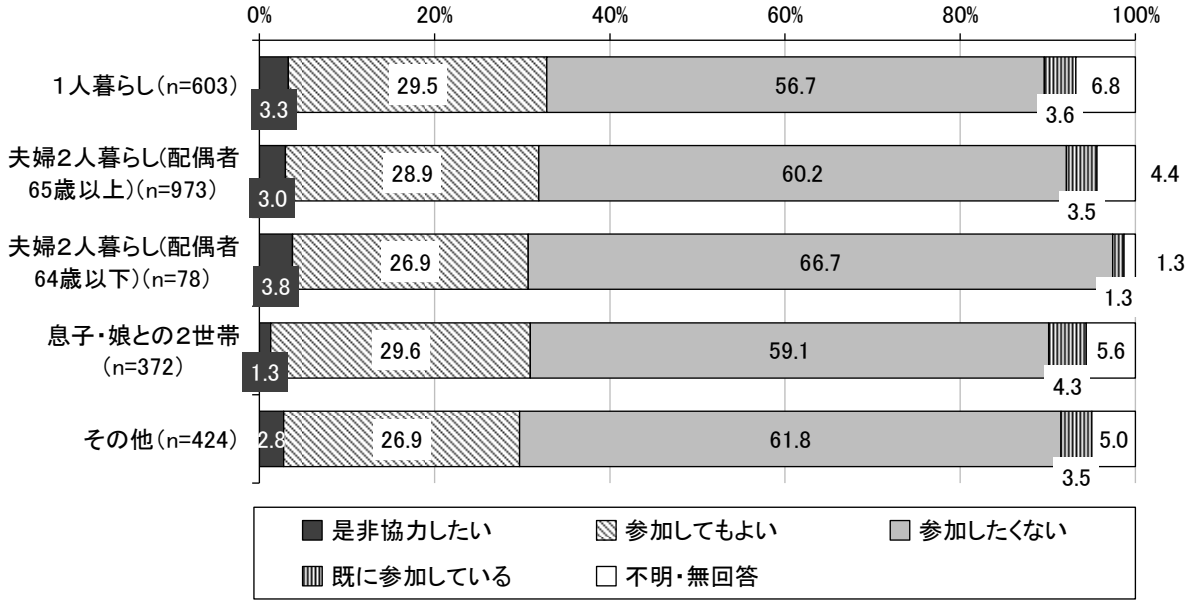
【地域別】〔問５（３）活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「参加したくない」が最も高くなっています。



【家族構成別】〔問５（３）活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。〕

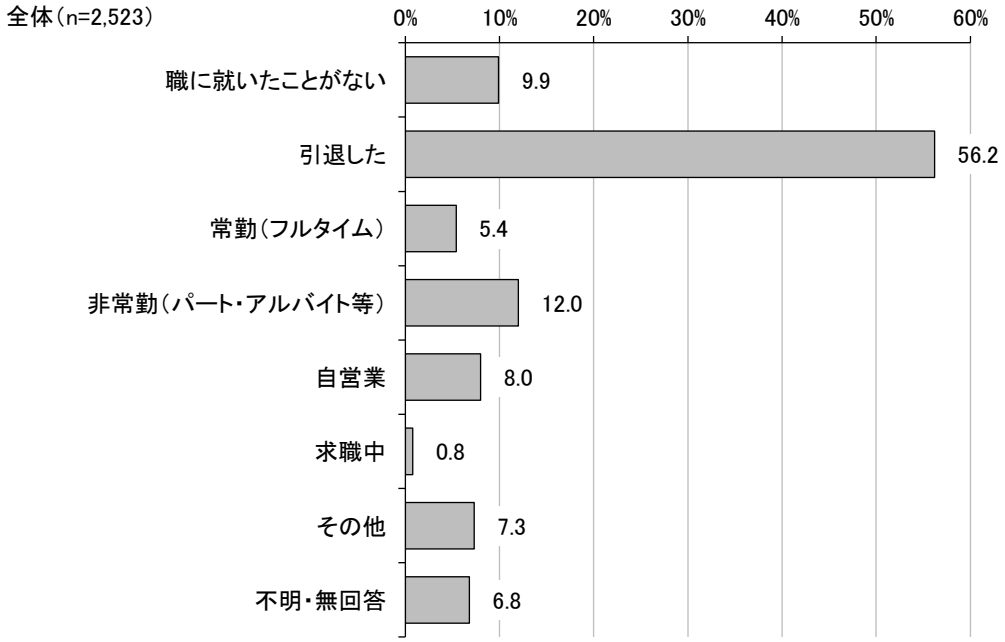
家族構成別にみると、すべての家族構成で「参加したくない」が最も高くなっていますが、１人暮らしではやや低くなっています。



問６　就労について

（１）現在のあなたの就労状態はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

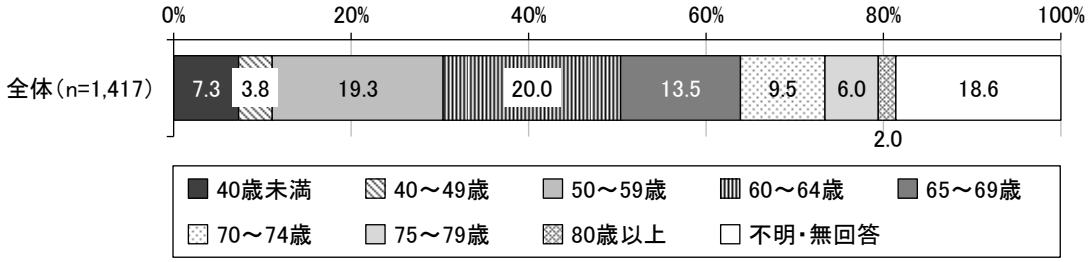
「引退した」が 56.2%と最も高く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が 12.0%、「職に就いたことがない」が 9.9%となっています。



（１）で「引退した」と回答した方にお伺いします。

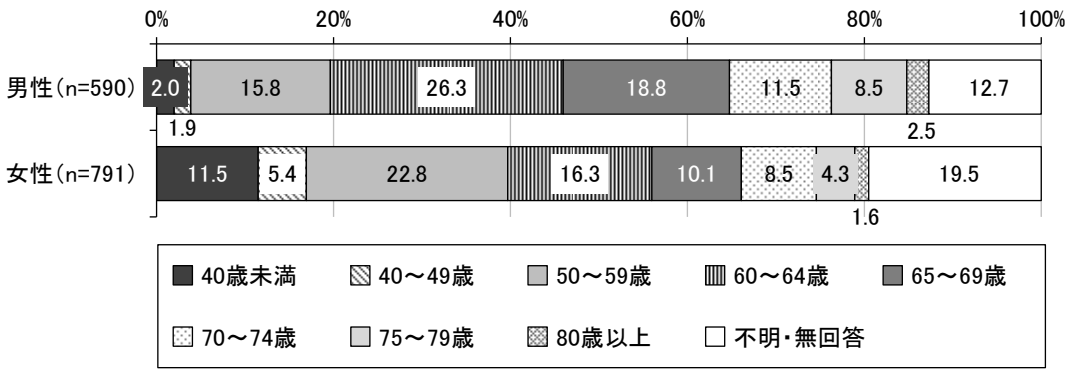
（２）あなたはいつ引退しましたか。（数字で記入）

「60～64 歳」が 20.0%と最も高く、次いで「50～59 歳」が 19.3%、「65～69 歳」が 13.5%となっています。



【性別】〔問６（２）あなたはいつ引退しましたか。〕

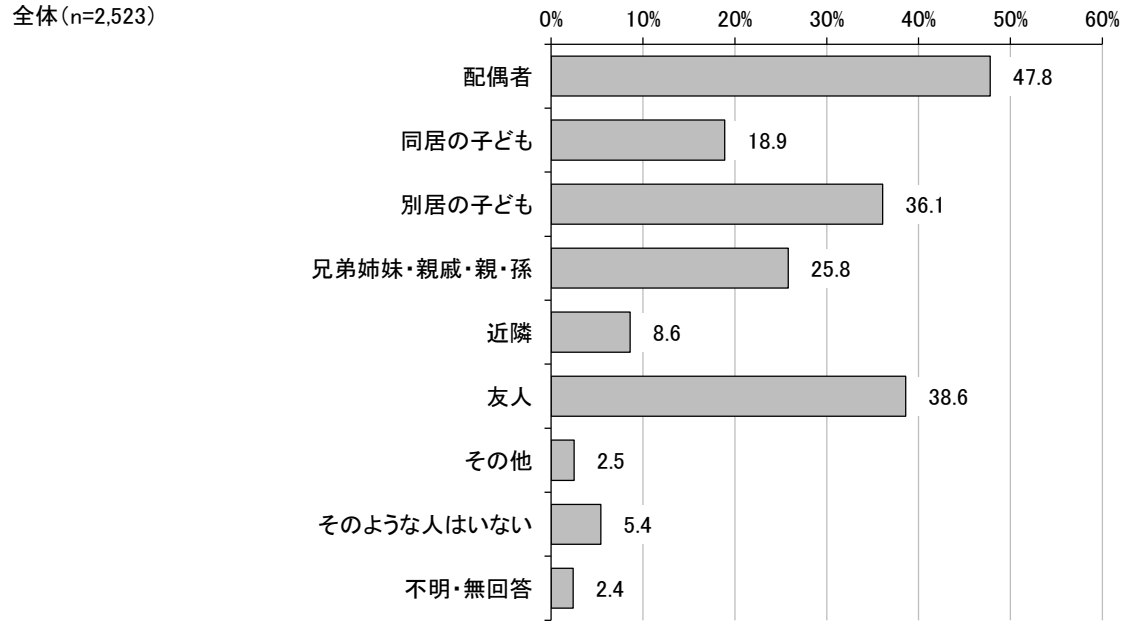
性別にみると、男性では「60～64 歳」、女性では「50～59 歳」が最も高くなっています。



問７　たすけあいについて

（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が 47.8%と最も高く、次いで「友人」が 38.6%、「別居の子ども」が 36.1%となっています。



【性別】〔問７（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人〕

性別にみると、男性では「配偶者」、女性では「友人」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		47.8	18.9	36.1	25.8	8.6	38.6	2.5	5.4	2.4
性別	男性(n=947)	68.6	11.8	25.6	18.2	3.6	23.9	2.5	7.7	2.5
	女性(n=1,504)	34.9	23.3	43.1	31.3	12.0	47.6	2.4	3.9	2.2

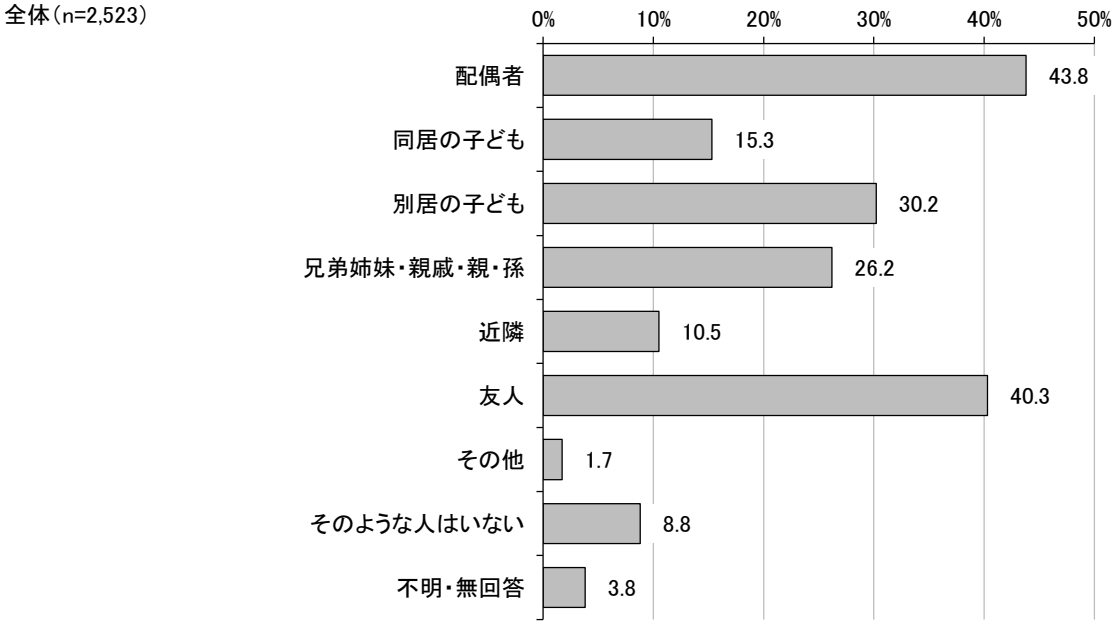
【家族構成別】〔問７（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人〕

家族構成別にみると、１人暮らしでは「友人」、息子と娘との２世帯、その他では「同居の子ども」、その他では「同居の子ども」、その他の家族構成では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体（n=2,523）		47.8	18.9	36.1	25.8	8.6	38.6	2.5	5.4	2.4
家族構成別	１人暮らし（n=603）	1.2	0.8	44.1	30.3	11.9	44.9	4.6	11.8	2.8
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）（n=973）	81.1	2.3	42.5	23.2	7.6	35.5	0.8	2.5	2.2
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）（n=78）	83.3	10.3	29.5	19.2	1.3	32.1	3.8	2.6	2.6
	息子・娘との２世帯（n=372）	37.9	63.7	26.6	27.2	8.1	37.1	1.3	3.0	1.9
	その他（n=424）	41.7	43.6	21.5	26.7	8.7	39.2	3.5	5.2	2.6

（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が 43.8%と最も高く、次いで「友人」が 40.3%、「別居の子ども」が 30.2%となっています。



【性別】〔問７（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人〕

性別にみると、男性では「配偶者」、女性では「友人」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体（n=2,523）		43.8	15.3	30.2	26.2	10.5	40.3	1.7	8.8	3.8
性別	男性（n=947）	65.3	11.0	23.1	20.5	3.6	25.3	1.6	10.1	4.0
	女性（n=1,504）	30.5	18.2	35.0	30.3	15.0	49.9	1.6	7.8	3.5

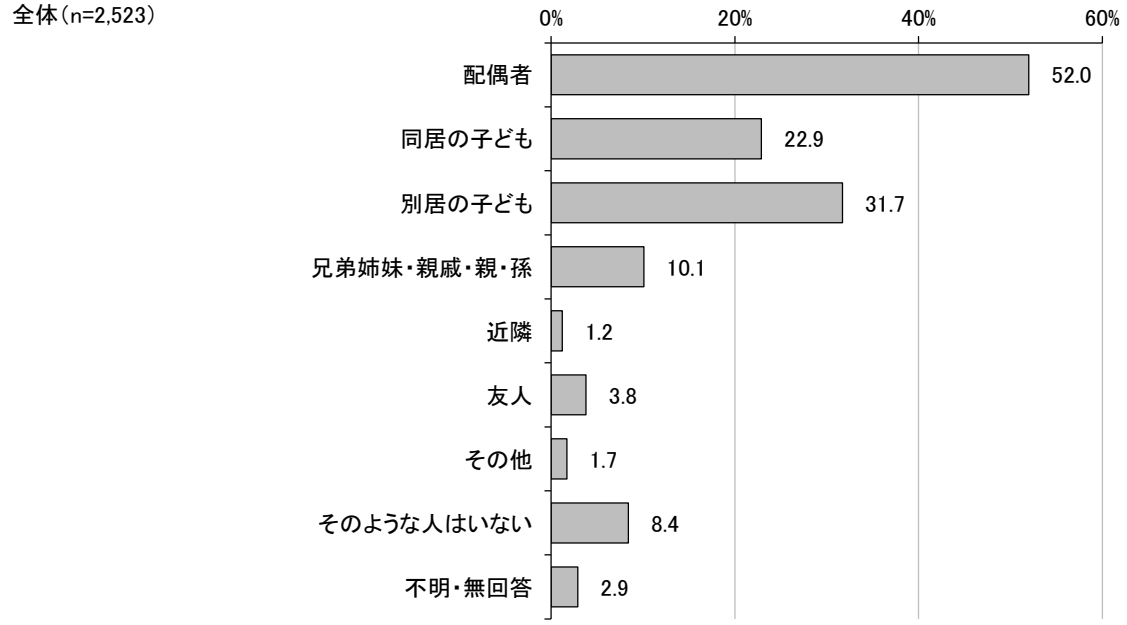
【家族構成別】〔問７（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人〕

家族構成別にみると、１人暮らしでは「友人」、息子と娘との２世帯、その他では「同居の子ども」、その他では「同居の子ども」、その他の家族構成では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体（n=2,523）		43.8	15.3	30.2	26.2	10.5	40.3	1.7	8.8	3.8
家族構成別	１人暮らし（n=603）	1.0	0.7	29.7	24.2	14.4	48.8	2.7	19.1	4.0
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）（n=973）	74.6	1.6	37.2	25.4	9.8	38.1	0.6	3.5	3.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）（n=78）	75.6	11.5	34.6	26.9	1.3	34.6	3.8	3.8	3.8
	息子・娘との２世帯（n=372）	34.7	48.4	24.5	29.6	9.1	37.6	1.1	8.9	3.2
	その他（n=424）	37.7	38.7	21.0	28.5	10.4	37.7	2.8	6.4	3.5

（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人
（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が 52.0%と最も高く、次いで「別居の子ども」が 31.7%、「同居の子ども」が 22.9%となっています。



【性別】〔問７（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人〕

性別にみると、男女ともに「配偶者」が最も高くなっていますが、男性が 72.3%と女性を 32.7 ポイント上回っています。

単位:%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		52.0	22.9	31.7	10.1	1.2	3.8	1.7	8.4	2.9
性別	男性(n=947)	72.3	13.2	22.9	7.4	0.4	1.7	1.1	9.1	2.5
	女性(n=1,504)	39.6	28.9	37.2	12.0	1.7	5.1	1.9	7.8	2.9

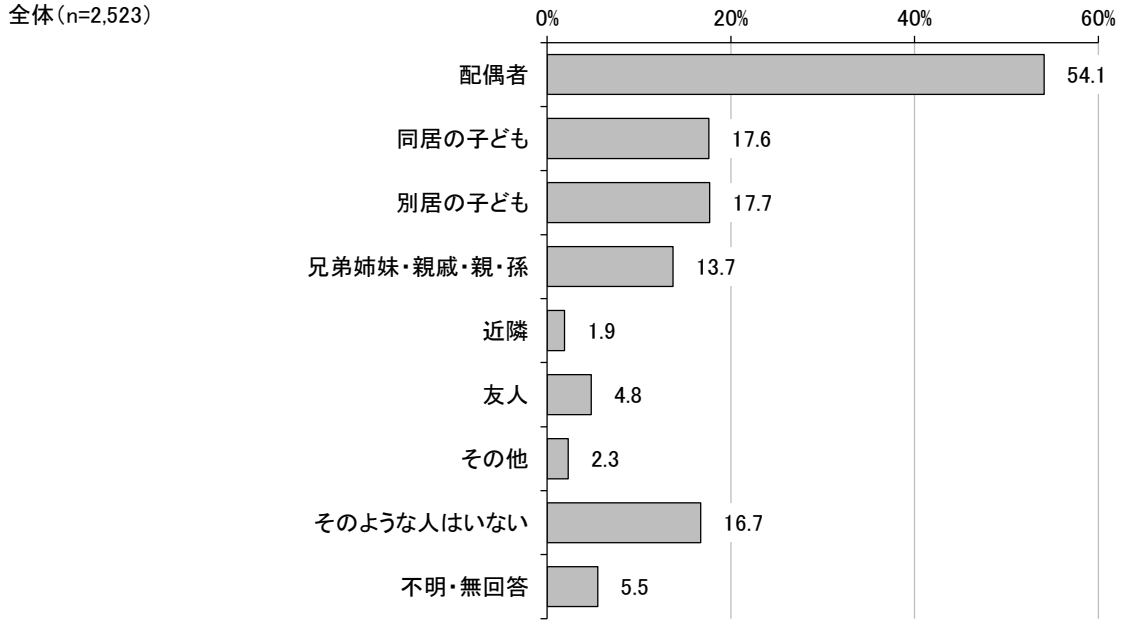
【家族構成別】〔問７（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人〕

家族構成別にみると、１人暮らしでは「別居の子ども」、息子と娘との２世帯、その他では「同居の子ども」、その他では「同居の子ども」、その他の家族構成では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体（n=2,523）		52.0	22.9	31.7	10.1	1.2	3.8	1.7	8.4	2.9
家族構成別	１人暮らし（n=603）	1.2	1.2	47.1	16.9	3.0	10.1	4.8	25.4	4.8
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）（n=973）	87.9	1.8	34.8	5.3	0.8	1.2	0.4	2.2	1.8
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）（n=78）	93.6	16.7	29.5	3.8	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
	息子・娘との２世帯（n=372）	40.9	76.1	16.7	8.9	0.3	1.9	0.5	3.0	1.6
	その他（n=424）	46.0	54.2	17.0	13.7	0.7	2.8	1.2	4.5	3.3

（４）反対に、看病や世話をしてあげる人（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が 54.1％と最も高く、次いで「別居の子ども」が 17.7％、「同居の子ども」が 17.6％となっています。



【性別】〔問７（４）反対に、看病や世話をしてあげる人〕

性別にみると、男女ともに「配偶者」が最も高くなっていますが、男性が 68.8%と女性を 23.5 ポイント上回っています。

単位:%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		54.1	17.6	17.7	13.7	1.9	4.8	2.3	16.7	5.5
性別	男性(n=947)	68.8	11.9	12.2	10.8	0.8	2.3	1.8	15.5	3.2
	女性(n=1,504)	45.3	21.2	21.1	15.6	2.4	6.3	2.6	17.4	6.6

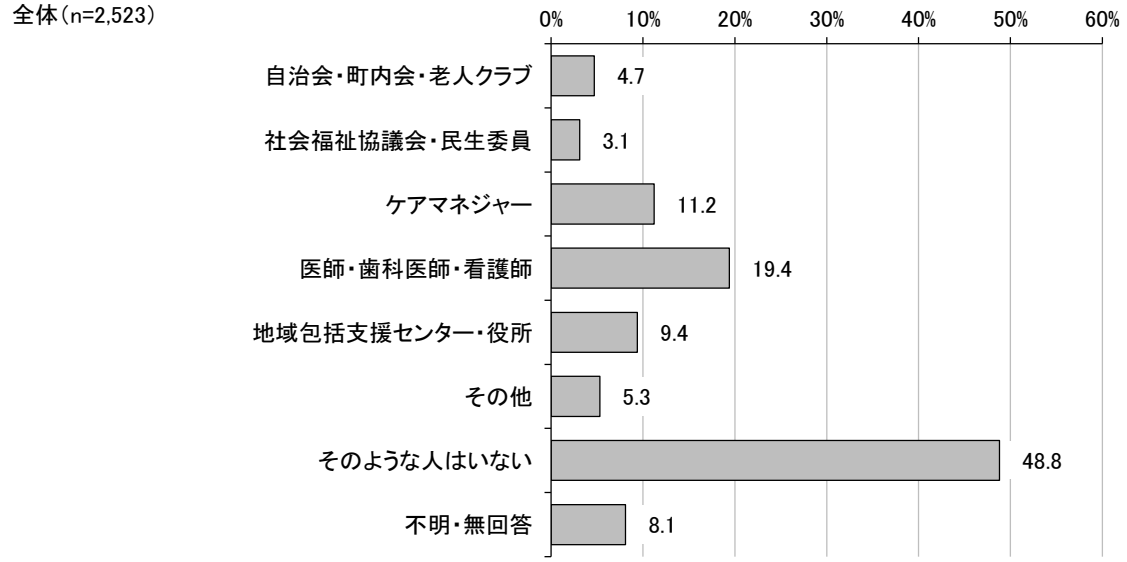
【家族構成別】〔問７（４）反対に、看病や世話をしてあげる人〕

家族構成別にみると、１人暮らしでは「そのような人はいない」、息子・娘との２世帯では「同居の子ども」、その他の家族構成では「配偶者」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		54.1	17.6	17.7	13.7	1.9	4.8	2.3	16.7	5.5
家族構成別	１人暮らし(n=603)	0.7	0.5	23.2	17.6	3.3	10.9	3.5	44.6	8.8
	夫婦２人暮らし(配偶者65歳以上)(n=973)	91.0	1.5	20.2	10.0	1.0	2.5	1.2	3.0	3.4
	夫婦２人暮らし(配偶者64歳以下)(n=78)	87.2	11.5	19.2	12.8	0.0	0.0	0.0	6.4	3.8
	息子・娘との２世帯(n=372)	42.7	52.2	10.2	11.8	1.9	2.7	1.6	16.9	5.9
	その他(n=424)	50.7	48.6	11.1	17.5	1.4	3.8	4.5	10.4	5.0

（５）家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手を教えてください（あてはまるものすべてに○）

「そのような人はいない」が 48.8%と最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 19.4%、「ケアマネジャー」が 11.2%となっています。



【性別】〔問７（５）家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手を教えてください〕

性別にみると、男女ともに「そのような人はいない」が最も高くなっていますが、男性が 54.3%と女性を 8.9 ポイント上回っています。「自治会・町内会・老人クラブ」、「社会福祉協議会・民生委員」、「医師・歯科医師・看護師」は男性、「ケアマネジャー」、「地域包括支援センター・役所」は女性が高くなっています。

単位:%		自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		4.7	3.1	11.2	19.4	9.4	5.3	48.8	8.1
性別	男性(n=947)	6.5	3.6	7.6	21.0	7.6	4.9	54.3	5.2
	女性(n=1,504)	3.7	3.0	13.2	18.5	10.6	5.5	45.4	9.8

【地域別】〔問７（５）家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手を教えてください〕

地域別にみると、「自治会・町内会・老人クラブ」、「医師・歯科医師・看護師」は牛滝の谷地域、「社会福祉協議会・民生委員」、「地域包括支援センター・役所」は久米田地域、「ケアマネジャー」、「そのような人はいない」は岸和田中部地域で高くなっています。

単位:%		自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		4.7	3.1	11.2	19.4	9.4	5.3	48.8	8.1
地域別	都市中核地域(n=653)	5.2	3.8	11.0	19.8	10.0	4.6	50.2	7.4
	岸和田北部地域(n=490)	5.1	2.7	12.2	18.8	8.2	5.7	50.6	6.1
	葛城の谷地域(n=368)	3.5	3.0	10.3	20.7	8.2	6.0	44.8	9.5
	岸和田中部地域(n=241)	4.6	1.7	14.1	16.2	7.9	5.0	51.5	8.3
	久米田地域(n=309)	3.2	4.2	9.7	18.1	14.2	5.8	48.2	7.1
	牛滝の谷地域(n=319)	7.2	3.4	9.4	22.9	10.3	4.1	46.1	9.7

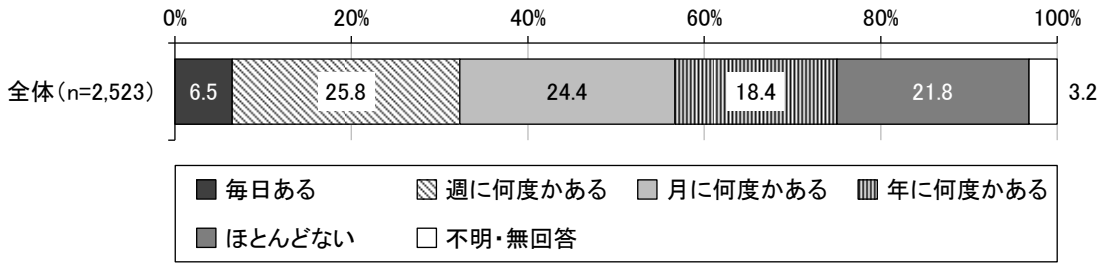
【家族構成別】〔問７（５）家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手を教えてください〕

家族構成別にみると、すべての家族構成で「そのような人はいない」が最も高くなっています。「社会福祉協議会・民生委員」、「ケアマネジャー」、「地域包括支援センター・役所」は１人暮らし、「自治会・町内会・老人クラブ」は夫婦２人暮らし（配偶者が 65 歳以上）、「医師・歯科医師・看護師」は息子・娘との２世帯で高くなっています。

単位：%		自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体（n=2,523）		4.7	3.1	11.2	19.4	9.4	5.3	48.8	8.1
家族構成別	１人暮らし（n=603）	4.3	5.0	17.6	16.4	10.9	5.3	42.8	8.8
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）（n=973）	5.2	2.8	9.2	19.3	8.7	4.2	51.4	7.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）（n=78）	3.8	3.8	6.4	19.2	10.3	5.1	59.0	1.3
	息子・娘との２世帯（n=372）	4.8	2.4	9.4	23.1	8.3	5.1	48.9	9.4
	その他（n=424）	4.5	2.4	9.2	20.8	9.4	7.3	49.8	7.5

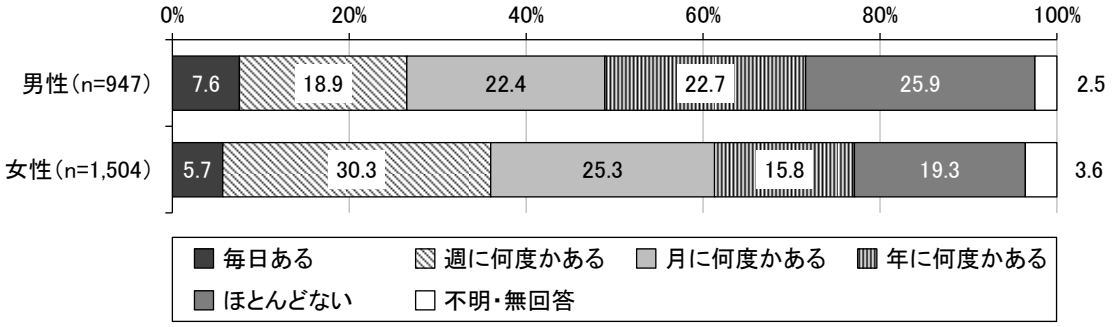
（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（１つに○）

「週に何度かある」が 25.8％と最も高く、次いで「月に何度かある」が 24.4％、「ほとんどない」が 21.8％となっています。



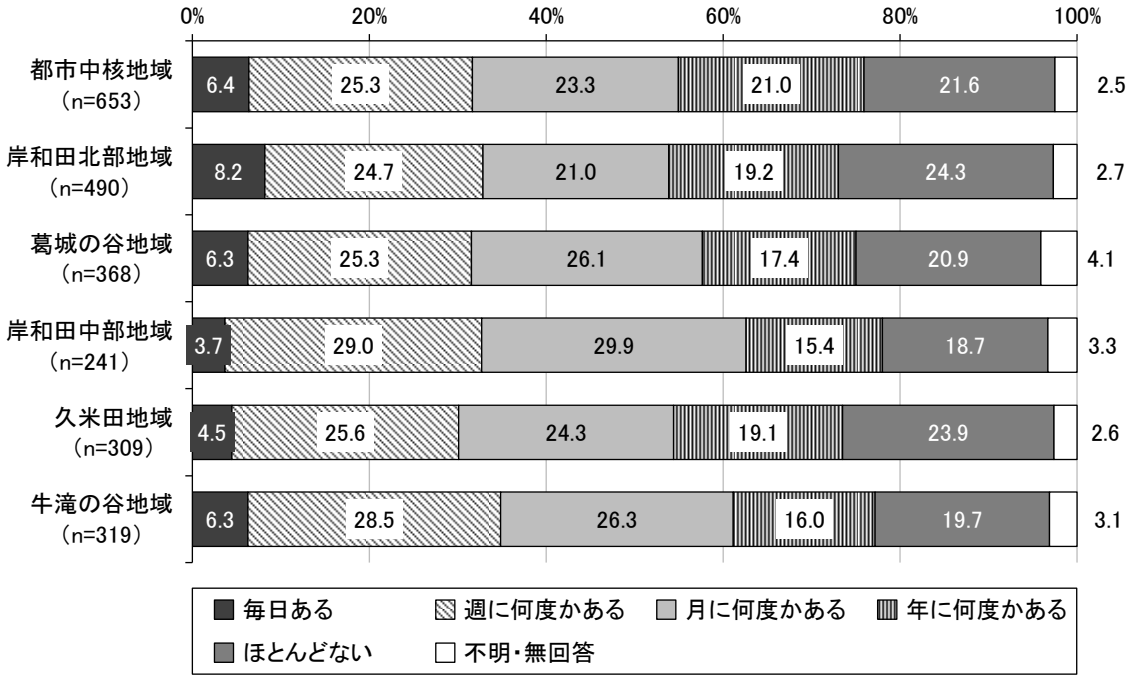
【性別】〔問７（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか〕

性別にみると、男性では「ほとんどない」、女性では「週に何度かある」がそれぞれ最も高くなっています。



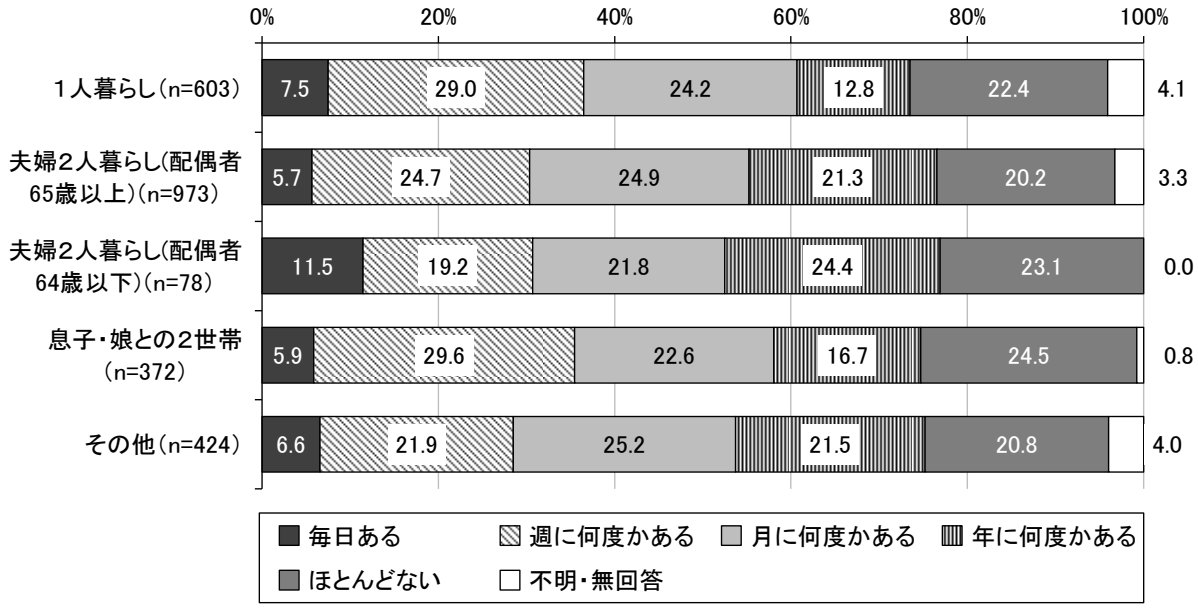
【地域別】〔問７（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか〕

地域別にみると、葛城の谷地域と岸和田中部地域では「月に何度かある」、その他の地域では「週に何度かある」がそれぞれ最も高くなっています。



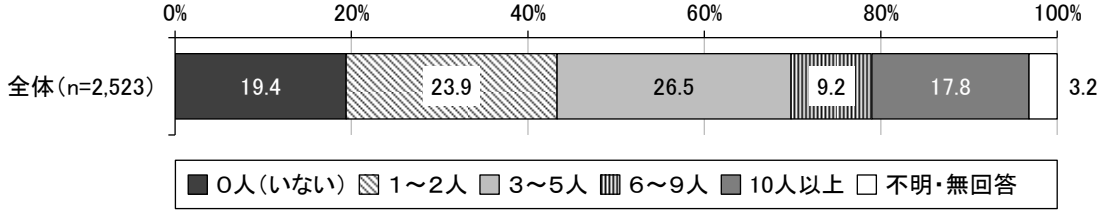
【家族構成別】〔問７（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか〕

家族構成別にみると、夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)、その他では「月に何度かある」、夫婦２人暮らし(配偶者 64 歳以下)では「年に何度かある」、その他の家族構成では「週に何度かある」がそれぞれ最も高くなっています。



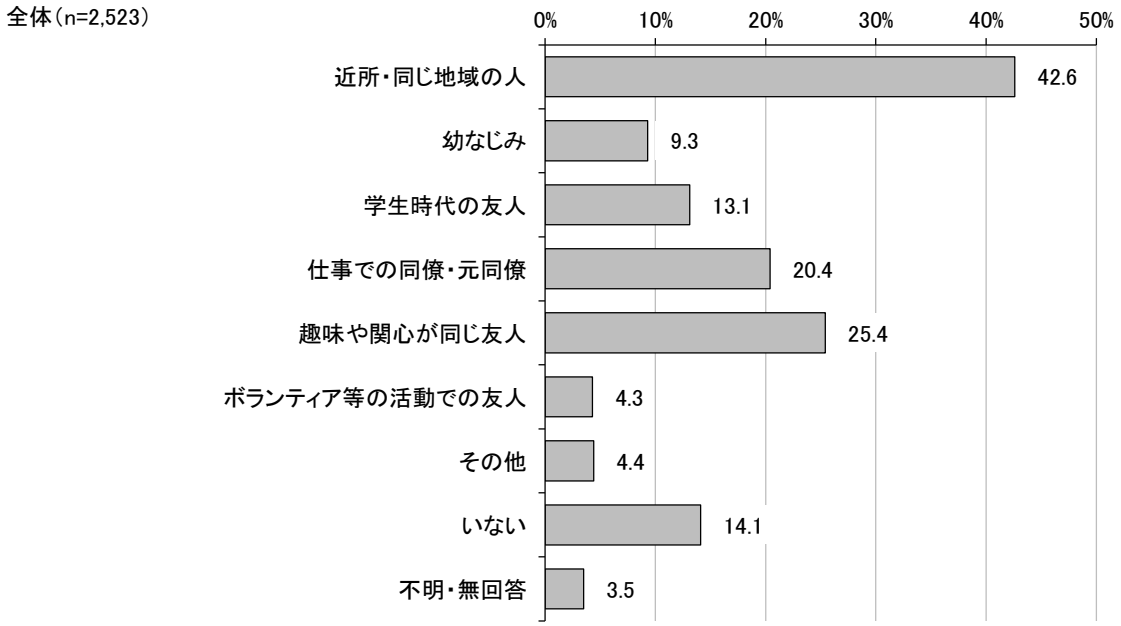
（７）この１カ月間、何人の友人・知人と会いましたか（１つに○）（同じ人には何度会っても１人としてください）

「３～５人」が 26.5%と最も高く、次いで「１～２人」が 23.9%、「０人（いない)」が 19.4%となっています。



（８）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（あてはまるものすべてに〇）

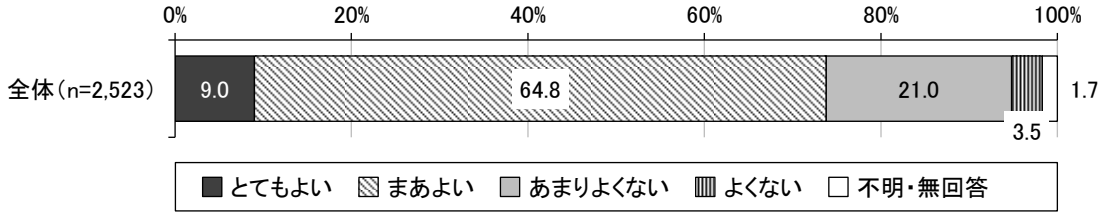
「近所・同じ地域の人」が 42.6％と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 25.4％、「仕事での同僚・元同僚」が 20.4％となっています。



問８　健康について

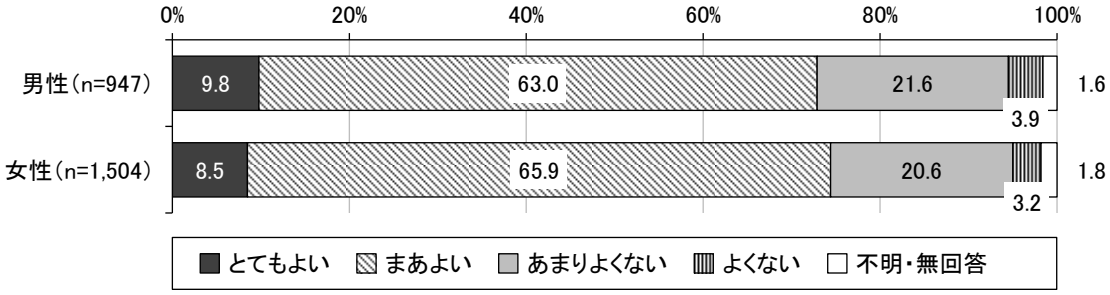
（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか。（１つに○）

「まあよい」が 64.8%と最も高く、次いで「あまりよくない」が 21.0%、「とてもよい」が 9.0%となっています。



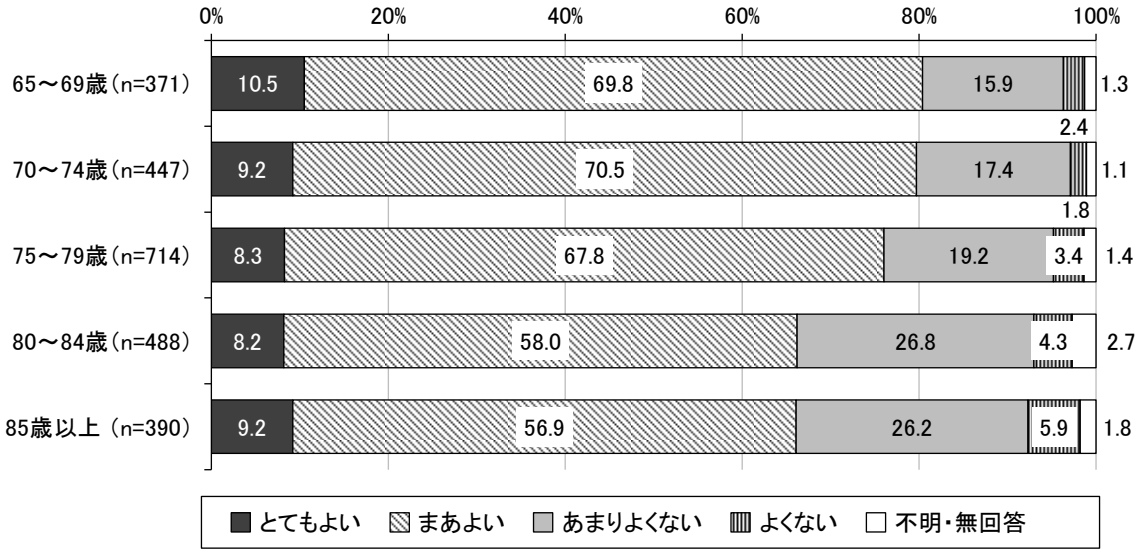
【性別】〔問８（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか。〕

性別にみると、男女ともに「まあよい」が最も高くなっています。



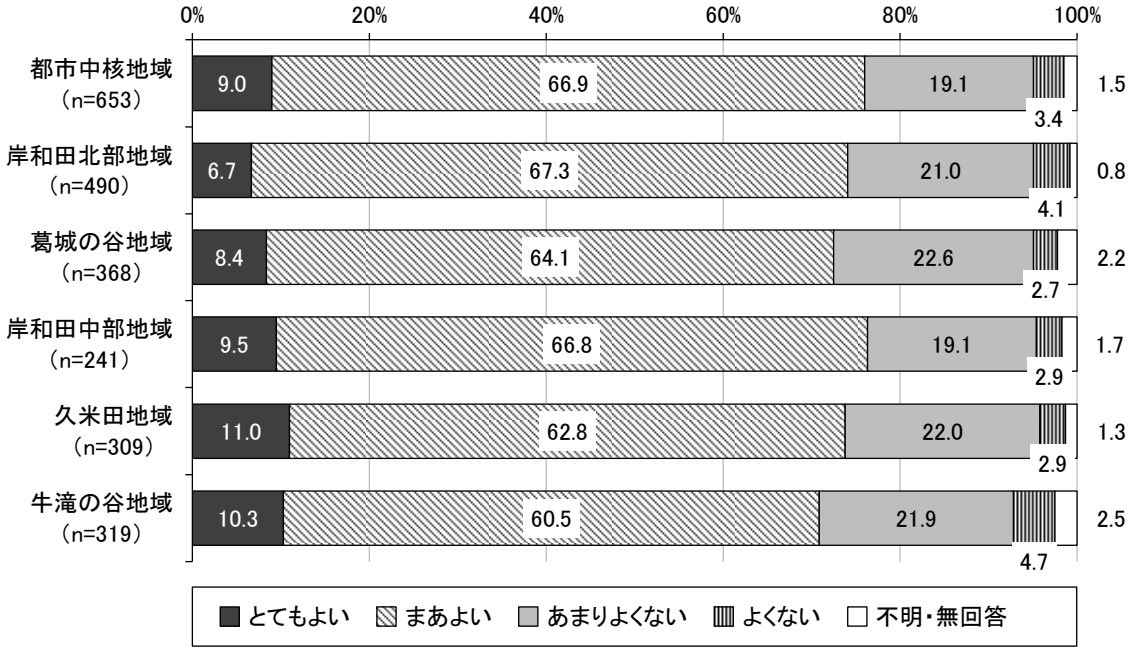
【年齢別】〔問８（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか。〕

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「あまりよくない」、「よくない」が高くなっています。



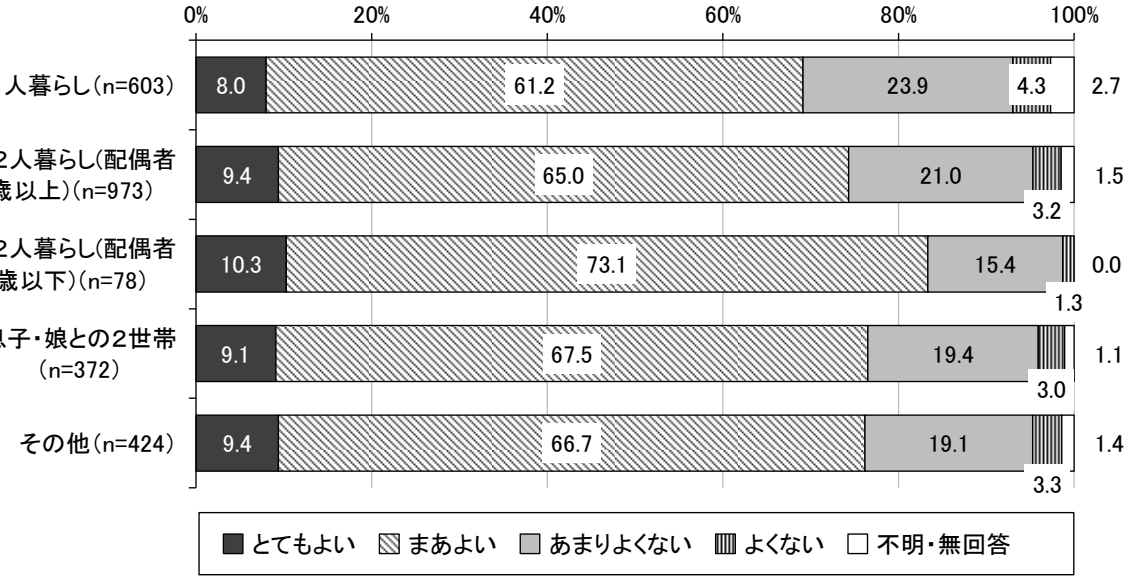
【地域別】〔問８（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか。〕

地域別にみると、すべての地域で「まあよい」が最も高くなっています。



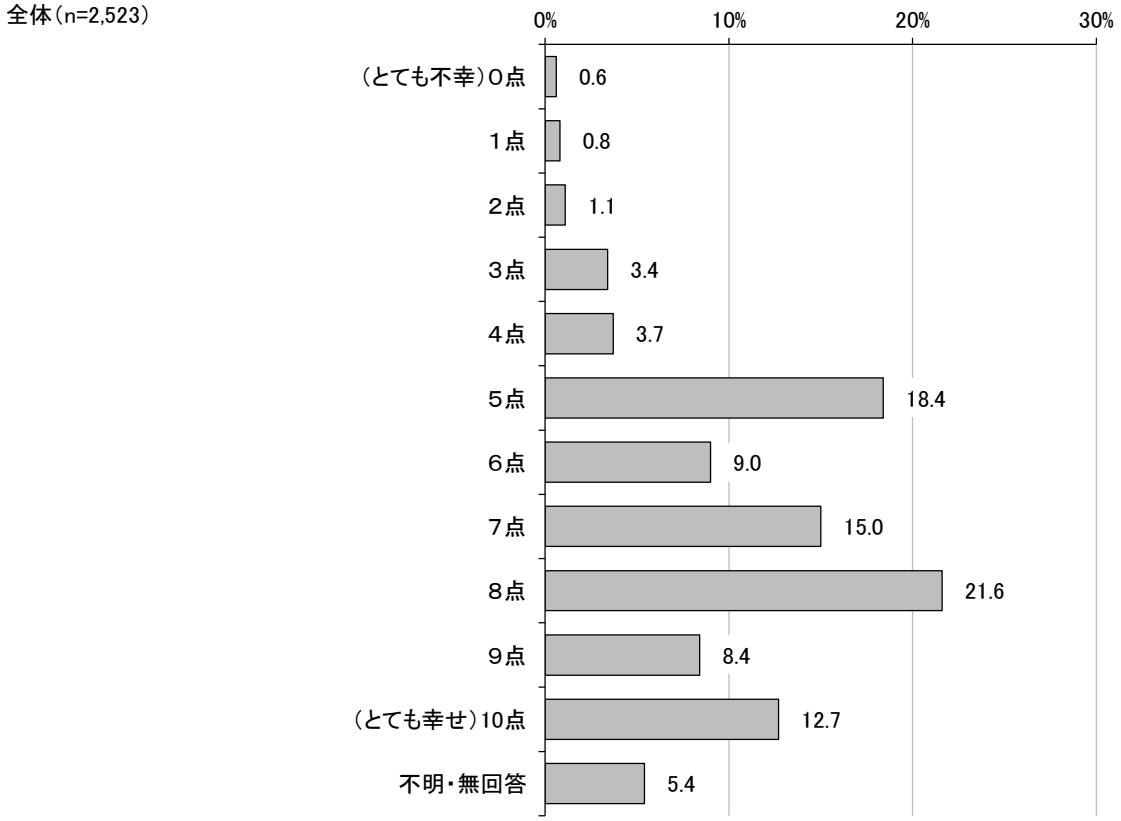
【家族構成別】〔問８（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか。〕

家族構成別にみると、すべての家族構成で「まあよい」が最も高くなっています。



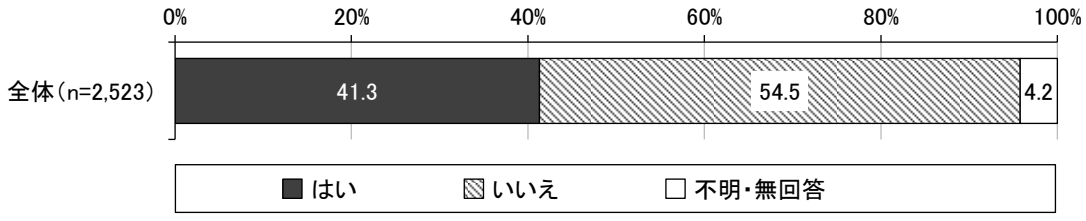
（２）あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、○で囲んでください）

「８点」が 21.6％と最も高く、次いで「５点」が 18.4％、「７点」が 15.0％となっています。



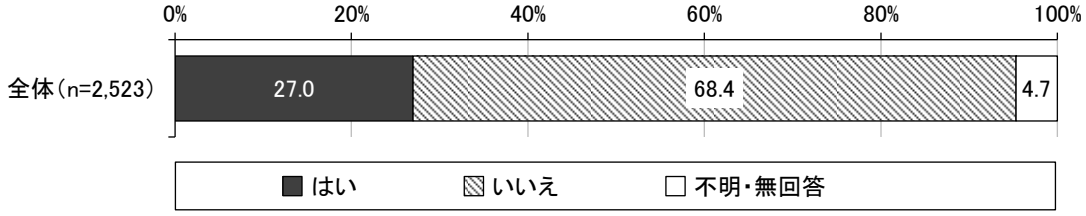
（３）この１カ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（１つに○）

「いいえ」が 54.5％と、「はい」の 41.3％を上回っています。



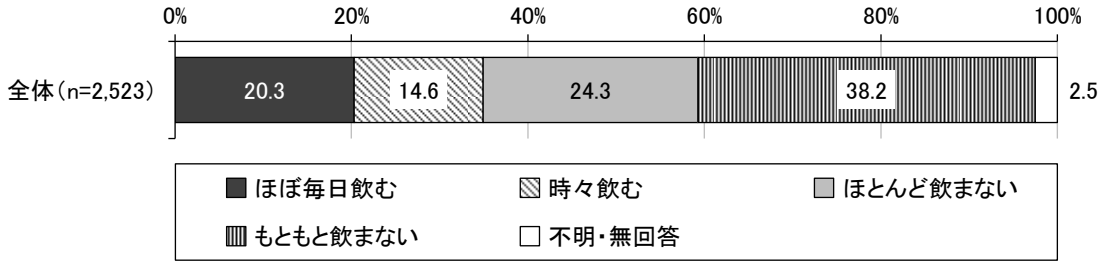
（４）この１カ月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（１つに○）

「いいえ」が 68.4％と、「はい」の 27.0％を上回っています。



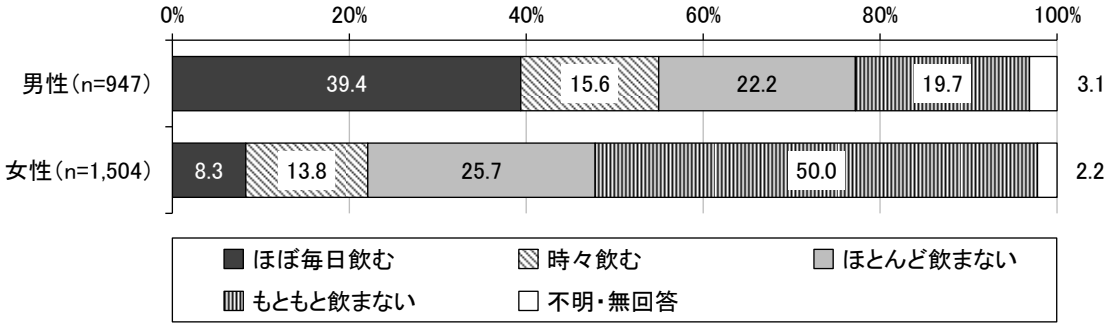
（５）お酒は飲みますか。（１つに○）

「もともと飲まない」が 38.2％と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が 24.3％、「ほぼ毎日飲む」が 20.3％となっています。



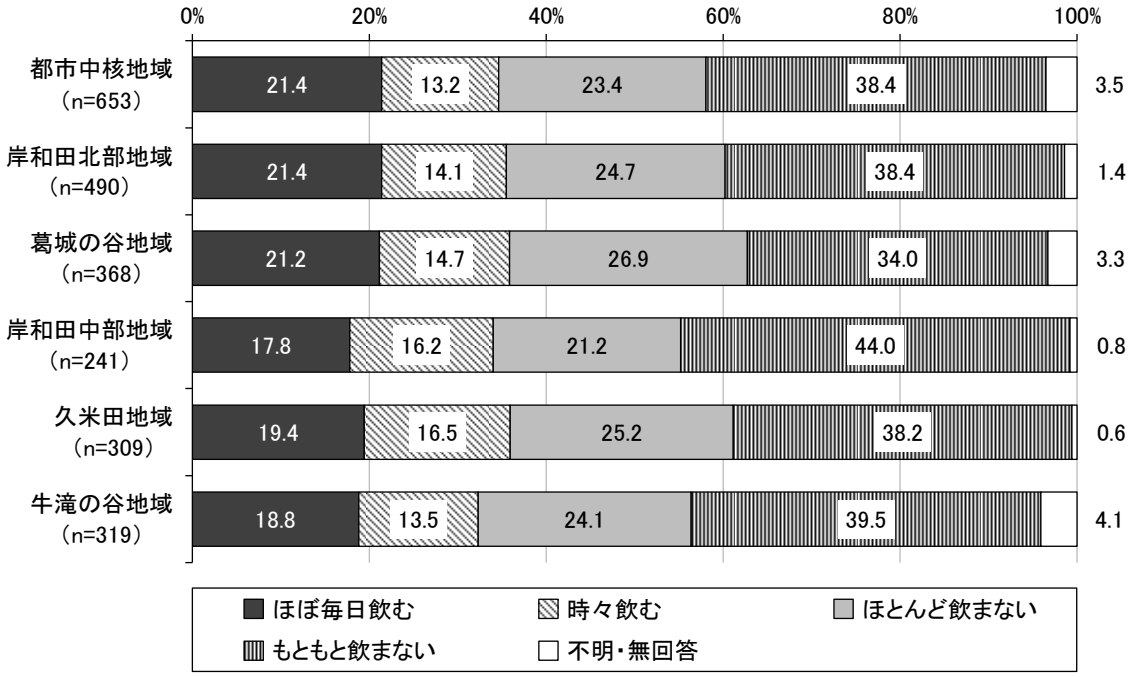
【性別】〔問８（５）お酒は飲みますか。〕

性別にみると、男性では「ほぼ毎日飲む」、女性では「もともと飲まない」がそれぞれ最も高くなっています。



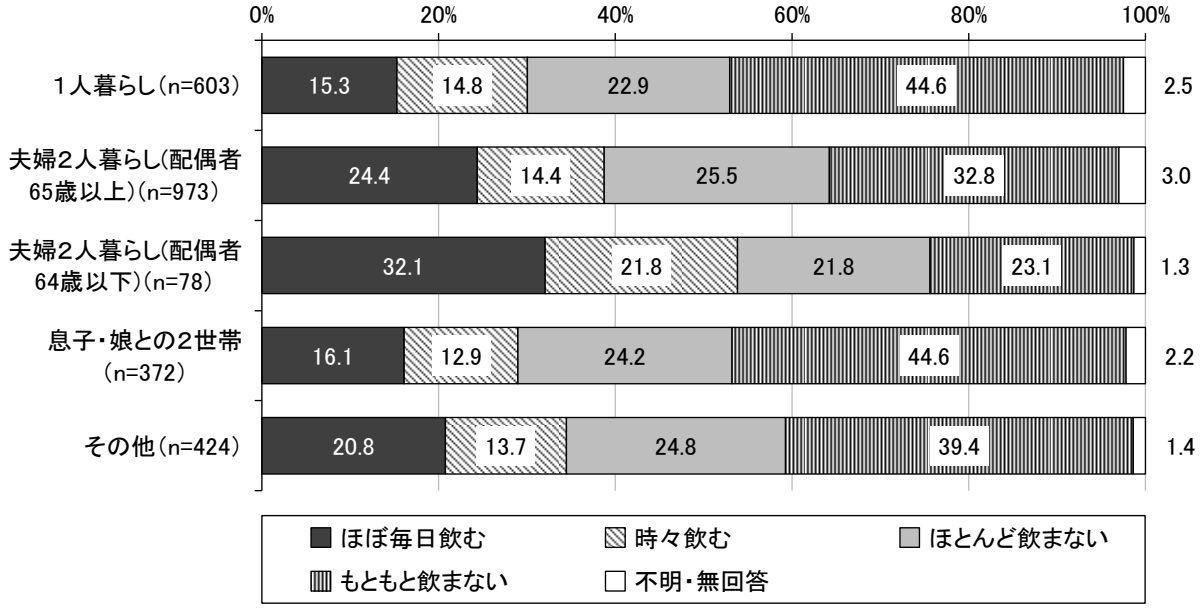
【地域別】〔問８（５）お酒は飲みますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「もともと飲まない」が最も高くなっています。



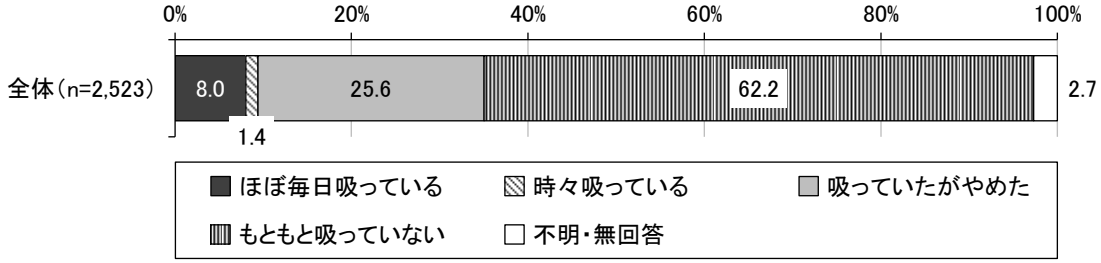
【家族構成別】〔問８（５）お酒は飲みますか。〕

家族構成別にみると、夫婦２人暮らし(配偶者 64 歳以下)では「ほぼ毎日飲む」、その他の家族構成では「もともと飲まない」がそれぞれ最も高くなっています。



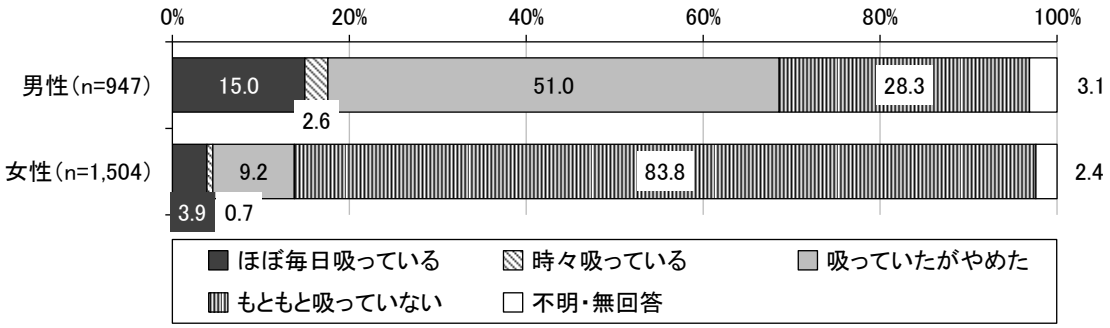
（６）タバコは吸っていますか。（１つに○）

「もともと吸っていない」が 62.2%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 25.6%、「ほぼ毎日吸っている」が 8.0%となっています。



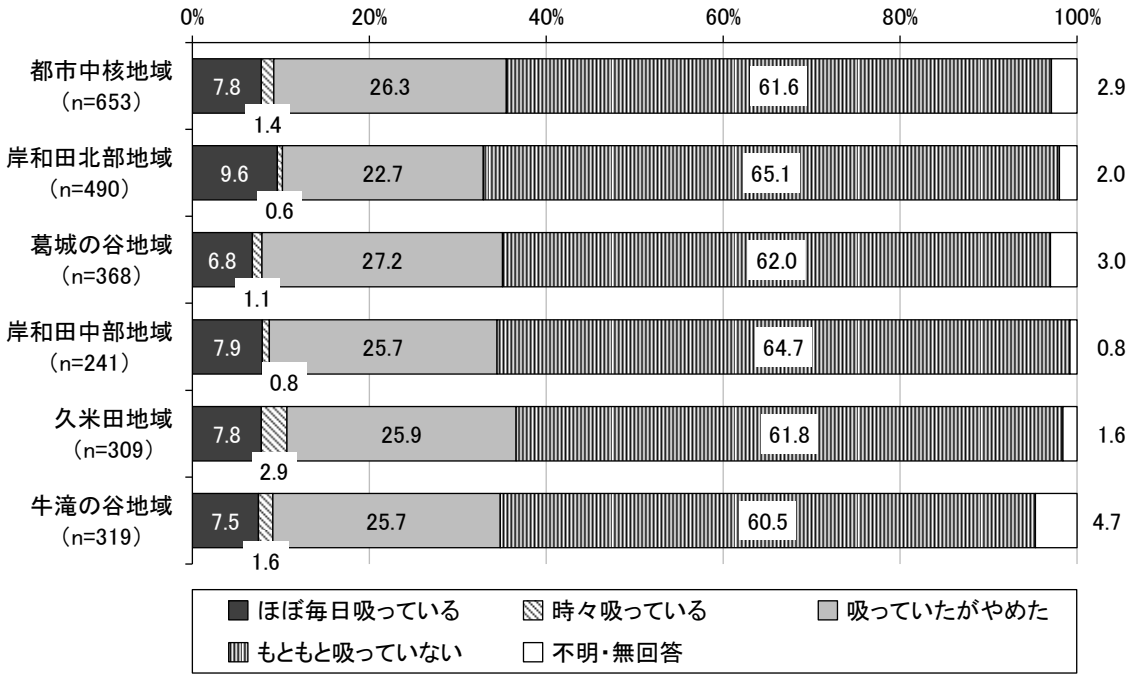
【性別】〔問８（６）タバコは吸っていますか。〕

性別にみると、男性では「吸っていたがやめた」、女性では「もともと吸っていない」がそれぞれ最も高くなっています。



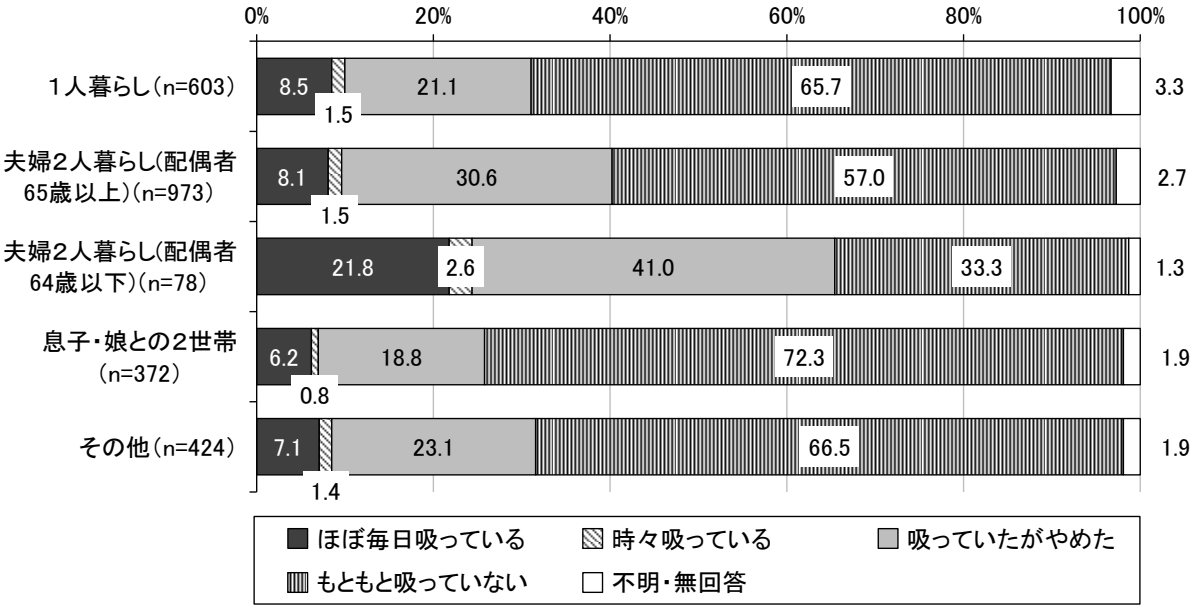
【地域別】〔問８（６）タバコは吸っていますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「もともと吸っていない」が最も高くなっています。



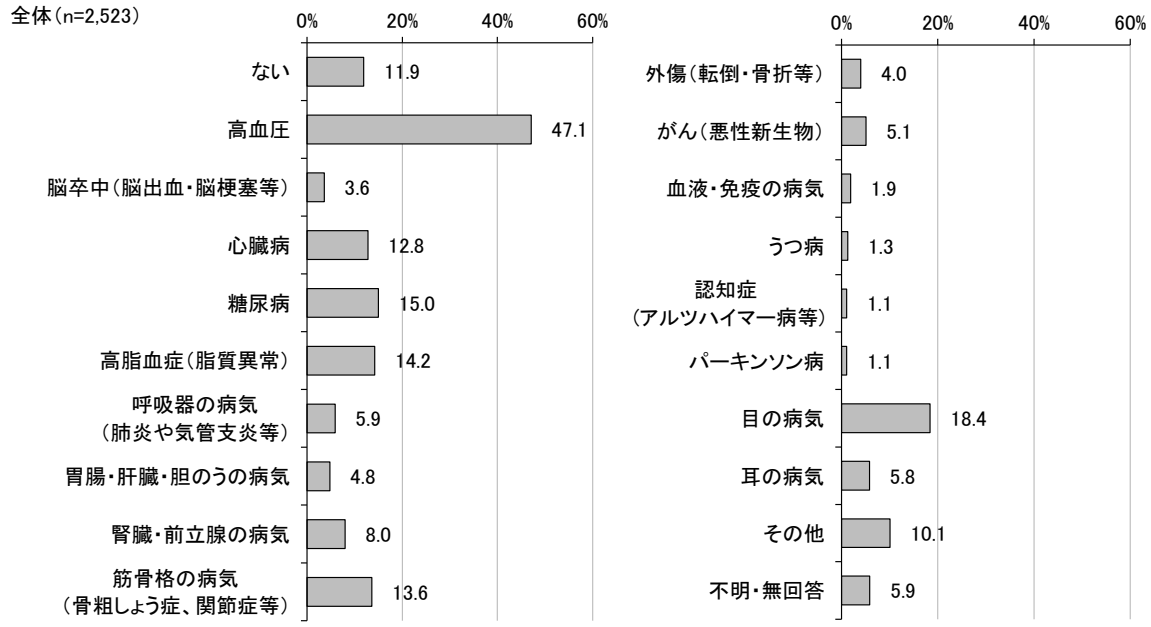
【家族構成別】〔問８（６）タバコは吸っていますか。〕

家族構成別にみると、夫婦２人暮らし(配偶者 64 歳以下)では「吸っていたがやめた」、その他の家族構成では「もともと吸っていない」がそれぞれ最も高くなっています。



（７）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（あてはまるものすべてに○）

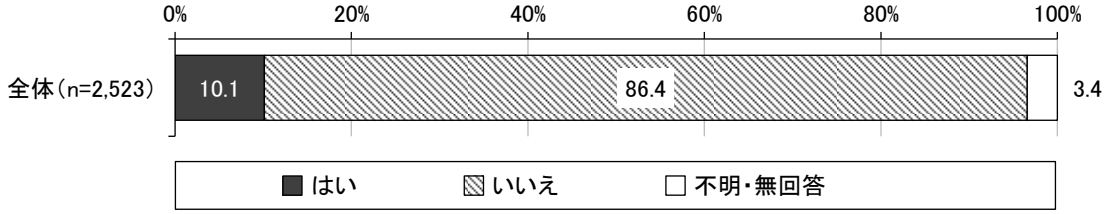
「高血圧」が 47.1％と最も高く、次いで「目の病気」が 18.4％、「糖尿病」が 15.0％となっています。



問９　認知症について

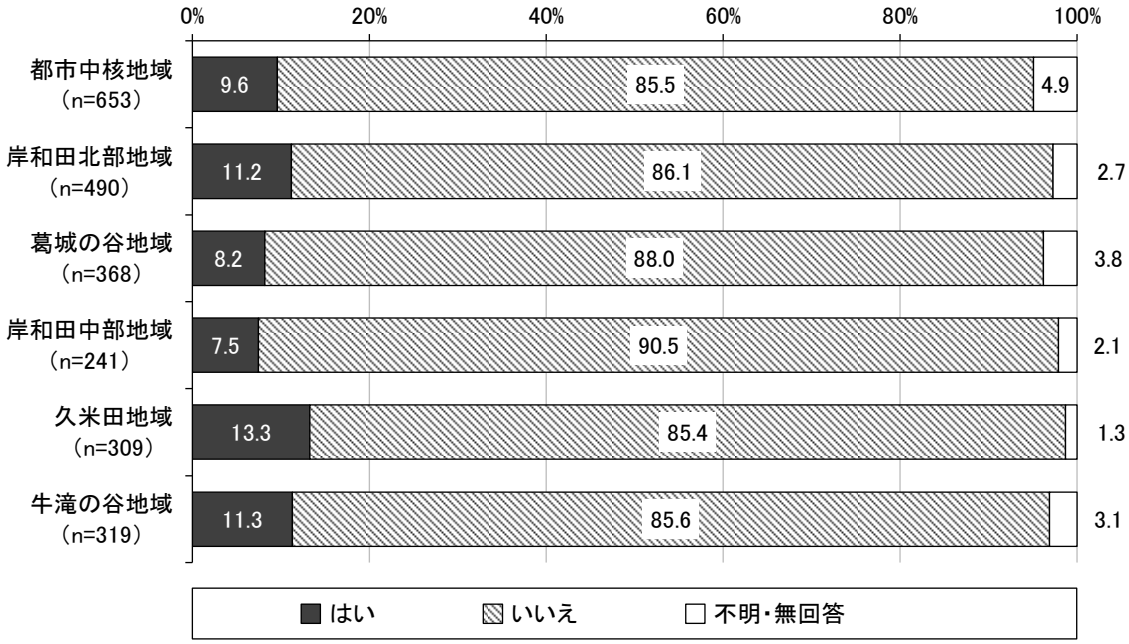
（１）あなた自身、または家族に認知症の症状がある人がいますか。（１つに○）

「いいえ」が 86.4%と、「はい」の 10.1%を上回っています。



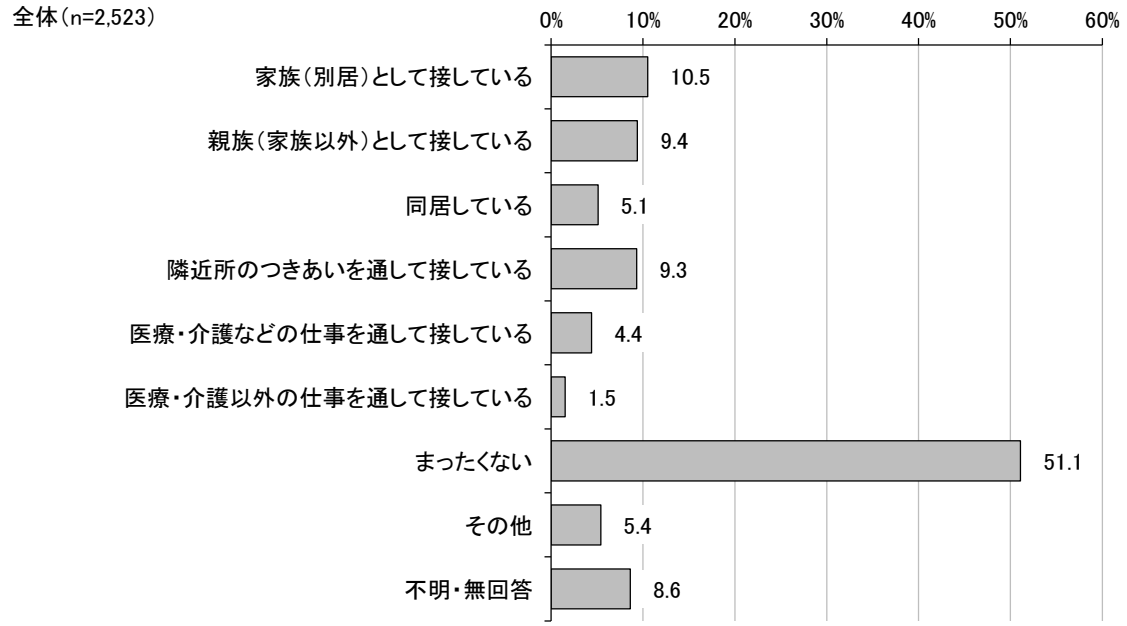
【地域別】〔問９（１）あなた自身、または家族に認知症の症状がある人がいますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「いいえ」が最も高くなっています。



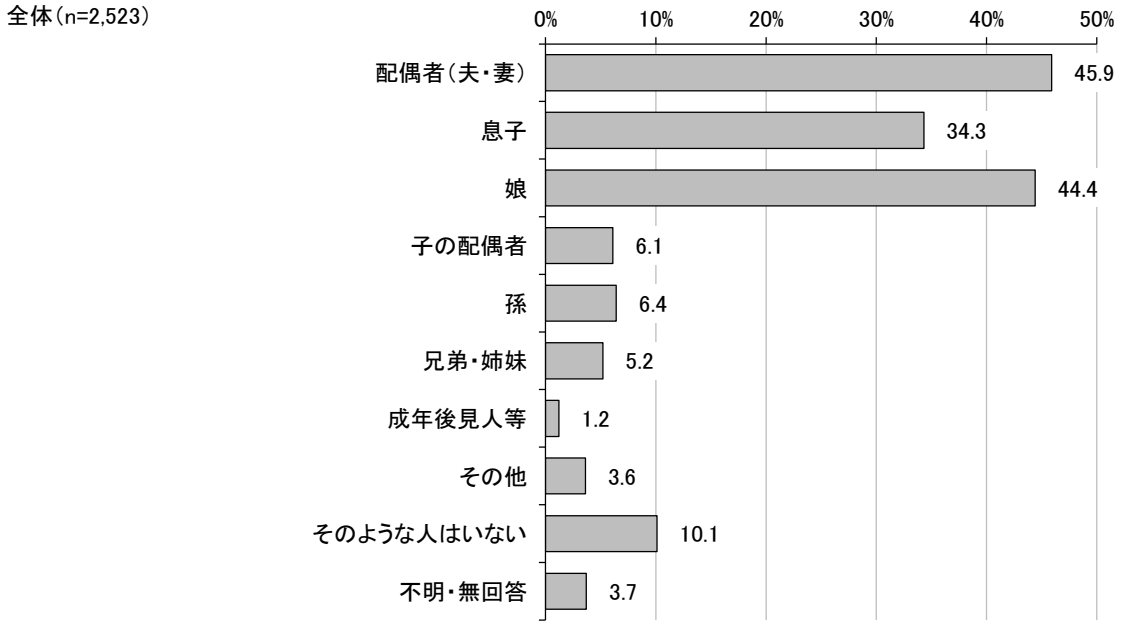
（２）認知症の人に接している、または接したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

「まったくない」が 51.1％と最も高く、次いで「家族（別居）として接している」が 10.5％、「親族（家族以外）として接している」が 9.4％となっています。



（３）将来、認知症等により判断能力が不十分になった場合、支援してもらいたい人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者（夫・妻)」が 45.9％と最も高く、次いで「娘」が 44.4％、「息子」が 34.3％となっています。



【性別】〔問９（３）将来、認知症等により判断能力が不十分になった場合、支援してもらいたい人はどなたですか。〕

性別にみると、男性では「配偶者（夫と妻)」、女性では「娘」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	成年後見人等	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		45.9	34.3	44.4	6.1	6.4	5.2	1.2	3.6	10.1	3.7
性別	男性(n=947)	64.0	32.4	36.6	3.8	5.8	5.0	1.3	1.8	11.5	2.9
	女性(n=1,504)	35.0	35.2	49.6	7.7	6.8	5.5	1.2	4.4	9.2	4.0

【年齢別】〔問９（３）将来、認知症等により判断能力が不十分になった場合、支援してもらいたい人はどなたですか。〕

年齢別にみると、80 歳以上では「娘」、その他の年齢では「配偶者（夫・妻)」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	成年後見人等	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		45.9	34.3	44.4	6.1	6.4	5.2	1.2	3.6	10.1	3.7
年齢別	65～69歳(n=371)	57.1	28.8	37.7	2.7	3.2	8.9	1.3	4.3	11.3	2.2
	70～74歳(n=447)	55.9	30.6	40.3	3.6	3.8	6.3	1.3	4.0	11.2	3.4
	75～79歳(n=714)	48.5	32.1	47.1	5.5	7.3	5.0	1.5	3.5	9.9	3.8
	80～84歳(n=488)	42.4	36.7	45.3	7.4	7.8	3.9	0.8	2.9	10.5	3.9
	85歳以上(n=390)	25.9	43.8	51.3	13.1	9.0	3.3	1.0	2.6	7.9	3.8

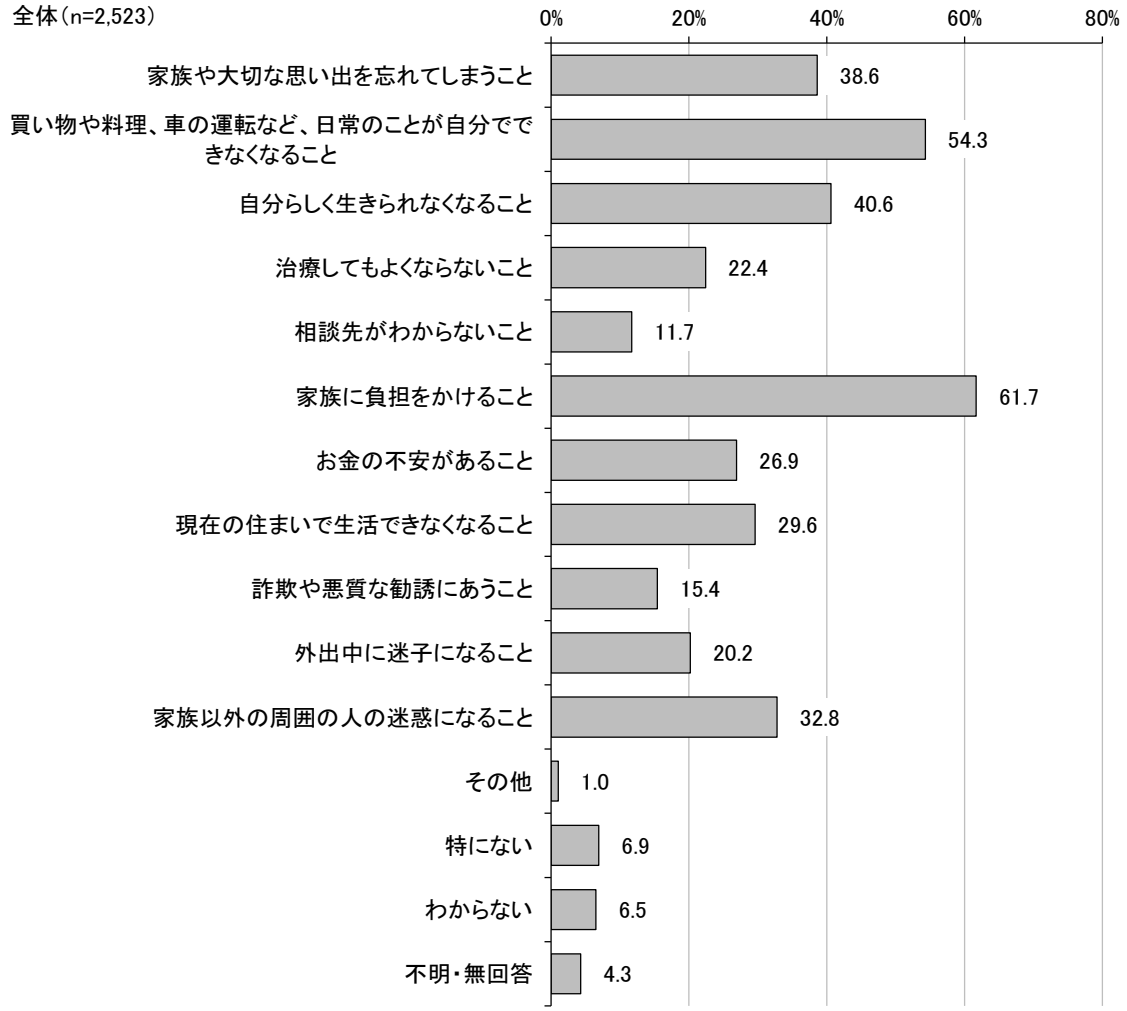
【家族構成別】〔問９（３）将来、認知症等により判断能力が不十分になった場合、支援してもらいたい人はどなたですか。〕

家族構成別にみると、夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)、夫婦２人暮らし(配偶者 64 歳以下)では「配偶者（夫と妻)」、その他の家族構成では「娘」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	成年後見人等	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		45.9	34.3	44.4	6.1	6.4	5.2	1.2	3.6	10.1	3.7
年齢別	１人暮らし(n=603)	0.3	29.7	39.8	6.0	5.5	10.0	1.5	5.0	24.4	5.3
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=973)	78.0	31.4	41.1	5.7	5.3	2.2	0.8	2.9	3.9	3.5
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=78)	79.5	25.6	44.9	2.6	10.3	1.3	1.3	1.3	6.4	1.3
	息子・娘との2世帯(n=372)	36.0	45.4	59.4	10.8	9.4	4.6	0.5	1.9	3.8	2.2
	その他(n=424)	42.0	38.2	47.2	4.2	6.4	7.1	2.4	4.2	9.7	3.1

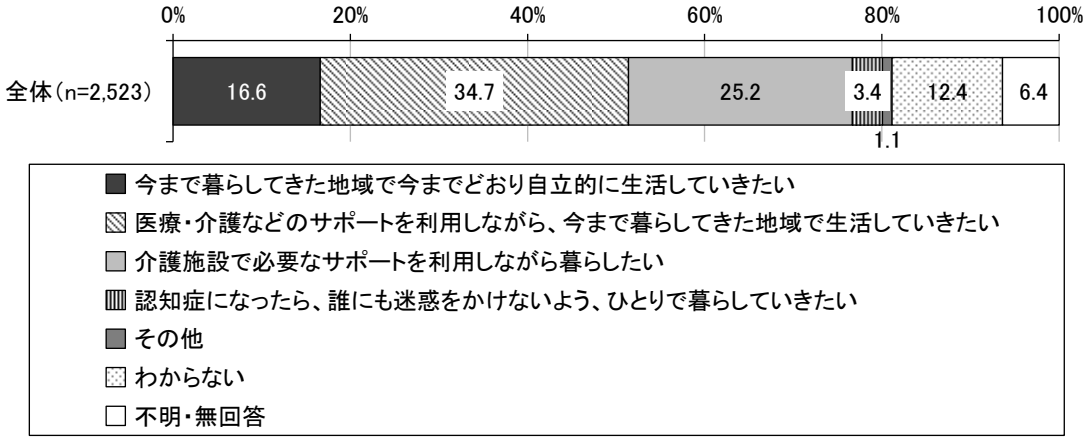
（４）認知症に対して不安に感じることについて、あてはまるものを教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

「家族に負担をかけること」が 61.7%と最も高く、次いで「買い物や料理、車の運転など、日常のことが自分でできなくなること」が 54.3%、「自分らしく生きられなくなること」が 40.6%となっています。



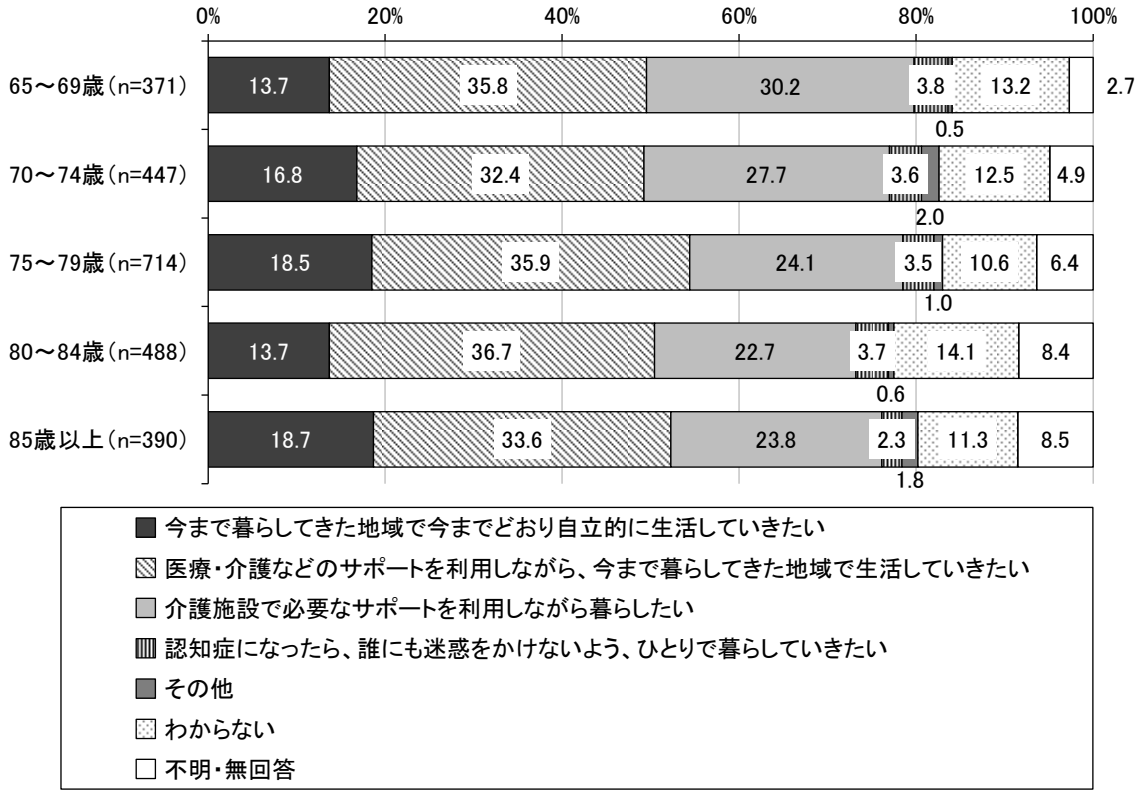
（５）あなたが認知症になったとしたら、どのように暮らしたいと思いますか。（１つに○）

「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が 34.7％と最も高く、次いで「介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」が 25.2％、「今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活していきたい」が 16.6％となっています。



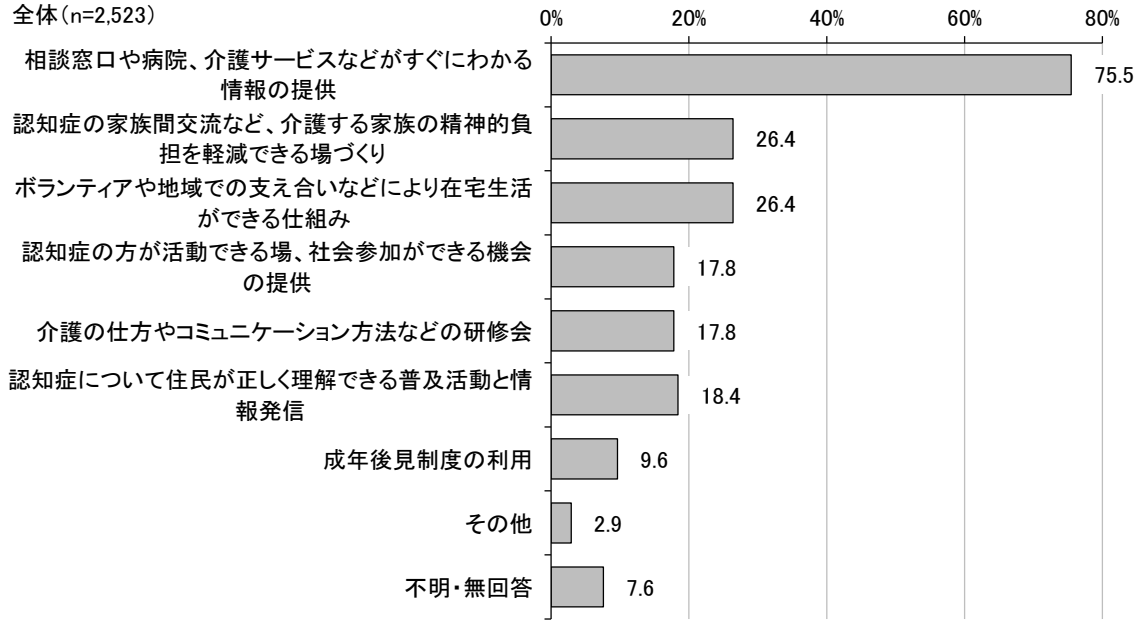
【年齢別】〔問９（５）あなたが認知症になったとしたら、どのように暮らしたいと思いますか。〕

年齢別にみると、すべての年齢で「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が最も高くなっています。



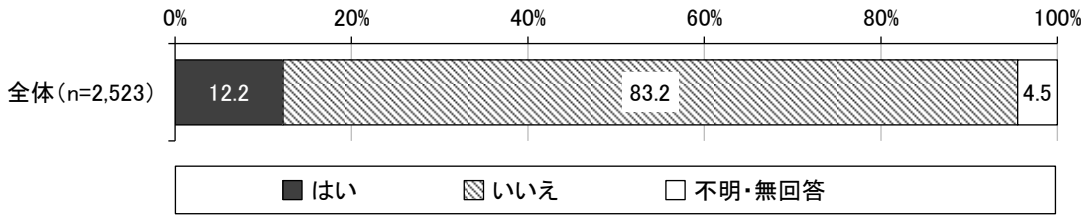
（６）自分自身や家族が認知症になってしまったとき、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「相談窓口や病院、介護サービスなどがすぐにわかる情報の提供」が 75.5%と最も高く、次いで「認知症の家族間交流など、介護する家族の精神的負担を軽減できる場づくり」、「ボランティアや地域での支え合いなどにより在宅生活ができる仕組み」が 26.4%となっています。



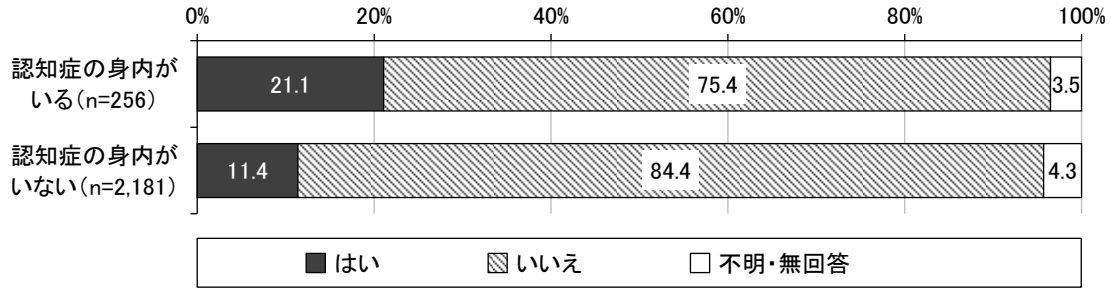
（７）認知症に関する相談窓口を知っていますか。（１つに○）

「いいえ」が 83.2%と、「はい」の 12.2%を上回っています。



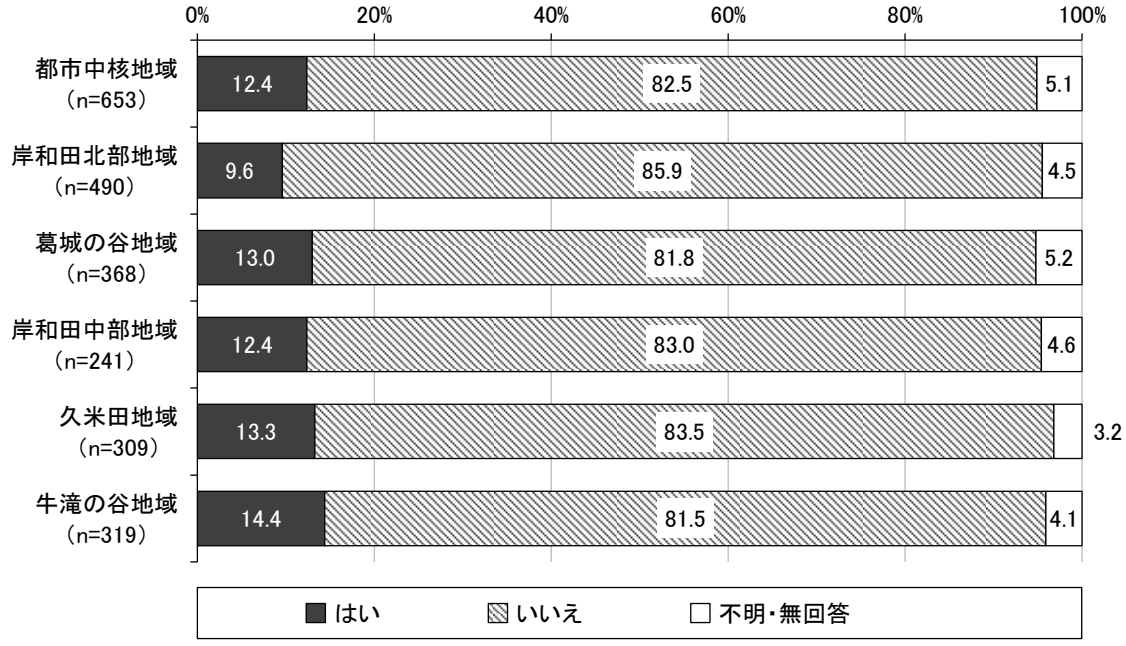
【認知症の身内の有無別】〔問９（７）認知症に関する相談窓口を知っていますか。〕

認知症の身内の有無別にみると、認知症の身内の有無に関わらず「いいえ」が高くなっています。



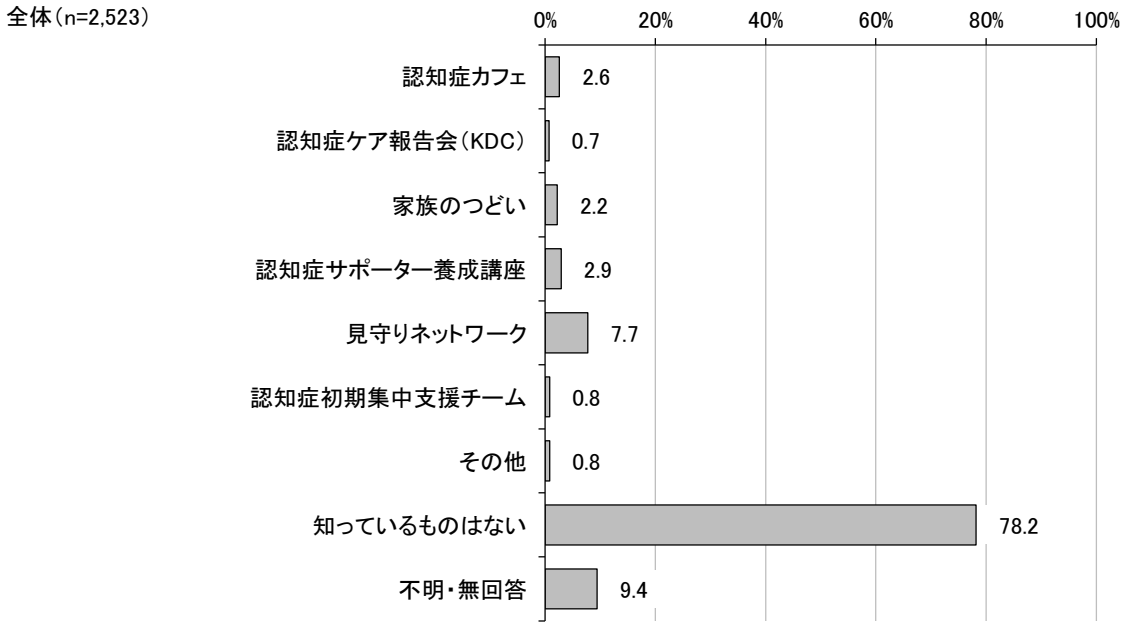
【地域別】〔問９（７）認知症に関する相談窓口を知っていますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「いいえ」が最も高くなっています。



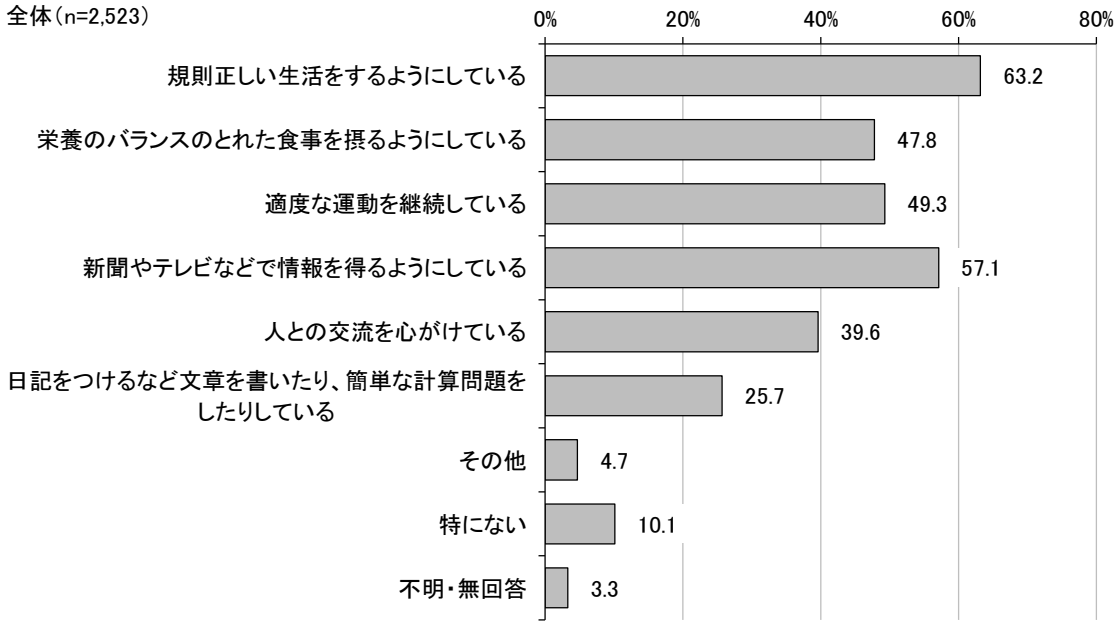
（８）岸和田市の認知症施策で知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「知っているものはない」が 78.2%と最も高く、次いで「見守りネットワーク」が 7.7%、「認知症サポーター養成講座」が 2.9%となっています。



（９）あなたが認知症予防のために日頃から心がけていることはどんなことですか。（あてはまるものすべてに○）

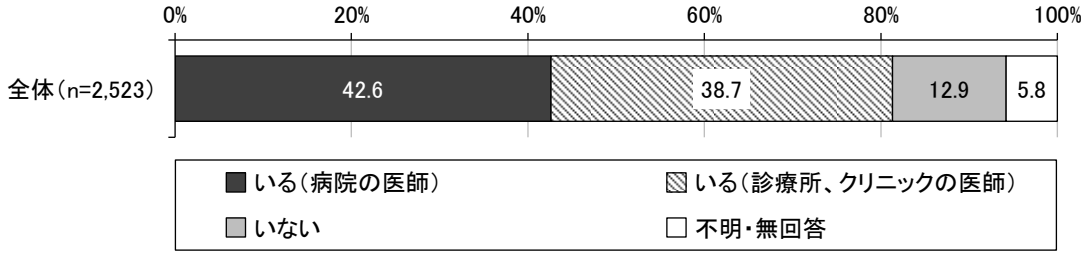
「規則正しい生活をするようにしている」が 63.2%と最も高く、次いで「新聞やテレビなどで情報を得るようにしている」が 57.1%、「適度な運動を継続している」が 49.3%となっています。



問 10　在宅医療について

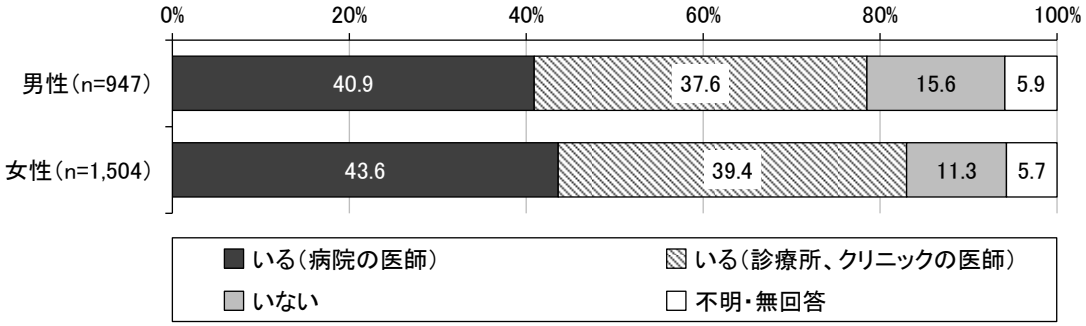
（１）かかりつけ医はいますか。（１つに○）

「いる（病院の医師）」が 42.6％と最も高く、次いで「いる（診療所、クリニックの医師）」が 38.7％、「いない」が 12.9％となっています。



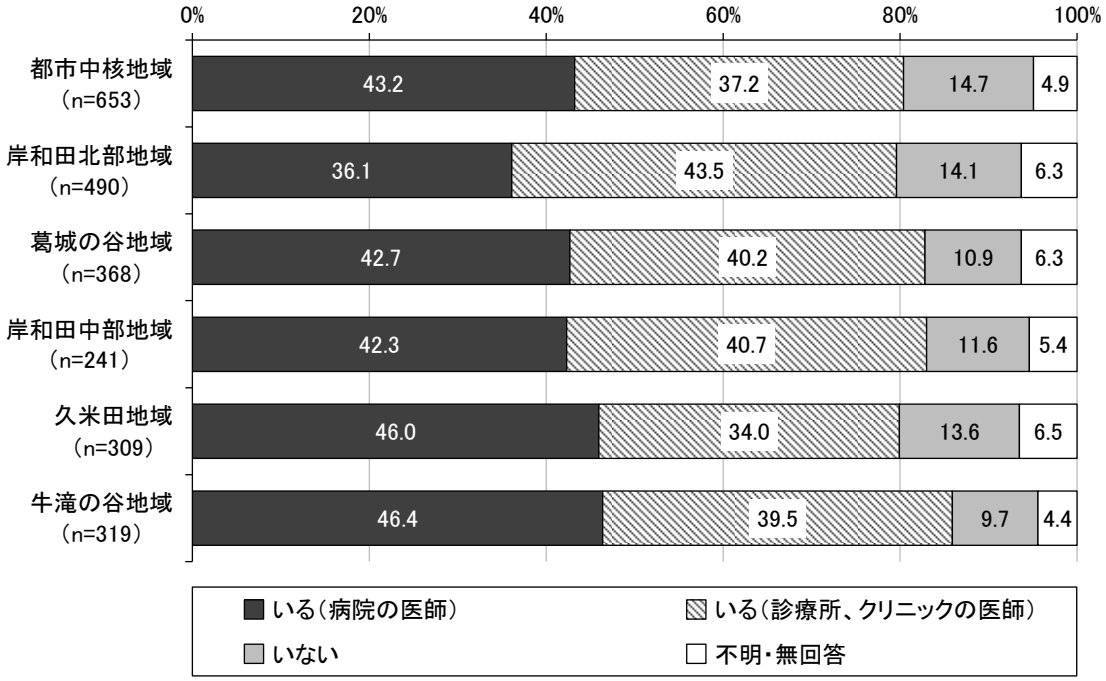
【性別】〔問 10（１）かかりつけ医はいますか。〕

性別にみると、男女ともに「いる（病院の医師）」が最も高くなっています。



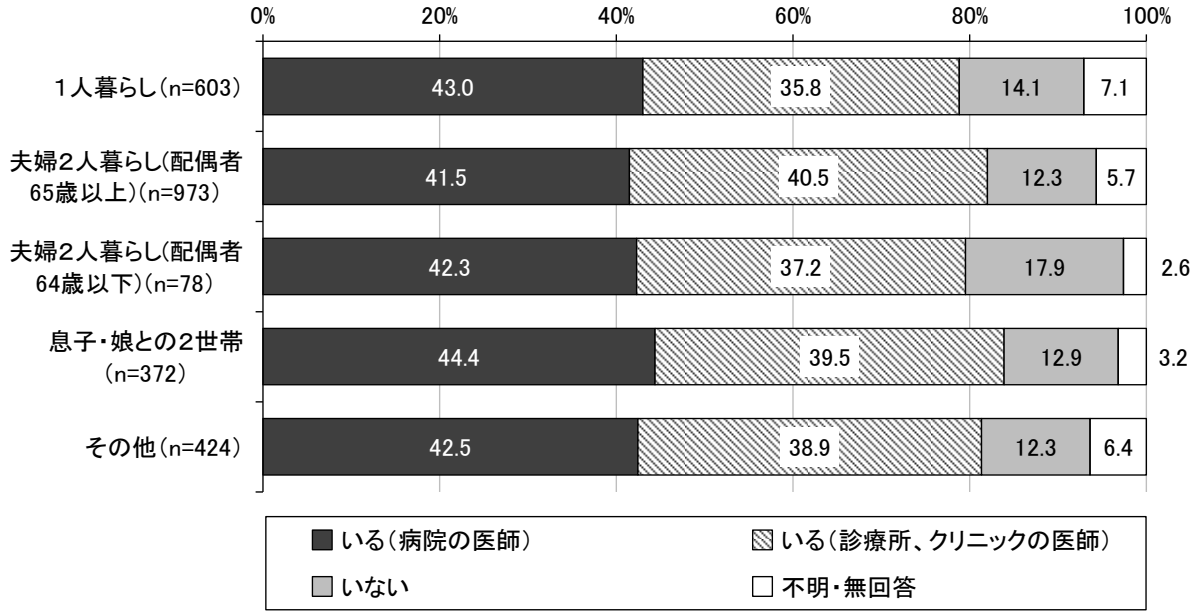
【地域別】〔問 10（１）かかりつけ医はいますか。〕

地域別にみると、岸和田北部地域では「いる（診療所、クリニックの医師)」、その他の地域では「いる（病院の医師)」がそれぞれ最も高くなっています。



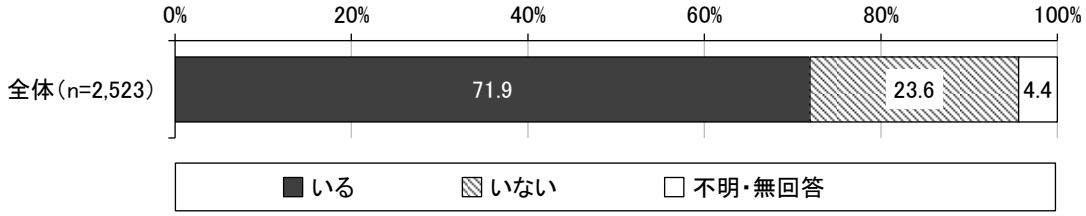
【家族構成別】〔問 10（１）かかりつけ医はいますか。〕

家族構成別にみると、すべての家族構成で「いる（病院の医師)」が最も高くなっています。



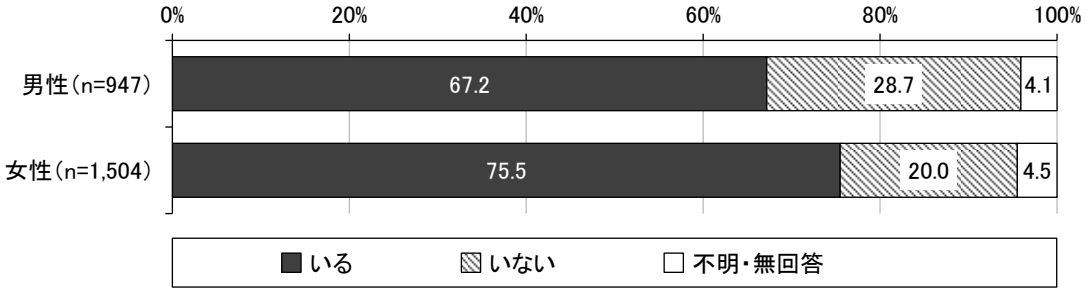
（２）かかりつけ歯科医はいますか。（１つに○）

「いる」が 71.9％と、「いない」の 23.6％を上回っています。



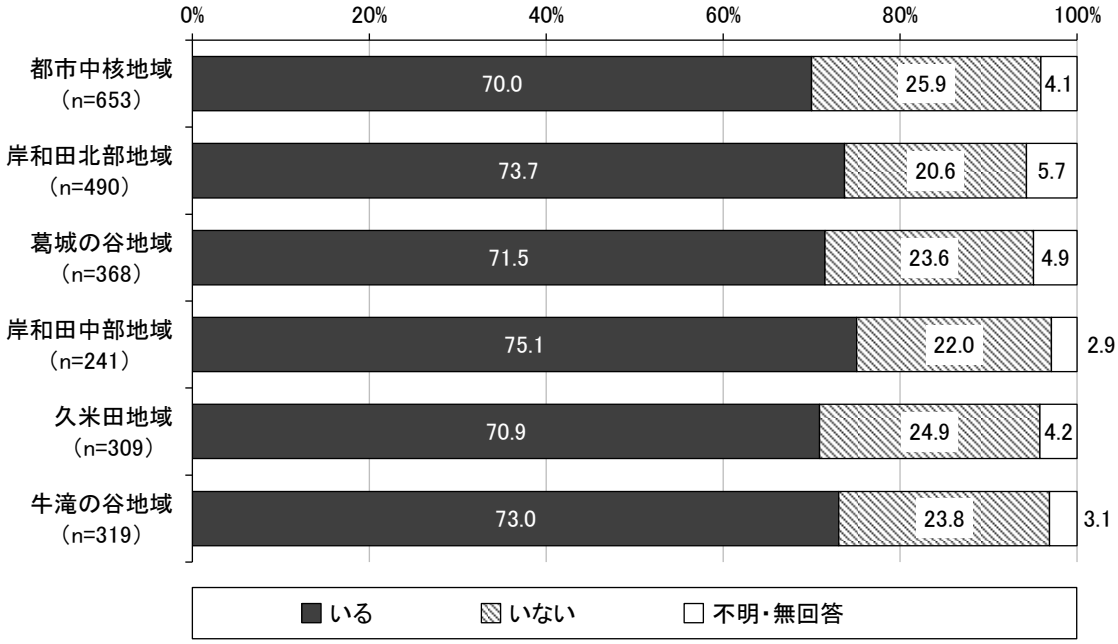
【性別】〔問 10（２）かかりつけ歯科医はいますか。〕

性別にみると、男女ともに「いる」が最も高くなっていますが、女性が 75.5％と男性を 8.3 ポイント上回っています。



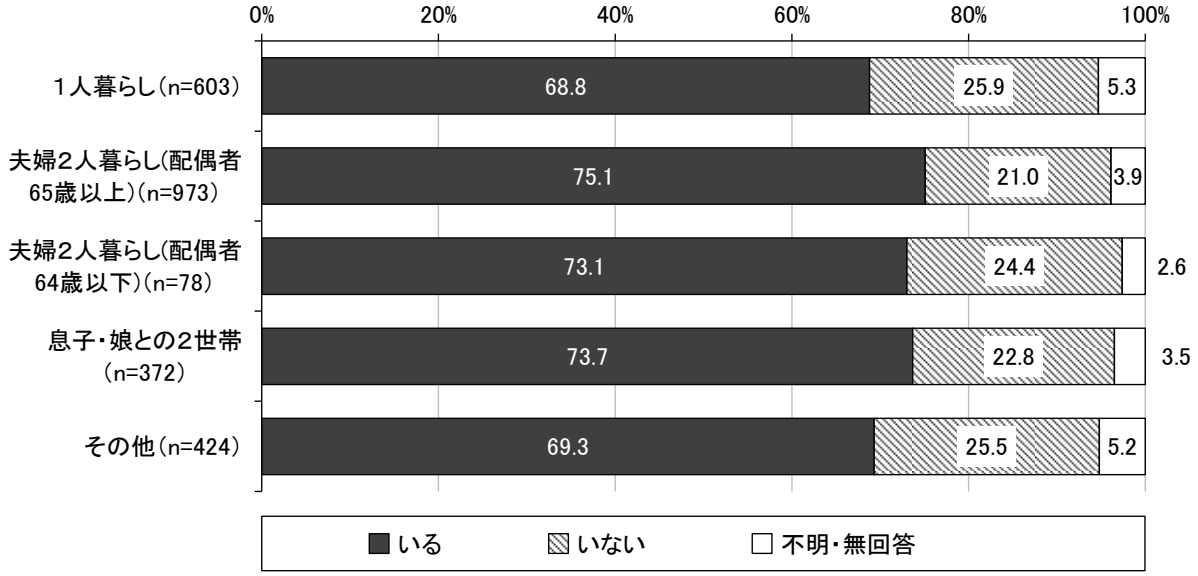
【地域別】〔問 10（２）かかりつけ歯科医はいますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「いる」が最も高くなっています。



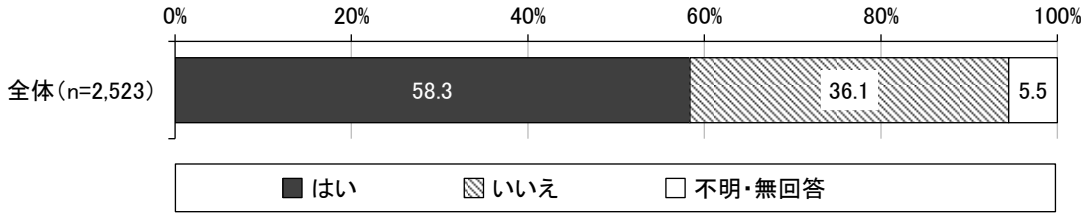
【家族構成別】〔問 10（２）かかりつけ歯科医はいますか。〕

家族構成別にみると、すべての家族構成で「いる」が最も高くなっています。



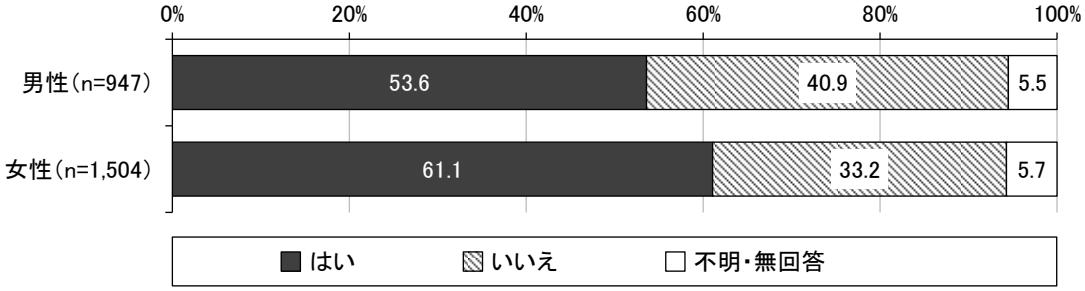
（３）かかりつけの薬局はありますか。（１つに○）

「はい」が 58.3%と、「いいえ」の 36.1%を上回っています。



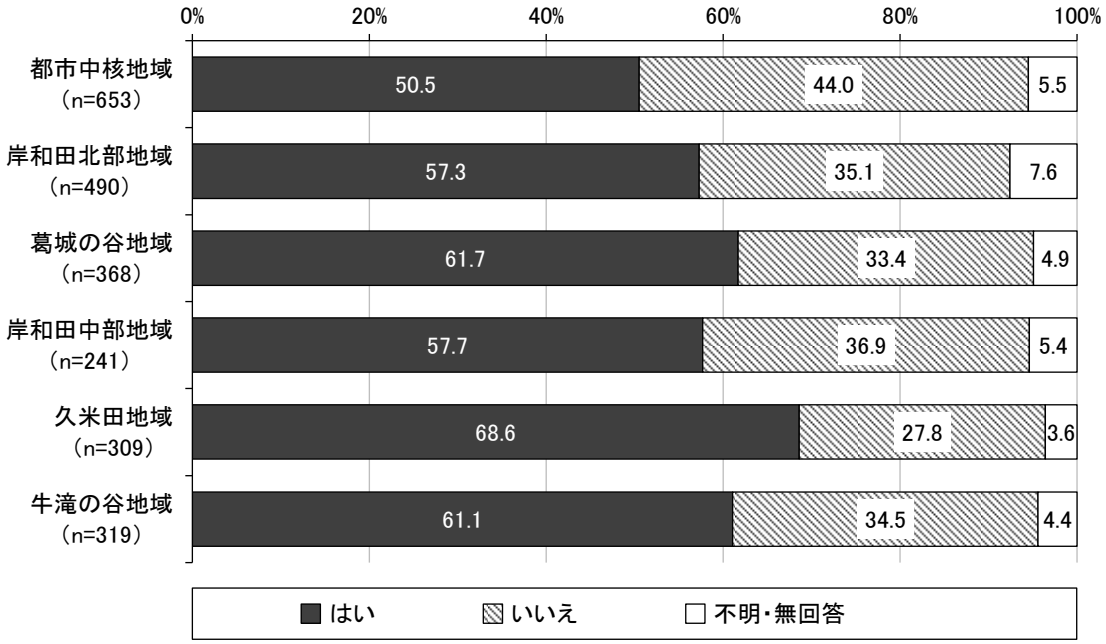
【性別】〔問 10（３）かかりつけの薬局はありますか。〕

性別にみると、男女ともに「はい」が最も高くなっていますが、女性が 61.1%と男性を 7.5 ポイント上回っています。



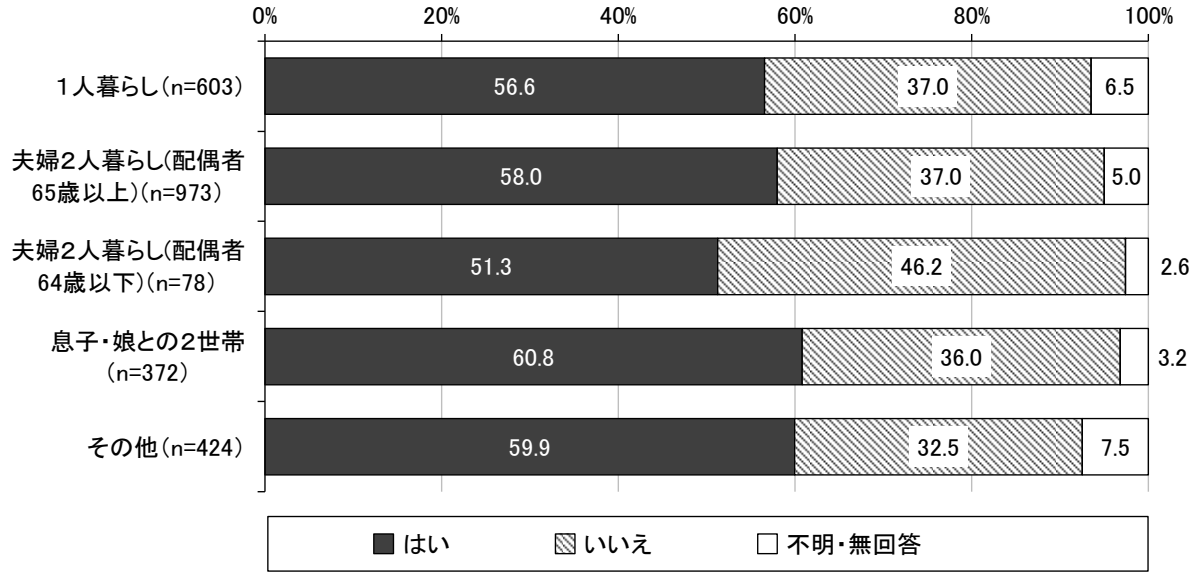
【地域別】〔問 10（３）かかりつけの薬局はありますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「はい」が最も高くなっています。



【家族構成別】〔問 10（３）かかりつけの薬局はありますか。〕

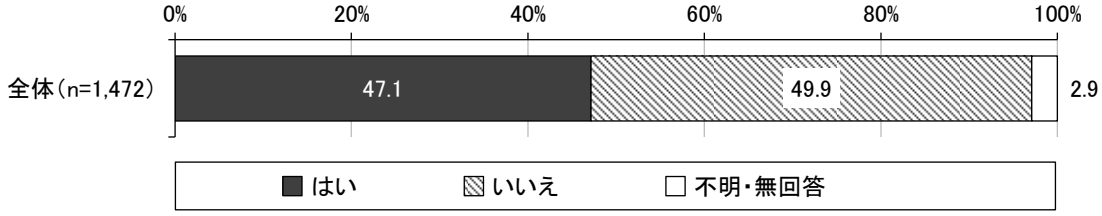
家族構成別にみると、すべての家族構成で「はい」が最も高くなっています。



（３）で「はい」（かかりつけ薬局がある）と回答した方にお伺いします。

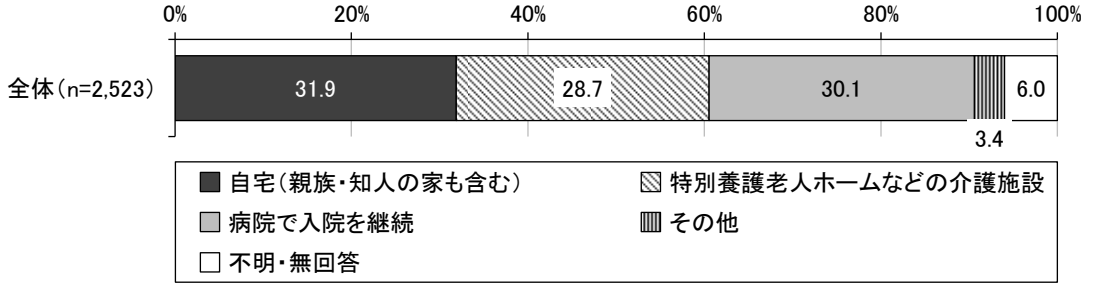
（３）－１　かかりつけの薬剤師はいますか。（１つに○）

「いいえ」が 49.9%と、「はい」の 47.1%を上回っています。



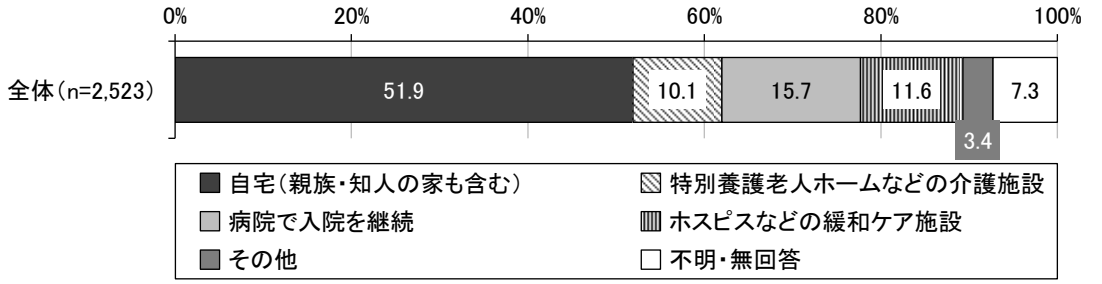
（４）あなたが脳卒中の後遺症などで症状の改善がすぐに見込めない状態で医療や介護が必要になったとき、主にどこで過ごしたいですか。（１つに○）

「自宅（親族・知人の家も含む）」が 31.9%と最も高く、次いで「病院で入院を継続」が 30.1%、「特別養護老人ホームなどの介護施設」が 28.7%となっています。



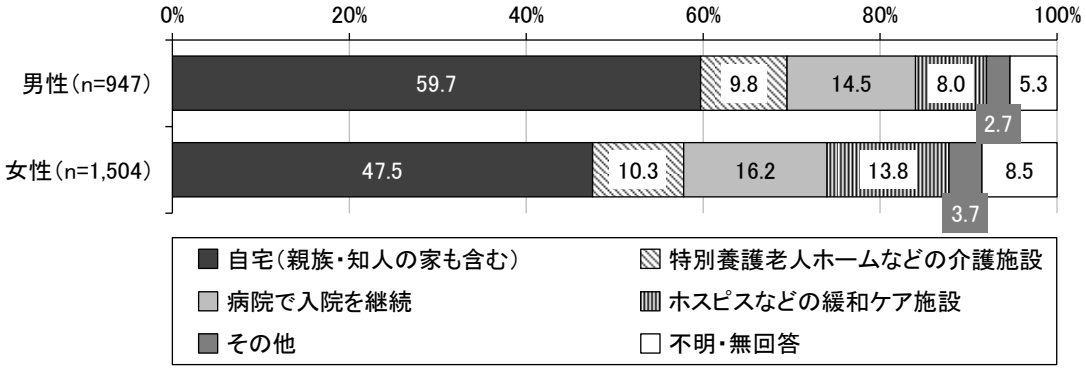
（５）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。（１つに○）

「自宅（親族・知人の家も含む）」が 51.9%と最も高く、次いで「病院で入院を継続」が 15.7%、「ホスピスなどの緩和ケア施設」が 11.6%となっています。



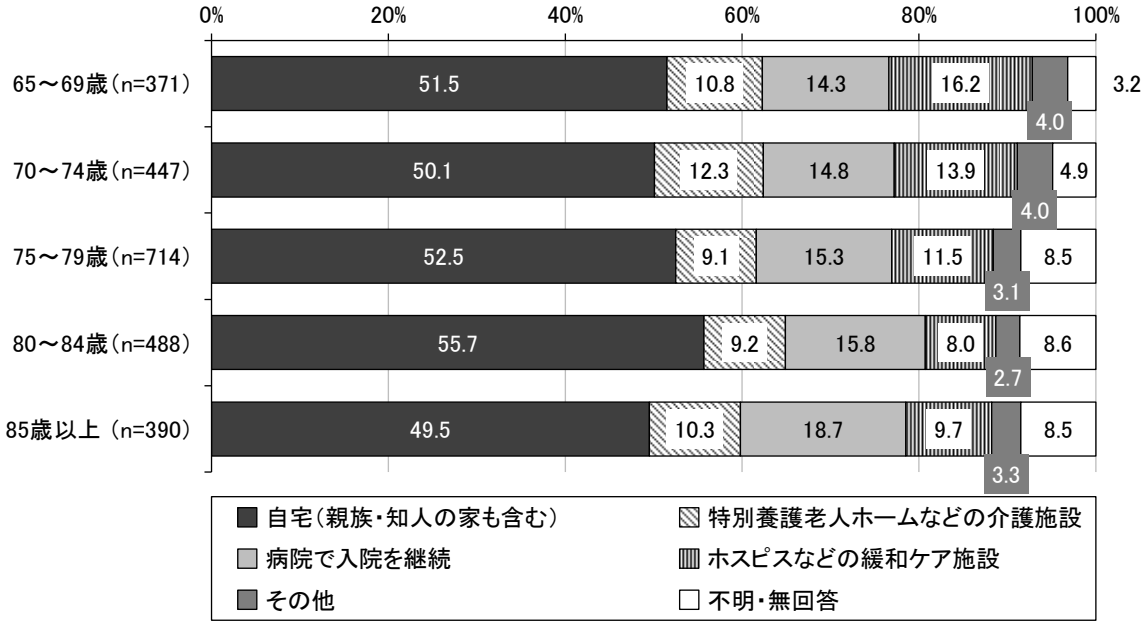
【性別】〔問 10（５）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。〕

性別にみると、男女ともに「自宅（親族・知人の家も含む）」が最も高くなっていますが、男性が 59.7％と女性を 12.2 ポイント上回っています。



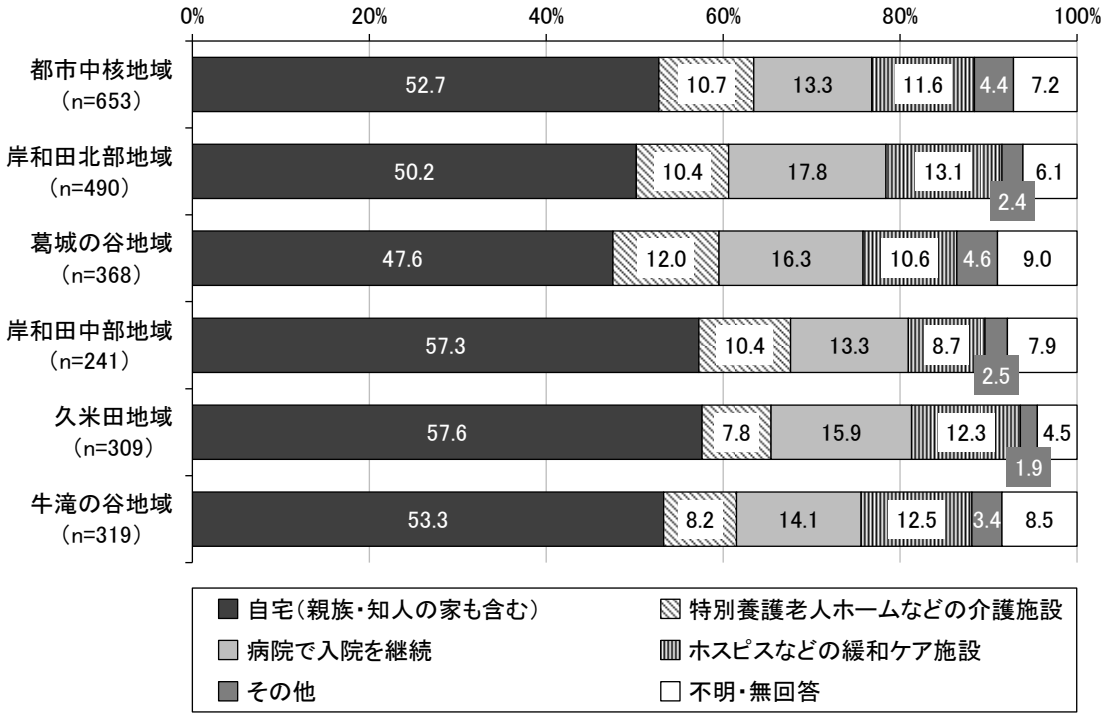
【年齢別】〔問 10（５）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。〕

年齢別にみると、すべての年齢で「自宅（親族・知人の家も含む）」が最も高くなっています。



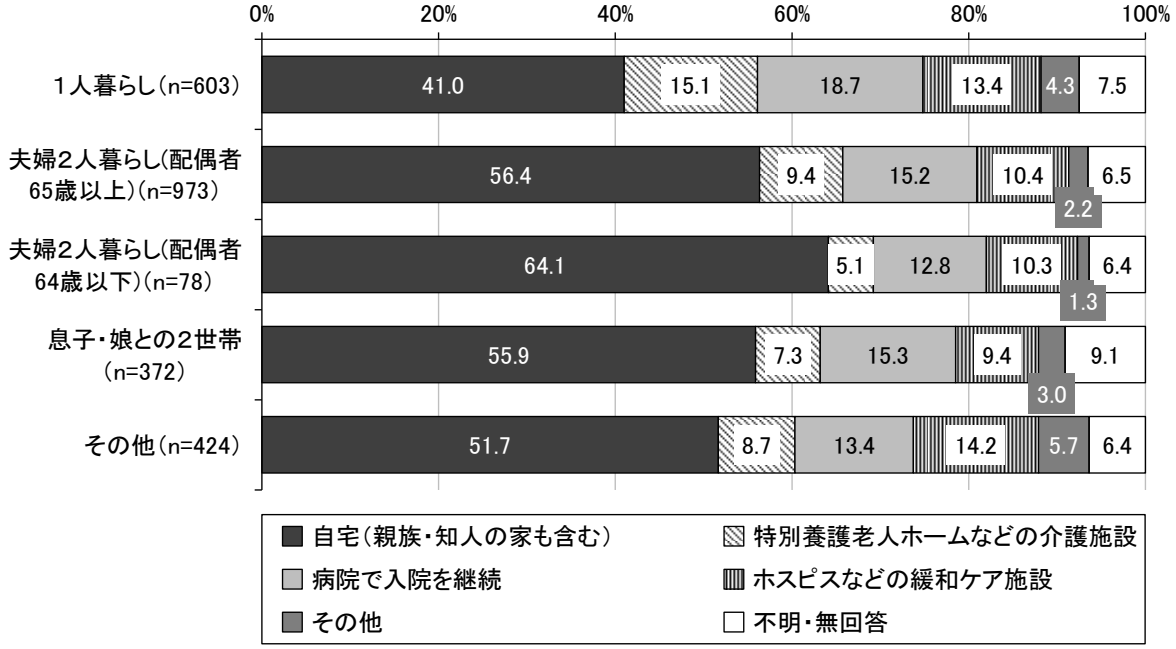
【地域別】〔問 10（５）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。〕

地域別にみると、すべての地域で「自宅（親族・知人の家も含む)」が最も高くなっています。



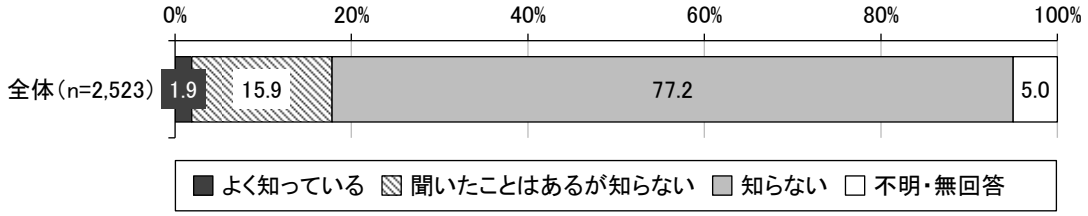
【家族構成別】〔問 10（５）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。〕

家族構成別にみると、すべての家族構成で「自宅（親族・知人の家も含む)」が最も高くなっています。



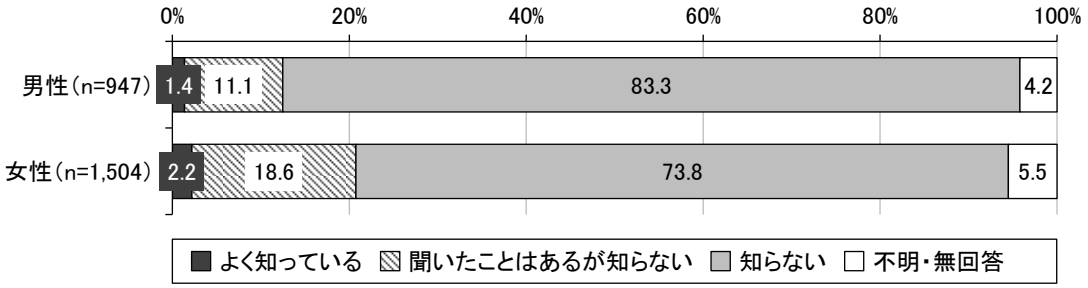
（６）あなたは人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について知っていますか。（１つに○）

「知らない」が 77.2%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが知らない」が 15.9%、「よく知っている」が 1.9%となっています。



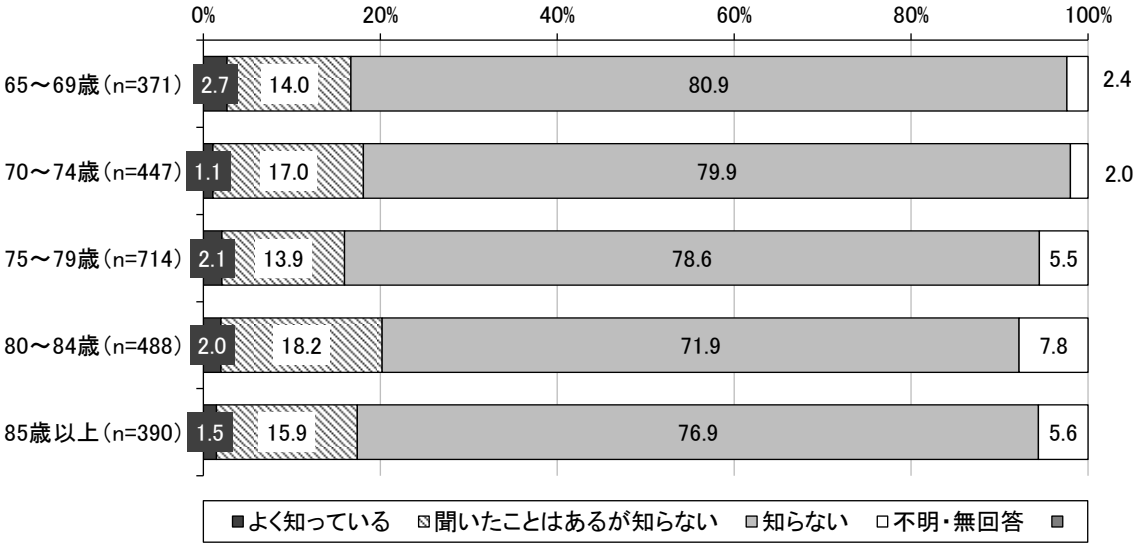
【性別】〔問 10（６）あなたは人生会議について知っていますか。〕

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっていますが、男性が 83.3%と女性を 9.5 ポイント上回っています。



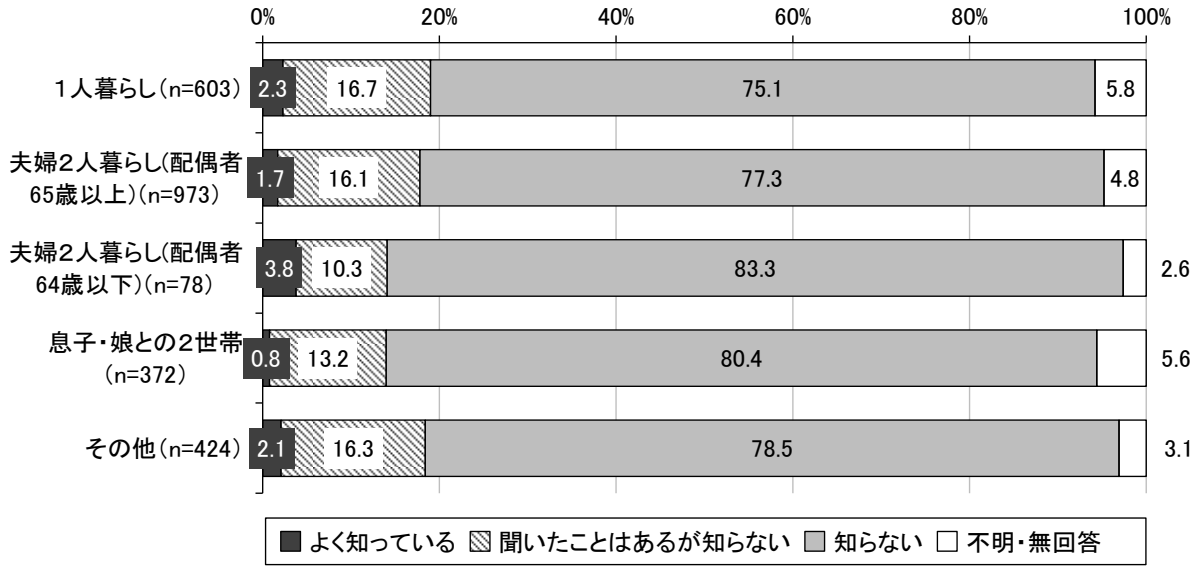
【年齢別】〔問 10（６）あなたは人生会議について知っていますか。〕

年齢別にみると、すべての年齢で「知らない」が最も高くなっています。



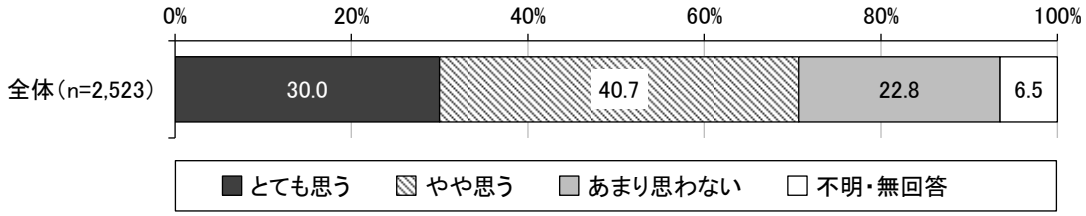
【家族構成別】〔問 10（６）あなたは人生会議について知っていますか。〕

家族構成別にみると、すべての家族構成で「知らない」が最も高くなっています。



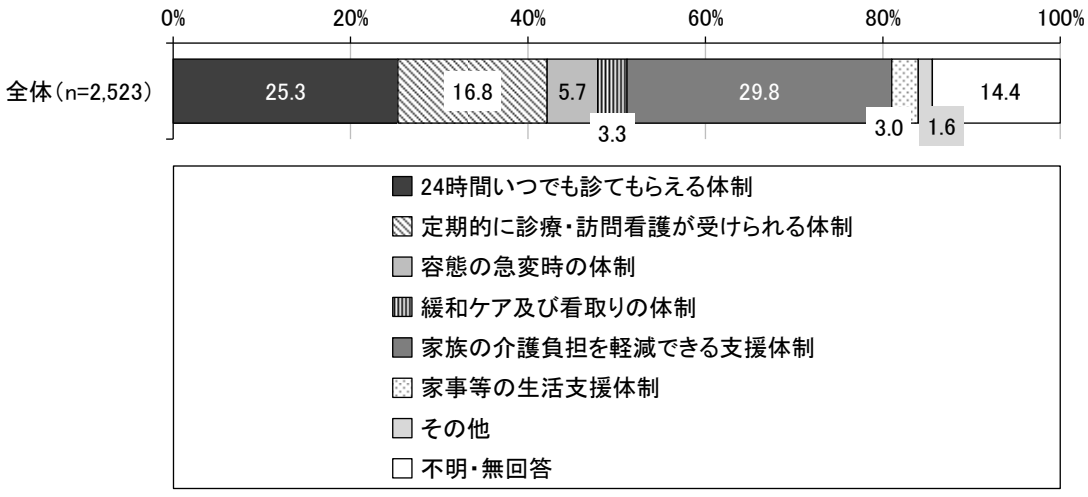
（７）老衰や後遺症などで通院が困難になった場合も病院に入院せず、自宅療養を継続できる体制を社会全体で進めていくべきだと思いますか。（１つに○）

「やや思う」が 40.7%と最も高く、次いで「とても思う」が 30.0%、「あまり思わない」が 22.8%となっています。



（８）在宅医療・介護を充実するにあたり、どのような在宅医療・介護体制の整備が最も重要だと思いますか。（１つに○）

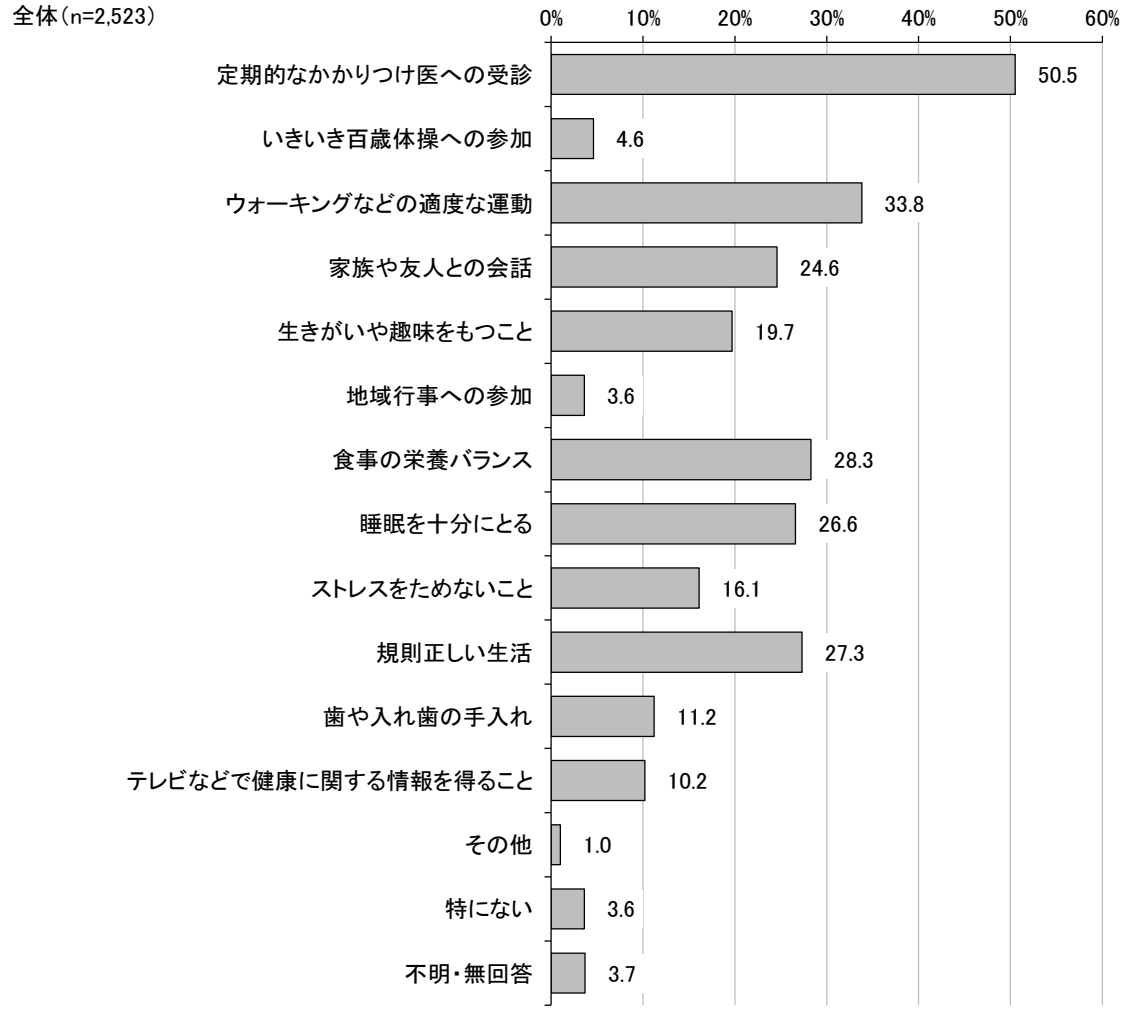
「家族の介護負担を軽減できる支援体制」が 29.8%と最も高く、次いで「24 時間いつでも診てもらえる体制」が 25.3%、「定期的に診療・訪問看護が受けられる体制」が 16.8%となっています。



問 11　高齢者福祉全般について

（１）あなたは、健康を維持するためにしていることや、心がけていることがありますか。（３つまで○）

「定期的なかかりつけ医への受診」が 50.5%と最も高く、次いで「ウォーキングなどの適度な運動」が 33.8%、「食事の栄養バランス」が 28.3%となっています。



【年齢別】〔問 11（１）あなたは、健康を維持するためにしていることや、心がけていることがありますか。〕

年齢別にみると、すべての年齢で「定期的なかかりつけ医への受診」が最も高くなっていますが、65～69 歳では他の年齢と比べて低くなっています。

単位：%		定期的なかかりつけ医への受診	いきいき百歳体操への参加	ウォーキングなどの適度な運動	家族や友人との会話	生きがいや趣味をもつこと	地域行事への参加	食事の栄養バランス	睡眠を十分にとる	ストレスをためないこと	規則正しい生活	歯や入れ歯の手入れ	テレビなどで健康に関する情報を得ること	その他	特にない	不明・無回答
全体（n=2,523）		50.5	4.6	33.8	24.6	19.7	3.6	28.3	26.6	16.1	27.3	11.2	10.2	1.0	3.6	3.7
年齢別	65～69歳（n=371）	39.4	1.1	35.3	26.7	23.5	4.3	29.6	30.2	21.0	26.4	10.0	7.8	1.1	5.9	1.6
	70～74歳（n=447）	50.1	1.1	38.5	25.7	26.6	3.8	26.6	24.8	19.0	27.5	9.6	6.0	0.7	3.6	2.0
	75～79歳（n=714）	51.3	3.4	35.0	26.6	18.6	3.2	29.0	27.3	16.4	27.0	10.4	10.1	1.1	3.2	4.1
	80～84歳（n=488）	55.1	7.2	34.2	23.2	16.6	4.5	26.0	22.1	11.7	27.7	13.7	13.9	1.2	2.3	5.5
	85歳以上（n=390）	56.9	11.0	23.1	20.5	15.9	2.6	33.1	29.0	13.3	27.7	12.8	13.1	0.8	3.6	3.6

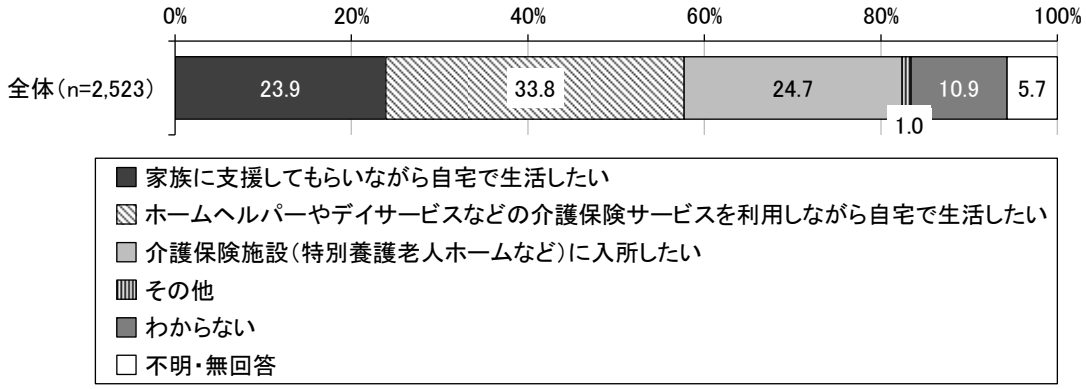
【地域別】〔問 11（１）あなたは、健康を維持するためにしていることや、心がけていることがありますか。〕

地域別にみると、「テレビなどで健康に関する情報を得ること」、「特にない」は岸和田北部地域、「地域行事への参加」、「歯や入れ歯の手入れ」は葛城の谷地域、「ウォーキングなどの適度な運動」、「生きがいや趣味をもつこと」、「規則正しい生活」、「その他」は岸和田中部地域、「睡眠を十分にとる」、「ストレスをためないこと」は久米田地域、「定期的なかかりつけ医への受診」、「いきいき百歳体操への参加」、「家族や友人との会話」は牛滝の谷地域、「食事の栄養バランス」は岸和田中部地域と久米田地域で高くなっています。

単位：%		定期的なかかりつけ医への受診	いきいき百歳体操への参加	ウォーキングなどの適度な運動	家族や友人との会話	生きがいや趣味をもつこと	地域行事への参加	食事の栄養バランス	睡眠を十分にとる	ストレスをためないこと	規則正しい生活	歯や入れ歯の手入れ	テレビなどで健康に関する情報を得ること	その他	特にない	不明・無回答
全体（n=2,523）		50.5	4.6	33.8	24.6	19.7	3.6	28.3	26.6	16.1	27.3	11.2	10.2	1.0	3.6	3.7
地域別	都市中核地域（n=653）	50.4	4.4	34.5	23.0	20.1	4.4	27.0	24.5	16.5	27.7	10.4	10.1	1.1	3.8	3.7
	岸和田北部地域（n=490）	52.0	4.3	34.3	23.9	19.8	1.4	25.1	27.8	15.3	24.9	12.2	11.2	0.8	4.9	3.7
	葛城の谷地域（n=368）	51.1	4.3	34.2	26.6	16.0	4.9	29.3	25.0	14.1	28.3	13.3	9.0	1.6	3.3	4.1
	岸和田中部地域（n=241）	49.8	5.4	36.1	27.4	24.1	4.1	34.0	26.1	17.4	29.9	9.5	7.9	1.7	2.1	2.5
	久米田地域（n=309）	48.9	5.5	35.0	23.3	19.1	2.6	34.0	28.8	18.1	27.5	12.9	10.7	1.0	2.6	2.3
	牛滝の谷地域（n=319）	52.7	5.6	27.9	27.9	22.3	4.4	27.3	27.0	13.5	28.2	8.2	9.7	0.3	3.4	4.7

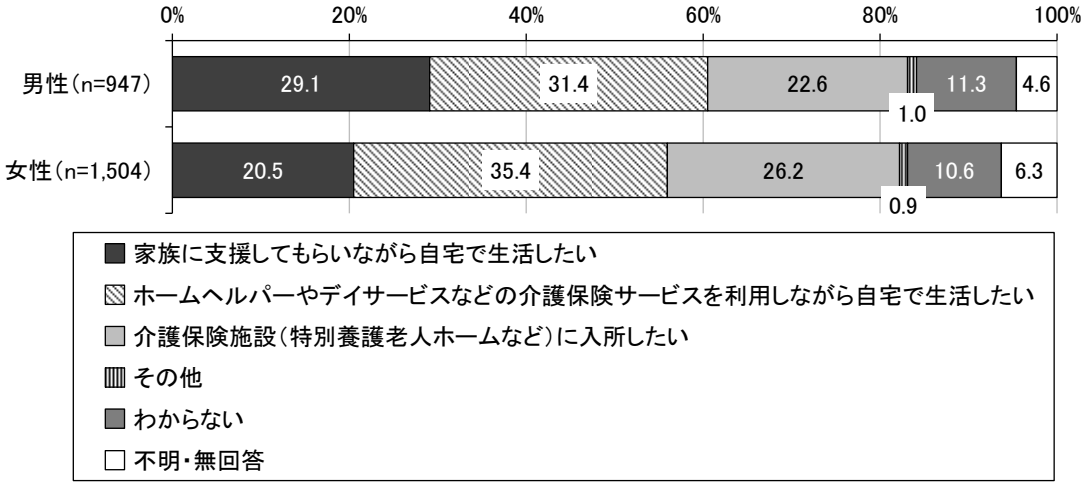
（２）あなたに介護が必要になった場合、どこで暮らしたいですか。（１つに○）

「ホームヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスを利用しながら自宅で生活したい」が33.8%と最も高く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が 24.7%、「家族に支援してもらいながら自宅で生活したい」が 23.9%となっています。



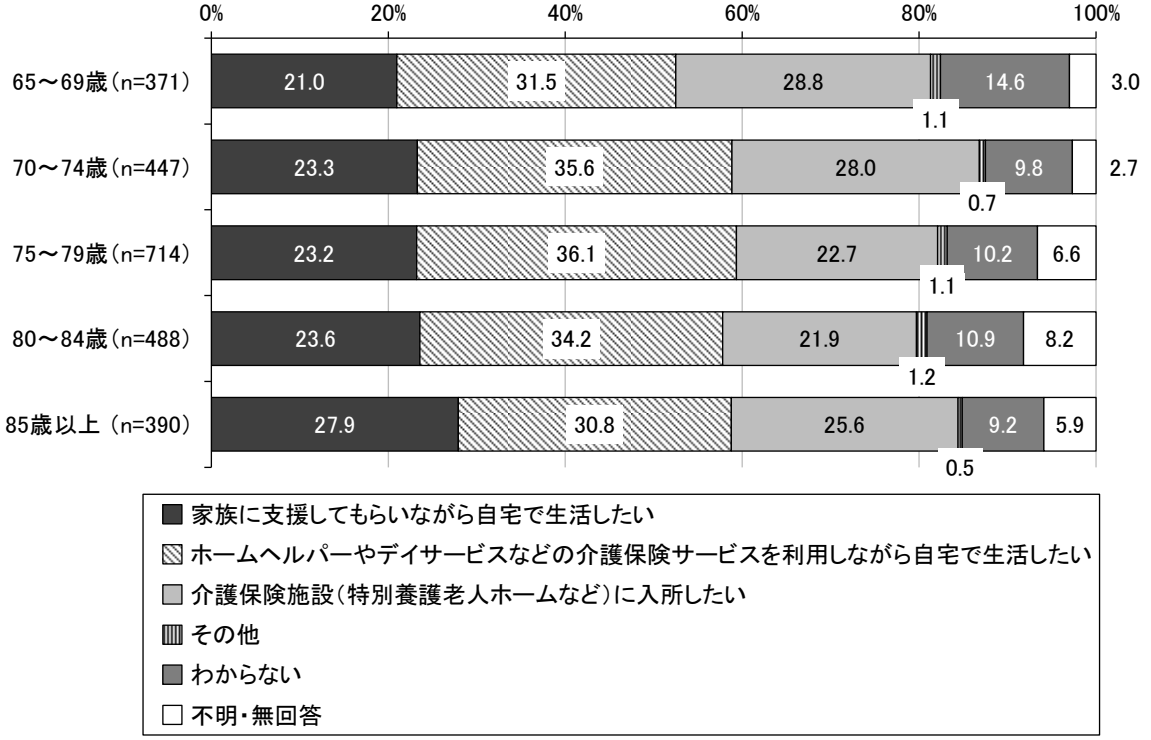
【性別】〔問 11（２）あなたに介護が必要になった場合、どこで暮らしたいですか。〕

性別にみると、男女ともに「ホームヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスを利用しながら自宅で生活したい」が最も高くなっています。



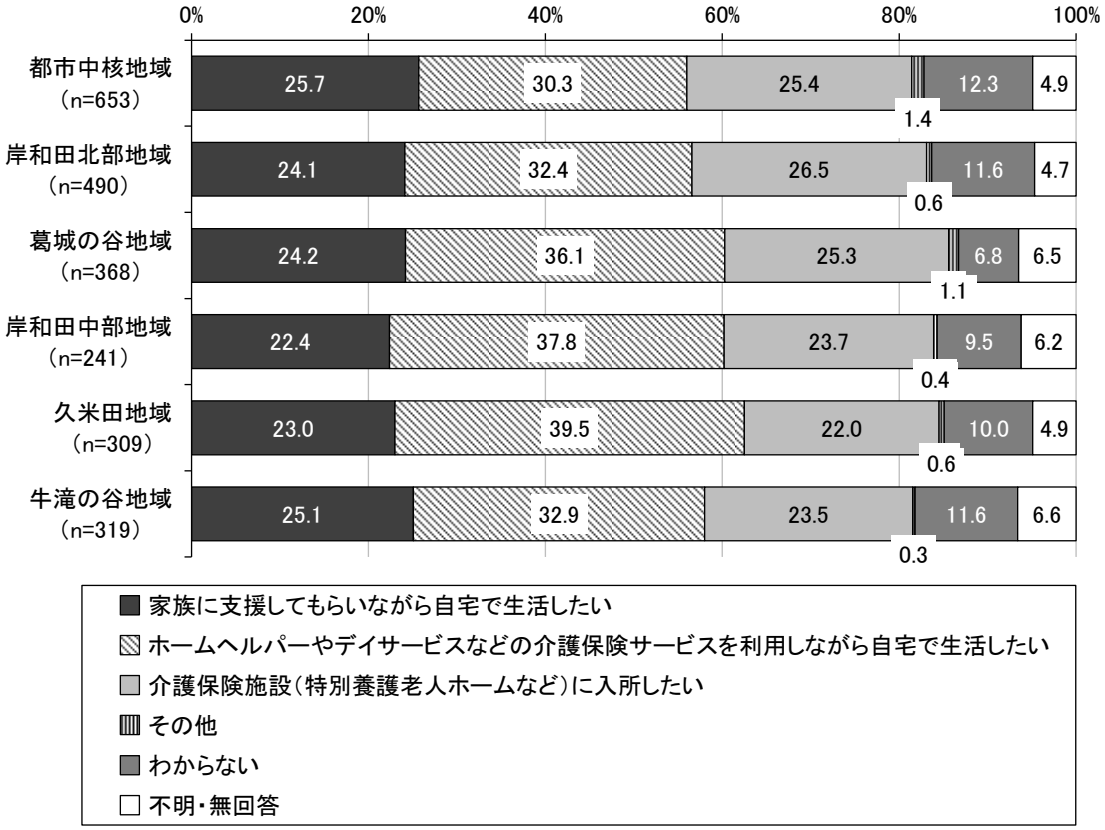
【年齢別】〔問 11（２）あなたに介護が必要になった場合、どこで暮らしたいですか。〕

年齢別にみると、すべての年齢で「ホームヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスを利用しながら自宅で生活したい」がそれぞれ最も高くなっています。



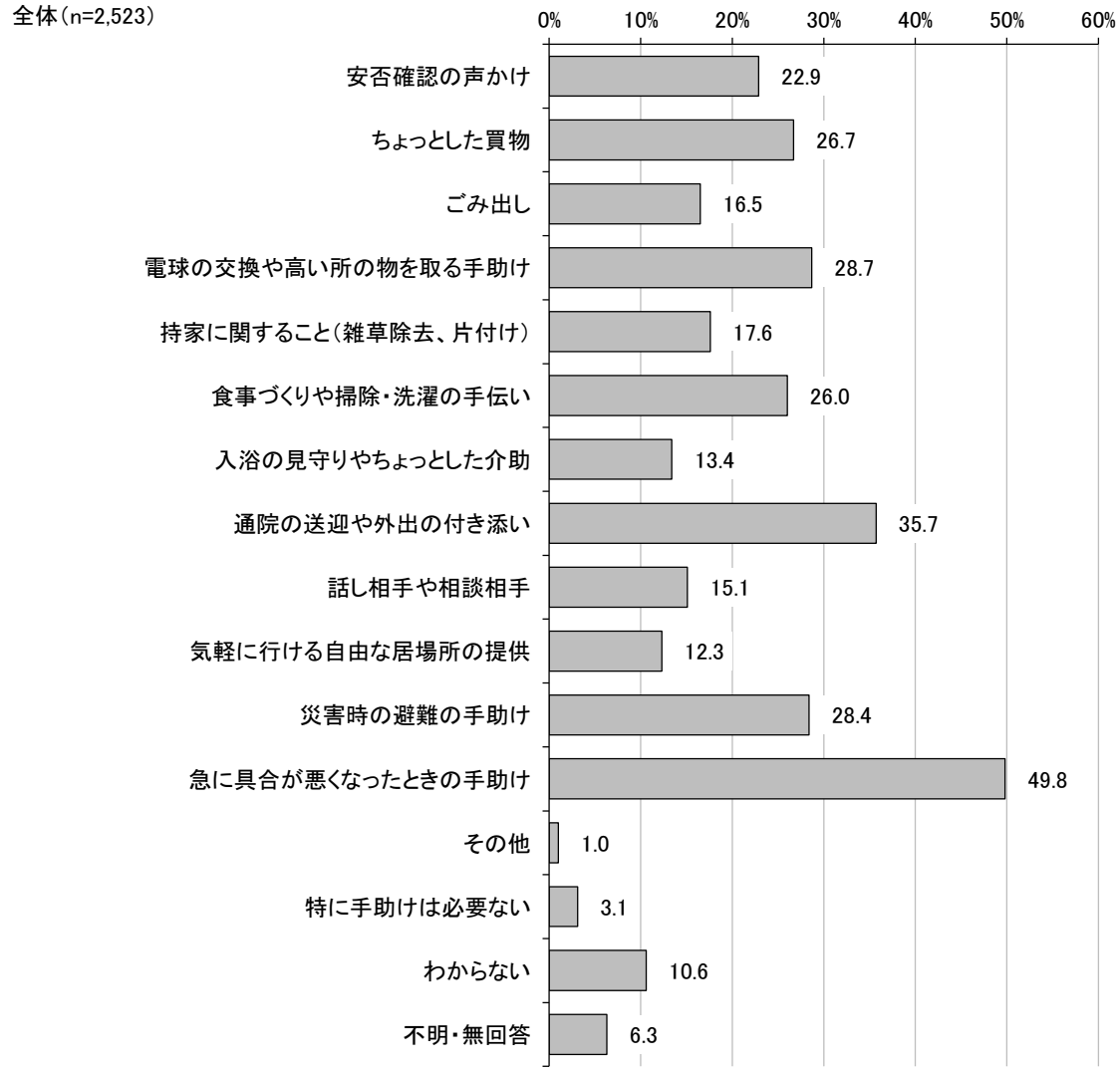
【地域別】〔問 11（２）あなたに介護が必要になった場合、どこで暮らしたいですか。〕

地域別にみると、すべての地域で「ホームヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスを利用しながら自宅で生活したい」が最も高くなっています。



（３）将来的にあなたが、「ちょっとした困りごと」で手助けしてほしいと思われるものはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「急に具合が悪くなったときの手助け」が 49.8％と最も高く、次いで「通院の送迎や外出の付き添い」が 35.7％、「電球の交換や高い所の物を取る手助け」が 28.7％となっています。



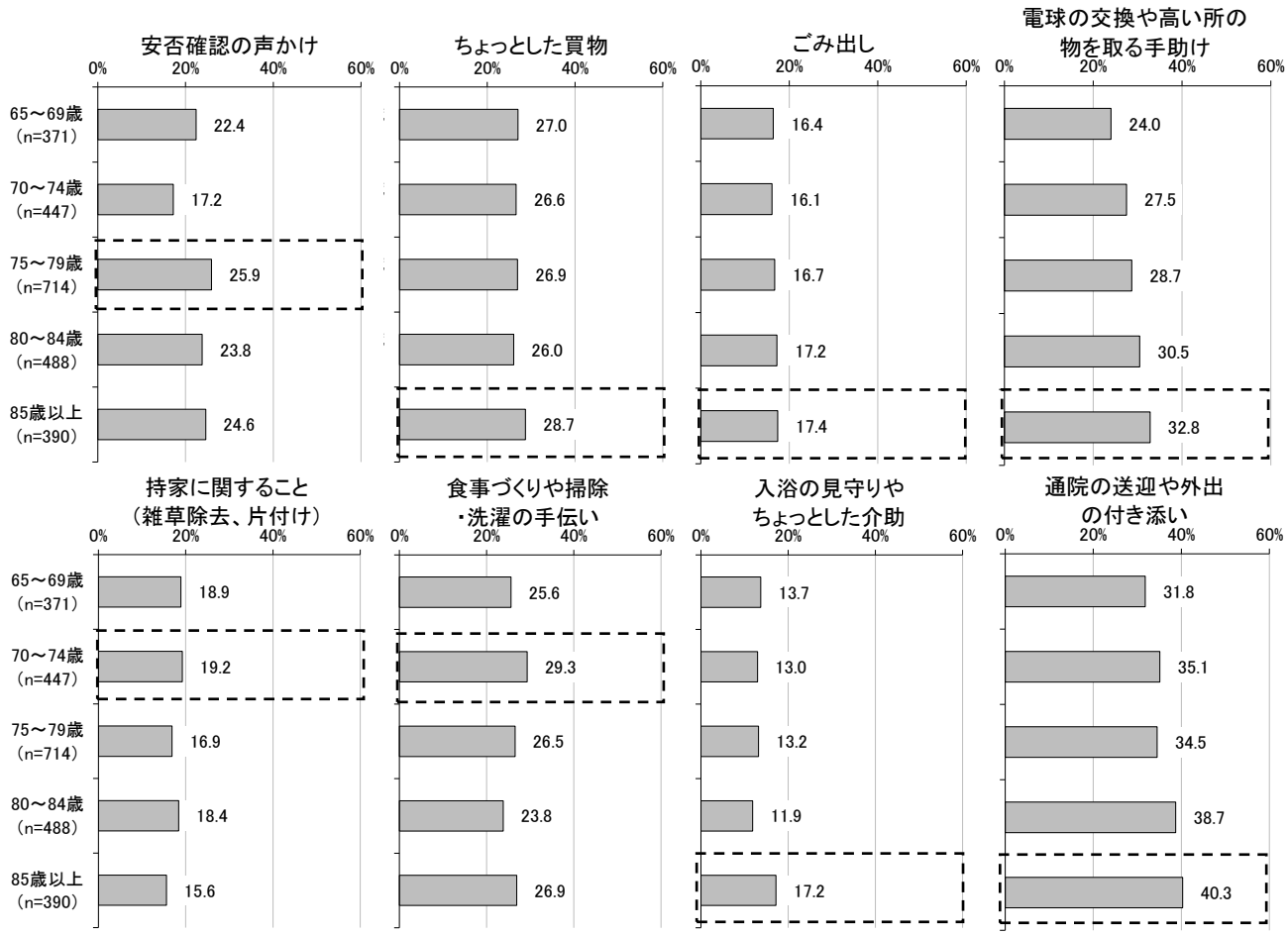
【性別】〔問 11（３）将来的にあなたが、「ちょっとした困りごと」で手助けしてほしいと思われるもの〕

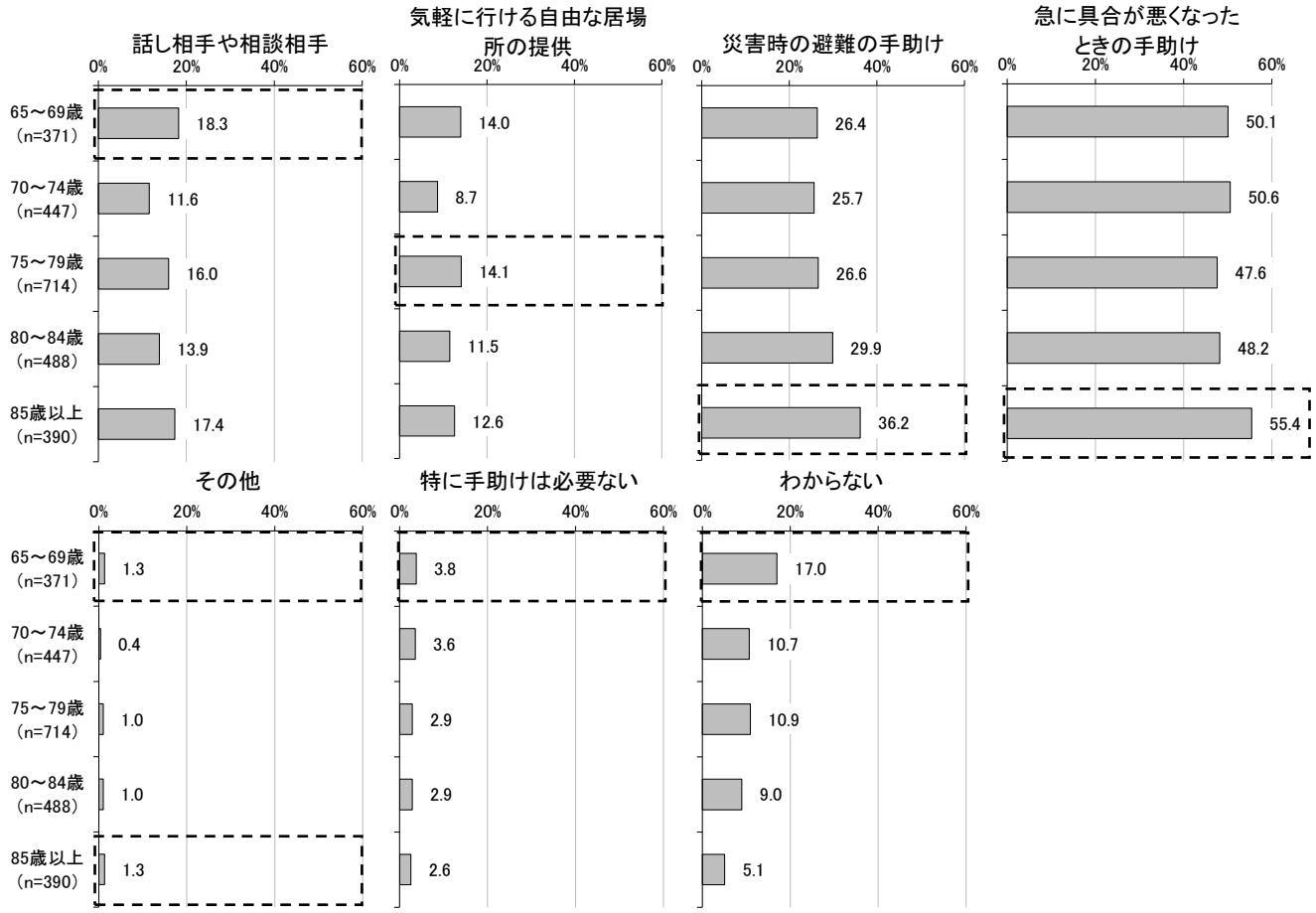
性別にみると、男女ともに「急に具合が悪くなったときの手助け」が最も高くなっています。

単位：%		安否確認の声かけ	ちょっとした買物	ごみ出し	電球の交換や高い所の物を取る手助け	持家に関すること（雑草除去、片付け）	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	入浴の見守りやちょっとした介助	通院の送迎や外出の付き添い	話し相手や相談相手	気軽に行ける自由な居場所の提供	災害時の避難の手助け	急に具合が悪くなったときの手助け	その他	特に手助けは必要ない	わからない	不明・無回答
全体（n=2,523）		22.9	26.7	16.5	28.7	17.6	26.0	13.4	35.7	15.1	12.3	28.4	49.8	1.0	3.1	10.6	6.3
性別	男性（n=947）	21.8	24.8	16.6	18.7	17.5	30.1	13.5	31.2	15.3	11.3	24.2	47.4	1.0	4.1	14.3	5.8
	女性（n=1,504）	23.9	28.3	16.9	34.6	17.8	23.9	13.6	39.0	15.1	12.8	31.4	51.3	0.9	2.4	8.2	6.5

【年齢別】〔問 11（３）将来的にあなたが、「ちょっとした困りごと」で手助けしてほしいと思われるもの〕

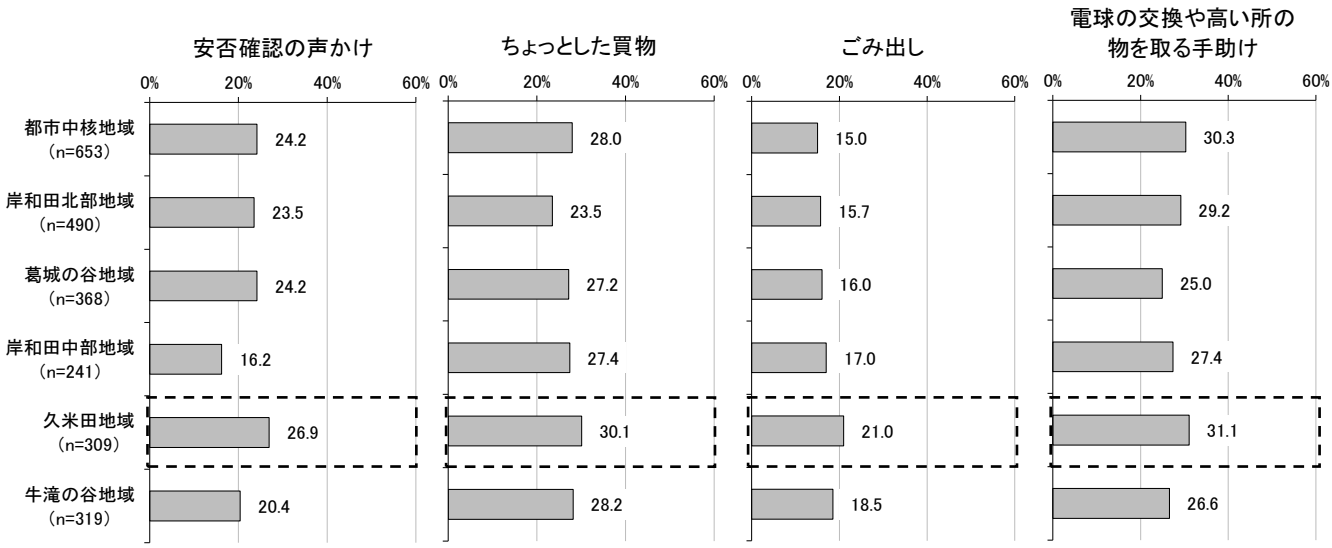
年齢別にみると、「話し相手や相談相手」、「特に手助けは必要ない」、「わからない」は 65～69 歳、「持家に関すること（雑草除去、片付け）」、「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」は 70～74 歳、「安否確認の声かけ」、「気軽にいける自由な居場所の提供」は 75～79 歳、「ちょっとした買物」、「ごみ出し」、「電球の交換や高い所のものを取る手助け」、「入浴の見守りやちょっとした介助」、「通院の送迎や外出の付き添い」、「災害時の避難の手助け」、「急に具合が悪くなったときの手助け」は 85 歳以上、「その他」は 65～69 歳と 85 歳以上で高くなっています。

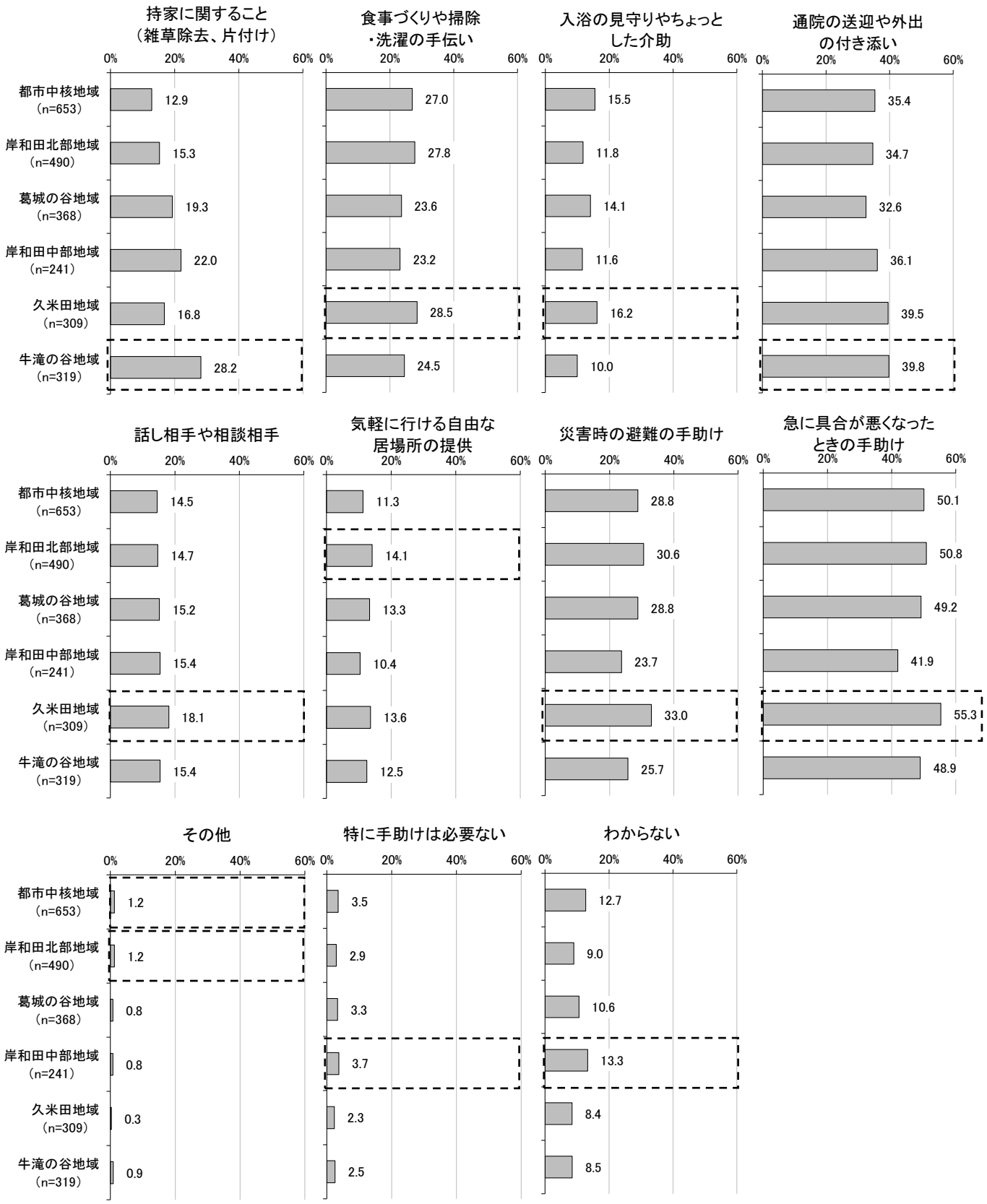




【地域別】〔問 11（３）将来的にあなたが、「ちょっとした困りごと」で手助けしてほしいと思われるもの〕

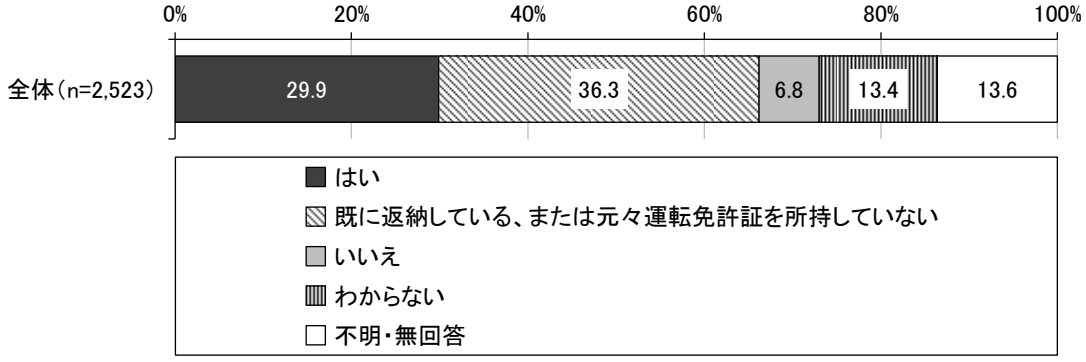
地域別にみると、「気軽に行ける自由な居場所の提供」は岸和田北部地域、「特に手助けは必要ない」、「わからない」は岸和田中部地域、「安否確認の声かけ」、「ちょっとした買物」、「ごみ出し」、「電球の交換や高い所のものを取る手助け」、「食事づくりや掃除、洗濯の手伝い」、「入浴の見守りやちょっとした介助」、「話し相手や相談相手」、「災害時の避難の手助け」、「急に具合が悪くなったときの手助け」は久米田地域、「持ち家に関すること（雑草除去、片付け）」、「通院の送迎や外出の付き添い」は牛滝の谷地域、「その他」は都市中核地域、岸和田北部地域で高くなっています。




持家に関すること（雑草除去、片付け）
食事づくりや掃除・洗濯の手伝い
入浴の見守りやちょっとした介助
通院の送迎や外出の付き添い
話し相手や相談相手
気軽に行ける自由な居場所の提供
災害時の避難の手助け
急に具合が悪くなったときの手助け
その他
特に手助けは必要ない
わからない
0%
20%
40%
60%
都市中核地域（n=653）
岸和田北部地域（n=490）
葛城の谷地域（n=368）
岸和田中部地域（n=241）
久米田地域（n=309）
牛滝の谷地域（n=319）
12.9
15.3
19.3
22.0
16.8
28.2
27.0
27.8
23.6
23.2
28.5
24.5
15.5
11.8
14.1
11.6
16.2
10.0
35.4
34.7
32.6
36.1
39.5
39.8
14.5
14.7
15.2
15.4
18.1
15.4
11.3
14.1
13.3
10.4
13.6
12.5
28.8
30.6
28.8
23.7
33.0
25.7
50.1
50.8
49.2
41.9
55.3
48.9
1.2
1.2
0.8
0.8
0.3
0.9
3.5
2.9
3.3
3.7
2.3
2.5
12.7
9.0
10.6
13.3
8.4
8.5

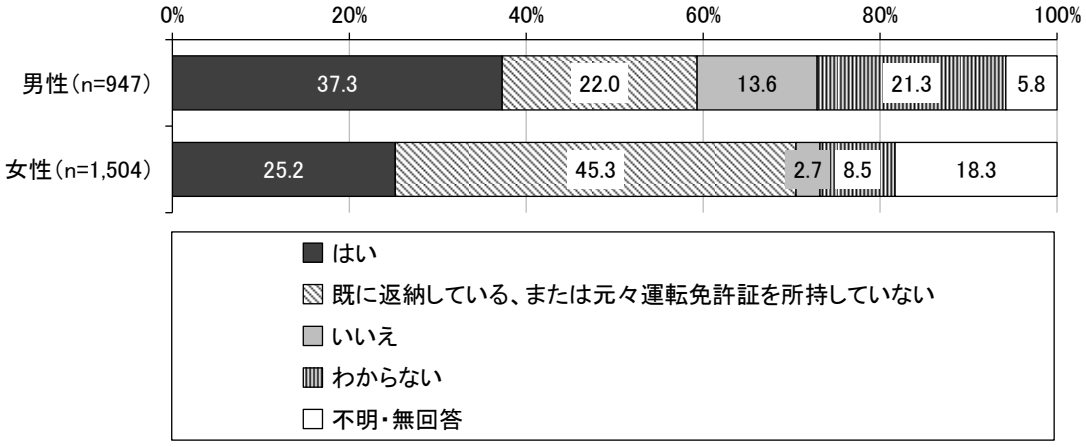
（４）将来的に運転免許証を自主返納したいと思いますか。（１つに○）

「既に返納している、または元々運転免許証を所持していない」が 36.3％と最も高く、次いで「はい」が 29.9％、「わからない」が 13.4％となっています。



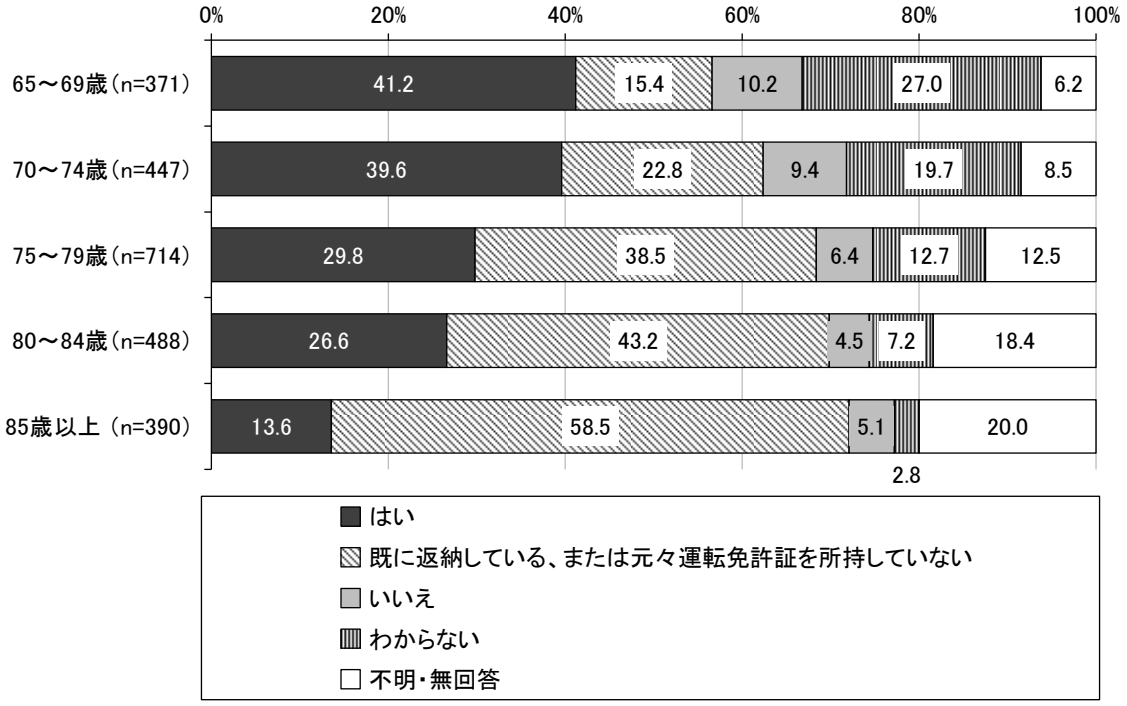
【性別】〔問 11（４）将来的に運転免許証を自主返納したいと思いますか。〕

性別にみると、男性では「はい」、女性では「既に返納している、または元々運転免許証を所持していない」がそれぞれ最も高くなっています。



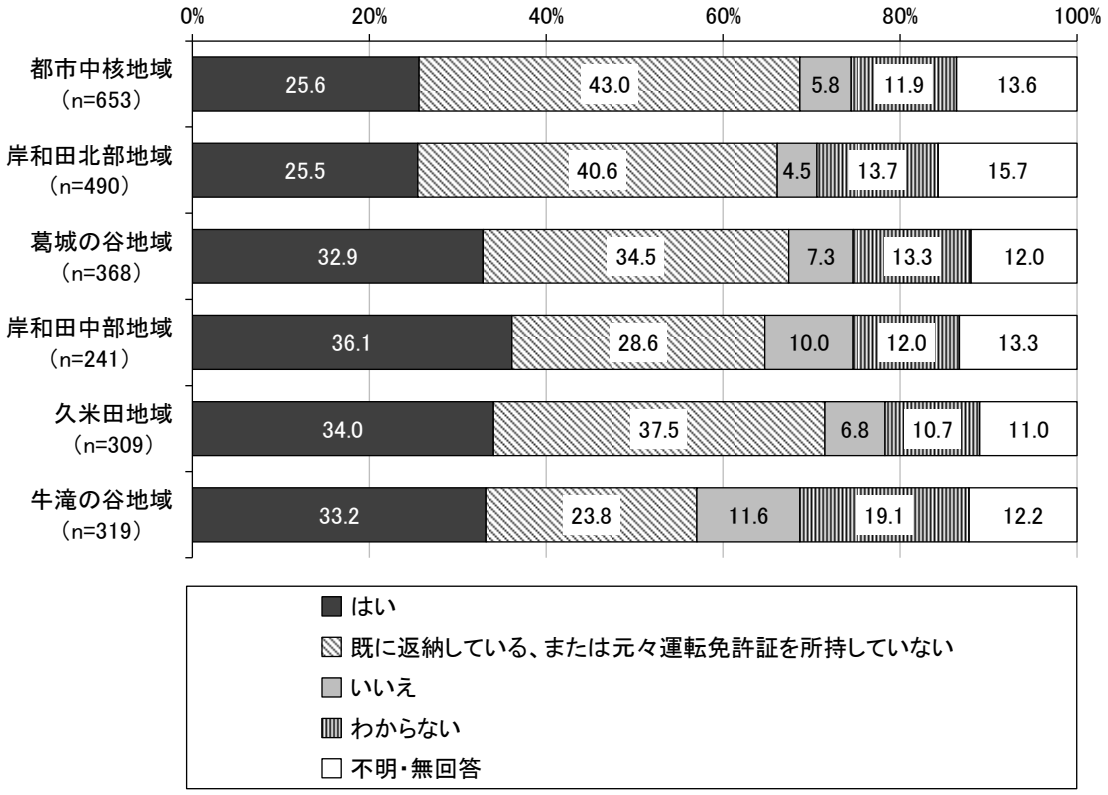
【年齢別】〔問 11（４）将来的に運転免許証を自主返納したいと思いますか。〕

年齢別にみると、65 歳～69 歳と 70 歳～74 歳では「はい」、その他の年齢では「既に返納している、または元々運転免許証を所持していない」がそれぞれ最も高くなっています。



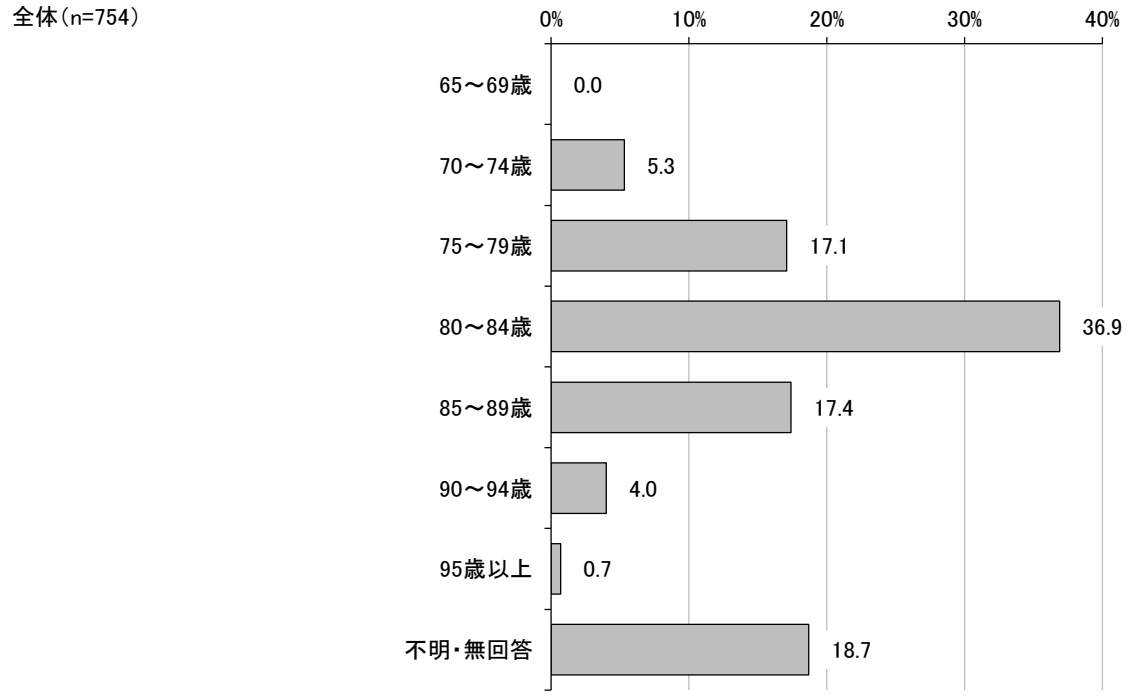
【地域別】〔問 11（４）将来的に運転免許証を自主返納したいと思いますか。〕

地域別にみると、岸和田中部地域と牛滝の谷地域では「はい」、その他の地域では「既に返納している、または元々運転免許証を所持していない」がそれぞれ最も高くなっています。



＊　何歳になったら返納しようと思うか

「80 歳～84 歳」が 36.9％と最も高く、次いで「85 歳～89 歳」が 17.4％、「75 歳～79 歳」が 17.1％となっています。



【地域別】〔問 11（４）　運転免許証を返納しようと思う年齢〕

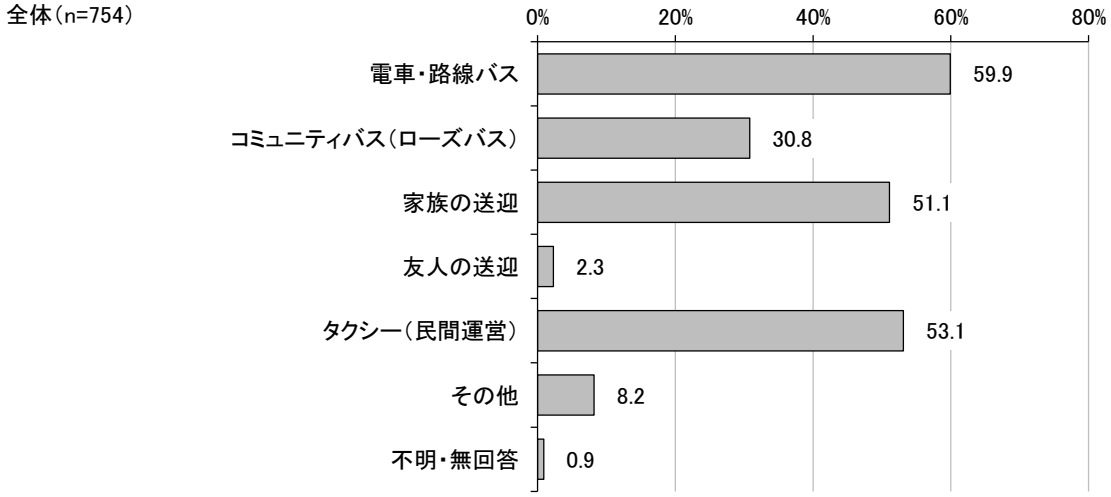
地域別にみると、すべての地域で「80 歳～84 歳」が最も高くなっています。

単位:%		65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	不明・無回答
全体(n=754)		0.0	5.3	17.1	36.9	17.4	4.0	0.7	18.7
地域別	都市中核地域(n=167)	0.0	4.8	17.4	44.9	9.6	1.8	1.2	20.4
	岸和田北部地域(n=125)	0.0	8.0	20.0	35.2	12.8	4.8	0.8	18.4
	葛城の谷地域(n=121)	0.0	5.0	13.2	38.0	16.5	5.0	0.0	22.3
	岸和田中部地域(n=87)	0.0	4.6	17.2	35.6	23.0	2.3	0.0	17.2
	久米田地域(n=105)	0.0	7.6	21.9	34.3	19.0	5.7	0.0	11.4
	牛滝の谷地域(n=106)	0.0	0.9	11.3	33.0	29.2	4.7	1.9	18.9

（４）で「はい」（将来的に運転免許証を自主返納したい）と回答した方にお伺いします。

（４）－１　運転免許証を返納した場合の交通手段について教えてください。（３つまで○）

「電車・路線バス」が 59.9%と最も高く、次いで「タクシー（民間運営）」が 53.1%、「家族の送迎」が 51.1%となっています。



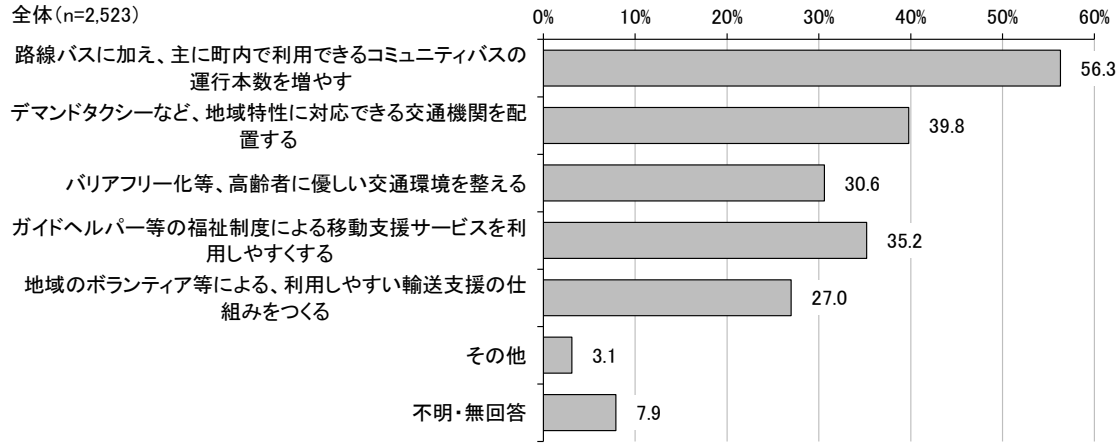
【地域別】〔問 11（４）－１　運転免許証を返納した場合の交通手段について教えてください。〕

地域別にみると、「友人の送迎」、「その他」は岸和田北部地域、「電車・路線バス」は葛城の谷地域、「タクシー（民間運営）」は岸和田中部地域、「コミュニティバス（ローズバス）」は久米田地域、「家族の送迎」は牛滝の谷地域で高くなっています。

単位：%		電車・路線バス	コミュニティバス（ローズバス）	家族の送迎	友人の送迎	タクシー（民間運営）	その他	不明・無回答
全体(n=754)		59.9	30.8	51.1	2.3	53.1	8.2	0.9
地域別	都市中核地域(n=167)	64.1	34.1	45.5	1.2	55.7	6.0	1.8
	岸和田北部地域(n=125)	55.2	37.6	56.0	4.0	50.4	12.0	0.8
	葛城の谷地域(n=121)	67.8	27.3	47.9	2.5	49.6	8.3	0.0
	岸和田中部地域(n=87)	47.1	37.9	52.9	1.1	62.1	6.9	0.0
	久米田地域(n=105)	61.9	38.1	47.6	2.9	47.6	11.4	1.0
	牛滝の谷地域(n=106)	60.4	10.4	58.5	0.9	56.6	5.7	1.9

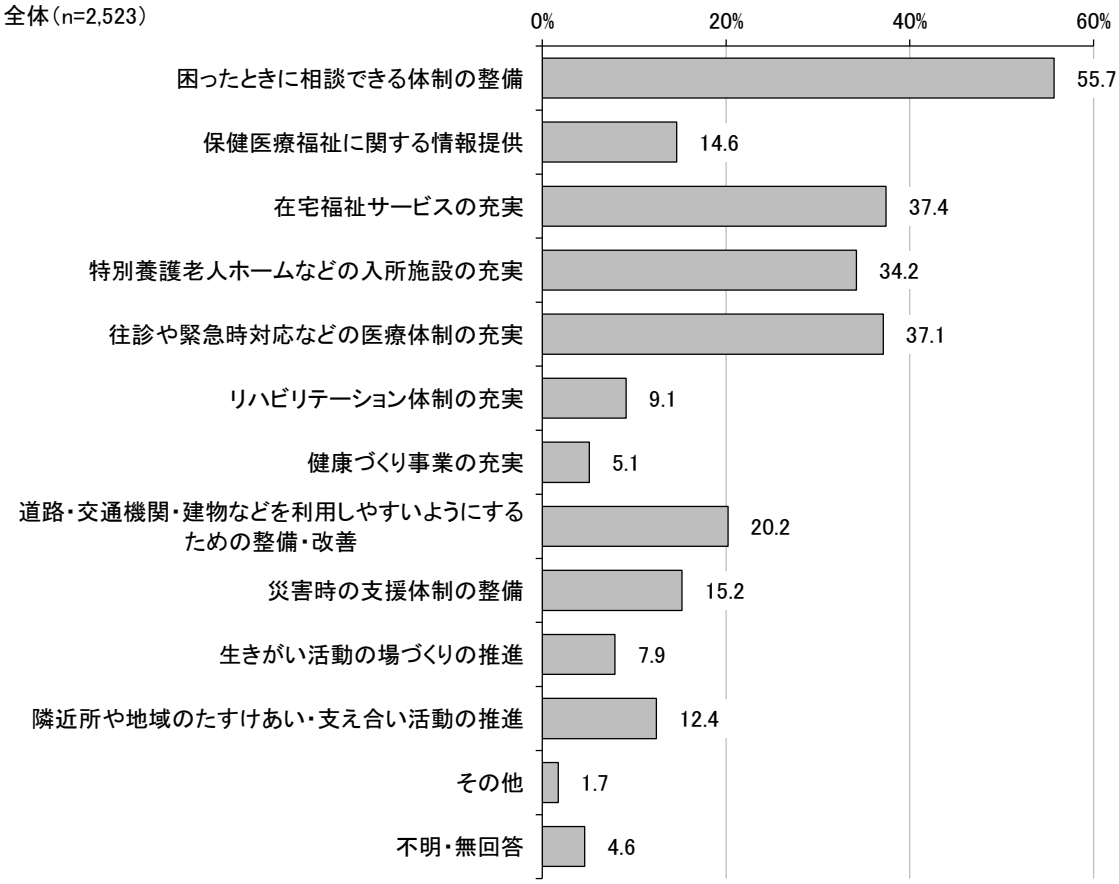
（５）高齢になっても、不便なく交通機関などを利用して移動するために、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。（３つまで○）

「路線バスに加え、主に町内で利用できるコミュニティバスの運行本数を増やす」が 56.3%と最も高く、次いで「デマンドタクシーなど、地域特性に対応できる交通機関を配置する」が 39.8%、「ガイドヘルパー等の福祉制度による移動支援サービスを利用しやすくする」が 35.2%となっています。



（６）高齢者にとって住みよいまちをつくるために、どんなことが必要だと思いますか。（３つまで○）

「困ったときに相談できる体制の整備」が 55.7%と最も高く、次いで「在宅福祉サービスの充実」が 37.4%、「往診や緊急時対応などの医療体制の充実」が 37.1%となっています。

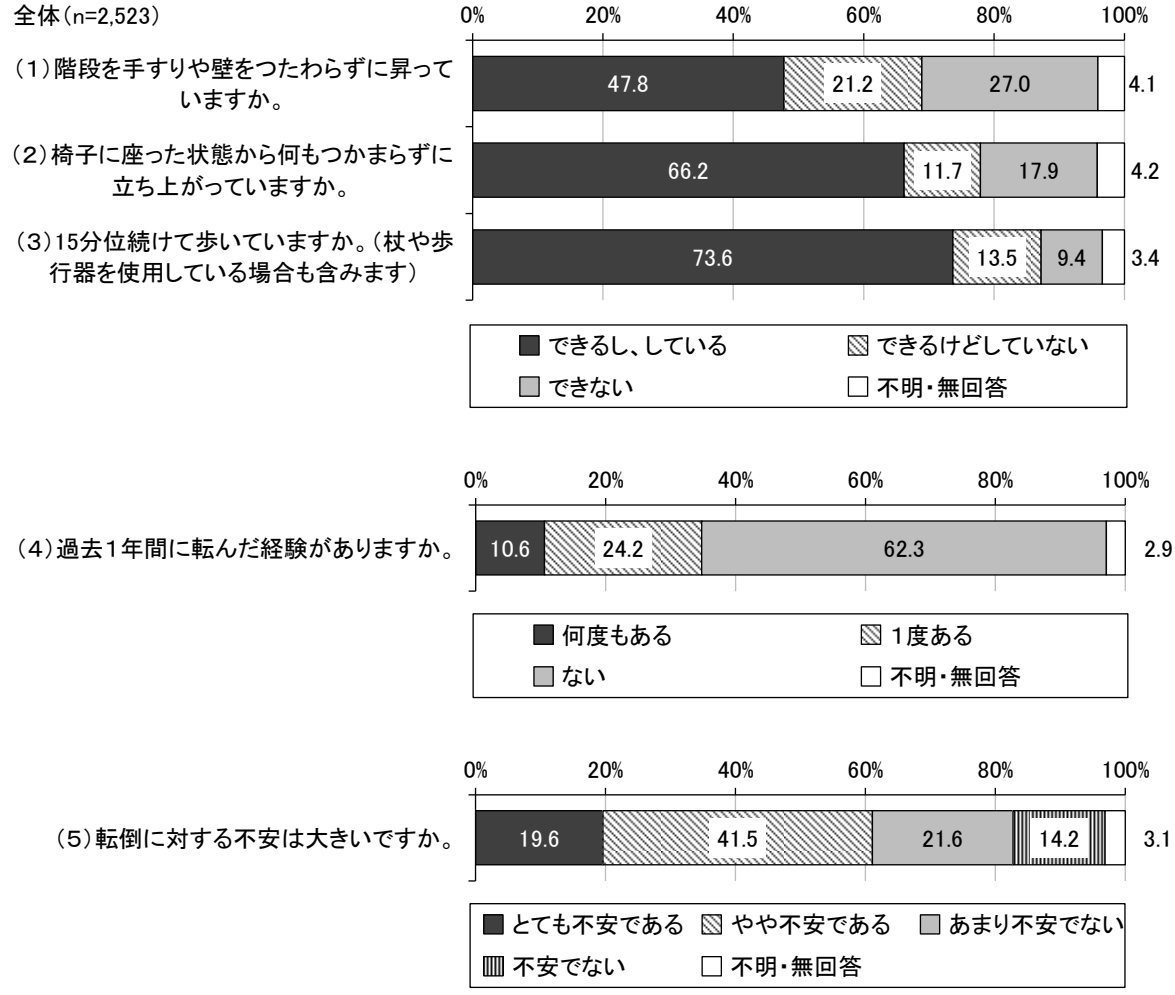


生活機能評価項目別のリスク判定

（１）運動器機能の低下

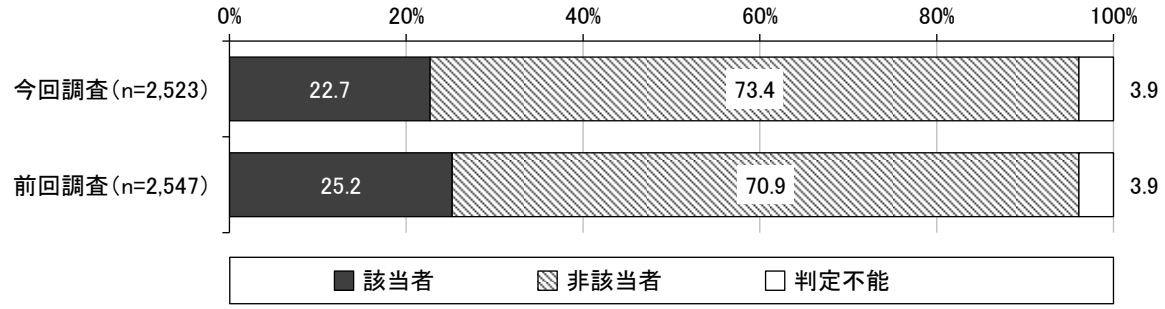
高齢者の運動器機能に関するリスク判定は、以下の設問５問中３問以上該当した場合、運動器機能の低下と判定されます。

問番号	設問	リスク該当となる選択肢
問２（１）	階段を手すりや壁をつたわらず昇れるか	「できない」
問２（２）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるか	「できない」
問２（３）	15 分位続けて歩けるか	「できない」
問２（４）	過去１年間に転んだ経験があるか	「何度もある」「１度ある」
問２（５）	転倒に対する不安は大きいか	「とても不安である」 「やや不安である」



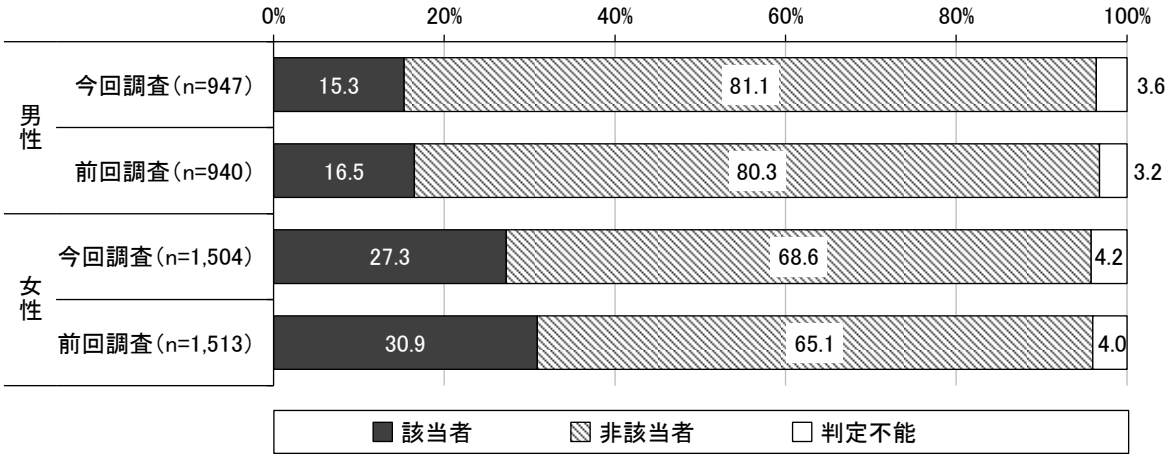
【前回比較】〔（１）運動器機能の低下〕

今回調査では、「該当者」が 22.7%、「非該当者」が 73.4%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（１）運動器機能の低下〕

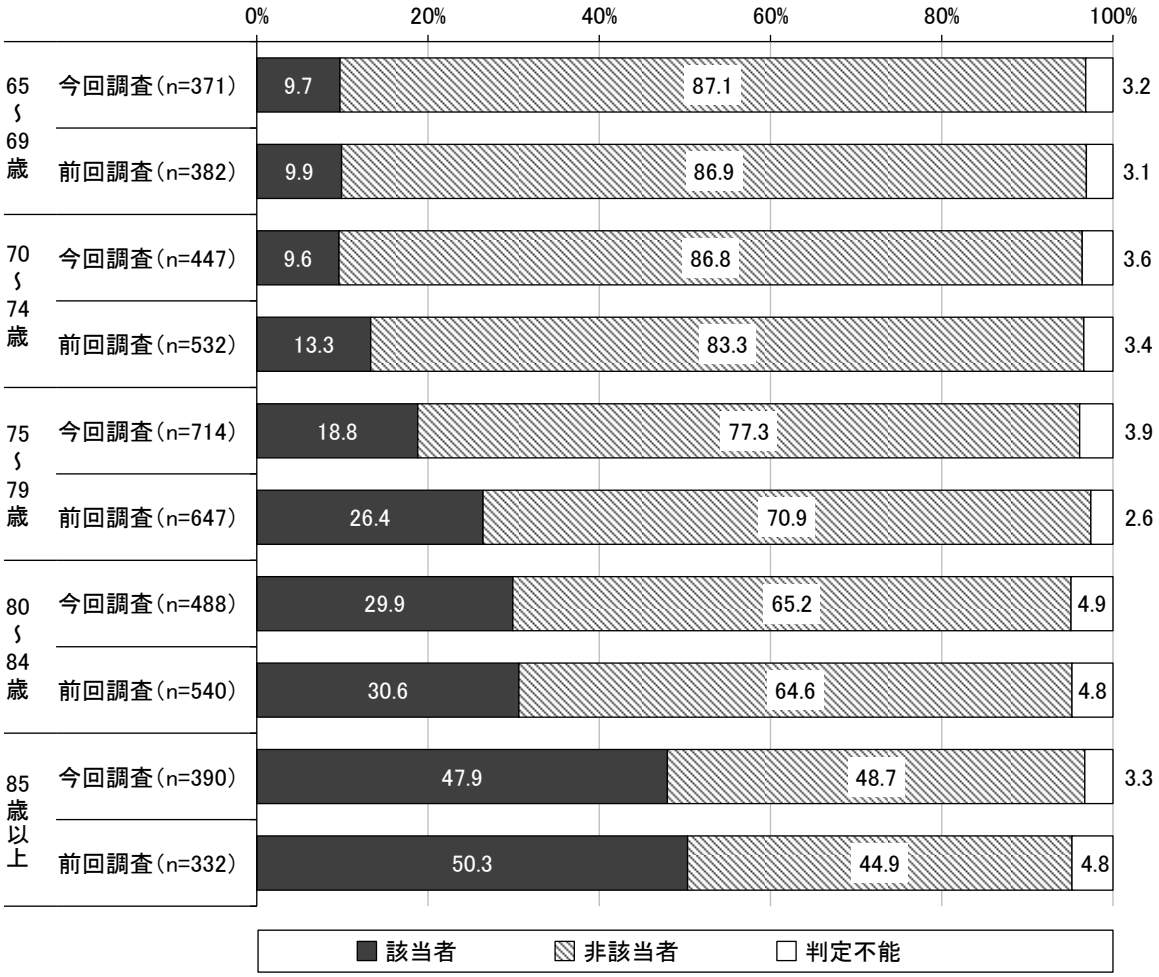
性別にみると、女性は「該当者」が 27.3%と男性を 12.0 ポイント上回っています。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（１）運動器機能の低下〕

年齢別にみると、70～74 歳を除き、高齢になるほど「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 47.9%となっています。

年齢別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は 75～79 歳で 7.6 ポイント減少しています。

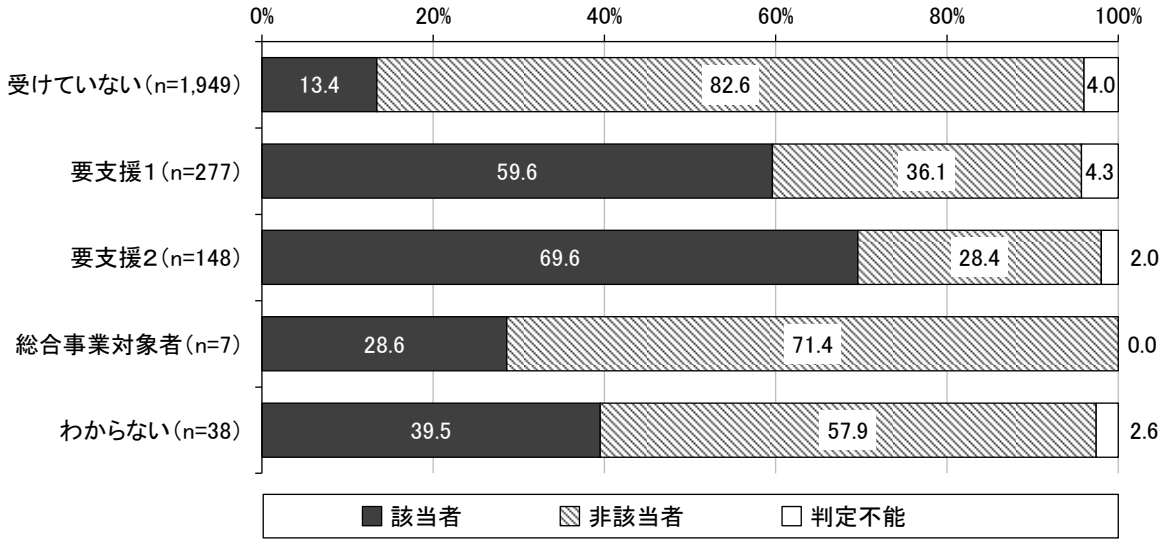


【認定状況別】〔（１）運動器機能の低下〕

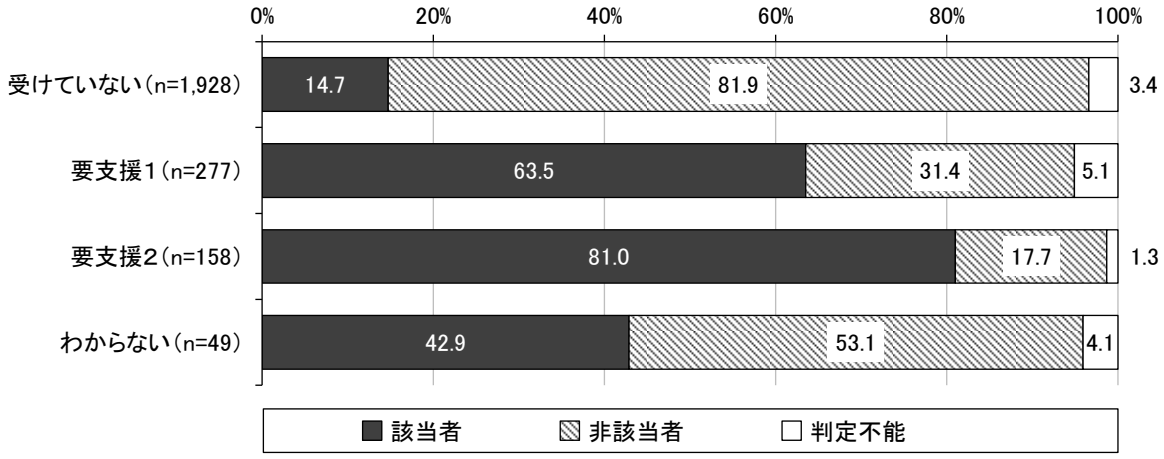
認定状況別にみると、「該当者」の割合は、要支援１では 59.6%、要支援２では 69.6%、総合事業対象者では 28.6%となっています。

要支援認定別に前回調査をみると、「該当者」の割合は、要支援１が 63.5%、要支援２が 81.0%となっています。

・今回調査



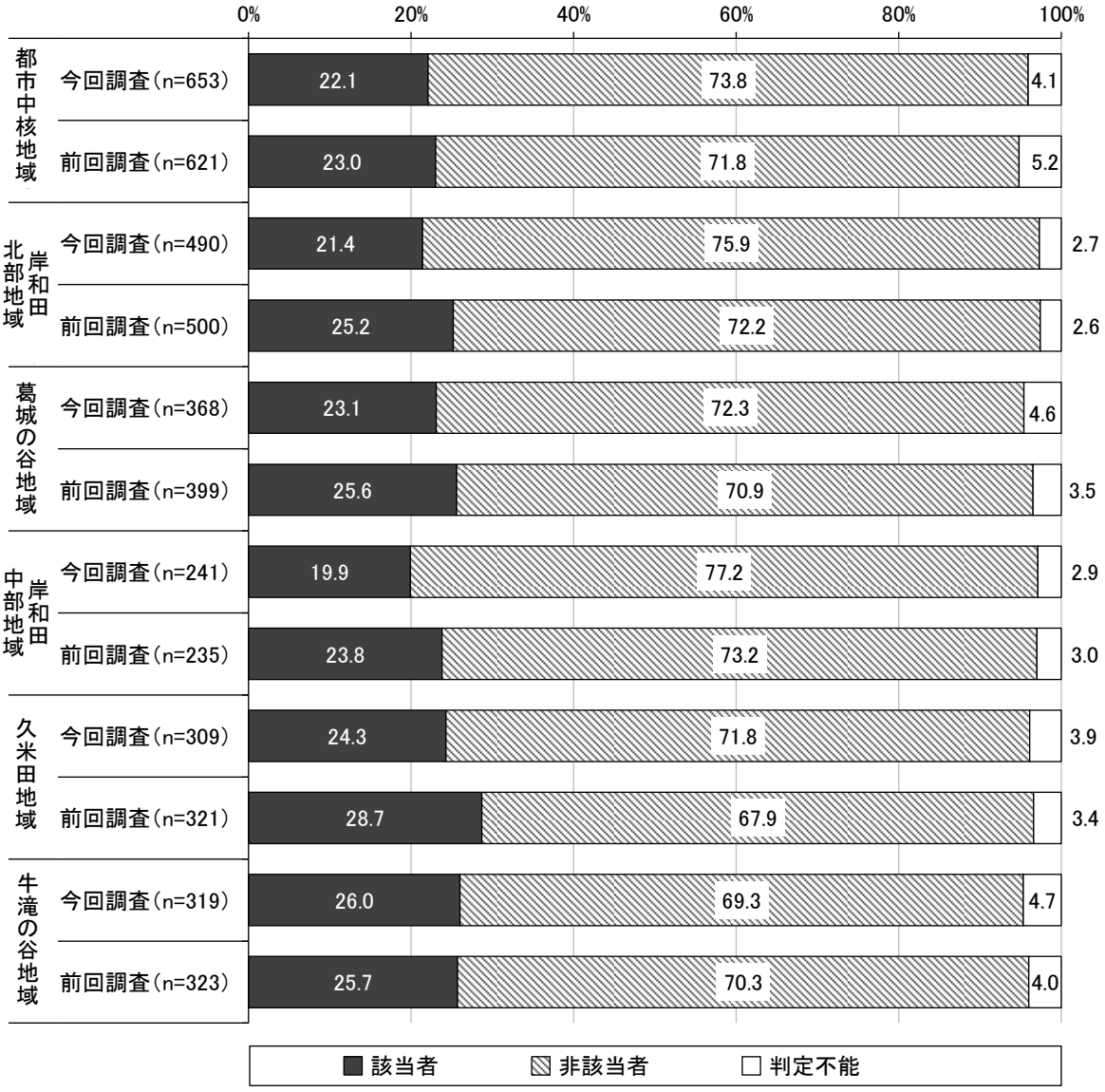
・前回調査



【地域別】〔（１）運動器機能の低下〕

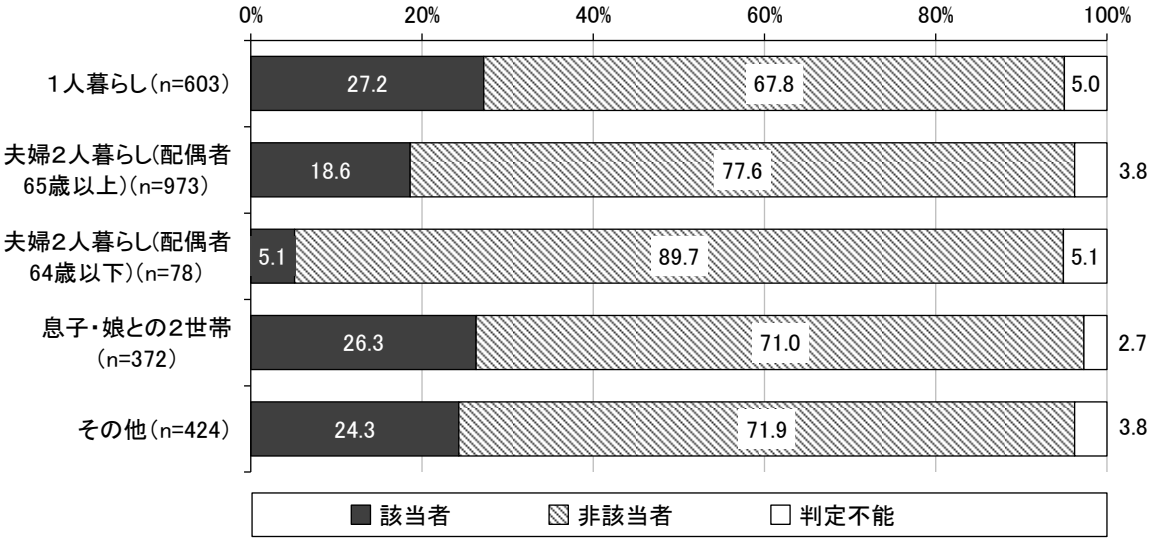
地域別にみると、「該当者」の割合は、牛滝の谷地域で 26.0％と最も高く、次いで久米田地域で 24.3％となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、大きな違いはみられません。



【家族構成別】〔（１）運動器機能の低下〕

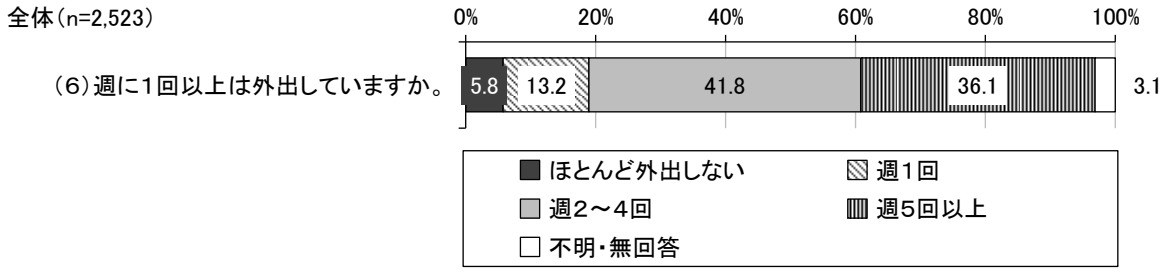
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、１人暮らしで 27.2％と最も高く、次いで息子・娘との２世帯で 26.3％となっています。



（２）閉じこもり傾向

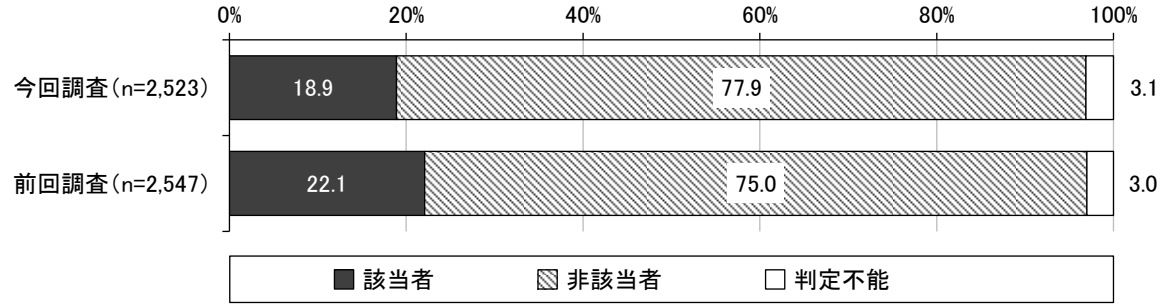
高齢者の閉じこもりに関するリスク判定は、以下の設問に該当した場合、閉じこもり傾向のリスクありと判定されます。

問番号	設問	リスク該当となる選択肢
問２（６）	週に１回以上は外出しているか	「ほとんど外出しない」 「週１回」



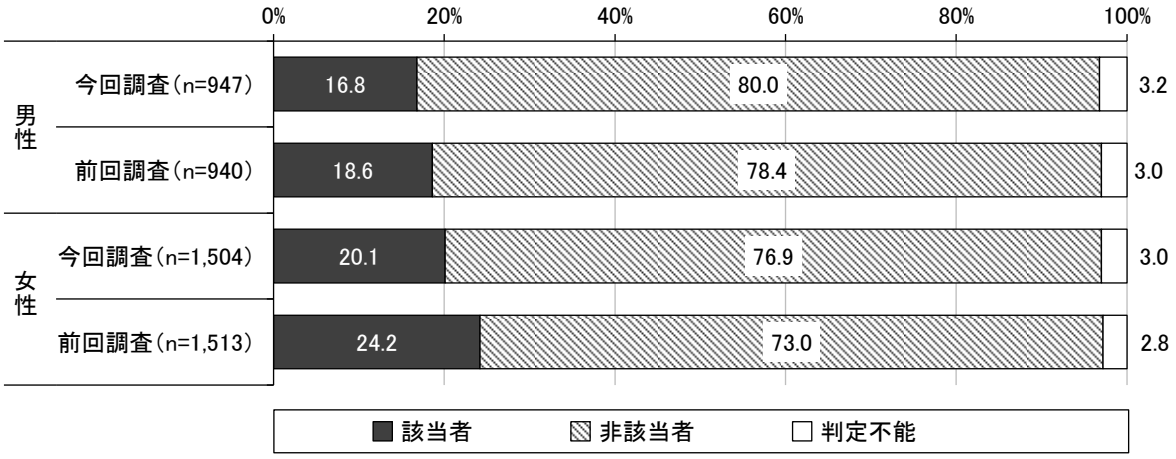
【前回比較】〔（２）閉じこもり傾向〕

今回調査では、「該当者」が 18.9%、「非該当者」が 77.9%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（２）閉じこもり傾向〕

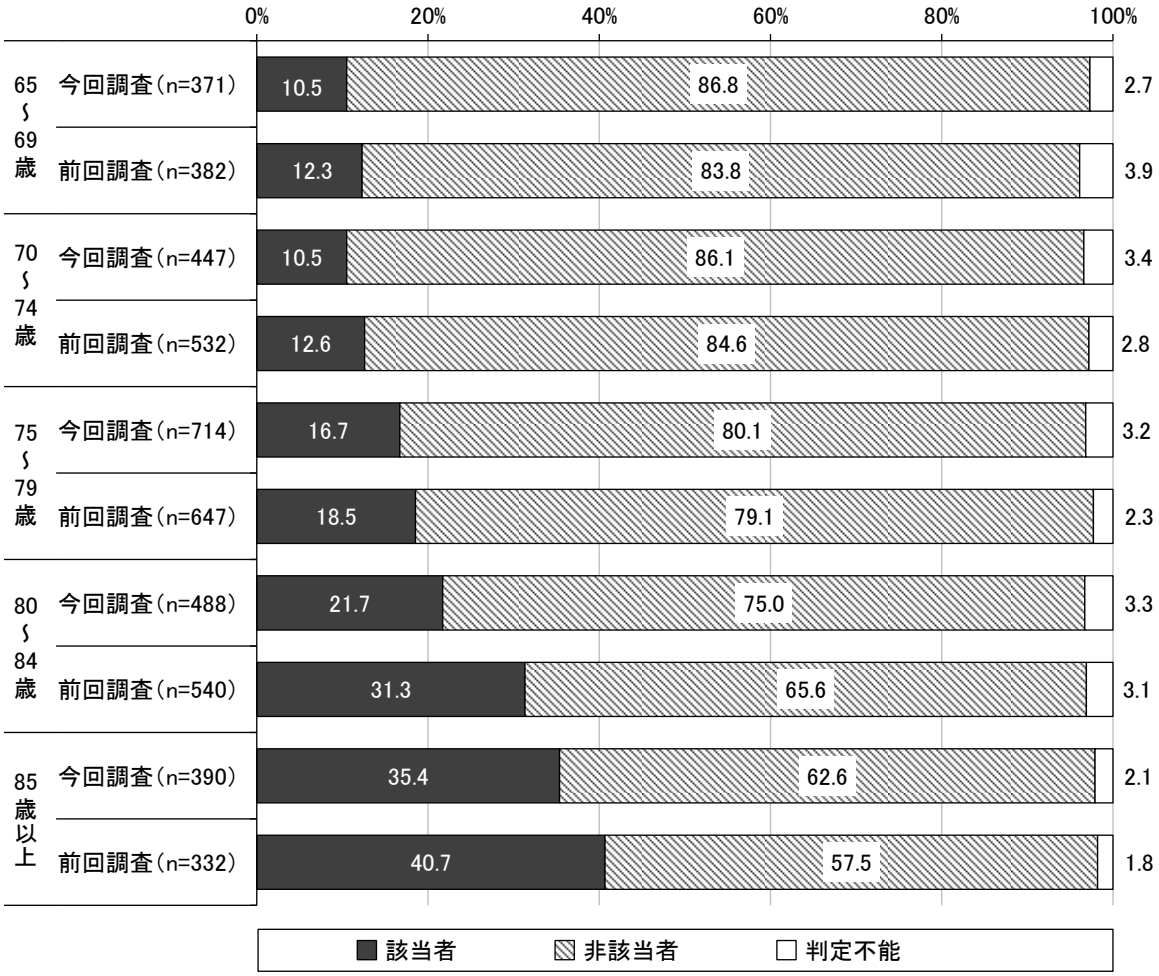
性別にみると、男女ともに「非該当者」が「該当者」を上回っています。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（２）閉じこもり傾向〕

年齢別にみると、高齢になるほど「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 35.4%となっています。

年齢別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、80～84 歳で 9.6 ポイント、85 歳以上で 5.3 ポイント減少しています。

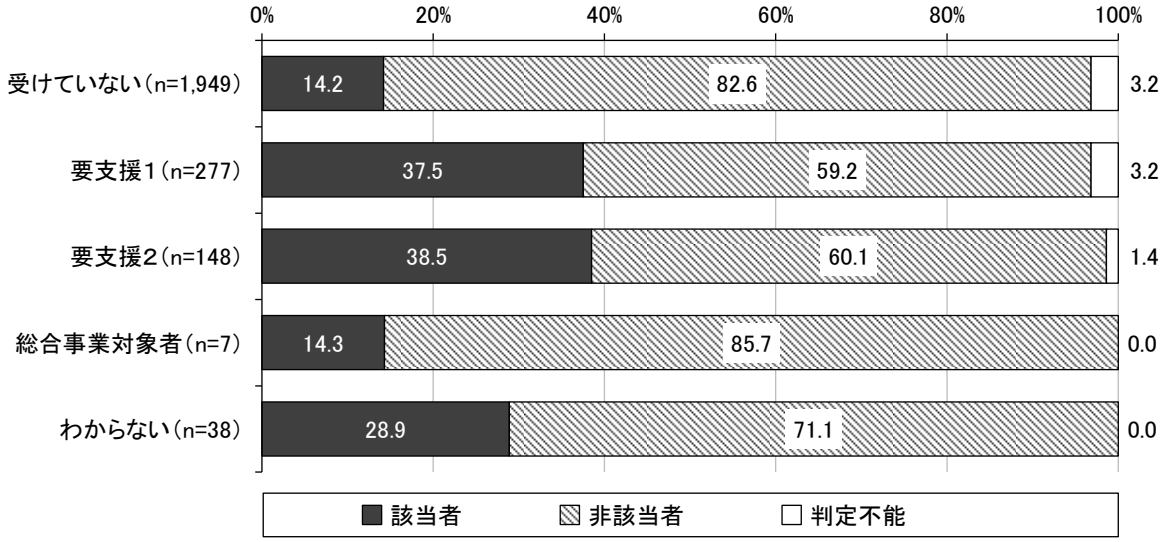


【認定状況別】〔（２）閉じこもり傾向〕

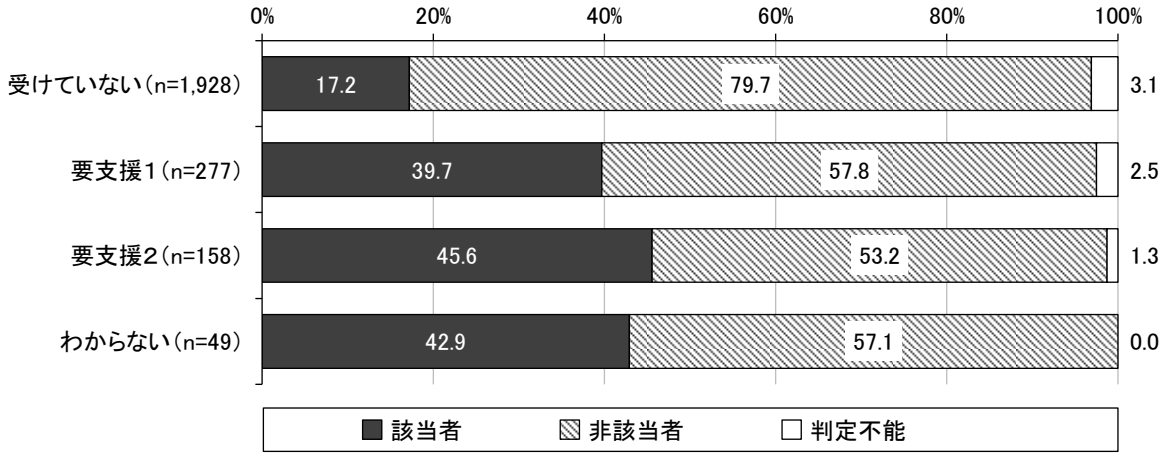
認定状況別にみると、「該当者」の割合は、要支援１では 37.5%、要支援２では 38.5%、総合事業対象者では 14.3%となっています。

認定状況別に前回調査をみると、「該当者」の割合は、要支援１が 39.7%、要支援２が 45.6%となっています。

・今回調査



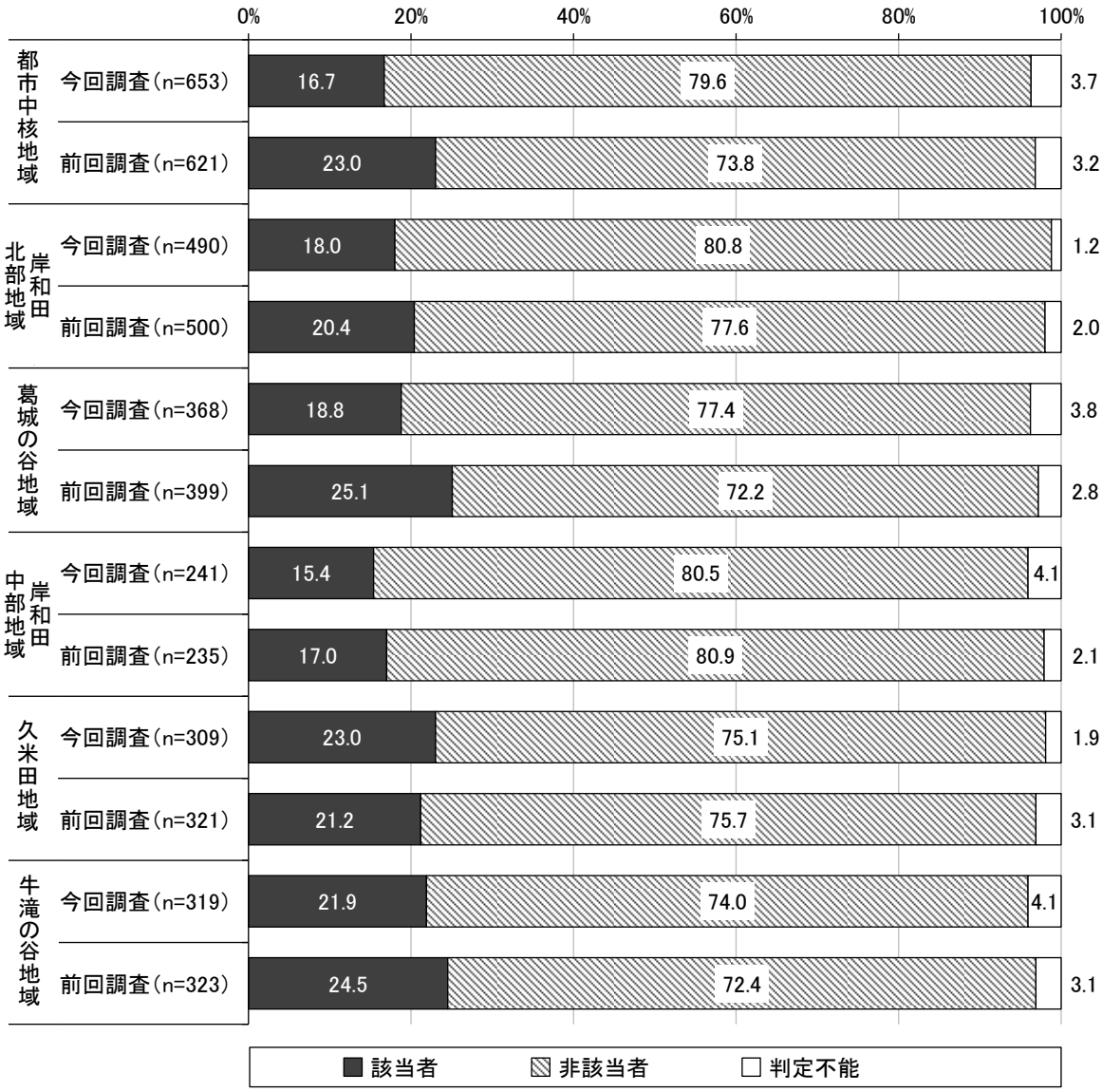
・前回調査



【地域別】〔（２）閉じこもり傾向〕

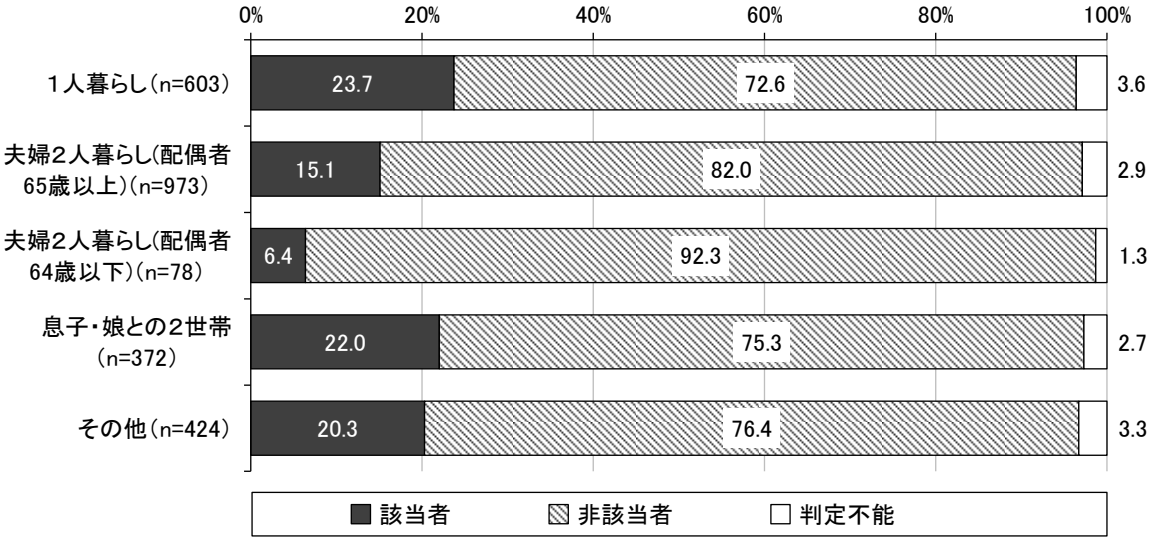
地域別にみると、「該当者」の割合は、久米田地域で23.0％と最も高く、次いで牛滝の谷地域で21.9％となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、都市中核地域、葛城の谷地域で6.3ポイント減少しています。



【家族構成別】〔（２）閉じこもり傾向〕

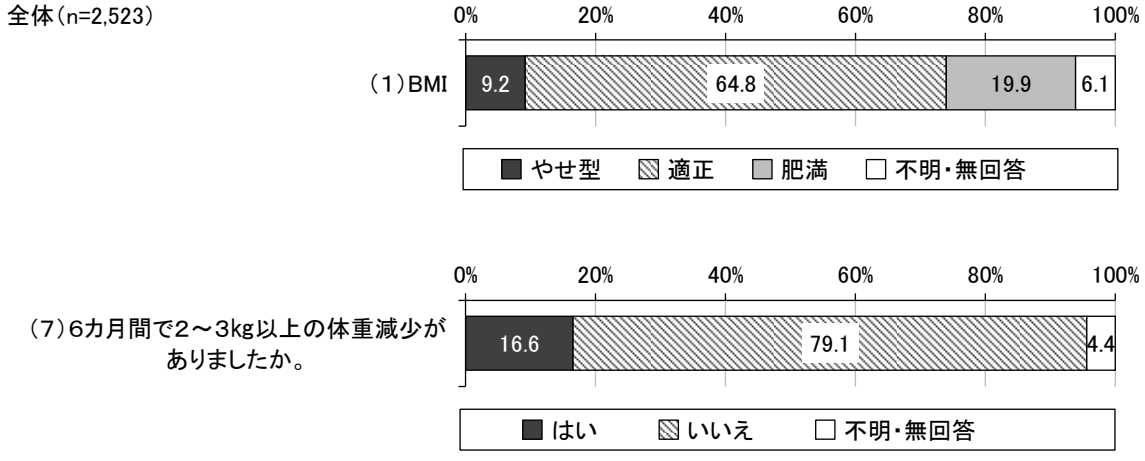
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、１人暮らしで 23.7％と最も高く、次いで息子・娘との２世帯で 22.0％となっています。



（３）低栄養状態

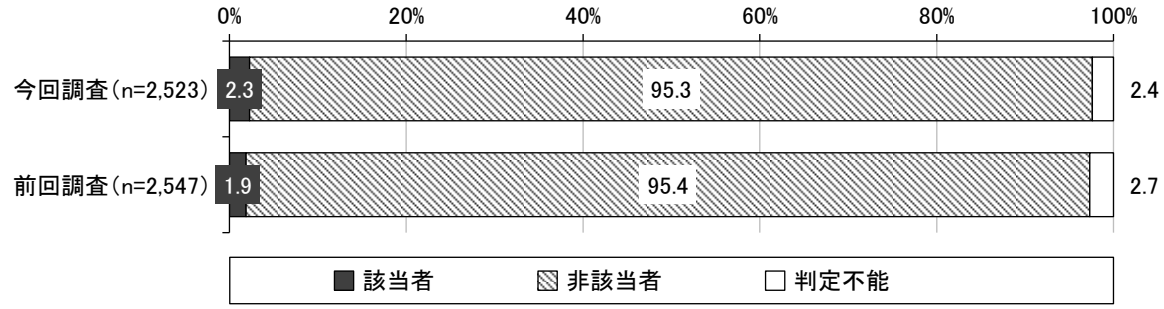
高齢者の栄養状態に関するリスク判定は、以下の設問２問中２問とも該当した場合、低栄養のリスクありと判定されます。

問番号	設問	リスク該当となる選択肢
問３（１）	身長(㎝)、体重(㎏)により算出 ※計算方法：ＢＭＩ値＝体重(㎏)÷（身長(m)）^{2}	ＢＭＩ値＜18.5 …「やせ」
問３（７）	６カ月で２～３㎏以上の体重減少があるか	「はい」



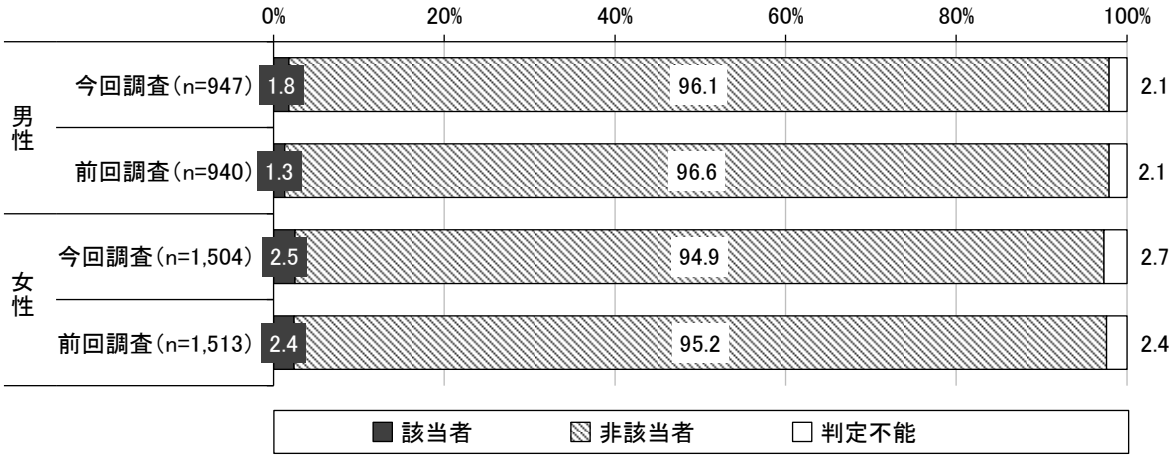
【前回比較】〔（３）低栄養状態〕

今回調査では、「該当者」が 2.3%、「非該当者」が 95.3%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（３）低栄養状態〕

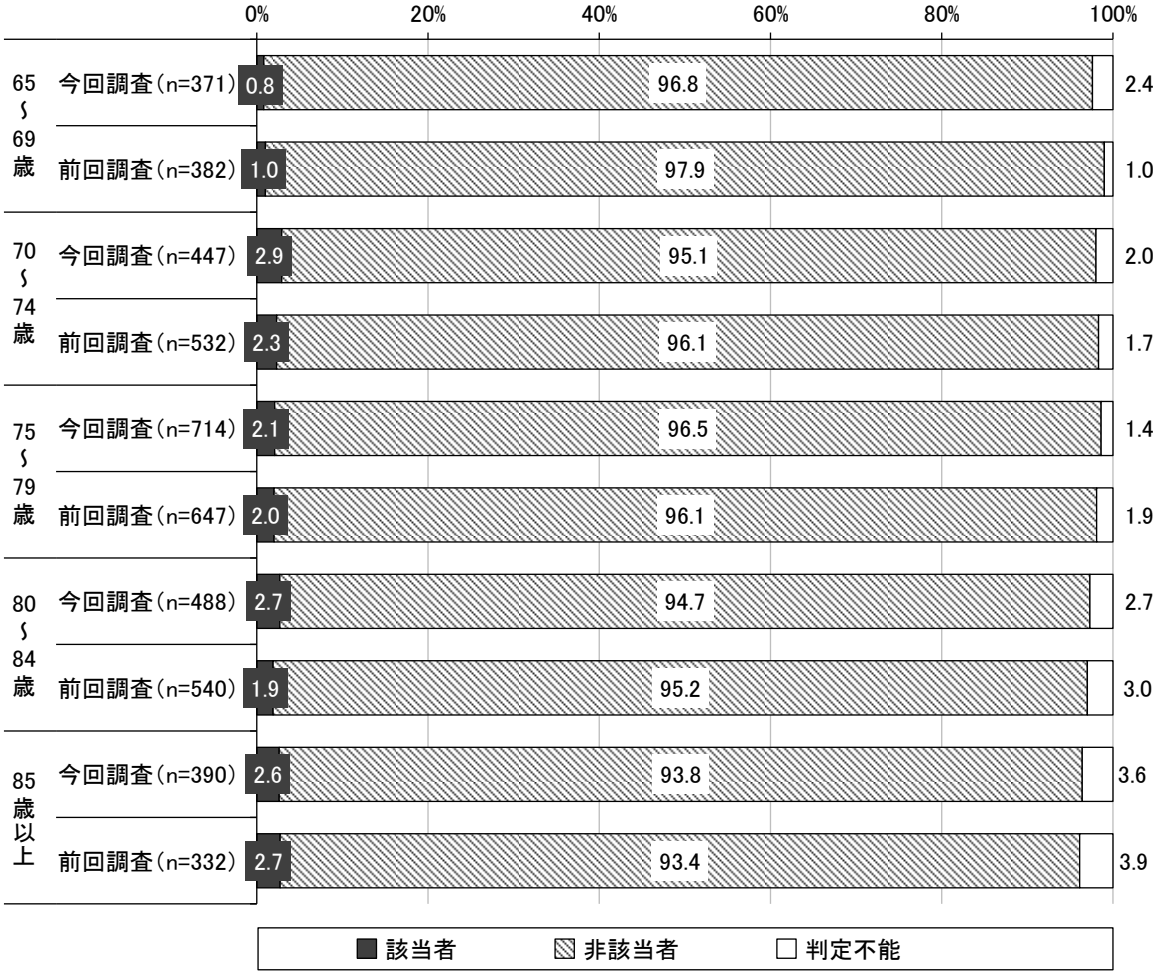
性別にみると、「該当者」の割合は、女性の方が男性よりやや高くなっています。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（３）低栄養状態〕

年齢別にみると、大きな違いはみられません。

年齢別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。

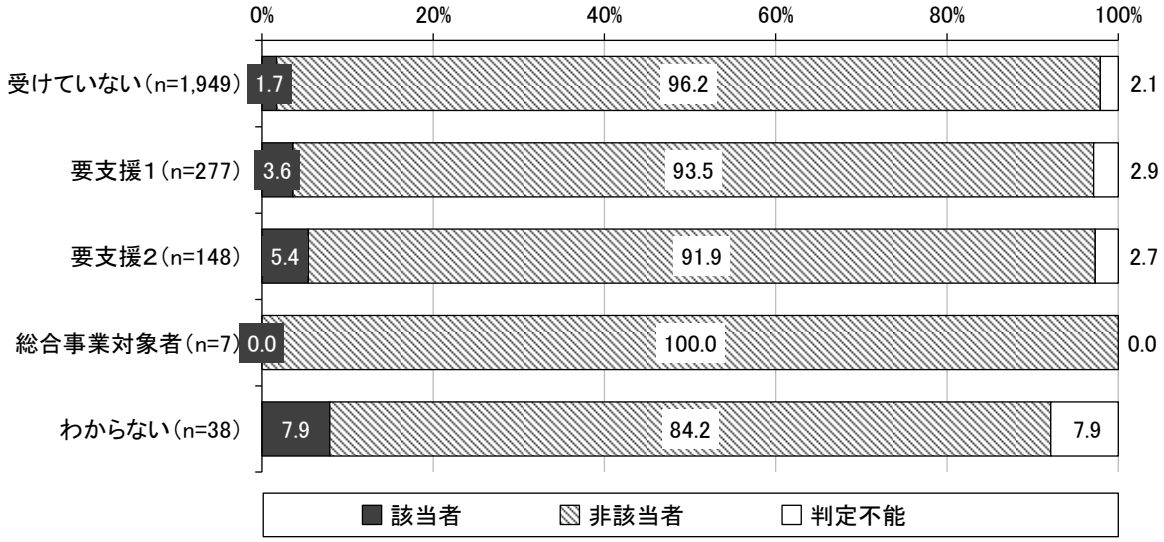


【認定状況別】〔（３）低栄養状態〕

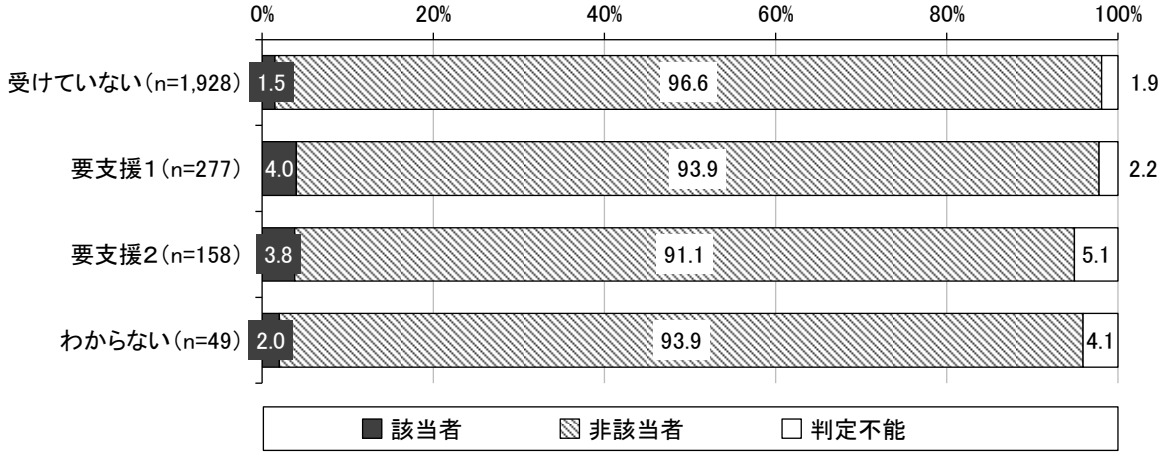
認定状況別にみると、要支援２では「該当者」がやや高くなっています。

認定状況別に前回調査をみると、大きな違いはみられません。

・今回調査



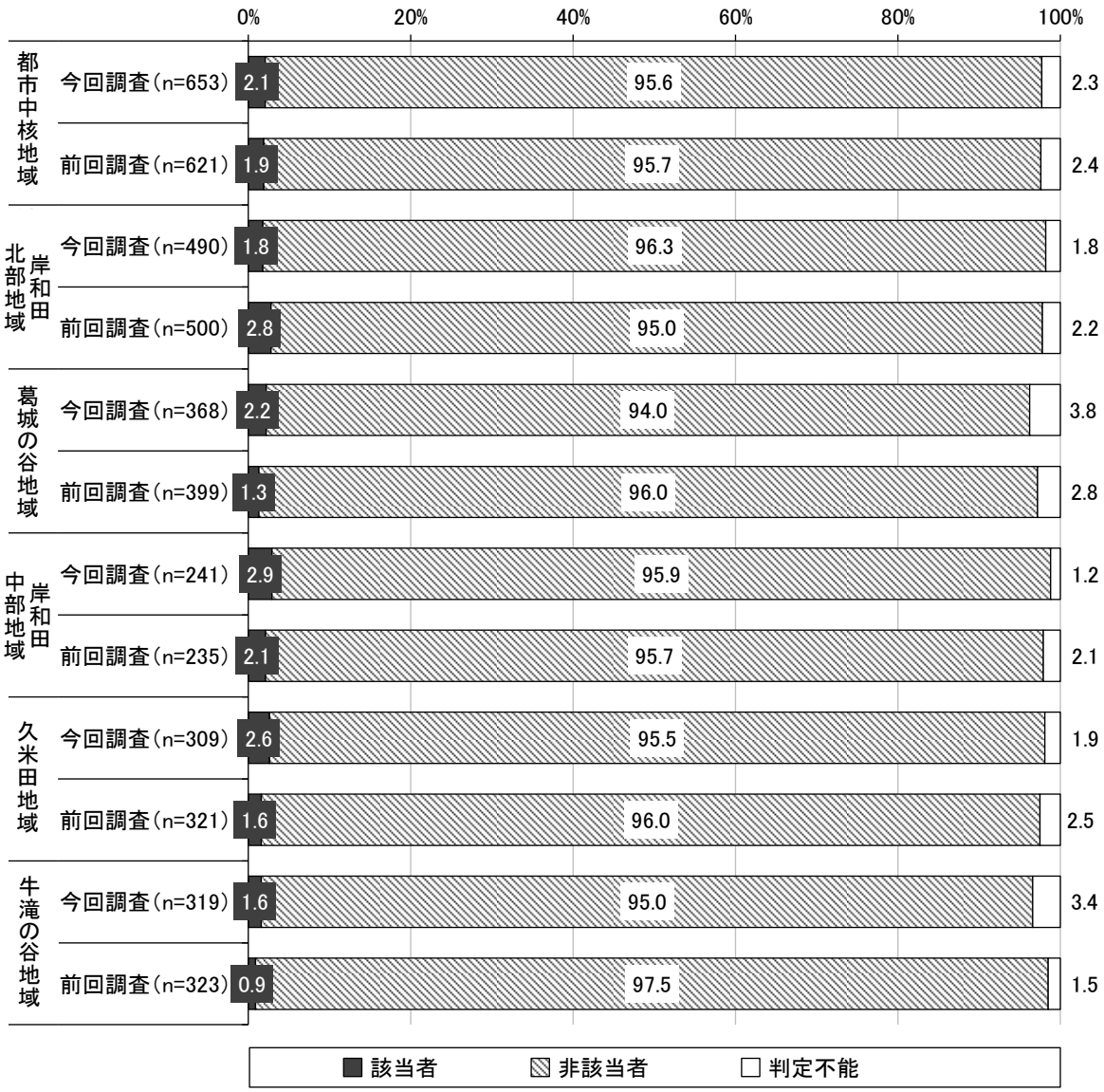
・前回調査



【地域別】〔（３）低栄養状態〕

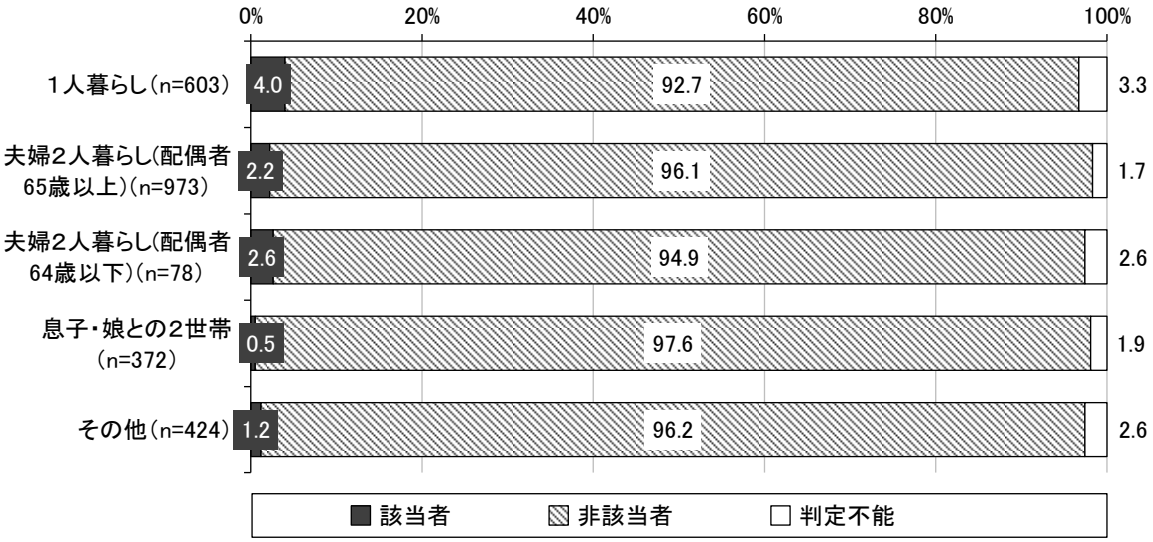
地域別にみると、大きな違いはみられません。

地域別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【家族構成別】〔（３）低栄養状態〕

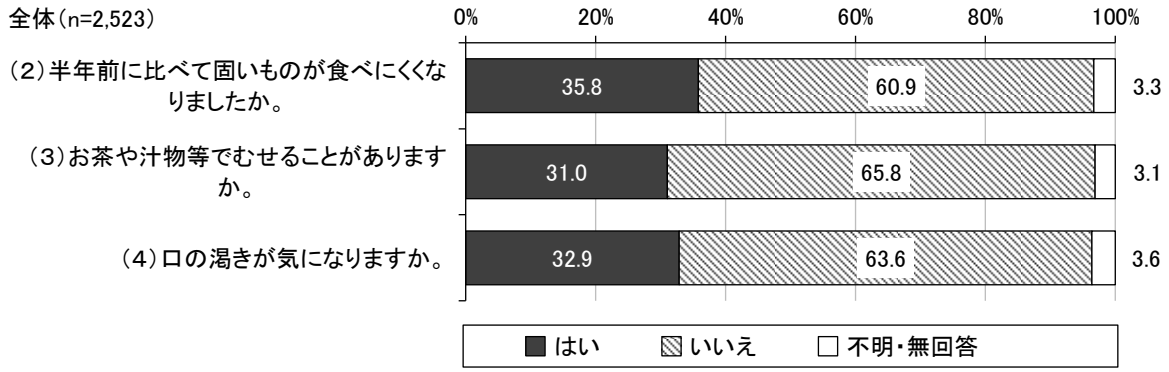
家族構成別にみると、１人暮らしでは「該当者」がやや高くなっています。



（４）口腔機能の低下

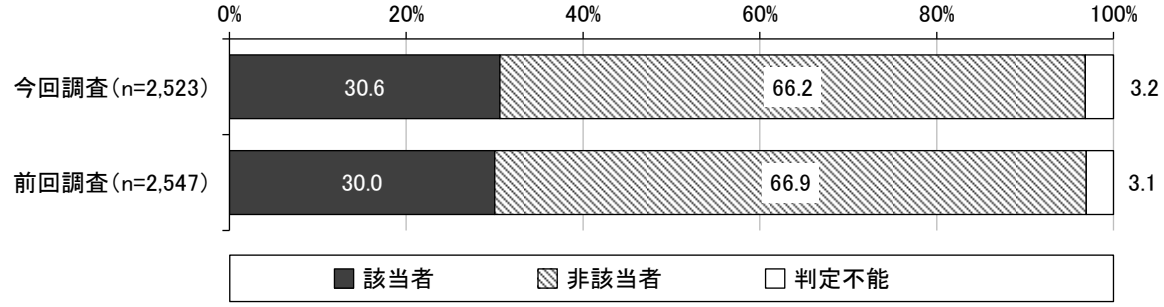
高齢者の口腔機能に関するリスク判定は、以下の設問３問中２問以上が該当した場合、口腔機能の低下と判定されます。

問番号	設問	リスク該当となる選択肢
問３（２）	半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	「はい」
問３（３）	お茶や汁物等でむせることがあるか	「はい」
問３（４）	口の渇きが気になるか	「はい」



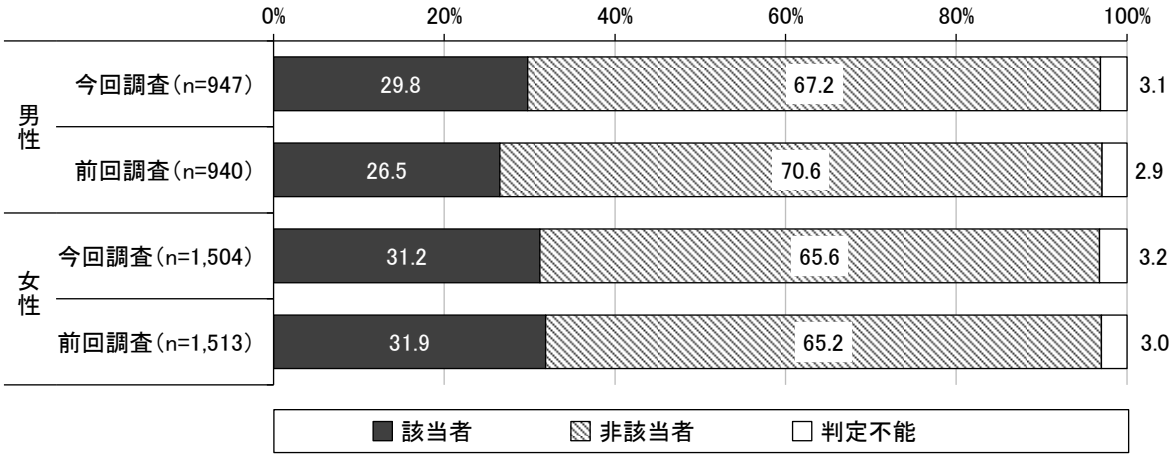
【前回比較】〔（４）口腔機能の低下〕

今回調査では、「該当者」が 30.6%、「非該当者」が 66.2%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（４）口腔機能の低下〕

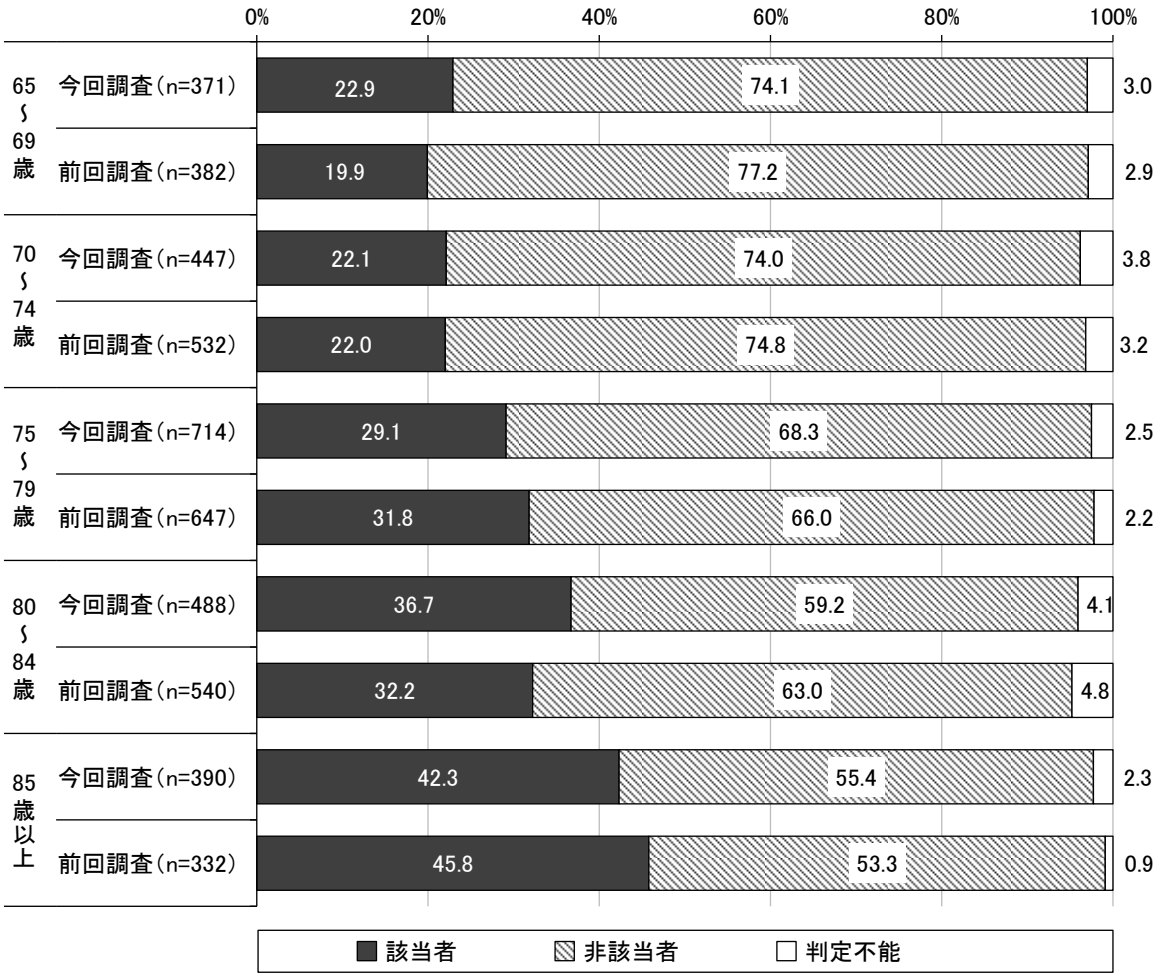
性別にみると、大きな違いはみられません。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（４）口腔機能の低下〕

年齢別にみると、高齢になるほど「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 42.3%となっています。

年齢別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。

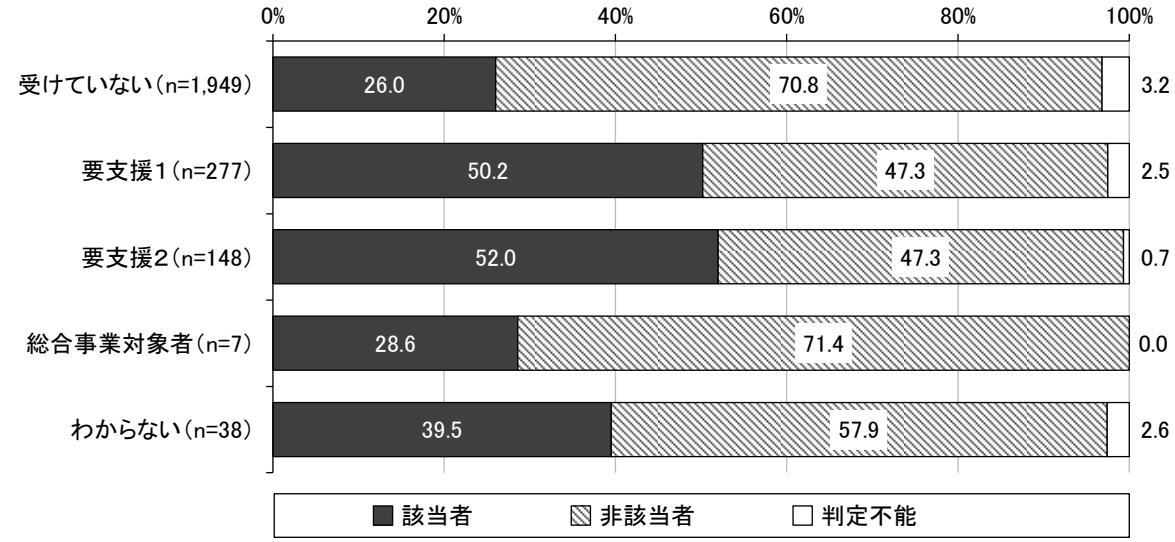


【要支援認定別】〔（４）口腔機能の低下〕

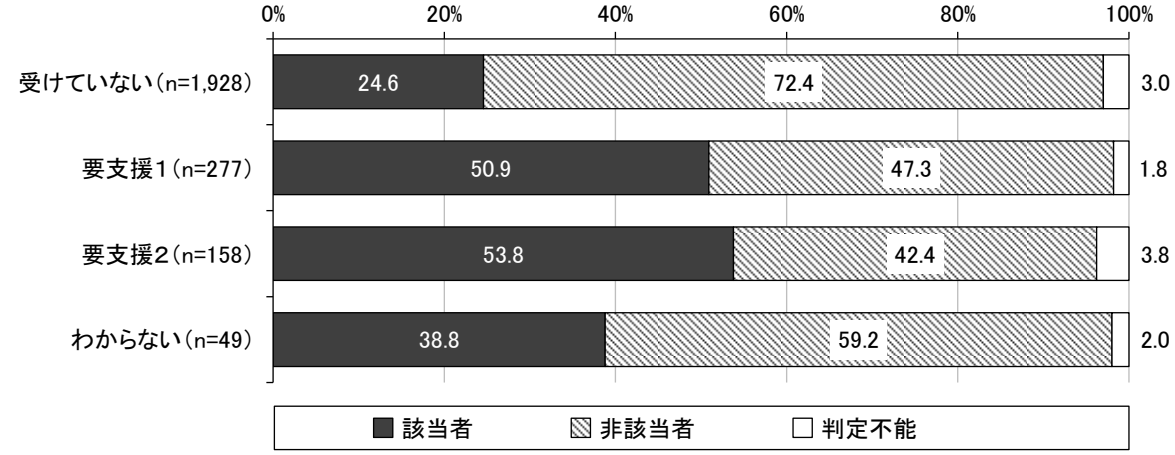
要支援認定別にみると、「該当者」の割合は、要支援１では 50.2%、要支援２では 52.0%、総合事業対象者では 28.6%となっています。

要支援認定別に前回調査をみると、「該当者」の割合は、要支援１が 50.9%、要支援２が 53.8%となっています。

・今回調査



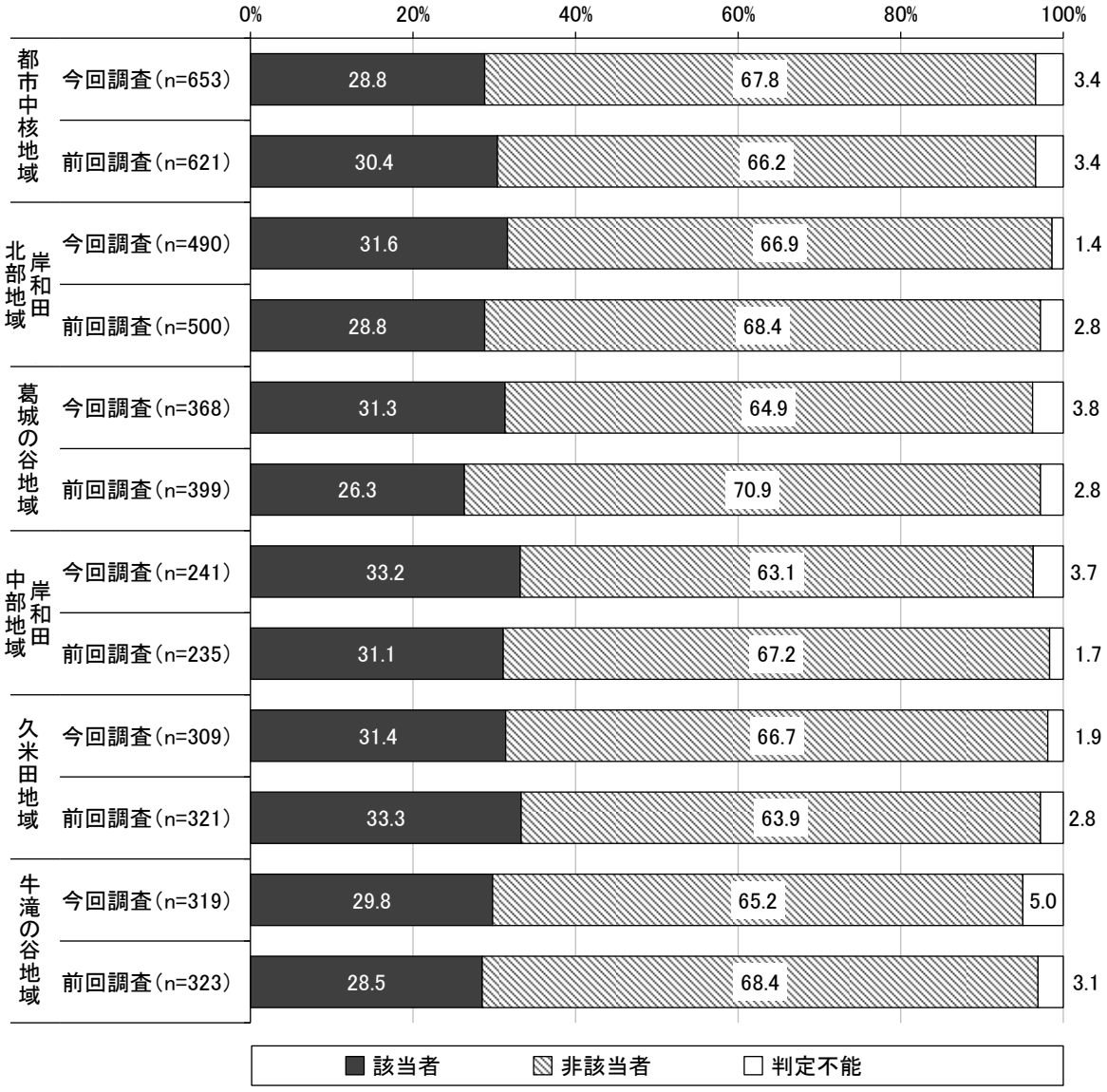
・前回調査



【地域別】〔（４）口腔機能の低下〕

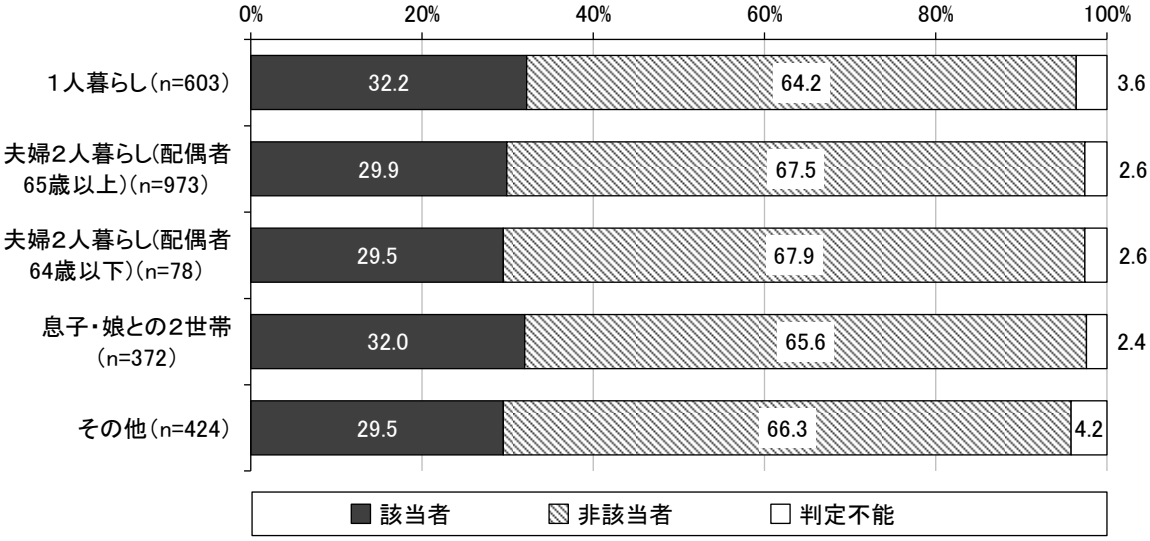
地域別にみると、「該当者」の割合は、岸和田中部地域で 33.2％と最も高く、次いで岸和田北部地域で 31.6％となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、葛城の谷地域で 5.0 ポイント増加しています。



【家族構成別】〔（４） 口腔機能の低下〕

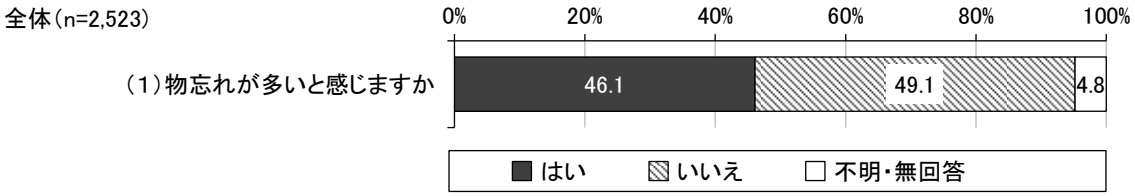
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、１人暮らしで 32.2％と最も高く、次いで息子・娘との２世帯で 32.0％となっています。



（５） 認知機能の低下

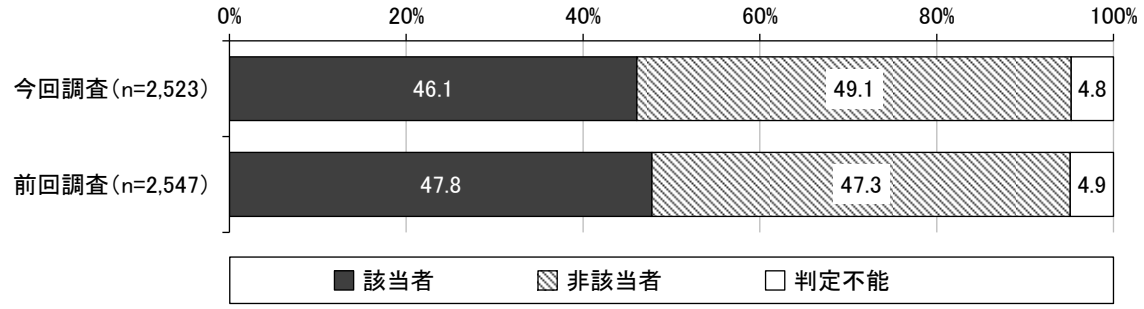
高齢者の認知機能に関するリスク判定は、以下の設問に該当した場合、認知機能の低下と判定されます。

問番号	設問	リスク該当となる選択肢
問４（１）	物忘れが多いと感じるか	「はい」



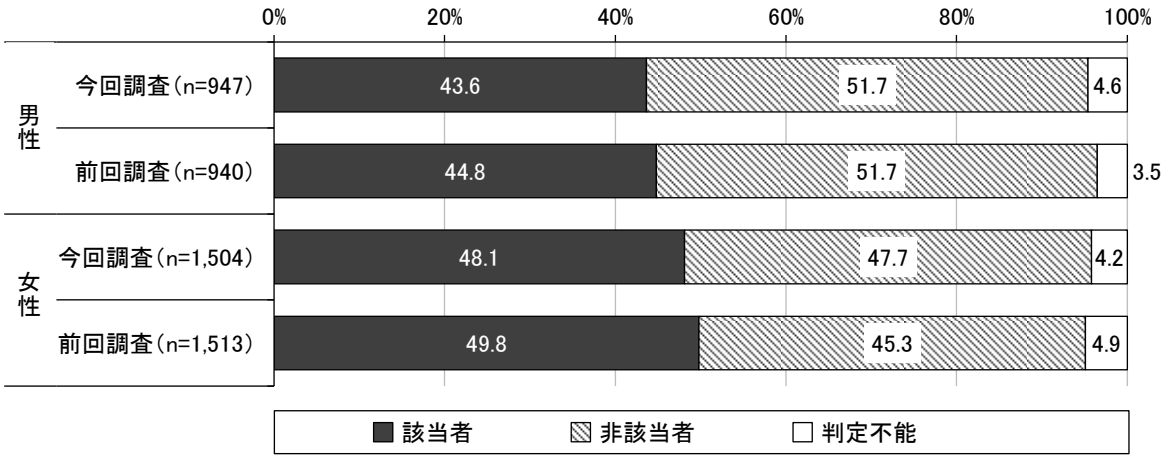
【前回比較】〔（５） 認知機能の低下〕

今回調査では、「該当者」が 46.1%、「非該当者」が 49.1%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（５） 認知機能の低下〕

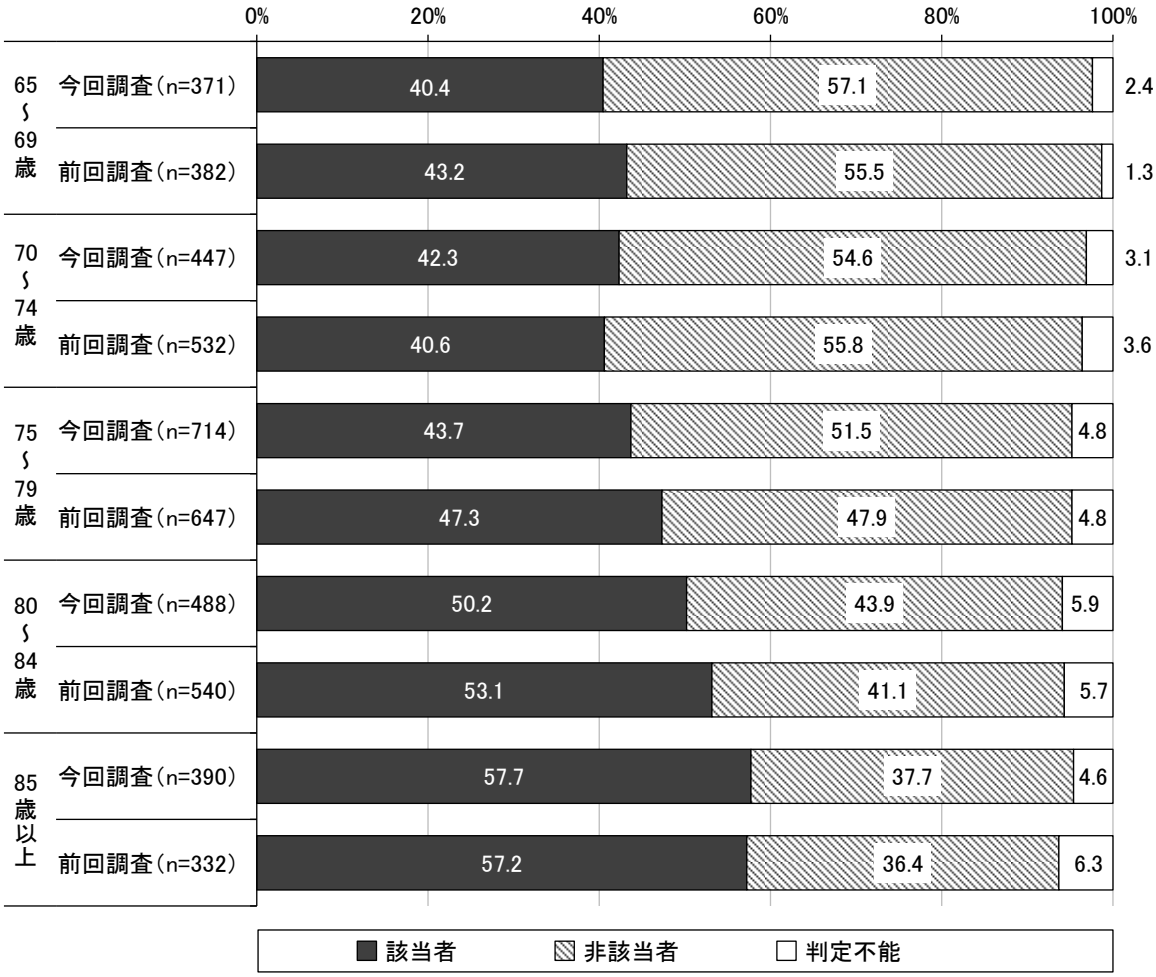
性別にみると、大きな違いはみられません。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（５）認知機能の低下〕

年齢別にみると、高齢になるほど「該当者」の割合が高くなっており、85 歳以上では 57.7%となっています。

年齢別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。

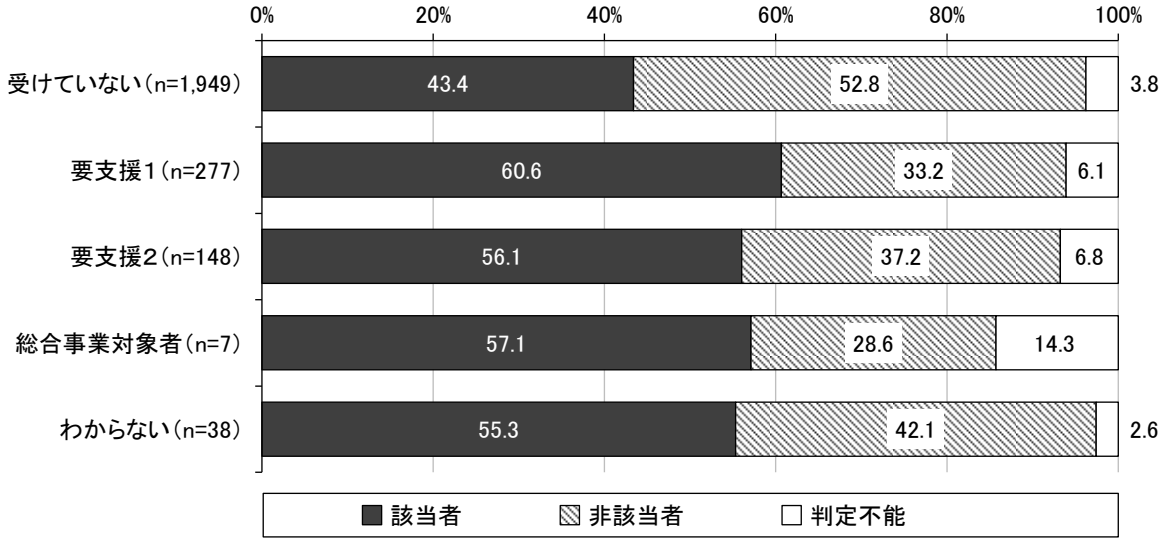


【認定状況別】〔（５） 認知機能の低下〕

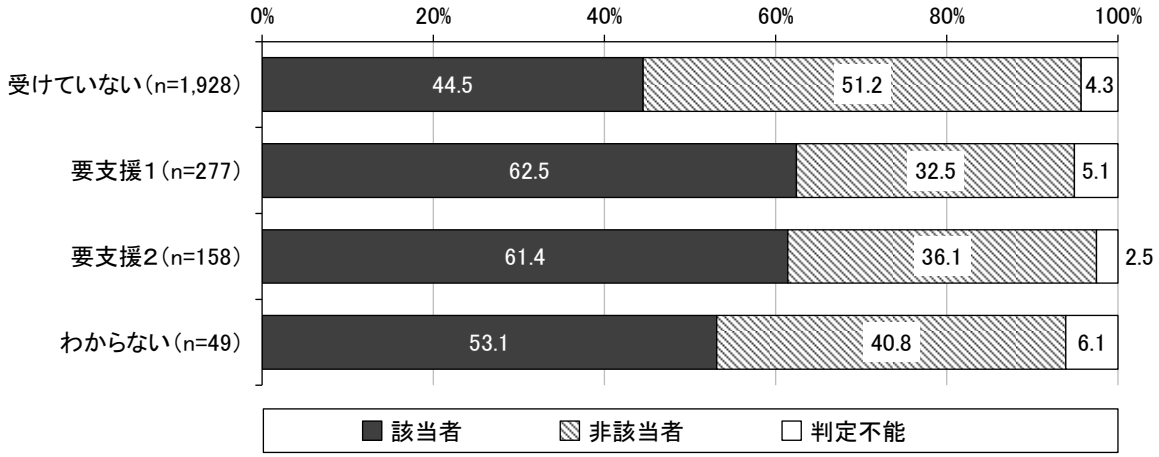
認定状況別にみると、「該当者」の割合は、要支援１では 60.6%、要支援２では 56.1%、総合事業対象者では 57.1%となっています。

認定状況別に前回調査をみると、「該当者」の割合は、総合事業対象者が 62.5%、要支援認定者が 61.4%となっています。

・今回調査



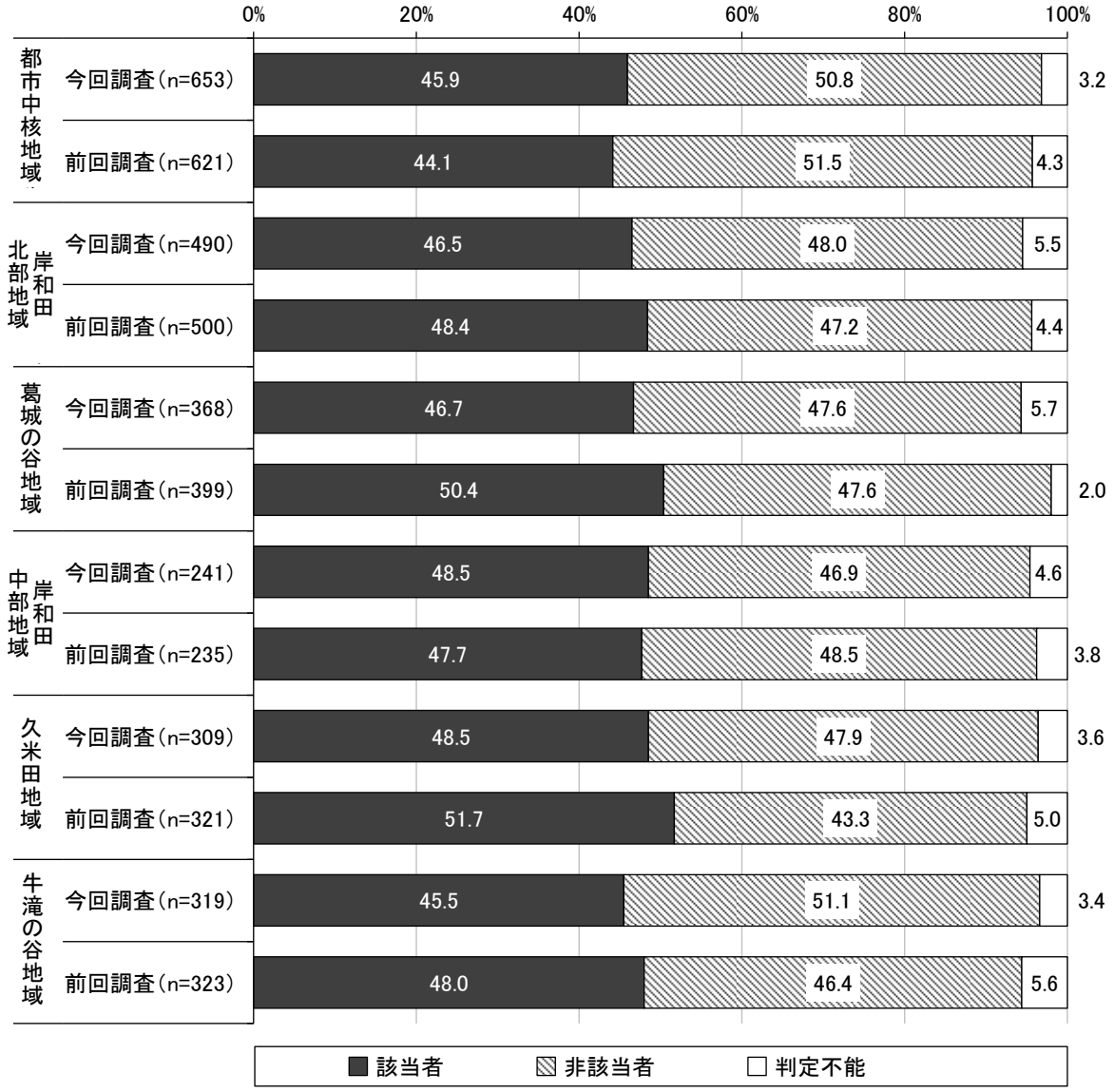
・前回調査



【地域別】〔（５）認知機能の低下〕

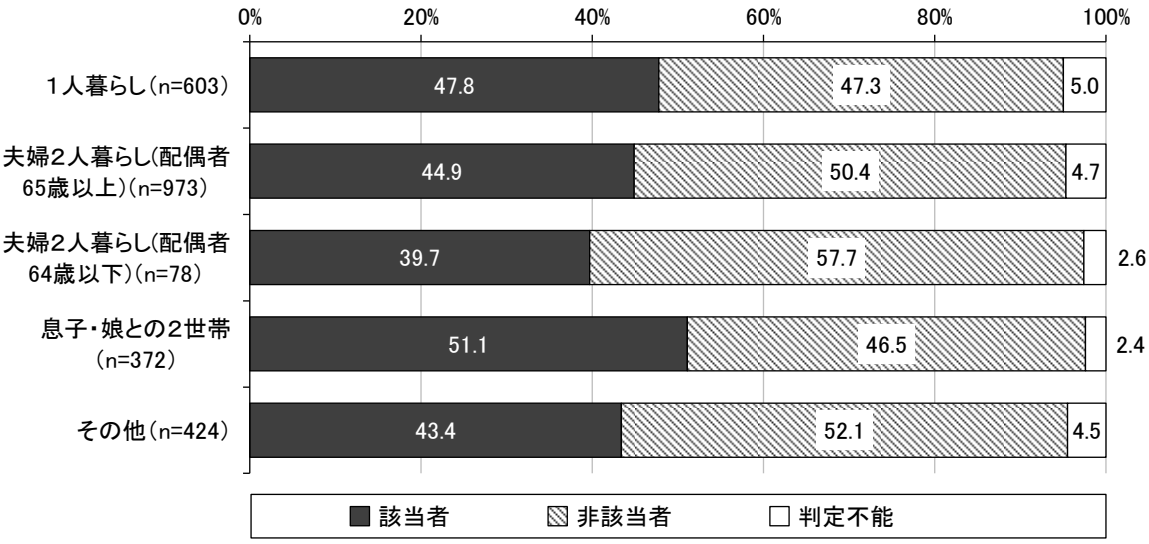
地域別にみると、「該当者」の割合は、岸和田中部地域、久米田地域で 48.5%と最も高くなっています。

地域別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【家族構成別】〔（５） 認知機能の低下〕

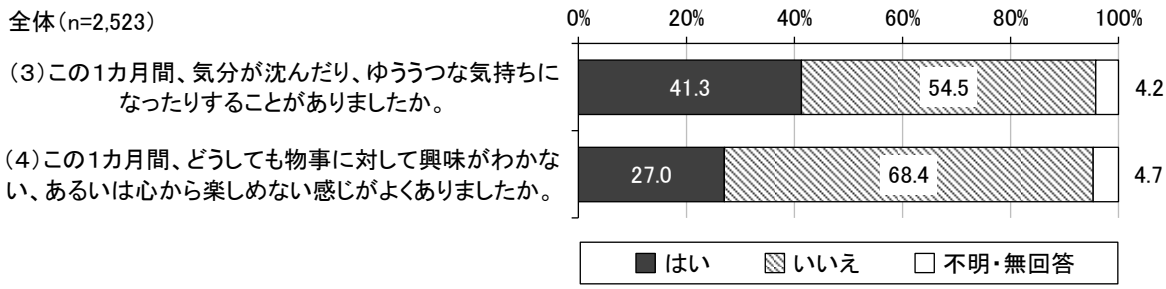
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、息子・娘との２世帯で 51.1％と最も高く、次いで１人暮らしで 47.8％となっています。



（６） うつ傾向

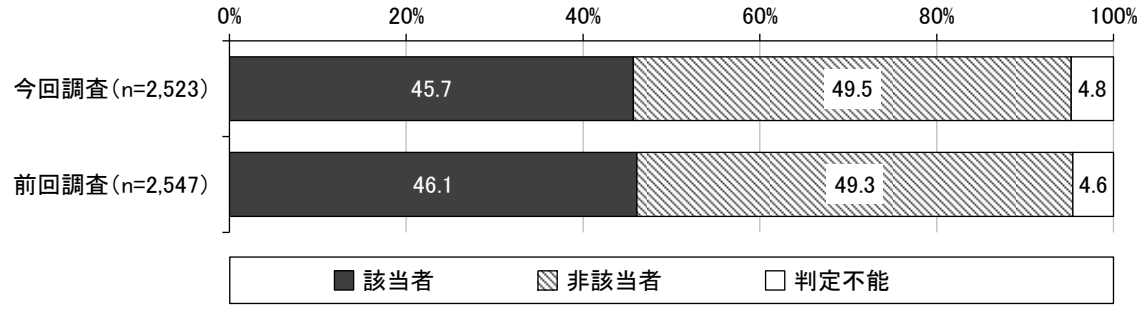
高齢者のうつに関するリスク判定は、以下の設問２問中１問以上該当した場合、うつ傾向のリスクありと判定されます。

問番号	設問	リスク該当となる選択肢
問８ （３）	この１カ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりしたか	「はい」
問８ （４）	この１カ月間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか	「はい」



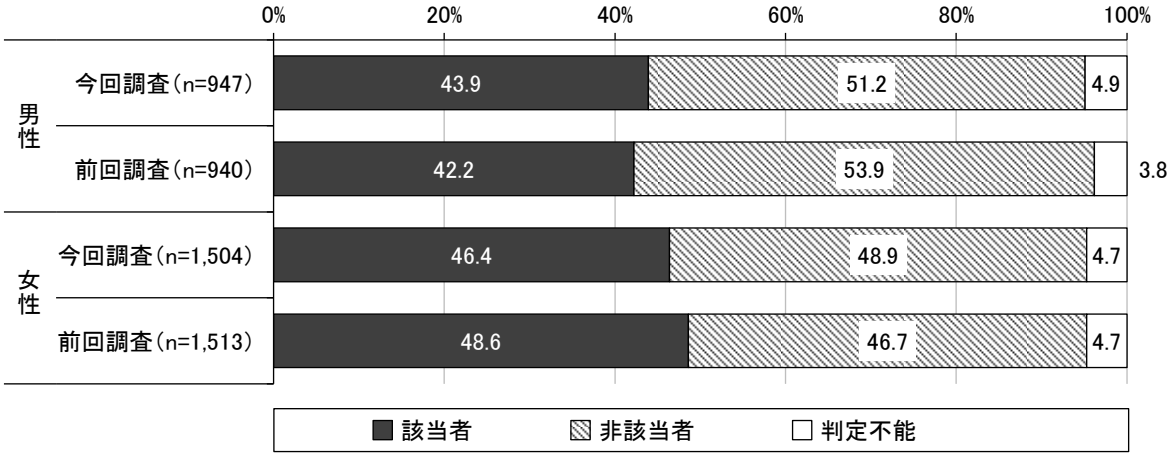
【前回比較】〔（６） うつ傾向〕

今回調査では、「該当者」が 45.7%、「非該当者」が 49.5%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（６） うつ傾向〕

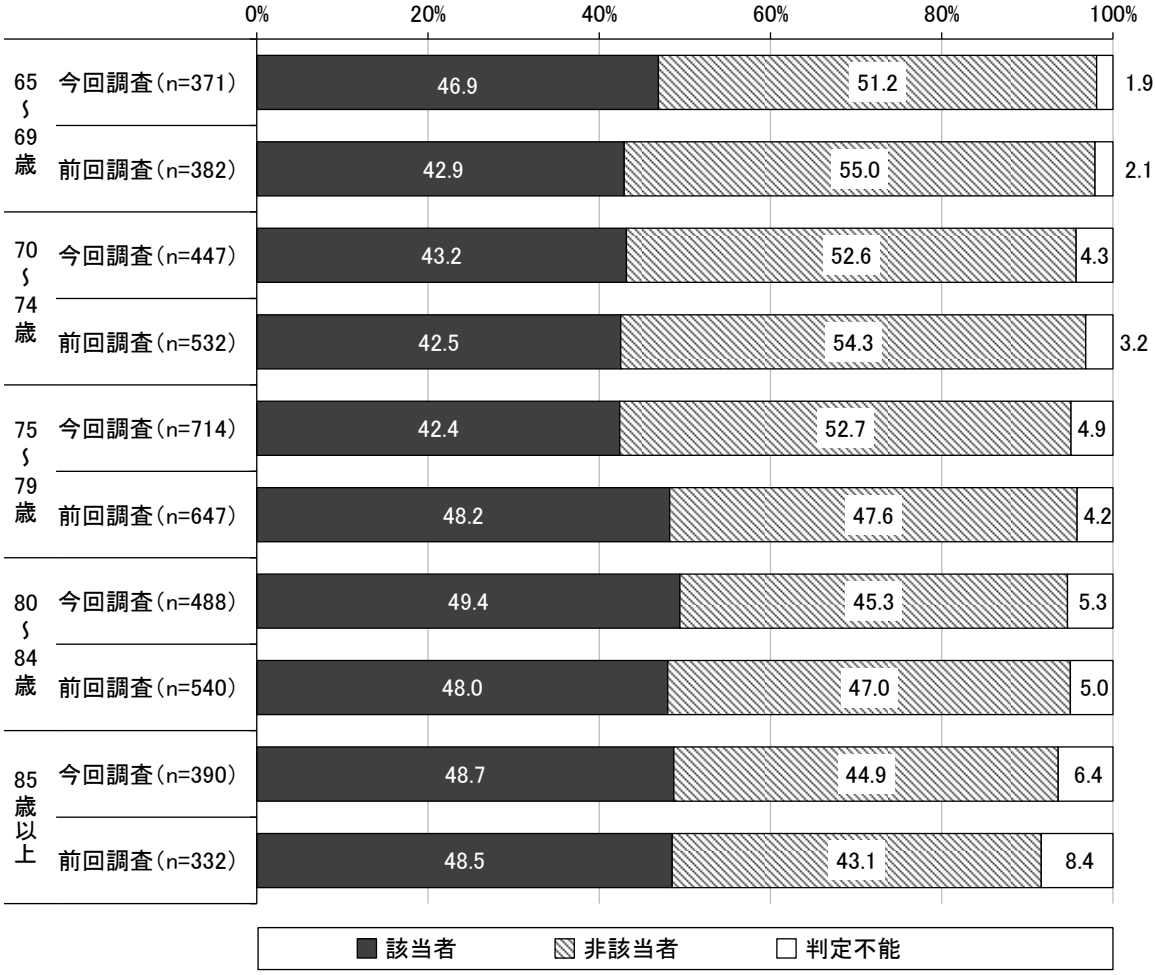
性別にみると、大きな違いはみられません。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（６）うつ傾向〕

年齢別にみると、「該当者」の割合は、80～84 歳で 49.4％と最も高く、次いで 85 歳以上で 48.7％となっています。

年齢別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、75～79 歳で 5.8 ポイント減少しています。

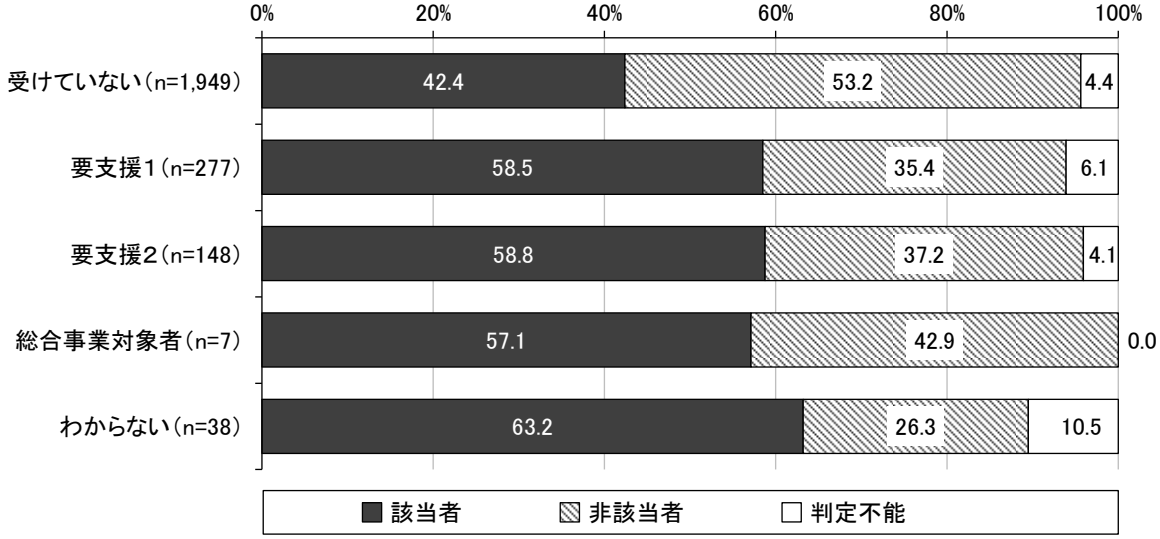


【認定状況別】〔（６） うつ傾向〕

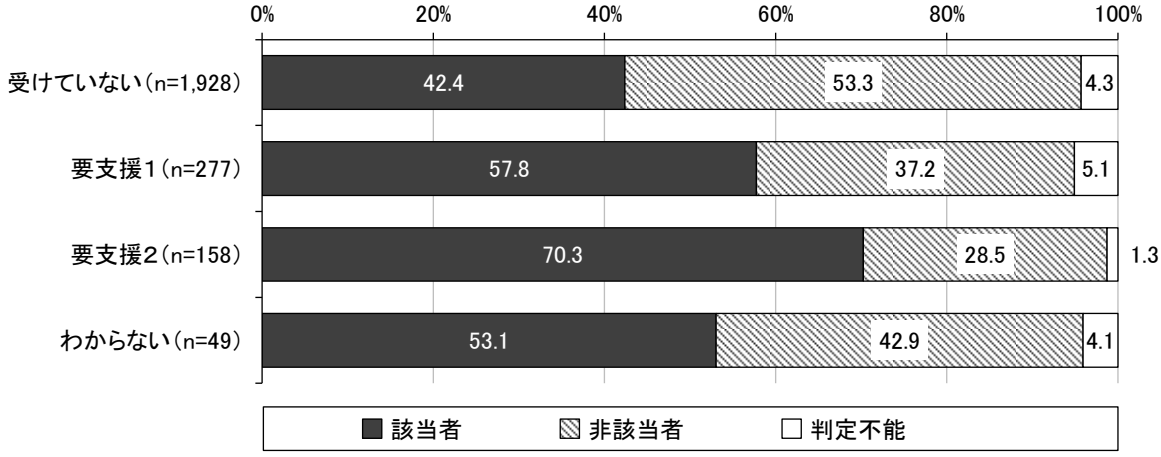
認定状況別にみると、「該当者」の割合は、要支援１では 58.5%、要支援２では 58.8%、総合事業対象者では 57.1%となっています。

認定状況別に前回調査をみると、「該当者」の割合は、要支援１が 57.8%、要支援２が 70.3%となっています。

・今回調査



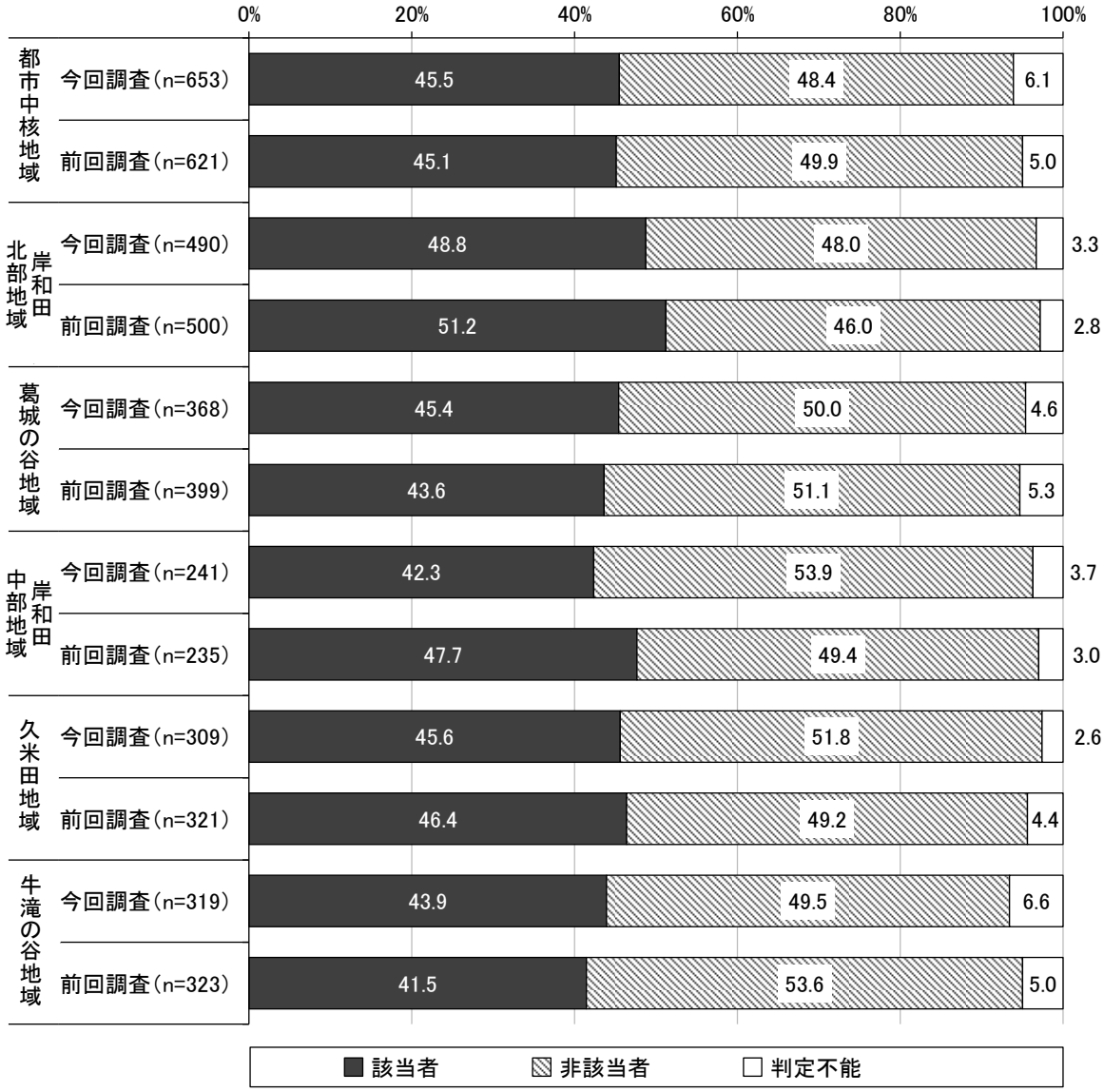
・前回調査



【地域別】〔（６） うつ傾向〕

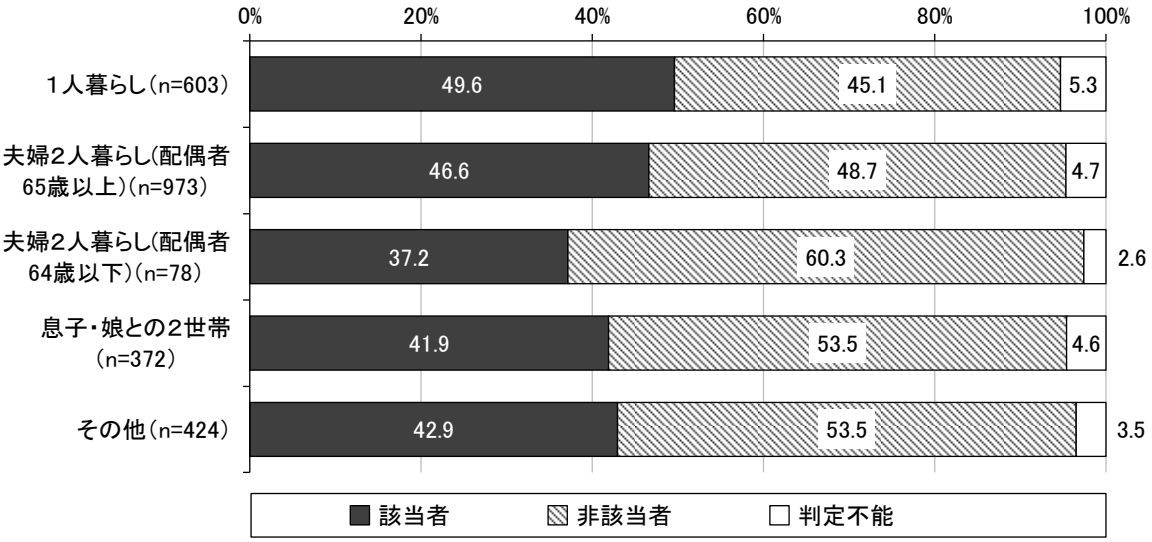
地域別にみると、「該当者」の割合は、岸和田北部地域で48.8％と最も高く、次いで久米田地域で45.6％となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、岸和田中部地域で 5.4 ポイント減少しています。



【家族構成別】〔（６） うつ傾向〕

家族構成別にみると、「該当者」の割合は、１人暮らしで 49.6％と最も高く、次いで夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)で 46.6％となっています。

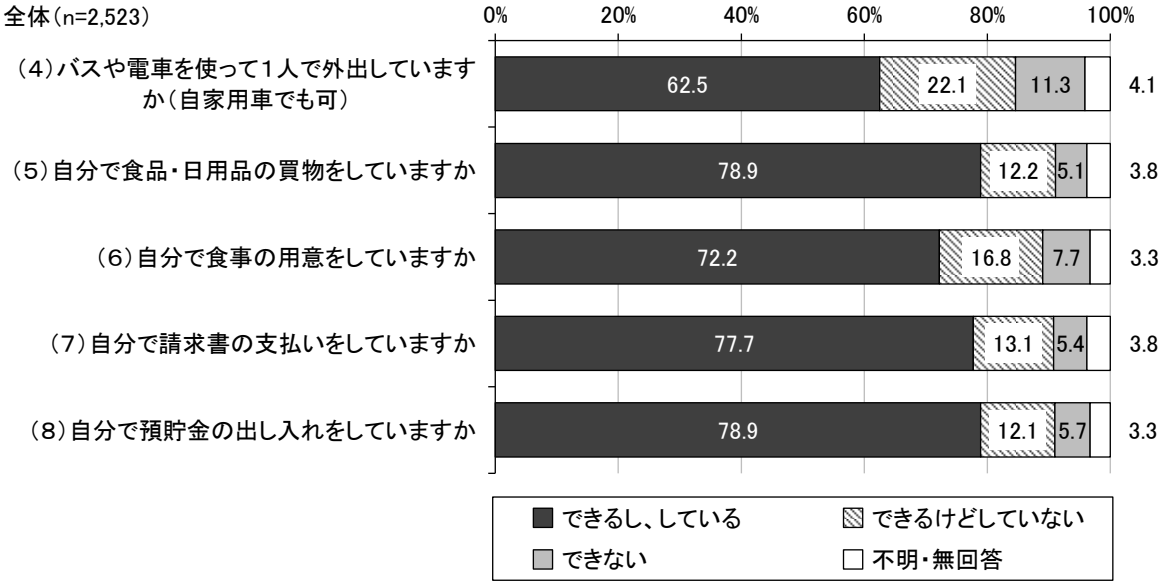


（７）手段的自立度

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標から、手段的自立度（ＩＡＤＬ）を判定するため、以下の設問５問を５満点とし、５点を「高い」、４点を「やや低い」、３点以下を「低い」と評価します。

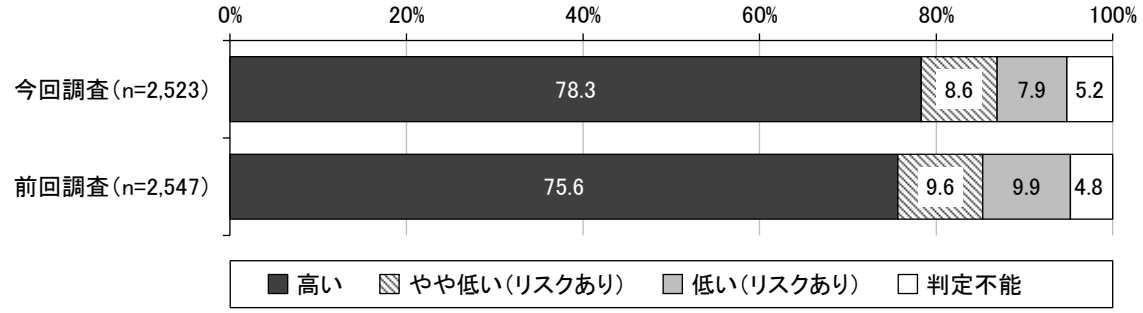
手段的自立度（ＩＡＤＬ）のリスク判定は、４点以下の「やや低い」「低い」と該当した場合に、手段的自立度（ＩＡＤＬ）の低下と判定されます。

問番号	設問	配点
問４（４）	バスや電車を使って１人で外出しているか（自家用車でも可）	「できるし、している」 「できるけどしていない」
問４（５）	自分で食品・日用品の買物をしているか	「できるし、している」 「できるけどしていない」
問４（６）	自分で食事の用意をしているか	「できるし、している」 「できるけどしていない」
問４（７）	自分で請求書の支払いをしているか	「できるし、している」 「できるけどしていない」
問４（８）	自分で預貯金の出し入れをしているか	「できるし、している」 「できるけどしていない」



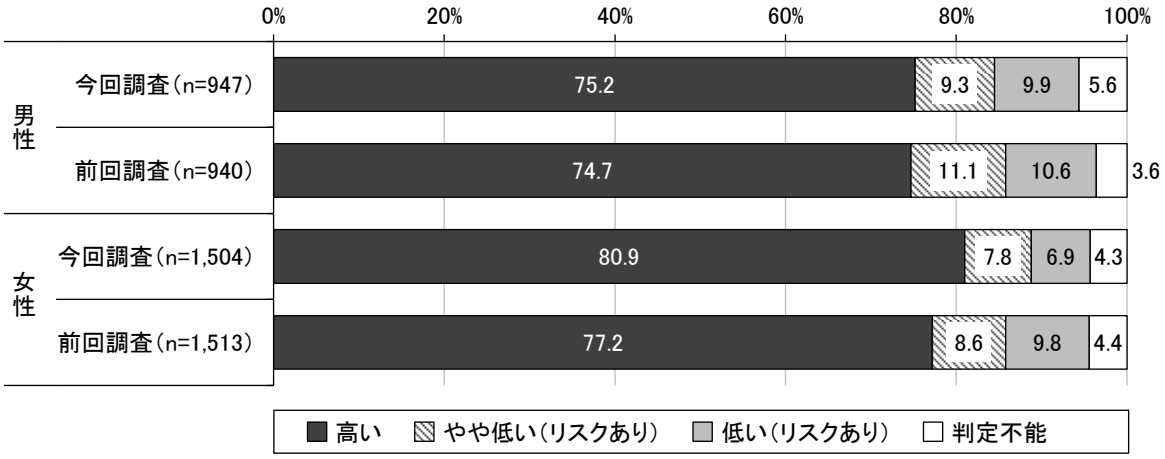
【前回比較】〔（７） 手段的自立度〕

今回調査では、『リスクあり（「やや低い」＋「低い」）』は 16.5％となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【性別】〔（７） 手段的自立度〕

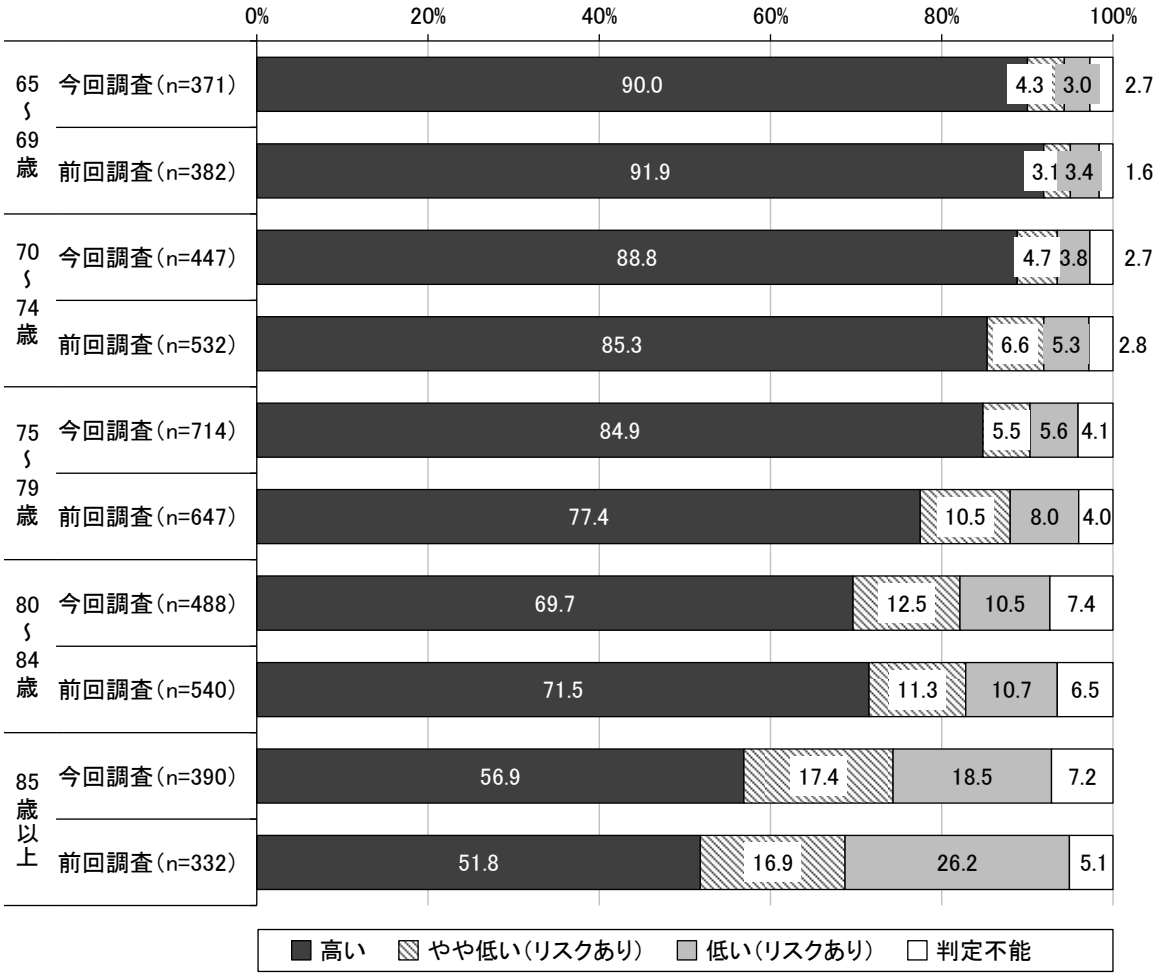
性別にみると、『リスクあり』の割合は男性が 19.2％、女性が 14.7％となっています。
性別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



【年齢別】〔（７）手段的自立度〕

年齢別にみると、高齢になるほど『リスクあり』の割合が高くなっており、85 歳以上では 35.9%となっています。

年齢別に前回調査と比較すると、『リスクあり』の割合は 75～79 歳で 7.4 ポイント、85 歳以上で 7.2 ポイント減少しています。

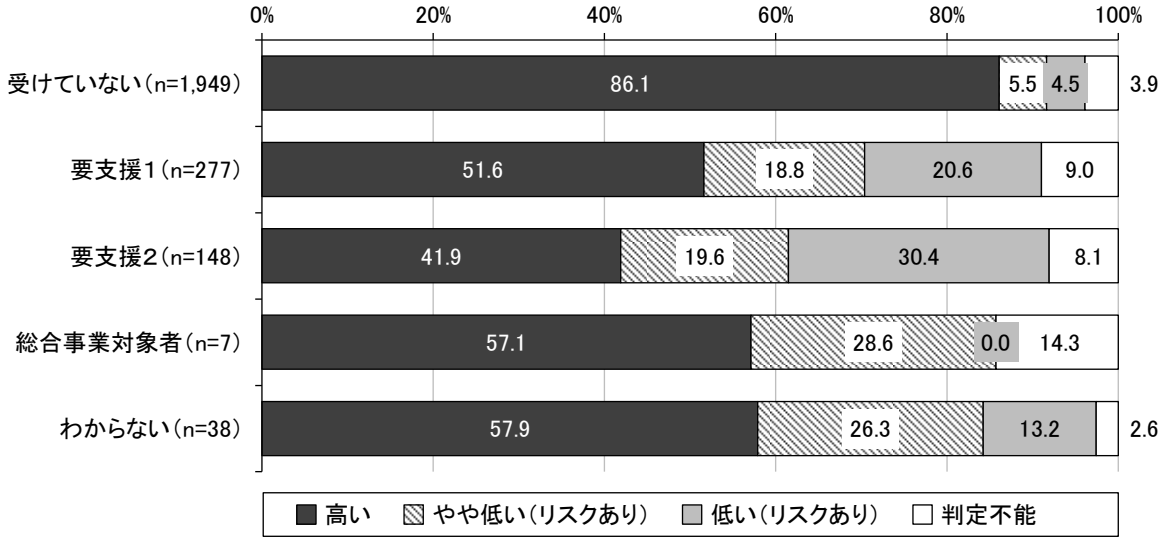


【認定状況別】〔（７）手段的自立度〕

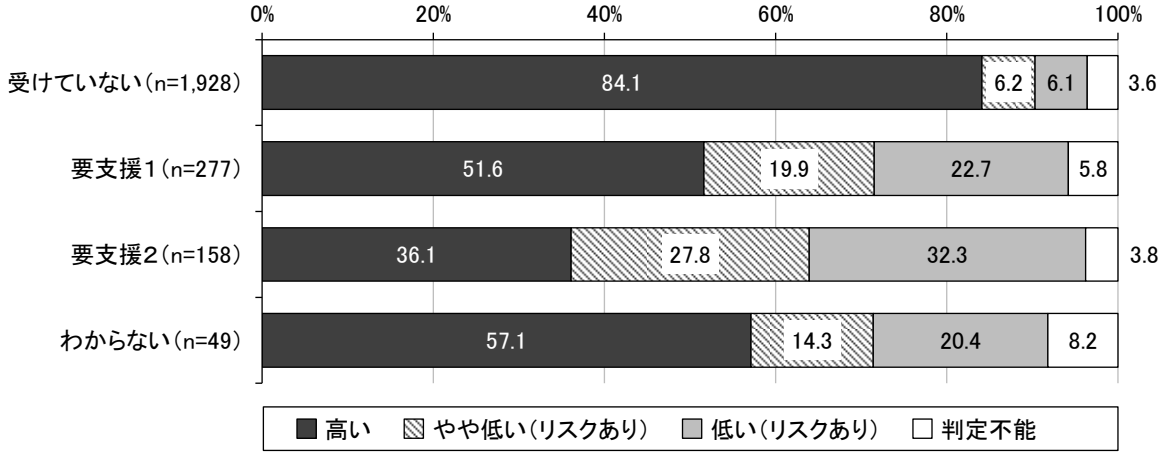
認定状況別にみると、『リスクあり』の割合は、要支援１では 39.4%、要支援２では 50.0%、総合事業対象者では 28.6%となっています。

認定状況別に前回調査をみると、『リスクあり』の割合は、要支援１が 42.6%、要支援２が 60.1%となっています。

・今回調査



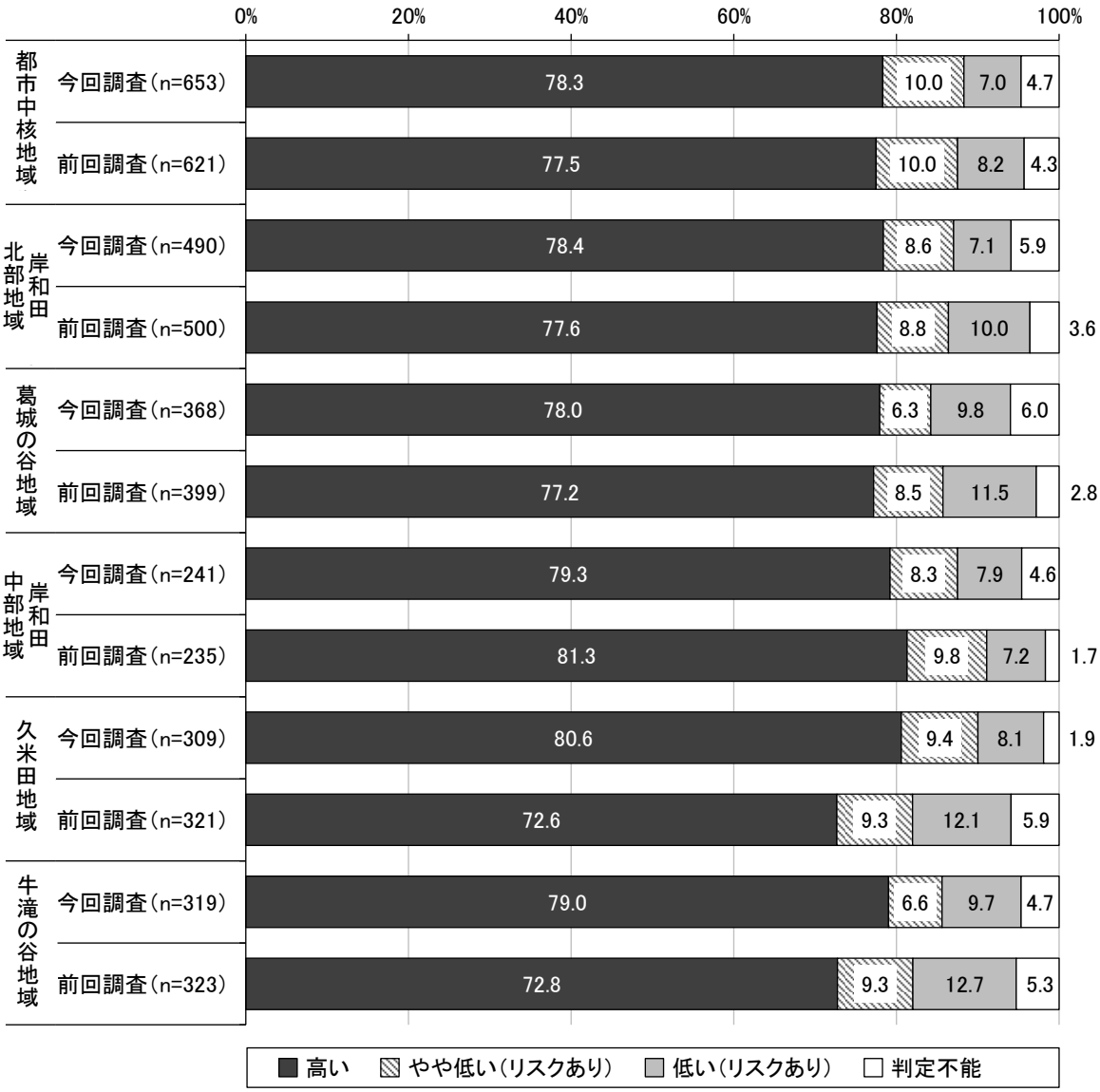
・前回調査



【地域別】〔（７）手段的自立度〕

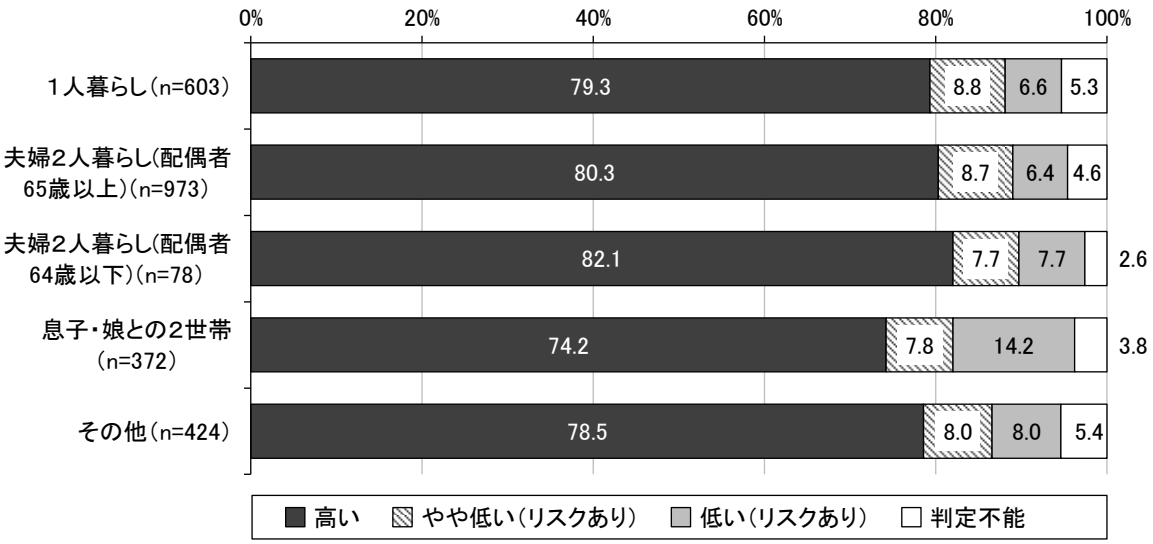
地域別にみると、『リスクあり』の割合は、久米田地域で 17.5%と最も高く、次いで都市中核地域で 17.1%となっています。

地域別に前回調査と比較すると、『リスクあり』の割合は、牛滝の谷地域で 5.7 ポイント減少しています。



【家族構成別】〔（７） 手段的自立度〕

家族構成別にみると、『リスクあり』の割合は、息子・娘との２世帯で 22.0％と最も高く、次いでその他で 16.0％となっています。



Ⅲ　アンケート調査票

岸和田市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

日頃より、岸和田市の高齢者福祉及び介護保険行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

岸和田市では、「岸和田市高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画」（計画期間：令和９年度～令和11年度）の策定にあたり、皆様の生活状況について把握するため、岸和田市内にお住まいの高齢者3,300人（65歳以上の方で介護認定を受けておられない方と要支援１、２の方から無作為に抽出した方）に対してアンケート調査を実施します。

調査票にご記入していただいた内容につきましては、統計的な情報処理を行い、必要に応じて皆様の健康状態の改善や介護予防の推進、日常生活の支援など、保健福祉活動に活用させていただく場合がありますが、本調査の目的以外には決して使用いたしません。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和７年 12 月　岸和田市長　佐野　英利

記入にあたってのお願い

１．この調査の対象者は、令和７年12月１日現在、65歳以上の方で介護認定を受けておられない方と、要支援１、２の方の中から無作為に抽出した方になります。
２．本調査は、調査票を受け取ったご本人がお答えいただくか、ご家族の方がご本人の意思をご確認のうえ、代わりにお答えください。
３．回答は、質問にしたがってあてはまる番号に○をつけたり、数値や文章をご記入ください。
４．この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。
　介護…介護保険のサービスを受けている場合のほか、介護認定を受けていない場合でも、常時ご家族などの援助を受けている状態
　介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態

ご記入いただいたこの調査票は、令和８年１月30日（金）までに同封の返信用封筒によりポストへ投函してください。（切手を貼る必要はありません。）

※記入方法等についてわかりにくい点などございましたら、お気軽にお問合わせください。

岸和田市役所　介護保険課

電話（直通）０７２－４２３－９４７４

ご回答される方について

○この調査票に記入された方は、どなたですか。（１つに○）

1	封筒のあて名のご本人が記入
2	ご家族が記入（封筒のあて名のご本人からみた続柄　　）
3	その他（　　）

○　あなたの性別をお答えください。（１つに○）

1	男性	2	女性	3	答えたくない

○　あなたの年齢をお答えください。

令和７年 12 月１日現在　（　　）歳

○　あなたの現在の認定状況を教えてください。（１つに○）

1	受けていない	2	要支援１
3	要支援２	4	総合事業対象者
5	わからない		

（令和７年 12 月１日現在の認定状況を○で囲んでください）

○　あなたのお住まいの地区はどこですか。（１つに○）

都市中核地域					
1	中央校区	2	城内校区	3	浜校区
4	朝陽校区	5	東光校区	6	大宮校区
岸和田北部地域					
1	春木校区	2	大芝校区	3	城北校区
4	新条校区				
葛城の谷地域					
1	旭校区	2	太田校区	3	天神山校区
4	修斉校区	5	東葛城校区		
岸和田中部地域					
1	常盤校区	2	光明校区		
久米田地域					
1	八木北校区	2	八木校区	3	八木南校区
牛滝の谷地域					
1	山直北校区	2	城東校区	3	山直南校区
4	山滝校区				

問１　あなたのご家族や生活状況について

（１）家族構成をお教えください。（１つに○）

1	１人暮らし	2	夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)
3	夫婦２人暮らし(配偶者 64 歳以下)	4	息子・娘との２世帯
5	その他（　　）		

（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（１つに○）

1	介護・介助は必要ない　⇒（３）へ
2	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3	現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

（２）で「２」または「３」を回答した方にお伺いします。

（２）-１　介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1	脳卒中・(脳出血･脳梗塞等)	2	心臓病
3	がん（悪性新生物）	4	呼吸器の病気（肺気腫や肺炎等）
5	関節の病気（リウマチ等）	6	認知症（アルツハイマー病等）
7	パーキンソン病	8	糖尿病
9	腎疾患（透析）	10	視覚・聴覚障害
11	骨折・転倒	12	脊椎損傷
13	高齢による衰弱	14	不明
15	その他（　　）		

（２）で「３　現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします。

（２）-２　主にどなたからの介護、介助を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

1	配偶者（夫・妻）	2	息子
3	娘	4	子の配偶者
5	孫	6	兄弟・姉妹
7	介護サービスのヘルパー	8	その他（　　）

（３）以降は、全員にお伺いします。

（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。（１つに○）

1	大変苦しい	2	やや苦しい	3	ふつう
4	ややゆとりがある	5	大変ゆとりがある		

（4）　お住いは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。（１つに○）

1	持家（一戸建て）	2	持家（集合住宅）
3	公営賃貸住宅	4	民間賃貸住宅（一戸建て）
5	民間賃貸住宅（集合住宅）	6	借家
7	その他（　　）		

問2　からだを動かすことについて

（1）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。（１つに○）

1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない

（2）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。（１つに○）

1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない

（3）15分位続けて歩いていますか。（杖や歩行器を使用している場合も含みます）（１つに○）

1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない

（4）過去１年間に転んだ経験がありますか。（１つに○）

1	何度もある	2	１度ある	3	ない

（5）転倒に対する不安は大きいですか。（１つに○）

1	とても不安である	2	やや不安である
3	あまり不安でない	4	不安でない

（6）週に１回以上は外出していますか。（１つに○）

1	ほとんど外出しない	2	週１回
3	週２～４回	4	週５回以上

（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（１つに○）

1	とても減っている	2	減っている
3	あまり減っていない	4	減っていない

（8）外出を控えていますか。（1つに○）

1　はい	2　いいえ　⇒（9）へ

（8）で「1　はい」（外出を控えている）と回答した方にお伺いします。

（8）-1　外出を控えている理由は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1	病気	2	障害（脳卒中の後遺症等）	3	足腰などの痛み
4	トイレの心配（失禁等）	5	耳の障害（聞こえの問題等）	6	目の障害
7	外での楽しみがない	8	経済的に出られない	9	交通手段がない
10	その他（　　）				

（9）は全員にお伺いします。

（9）外出する際の移動手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1	徒歩	2	自転車	3	バイク
4	自動車（自分で運転）	5	自動車（人に乗せてもらう）	6	電車
7	コミュニティバス（ローズバス）	8	路線バス	9	病院や施設のバス
10	車いす	11	電動車いす（カート）	12	歩行器・シルバーカー（手押し車）
13	タクシー	14	その他（　　）		

問3　食べることについて

（1）身長・体重をそれぞれご記入ください。（数字を右詰めで記入）

身長 □□□ cm　体重 □□□ kg

（2）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。（1つに○）

1　はい	2　いいえ

（3）お茶や汁物等でむせることがありますか。（1つに○）

1　はい	2　いいえ

（4）口の渇きが気になりますか。（1つに○）

1　はい	2　いいえ

（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（1つに○）

1　はい	2　いいえ

（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。（１つに○）
（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

1	自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用
2	自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし
3	自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用
4	自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし

（7）６カ月間で２～３㎏以上の体重減少がありましたか。（１つに○）

1	はい	2	いいえ

（8）どなたかと食事をともにする機会はありますか。（１つに○）

1	毎日ある	2	週に何度かある	3	月に何度かある
4	年に何度かある	5	ほとんどない		

問４　毎日の生活について

次の(１)～(12)について、あてはまるものを選んでください。

（1）物忘れが多いと感じますか（１つに○）					
1	はい	2	いいえ		
（2）自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（１つに○）					
1	はい	2	いいえ		
（3）今日が何月何日かわからないときがありますか（１つに○）					
1	はい	2	いいえ		
（4）バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）（１つに○）					
1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない
（5）自分で食品・日用品の買物をしていますか（１つに○）					
1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない
（6）自分で食事の用意をしていますか（１つに○）					
1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない
（7）自分で請求書の支払いをしていますか（１つに○）					
1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない
（8）自分で預貯金の出し入れをしていますか（１つに○）					
1	できるし、している	2	できるけどしていない	3	できない
（9）友人の家を訪ねていますか（１つに○）					

1　はい	2　いいえ
（10）家族や友人の相談にのっていますか（１つに○）	
1　はい	2　いいえ
（11）趣味はありますか（１つに○）	
1　はい ⟶	（具体的に：　　）
2　思いつかない	
（12）生きがいはありますか（１つに○）	
1　はい ⟶	（具体的に：　　）
2　思いつかない	

問５　地域での活動について

（１）以下のようなサークル・グループ活動等にどのくらいの頻度で参加していますか。
（①～⑧それぞれ１つに○）

	週４回以上	週２～３回	週１回	月１～３回	年に数回	参加していない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤いきいき百歳体操、リビング、サロンなどの介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

（2）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（1つに○）

1	是非参加したい	2	参加してもよい
3	参加したくない	4	既に参加している

（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つに○）

1	是非参加したい	2	参加してもよい
3	参加したくない	4	既に参加している

問6 就労について

（1）現在のあなたの就労状態はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1	職に就いたことがない	2	引退した	3	常勤（フルタイム）
4	非常勤（パート・アルバイト等）	5	自営業	6	求職中
7	その他（　　）				

（1）で「2　引退した」と回答した方にお伺いします。

（2）あなたはいつ引退しましたか。（数字を右詰めで記入）

1	昭和 □□ 年	2	平成 □□ 年	3	令和 □□ 年		

問7 たすけあいについて

次の(1)～(8)について、あてはまるものをすべて選んでください。

（1）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

1	配偶者	2	同居の子ども	3	別居の子ども
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	5	近隣	6	友人
7	その他（　　）	8	そのような人はいない		

（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

1	配偶者	2	同居の子ども	3	別居の子ども
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	5	近隣	6	友人
7	その他（　　）	8	そのような人はいない		

（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

1	配偶者	2	同居の子ども	3	別居の子ども
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	5	近隣	6	友人
7	その他（　　）	8	そのような人はいない		

（４）反対に、看病や世話をしてあげる人

1	配偶者	2	同居の子ども	3	別居の子ども
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	5	近隣	6	友人
7	その他（　　）	8	そのような人はいない		

（５）家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手を教えてください

1	自治会・町内会・老人クラブ	2	社会福祉協議会・民生委員
3	ケアマネジャー	4	医師・歯科医師・看護師
5	地域包括支援センター・役所	6	その他（　　）
7	そのような人はいない		

（６）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（１つに○）

1	毎日ある	2	週に何度かある	3	月に何度かある
4	年に何度かある	5	ほとんどない		

（７）この１カ月間、何人の友人・知人と会いましたか（１つに○）
（同じ人には何度会っても１人としてください）

1	０人（いない）	2	１～２人	3	３～５人
4	６～９人	5	１０人以上		

（８）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか

1	近所・同じ地域の人	2	幼なじみ	3	学生時代の友人
4	仕事での同僚・元同僚	5	趣味や関心が同じ友人	6	ボランティア等の活動での友人
7	その他（　　）	8	いない		

問８　健康について

（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか。（１つに○）

1	とてもよい	2	まあよい	3	あまりよくない	4	よくない

（2）あなたは、現在どの程度幸せですか。
（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、〇で囲んでください）

とても不幸 ◀――――――――――――――――――――――――――――▶ とても幸せ

０点　１点　２点　３点　４点　５点　６点　７点　８点　９点　10 点

（3）この１カ月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（１つに〇）

1	はい	2	いいえ

（4）この１カ月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（１つに〇）

1	はい	2	いいえ

（5）お酒は飲みますか。（１つに〇）

1	ほぼ毎日飲む	2	時々飲む
3	ほとんど飲まない	4	もともと飲まない

（6）タバコは吸っていますか。（１つに〇）

1	ほぼ毎日吸っている	2	時々吸っている
3	吸っていたがやめた	4	もともと吸っていない

（7）　現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（あてはまるものすべてに〇）

1	ない	2	高血圧
3	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	4	心臓病
5	糖尿病	6	高脂血症（脂質異常）
7	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	8	胃腸・肝臓・胆のうの病気
9	腎臓・前立腺の病気	10	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）
11	外傷（転倒・骨折等）	12	がん（悪性新生物）
13	血液・免疫の病気	14	うつ病
15	認知症（アルツハイマー病等）	16	パーキンソン病
17	目の病気	18	耳の病気
19	その他（　　）		

問９　認知症について

（１）あなた自身、または家族に認知症の症状がある人がいますか。（１つに○）

1	はい	2	いいえ

（２）認知症の人に接している、または接したことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1	家族（別居）として接している	2	親族（家族以外）として接している
3	同居している	4	隣近所のつきあいを通して接している
5	医療･介護などの仕事を通して接している	6	医療･介護以外の仕事を通して接している
7	まったくない	8	その他（　　）

（３）将来、認知症等により判断能力が不十分になった場合、支援してもらいたい人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

1	配偶者（夫・妻）	2	息子	3	娘
4	子の配偶者	5	孫	6	兄弟・姉妹
7	成年後見人等	8	その他（　　）	9	そのような人はいない

（４）認知症に対して不安に感じることについて、あてはまるものを教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

※以下の設問は、認知症について「あなたの不安」をおたずねするものです。
記載の内容は、実際に認知症になると必ず起こるというものではありません。

1	家族や大切な思い出を忘れてしまうこと		
2	買い物や料理、車の運転など、日常のことが自分でできなくなること		
3	自分らしく生きられなくなること	4	治療してもよくならないこと
5	相談先がわからないこと	6	家族に負担をかけること
7	お金の不安があること	8	現在の住まいで生活できなくなること
9	詐欺や悪質な勧誘にあうこと	10	外出中に迷子になること
11	家族以外の周囲の人の迷惑になること		
12	その他（　　）		
13	特にない	14	わからない

（５）あなたが認知症になったとしたら、どのように暮らしたいと思いますか。（１つに○）

1	今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活していきたい
2	医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい
3	介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい
4	認知症になったら、誰にも迷惑をかけないよう、ひとりで暮らしていきたい
5	その他（　　）
6	わからない

（６）自分自身や家族が認知症になってしまったとき、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1	相談窓口や病院、介護サービスなどがすぐにわかる情報の提供
2	認知症の家族間交流など、介護する家族の精神的負担を軽減できる場づくり
3	ボランティアや地域での支え合いなどにより在宅生活ができる仕組み
4	認知症の方が活動できる場、社会参加ができる機会の提供
5	介護の仕方やコミュニケーション方法などの研修会
6	認知症について住民が正しく理解できる普及活動と情報発信
7	成年後見制度の利用
8	その他（　　）

※成年後見制度…判断能力が不十分な方々の権利や財産を守り、意思決定を支援する仕組みであり、法律面や生活面で保護したり支援したりする制度です。

（７）認知症に関する相談窓口を知っていますか。（１つに○）

1	はい	2	いいえ

（８）岸和田市の認知症施策で知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1	認知症カフェ	2	認知症ケア報告会（KDC）	3	家族のつどい
4	認知症サポーター養成講座	5	見守りネットワーク	6	認知症初期集中支援チーム
7	その他（　　）			8	知っているものはない

（9）あなたが認知症予防のために日頃から心がけていることはどんなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

1	規則正しい生活をするようにしている
2	栄養のバランスのとれた食事を摂るようにしている
3	適度な運動を継続している
4	新聞やテレビなどで情報を得るようにしている
5	人との交流を心がけている
6	日記をつけるなど文章を書いたり、簡単な計算問題をしたりしている
7	その他（　　）
8	特にない

問 10　在宅医療について

（1）かかりつけ医はいますか。（1つに○）

1	いる （病院の医師）	2	いる （診療所、クリニックの医師）	3	いない

（2）かかりつけ歯科医はいますか。（1つに○）

1	いる	2	いない

（3）かかりつけの薬局はありますか。（1つに○）

1	はい	2	いいえ

（3）で「1　はい」（かかりつけ薬局がある）と回答した方にお伺いします。

（3）-1　かかりつけの薬剤師はいますか。（1つに○）

1	はい	2	いいえ

（4）以降は全員にお伺いします。

（4）あなたが脳卒中の後遺症などで症状の改善がすぐに見込めない状態で医療や介護が必要になったとき、主にどこで過ごしたいですか。（1つに○）

1	自宅（親族・知人の家も含む）	2	特別養護老人ホームなどの介護施設
3	病院で入院を継続	4	その他（　　）

（5）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。（１つに○）

1	自宅（親族・知人の家も含む）	2	特別養護老人ホームなどの介護施設
3	病院で入院を継続	4	ホスピスなどの緩和ケア施設
5	その他（　　）		

※緩和ケア施設…末期がんなどによる痛みを主体とした不快な症状や、不安に苦しむ患者の身体の諸症状を和らげ、平穏な心を取り戻すために援助し、本来の人らしさを発揮して生命を全うすることを目的とする施設。

（6）あなたは人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について知っていますか。（１つに○）

1	よく知っている	2	聞いたことはあるが知らない	3	知らない

※人生会議…もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のこと。

（7）老衰や後遺症などで通院が困難になった場合も病院に入院せず、自宅療養を継続できる体制を社会全体で進めていくべきだと思いますか。（１つに○）

1	とても思う	2	やや思う	3	あまり思わない

（8）在宅医療・介護を充実するにあたり、どのような在宅医療・介護体制の整備が最も重要だと思いますか。（１つに○）

1	24 時間いつでも診てもらえる体制	2	定期的に診療・訪問看護が受けられる体制
3	容態の急変時の体制	4	緩和ケア及び看取りの体制
5	家族の介護負担を軽減できる支援体制	6	家事等の生活支援体制
7	その他（　　）		

問 11　高齢者福祉全般について

（1）あなたは、健康を維持するためにしていることや、心がけていることがありますか。（３つまで○）

1	定期的なかかりつけ医への受診	2	いきいき百歳体操への参加
3	ウォーキングなどの適度な運動	4	家族や友人との会話
5	生きがいや趣味をもつこと	6	地域行事への参加
7	食事の栄養バランス	8	睡眠を十分にとる
9	ストレスをためないこと	10	規則正しい生活
11	歯や入れ歯の手入れ	12	テレビなどで健康に関する情報を得ること
13	その他（　　）		
14	特にない		

（２）あなたに介護が必要になった場合、どこで暮らしたいですか。（１つに○）

1	家族に支援してもらいながら自宅で生活したい
2	ホームヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスを利用しながら自宅で生活したい
3	介護保険施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい
4	その他（　　）
5	わからない

（３）将来的にあなたが、「ちょっとした困りごと」で手助けしてほしいと思われるものはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1	安否確認の声かけ	2	ちょっとした買物
3	ごみ出し	4	電球の交換や高い所の物を取る手助け
5	持家に関すること（雑草除去、片付け）	6	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い
7	入浴の見守りやちょっとした介助	8	通院の送迎や外出の付き添い
9	話し相手や相談相手	10	気軽に行ける自由な居場所の提供
11	災害時の避難の手助け	12	急に具合が悪くなったときの手助け
13	その他（　　）		
14	特に手助けは必要ない		
15	わからない		

（４）将来的に運転免許証を自主返納したいと思いますか。（１つに○）
※「１　はい」と回答した方は（　　）内に数字を記入。

1	はい　⇒　（　　）歳になったら返納しようと思う。　⇒（４）-１へ		
2	既に返納している、または元々運転免許証を所持していない		
3	いいえ	4	わからない

（４）で「１　はい」と回答した方にお伺いします。

（４）-１　運転免許証を返納した場合の交通手段について教えてください。（３つまで○）

1	電車・路線バス	2	コミュニティバス（ローズバス）
3	家族の送迎	4	友人の送迎
5	タクシー（民間運営）	6	その他（　　）

（５）以降は全員にお伺いします。

（５）高齢になっても、不便なく交通機関などを利用して移動するために、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。（３つまで○）

1	路線バスに加え、主に町内で利用できるコミュニティバスの運行本数を増やす
2	デマンドタクシーなど、地域特性に対応できる交通機関を配置する
3	バリアフリー化等、高齢者に優しい交通環境を整える
4	ガイドヘルパー等の福祉制度による移動支援サービスを利用しやすくする
5	地域のボランティア等による、利用しやすい輸送支援の仕組みをつくる
6	その他（　　）

（６）高齢者にとって住みよいまちをつくるために、どんなことが必要だと思いますか。（３つまで○）

1	困ったときに相談できる体制の整備
2	保健医療福祉に関する情報提供
3	在宅福祉サービスの充実
4	特別養護老人ホームなどの入所施設の充実
5	往診や緊急時対応などの医療体制の充実
6	リハビリテーション体制の充実
7	健康づくり事業の充実
8	道路・交通機関・建物などを利用しやすいようにするための整備・改善
9	災害時の支援体制の整備
10	生きがい活動の場づくりの推進
11	隣近所や地域のたすけあい・支え合い活動の推進
12	その他（　　）

● 以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。 ●

ご記入済みのアンケートは、同封の返信用封筒に入れて、

１月 30 日（金）までに ポストにご投函ください。

（切手は不要です）

岸和田市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書

発行：岸和田市役所　介護保険課
TEL：072-423-9474

発行年月：令和8年3月

Ⅰ.調査の概要について

報告書 P.1

1　調査の目的

岸和田市では、「岸和田市高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画」（計画期間：令和９年度～令和 11 年度）の策定にあたり、皆様の生活状況について把握するため、岸和田市内にお住まいの高齢者 3,300 人（65 歳以上の方で介護認定を受けておられない方と要支援１、２の方から無作為に抽出した方）に対してアンケート調査を実施しました。

2　調査概要

項目	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
調査対象者	岸和田市内在住の 65 歳以上の方 (65 歳以上の方で介護認定を受けておられない方と 要支援１、２の方から無作為に抽出した方)
調査期間	令和７年 12 月 18 日（木）～令和８年１月 30 日（金）
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式
配布数	3,300 件
有効回収数	2,523 件
有効回収率	76.5%

3　報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から１つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から２つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「ｎ（number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

◇「その他」「不明・無回答」を除き、回答数の割合が高いもの第１位に網掛けをしています。

2.生活機能リスクの改善傾向

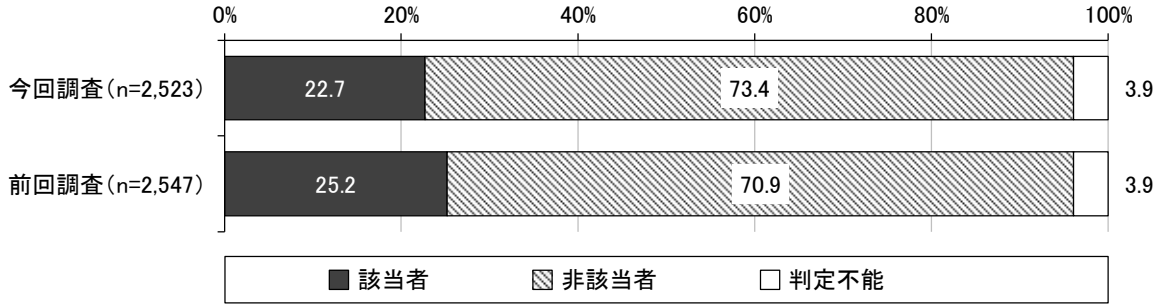
(1) 運動器機能の低下

報告書 P.91、92

高齢者の運動器機能に関するリスク判定は、以下の設問５問中３問以上該当した場合、運動器機能の低下と判定されます。

【前回比較】〔(1) 運動器機能の低下〕

今回調査では、「該当者」が 22.7%、「非該当者」が 73.4%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



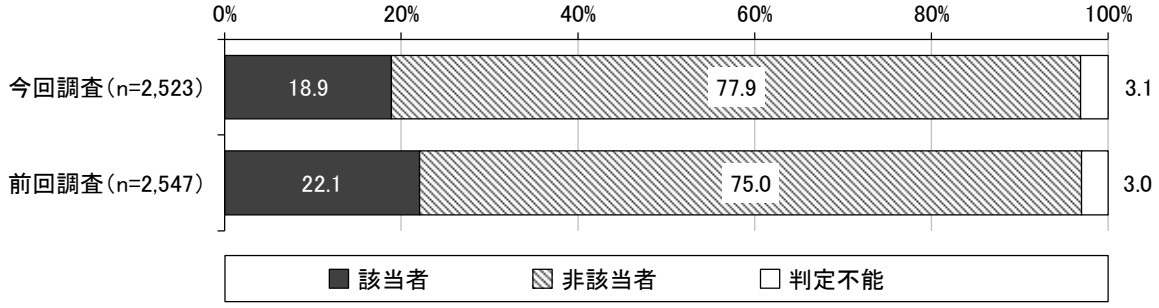
(2) 閉じこもり傾向

報告書 P.96、97

高齢者の閉じこもりに関するリスク判定は、以下の設問に該当した場合、閉じこもり傾向のリスクありと判定されます。

【前回比較】〔(2) 閉じこもり傾向〕

今回調査では、「該当者」が 18.9%、「非該当者」が 77.9%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



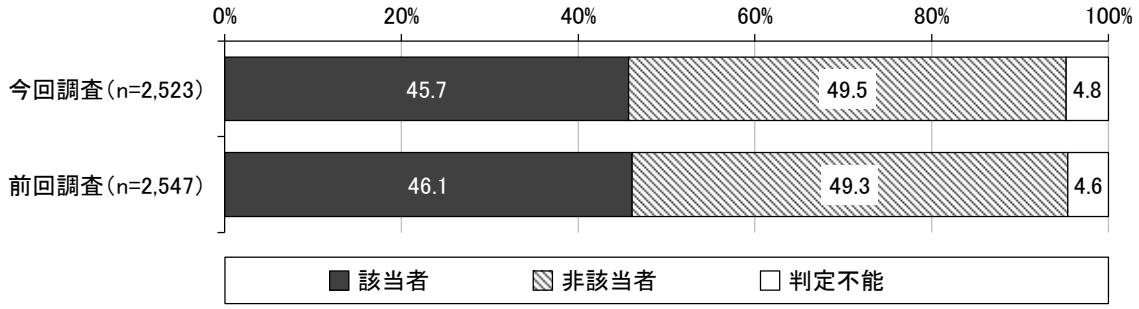
（６）うつ傾向

報告書 P.116、117

高齢者のうつに関するリスク判定は、以下の設問２問中１問以上該当した場合、うつ傾向のリスクありと判定されます。

【前回比較】〔（６）うつ傾向〕

今回調査では、「該当者」が 45.7%、「非該当者」が 49.5%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。



（７）手段的自立度

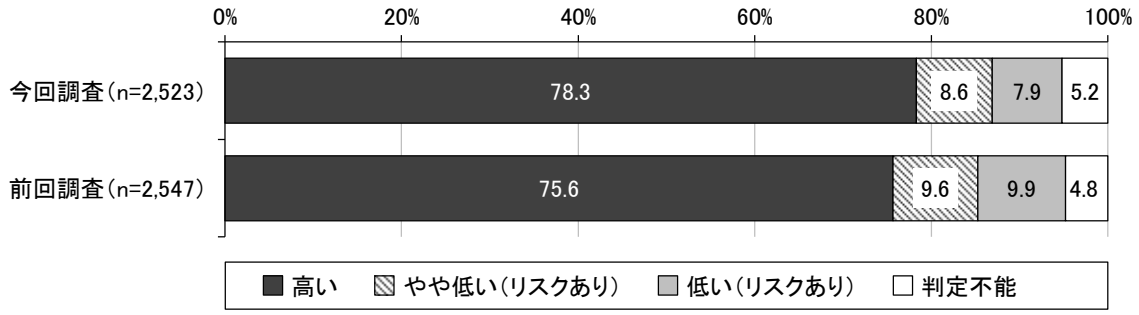
報告書 P.122、123

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標から、手段的自立度（ＩＡＤＬ）を判定するため、以下の設問５問を５満点とし、５点を「高い」、４点を「やや低い」、３点以下を「低い」と評価します。

手段的自立度（ＩＡＤＬ）のリスク判定は、４点以下の「やや低い」「低い」と該当した場合に、手段的自立度（ＩＡＤＬ）の低下と判定されます。

【前回比較】〔（７）手段的自立度〕

今回調査では、『リスクあり（「やや低い」＋「低い」）』は 16.5%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。

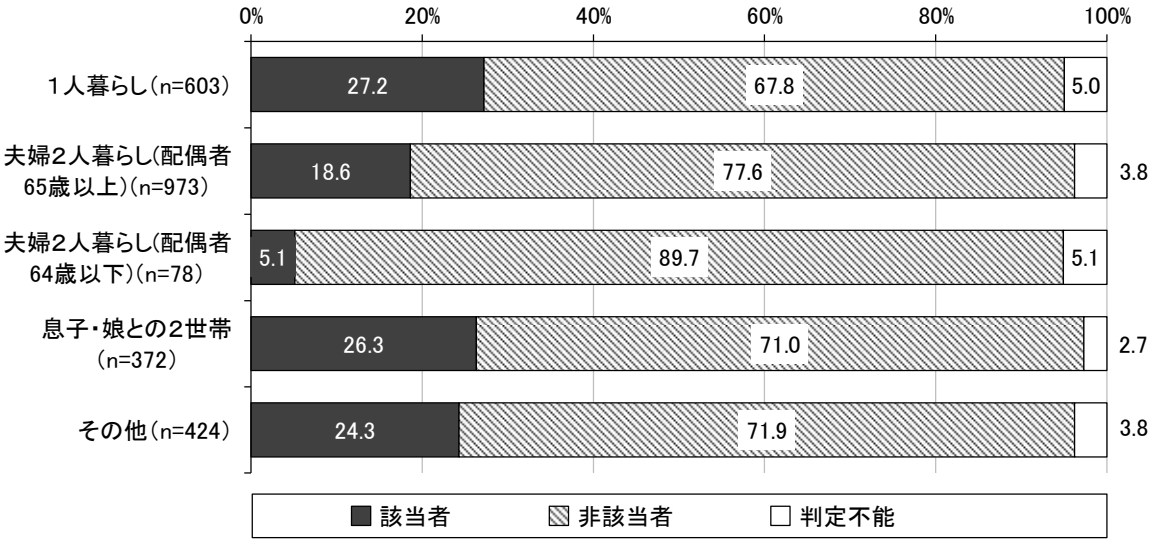


3.1 人暮らし高齢者の抱えるリスク

【家族構成別】〔(1) 運動器機能の低下〕

報告書 P.96

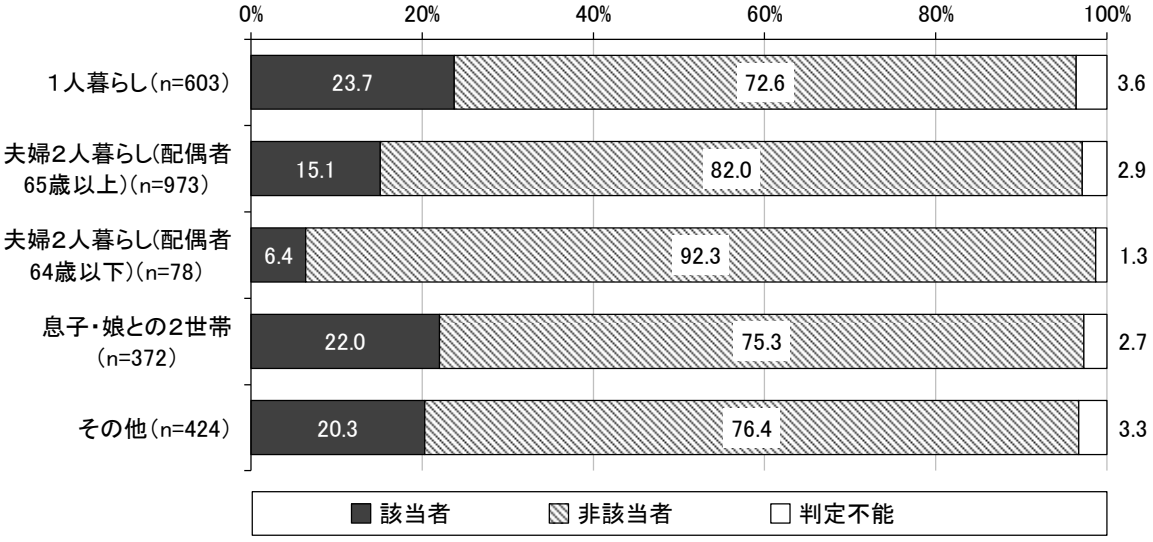
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、1人暮らしで 27.2%と最も高く、次いで息子・娘との2世帯で 26.3%となっています。



【家族構成別】〔(2) 閉じこもり傾向〕

報告書 P.101

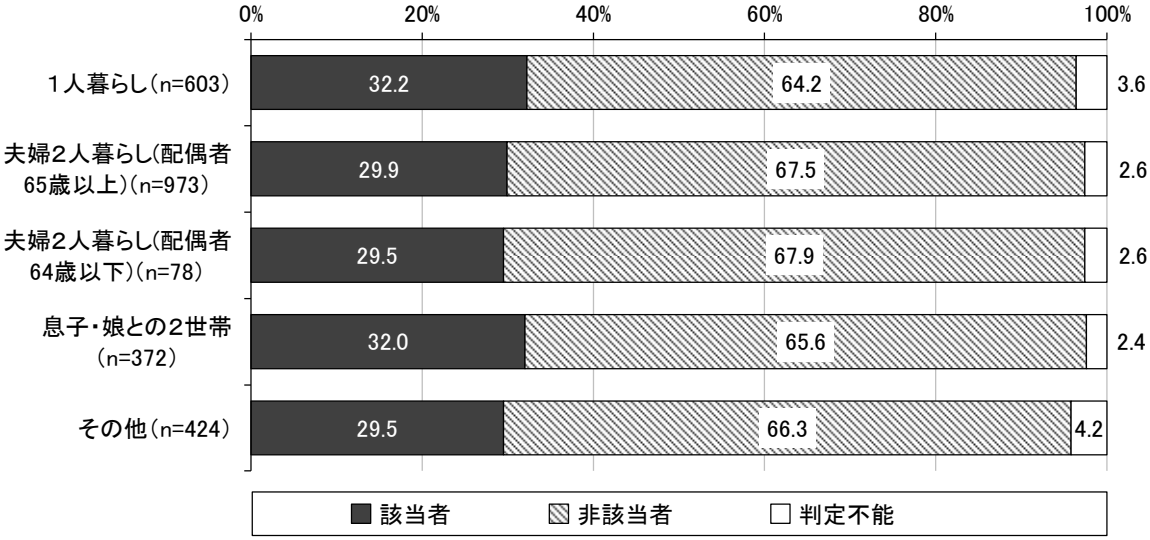
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、1人暮らしで 23.7%と最も高く、次いで息子・娘との2世帯で 22.0%となっています。



【家族構成別】〔(４) 口腔機能の低下〕

報告書 P.111

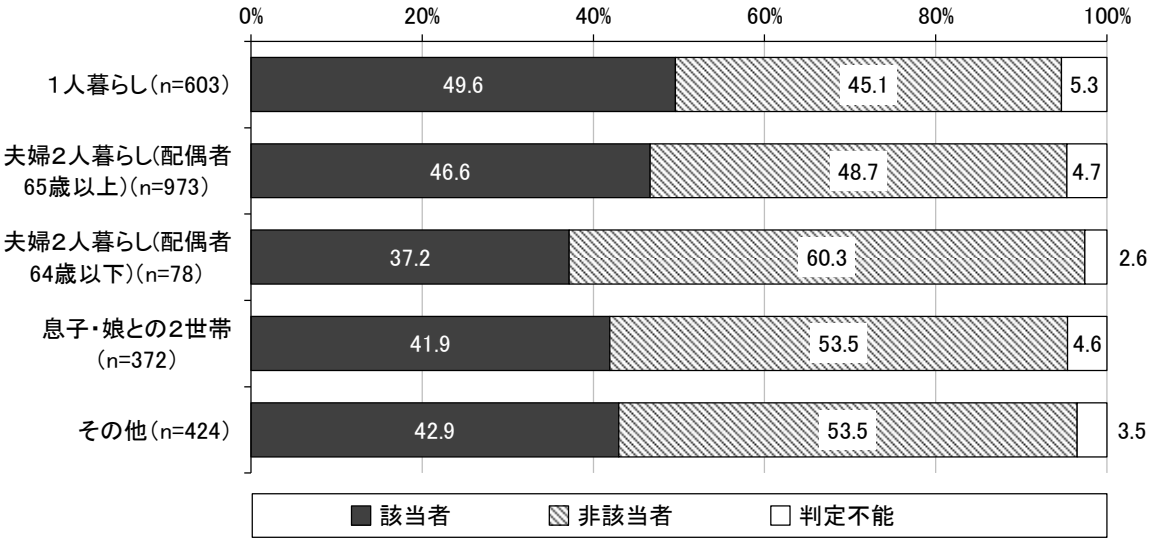
家族構成別にみると、「該当者」の割合は、１人暮らしで 32.2%と最も高く、次いで息子・娘との２世帯で 32.0%となっています。



【家族構成別】〔(６) うつ傾向〕

報告書 P.121

家族構成別にみると、「該当者」の割合は、１人暮らしで 49.6%と最も高く、次いで夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)で 46.6%となっています。



【家族構成別】〔問９（３）将来、認知症等により判断能力が不十分になった場合、支援してもらいたい人はどなたですか。〕

報告書 P.62

家族構成別にみると、夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)、夫婦２人暮らし(配偶者 64 歳以下)では「配偶者（夫と妻)」、その他の家族構成では「娘」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	成年後見人等	その他	そのような人はいない	不明・無回答
全体(n=2,523)		45.9	34.3	44.4	6.1	6.4	5.2	1.2	3.6	10.1	3.7
年齢別	１人暮らし(n=603)	0.3	29.7	39.8	6.0	5.5	10.0	1.5	5.0	24.4	5.3
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=973)	78.0	31.4	41.1	5.7	5.3	2.2	0.8	2.9	3.9	3.5
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=78)	79.5	25.6	44.9	2.6	10.3	1.3	1.3	1.3	6.4	1.3
	息子・娘との2世帯(n=372)	36.0	45.4	59.4	10.8	9.4	4.6	0.5	1.9	3.8	2.2
	その他(n=424)	42.0	38.2	47.2	4.2	6.4	7.1	2.4	4.2	9.7	3.1

4．圏域別にみる明確な地域特性と課題

【地域別】〔問２（９）外出する際の移動手段は何ですか。〕

報告書 P.17

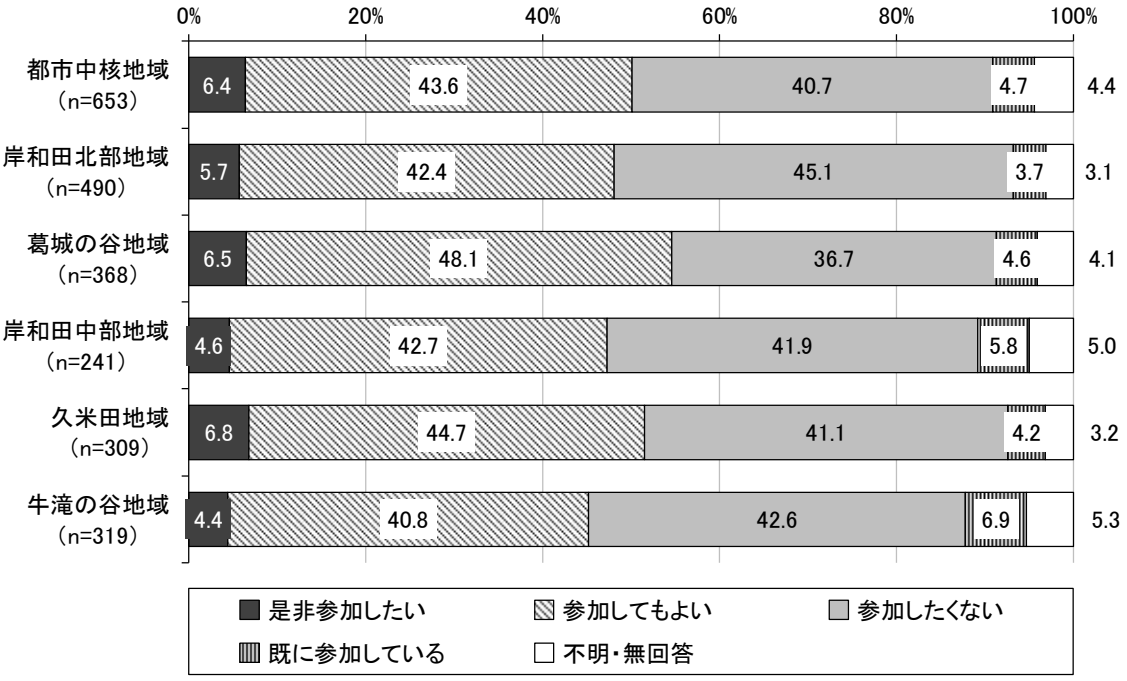
地域別にみると、岸和田北部地域では「自転車」、牛滝の谷地域では「自動車（自分で運転)」、その他の地域では「徒歩」がそれぞれ最も高くなっています。

単位:%		徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	コミュニティバス（ローズバス）	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー（手押し車）	タクシー	その他	不明・無回答
全体(n=2,523)		55.2	40.5	5.5	36.9	30.4	27.1	2.4	10.7	1.9	0.5	0.6	4.5	11.5	1.0	3.8
地域別	都市中核地域(n=653)	65.2	49.6	3.1	31.4	30.9	31.7	3.2	6.4	1.5	0.6	0.2	4.9	13.2	0.5	3.7
	岸和田北部地域(n=490)	52.7	56.1	3.7	33.3	29.0	31.0	2.4	3.1	2.9	0.8	0.6	6.3	11.0	0.6	2.0
	葛城の谷地域(n=368)	53.5	29.3	6.5	38.0	30.4	24.7	1.4	23.1	2.7	0.3	0.8	3.0	11.1	1.1	4.6
	岸和田中部地域(n=241)	52.3	28.6	8.7	47.3	29.0	24.9	4.1	7.9	0.8	0.4	0.4	3.7	9.5	0.8	5.0
	久米田地域(n=309)	54.4	37.2	5.8	35.9	33.3	24.9	2.9	11.7	1.3	0.3	1.6	5.5	12.3	2.3	2.6
	牛滝の谷地域(n=319)	45.8	23.8	10.0	47.6	32.0	18.5	0.3	19.1	0.9	0.3	0.3	1.9	10.0	1.3	5.3

【地域別】〔問５（２）活動に参加者として参加してみたいと思いますか。〕

報告書 P.36

地域別にみると、岸和田北部地域と牛滝の谷地域では「参加したくない」、その他の地域では「参加してもよい」がそれぞれ最も高くなっています。

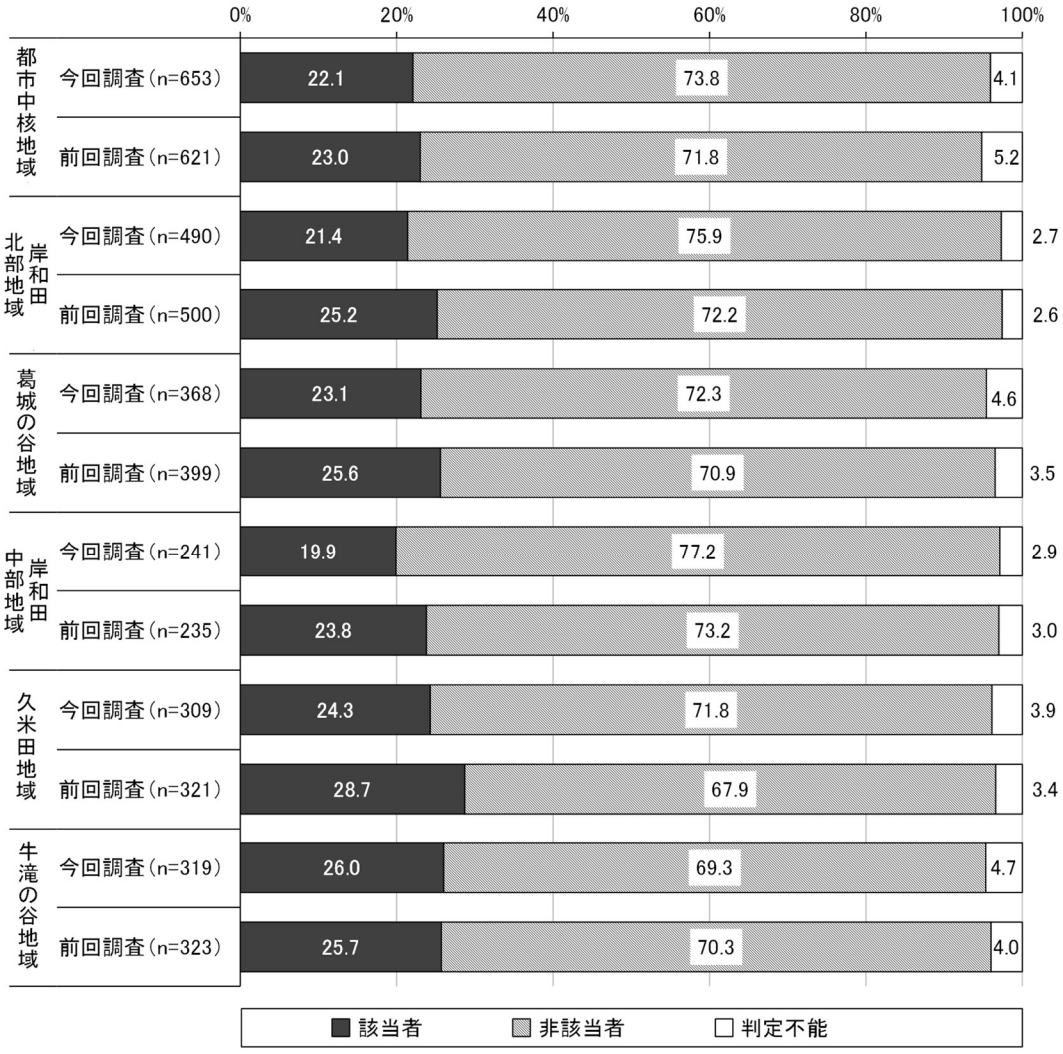


報告書 P.95

【地域別】〔(１) 運動器機能の低下〕

地域別にみると、「該当者」の割合は、牛滝の谷地域で 26.0%と最も高く、次いで久米田地域で 24.3%となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、大きな違いはみられません。

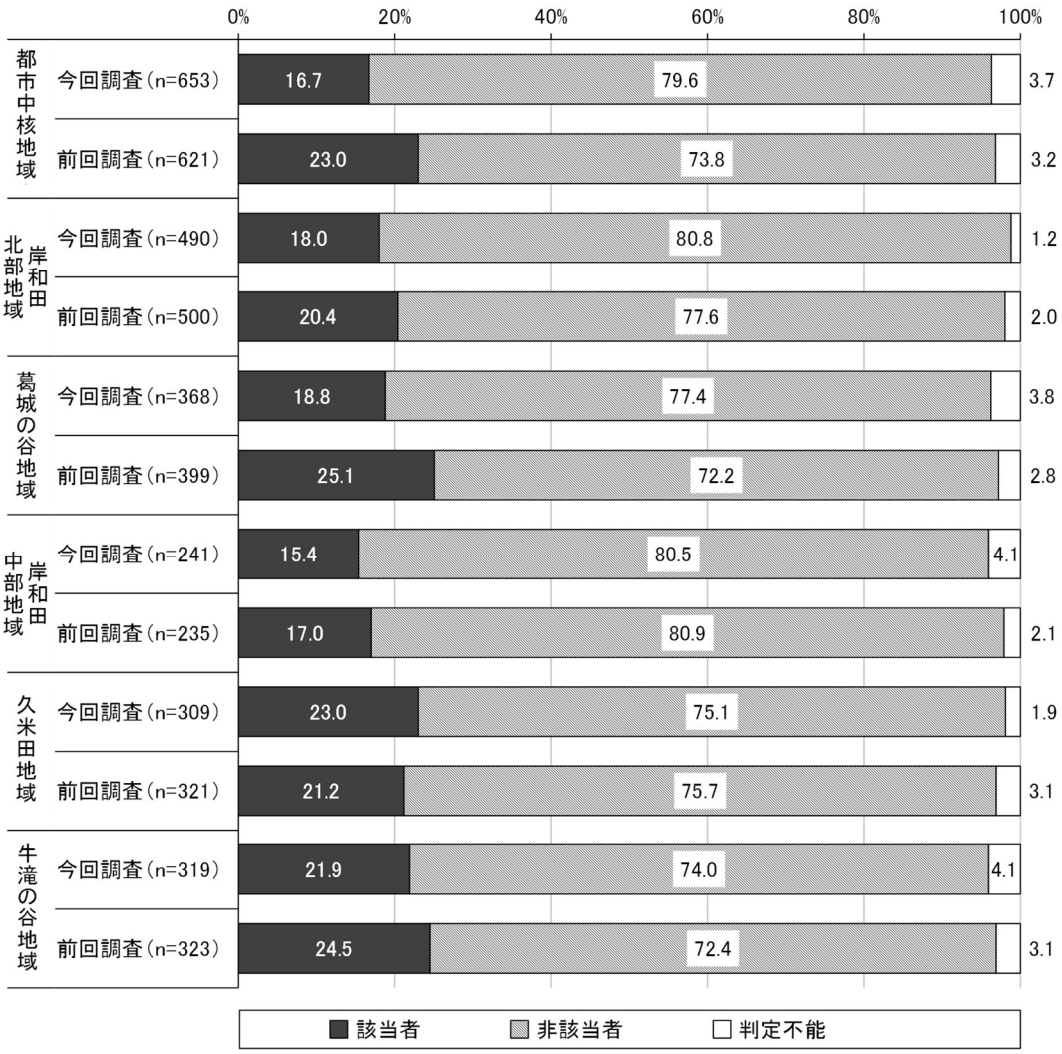


【地域別】〔(2) 閉じこもり傾向〕

報告書 P.100

地域別にみると、「該当者」の割合は、久米田地域で 23.0%と最も高く、次いで牛滝の谷地域で 21.9%となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、都市中核地域、葛城の谷地域で 6.3 ポイント減少しています。

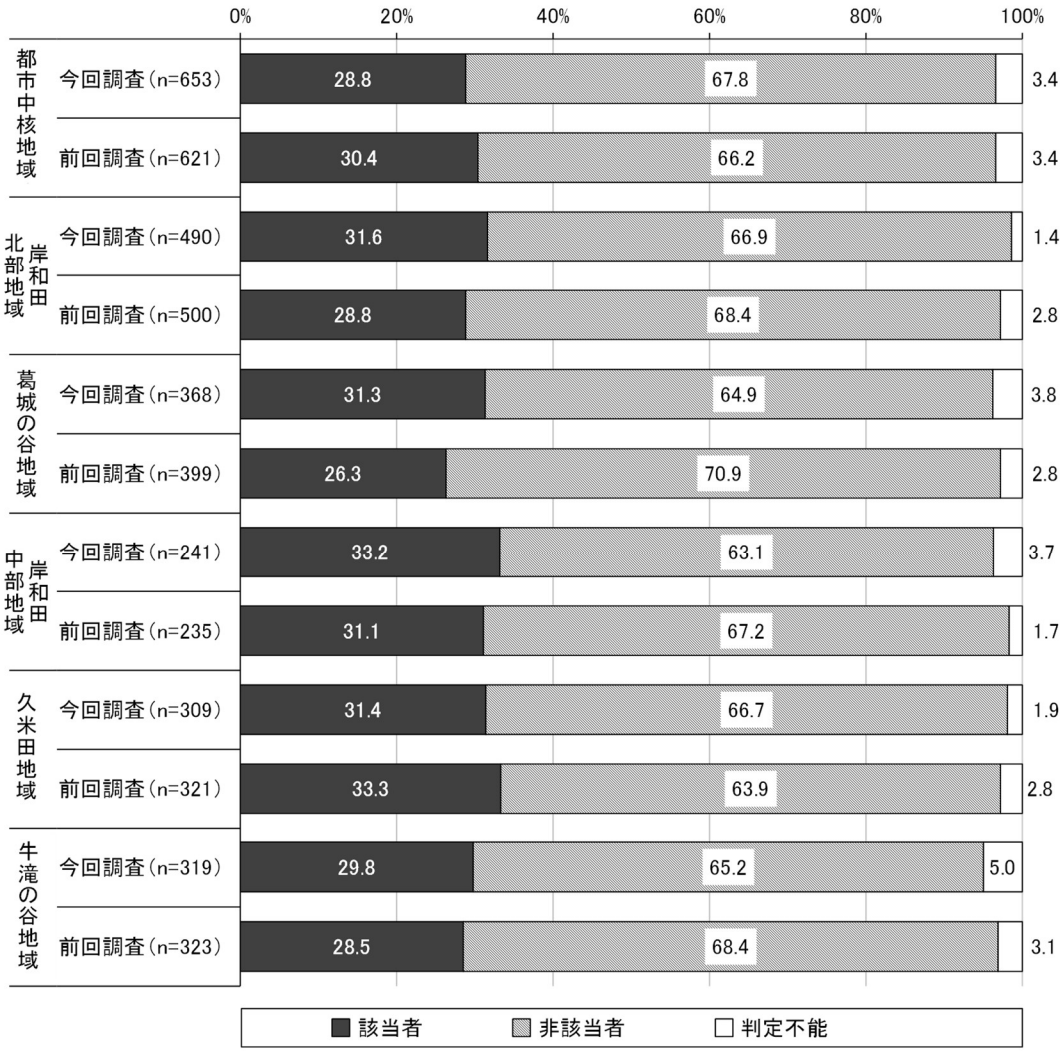


報告書 P.110

【地域別】〔(4) 口腔機能の低下〕

地域別にみると、「該当者」の割合は、岸和田中部地域で 33.2%と最も高く、次いで岸和田北部地域で 31.6%となっています。

地域別に前回調査と比較すると、「該当者」の割合は、葛城の谷地域で 5.0 ポイント増加しています。

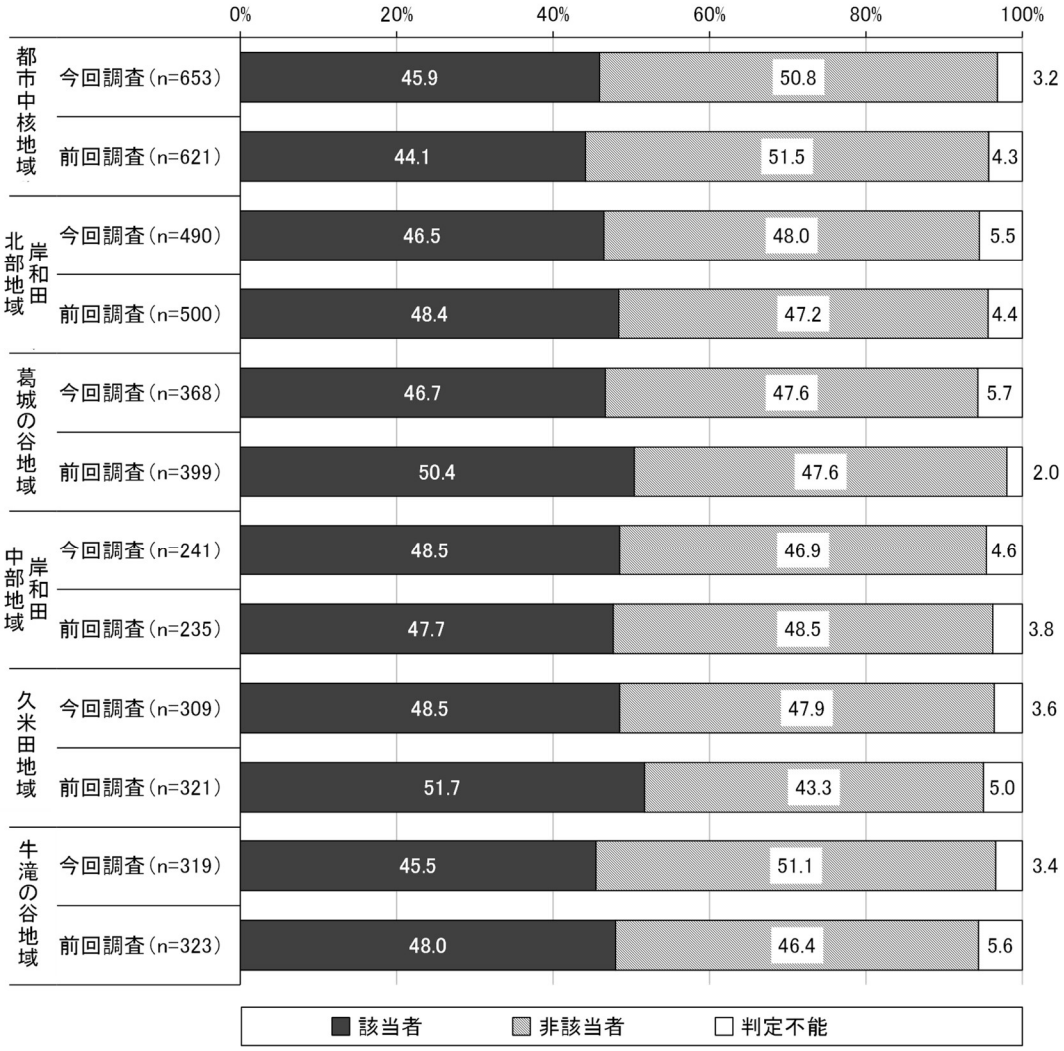


【地域別】〔(５) 認知機能の低下〕

報告書 P.115

地域別にみると、「該当者」の割合は、岸和田中部地域、久米田地域で 48.5%と最も高くなっています。

地域別に前回調査と比較すると、大きな違いはみられません。

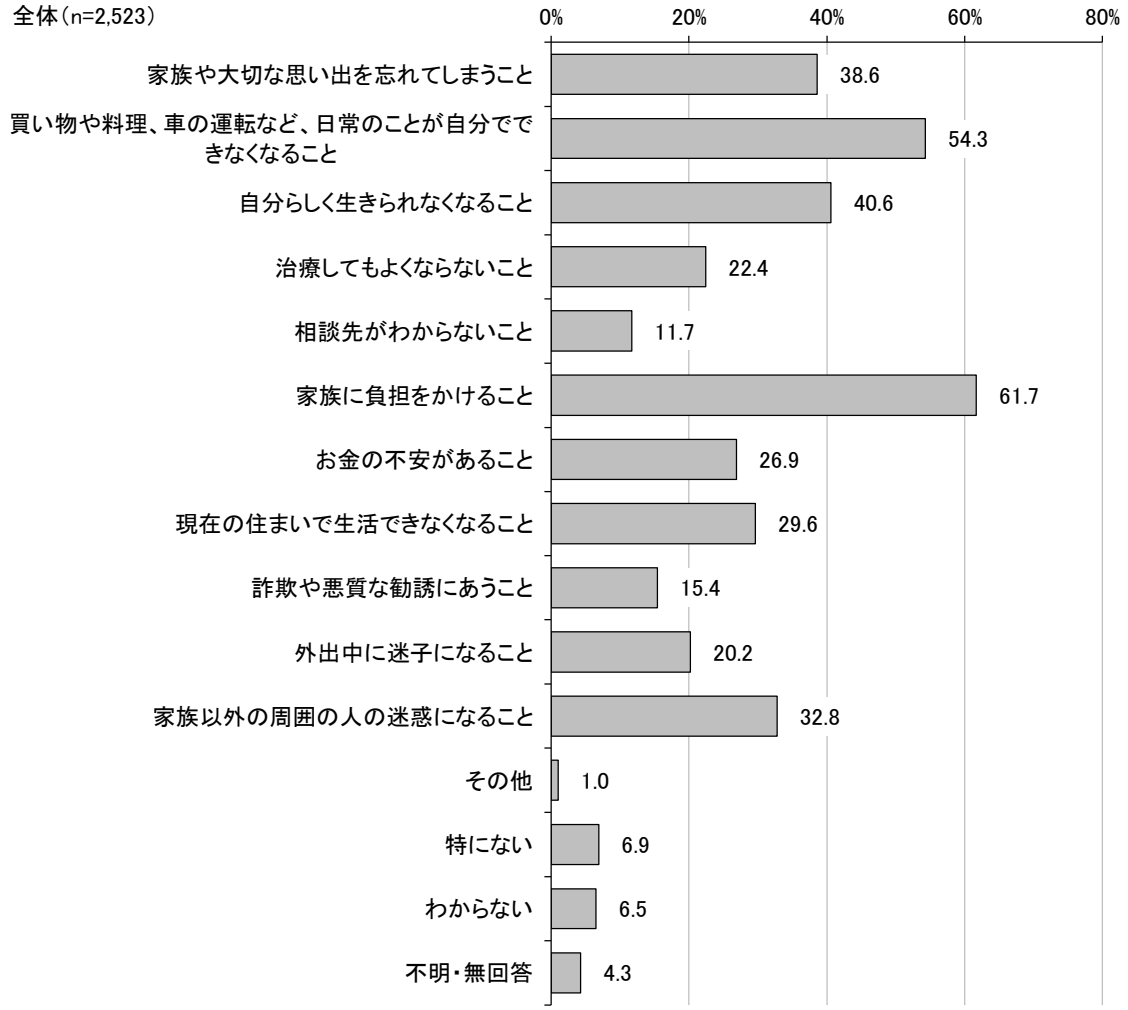


５．認知症に対する「家族の負担」への不安と情報不足の懸念

（４）認知症に対して不安に感じることについて、あてはまるものを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

報告書 P.63

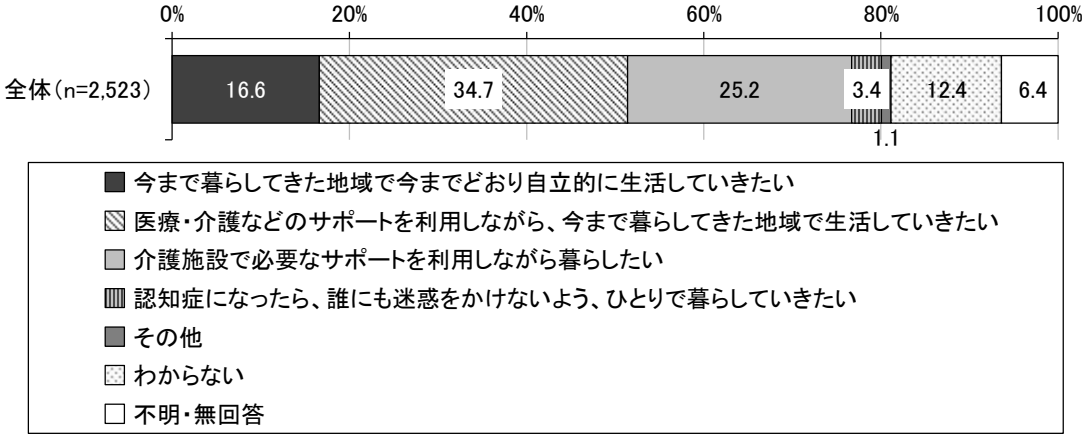
「家族に負担をかけること」が 61.7%と最も高く、次いで「買い物や料理、車の運転など、日常のことが自分でできなくなること」が 54.3%、「自分らしく生きられなくなること」が 40.6%となっています。



（５）あなたが認知症になったとしたら、どのように暮らしたいと思いますか。（１つに○）

報告書 P.64

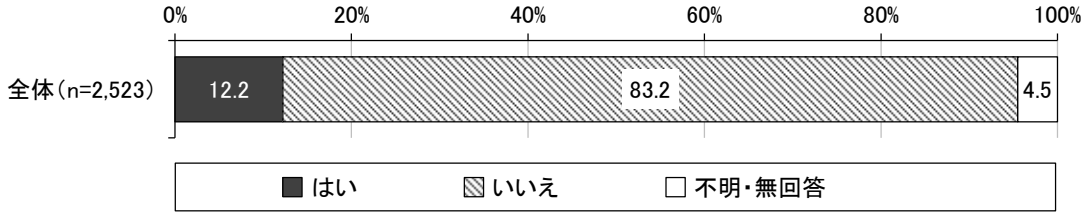
「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が34.7%と最も高く、次いで「介護施設で必要なサポートを利用しながら暮らしたい」が 25.2%、「今まで暮らしてきた地域で今までどおり自立的に生活していきたい」が 16.6%となっています。



（７）認知症に関する相談窓口を知っていますか。（１つに○）

報告書 P.65

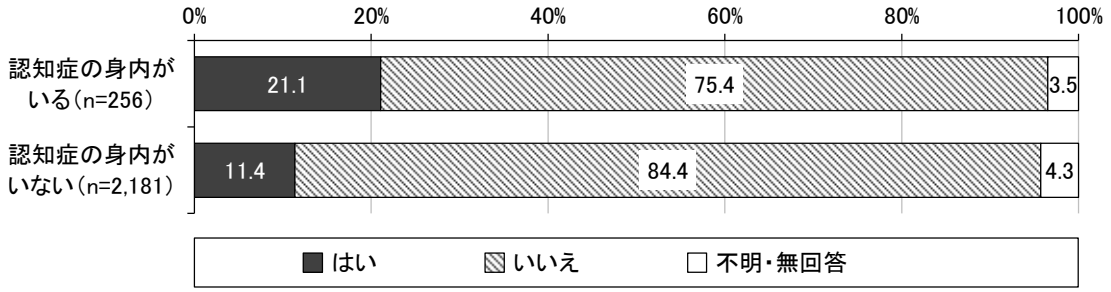
「いいえ」が 83.2%と、「はい」の 12.2%を上回っています。



【認知症の身内の有無別】〔問９（７）認知症に関する相談窓口を知っていますか。〕

報告書 P.66

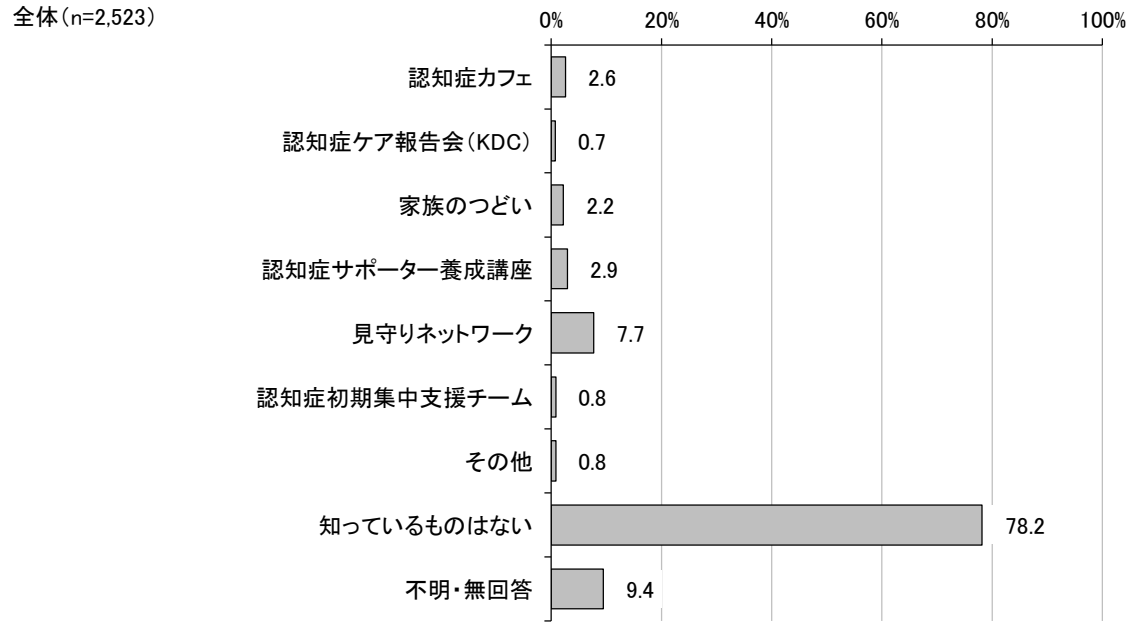
認知症の身内の有無別にみると、認知症の身内の有無に関わらず「いいえ」が高くなっています。



（８）岸和田市の認知症施策で知っているものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

報告書 P.67

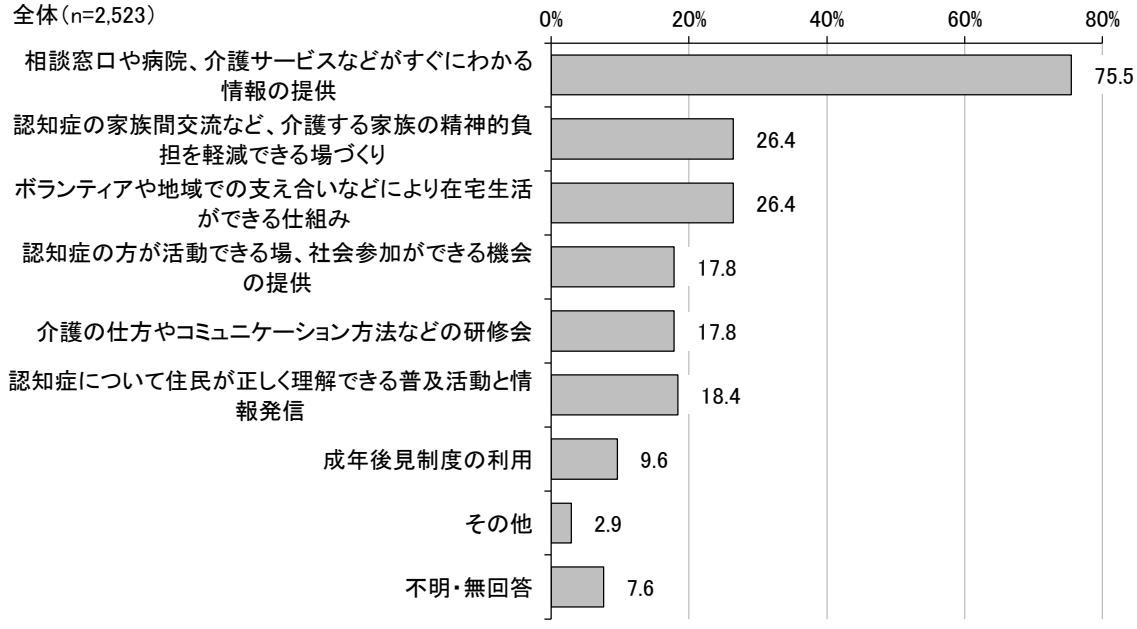
「知っているものはない」が 78.2%と最も高く、次いで「見守りネットワーク」が 7.7%、「認知症サポーター養成講座」が 2.9%となっています。



（６）自分自身や家族が認知症になってしまったとき、どのような支援があればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

報告書 P.65

「相談窓口や病院、介護サービスなどがすぐにわかる情報の提供」が 75.5%と最も高く、次いで「認知症の家族間交流など、介護する家族の精神的負担を軽減できる場づくり」、「ボランティアや地域での支え合いなどにより在宅生活ができる仕組み」が 26.4%となっています。

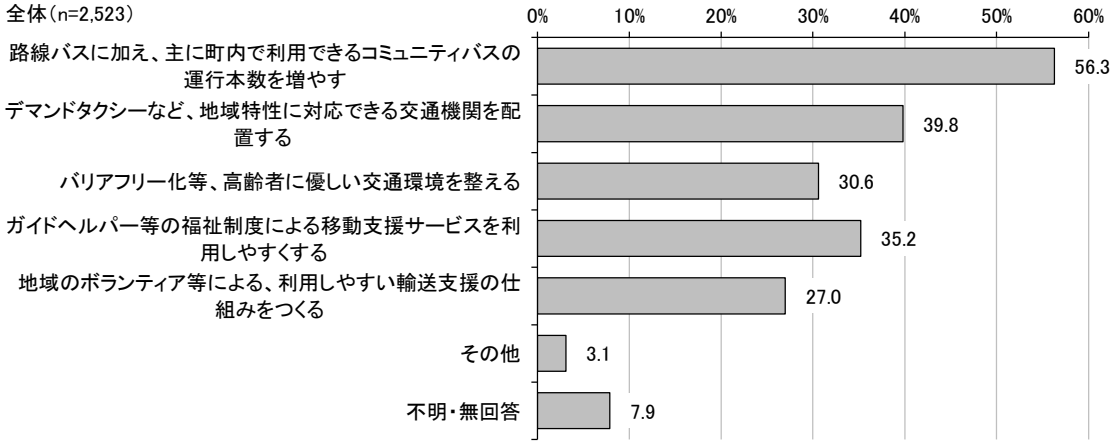


6．市民目線のニーズとこれからのまちづくり

（５）高齢になっても、不便なく交通機関などを利用して移動するために、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。（３つまで○）

報告書 P.90

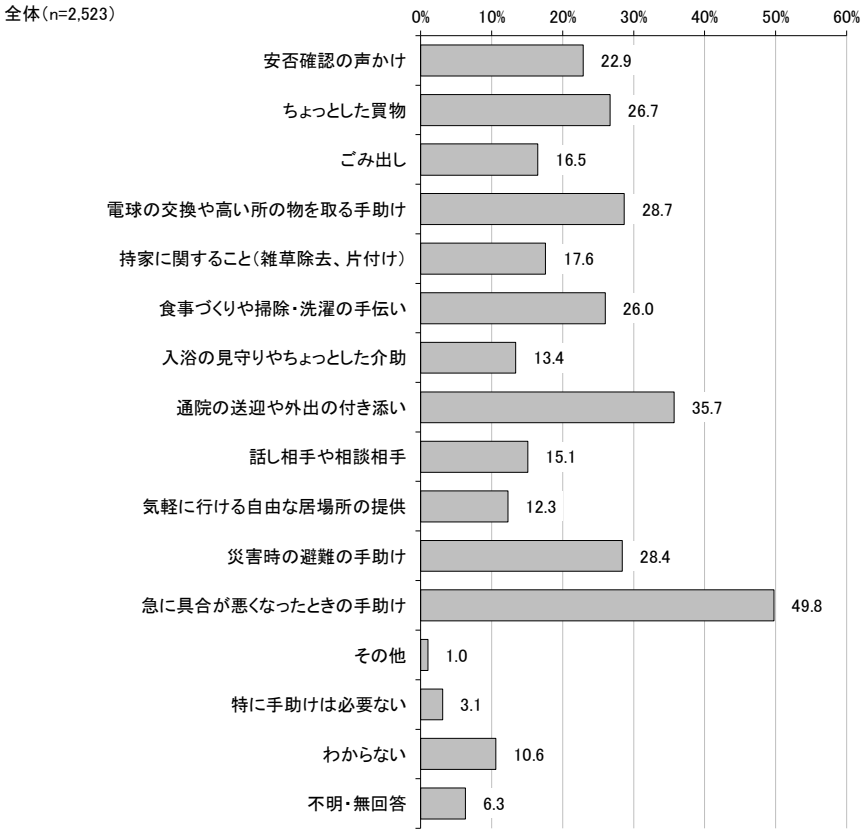
「路線バスに加え、主に町内で利用できるコミュニティバスの運行本数を増やす」が 56.3%と最も高く、次いで「デマンドタクシーなど、地域特性に対応できる交通機関を配置する」が 39.8%、「ガイドヘルパー等の福祉制度による移動支援サービスを利用しやすくする」が 35.2%となっています。



（３）将来的にあなたが、「ちょっとした困りごと」で手助けしてほしいと思われるものはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

報告書 P.82

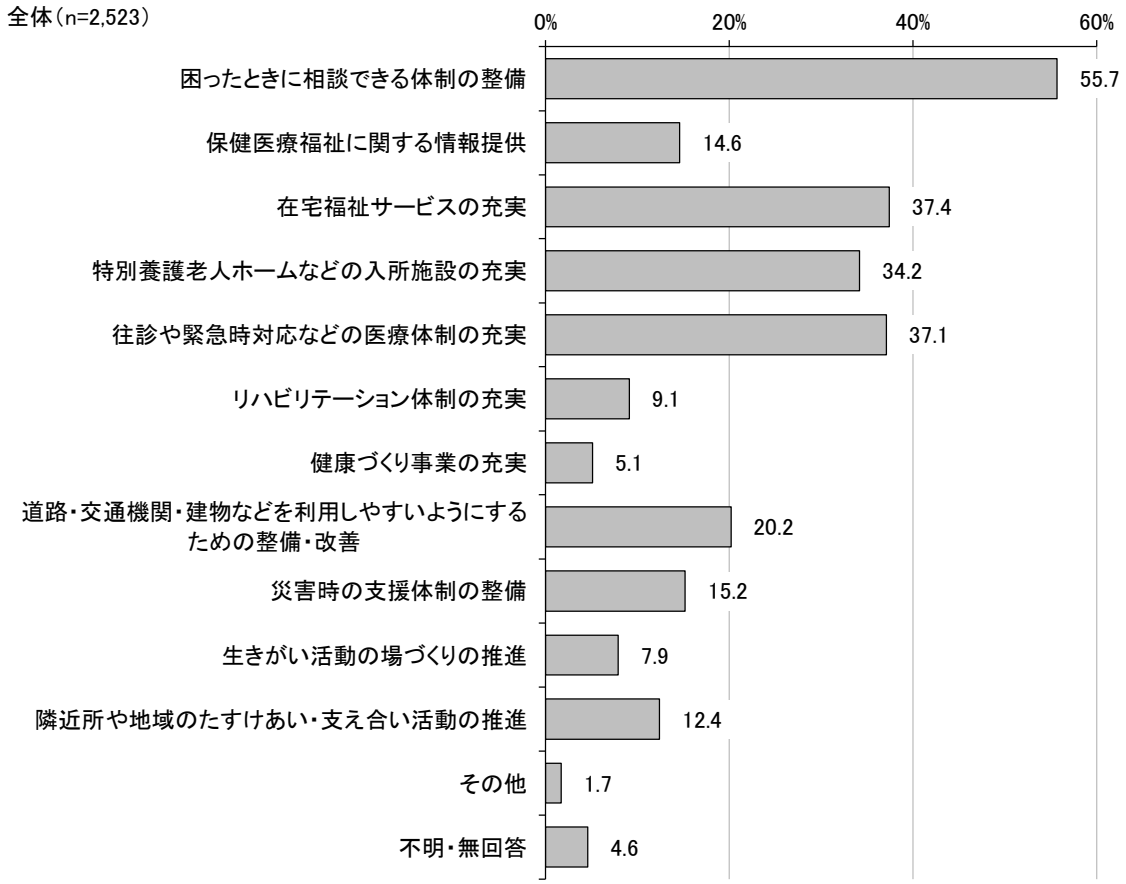
「急に具合が悪くなったときの手助け」が 49.8%と最も高く、次いで「通院の送迎や外出の付き添い」が 35.7%、「電球の交換や高い所の物を取る手助け」が 28.7%となっています。



（６）高齢者にとって住みよいまちをつくるために、どんなことが必要だと思いますか。（３つまで○）

報告書 P.90

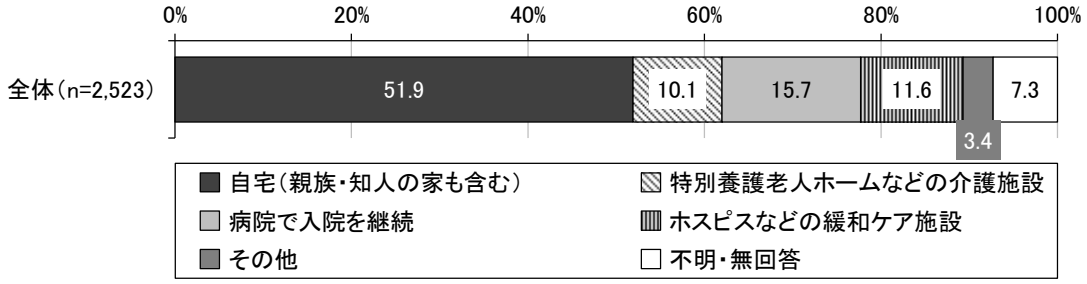
「困ったときに相談できる体制の整備」が 55.7%と最も高く、次いで「在宅福祉サービスの充実」が 37.4%、「往診や緊急時対応などの医療体制の充実」が 37.1%となっています。



（５）あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか。（１つに○）

報告書 P.73

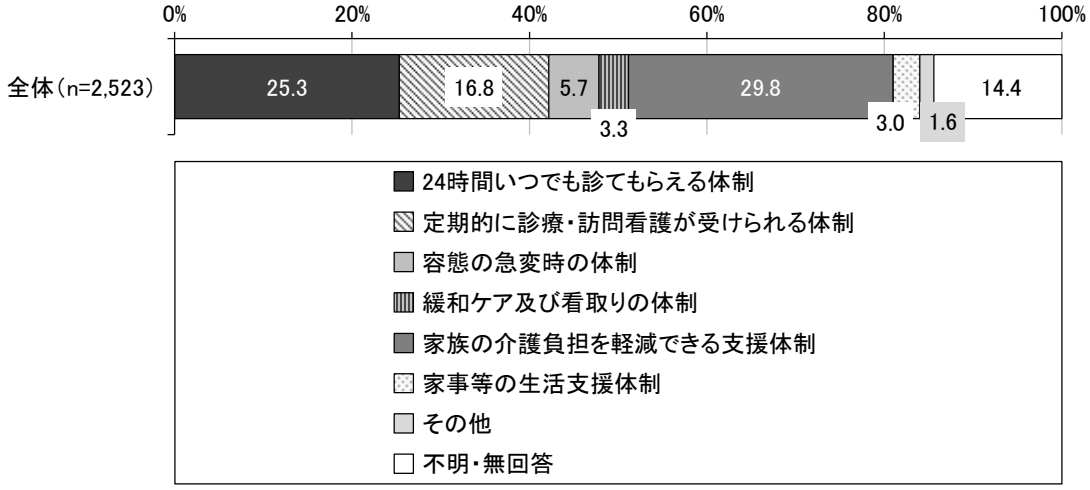
「自宅（親族・知人の家も含む)」が 51.9%と最も高く、次いで「病院で入院を継続」が 15.7%、「ホスピスなどの緩和ケア施設」が 11.6%となっています。



（８）在宅医療・介護を充実するにあたり、どのような在宅医療・介護体制の整備が最も重要だと思いますか。（１つに○）

報告書 P.77

「家族の介護負担を軽減できる支援体制」が 29.8%と最も高く、次いで「24 時間いつでも診てもらえる体制」が 25.3%、「定期的に診療・訪問看護が受けられる体制」が 16.8%となっています。



ver.1.3

在宅生活改善調査
集計結果

2026/03/31

大阪府岸和田市

発送事業所数：105件

回収事業所数：101件

回収率：96.2%

（注1）不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていないおそれがあります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。
（注2）グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。
（注3）構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

【在宅生活改善調査】

調査の目的

・在宅生活改善調査では、**「過去１年間」**の、①自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数や②自宅等において死亡した利用者の人数、また、現在自宅等にお住まいの方で、**「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」**の、①人数や②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

調査の概要

・アンケートは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方にご回答いただきます。
各ケアマネジャーは担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答します。
・それぞれのケアマネジャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。
・本調査の集計では、「特養待機者」「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」という言葉を使用していますが、これは特養のみでなく、その他のサービスの待機者についても同じように把握し、整備の必要性を検討するためのものです。

注目すべきポイント

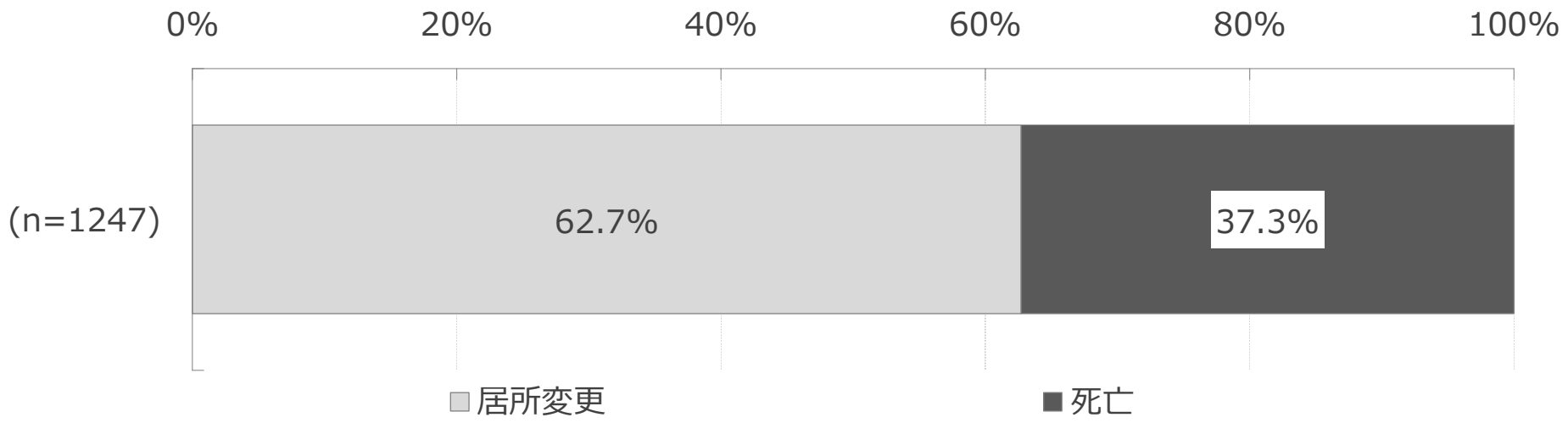
・過去１年間で、自宅等から居所を変更した人（住み慣れた住まいで暮らすことができなくなった人）は、どの程度いるか？
・現在、生活の維持が難しくなっている人は、どのような人で、どの程度いるか？
（継続的に調査し、その人数を減らすことはできないか）
・生活の維持が難しくなっている理由、生活改善に必要な支援・サービスは何か？
（サービス提供体制の構築方針の検討）

※ 特に生活の維持が難しくなっている理由や、必要な支援・サービスについては、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに関係者間での議論を通じて検討することが重要です。

過去1年間の実績

過去1年間の実績

過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



	粗推計	回答実数
岸和田市全体で、過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者数	813人	782人
岸和田市全体で、過去1年間に自宅等で死亡した利用者数	483人	465人

（注1）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
（注2）「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

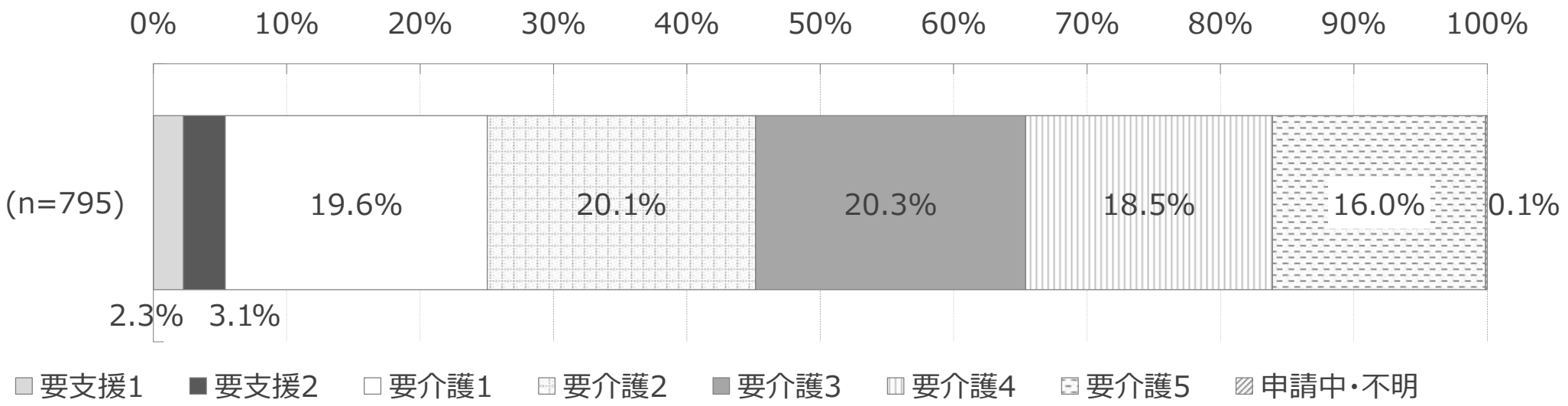
過去1年間の実績

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	9人 1.2%	10人 1.3%	19人 2.4%
住宅型有料老人ホーム	182人 23.3%	61人 7.8%	243人 31.1%
軽費老人ホーム	13人 1.7%	0人 0.0%	13人 1.7%
サービス付き高齢者向け住宅	164人 21.0%	45人 5.8%	209人 26.7%
グループホーム	9人 1.2%	1人 0.1%	10人 1.3%
特定施設	6人 0.8%	2人 0.3%	8人 1.0%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護老人保健施設	47人 6.0%	10人 1.3%	57人 7.3%
介護医療院	2人 0.3%	2人 0.3%	4人 0.5%
特別養護老人ホーム	45人 5.8%	10人 1.3%	55人 7.0%
地域密着型特別養護老人ホーム	6人 0.8%	1人 0.1%	7人 0.9%
病院・診療所	111人 14.2%	34人 4.3%	145人 18.5%
その他	6人 0.8%	2人 0.3%	8人 1.0%
行先を把握していない			4人 0.5%
合計	600人 76.7%	178人 22.8%	782人 100.0%

（注1）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
（注2）表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

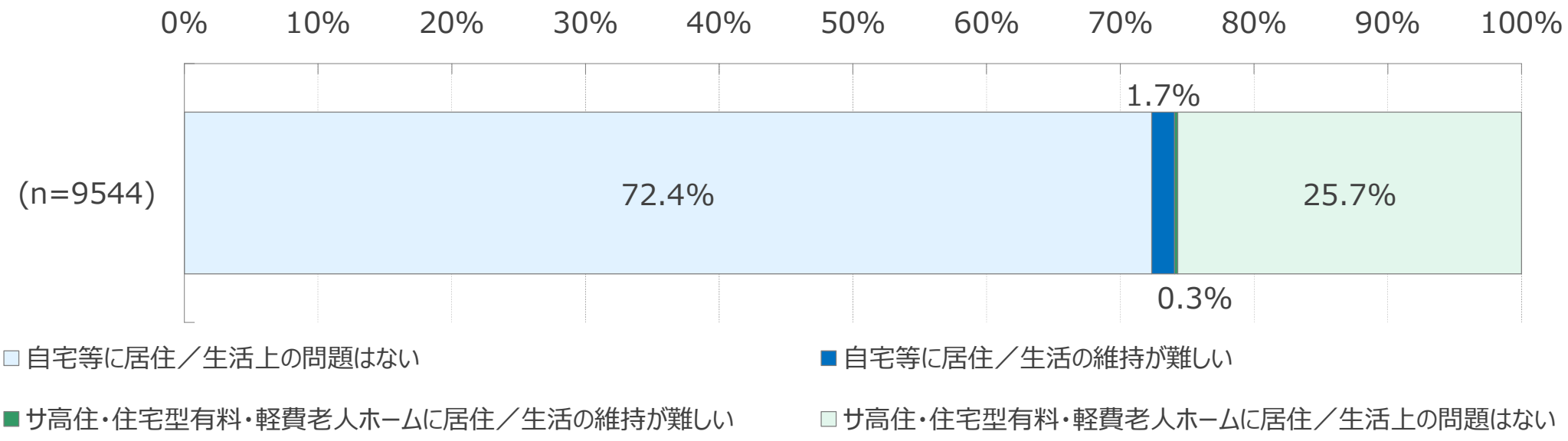
過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



（注）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに
居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合

1.9%

岸和田市全体で、在宅での生活の維持が
難しくなっている利用者数

	粗推計	回答実数
合計	192人	185人
（要介護2以下）	112人	108人
（要介護3以上）	79人	76人

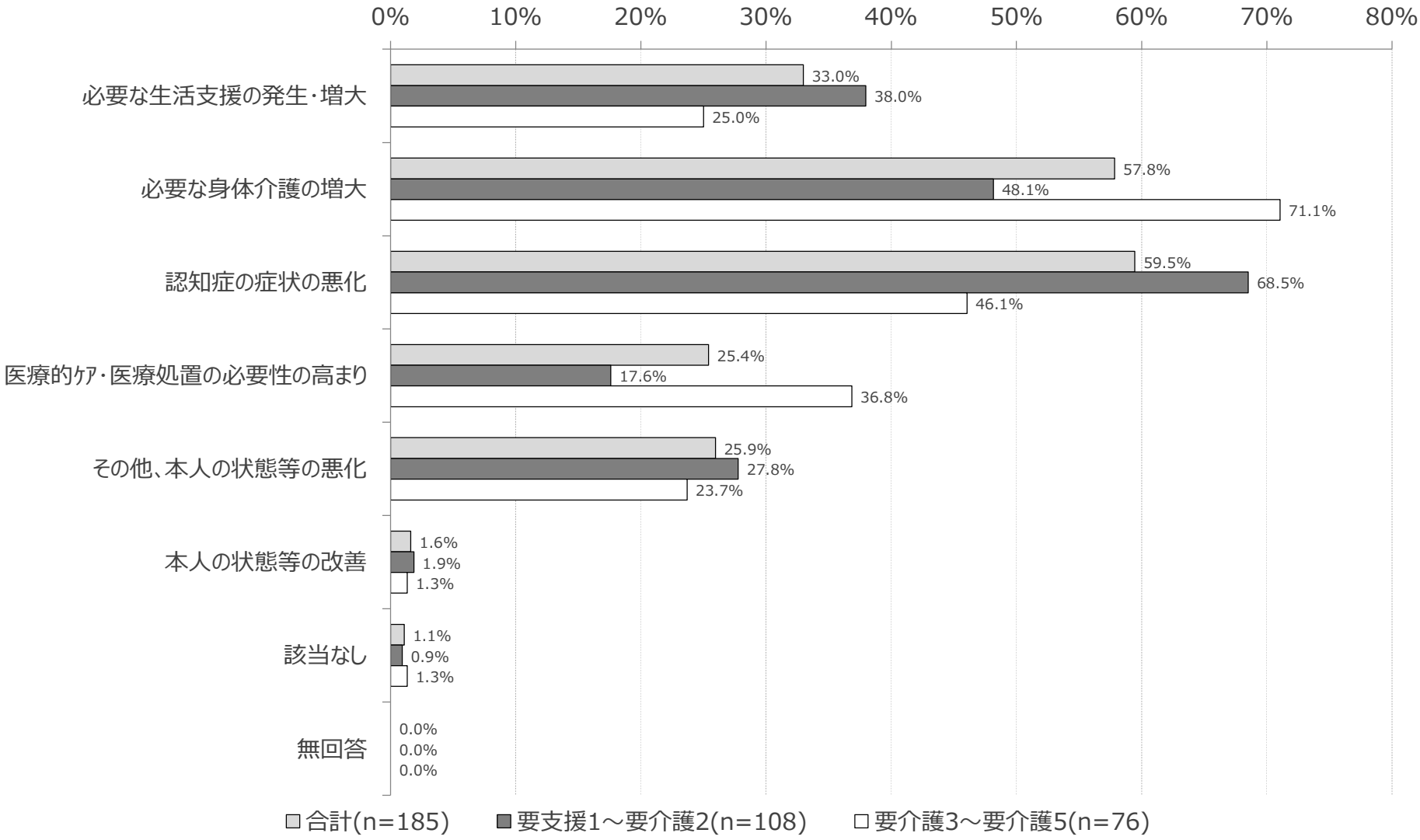
（注）「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

順位（上位10類型）	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				居所			要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもとの同居	その他世帯	自宅等（持ち家）	自宅等（借家）	サ高住・住宅型有料・軽費	介2以下	介3以上
1	30人	31人	16.2%	★				★			★	
2	23人	24人	12.4%	★					★		★	
3	18人	19人	9.7%		★			★			★	
4	14人	15人	7.6%		★			★				★
5	13人	14人	7.0%			★		★				★
6	11人	11人	5.9%	★					★			★
6	11人	11人	5.9%	★				★				★
8	10人	10人	5.4%			★		★			★	
8	10人	10人	5.4%	★						★	★	
10	7人	7人	3.8%	★						★		★
上記以外	38人	40人	20.5%									
合計	185人	192人	100.0%									

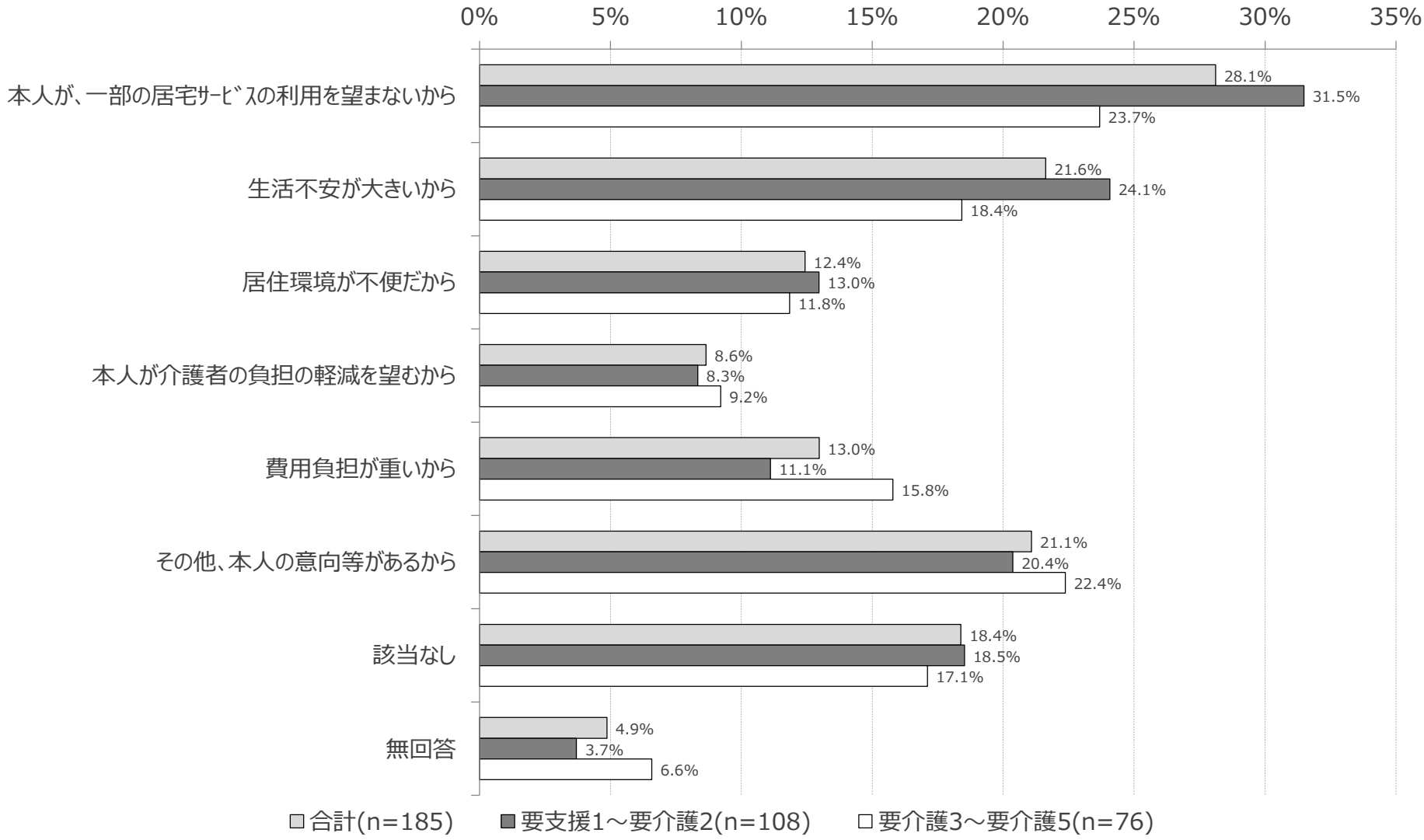
（注）「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由（本人の状態に属する理由、複数回答）



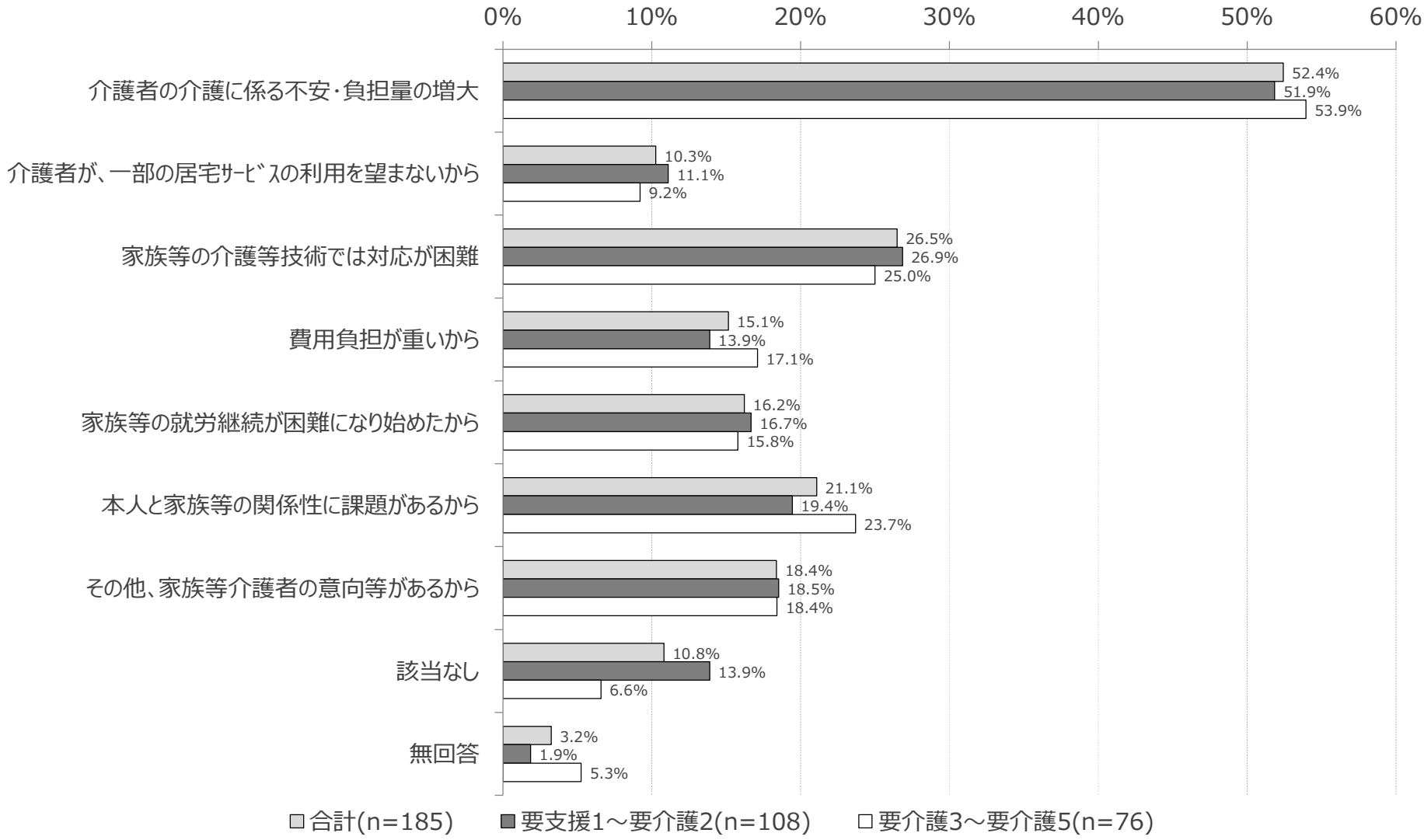
（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由（本人の意向に属する理由、複数回答）



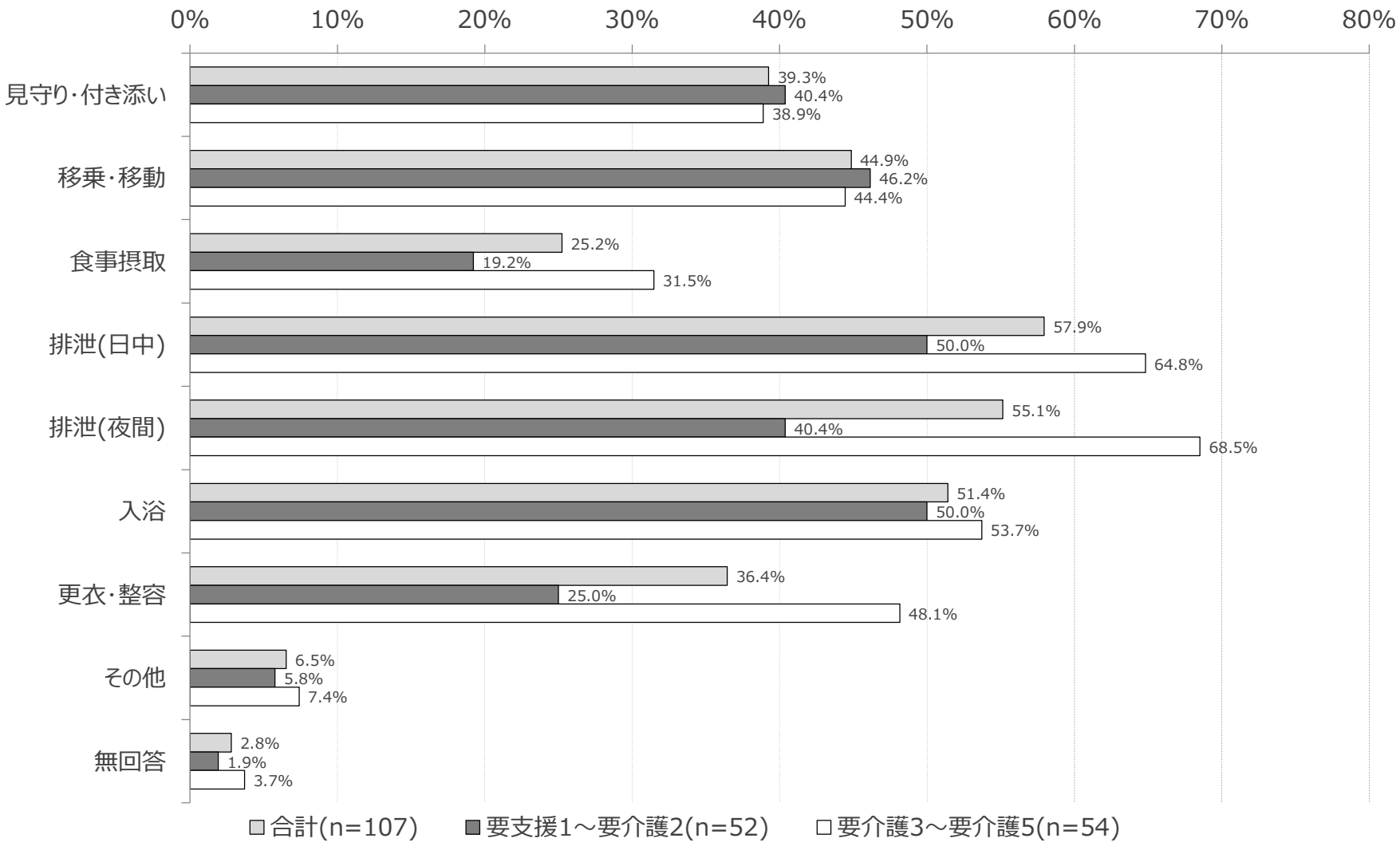
（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由（家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答）



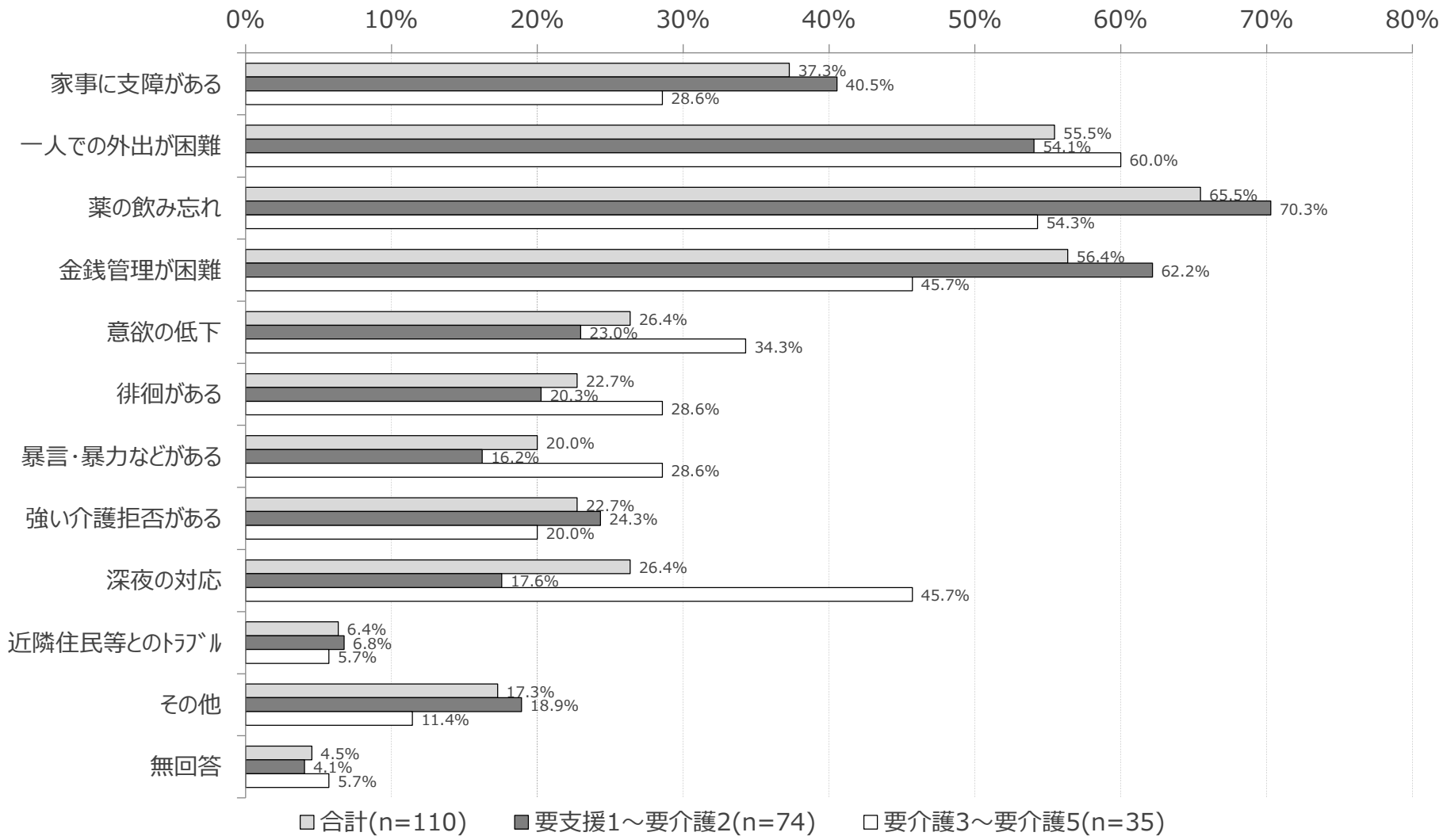
（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



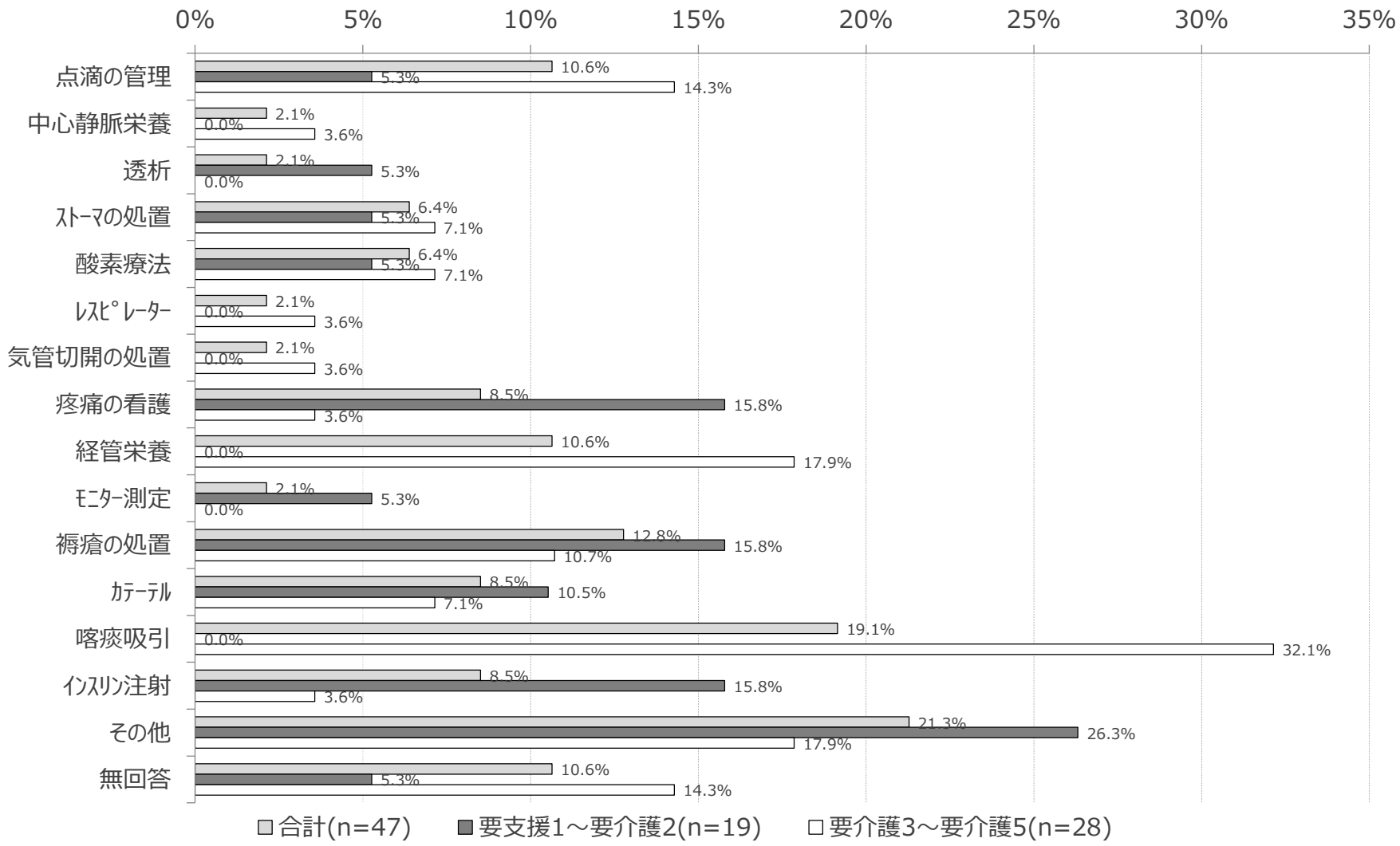
（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



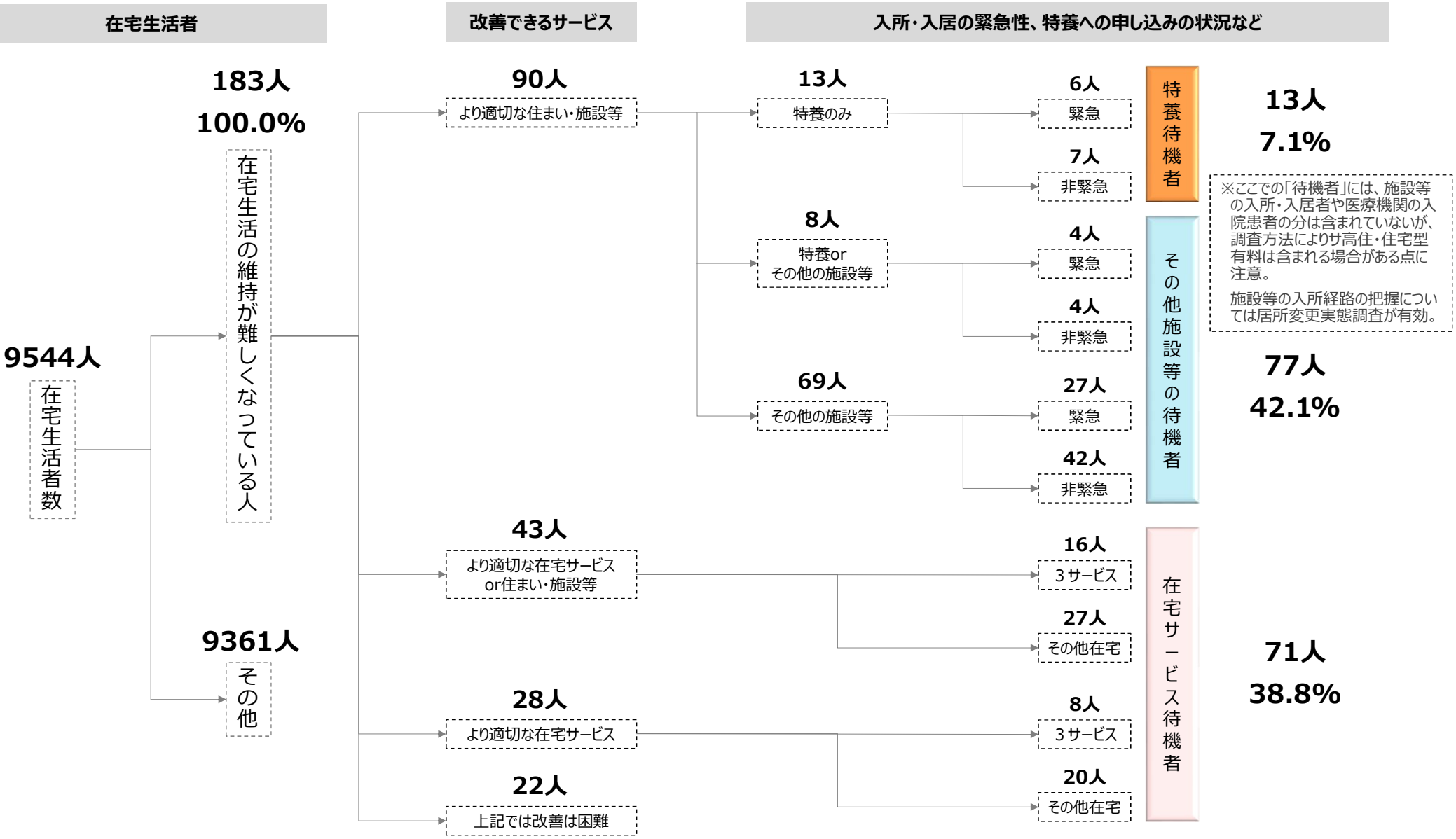
（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



（注1）「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
（注2）「生活の維持が難しくなっている人」の合計185人のうち、上記の分類が可能な183人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、183人を分母として算出したものです。
（注3）「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
（注4）上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス（複数回答）

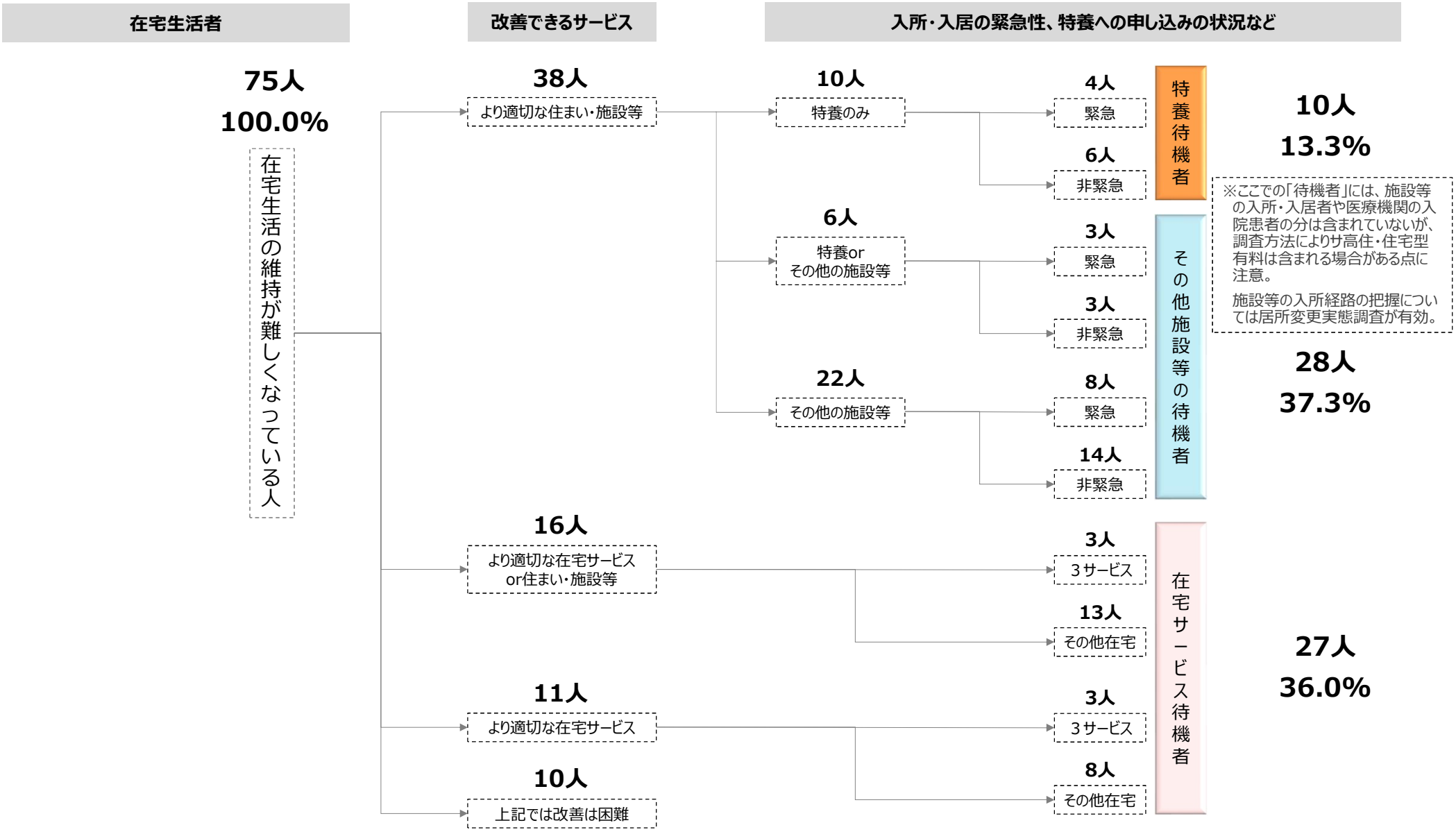
生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(77人)			在宅サービス待機者(71人)		
住まい・施設等	住宅型有料	46人	59.7%	住宅型有料	22人	31.0%
	サ高住	39人	50.6%	サ高住	23人	32.4%
	軽費老人ホーム	2人	2.6%	軽費老人ホーム	1人	1.4%
	グループホーム	24人	31.2%	グループホーム	4人	5.6%
	特定施設	0人	0.0%	特定施設	0人	0.0%
	介護老人保健施設	7人	9.1%	介護老人保健施設	4人	5.6%
	介護医療院	6人	7.8%	介護医療院	2人	2.8%
	特別養護老人ホーム	8人	10.4%	特別養護老人ホーム	10人	14.1%
在宅サービス	−			ショートステイ	27人	38.0%
				訪問介護、訪問入浴	26人	36.6%
				夜間対応型訪問介護	7人	9.9%
				訪問看護	20人	28.2%
				訪問リハ	9人	12.7%
				通所介護、通所リハ、認知症対応型通所	22人	31.0%
				定期巡回サービス	14人	19.7%
				小規模多機能	10人	14.1%
				看護小規模多機能	1人	1.4%
				訪問診療	10人	14.1%
				居宅療養管理指導	5人	7.0%

生活の改善に向けて、代替が可能

（注1）割合は、それぞれ、その他施設等の待機者77人、在宅サービス待機者71人を分母として算出したものです。

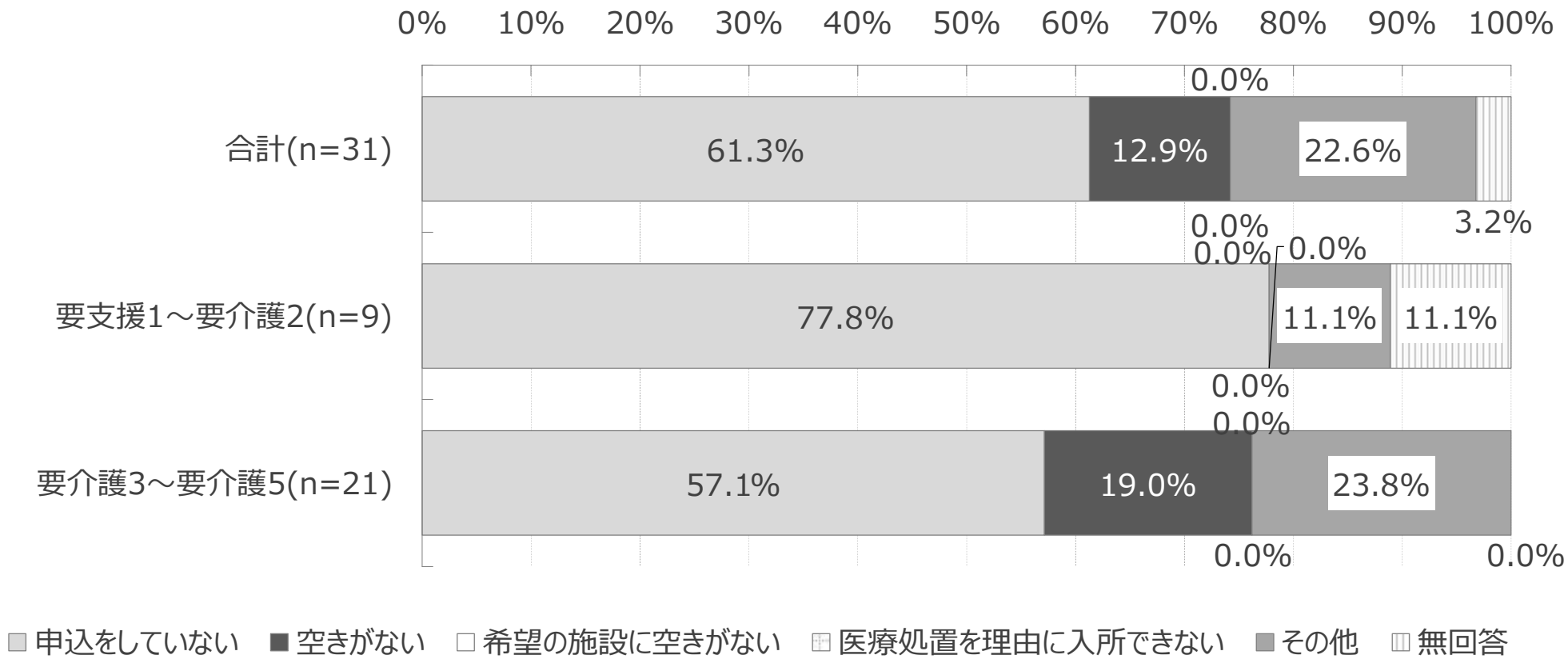
（注2）「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としています。

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更（要介護3以上）



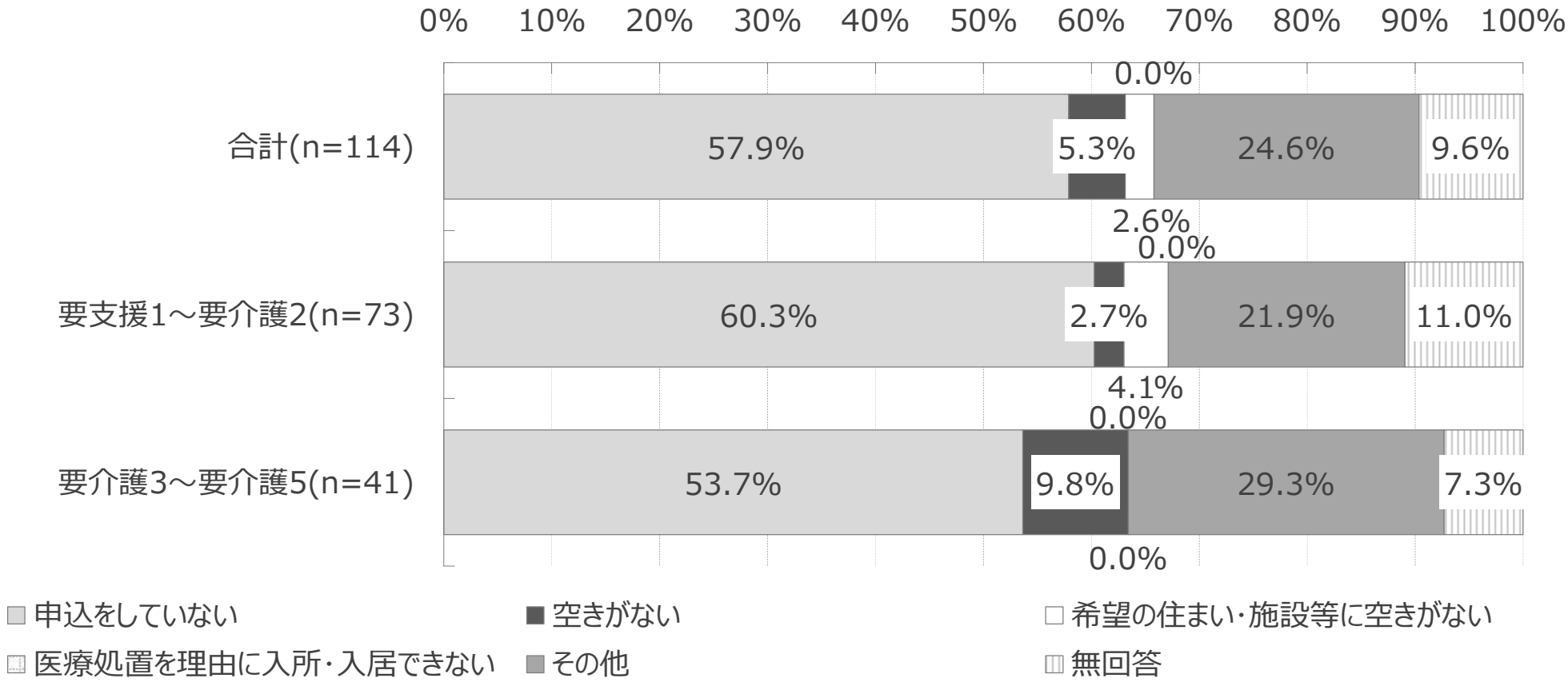
（注1）「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
（注2）「生活の維持が難しくなっている人（要介護3以上）」の合計76人のうち、上記の分類が可能な75人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、75人を分母として算出したものです。
（注3）「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
（注4）上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

特養に入所できていない理由
（改善に必要なサービスで、特養を選択した人）



（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由（改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人）



（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

ver.2.0

居所変更実態調査
集計結果

2026/03/31

大阪府岸和田市

発送事業所数：113件

回収事業所数：103件

回収率：91.2%

（注1）不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていないおそれがあります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。
（注2）グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。
（注3）構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

【居所変更実態調査】

調査の目的

・居所変更実態調査では、①過去１年間で施設・居住系サービスから居所を変更した方の人数や、②その理由等を把握します。

・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じて、施設・居住系サービスでの生活の継続性を高めるために必要な機能や、外部サービス資源との連携等を検討し、具体的な取組につなげていくことを目的としています。

調査の概要

・アンケートは、施設・居住系サービスの管理者の方などにご回答いただきます。

・調査では、各施設・居住系サービスから過去１年間で居所を変更した方の人数と行先、居所変更の理由などを把握しますが、これは、「要介護者が、住み慣れた住まいで暮らし続けることができている」という、地域のビジョンを達成するために、各施設・居住系サービスに「どのような機能が必要か」を検討することが目的となっています。

・今後は、介護人材の確保が困難となる地域も多い中、地域の施設・居住系サービスで最後まで暮らし続けるために、「量の拡大」ではなく、どのような「機能の強化」が必要かを検討することが重要になるのではないか、という考えに基づいています。

注目すべきポイント

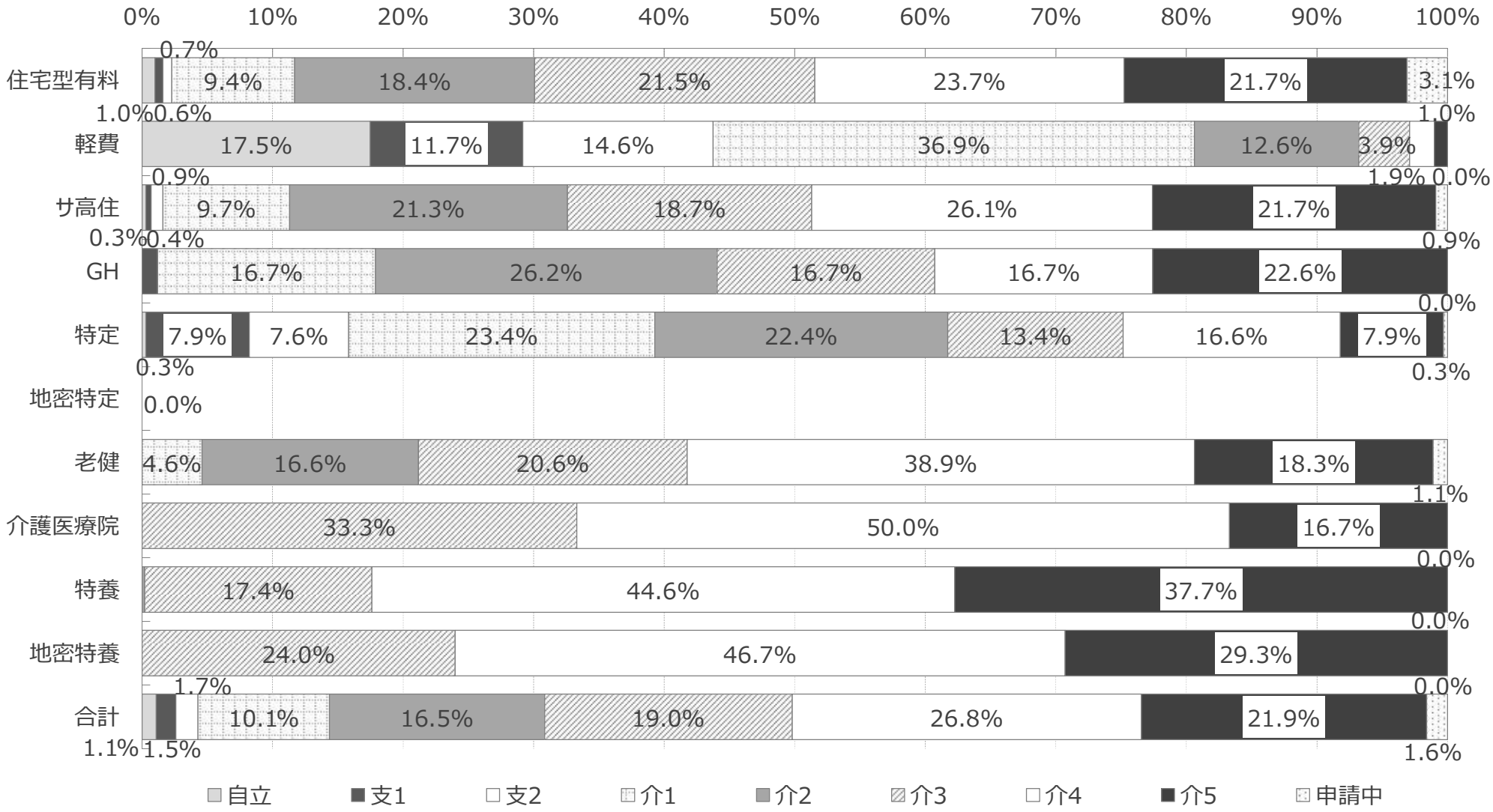
・過去１年間で居所を変更した人と、死亡した人は、どの程度いるか？（どの程度の方が、最後までその施設等で暮らし続けることができたのか）

・居所を変更する理由として、多いものは何か？（どのような機能を強化することで、その施設等で暮らし続けることができるようになるのか）

・各施設・居住系サービスで、各医療処置を受けている人の人数はどの程度か？（各医療処置への対応が可能な施設・居住系サービスはどこか）

※ 特に居所を変更する理由や、必要な機能等については、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに各施設・居住系サービスへのヒアリング調査などを通じて把握することが重要です。

現在の入所・入居者の要支援・要介護度



過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料	224人	270人	494人
(n=46)	45.3%	54.7%	100.0%
軽費	30人	1人	31人
(n=4)	96.8%	3.2%	100.0%
サ高住	100人	134人	234人
(n=28)	42.7%	57.3%	100.0%
GH	12人	5人	17人
(n=6)	70.6%	29.4%	100.0%
特定	31人	43人	74人
(n=5)	41.9%	58.1%	100.0%
地密特定	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%
老健	276人	21人	297人
(n=2)	92.9%	7.1%	100.0%
介護医療院	2人	3人	5人
(n=1)	40.0%	60.0%	100.0%
特養	50人	89人	139人
(n=7)	36.0%	64.0%	100.0%
地密特養	18人	5人	23人
(n=3)	78.3%	21.7%	100.0%
合計	743人	571人	1314人
(n=102)	56.5%	43.5%	100.0%

過去1年間の住宅型有料老人ホームの入居及び退居の流れ

新規入居

561人

【住宅型有料】
46施設
1808室

入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	152人 27.1%	58人 10.3%	210人 37.4%
住宅型有料	39人 7.0%	15人 2.7%	54人 9.6%
軽費	3人 0.5%	2人 0.4%	5人 0.9%
サ高住	3人 0.5%	4人 0.7%	7人 1.2%
GH	6人 1.1%	4人 0.7%	10人 1.8%
特定	1人 0.2%	3人 0.5%	4人 0.7%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	11人 2.0%	6人 1.1%	17人 3.0%
介護医療院	0人 0.0%	1人 0.2%	1人 0.2%
特養	5人 0.9%	1人 0.2%	6人 1.1%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	153人 27.3%	79人 14.1%	232人 41.4%
その他	2人 0.4%	0人 0.0%	2人 0.4%
把握していない			13人 2.3%
合計	375人 66.8%	173人 30.8%	561人 100.0%

退居

494人

死亡
270人
(54.7%)

居所変更
224人
(45.3%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	12人 5.4%	4人 1.8%	16人 7.1%
住宅型有料	25人 11.2%	19人 8.5%	44人 19.6%
軽費	0人 0.0%	1人 0.4%	1人 0.4%
サ高住	3人 1.3%	1人 0.4%	4人 1.8%
GH	2人 0.9%	1人 0.4%	3人 1.3%
特定	3人 1.3%	0人 0.0%	3人 1.3%
地密特定	1人 0.4%	0人 0.0%	1人 0.4%
老健	2人 0.9%	1人 0.4%	3人 1.3%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	79人 35.3%	20人 8.9%	99人 44.2%
特養	9人 4.0%	7人 3.1%	16人 7.1%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	5人 2.2%	4人 1.8%	9人 4.0%
把握していない			25人 11.2%
合計	141人 62.9%	58人 25.9%	224人 100.0%

過去1年間の軽費老人ホームの入居及び退居の流れ

新規入居

26人

【軽費老人ホーム】
4施設
125室

入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	13人 50.0%	8人 30.8%	21人 80.8%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	1人 3.8%	0人 0.0%	1人 3.8%
サ高住	0人 0.0%	1人 3.8%	1人 3.8%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	2人 7.7%	0人 0.0%	2人 7.7%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	1人 3.8%	0人 0.0%	1人 3.8%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	17人 65.4%	9人 34.6%	26人 100.0%

退居

31人

死亡
1人
(3.2%)

居所変更
30人
(96.8%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人 3.3%	1人 3.3%	2人 6.7%
住宅型有料	4人 13.3%	2人 6.7%	6人 20.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	1人 3.3%	0人 0.0%	1人 3.3%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	12人 40.0%	4人 13.3%	16人 53.3%
特養	3人 10.0%	1人 3.3%	4人 13.3%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	1人 3.3%	0人 0.0%	1人 3.3%
把握していない			0人 0.0%
合計	22人 73.3%	8人 26.7%	30人 100.0%

過去1年間のサービス付き高齢者向け住宅の入居及び退居の流れ

新規入居

253人

【サ高住】
28施設
808戸

入居前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	94人 37.2%	16人 6.3%	110人 43.5%
住宅型有料	8人 3.2%	0人 0.0%	8人 3.2%
軽費	2人 0.8%	0人 0.0%	2人 0.8%
サ高住	12人 4.7%	2人 0.8%	14人 5.5%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	9人 3.6%	0人 0.0%	9人 3.6%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	98人 38.7%	8人 3.2%	106人 41.9%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			4人 1.6%
合計	223人 88.1%	26人 10.3%	253人 100.0%

退居

234人

死亡
134人
(57.3%)

居所変更
100人
(42.7%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	11人 11.0%	1人 1.0%	12人 12.0%
住宅型有料	5人 5.0%	3人 3.0%	8人 8.0%
軽費	1人 1.0%	0人 0.0%	1人 1.0%
サ高住	14人 14.0%	8人 8.0%	22人 22.0%
GH	1人 1.0%	0人 0.0%	1人 1.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	6人 6.0%	0人 0.0%	6人 6.0%
介護医療院	1人 1.0%	0人 0.0%	1人 1.0%
病院・診療所	38人 38.0%	4人 4.0%	42人 42.0%
特養	5人 5.0%	0人 0.0%	5人 5.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			2人 2.0%
合計	82人 82.0%	16人 16.0%	100人 100.0%

過去1年間のグループホームの入所及び退所の流れ

新規入所

20人

【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ】
6施設
定員99人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	11人 55.0%	0人 0.0%	11人 55.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	1人 5.0%	0人 0.0%	1人 5.0%
サ高住	2人 10.0%	0人 0.0%	2人 10.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	2人 10.0%	1人 5.0%	3人 15.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	1人 0.2%	0人 0.0%	1人 5.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	1人 0.2%	0人 0.0%	1人 0.2%
その他	1人 0.2%	0人 0.0%	1人 5.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	19人 95.0%	1人 5.0%	20人 100.0%

退所

17人

死亡
5人
(29.4%)

居所変更
12人
(70.6%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	4人 33.3%	0人 0.0%	4人 33.3%
病院・診療所	7人 58.3%	0人 0.0%	7人 58.3%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			1人 8.3%
合計	11人 91.7%	0人 0.0%	12人 100.0%

過去1年間の特定施設の入所及び退所の流れ

新規入所

64人

【特定施設】

5施設

定員332人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	21人 32.8%	13人 20.3%	34人 53.1%
住宅型有料	2人 3.1%	1人 1.6%	3人 4.7%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	1人 1.6%	1人 1.6%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	1人 1.6%	1人 1.6%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	3人 4.7%	1人 1.6%	4人 6.3%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	2人 3.1%	1人 1.6%	3人 4.7%
病院・診療所	10人 15.6%	8人 12.5%	18人 28.1%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	38人 59.4%	26人 40.6%	64人 100.0%

退所

74人

死亡

43人

(58.1%)

居所変更

31人

(41.9%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人 3.2%	1人 3.2%	2人 6.5%
住宅型有料	2人 6.5%	0人 0.0%	2人 6.5%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	1人 3.2%	0人 0.0%	1人 3.2%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	3人 9.7%	3人 9.7%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	1人 3.2%	1人 3.2%	2人 6.5%
病院・診療所	15人 48.4%	2人 6.5%	17人 54.8%
特養	4人 12.9%	0人 0.0%	4人 12.9%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	24人 77.4%	7人 22.6%	31人 100.0%

過去1年間の地域密着型特定施設の入所及び退所の流れ

新規入所

0人

【地密特定】

0施設

定員0人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%

退所

0人

死亡

0人

(0.0%)

居所変更

0人

(0.0%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%

過去1年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ

新規入所

302人

【老健】
2施設
定員200人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	144人 47.7%	13人 4.3%	157人 52.0%
住宅型有料	6人 2.0%	39人 12.9%	45人 14.9%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	63人 20.9%	37人 12.3%	100人 33.1%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	213人 70.5%	89人 29.5%	302人 100.0%

退所

297人

死亡
21人
(7.1%)

居所変更
276人
(92.9%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	98人 35.5%	18人 6.5%	116人 42.0%
住宅型有料	0人 0.0%	50人 18.1%	50人 18.1%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	57人 20.7%	45人 16.3%	102人 37.0%
特養	8人 2.9%	0人 0.0%	8人 2.9%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	163人 59.1%	113人 40.9%	276人 100.0%

過去1年間の介護医療院の入所及び退所の流れ

新規入所

3人

【介護医療院】

1施設
定員8人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	2人 66.7%	1人 33.3%	3人 100.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	2人 66.7%	1人 33.3%	3人 100.0%

退所

5人

死亡

3人
(60.0%)

居所変更

2人
(40.0%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	1人 50.0%	1人 50.0%	2人 100.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	1人 50.0%	1人 50.0%	2人 100.0%

過去1年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ

新規入所

125人

【特養】
7施設
定員449人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	31人 24.8%	8人 6.4%	39人 31.2%
住宅型有料	5人 4.0%	0人 0.0%	5人 4.0%
軽費	1人 0.8%	0人 0.0%	1人 0.8%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	5人 4.0%	0人 0.0%	5人 4.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	18人 14.4%	2人 1.6%	20人 16.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	1人 0.8%	0人 0.0%	1人 0.8%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	43人 34.4%	3人 2.4%	46人 36.8%
その他	8人 6.4%	0人 0.0%	8人 6.4%
把握していない			0人 0.0%
合計	112人 89.6%	13人 10.4%	125人 100.0%

退所

139人

死亡
89人
(64.0%)

居所変更
50人
(36.0%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	1人 2.0%	0人 0.0%	1人 2.0%
住宅型有料	2人 4.0%	0人 0.0%	2人 4.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	2人 4.0%	0人 0.0%	2人 4.0%
介護医療院	1人 2.0%	0人 0.0%	1人 2.0%
病院・診療所	41人 82.0%	1人 2.0%	42人 84.0%
特養	1人 2.0%	1人 2.0%	2人 4.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	48人 96.0%	2人 4.0%	50人 100.0%

過去1年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ

新規入所

26人

【地密特養】

3施設

定員87人

入所前	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	10人 38.5%	0人 0.0%	10人 38.5%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	2人 7.7%	0人 0.0%	2人 7.7%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	1人 3.8%	0人 0.0%	1人 3.8%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	10人 38.5%	0人 0.0%	10人 38.5%
その他	3人 11.5%	0人 0.0%	3人 11.5%
把握していない			0人 0.0%
合計	26人 100.0%	0人 0.0%	26人 100.0%

退所

23人

死亡

5人

(21.7%)

居所変更

18人

(78.3%)

変更後	市区町村内	市区町村外	合計
自宅	8人 44.4%	0人 0.0%	8人 44.4%
住宅型有料	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
軽費	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
サ高住	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
GH	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特定	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	10人 55.6%	0人 0.0%	10人 55.6%
特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地密特養	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
把握していない			0人 0.0%
合計	18人 100.0%	0人 0.0%	18人 100.0%

居所変更した人の要支援・要介護度

サービス種別	自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	死亡	申請中	合計
住宅型有料	3人	5人	2人	23人	24人	50人	64人	50人	270人	3人	494人
(n=46)	0.6%	1.0%	0.4%	4.7%	4.9%	10.1%	13.0%	10.1%	54.7%	0.6%	100.0%
軽費	2人	4人	2人	10人	6人	3人	3人	0人	1人	0人	31人
(n=4)	6.5%	12.9%	6.5%	32.3%	19.4%	9.7%	9.7%	0.0%	3.2%	0.0%	100.0%
サ高住	0人	0人	0人	16人	18人	25人	19人	22人	134人	0人	234人
(n=28)	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%	7.7%	10.7%	8.1%	9.4%	57.3%	0.0%	100.0%
GH	0人	0人	0人	2人	2人	3人	4人	1人	5人	0人	17人
(n=6)	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	11.8%	17.6%	23.5%	5.9%	29.4%	0.0%	100.0%
特定	1人	1人	2人	3人	4人	10人	5人	5人	43人	0人	74人
(n=5)	1.4%	1.4%	2.7%	4.1%	5.4%	13.5%	6.8%	6.8%	58.1%	0.0%	100.0%
地密特定	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老健	0人	0人	0人	40人	49人	92人	56人	39人	21人	0人	297人
(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	13.5%	16.5%	31.0%	18.9%	13.1%	7.1%	0.0%	100.0%
介護医療院	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	3人	0人	5人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	100.0%
特養	0人	0人	0人	0人	1人	13人	15人	21人	89人	0人	139人
(n=7)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	9.4%	10.8%	15.1%	64.0%	0.0%	100.0%
地密特養	0人	0人	0人	0人	0人	5人	6人	7人	5人	0人	23人
(n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.7%	26.1%	30.4%	21.7%	0.0%	100.0%
合計	6人	10人	6人	94人	104人	202人	173人	145人	571人	3人	1314人
(n=102)	0.5%	0.8%	0.5%	7.2%	7.9%	15.4%	13.2%	11.0%	43.5%	0.2%	100.0%

居所変更した人の要支援･要介護度（老健を除外）

サービス種別	自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	死亡	申請中	合計
住宅型有料	3人	5人	2人	23人	24人	50人	64人	50人	270人	3人	494人
(n=46)	0.6%	1.0%	0.4%	4.7%	4.9%	10.1%	13.0%	10.1%	54.7%	0.6%	100.0%
軽費	2人	4人	2人	10人	6人	3人	3人	0人	1人	0人	31人
(n=4)	6.5%	12.9%	6.5%	32.3%	19.4%	9.7%	9.7%	0.0%	3.2%	0.0%	100.0%
サ高住	0人	0人	0人	16人	18人	25人	19人	22人	134人	0人	234人
(n=28)	0.0%	0.0%	0.0%	6.8%	7.7%	10.7%	8.1%	9.4%	57.3%	0.0%	100.0%
GH	0人	0人	0人	2人	2人	3人	4人	1人	5人	0人	17人
(n=6)	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	11.8%	17.6%	23.5%	5.9%	29.4%	0.0%	100.0%
特定	1人	1人	2人	3人	4人	10人	5人	5人	43人	0人	74人
(n=5)	1.4%	1.4%	2.7%	4.1%	5.4%	13.5%	6.8%	6.8%	58.1%	0.0%	100.0%
地密特定	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	3人	0人	5人
(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	100.0%
特養	0人	0人	0人	0人	1人	13人	15人	21人	89人	0人	139人
(n=7)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	9.4%	10.8%	15.1%	64.0%	0.0%	100.0%
地密特養	0人	0人	0人	0人	0人	5人	6人	7人	5人	0人	23人
(n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.7%	26.1%	30.4%	21.7%	0.0%	100.0%
合計（老健除外）	6人	10人	6人	54人	55人	110人	117人	106人	550人	3人	1017人
(n=100)	0.6%	1.0%	0.6%	5.3%	5.4%	10.8%	11.5%	10.4%	54.1%	0.3%	100.0%

★施設等における死亡率（向上を目指す） → **54.1%**

★要介護２以下の居所変更率（低下を目指す） → **12.9%**

居所変更した理由

サービス種別	生活支援	身体介護	認知症	医療的ケア	その他状態像の悪化	状態等の改善	居宅サービス利用を望まなかった	費用負担	本人の希望	その他	無回答
住宅型有料	3	5	10	27	7	1	1	6	9	13	6
(n=46)	6.5%	10.9%	21.7%	58.7%	15.2%	2.2%	2.2%	13.0%	19.6%	28.3%	13.0%
軽費	1	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0
(n=4)	25.0%	75.0%	75.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
サ高住	0	0	2	24	4	3	0	9	4	7	0
(n=28)	0.0%	0.0%	7.1%	85.7%	14.3%	10.7%	0.0%	32.1%	14.3%	25.0%	0.0%
GH	0	1	0	6	1	0	0	2	0	0	0
(n=6)	0.0%	16.7%	0.0%	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
特定	0	1	1	4	1	0	0	2	1	1	0
(n=5)	0.0%	20.0%	20.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%
地密特定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老健	0	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0
(n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
介護医療院	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
(n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
特養	0	0	2	7	0	2	0	0	2	3	0
(n=7)	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	28.6%	42.9%	0.0%
地密特養	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0
(n=3)	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	4	10	22	77	13	8	1	19	17	24	6
(n=102)	3.9%	9.8%	21.6%	75.5%	12.7%	7.8%	1.0%	18.6%	16.7%	23.5%	5.9%

受け入れ可能な医療処置の種類

サービス種別	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ｽﾄｰﾏの処置	酸素療法	ﾚｽﾋﾟﾚｰﾀｰ	気管切開の処置	疼痛の看護	経管栄養	ﾓﾆﾀｰ測定	褥瘡の処置	ｶﾃｰﾃﾙ	喀痰吸引	ｲﾝｽﾘﾝ注射	対応可能な医療処置はない
住宅型有料	30	21	27	37	36	12	16	22	27	9	38	27	26	31	2
(n=46)	65.2%	45.7%	58.7%	80.4%	78.3%	26.1%	34.8%	47.8%	58.7%	19.6%	82.6%	58.7%	56.5%	67.4%	4.3%
軽費	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
(n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%
サ高住	18	9	21	18	27	2	4	16	12	2	22	19	14	12	1
(n=28)	64.3%	32.1%	75.0%	64.3%	96.4%	7.1%	14.3%	57.1%	42.9%	7.1%	78.6%	67.9%	50.0%	42.9%	3.6%
GH	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
(n=6)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
特定	3	1	2	4	5	0	1	2	2	0	5	2	2	4	0
(n=5)	60.0%	20.0%	40.0%	80.0%	100.0%	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%	40.0%	40.0%	80.0%	0.0%
地密特定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(n=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
老健	2	0	1	2	1	0	0	2	2	1	2	2	2	2	0
(n=2)	100.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
介護医療院	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0
(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
特養	6	0	0	5	5	0	0	0	2	1	7	5	4	3	0
(n=7)	85.7%	0.0%	0.0%	71.4%	71.4%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	100.0%	71.4%	57.1%	42.9%	0.0%
地密特養	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0
(n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	60	31	51	70	78	14	21	42	48	13	81	57	49	54	8
(n=102)	58.8%	30.4%	50.0%	68.6%	76.5%	13.7%	20.6%	41.2%	47.1%	12.7%	79.4%	55.9%	48.0%	52.9%	7.8%

医療処置が必要な入所・入居者数の割合

サービス種別	医療処置を受けている 入所・入居者数
住宅型有料	197人
(n=46)	14.5%
軽費	3人
(n=4)	2.9%
サ高住	96人
(n=28)	13.9%
GH	4人
(n=6)	4.8%
特定	15人
(n=5)	5.2%
地密特定	0人
(n=0)	0.0%
老健	12人
(n=2)	6.9%
介護医療院	6人
(n=1)	100.0%
特養	71人
(n=7)	16.9%
地密特養	9人
(n=3)	12.0%
合計	413人
(n=102)	12.9%

（注）割合は各セルの人数を施設等ごとの入居・入所者数で除して算出しています。

資料１－１

＜集計分析結果＞

（単純集計版）

在宅介護実態調査の集計結果

～第 10 期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和８年３月

＜岸和田市＞

目次

1 基本調査項目（A票）　［P. 1］
(1) 世帯類型　［P. 1］
(2) 家族等による介護の頻度　［P. 1］
(3) 主な介護者の本人との関係　［P. 2］
(4) 主な介護者の性別　［P. 2］
(5) 主な介護者の年齢　［P. 3］
(6) 主な介護者が行っている介護　［P. 4］
(7) 介護のための離職の有無　［P. 5］
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況　［P. 6］
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス　［P. 7］
(10) 施設等検討の状況　［P. 7］
(11) 本人が抱えている傷病　［P. 8］
(12) 訪問診療の利用の有無　［P. 9］
(13) 介護保険サービスの利用の有無　［P. 9］
(14) 介護保険サービス未利用の理由　［P. 10］
2 主な介護者様用の調査項目（B票）　［P. 11］
(1) 主な介護者の勤務形態　［P. 11］
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況　［P. 12］
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援　［P. 13］
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識　［P. 14］
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護　［P. 15］
3 要介護認定データ　［P. 16］
(1) 年齢　［P. 16］
(2) 性別　［P. 16］
(3) 二次判定結果（要介護度）　［P. 17］
(4) サービス利用の組み合わせ　［P. 17］
(5) 訪問系サービスの合計利用回数　［P. 18］
(6) 通所系サービスの合計利用回数　［P. 19］
(7) 短期系サービスの合計利用回数　［P. 20］
(8) 障害高齢者の日常生活自立度　［P. 20］
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度　［P. 21］

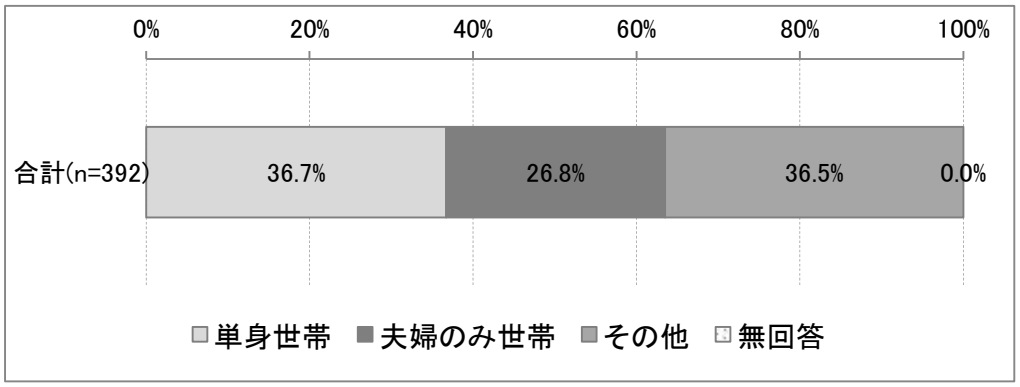
※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

1　基本調査項目（Ａ票）

(1)　世帯類型

「単身世帯」の割合が最も高く 36.7%となっている。次いで、「その他（36.5%)」、「夫婦のみ世帯（26.8%)」となっている。

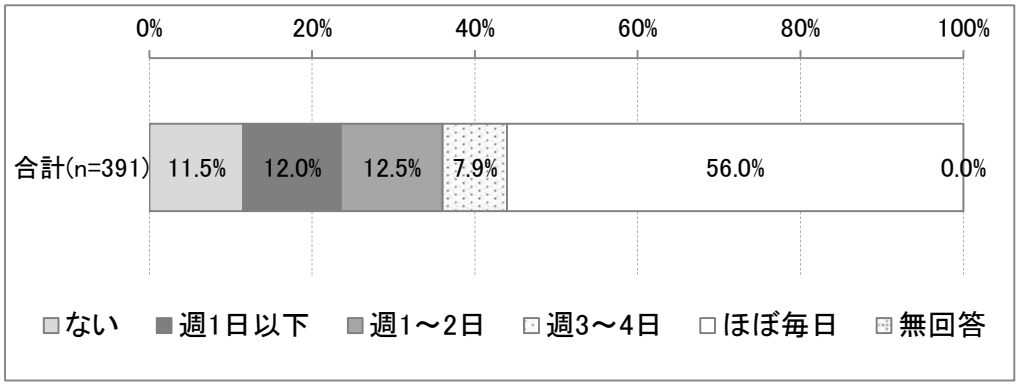
図表 1-1　世帯類型（単数回答）



(2)　家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 56.0%となっている。次いで、「週 1～2 日（12.5%)」、「週 1 日以下（12.0%)」となっている。

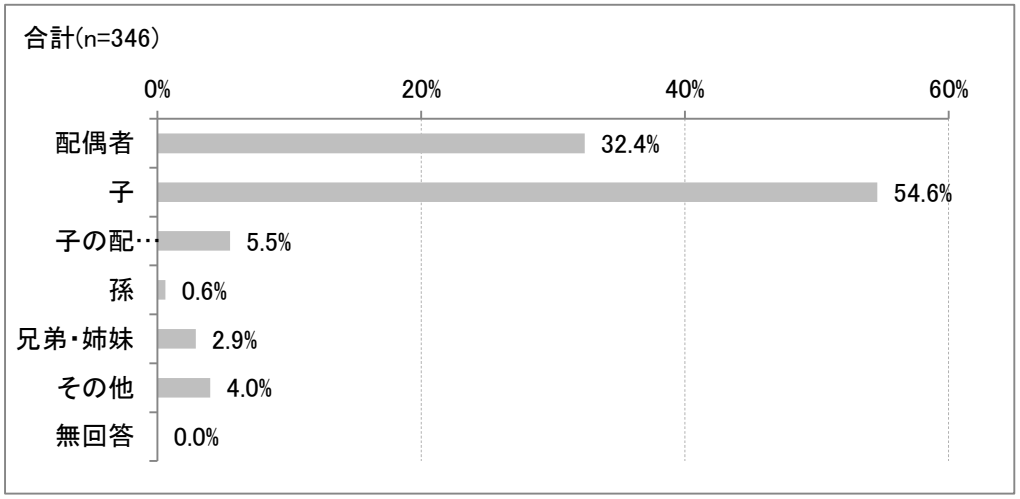
図表 1-2　家族等による介護の頻度（単数回答）



(3)　主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 54.6%となっている。次いで、「配偶者（32.4%)」、「子の配偶者(5.5%)」となっている。

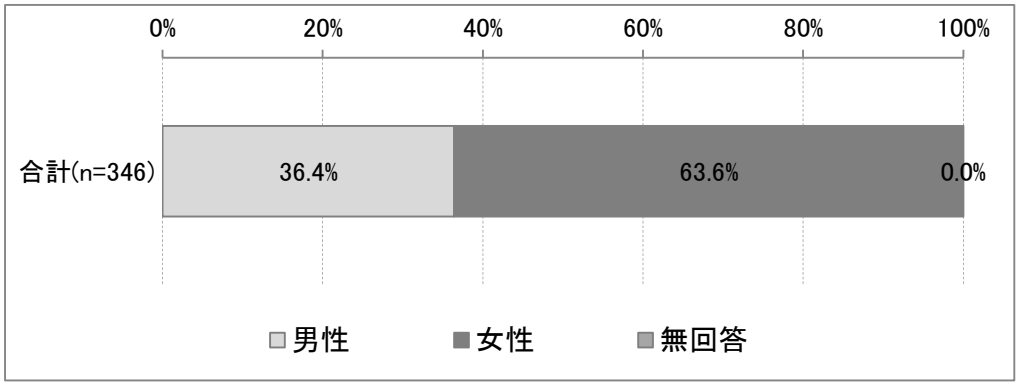
図表 1-3　★主な介護者の本人との関係（単数回答）



(4)　主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く 63.6%となっている。次いで、「男性（36.4%)」となっている。

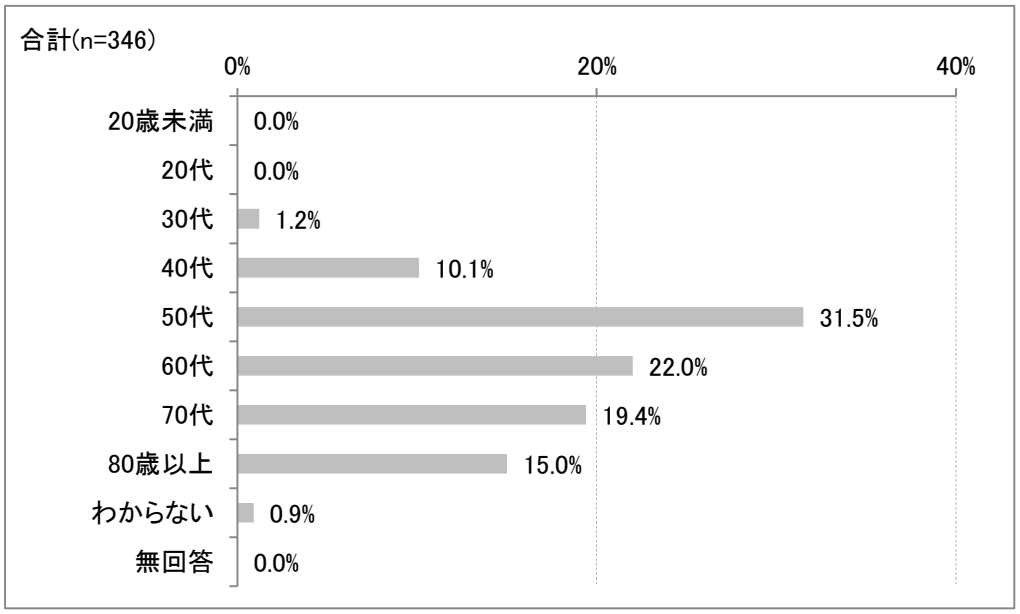
図表 1-4　★主な介護者の性別（単数回答）



(5)　主な介護者の年齢

「50 代」の割合が最も高く 31.5%となっている。次いで、「60 代（22.0%)」、「70 代(19.4%)」となっている。

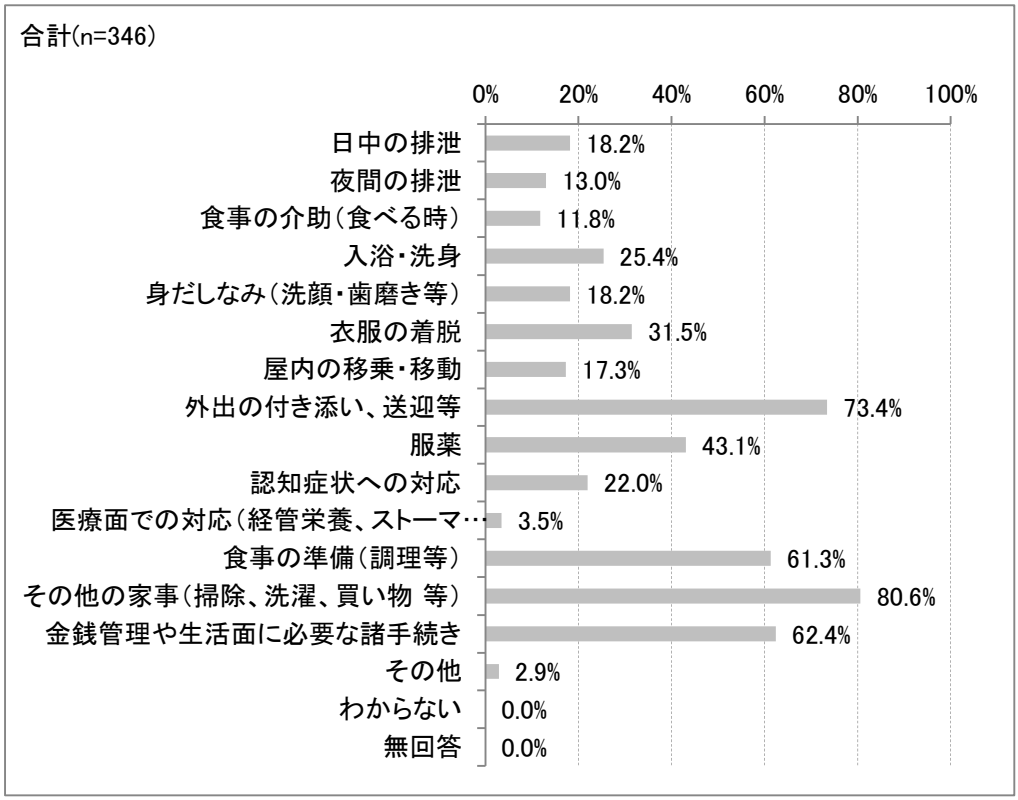
図表 1-5　主な介護者の年齢（単数回答）



(6)　主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等)」の割合が最も高く 80.6%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等（73.4%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（62.4%)」となっている。

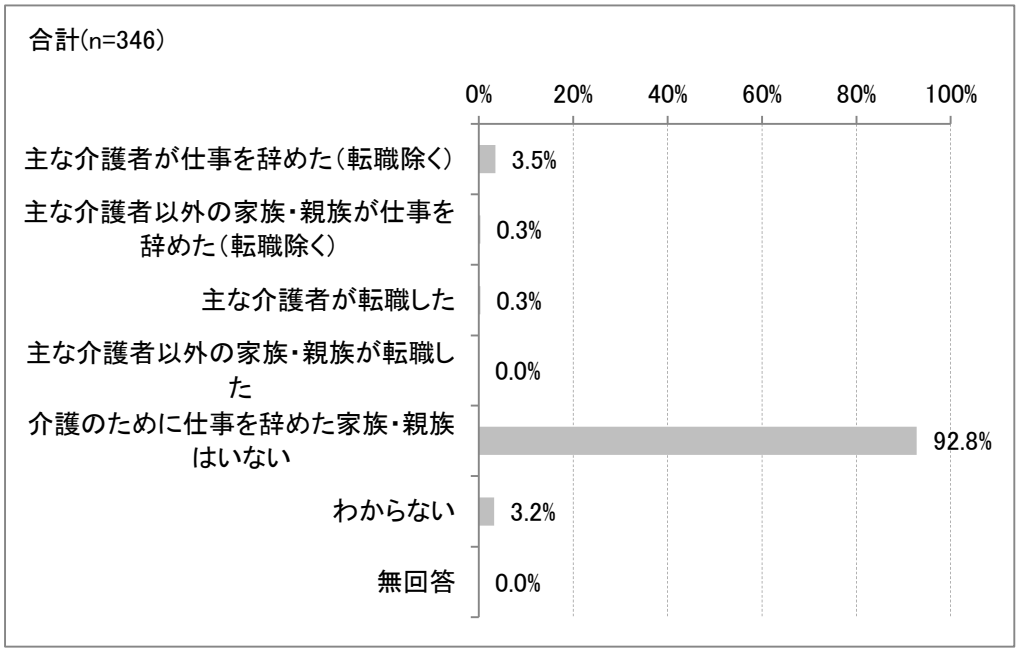
図表 1-6　★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7)　介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 92.8%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（3.5%）」、「わからない（3.2%）」となっている。

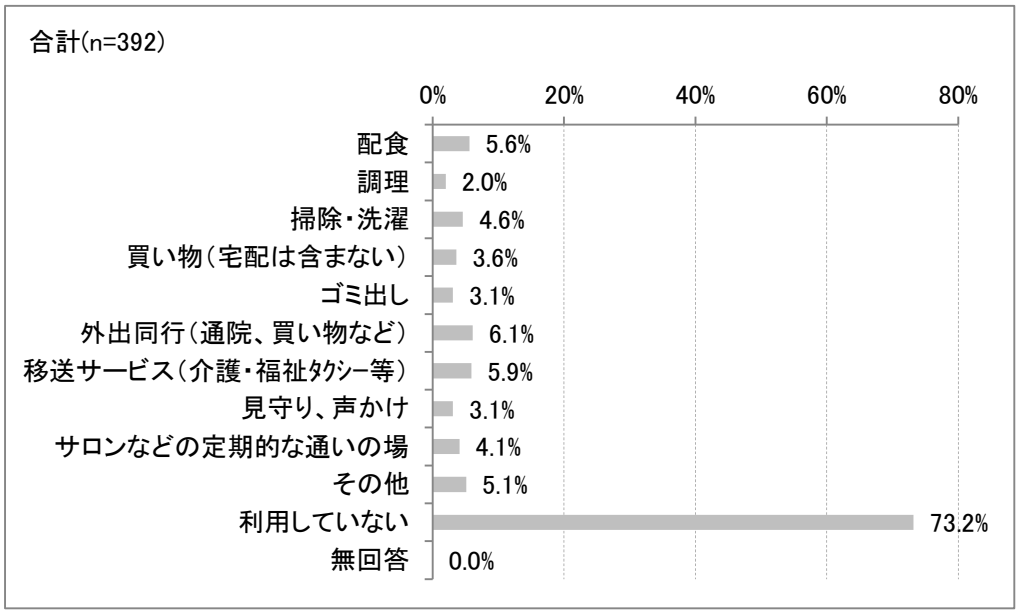
図表 1-7　介護のための離職の有無（複数回答）



(8)　保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 73.2%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（6.1%）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）（5.9%）」となっている。

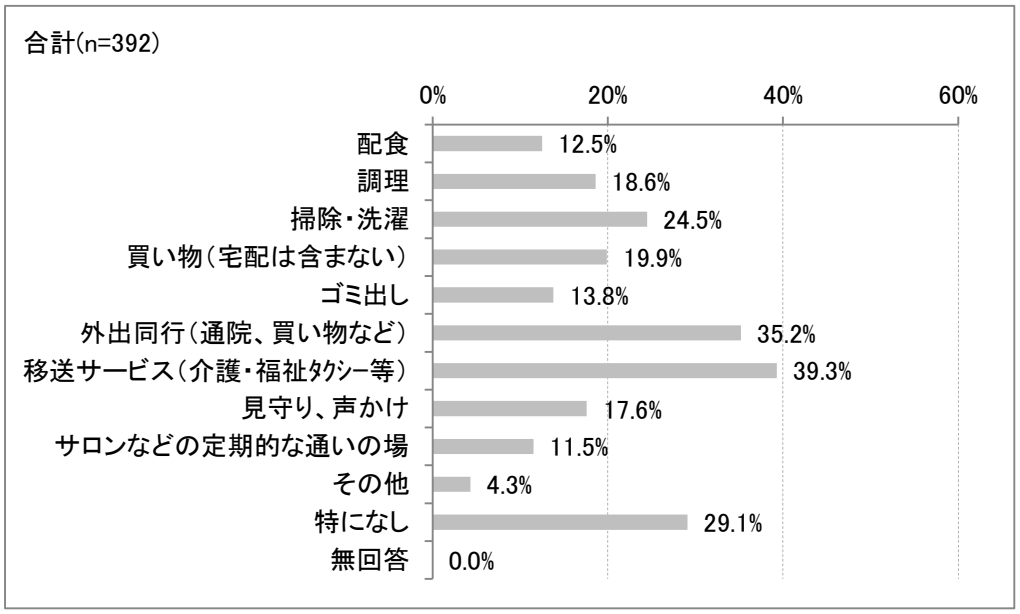
図表 1-8　★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9)　在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」の割合が最も高く 39.3%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（35.2%）」、「特になし（29.1%）」となっている。

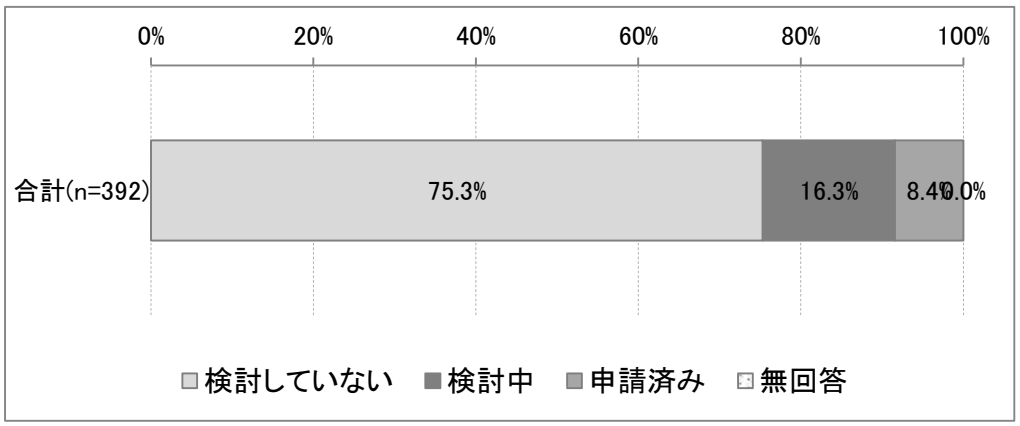
図表 1-9　★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10)　施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 75.3%となっている。次いで、「検討中（16.3%）」、「申請済み（8.4%）」となっている。

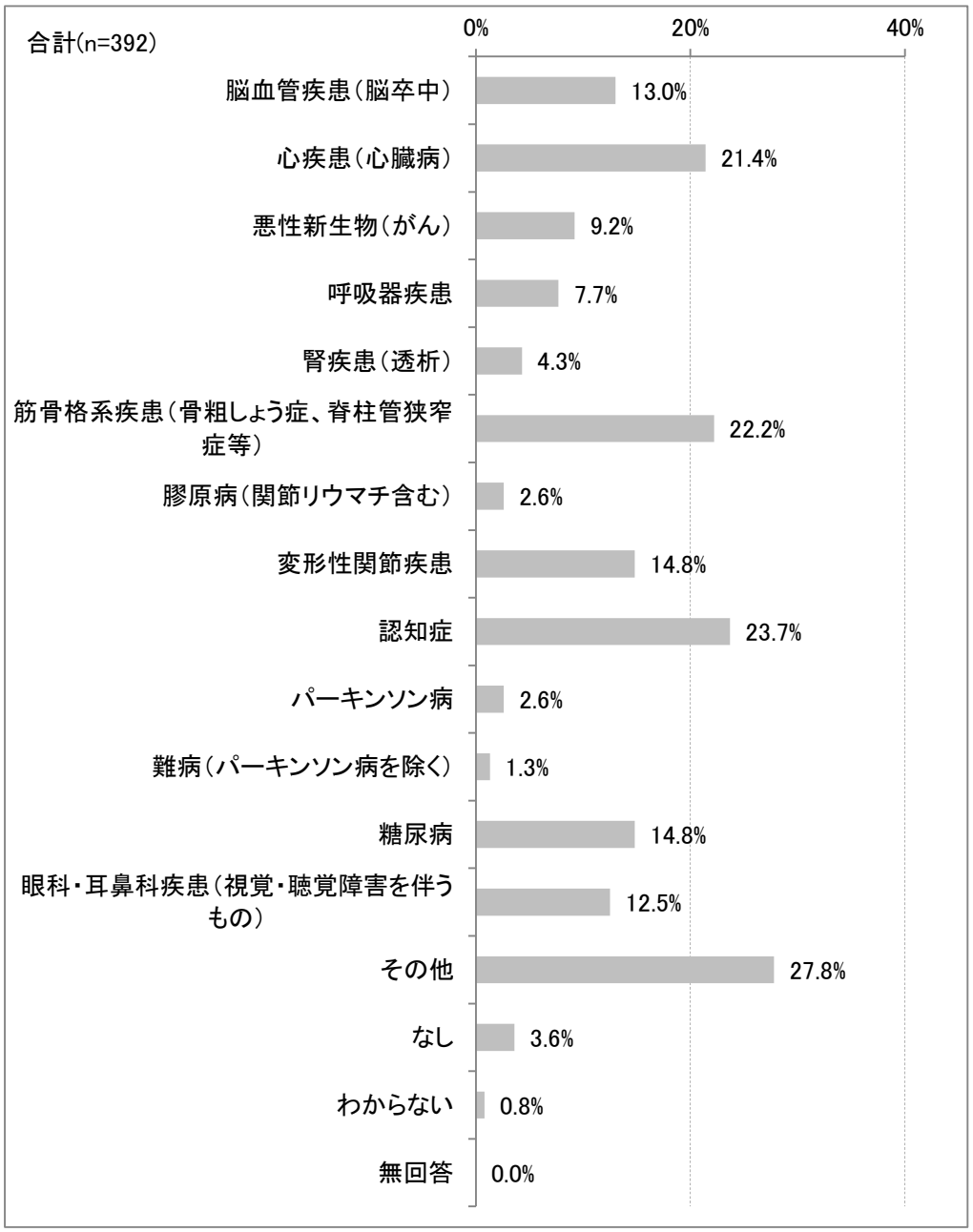
図表 1-10　施設等検討の状況（単数回答）



(11)　本人が抱えている傷病

「その他」の割合が最も高く 27.8%となっている。次いで、「認知症（23.7%)」、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）（22.2%)」となっている。

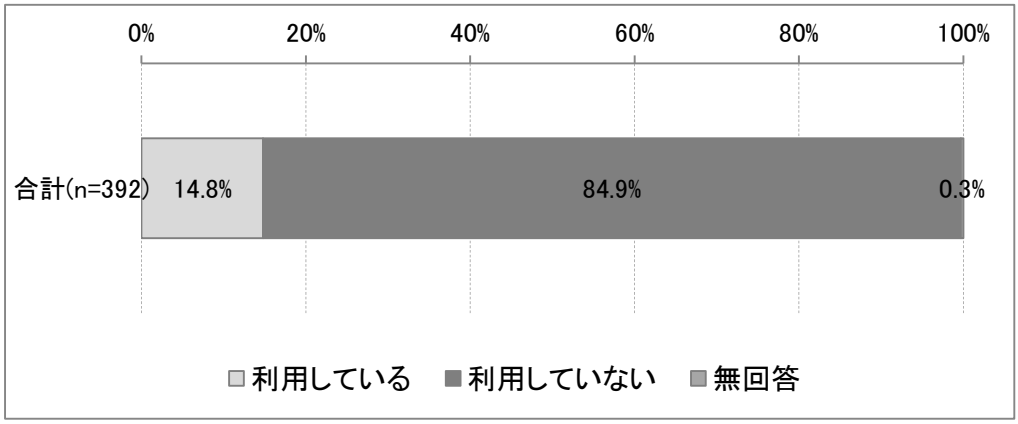
図表 1-11　★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12)　訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 84.9%となっている。次いで、「利用している(14.8%)」となっている。

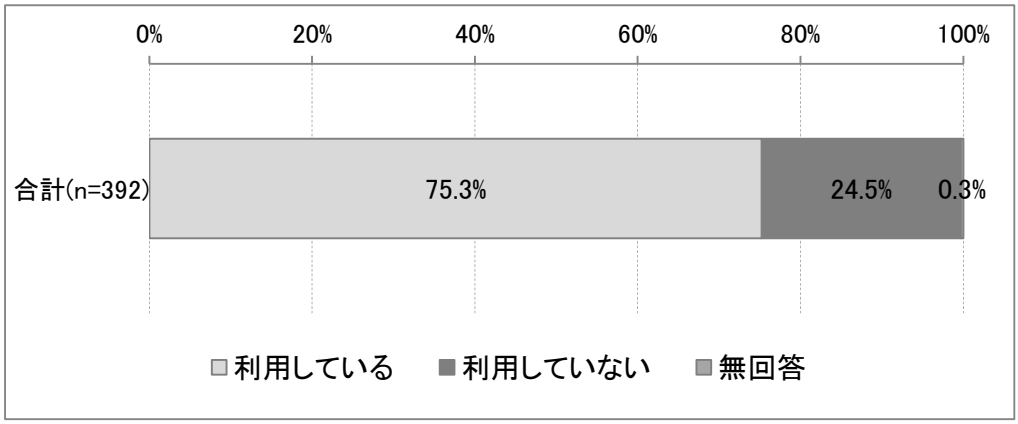
図表 1-12　★訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13)　介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 75.3%となっている。次いで、「利用していない(24.5%)」となっている。

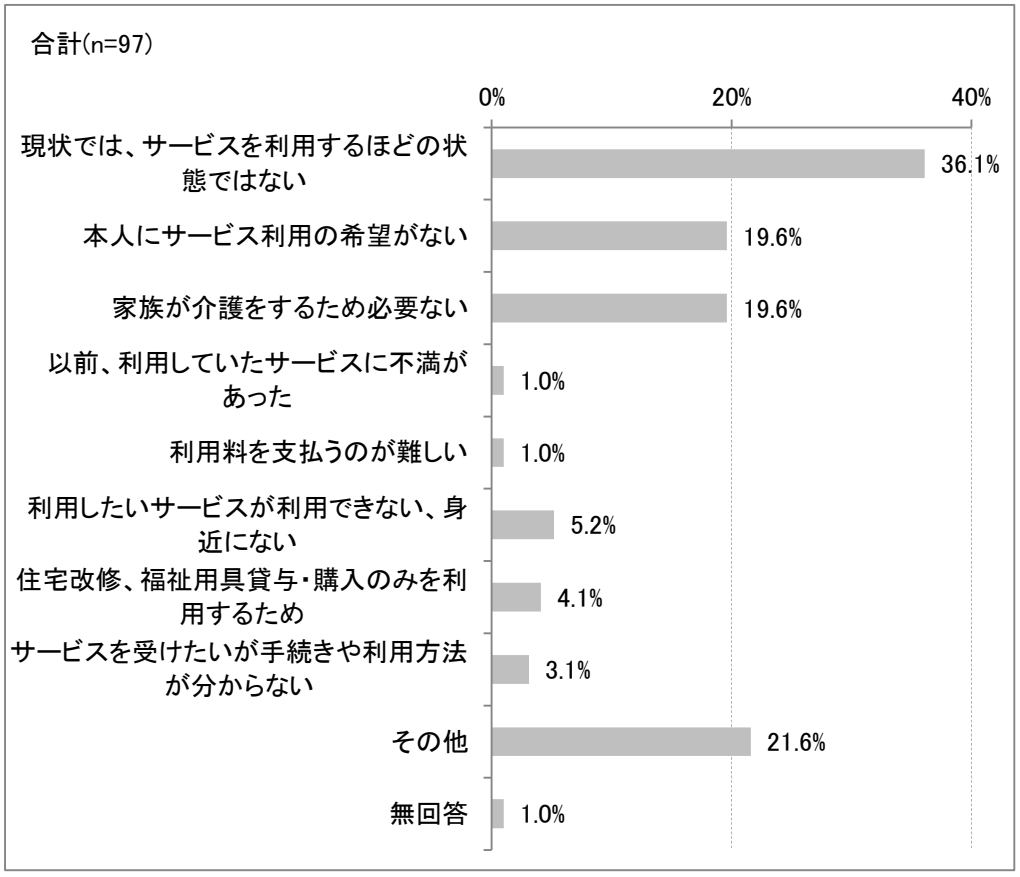
図表 1-13　★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14)　介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く 36.1%となっている。次いで、「その他（21.6%）」、「本人にサービス利用の希望がない（19.6%）」、「家族が介護をするため必要ない（19.6%）」となっている。

図表 1-14　★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

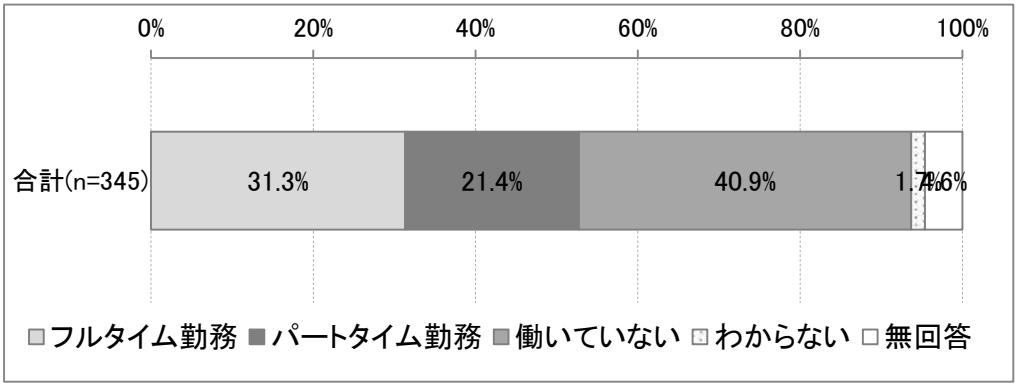


2　主な介護者様用の調査項目（Ｂ票）

(1)　主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 40.9%となっている。次いで、「フルタイム勤務(31.3%)」、「パートタイム勤務（21.4%)」となっている。

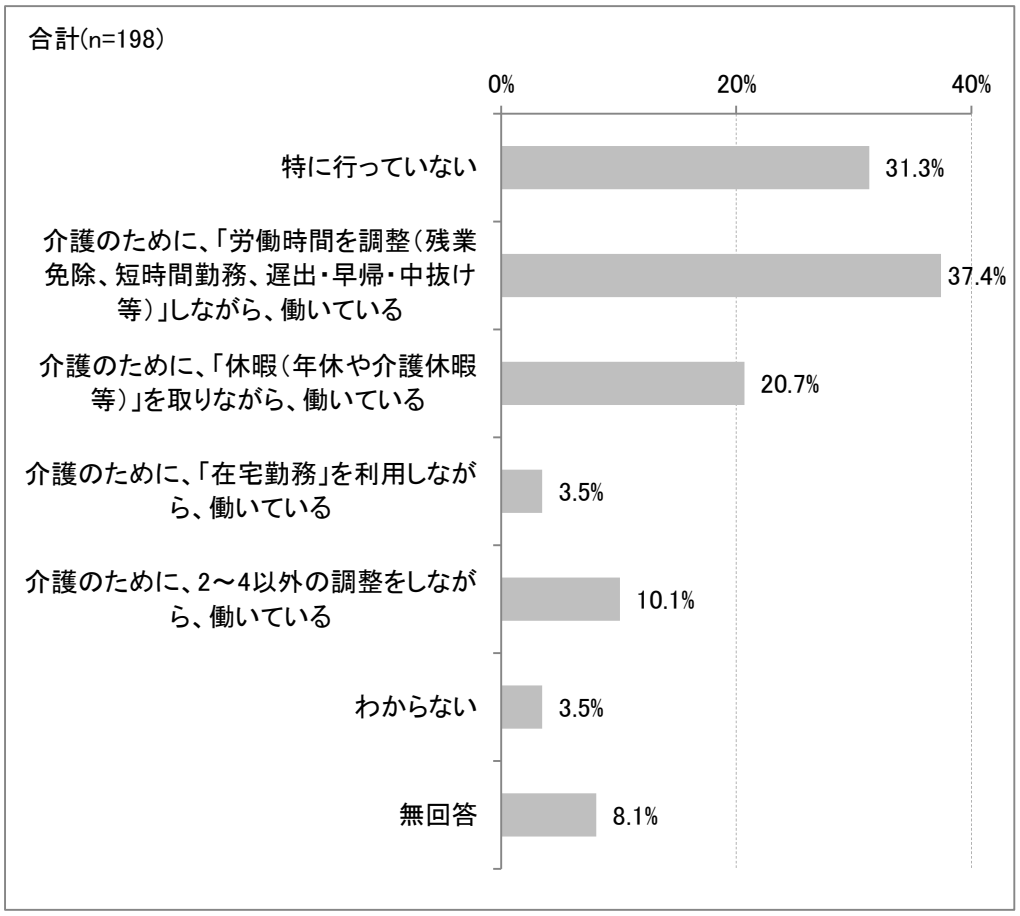
図表 2-1　主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2)　主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」の割合が最も高く 37.4%となっている。次いで、「特に行っていない(31.3%)」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている(20.7%)」となっている。

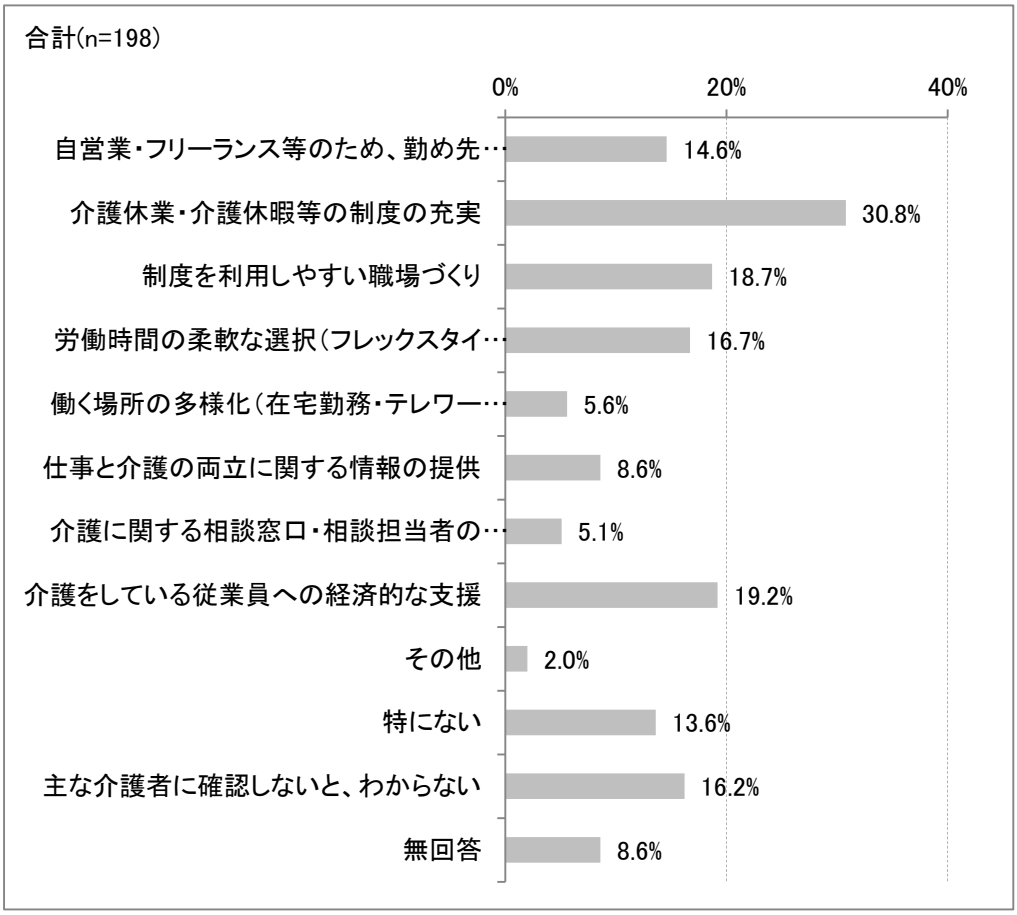
図表 2-2　主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高く 30.8%となっている。次いで、「介護をしている従業員への経済的な支援（19.2%）」、「制度を利用しやすい職場づくり（18.7%）」となっている。

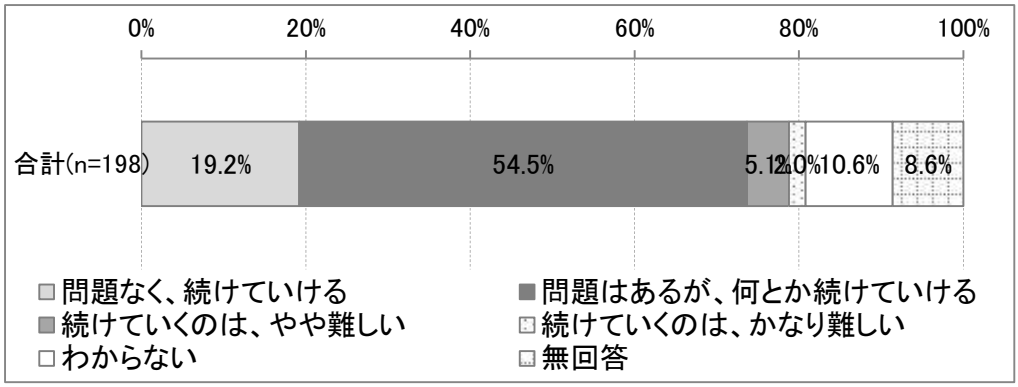
図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4)　主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 54.5%となっている。次いで、「問題なく、続けていける（19.2%)」、「わからない（10.6%)」となっている。

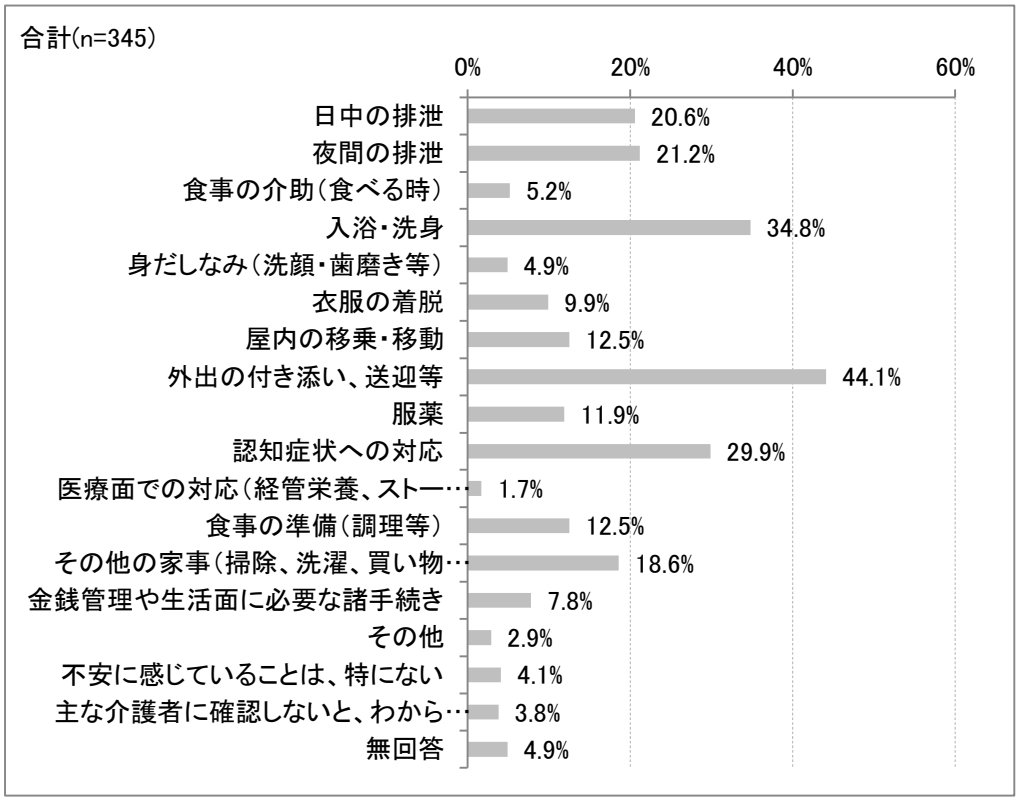
図表 2-4　主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5)　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 44.1%となっている。次いで、「入浴・洗身（34.8%）」、「認知症状への対応（29.9%）」となっている。

図表 2-5　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

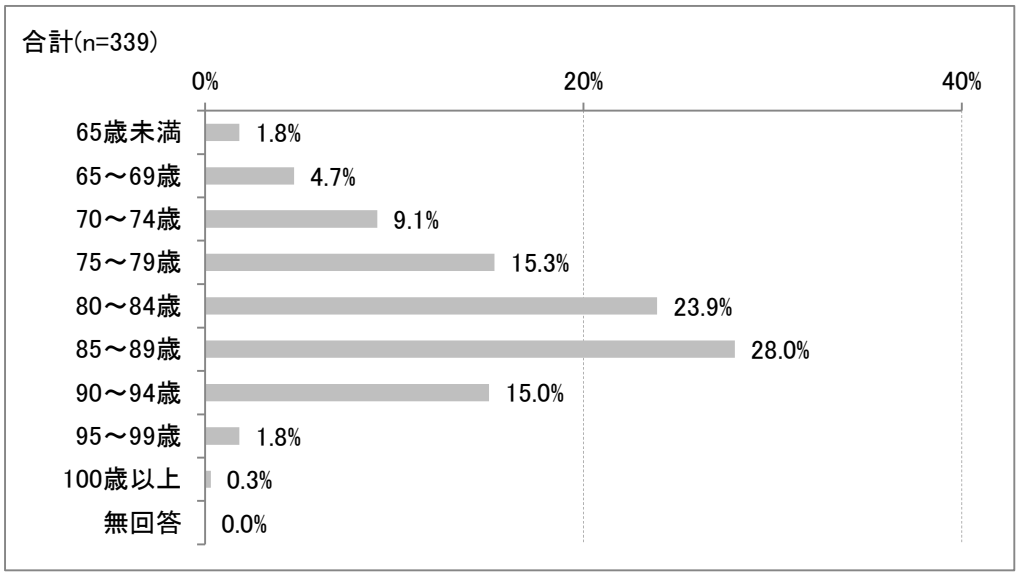


3　要介護認定データ

(1)　年齢

「85～89 歳」の割合が最も高く 28.0%となっている。次いで、「80～84 歳（23.9%)」、「75～79 歳（15.3%)」となっている。

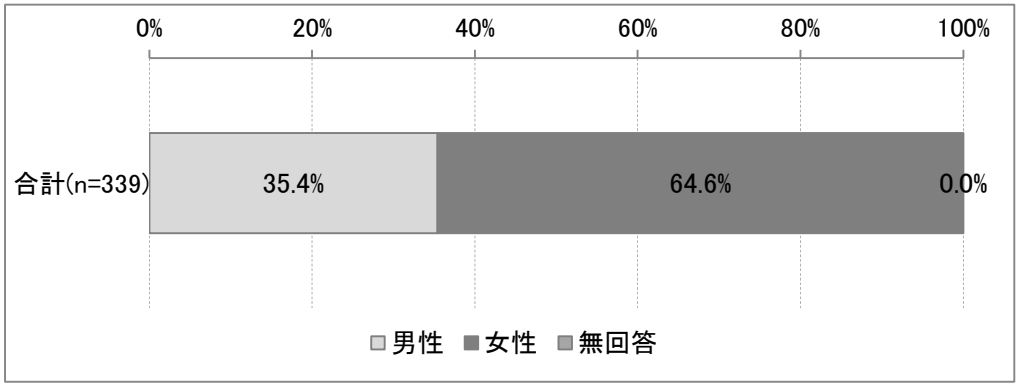
図表 3-1　年齢



(2)　性別

「女性」の割合が最も高く 64.6%となっている。次いで、「男性（35.4%)」となっている。

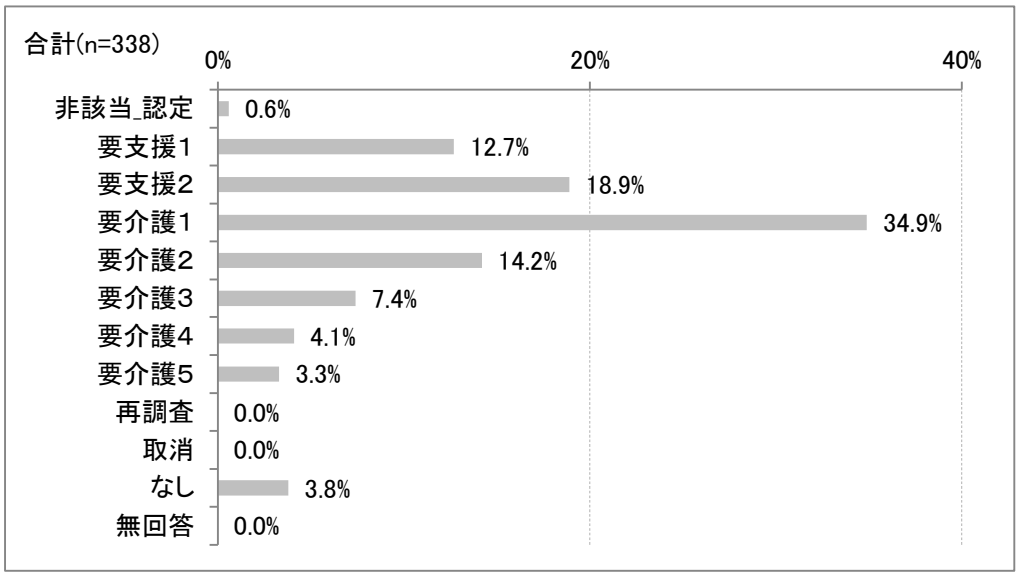
図表 3-2　性別



(3)　二次判定結果（要介護度）

「要介護１」の割合が最も高く 34.9%となっている。次いで、「要支援２（18.9%)」、「要介護２（14.2%)」となっている。

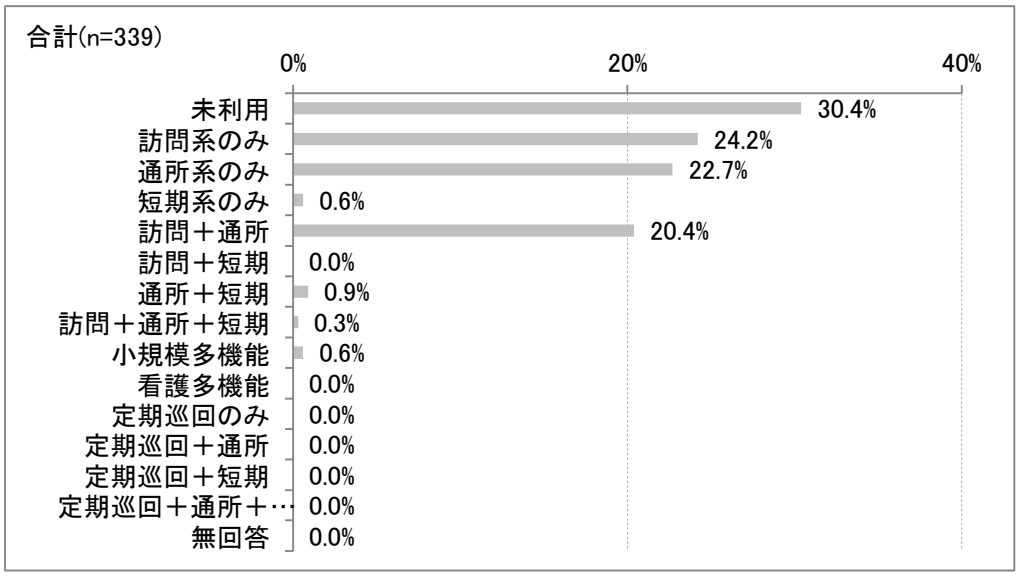
図表 3-3　二次判定結果



(4)　サービス利用の組み合わせ

「未利用」の割合が最も高く 30.4%となっている。次いで、「訪問系のみ（24.2%)」、「通所系のみ（22.7%)」となっている。

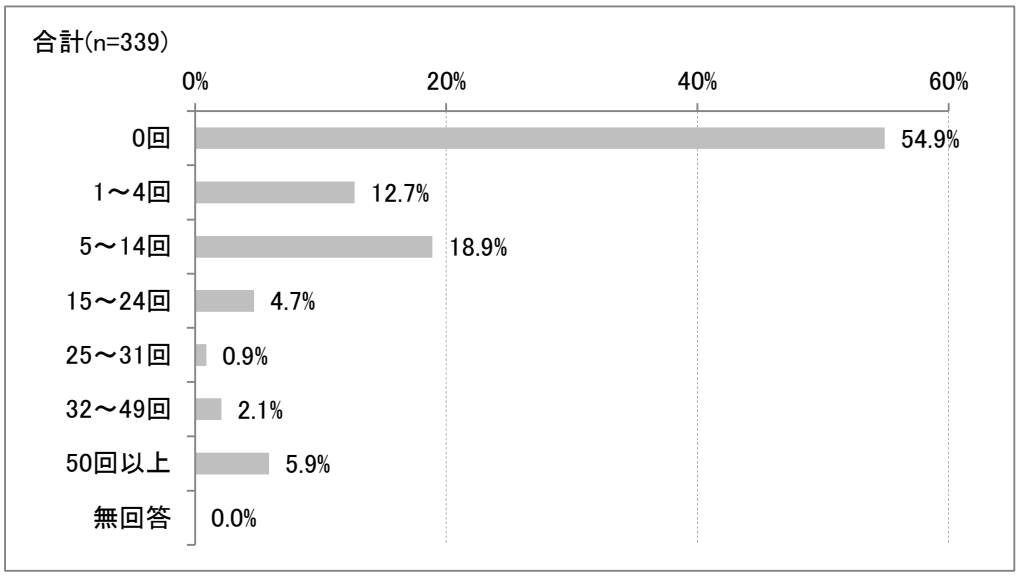
図表 3-4　サービス利用の組み合わせ



(5)　訪問系サービスの合計利用回数

「0 回」の割合が最も高く 54.9%となっている。次いで、「5～14 回（18.9%）」、「1～4 回（12.7%）」となっている。

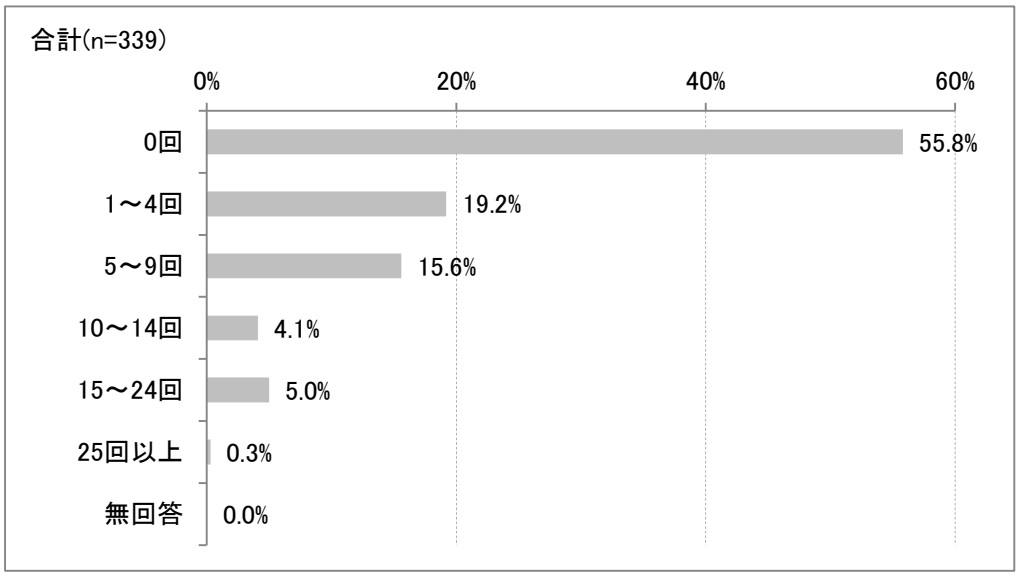
図表 3-5　サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0 回」の割合が最も高く 55.8%となっている。次いで、「1～4 回（19.2%)」、「5～9 回(15.6%)」となっている。

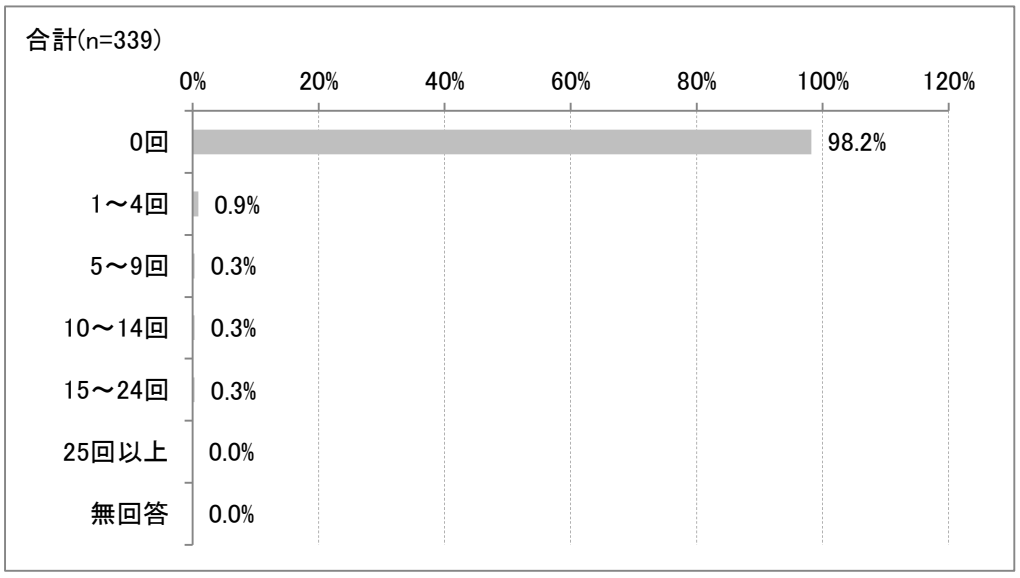
図表 3-6　サービスの利用回数（通所系）



(7)　短期系サービスの合計利用回数

「0 回」の割合が最も高く 98.2%となっている。次いで、「1～4 回（0.9%)」、「5～9 回(0.3%)」、「10～14 回（0.3%)」、「15～24 回（0.3%)」となっている。

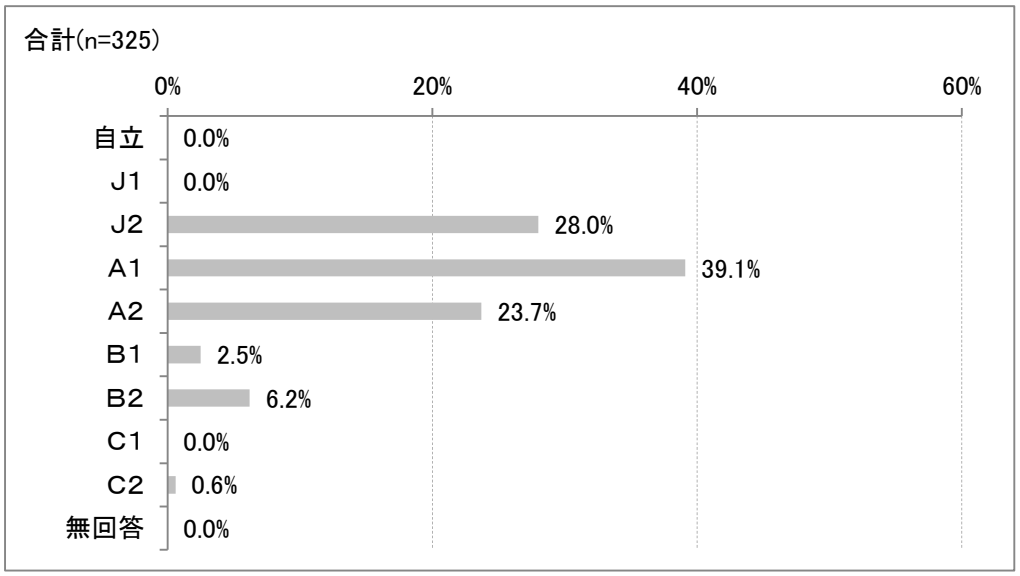
図表 3-7　サービスの利用回数（短期系）



(8)　障害高齢者の日常生活自立度

「Ａ１」の割合が最も高く 39.1%となっている。次いで、「Ｊ２（28.0%)」、「Ａ２(23.7%)」となっている。

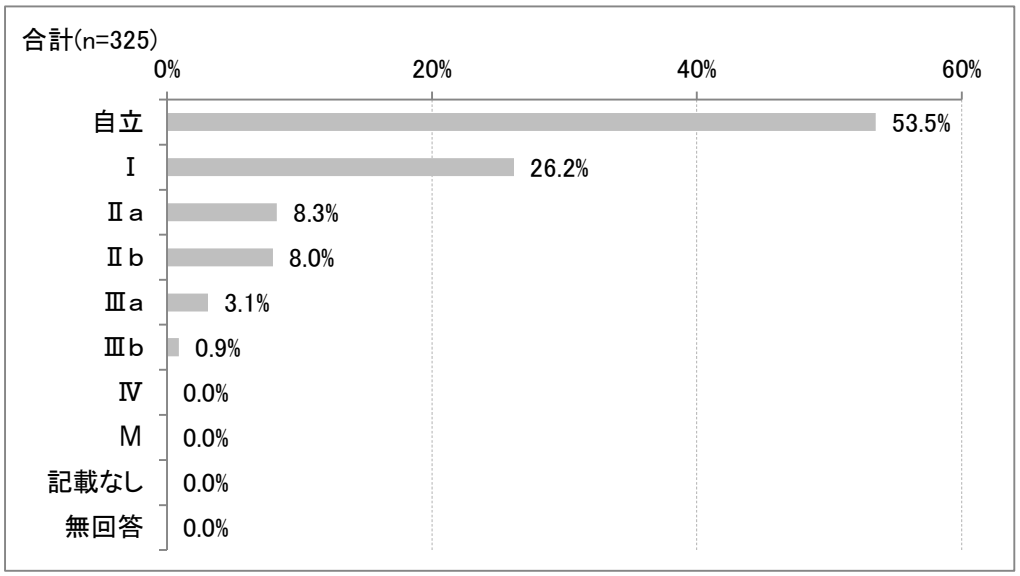
図表 3-8　障害高齢者の日常生活自立度



(9)　認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く 53.5%となっている。次いで、「Ⅰ (26.2%)」、「Ⅱａ (8.3%)」となっている。

図表 3-9　認知症高齢者の日常生活自立度



★：オプション項目

基本調査項目＋オプション項目　在宅介護実態調査　調査票

被保険者番号　0 0 0

【A 票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

A票　認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1　世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

1. ない　→ 問8（裏面）へ
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない　→ 問3～問13へ
3. 週に1～2日ある　→ 問3～問13へ
4. 週に3～4日ある　→ 問3～問13へ
5. ほぼ毎日ある　→ 問3～問13へ

★ 問3　主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他

★ 問4　主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

1. 男性
2. 女性

問5　主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

1. 20 歳未満
2. 20 代
3. 30 代
4. 40 代
5. 50 代
6. 60 代
7. 70 代
8. 80 歳以上
9. わからない

★ 問6　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

〔身体介護〕

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ　等）

〔生活援助〕

12. 食事の準備（調理等）
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物　等）
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

〔その他〕

15. その他
16. わからない

問7　ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● **ここから再び、全員に調査してください。**

★ 問8　現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物（宅配は含まない）
5. ゴミ出し
6. 外出同行（通院、買い物など）
7. 移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）
8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. その他
11.利用していない

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

★ 問9　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

1. 配食
2. 調理
3. 掃除・洗濯
4. 買い物（宅配は含まない）
5. ゴミ出し
6. 外出同行（通院、買い物など）
7. 移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）
8. 見守り、声かけ
9. サロンなどの定期的な通いの場
10. その他
11.特になし

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問 10　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

★ 問 11　ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数選択可）

1. 脳血管疾患（脳卒中）
2. 心疾患（心臓病）
3. 悪性新生物（がん）
4. 呼吸器疾患
5. 腎疾患（透析）
6. 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）
7. 膠原病　（関節リウマチ含む）
8. 変形性関節疾患
9. 認知症
10. パーキンソン病
11. 難病（パーキンソン病を除く）
12. 糖尿病
13. 眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）
14. その他
15. なし
16. わからない

★ 問 12　ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）

1．利用している
2．利用していない

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

★ 問 13　現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）

1. 利用している
2. 利用していない

● **問 13 で「2．」を回答した場合は、問 14 も調査してください。**

★ 問 14　介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
2. 本人にサービス利用の希望がない
3. 家族が介護をするため必要ない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった
5. 利用料を支払うのが難しい
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない
9. その他

● **問2で「2．」～「5．」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方に B 票へのご回答・ご記入をお願いしてください。**

● **「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人（調査対象者の方）にご回答・ご記入をお願いしてください（ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です）。**

B票　主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入（調査票の該当する番号に○）をお願い致します。

被保険者番号

0	0	0							

問1　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

1. フルタイムで働いている
2. パートタイムで働いている

→ 問2～問5へ

3. 働いていない
4. 主な介護者に確認しないと、わからない

→ 問5（裏面）へ

※「パートタイム」とは、「1 週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2　問1で「1．」「2．」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

★ 問3　問1で「1．」「2．」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他
10. 特にない
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

問4　問1で「1．」「2．」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

⇒ 皆様、裏面へお進みください

● **ここから再び、全員の方にお伺いします。**

問5　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

〔身体介護〕

1. 日中の排泄
2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）
4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）
6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動
8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬
10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）

〔生活援助〕

12. 食事の準備（調理等）
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き

〔その他〕

15. その他
16. 不安に感じていることは、特にない
17. 主な介護者に確認しないと、わからない

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料１－２

岸和田市高齢者福祉計画
第 10 期介護保険事業計画

計画期間：令和９（2027）年度～令和 11（2029）年度

計画骨子（案）

令和８（2026）年５月時点

岸　和　田　市

は　じ　め　に

市長さまご挨拶

目次

第１章　計画の概要 1
　１　計画策定の背景と目的 1
　２　第 10 期計画の基本指針のポイント（国の基本的な考え方） 2
　３　計画の位置づけ 4
　４　計画の期間 5
　５　計画策定体制と経過 6
　６　計画の進行管理と点検体制 7
第２章　高齢者を取り巻く現状 8
　１　人口構造及び高齢化の状況 8
　２　要支援・要介護認定の状況 14
　３　日常生活圏域の状況 16
　４　介護給付の状況 17
第３章　第９期計画の進捗状況 19
　１　第９期計画の取組状況及び課題 19
　２　第９期介護保険サービスの進捗状況 19
　３　保健福祉サービスの利用状況 19
第４章　計画の理念と基本方針 19
　１　計画の理念 19
　２　計画の基本方針 19
　３　施策体系 19
第５章　施策展開 19
　１ 19
　２ 19
　３ 19
　４ 19
第６章　介護保険事業の推進 19
　１　介護サービス必要量及び供給量の見込みの考え方 19
　２　介護サービス必要量及び供給量の見込み 20
　３　地域支援事業の事業量の見込み 20
第７章　保険財政の見込み 20
　１　保険財政 20
　２　費用額・保険料額の算出方法 20
資料編 20
　１　岸和田市介護保険事業運営等協議会委員名簿 20
　２　策定スケジュール 20
　３　アンケート結果 20
　４　用語集 20

第1章　計画の概要

1　計画策定の背景と目的

わが国では、人口減少の進展に加え、2040 年に向けて 85 歳以上人口や認知症高齢者、独居高齢者がさらに増加することが見込まれています。これに伴い、医療・介護の担い手不足やサービス需要の地域差が顕著になるなど、福祉課題はより一層深刻化かつ複雑化しています。

介護保険制度は、平成 12（2000）年の創設から四半世紀が経過し、高齢期の暮らしを支える基盤として不可欠なものとなりました。しかし、今後は地域の特性によって高齢化のスピードや人口構成の変化が大きく異なることから、全国一律の施策ではなく、地域ごとの実情に即した取り組みの充実・深化が強く求められています。

岸和田市（以下、本市という。）においても、認定者数や 85 歳以上人口がピークを迎える 2040 年頃を見据え、これまで国の基本指針等に基づき、地域包括ケアシステムの深化・推進や介護保険制度の円滑な運営に努め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを進めてきました。

「岸和田市高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画(以下「第 10 期計画」という。)」の策定にあたっては、これまでの「地域包括ケアの推進」や「地域共生社会の実現」に向けた取り組みを継承しつつ、高齢者の孤立・孤独対策や認知症への早期対応・見守り体制のさらなる充実を図る必要があります。また、介護予防や生活支援の多様化、高齢者の就労機会の確保、生きがいづくりの強化など、時代の変化に応じた施策を重点的に展開していくことが重要です。

これら国が示す将来課題や本市の動向を踏まえ、市内で生活するすべての高齢者が、本市の地域包括ケアシステムのもと、住み慣れた地域で役割と生きがいを持ち、最期まで安心して自分らしく暮らし続けられる健康長寿のまちを実現するため、「第 10 期計画」を策定するものです。

本市に求められること

- 令和 22(2040)年の介護が必要な高齢者の動向を踏まえた介護サービスの基盤整備・充実
- 介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業等を効果的に実施し介護予防・健康づくりを推進し、介護保険事業の運営の適正化を図る
- 認知症高齢者やその家族が地域で安心して暮らしていけるよう、認知症基本法等を踏まえて認知症施策を総合的に推進する認知症施策推進計画の策定
- 安定的にサービスが提供できる体制づくりのため、介護人材の確保や介護現場の革新、介護現場の負担軽減を図る

2　第 10 期計画の基本指針のポイント（国の基本的な考え方）

※第 10 期介護保険事業計画に係る国の基本方針は未発出のため、今後内容が変更となる可能性があります。

介護保険制度含む将来の介護サービス提供の今後の方向性

方向性①　地域特性に応じたサービス提供体制の構築

介護サービスの提供において、地域を「中山間・人口減少地域」「大都市部」「一般市」の３種類に分け、地域のニーズに応じた対応が求められています。本市は「大都市部」に該当し、増加する介護ニーズに応える仕組みを検討するとともに、ＩＣＴやＡＩ技術など民間活力も活用したサービス基盤の整備が求められています。

参考資料

■【中山間・人口減少地域】高齢者人口が減少し、サービス需要が減少する地域

○利用者への介護サービスが適切に提供されるよう、その需要に応じて計画的にサービス基盤の維持・確保を図る必要がある。

○住民の理解のもと、サービス提供の維持・確保を前提として、柔軟な対応を講じていくことが必要。

➡介護人材の配置基準等の弾力化、介護報酬の包括的な評価の仕組み、訪問・通所などサービス間の連携・柔軟化、特例介護サービスの新たな類型の活用などの検討について議論されています

■【大都市部】高齢者人口が 2040 年にかけて増加し続け、サービス需要が急増する地域

○増加する介護ニーズに応える仕組みを検討する必要がある。

○多様なニーズに対応した多様なサービスを提供するとともに、ＩＣＴやＡＩ技術など民間活力も活用したサービス基盤を整備することが重要。

■【一般市等】高齢者人口が増減し、サービス需要の状況が 2040 年までの間に増加から減少へ転じる地域

○近い将来に「中山間・人口減少地域」になることを見越して、早い段階から準備を進め、必要に応じた柔軟な対応を図っていく必要がある。

方向性②　人材確保・生産性向上・経営支援　等

○テクノロジー導入・タスクシフト/シェアによる生産性向上

※2040 年に先駆けた対応。事業者への伴走支援や在宅技術開発

○都道府県が主体となって介護人材確保に関するプラットフォームを構築し、地域の関係者が協働して課題解決に向けた実践的な取組を推進。

○介護事業者の協働化・大規模化など連携（バックオフィス業務などの効率化）の推進

方向性③　地域包括ケアシステムの深化、医療介護連携　等

○地域の医療・介護状況の見える化・状況分析と 2040 年に向けた介護・医療連携の議論
○身寄りのない高齢者への支援を明確化（ケアマネジャーのシャドウワークへの対応）
○認知症高齢者等に対する、地域におけるインフォーマルな支援の推進、認知症施策推進計画の策定を通じた共生社会の実現

資料：第 123 回社会保障審議会介護保険部会「2040 年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会とりまとめ概要
第 133 回社会保障審議会介護保険部会「介護保険制度の見直しに関する意見（案）（概要）」
第 134 回社会保障審議会介護保険部会「基本指針について」「基本指針の構成について」

参考資料

「認知症施策推進計画」の閣議決定

令和６年１月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、令和６年 12 月に「認知症施策推進基本計画」が閣議決定されました。これにより、国においては「新しい認知症観」の普及を打ち出し、当事者の声を踏まえた各種の施策を推進していくこととしています。

市町村においては、市町村計画の策定が努力義務とされ、施策の立案から実施、評価に当たっては認知症の人とその家族、支援者等の参画を得ることが重要とされています。

■「新しい認知症観」の考え方

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という考え方

■地方公共団体が取り組むべき基本施策

○認知症の人に関する国民の理解の増進等
○認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進
○認知症の人の社会参加の機会の確保等
○認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護
○保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等
○相談体制の整備等
○研究等の推進等
○認知症の予防等

3 計画の位置づけ

（1）制度的位置づけ

本計画は、老人福祉法(昭和 38 年法律第 133 号)第 20 条の８第１項の規定に基づく「市町村老人福祉計画」と、介護保険法(平成９年法律第 123 号)第 117 条第１項の規定に基づく「市町村介護保険事業計画」を老人福祉法第 20 条の８第７項及び介護保険法第 117 条第 6 項の規定に基づいて、一体的に策定した計画です。また、共生社会の実現を推進するための認知症基本法に基づく、「市町村認知症施策推進計画」を包含して策定することとします。

老人福祉法第 20 条の8第1項

市町村は、老人居宅生活支援事業及び老人福祉施設による事業(以下「老人福祉事業」という。)の供給体制の確保に関する計画を定めるものとする。

介護保険法第117条第1項

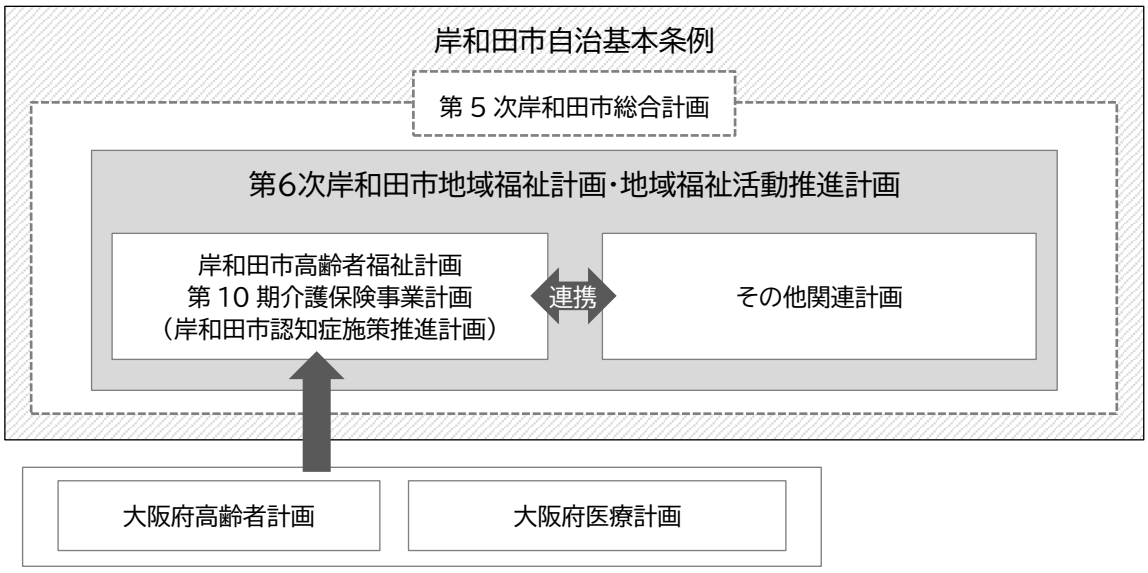
市町村は、基本指針に即して、３年を１期とする当該市町村が行う介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施に関する計画を定めるものとする。

共生社会の実現を推進するための認知症基本法第 13 条

市町村は、基本計画を基本とするとともに、当該市町村の実情に即した市町村認知症施策推進計画を策定するよう努めなければならない。

（2）他計画との関係

本計画は、岸和田市自治基本条例に基づき、最上位計画である「第５次岸和田市総合計画」をはじめ、福祉の上位計画にあたる「第６次岸和田市地域福祉計画・地域福祉活動推進計画」、「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ３次計画・第２次岸和田市食育推進計画」、さらに「大阪府高齢者計画」や「大阪府医療計画」等の関連計画との整合を図ります。



（３）ＳＤＧｓの推進

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）は、平成 27（2015）年９月に国連で採択された令和 12（2030）年までに先進国を含む国際社会全体で達成を目指す 17 の国際目標です。

国は平成 28（2016）年に「ＳＤＧｓ実施指針」を定め、地方自治体の各種計画等への最大限の反映を奨励しています。

本計画の推進にあたっては、ＳＤＧｓの視点を取り入れながら、「誰一人取り残さない」地域社会を実現するための施策展開を図ります。

4 計画の期間

第 10 期計画は、令和９（2027）年度から令和 11（2029）年度を計画期間とします。

なお、介護保険サービス見込み量及び介護保険料は高齢者人口のなかでも 85 歳以上が急増し、要介護高齢者が増加することに加え、団塊ジュニアが前期高齢期を迎え、生産年齢人口が急減する令和 22（2040）年度を見据えた検討を行います。

令和6年度（2024）	令和7年度（2025）	令和8年度（2026）	令和9年度（2027）	令和 10 年度（2028）	令和 11 年度（2029）	令和 12 年度（2030）	令和 13 年度（2031）	令和 14 年度（2032）	令和 22 年度（2040）
第9期計画									
			第 10 期計画（本計画）						
						第 11 期計画			

5 計画策定体制と経過

（1）高齢者実態調査の実施

第 10 期計画策定にあたっては、本市の高齢者のニーズをより的確に把握する手法として、第９期計画策定時同様、国が実施を推奨する「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」、「在宅介護実態調査」を実施しました。実施概要については下記の通りです。

◆介護予防･日常生活圏域ニーズ調査･概要

調 査 期 間	令和７（2025）年 12 月 18 日(木)～令和８（2026）年１月 30 日(金)
対 象 者	岸和田市内在住の 65 歳以上の方(要介護１～５の認定者を除く)
調 査 方 法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式
配 布 数	3,300 件
有効回収数	2,523 件
有効回収率	76.5%

◆在宅介護実態調査･概要

調 査 期 間	令和７（2025）年 10 月 20 日（月）～令和８（2026）年２月 27 日（金）
対 象 者	在宅で生活している要介護(要支援)認定者で、調査期間内に認定調査を受けた方
調 査 方 法	認定調査員による聞き取り調査
配 布 数	392 件

（2）任意調査の実施

第 10 期計画策定にあたっては、サービス利用者で生活維持が難しくなっている利用者や居所を変更した利用者に合わせて、地域に不足する介護サービス等の把握のため、事業所を対象とした調査として、「在宅生活改善調査」、「居所変更実態調査」を実施しました。実施概要については下記の通りです。

◆在宅生活改善調査･概要

調 査 期 間	令和７（2025）年 12 月８日（月）～令和８（2026）年１月 16 日（金）
対 象 者	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所の介護支援専門員
回 収 数	105 件配布　101 件(回収率：96.2%)

◆居所変更実態調査･概要

調 査 期 間	令和７（2025）年 12 月８日（月）～令和８（2026）年１月 16 日（金）
対 象 者	施設・居住系サービス事業所
回 収 数	113 件配布　103 件回収(回収率：91.2%)

（３）庁内連携体制

計画策定にあたっては、福祉部関係課において協議を重ね、また他の計画等との調和を図るため、必要に応じて関係部署との調整を行いました。

（４）岸和田市介護保険事業運営等協議会

本計画の策定過程において広く関係者及び市民の意見を聴き、その意見を適切に反映していくため、学識経験者や保健医療関係者、福祉関係者及び公募委員等市民の代表から構成される「岸和田市介護保険事業運営等協議会」において協議を重ね、第９期計画の評価及び第 10 期計画策定に関する検討を行いました。

（５）パブリックコメント実施概要

令和●(●)年●月●日(●)から令和●(●)年●月●日(●)まで実施しました。

6 計画の進行管理と点検体制

第 10 期計画の策定にあたっては、介護保険の理念である自立支援・重度化防止に向けた取組を推進するため、地域における共通の目標を設定し関係者間で目標を共有するとともに、その達成に向けた具体的な計画を作成・評価・見直しをすること(ＰＤＣＡサイクル)が重要となっています。

第 10 期計画の進行管理については、関係者の意見や市民の意見を十分に反映するという観点から、「岸和田市介護保険事業運営等協議会」等の組織において、定期的に計画の運営状況を報告する等、点検体制の推進に努めるとともに、運営状況の情報開示を行います。

また、各年度終了後に、給付実績、苦情処理実績、利用者の相談実績等のデータをもとに次の項目について点検及び評価し、市民や関係団体の意見を反映させていくものとします。

進行管理項目

●介護等サービス(居宅、施設・居住系サービス)の利用状況
●介護等サービスの量及び質に関する状況
●サービス提供体制に関する問題点
●一般施策及び地域支援事業の利用状況
●地域包括支援センター運営状況
●地域密着型サービスに関する運営状況　　等

第2章　高齢者を取り巻く現状

1　人口構造及び高齢化の状況

（1）人口の推移と 65 歳以上の世帯

本市の総人口は、令和７(2025)年度で 185,810 人と減少傾向が続いています。

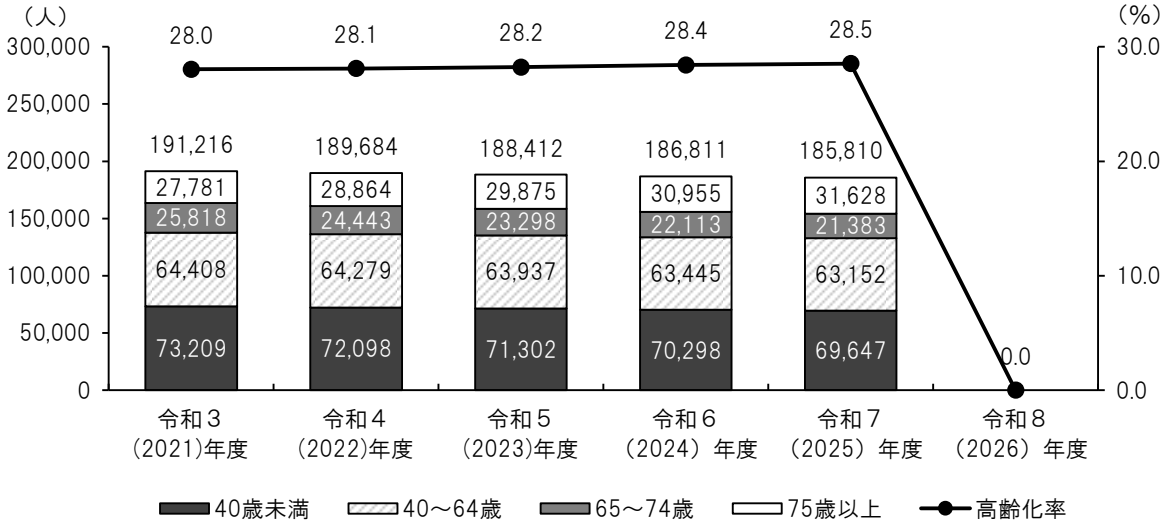
高齢者の内訳をみると、65～74 歳の前期高齢者が減少傾向にある一方、75 歳以上の後期高齢者は年々増加しています。

高齢化率(総人口に占める 65 歳以上の割合)は、令和７(2025)年度で 28.5%となっており、年々上昇傾向にあります。※令和８年 10 月１日時点で最新データを反映予定

（人）

	第８期計画			第9期計画		
	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度
住民基本台帳	191,216	189,684	188,412	186,811	185,810	
４０歳未満	73,209	72,098	71,302	70,298	69,647	
４０～６４歳	64,408	64,279	63,937	63,445	63,152	
６５～７４歳	25,818	24,443	23,298	22,113	21,383	
７５歳以上	27,781	28,864	29,875	30,955	31,628	
高齢化率	28.0%	28.1%	28.2%	28.4%	28.5%	

人口の推移



(出典)住民基本台帳　各年度 10 月１日時点

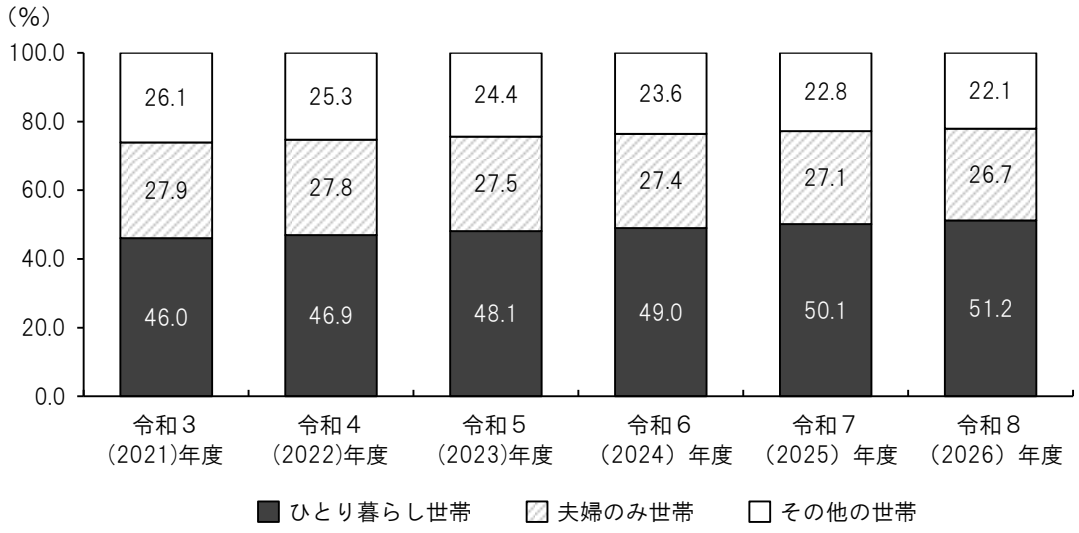
本市の 65 歳以上の世帯は、年々増加傾向にあり、令和８(2026)年度で 37,414 世帯となっています。

世帯の内訳をみると、ひとり暮らし世帯が増加しており、令和８(2026)年度で 51.2%と半数以上となっています。孤独・孤立問題が顕在化する可能性があります。

(世帯)

	第8期計画			第9期計画		
	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度
ひとり暮らし世帯	17,022	17,367	17,826	18,188	18,667	19,153
構成比	46.0%	46.9%	48.1%	49.0%	50.1%	51.2%
夫婦のみ世帯	10,335	10,288	10,192	10,195	10,086	10,007
構成比	27.9%	27.8%	27.5%	27.4%	27.1%	26.7%
その他の世帯	9,658	9,373	9,029	8,773	8,477	8,254
構成比	26.1%	25.3%	24.4%	23.6%	22.8%	22.1%
合計	37,015	37,028	37,047	37,156	37,230	37,414

65 歳以上の世帯の割合



(出典)住民基本台帳 各年度4月１日時点

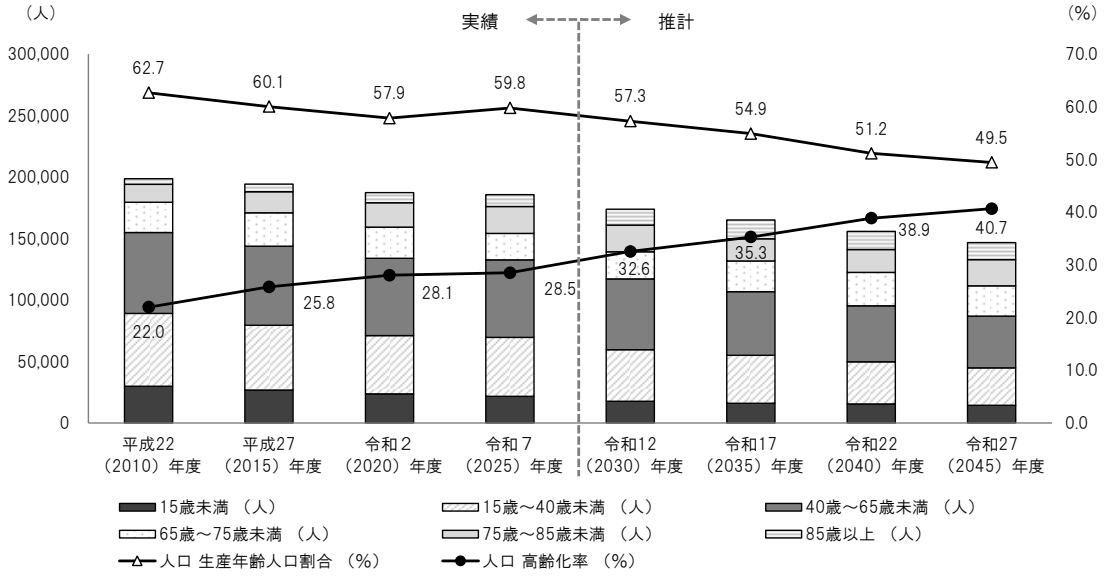
（２）人口の推移（長期推計）

長期的な人口の推移をみると、平成 22(2010)年から令和７(2025)年までの 15 年間でおよそ 13,000 人減少しています。

65 歳～75 歳未満人口は、平成 27(2015)年まで増加し、令和２(2020)年から令和 12(2030)年まで減少し、令和 17(2035) 年以降は増減を繰り返す見込みとなっています。75 歳～85 歳未満人口は、増加傾向で推移していましたが、令和 12(2030)年に減少に転じ、令和 17 (2035) 年以降は再び増加傾向で推移する見込みとなっています。また、85 歳以上人口は、令和 17(2035)年まで増加し、以降は減少に転じる見込みとなっています。

令和 27(2045)年時点の本市の総人口は 146,730 人で、そのうち 65 歳以上人口は 59,682 人になる見込みとなっています。また、高齢化率は 40.7%で、全国平均 36.3%、大阪府平均 35.7%より高くなる見込みとなっています。※令和７年国勢調査が発表され次第、最新データを反映予定

人口の推移（長期推計）



（出典）平成 17 年～令和2年まで：総務省「国勢調査」
令和7年：住民基本台帳 10 月1日時点
令和 12 年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5(2023)年推計）」
（注意）平成 17 年～令和2年まで、人口には年齢不詳を含むため各年齢階層の合計と必ずしも一致しない

		平成22（2010）年度	平成27（2015）年度	令和２（2020）年度	令和７（2025）年度	令和12（2030）年度	令和17（2035）年度	令和22（2040）年度	令和27（2045）年度
人口		199,234	194,911	190,658	185,810	173,996	165,159	155,994	146,730
	15歳未満 （人）	30,004	26,903	23,665	21,671	17,677	16,106	15,475	14,477
	15歳～40歳未満 （人）	59,193	52,550	47,546	47,976	41,975	38,937	34,406	30,431
	40歳～65歳未満 （人）	65,725	64,508	62,779	63,152	57,703	51,797	45,457	42,140
	65歳～75歳未満 （人）	24,607	27,059	25,356	21,383	21,913	24,917	27,124	24,511
	75歳～85歳未満 （人）	14,711	17,147	19,822	22,015	21,705	18,177	18,677	21,463
	85歳以上 （人）	4,516	6,151	8,319	9,613	13,023	15,225	14,855	13,708
生産年齢人口 （人）		124,918	117,058	110,325	111,128	99,678	90,734	79,863	72,571
高齢者人口 （人）		43,834	50,357	53,497	53,011	56,641	58,319	60,656	59,682
生産年齢人口割合 （%）		62.7	60.1	57.9	59.8	57.3	54.9	51.2	49.5
高齢化率 （%）		22.0	25.8	28.1	28.5	32.6	35.3	38.9	40.7
高齢化率（大阪府） （%）		22.1	25.8	26.7	28.1	29.2	31.2	34.2	35.7
高齢化率（全国） （%）		22.8	26.3	28.0	29.6	30.8	32.3	34.8	36.3

（３）人口の推計

本市の総人口は、今後も減少傾向が続く見込みとなっています。

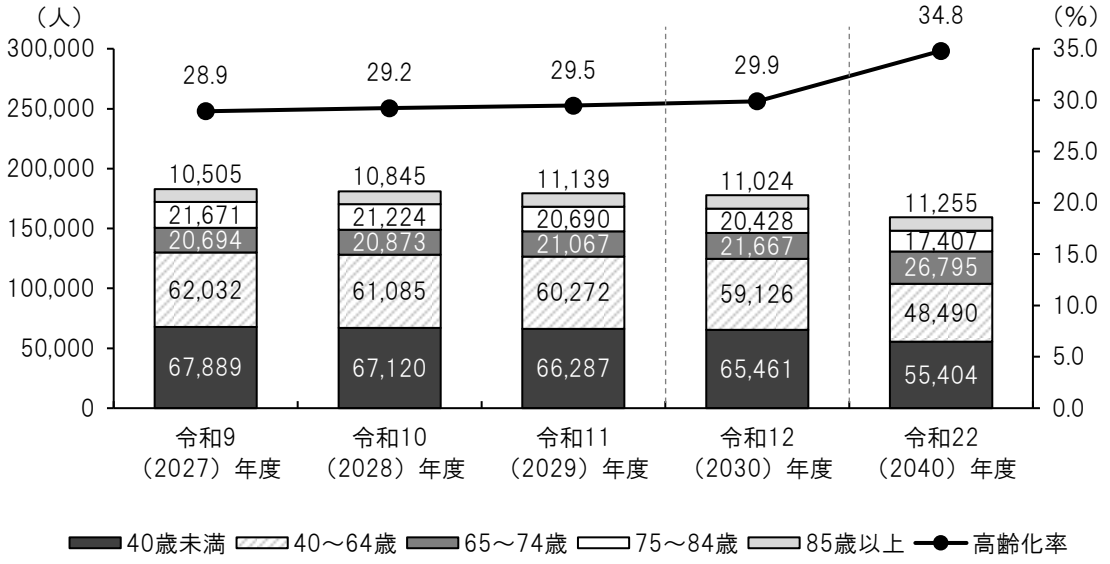
高齢者の内訳をみると、65～74 歳の前期高齢者は増加し続け、令和 22(2040)年度には 26,795 人になると予想されます。一方、75 歳～84 歳は減少し続け、令和９(2027)年度には 21,671 人、令和 10(2028)年度は 21,224 人になる見込みです。令和 22(2040)年度は 17,407 人になると予想されます。

高齢化率は年々高くなり、令和９(2027)年度には 28.9%、令和 10(2028)年度には 29.2%となる見込みです。また、令和 22(2040)年度には 34.8%になると予想されます。

（人）

	第 10 期計画			第 11 期計画	第 14 期計画
	令和9 (2027)年度	令和 10 (2028)年度	令和 11 (2029)年度	令和 12 (2030)年度	令和 22 (2040)年度
総　人　口	182,791	181,147	179,455	177,706	159,351
40 歳未満	67,889	67,120	66,287	65,461	55,404
40～64 歳	62,032	61,085	60,272	59,126	48,490
65～74 歳	20,694	20,873	21,067	21,667	26,795
75～84 歳	21,671	21,224	20,690	20,428	17,407
85 歳以上	10,505	10,845	11,139	11,024	11,255
高齢化率	28.9%	29.2%	29.5%	29.9%	34.8%

本市の人口推計



（出典）住民基本台帳　各年度9月末日時点、コーホート変化率法による人口推計

（４）第１号被保険者数の推移

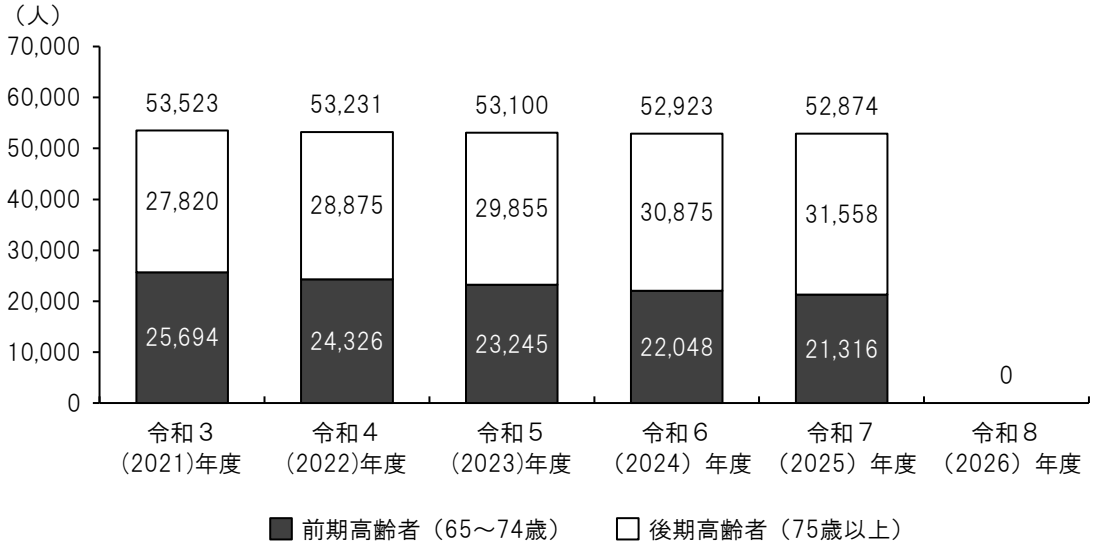
第１号被保険者数は、令和３(2021)年度以降減少しており、令和７(2025)年度は 52,874 人(高齢化率 28.5%)となっています。

高齢者の内訳をみると、令和７(2025)年度は令和３(2021)年度に比べて前期高齢者は 4,378 人の減少、後期高齢者は 3,738 人の増加がみられます。総人口に占める前期高齢者の割合は 11.5%、後期高齢者は 17.0%と、前期高齢者の占める割合は減少、後期高齢者の割合は引き続き増加しています。※令和８年 10 月１日時点で最新データを反映予定

（人）

	第８期計画			第9期計画		
	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度
(A)第1号被保険者数	53,523	53,231	53,100	52,923	52,874	
(a)前期高齢者(65~74 歳)	25,694	24,326	23,245	22,048	21,316	
割合 (a)/(A)	48.0%	45.7%	43.8%	41.7%	40.3%	
(b)後期高齢者(75 歳以上)	27,820	28,875	29,855	30,875	31,558	
割合 (b)/(A)	52.0%	54.2%	56.2%	58.3%	59.7%	
(B)総人口	191,216	189,684	188,412	186,811	185,810	
総人口に占める第１号被保険者数の比率(A)/(B)【高齢化率】	28.0%	28.1%	28.2%	28.3%	28.5%	
前期高齢者(65~74 歳)	13.4%	12.8%	12.3%	11.8%	11.5%	
後期高齢者(75 歳以上)	14.5%	15.2%	15.8%	16.5%	17.0%	

第１号被保険者数の推移



(出典)総人口:住民基本台帳 各年度 10 月1日時点
第１号被保険者数:介護保険事業状況報告月報 ９月月報

（５）第１号被保険者数の推計

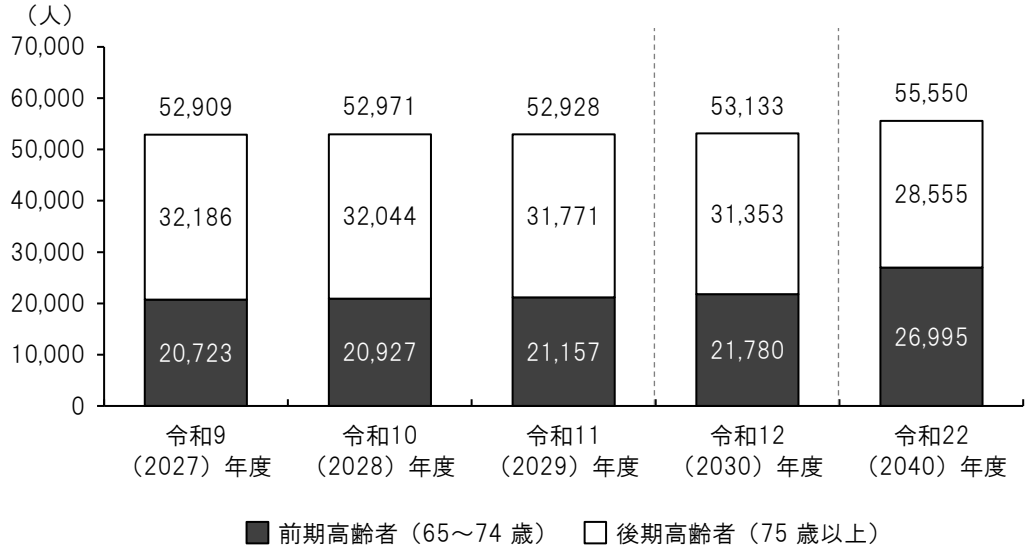
第１号被保険者数は増減しながら推移しており、令和 11(2029)年度では 52,928 人、令和 12(2030)年度では 53,133 人となる見込みですが、令和 22(2040)年度には増加し 55,550 人になると予想されます。

高齢者の内訳をみると、前期高齢者と後期高齢者の差は年々小さくなっており、後期高齢者の割合は令和 11(2029)年度で 60.0%、令和 12(2030)年度で 59.0%になると見込まれます。令和 22(2040)年度は 51.4%となると予想されます。

（人）

	第 10 期計画			第 11期計画	第 14 期計画
	令和9 (2027)年度	令和 10 (2028)年度	令和 11 (2029)年度	令和 12 (2030)年度	令和 22 (2040)年度
(A)第1号被保険者数	52,909	52,971	52,928	53,133	55,550
(a)前期高齢者(65～74 歳)	20,723	20,927	21,157	21,780	26,995
割合 (a)/(A)	39.2%	39.5%	40.0%	41.0%	48.6%
(b)後期高齢者(75 歳以上)	32,186	32,044	31,771	31,353	28,555
割合 (b)/(A)	60.8%	60.5%	60.0%	59.0%	51.4%
(B)総人口	182,827	181,174	179,456	177,676	159,393
総人口に占める第１号被保険者数の比率(A)/(B)【高齢化率】	28.9%	29.2%	29.5%	29.9%	34.9%
前期高齢者(65～74 歳)	11.3%	11.6%	11.8%	12.3%	16.9%
後期高齢者(75 歳以上)	17.6%	17.7%	17.7%	17.6%	17.9%

第１号被保険者数の推計



(出典)住民基本台帳 各年度9月末日時点、コーホート変化率法による人口推計

2 要支援･要介護認定の状況

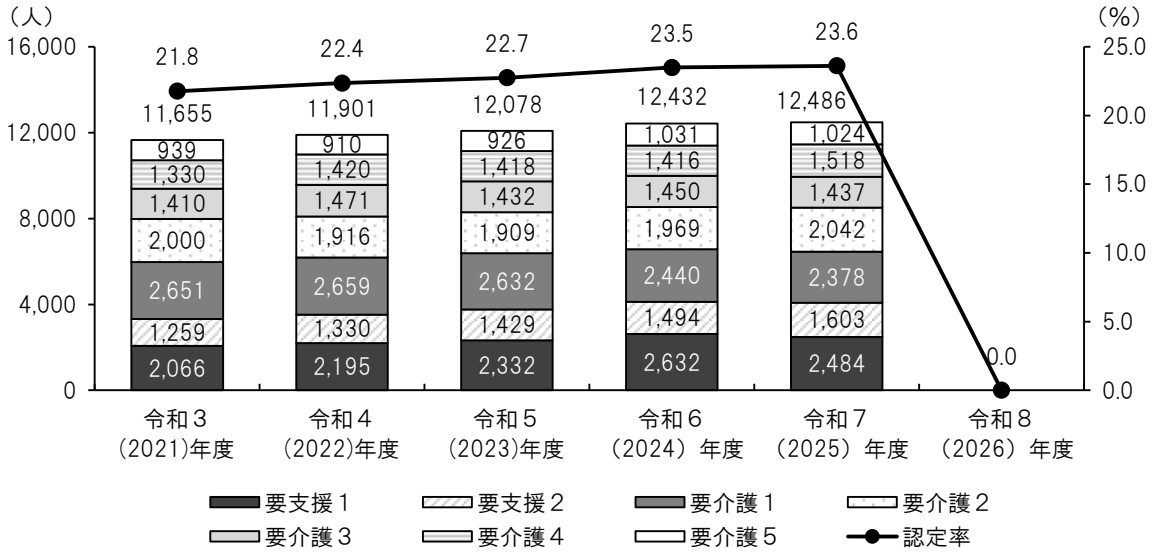
（1）要支援・要介護認定者数の推移

要支援･要介護認定者数は、令和５(2023)年度以降、12,000 人台で推移しており、令和７(2025)年度で 12,486 人となっています。認定率（第１号被保険者数に占める認定者数の割合）は、年々上昇しており、令和７(2025)年度で 23.6%となっています。※令和８年 10 月１日時点で最新データを反映予定

（人）

	第８期計画			第9期計画		
	令和3 (2021)年度	令和4 (2022)年度	令和5 (2023)年度	令和6 (2024)年度	令和7 (2025)年度	令和8 (2026)年度
要支援	3,325	3,525	3,761	4,126	4,087	
要支援1	2,066	2,195	2,332	2,632	2,484	
要支援2	1,259	1,330	1,429	1,494	1,603	
要介護	8,330	8,376	8,317	8,306	8,399	
要介護1	2,651	2,659	2,632	2,440	2,378	
要介護2	2,000	1,916	1,909	1,969	2,042	
要介護3	1,410	1,471	1,432	1,450	1,437	
要介護4	1,330	1,420	1,418	1,416	1,518	
要介護5	939	910	926	1,031	1,024	
合計	11,655	11,901	12,078	12,432	12,486	

要支援・要介護認定者数の推移



（出典)厚生労働省 介護保険事業状況報告 月報 9月月報

（２）要支援・要介護認定者数の推計

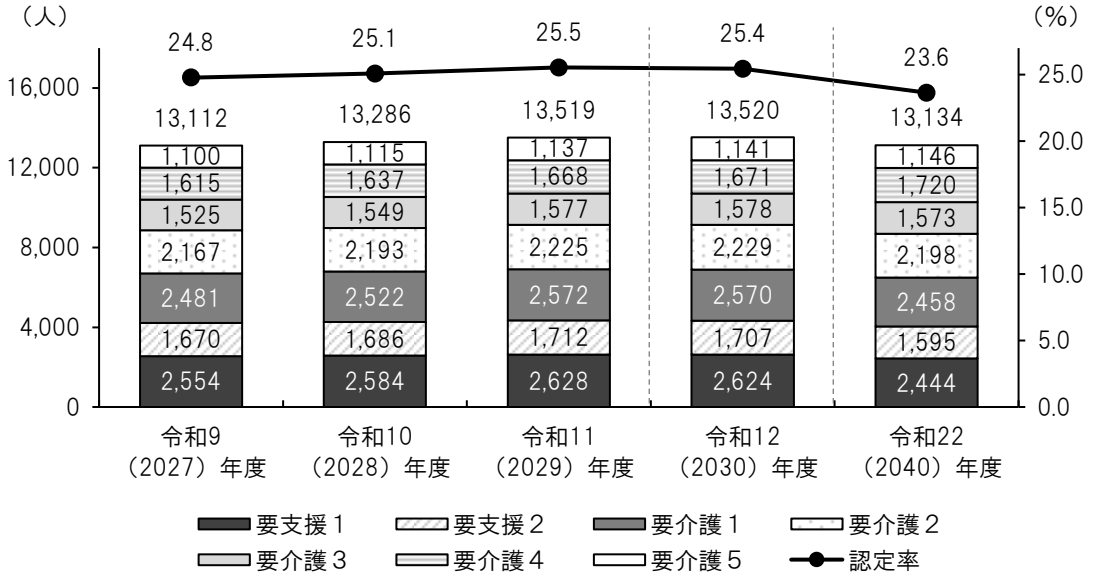
認定者数は増加傾向にあり、令和９（2027）年度には 13,112 人、令和 12(2030)年度には 13,520 人となる見込みですが、令和 22(2040)年度には減少し 13,134 人になると予想されます。要介護度別にみると、重度者の大きな増加が見込まれています。

認定率については、令和９（2027）年度には 24.8%、令和 11(2029)年度には 25.5%と上昇傾向ですが、令和 22(2040)年度は 23.6%と減少する見込みです。

（人）

	第 10 期計画			第 11 期計画	第 14 期計画
	令和9 (2027)年度	令和 10 (2028)年度	令和 11 (2029)年度	令和 12 (2030)年度	令和 22 (2040)年度
要支援	4,224	4,270	4,340	4,331	4,039
要支援1	2,554	2,584	2,628	2,624	2,444
要支援2	1,670	1,686	1,712	1,707	1,595
要介護	8,888	9,016	9,179	9,189	9,095
要介護1	2,481	2,522	2,572	2,570	2,458
要介護2	2,167	2,193	2,225	2,229	2,198
要介護3	1,525	1,549	1,577	1,578	1,573
要介護4	1,615	1,637	1,668	1,671	1,720
要介護5	1,100	1,115	1,137	1,141	1,146
合計	13,112	13,286	13,519	13,520	13,134

要支援・要介護認定者数の推計



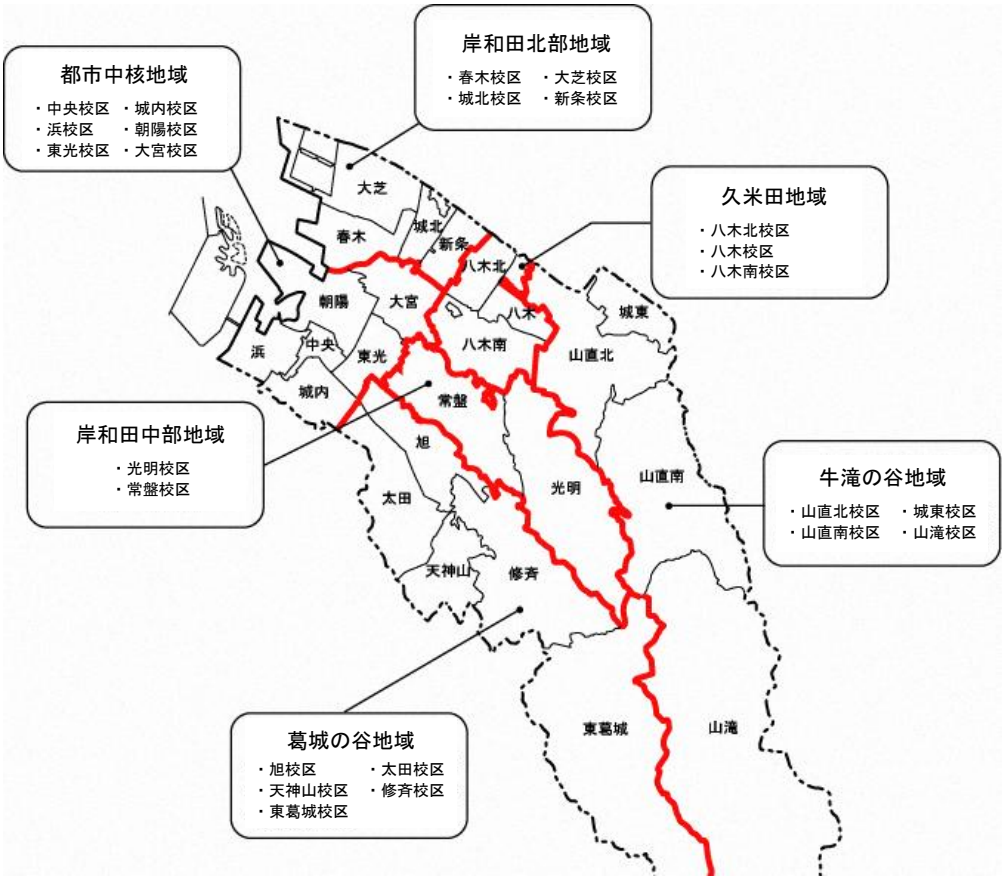
（出典）厚生労働省　介護保険事業状況報告　をもとに推計

3 日常生活圏域の状況

第３期計画（平成 18(2006)年度から平成 20(2008)年度）策定の際に、高齢者が住み慣れた地域で継続して生活を続けられるように、地理的条件、人口、交通事情その他社会的条件、介護給付等のサービスを提供する施設の整備状況等を総合的に判断し、以下の６つの日常生活圏域を設定しています。

また、令和８(2026)年４月現在、岸和田市地域包括支援センター社協・いなば荘北部・萬寿園葛城の谷・萬寿園中部・社協久米田・いなば荘牛滝の谷の６箇所が地域の拠点として介護予防事業等の推進を図っています。

◆日常生活圏域



日常生活圏域	小学校区
1. 都市中核地域	中央校区、城内校区、浜校区、朝陽校区、東光校区、大宮校区
2. 岸和田北部地域	春木校区、大芝校区、城北校区、新条校区
3. 葛城の谷地域	旭校区、太田校区、天神山校区、修斉校区、東葛城校区
4. 岸和田中部地域	光明校区、常盤校区
5. 久米田地域	八木北校区、八木校区、八木南校区
6. 牛滝の谷地域	山直北校区、城東校区、山直南校区、山滝校区

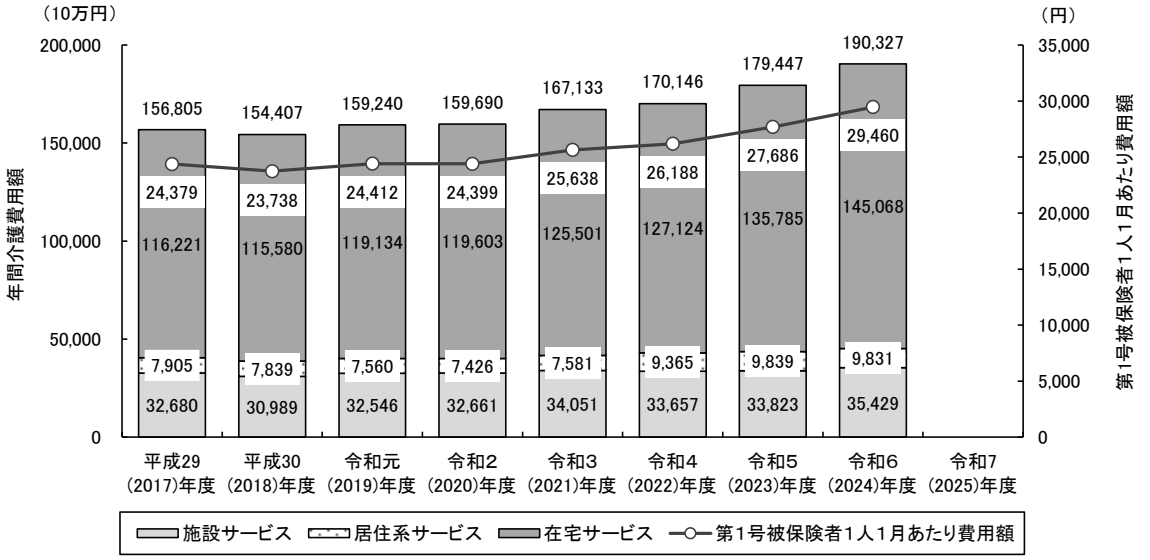
4 介護給付の状況

（1）介護費用額の推移

本市の介護費用額※について、全体をみると平成 30(2018)年度一度減少していますが、その後増加傾向となっています。施設サービスは増減しながら推移しています。居住系サービスは減少傾向で推移していましたが、近年は増加に転じています。在宅サービスは平成 30(2018)年度以降、増加傾向で推移しています。

また、令和５(2023)年度の第１号被保険者１人１月あたりの費用額は 27,686 円で、全国平均 26,229 円より高く、大阪府平均 31,138 円より低くなっています。※令和６・７年度のデータについては、令和８年 10 月１日時点で最新データを反映予定

岸和田市の介護費用額の推移



（出典）【費用額】平成 29 年度から令和 5 年度：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」、
令和 6 年度：「介護保険事業状況報告（月報）」の 12 か月累計、
令和 7 年度：直近月までの「介護保険事業状況報告（月報）」の累計（※補足給付は費用額に含まれていない）
【第 1 号被保険者 1 人あたり費用額】「介護保険事業状況報告（年報）」（または直近月までの月報累計）における費用額を「介護保険事業状況報告月報）」における第 1 号被保険者数の各月累計で除して算出
（注意）費用額は 1 万円以下を四捨五入しているため、サービスごとの費用額の合計と必ずしも一致しない

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
費用額（岸和田市）（10万円）		156,805	154,407	159,240	159,690	167,133	170,146	179,447	190,327	
	施設サービス（10万円）	32,680	30,989	32,546	32,661	34,051	33,657	33,823	35,429	
	居住系サービス（10万円）	7,905	7,839	7,560	7,426	7,581	9,365	9,839	9,831	
	在宅サービス（10万円）	116,221	115,580	119,134	119,603	125,501	127,124	135,785	145,068	
第1号被保険者1人1月あたり費用額										
	岸和田市（円）	24,379	23,738	24,412	24,399	25,638	26,188	27,686	29,460	
	大阪府（円）	24,793	25,259	26,370	27,254	28,537	29,613	31,138	32,718	
	全国（円）	23,238	23,499	24,106	24,567	25,137	25,471	26,229	27,147	

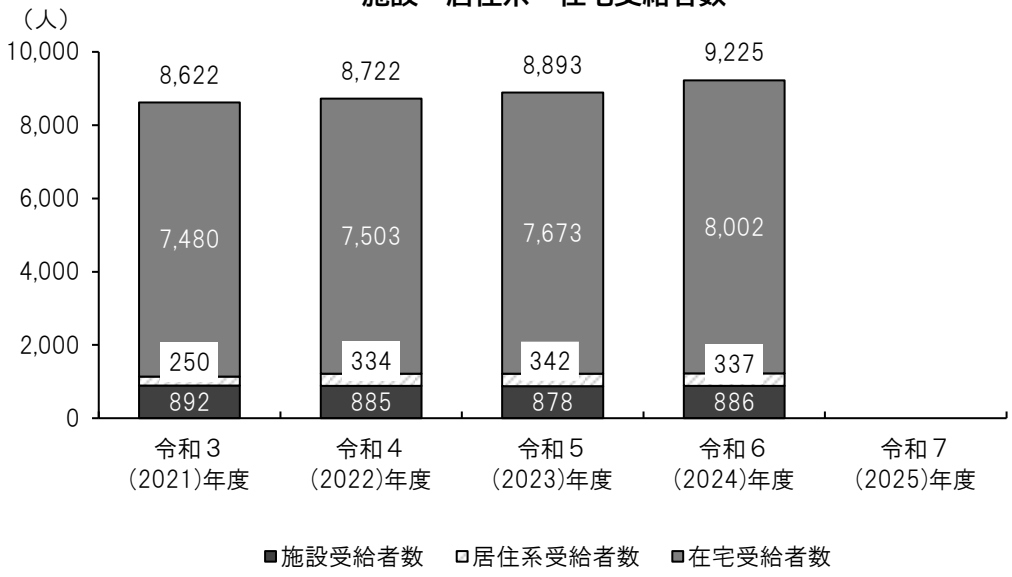
※ 費用額とは審査月に医療機関から請求があった診療報酬明細書に対する審査である原審査で決定された額であり、保険給付額、公費負担額及び利用者負担額（公費の本人負担額を含む）の合計です。市が直接支払う費用（償還払い）は含みません。

（２）受給者数（施設・居住系・在宅受給者数）

本市のサービス受給者数について、施設受給者数は減少傾向で推移していましたが、令和６（2024）年度では増加に転じています。一方で、居住系受給者数は増加傾向で推移していましたが、令和６（2024）年度では減少に転じています。在宅受給者数は増加傾向で推移しています。

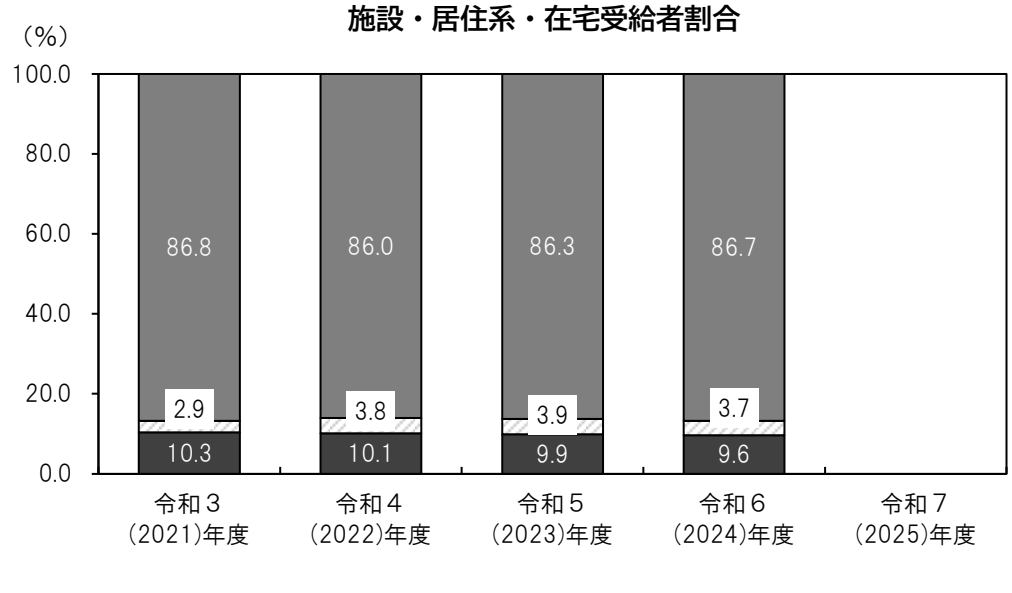
サービス別の受給者割合は、施設受給者割合は減少傾向で推移しています。居住系受給者割合は令和５（2023）年度まで増加傾向で推移していましたが、令和６（2024）年度では減少に転じています。在宅受給者割合は増減しながら推移しています。※令和７年度データが発表され次第、最新データを反映予定

施設・居住系・在宅受給者数



(出典)厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報　※12ヶ月の平均

施設・居住系・在宅受給者割合



(出典)厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報　※12ヶ月の平均

策定スケジュール（予定）

日程	内容
令和7年 10 月 20 日(月) ～令和8年2月 27 日(金)	在宅介護実態調査の実施
令和7年 11 月 19 日(水)	〈第2回〉 令和7年度岸和田市介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス等運営委員会
令和7年 12 月8日(月) ～令和8年1月 16 日(金)	在宅生活改善調査の実施 居所変更実態調査の実施
令和7年 12 月 18 日(木) ～令和8年1月 30 日(金)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
令和8年5月 29 日(金)	〈第1回〉 令和8年度岸和田市介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス等運営委員会 〇各調査報告 〇計画骨子（案）について
令和8年9月 25 日(金)	〈第2回〉 令和8年度岸和田市介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス等運営委員会 〇第 9 期の取組状況及び課題 〇介護保険サービス利用状況 〇計画の理念と基本方針
令和8年 11 月下旬	〈第3回〉 令和8年度岸和田市介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス等運営委員会 〇高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画（素案）について
令和9年1月上旬～2月上旬	パブリックコメントの実施
令和9年2月中旬	〈第4回〉 令和8年度岸和田市介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会・地域密着型サービス等運営委員会 〇高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画（案）について

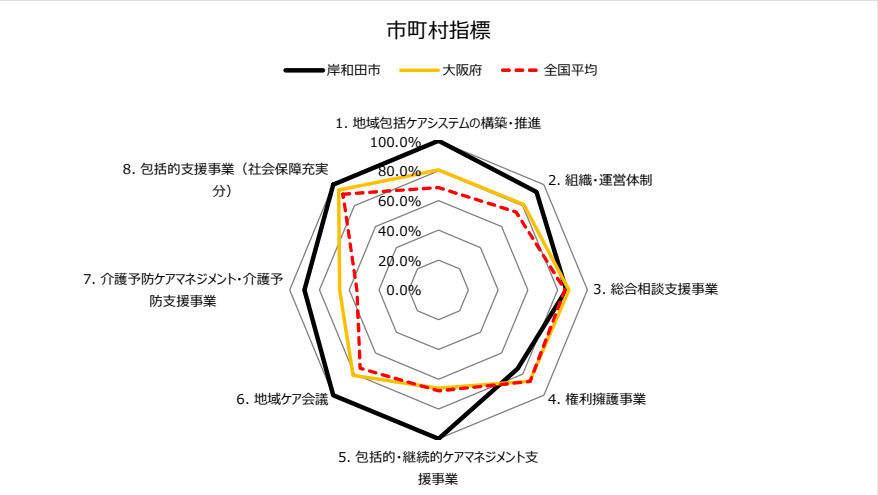
済

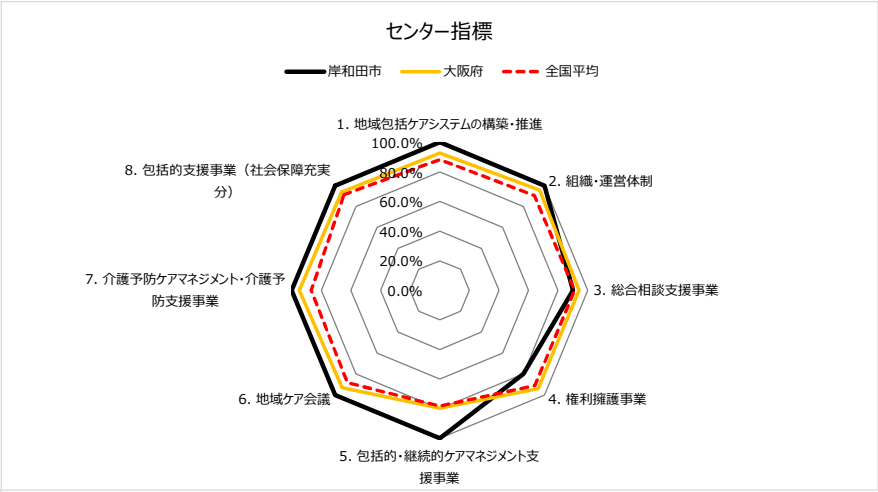
令和7年度　地域包括支援センター事業評価

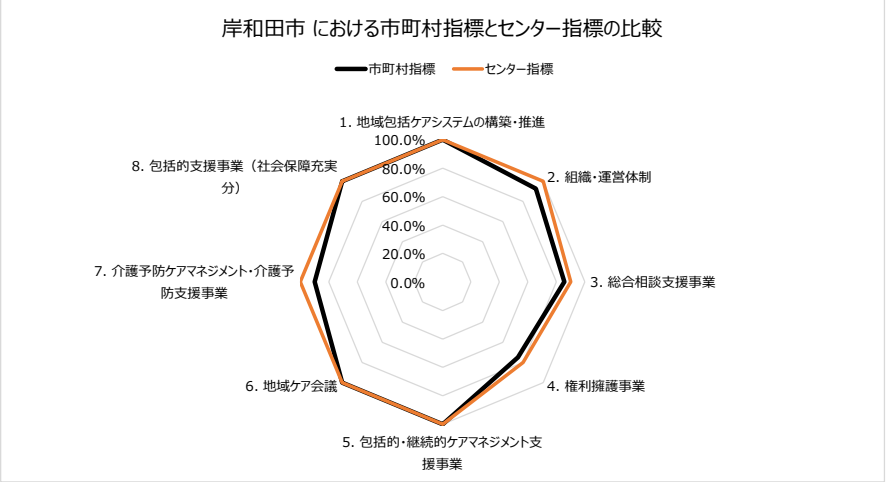
1.市町村別レーダーチャート

資料２

	市町村指標			センター指標		
評価分野	岸和田市	大阪府	全国平均	岸和田市	大阪府	全国平均
1. 地域包括ケアシステムの構築・推進	100.0%	80.6%	68.7%	100.0%	92.7%	88.3%
2. 組織・運営体制	92.9%	80.9%	73.9%	100.0%	95.6%	90.5%
3. 総合相談支援事業	85.7%	87.4%	84.8%	90.0%	94.1%	91.1%
4. 権利擁護事業	75.0%	86.6%	87.0%	80.0%	93.9%	91.0%
5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	100.0%	66.0%	67.8%	100.0%	79.6%	78.2%
6. 地域ケア会議	100.0%	81.0%	74.4%	100.0%	93.1%	88.2%
7. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援事業	90.0%	66.3%	54.8%	100.0%	94.8%	86.8%
8. 包括的支援事業（社会保障充実分）	100.0%	94.8%	90.8%	100.0%	93.8%	91.5%







2. 市町村別事業チェックシート

	市町村			岸和田市	全国実施割合	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
1. 地域包括ケアシステムの構築・推進	1 市町村の目指している地域包括ケアシステムの構築において、市町村が計画的にセンターを活用する	A	市町村および日常生活圏域の高齢者等に関する分析結果や地域課題等をもとに、センター数や設置形態等を協議し見直しているか	○	63.9%	1 市町村全体を踏まえた担当圏域の現状および将来像やニーズを把握する	A	人口動態、市町村が行う介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査の結果等の量的データによって、地域の高齢者に係る現状や将来の状況等を把握しているか	100.0%	94.4%
		B	市町村における介護保険事業全体の取組状況を踏まえ、センターが担う業務を協議しているか	○	78.6%		B	介護保険事業計画、老人福祉計画、地域福祉計画等から、地域の高齢者に係る課題等を把握しているか	100.0%	93.2%
		C	市町村の総合評価結果や評価分野別評価結果をもとに、センター機能を強化するための取組の見直しを行っているか	○	65.5%		C	センターが行う実態調査によって、担当圏域の現状やニーズを把握しているか	100.0%	70.4%
		D	【市町村により選択】 センターの機能や実績を踏まえて、包括的支援体制における役割等を決めているか	○	39.4%		D	相談内容や地域ケア会議等の内容を分析し、担当圏域の地域課題を把握しているか	100.0%	95.3%
	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			3	2.1	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			-	3.5
	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			100.0%	68.7%	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			100%	88.3%

	市町村			岸和田市	全国実施割合	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
2. 組織・運営体制	2 評価結果およびそれをもとにした運営協議会の議論やセンターとの協議を踏まえて、事業の実施方針や支援・指導方針を策定し、それを実施できる予算を確保する	A	(各)センターの総合評価結果や評価分野別評価結果をもとに、センター機能を強化するため、センターごとの運営方針や支援・指導方針を協議しているか	○	70.4%	2 市町村の実施方針に従って、地域包括支援センターの機能強化に向けた事業計画を作成し、必要に応じて業務改善を図る	A	市町村が定めるセンターの事業の実施方針の内容に沿って、センターの事業計画を策定しているか	100.0%	95.2%
		B	前年度の評価結果に関する運営協議会での検討を踏まえて、センターの事業の実施方針や支援・指導方針を策定しているか	○	72.4%		B	当該年度のセンターの事業計画に、前年度の事業評価における課題への適切な対応策を含めているか	100.0%	93.5%
		C	センターが実施方針に則った事業運営ができるように、運営予算を毎年見直し、確保しているか	○	84.7%		C	市町村の実施方針や担当圏域の地域課題等を踏まえ、センターの事業計画に重点目標を設定しているか	100.0%	87.2%
		D	年度ごとのセンターの事業計画の策定にあたり、センターと協議を行っているか	○	83.1%		D	センターの事業計画の重点目標に基づいて達成状況を分析し、必要な業務改善を行っているか	100.0%	87.8%
	3 実施方針に基づいてセンターが効果的に運営できるように、人員配置や人材育成に取り組む	A	センターの人材確保や定着を進めるための取組を行っているか	○	69.3%	3 センターが効果的に運営できるように、組織マネジメントを行う	A	センター長等の責任者の役割を文書で明確に示し、職員に周知しているか	100.0%	80.5%
		B	評価結果やヒアリングなどからセンターのニーズを把握し、それをもとにセンター職員の資質向上のための研修を計画しているか	○	63.1%		B	センターの事業計画を共有する会議等の機会を設け、これに基づく職員個々の取組内容を確認しているか	100.0%	94.6%
		C	センターの業務効率化を目的に、センター業務にICTを導入しているか	×	57.0%		C	センターの業務量を把握したうえで、業務の最適化を図るための対応を行なっているか	100.0%	83.7%
		D	【市町村により選択】 センターの人員確保の現状を踏まえ、複数圏域で合算した3職種の配置とするなど柔軟な職員配置に取り組んでいるか	○	89.0%		D	特定の職員に業務が偏らず、チームアプローチを推進するために業務分担のルールや仕組みづくりを行なっているか	100.0%	90.8%
							E	【市町村により選択】 センター業務にICTを活用するなど、センターの業務効率化に取り組んでいるか	100.0%	84.7%
	4 高齢者等が必要な時にセンターを利用できるように、センターの周知を行う	A	市町村の広報紙とホームページなどでセンターを周知しているか	○	95.9%	4 センター職員の人材確保および育成を図る	A	センターの人材確保や定着を進めるための取組を行っているか	100.0%	94.8%
		B	介護サービス情報公表システムでセンターを周知しているか	○	64.2%		B	センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、職場で研修を実施しているか	100.0%	93.8%
		C	その他、対象に応じた様々な方法でセンターを周知しているか	○	36.2%		C	センターに在籍する全ての職員が、計画的に職場での仕事を離れて研修（Off-JT）に参加できるようにしているか	100.0%	90.7%
		D	【市町村により選択】 センターの認知度を踏まえて効果的な周知を計画しているか	×	28.4%		D	センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、メンタルヘルス対策を実施しているか	100.0%	91.2%
							E	【市町村により選択】 スーパービジョンまたはコンサルテーションが受けられる体制を整えているか	100.0%	74.8%
	5		【市町村により選択】＊中間アウトカム指標＊ 地域包括支援センターの認知度を指標として採用	○		5 市町村が示している個人情報の取扱方針や苦情対応方針に従い、センターにおいて適切に対応する体制を整え実践する	A	個人情報保護に関する市町村の取扱方針に従って、センターが個人情報保護マニュアル（個人情報保護方針）を整備しているか	100.0%	95.0%
			センターの認知度を日常生活圏域ニーズ調査で把握している場合の割合	-%	46.4±18.1%		B	個人情報の持出・開示時は、管理簿への記載と確認を行っているか	100.0%	79.0%
	6 センターが個人情報保護等に留意しながら運営できるように体制支援を行う	A	個人情報保護に関する市町村の取扱方針をセンターと共有しているか	○	94.8%		C	市町村の方針に沿って、個人情報漏えいとセンターが受けた苦情に対して、対処および市町村への報告（共有）の体制を構築しているか	100.0%	92.0%
		B	個人情報漏えいが起こった際の対応策をセンターと共有しているか	○	85.1%		D	センターへの苦情内容をもとに業務を改善しているか	100.0%	99.0%
		C	苦情内容の記録等、苦情対応に関する市町村の方針をセンターと共有しているか	○	87.3%		E	【市町村により選択】 センターに対する利用者や家族からのカスタマー・ハラスメントに適切に対応する体制をセンターとして整備しているか	100.0%	79.1%
		D	利用者や家族からのカスタマー・ハラスメントにセンターが対応できるよう支援しているか	○	71.6%					
	7 センター指標の「2. 組織・運営体制」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「2. 組織・運営体制」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	-		6		【市町村により選択】＊中間アウトカム指標＊ センター職員の定着率（平均±標準偏差）	91.8 ± 9.3%	
			→ 設定している場合、具体的に指標を記入							
	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			13	10.3	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			-	14.5
	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			92.9%	73.9%	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			100.0%	90.5%

3. 総合相談支援事業

	市町村			岸和田市	全国実施割合
8	センターが総合相談支援事業を適切に実践できるよう、総合相談支援体制の構築に取り組む	A	総合相談支援事業に関するセンターの後方支援体制を構築しているか	○	90.0%
		B	センターに対して、夜間・早朝または平日以外の窓口（連絡先）の設置を義務づけ、市町村やセンターのホームページ等で周知しているか	×	72.5%
		C	センターからの相談事例に関する支援要請に対応しているか	○	97.1%
		D	市町村レベルの関係団体（民生委員等）の会議に定期的に参加しているか	○	88.1%
		E	【市町村により選択】 日常生活圏域ごとの相談支援ニーズ等をセンターが効果的に受け止められるようブランチ等を戦略的に活用しているか	○	20.1%
9	センターにおける相談件数や相談内容を把握して、相談支援体制の改善を図る	A	センターにおける相談事例の分類方法を定め、相談件数や相談内容の特徴を把握しているか	○	96.4%
		B	センターが対応した家族介護者等からの相談について、相談件数や相談内容の特徴を把握しているか	○	93.1%
		C	センターと協議しつつ、センターにおいて受けた相談事例の終結条件を定めているか	○	56.6%
		D	【市町村により選択】 センターにおける相談件数や相談内容を分析して、その分析結果をもとに相談支援体制を改善しているか	-	38.8%
10	センター指標の「3. 総合相談支援事業」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「3. 総合相談支援事業」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	-	
			→している場合、具体的に指標を記入		
平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）				6	5.9
平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）				85.7%	84.8%

	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
7	地域包括支援ネットワークを構築する	A	地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員、連絡先、特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているか	100.0%	94.8%
		B	気になる高齢者等に関して、関係機関、民生委員、地域住民から連絡が寄せられるネットワーク体制を構築しているか	100.0%	99.7%
		C	相談経路を分析して、高齢者等への支援に必要な新たな支援機関等と連携しているか	100.0%	95.4%
		D	【市町村により選択】 高齢者福祉分野以外の関係機関・関係者と意見交換する機会を設けるなど、分野を横断した新たなネットワークを構築しているか	100.0%	92.0%
8	市町村と相談事例を共有・分析し、支援に活かす	A	相談事例の分類方法に沿って、1年間の相談件数等を市町村に報告しているか	100.0%	99.1%
		B	相談事例の終結条件を、市町村と共有しているか	100.0%	77.1%
		C	相談事例の解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村から後方支援を得ているか	100.0%	99.2%
		D	相談内容を分析して、対応ルールの作成や研修の開催等を行い、職員の実践力の向上に活かしているか	100.0%	83.7%
9	家族介護者支援に取り組む	A	夜間・早朝の窓口または平日以外の窓口（連絡先）を設置して住民に周知し、家族介護者等が相談しやすい環境を整えているか	0.0%	88.5%
		B	支援が必要な家族介護者を早期に発見するための取組を行っているか。	100.0%	92.8%
		C	家族介護者に対するアセスメントを行い、状態やニーズに応じて適切な社会資源に関する情報を提供しているか	100.0%	96.7%
		D	家族介護者からの相談について、相談件数や相談内容を記録等に残して取りまとめているか	100.0%	97.0%
		E	【市町村により選択】 家族介護者に対する予防的な取組を行なっているか	100.0%	80.9%
10	複合的な課題を持つ世帯の相談に適切に対応する	A	相談者とともに複合的課題を整理してニーズを明確にしているか	100.0%	95.1%
		B	ニーズに応じて適切な社会資源につなげ、必要に応じてつなげた社会資源と協働しているか	100.0%	97.6%
		C	相談内容を整理して、複合的な課題を持つ世帯数・人数・内容等の実態を把握しているか	50.0%	71.7%
		D	相談内容を分析して、複合的な課題を持つ世帯の相談対応の改善に活かしているか	100.0%	79.8%
11			【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 高齢者福祉分野以外の機関からの照会件数：（平均±標準偏差） （中央値［四分位範囲］）	指標として採用なし	
12			【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 1年間の相談件数	792 ± 304 701（592–836）	
13			【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 支援を拒否する高齢者等へのアウトリーチのケース数	指標として採用なし	
平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）				-	13.7
平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）				90.0%	91.1%

	市町村			岸和田市	全国実施割合	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
4. 権利擁護事業	11 センターが権利擁護事業を遂行するための体制構築に取り組む	A	成年後見制度の市町村長申立てに関する判断基準をセンターと共有しているか	×	83.9%	14 高齢者等の権利擁護のための普及啓発や対応を行う	A	市町村から共有されている成年後見制度の市町村長申立てに関する判断基準を確認しているか	0.0%	80.6%
		B	高齢者虐待事例及び高齢者虐待が疑われる事例への対応の流れを整理し、センターと共有しているか	○	95.3%		B	消費者被害に関する情報を、民生委員、介護支援専門員、ホームヘルパー等へ提供しているか	100.0%	83.1%
		C	センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論及び報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか	○	97.0%		C	消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、適切に対応しているか	100.0%	95.3%
		D	消費生活に関する相談窓口及び警察に対して、センターとの連携についての協力依頼を行っているか	○	71.9%		D	高齢者虐待事例および高齢者虐待が疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか	100.0%	98.6%
							E	センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論、報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか	100.0%	98.2%
							F	【市町村により選択】 センターに在籍するすべての職員が高齢者等の権利擁護に関する研修を受講しているか	100.0%	82.2%
	12 センター指標の「4. 権利擁護事業」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「4. 権利擁護事業」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	-		15		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 権利擁護に関する相談件数	28 ± 18 20(17-38)	
			→ 設定している場合、具体的に指標を記入			16		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 成年後見制度の申立て支援件数	指標として採用なし	
	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			3	3.5	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			-	4.6
	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			75.0%	87.0%	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			80.0%	91.0%
5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	13 センターが包括的・継続的ケアマネジメント支援事業を適切に行うための体制を支援する	A	日常生活圏域ごとの居宅介護支援事業所のデータ（事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等）を把握し、センターに情報提供しているか	○	80.1%	17 担当圏域の居宅介護支援事業所の状況を把握し、地域のケアマネジャーの支援ニーズに基づいた対応を行う	A	担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ（事業所ごとの主任介護支援専門員、介護支援専門員の人数等）を把握しているか	100.0%	92.7%
		B	介護支援専門員を対象に、包括的・継続的ケアマネジメントを行うための課題や支援などに関するアンケートや意見収集を行い、センターに情報提供を行っているか	○	55.0%		B	介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類・件数を把握した上で、研修会、事例検討会、地域ケア会議等を開催しているか	100.0%	89.9%
		C	地域の介護支援専門員の実践力向上を図ることなどを目的とした、地域ケア会議や事例検討等を行うことができるように、センター職員を対象とした研修会を開催しているか	○	59.3%		C	担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者（例：医療機関や地域における様々な社会資源など）との意見交換の場を設けているか	100.0%	88.7%
		D	センターが介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類し、経年的に件数を把握するとともに、そのニーズに応じた介護支援専門員を対象とした研修会等を計画しているか	○	60.9%		D	介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催しているか	100.0%	89.0%
		E	介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者（例：医療機関や地域における様々な社会資源など）との意見交換の場を市町村が設けているか	○	83.7%		E	介護支援専門員を対象にした研修会や事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に指定居宅介護支援事業所に示しているか	100.0%	79.0%
						18 市町村の方針に則り、介護予防サービス計画の検証を行う	A	市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成する新規の介護予防サービス計画を確認しているか	100.0%	77.5%
							B	市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成する更新の介護予防サービス計画を確認しているか	100.0%	76.6%
							C	市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成した介護予防サービス計画を抽出し、その検証をしているか	100.0%	53.5%
							D	【市町村により選択】 市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成した介護予防サービス計画を抽出し、地域ケア会議でその検証をしているか	100.0%	44.6%
	14 センター指標の「5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	○		19		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 介護支援専門員からの相談受付件数	61 ± 45 47(36-68)	
			→ 設定している場合、具体的に指標を記入	介護支援専門員からの相談件数、介護支援専門員への研修回数、参加者数						
	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			5	3.4	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）			-	6.3
	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			100.0%	67.8%	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）			100.0%	78.2%

	市町村			岸和田市	全国実施割合	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
6. 地域ケア会議	15 地域ケア会議のすべての機能を発揮する地域ケア会議の体系を構築し、すべての機能を果たす	A	各レベルに（一つのレベルであっても多様な機能を果たす）地域ケア会議を設置し、それぞれが連動する体系をつくっているか	○	89.3%	20 センター主催の個別ケースを検討する地域ケア会議において、多様な視点から個別事例の検討を行い、対応策を講じる	A	センター主催の地域ケア会議の運営方針を、センター職員、会議参加者、地域の関係機関に対して周知しているか	100.0%	88.5%
		B	地域課題や自立促進要因を把握・整理・仕分けする場を設けているか	○	77.4%		B	センター主催の地域ケア会議において、多職種等と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか	100.0%	93.8%
		C	地域ケア会議と他の会議や事業とが連動する体系をつくっているか	○	85.2%		C	市町村が共有した地域ケア会議における個人情報の取扱方針に基づき、センターが主催する地域ケア会議で適切に対応しているか	100.0%	96.3%
		D	地域ケア会議の5つの機能（①個別課題解決機能、②ネットワーク構築機能、③地域課題発見機能、④地域づくり・資源開発機能、⑤政策形成機能）すべてが果たされているか	○	66.4%		D	地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングするルールや仕組みを構築・実行しているか	100.0%	82.8%
		E	地域ケア会議の運営を評価して体系を見直しているか	○	68.6%		E	センター主催の地域ケア会議において、議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有しているか	100.0%	88.4%
	16 地域ケア会議の運営の仕組みを構築し、関係者に周知する	A	地域ケア会議の体系や目的、機能、構成員、スケジュール等の開催計画をセンターや関係機関に示しているか	○	80.2%	21 地域ケア会議において、地域課題を把握し、適切に対応する	A	センター主催の地域ケア会議（地域ケア個別会議）において、地域課題の可能性がある課題を抽出しているか	100.0%	90.0%
		B	地域ケア会議の運営に関してセンターとの役割分担と連携方法を関係者と共有しているか	○	81.3%		B	センター主催の地域ケア会議（地域ケア推進会議）において、地域課題や自立促進要因について共有し、その後の対応を検討しているか	100.0%	83.9%
		C	センターと協力し、地域ケア会議における個人情報の取扱方針を定め、センターと共有するとともに、市町村が主催する地域ケア会議で対応しているか	○	85.3%		C	センター主催の地域ケア会議（地域ケア推進会議）において把握した地域課題や対応等を、市町村に報告しているか	100.0%	89.4%
		D	地域ケア会議の議事録や検討事項を構成員全員が共有するための仕組みを構築しているか	○	80.6%		D	地域課題の整理・分析・対応等を行なうために、市町村レベルの地域ケア会議（地域ケア推進会議）等に参加または資料提出しているか	100.0%	81.9%
	17 地域ケア会議を有効に活用する	A	地域ケア会議において、多職種と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか	○	92.9%					
		B	生活援助の訪問回数の多いケアプラン（生活援助中心のケアプラン）の検証を行い、対応策を講じているか	○	54.2%					
		C	地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングするルールや仕組みを構築し、かつ、実行しているか	○	67.6%					
		D	高齢者の自立を促進する要因や阻害要因を把握して、それをもとに、高齢者の自立に資する事業（総合事業や生活支援体制整備事業等）の見直しを行っているか	○	66.3%					
		E	複数の個別事例から地域課題を明らかにし、市町村主催の地域ケア推進会議で検討することで、政策形成につなげているか	○	61.1%					
	18 地域ケア会議の運営において、センター等と協働する	A	センター主催の個別事例について検討する地域ケア会議（地域ケア個別会議）に参加しているか	○	91.4%					
		B	センター主催の地域課題について検討する地域ケア会議（地域ケア推進会議）に参加しているか	○	76.3%					
		C	センター主催の地域ケア会議で検討された内容を把握しているか	○	92.9%					
		D	センター主催及び市町村主催も含めた地域ケア会議の検討内容をとりまとめて、住民向けに公表しているか	○	22.6%					
	19 センター指標の「6. 地域ケア会議」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「6. 地域ケア会議」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	○		22		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ センター主催の地域ケア会議を経て、市町村レベルの地域ケア会議に地域課題を報告した数	8 ± 11 4(1-7)	
			→ 設定している場合、具体的に指標を記入	地域ケア会議の開催回数、地域ケア会議のアンケートでの満足度						
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			18	13.4	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			-	7.9
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			100.0%	74.4%	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			100.0%	88.2%

	市町村			岸和田市	全国実施割合	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
7. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援	20 センターや介護支援専門員が介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を適切に実施できるよう体制を構築する	A	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援に関する実態を踏まえ、自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関する市町村の基本方針を定め、センターと共有しているか	○	72.2%	23 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を適切に実施する	A	自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関して、市町村から示された基本方針を、センター職員及び介護支援専門員に周知しているか	100.0%	87.0%
		B	センター、介護支援専門員、生活支援コーディネーター、協議体に対して、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源に関する情報を提供しているか	○	88.0%		B	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけているか	100.0%	97.8%
		C	利用者のセルフマネジメントを推進するため、介護予防手帳などの支援の手法を定め、センターと共有しているか	○	41.9%		C	利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか	100.0%	65.9%
		D	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援におけるセンターの人員体制と実施件数を把握し、人員配置を見直しているか	○	70.1%		D	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託した場合は、台帳への記録および進行管理を行っているか	100.0%	94.5%
		E	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定について、公平性・中立性確保のための指針を作成し、センターと共有しているか	○	60.2%		E	市町村から示された介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定の公平性・中立性確保のための指針を遵守しているか	100.0%	88.7%
		F	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を居宅介護支援事業所に指定または委託する際のセンターの関与について、市町村の指針をセンターと共有しているか	○	60.4%		F	【市町村により選択】 介護予防ケアマネジメントの成果を把握するために、要支援者または事業対象者の日常生活の自立度の変化について、定期的な評価を行っているか	0.0%	55.4%
		G	【市町村により選択】 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援について、リハビリ専門職等、多職種からの専門的な助言を得られる体制を整備しているか	-	34.4%					
		H	【市町村により選択】 介護予防支援を担う居宅介護支援事業所から介護予防サービス計画に係る相談を随時受け付ける体制を整備しているか	○	49.7%					
	21 介護予防支援の実態を踏まえ、介護予防サービス計画の検証方法を定め運営する	A	介護予防支援の実態を踏まえ、介護予防サービス計画の検証方法について、センターと協議して方針を打ち出しているか	○	41.4%					
		B	居宅介護支援事業所に対して、介護予防サービス計画の検証方法に関する方針を示しているか	○	33.8%					
		C	介護予防サービス計画の検証を実施した結果について、センターや居宅介護支援事業所等と共有しているか	○	35.0%					
		D	介護予防サービス計画の検証を通じて、介護予防支援や介護予防サービス計画の作成に課題がないかを整理し、課題があった場合には、課題解消のための取組を行っているか	×	45.2%					
		E	【市町村により選択】 利用者の状態の維持・改善に向けた介護予防サービス計画でない場合、その適正化のために、地域ケア会議を活用しているか	-	32.5%					
	22 センター指標の「7. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「7. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	-		24			指標として採用なし	
			→ 設定している場合、具体的に指標を記入							
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			9	5.5	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			-	4.3
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			90.0%	54.8%	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			100.0%	86.8%

	市町村			岸和田市	全国実施割合	地域包括支援センター（6圏域まとめ）			岸和田市平均	全国実施割合
8. 包括的支援事業（社会保障充実分）	23 包括的支援事業（社会保障充実分）を推進するために、センターの活動を位置づけ、その支援を行う	A	在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口とセンターとの連携・調整が図られるよう、連携のための会議等の開催といった情報共有の仕組みづくりなどの支援を行っているか	○	92.1%	25 事業間連携を推進する	A	在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対して、相談を行っているか	100.0%	87.6%
		B	生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーターや協議体とセンターの連携・調整が図られるよう、連携のための会議等の開催といった情報共有の仕組みづくりなどの支援を行っているか	○	90.5%		B	生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーターおよび協議体とともに、地域における高齢者のニーズや社会資源について協議を行っているか	100.0%	88.4%
		C	認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員またはチームオレンジコーディネーターとセンターとの連携・調整が図られるよう、連携のための会議等の開催といった情報共有の仕組みづくりなどの支援を行っているか	○	93.2%		C	認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員またはチームオレンジコーディネーターと、支援対象者に関する情報共有を図っているか	100.0%	96.0%
		D	センターが行う包括的支援事業の充実のために、医療関係者とセンターの合同の事例検討会や講演会等の開催または開催支援を行っているか	○	87.0%		D	包括的支援事業の充実のために、医療関係者と合同の事例検討会や勉強会に参加しているか	100.0%	95.3%
							E	【市町村により選択】 生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーターや協議体と協働して地域活動を促進しているか	100.0%	87.3%
	24 センター指標の「8. 包括的支援事業（社会保障充実分）」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定する		センター指標の「8. 包括的支援事業（社会保障充実分）」に関するアウトプット指標または中間アウトカム指標を市町村が設定しているか	○		26		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 医療関係者と合同の事例検討会や勉強会の実施数	指標として採用なし	
			→ 設定している場合、具体的に指標を記入	在宅医療・介護連携推での出前講座、住民セミナーの開催回数、認知症ネットワーク会議開催回数、在宅医療・介護連携推進拠点会議の開催回数						
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			4	3.6	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			-	3.7
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			100.0%	90.8%	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			100.0%	91.5%

3. 地域包括支援センター別回答

		センター			岸和田市平均	全国調査結果	1	2	3	4	5	6
							岸和田市地域包括支援センターいなば荘北部	岸和田市地域包括支援センター萬寿園葛城の谷	岸和田市地域包括支援センター社協	岸和田市地域包括支援センターいなば荘牛滝の谷	岸和田市地域包括支援センター萬寿園中部	岸和田市地域包括支援センター社協久米田
1. 地域包括ケアシステムの構築・推進	1	市町村全体を踏まえた担当圏域の現状および将来像やニーズを把握する	A	人口動態、市町村が行う介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査の結果等の量的データによって、地域の高齢者に係る現状や将来の状況等を把握しているか	100.0%	94.4%	○	○	○	○	○	○
			B	介護保険事業計画、老人福祉計画、地域福祉計画等から、地域の高齢者に係る課題等を把握しているか	100.0%	93.2%	○	○	○	○	○	○
			C	センターが行う実態調査によって、担当圏域の現状やニーズを把握しているか	100.0%	70.4%	○	○	○	○	○	○
			D	相談内容や地域ケア会議等の内容を分析し、担当圏域の地域課題を把握しているか	100.0%	95.3%	○	○	○	○	○	○
	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）				-	3.5	4	4	4	4	4	4
	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）				100.0%	88.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2. 組織・運営体制	2	市町村の実施方針に従って、地域包括支援センターの機能強化に向けた事業計画を作成し、必要に応じて業務改善を図る	A	市町村が定めるセンターの事業の実施方針の内容に沿って、センターの事業計画を策定しているか	100.0%	95.2%	○	○	○	○	○	○
			B	当該年度のセンターの事業計画に、前年度の事業評価における課題への適切な対応策を含めているか	100.0%	93.5%	○	○	○	○	○	○
			C	市町村の実施方針や担当圏域の地域課題等を踏まえ、センターの事業計画に重点目標を設定しているか	100.0%	87.2%	○	○	○	○	○	○
			D	センターの事業計画の重点目標に基づいて達成状況を分析し、必要な業務改善を行っているか	100.0%	87.8%	○	○	○	○	○	○
	3	センターが効果的に運営できるように、組織マネジメントを行う	A	センター長等の責任者の役割を文書で明確に示し、職員に周知しているか	100.0%	80.5%	○	○	○	○	○	○
			B	センターの事業計画を共有する会議等の機会を設け、これに基づく職員個々の取組内容を確認しているか	100.0%	94.5%	○	○	○	○	○	○
			C	センターの業務量を把握したうえで、業務の最適化を図るための対応を行なっているか	100.0%	83.7%	○	○	○	○	○	○
			D	特定の職員に業務が偏らず、チームアプローチを推進するために業務分担のルールや仕組みづくりを行なっているか	100.0%	90.8%	○	○	○	○	○	○
			E	【市町村により選択】 センター業務にICTを活用するなど、センターの業務効率化に取り組んでいるか	100.0%	39.2%	○	○	○	○	○	○
	4	センター職員の人材確保および育成を図る	A	センターの人材確保や定着を進めるための取組を行っているか	100.0%	94.8%	○	○	○	○	○	○
			B	センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、職場で研修を実施しているか	100.0%	93.6%	○	○	○	○	○	○
			C	センターに在籍する全ての職員が、計画的に職場での仕事を離れて研修（Off-JT）に参加できるようにしているか	100.0%	90.5%	○	○	○	○	○	○
			D	センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、メンタルヘルス対策を実施しているか	100.0%	90.9%	○	○	○	○	○	○
			E	【市町村により選択】 スーパービジョンまたはコンサルテーションが受けられる体制を整えているか	100.0%	31.2%	○	○	○	○	○	○
	5	市町村が示している個人情報の取扱方針や苦情対応方針に従い、センターにおいて適切に対応する体制を整え実践する	A	個人情報保護に関する市町村の取扱方針に従って、センターが個人情報保護マニュアル（個人情報保護方針）を整備しているか	100.0%	95.0%	○	○	○	○	○	○
			B	個人情報の持出・開示時は、管理簿への記載と確認を行っているか	100.0%	79.0%	○	○	○	○	○	○
			C	市町村の方針に沿って、個人情報漏えいとセンターが受けた苦情に対して、対処および市町村への報告（共有）の体制を構築しているか	100.0%	92.0%	○	○	○	○	○	○
			D	センターへの苦情内容をもとに業務を改善しているか	100.0%	99.0%	○	○	○	○	○	○
			E	【市町村により選択】 センターに対する利用者や家族からのカスタマー・ハラスメントに適切に対応する体制をセンターとして整備しているか	100.0%	30.6%	○	○	○	○	○	○
	6			【市町村により選択】＊中間アウトカム指標＊ センター職員の定着率（平均±標準偏差）	91.8 ± 9.3%	89.9 ± 16.4%	100	80	83	100	100	88
	平均点数・個数（必須項目[白色セル]のみカウント）				-	13.7	16	16	16	16	16	16
	平均点数・%（必須項目[白色セル]のみカウント）				100.0%	91.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

	センター			岸和田市平均	全国調査結果	岸和田市地域包括支援センターいなば荘北部	岸和田市地域包括支援センター萬寿園葛城の谷	岸和田市地域包括支援センター社協	岸和田市地域包括支援センターいなば荘牛滝の谷	岸和田市地域包括支援センター萬寿園中部	岸和田市地域包括支援センター社協久米田
3. 総合相談支援事業	7 地域包括支援ネットワークを構築する	A	地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員、連絡先、特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているか	100.0%	94.8%	○	○	○	○	○	○
		B	気になる高齢者等に関して、関係機関、民生委員、地域住民から連絡が寄せられるネットワーク体制を構築しているか	100.0%	99.7%	○	○	○	○	○	○
		C	相談経路を分析して、高齢者等への支援に必要な新たな支援機関等と連携しているか	100.0%	95.4%	○	○	○	○	○	○
		D	【市町村により選択】 高齢者福祉分野以外の関係機関・関係者と意見交換する機会を設けるなど、分野を横断した新たなネットワークを構築しているか	100.0%	49.1%	○	○	○	○	○	○
	8 市町村と相談事例を共有・分析し、支援に活かす	A	相談事例の分類方法に沿って、1年間の相談件数等を市町村に報告しているか	100.0%	98.8%	○	○	○	○	○	○
		B	相談事例の終結条件を、市町村と共有しているか	100.0%	77.1%	○	○	○	○	○	○
		C	相談事例の解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村から後方支援を得ているか	100.0%	99.2%	○	○	○	○	○	○
		D	相談内容を分析して、対応ルールの作成や研修の開催等を行い、職員の実践力の向上に活かしているか	100.0%	85.2%	○	○	○	○	○	○
	9 家族介護者支援に取り組む	A	夜間・早朝の窓口または平日以外の窓口（連絡先）を設置して住民に周知し、家族介護者等が相談しやすい環境を整えているか	0.0%	88.5%	×	×	×	×	×	×
		B	支援が必要な家族介護者を早期に発見するための取組を行っているか。	100.0%	92.8%	○	○	○	○	○	○
		C	家族介護者に対するアセスメントを行い、状態やニーズに応じて適切な社会資源に関する情報を提供しているか	100.0%	96.5%	○	○	○	○	○	○
		D	家族介護者からの相談について、相談件数や相談内容を記録等に残して取りまとめているか	100.0%	96.7%	○	○	○	○	○	○
		E	【市町村により選択】 家族介護者に対する予防的な取組を行なっているか	100.0%	46.9%	○	○	○	○	○	○
	10 複合的な課題を持つ世帯の相談に適切に対応する	A	相談者とともに複合的課題を整理してニーズを明確にしているか	100.0%	94.9%	○	○	○	○	○	○
		B	ニーズに応じて適切な社会資源につなげ、必要に応じてつなげた社会資源と協働しているか	100.0%	97.3%	○	○	○	○	○	○
		C	相談内容を整理して、複合的な課題を持つ世帯数・人数・内容等の実態を把握しているか	50.0%	71.5%	○	×	×	○	×	○
		D	相談内容を分析して、複合的な課題を持つ世帯の相談対応の改善に活かしているか	100.0%	79.6%	○	○	○	○	○	○
	11		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 高齢者福祉分野以外の機関からの照会件数：（平均±標準偏差） （中央値［四分位範囲］）	指標として採用なし	342 ± 910 77 (17-266)						
	12		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 1年間の相談件数	792 ± 304 701(592–836)	3958 ± 4392 2502 (1122-5041)	1365	866	656	549	571	745
	13		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 支援を拒否する高齢者等へのアウトリーチのケース数	指標として採用なし	30±181 5 (1-15)						
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			-	15.4	14	13	13	14	13	14
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			90.0%	90.9%	93.3%	86.7%	86.7%	93.3%	86.7%	93.3%
4. 権利擁護事業	14 高齢者等の権利擁護のための普及啓発や対応を行う	A	市町村から共有されている成年後見制度の市町村長申立てに関する判断基準を確認しているか	0.0%	80.6%	×	×	×	×	×	×
		B	消費者被害に関する情報を、民生委員、介護支援専門員、ホームヘルパー等へ提供しているか	100.0%	82.9%	○	○	○	○	○	○
		C	消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、適切に対応しているか	100.0%	95.1%	○	○	○	○	○	○
		D	高齢者虐待事例および高齢者虐待が疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか	100.0%	98.6%	○	○	○	○	○	○
		E	センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論、報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか	100.0%	97.9%	○	○	○	○	○	○
		F	【市町村により選択】 センターに在籍するすべての職員が高齢者等の権利擁護に関する研修を受講しているか	100.0%	40.9%	○	○	○	○	○	○
	15		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 権利擁護に関する相談件数	28 ± 18 20(17–38)	140 ± 257 57 (18-159)	56	44	20	13	16	19
	16		【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 成年後見制度の申立て支援件数	指標として採用なし	7 ± 21 2 (1-5)	0	8	3	0	1	3
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）			-	4.5	4	4	4	4	4	4
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）			80.0%	91.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%

		センター			岸和田市平均	全国調査結果	岸和田市地域包括支援センターいなば荘北部	岸和田市地域包括支援センター萬寿園葛城の谷	岸和田市地域包括支援センター社協	岸和田市地域包括支援センターいなば荘牛滝の谷	岸和田市地域包括支援センター萬寿園中部	岸和田市地域包括支援センター社協久米田
5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	17	担当圏域の居宅介護支援事業所の状況を把握し、地域のケアマネジャーの支援ニーズに基づいた対応を行う	A	担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ（事業所ごとの主任介護支援専門員、介護支援専門員の人数等）を把握しているか	100.0%	92.7%	○	○	○	○	○	○
			B	介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類・件数を把握した上で、研修会、事例検討会、地域ケア会議等を開催しているか	100.0%	89.7%	○	○	○	○	○	○
			C	担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者（例：医療機関や地域における様々な社会資源など）との意見交換の場を設けているか	100.0%	88.4%	○	○	○	○	○	○
			D	介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催しているか	100.0%	88.8%	○	○	○	○	○	○
			E	介護支援専門員を対象にした研修会や事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に指定居宅介護支援事業所に示しているか	100.0%	69.0%	○	○	○	○	○	○
	18	市町村の方針に則り、介護予防サービス計画の検証を行う	A	市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成する新規の介護予防サービス計画を確認しているか	100.0%	72.0%	○	○	○	○	○	○
			B	市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成する更新の介護予防サービス計画を確認しているか	100.0%	70.6%	○	○	○	○	○	○
			C	市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成した介護予防サービス計画を抽出し、その検証をしているか	100.0%	44.8%	○	○	○	○	○	○
			D	【市町村により選択】 市町村の方針に沿って、圏域内の居宅介護支援事業所が作成した介護予防サービス計画を抽出し、地域ケア会議でその検証をしているか	100.0%	26.1%	○	○	○	○	○	○
	19			【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 介護支援専門員からの相談受付件数	61 ± 45 47(36-68)	265 ± 429 124 (38-320)	145	42	18	34	73	51
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）				-	6.3	8	8	8	8	8	8
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）				100.0%	78.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
6. 地域ケア会議	20	センター主催の個別ケースを検討する地域ケア会議において、多様な視点から個別事例の検討を行い、対応策を講じる	A	センター主催の地域ケア会議の運営方針を、センター職員、会議参加者、地域の関係機関に対して周知しているか	100.0%	88.5%	○	○	○	○	○	○
			B	センター主催の地域ケア会議において、多職種等と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか	100.0%	93.8%	○	○	○	○	○	○
			C	市町村が共有した地域ケア会議における個人情報の取扱方針に基づき、センターが主催する地域ケア会議で適切に対応しているか	100.0%	96.3%	○	○	○	○	○	○
			D	地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングするルールや仕組みを構築・実行しているか	100.0%	82.8%	○	○	○	○	○	○
			E	センター主催の地域ケア会議において、議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有しているか	100.0%	88.1%	○	○	○	○	○	○
	21	地域ケア会議において、地域課題を把握し、適切に対応する	A	センター主催の地域ケア会議（地域ケア個別会議）において、地域課題の可能性がある課題を抽出しているか	100.0%	89.7%	○	○	○	○	○	○
			B	センター主催の地域ケア会議（地域ケア推進会議）において、地域課題や自立促進要因について共有し、その後の対応を検討しているか	100.0%	83.7%	○	○	○	○	○	○
			C	センター主催の地域ケア会議（地域ケア推進会議）において把握した地域課題や対応等を、市町村に報告しているか	100.0%	89.1%	○	○	○	○	○	○
			D	地域課題の整理・分析・対応等を行なうために、市町村レベルの地域ケア会議（地域ケア推進会議）等に参加または資料提出しているか	100.0%	81.7%	○	○	○	○	○	○
	22			【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ センター主催の地域ケア会議を経て、市町村レベルの地域ケア会議に地域課題を報告した数	8 ± 11 4(1-7)	5 ± 3 2 (1-5)	2	30	5	1	1	8
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）				-	7.9	9	9	9	9	9	9
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）				100.0%	88.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
7. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援	23	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を適切に実施する	A	自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関して、市町村から示された基本方針を、センター職員及び介護支援専門員に周知しているか	100.0%	89.7%	○	○	○	○	○	○
			B	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけているか	100.0%	97.8%	○	○	○	○	○	○
			C	利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか	100.0%	65.9%	○	○	○	○	○	○
			D	介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託した場合は、台帳への記録および進行管理を行っているか	100.0%	94.5%	○	○	○	○	○	○
			E	市町村から示された介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定の公平性・中立性確保のための指針を遵守しているか	100.0%	88.7%	○	○	○	○	○	○
			F	【市町村により選択】 介護予防ケアマネジメントの成果を把握するために、要支援者または事業対象者の日常生活の自立度の変化について、定期的な評価を行っているか	0.0%	24.7%	×	×	×	×	×	×
	24			【市町村により選択】＊中間アウトカム指標＊ 介護予防ケアマネジメント対象者のうち状態が維持または改善した人の割合	指標として採用なし	60.0 ± 39.6 71.9 (50.0-80.1)						
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）				-	4,3	5	5	5	5	5	5
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）				100.0%	86.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
8. 包括的支援事業（社会保障充実分）	25	事業間連携を推進する	A	在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対して、相談を行っているか	100.0%	87.3%	○	○	○	○	○	○
			B	生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーターおよび協議体とともに、地域における高齢者のニーズや社会資源について協議を行っているか	100.0%	88.1%	○	○	○	○	○	○
			C	認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員またはチームオレンジコーディネーターと、支援対象者に関する情報共有を図っているか	100.0%	95.7%	○	○	○	○	○	○
			D	包括的支援事業の充実のために、医療関係者と合同の事例検討会や勉強会に参加しているか	100.0%	95.0%	○	○	○	○	○	○
			E	【市町村により選択】 生活支援コーディネーター・就労的活動支援コーディネーターや協議体と協働して地域活動を促進しているか	100.0%	46.9%	○	○	○	○	○	○
	26			【市町村により選択】＊アウトプット指標＊ 医療関係者と合同の事例検討会や勉強会の実施数	指標として採用なし	5 ± 5 3 (2-6)						
	平均点数・個数（必須項目［白色セル］のみカウント）				-	3,6	4	4	4	4	4	4
	平均点数・%（必須項目［白色セル］のみカウント）				100.0%	91.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

資料３

令和８年度　岸和田市地域包括支援センター事業計画書

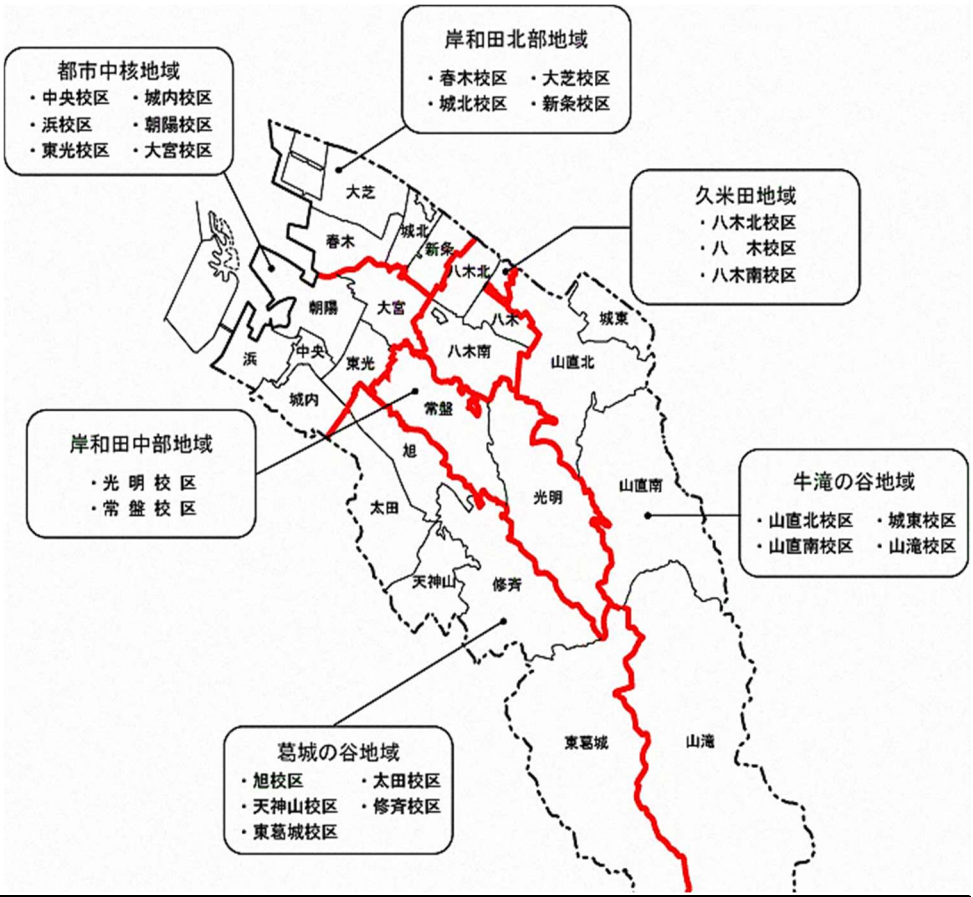
1.目的

岸和田市地域包括支援センターは、地域の高齢者の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、地域の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的として、地域包括ケアシステムの構築にむけて一体的に実施する役割を担う中核的機関として設置する。

◆岸和田市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画　コンセプト◆

住み慣れた地域で　自分らしい生活を営むことができる　地域共生社会の実現

【日常生活圏域】



地域包括支援センター	小学校区
地域包括支援センター社協	中央校区、朝陽校区、東光校区、大宮校区
地域包括支援センターいなば荘北部	春木校区、城北校区、新条校区、大芝校区
地域包括支援センター萬寿園葛城の谷	旭校区、太田校区、天神山校区、修斉校区、東葛城校区
地域包括支援センター萬寿園中部	光明校区、常盤校区、八木南校区の一部、城内校区、浜校区
地域包括支援センター社協久米田	八木校区、八木北校区、八木南校区、山直北校区の一部
地域包括支援センターいなば荘牛滝の谷	山直北校区、城東校区、山直南校区、山滝校区

2.基本方針

地域包括支援センターは、岸和田市における、地域包括ケアを有効に機能させるため、公正で中立性の高い事業運営を行う。

地域包括支援センターには、保健師・看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士、生活支援コーディネーター等の専門職を配置し、その知識を生かしながら、情報共有及び相互に連携するとともに、地域における様々な社会資源の活用を図り、高齢者が住み慣れた地域で尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域包括ケアの深化・推進を目指す。

また、団塊の世代のすべてが 75 歳以上となった令和７（2025）年も過ぎ、今後は団塊ジュニアが前期高齢期を迎える令和 22（2040）年を見据えながら効果的かつ効率的な支援の取組を進める。

地域包括支援センター社協は他の生活圏域の地域包括支援センターと連携・情報交換等を図るに当たり、統括センターとして基幹的役割を担う。

3.地域包括支援センターの業務について

（１）介護予防・日常生活支援総合事業

重点的取組(北部)

① 介護予防ケアマネジメント（第１号介護予防支援事業）

介護予防・日常生活支援総合事業のうち、要支援認定者及び総合事業対象者に対して、介護予防及び日常生活支援を目的として、その心身の状況、置かれているその他の状況に応じて、訪問型サービス、通所型サービス、その他生活支援サービス等適切なサービスが包括的かつ効率的に提供されるよう必要な援助を行うものとする。

また、短期集中予防サービスの充実を図り、自立支援の促進に取り組む。

〇総合事業の制度内容・方針等の地域（市民）への周知
〇介護予防ケアマネジメント基本方針に基づくケアプラン作成のため介護支援専門員を支援
〇短期集中予防サービスの推進・協力

介護予防プラン作成件数

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度（見込）
直接	8,153	8,448	9,105	9,700
委託	23,731	24,604	24,899	25,000
	31,884	33,052	34,004	34,700

② 一般介護予防事業

住民主体の通いの場を充実させ、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域活動組織の育成や自立支援に資する介護予防の取組を推進する。

地域活動を担う後継者不足を受け、参加者が減少した通いの場については、継続して通いの場に出向く等し、介護予防の啓発・周知を行い参加者や後継者を増やせるよう取り組む。

また、フレイル状態に着目した疾病予防の取組を行う保健事業との連携により、支援メニューの充実を図る。

主な活動内容
日常生活支援総合事業の地域住民への周知
短期集中予防サービスの推進・協力
いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操実施地域への支援 （体力測定、フィードバック、健康や生活に関する情報提供、交流大会）
いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操未実施及び再開地域への支援
フレッシュらいふ教室の開催支援
介護予防包括会議への出席
高齢者の保健事業と介護予防の一体化実施への協力

【北部】高齢者や、そのサポートを行う地域住民の『生きがいや活躍の場』へのマッチング

（２）総合相談支援事業

重点的取組（社協）

地域の高齢者の様々な相談を受け入れ、適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的な支援を行う。また、事後対応だけではなく、事前の早期発見、早期対応、予防的対応ができるよう各地域での個別見守り訪問活動への同行や各サロン、リビングへ参加することにより、地域の実態把握や民生委員等の地域住民とのネットワークの構築を図る。

介護離職防止のための支援として、仕事と介護の両立に不安や悩みをもつ就労者のため、地域への出張相談など相談支援体制の充実・強化を図る。

〇地域におけるネットワーク構築
〇援助が必要な高齢者等への個別支援と地域課題の把握
〇相談体制の充実・強化

総合相談業務件数

令和５年度	令和６年度	令和７年度（上半期）	令和 8 年度（見込）
3,509	3,510	1,771	3,600

主な活動内容
各地域での個別見守り活動への同行や各サロン、リビングへの参加により、実態把握や地域住民とのネットワーク構築を図る。
地域支援専門職ネットワーク会議への参画

【社協】積極的に地域に出向くことで信頼関係を構築し、地域住民からの声を拾い上げていく。

（３）包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護支援専門員、主治医、地域の関係機関等との連携、在宅と施設の連携など、地域において多職種相互の協働等により連携し、個々の高齢者の状況や変化に応じて包括的かつ継続的に支援する。また、地域における連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

各圏域により介護支援専門員研修会や事例検討会の開催、地域包括支援センター全体で行う法定外研修や新人向け介護支援専門員研修会を開催する。

〇包括的・継続的なケア体制の構築
〇地域における介護支援専門員のネットワークの活用
〇日常的な個別指導・相談や支援困難事例等への指導・助言

主な活動内容
各圏域による介護支援専門員対象研修会・事例検討会開催
岸和田市地域包括支援センター全体研修会（法定外研修）の開催
新人向け介護支援専門員研修会開催
ケアプランの検証等の実施
介護支援専門員への情報提供

（４）権利擁護事業（虐待や消費者被害から高齢者等を守る）

重点的取組（久米田）

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、高齢者の権利や財産、尊厳ある暮らしをまもるための相談や情報提供を行う。

そのため、行政、法律家、警察等の専門的な対応を行う関係機関とのネットワークを構築するため、高齢者虐待防止ネットワーク会議への参画や大阪弁護士会と連携した法律相談を実施する。

〇成年後見制度の説明及び広報
〇成年後見制度の申立て支援
〇高齢者虐待、困難事例への対応
〇消費者被害防止のための周知・啓発
〇大阪弁護士会と連携した法律相談の実施

高齢者虐待の通報相談件数

令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度（見込）
168	165	180	185

主な活動内容
岸和田市高齢者虐待防止ネットワーク代表者会議への参画
岸和田市高齢者虐待防止ネットワーク実務者会議への参画
大阪弁護士会と連携した法律相談の実施
判断能力を欠く状況にある人への支援（成年後見制度利用促進）

【久米田】 身寄りのない高齢者への支援を強化するとともに、それらの高齢者を支える支援者が抱える課題把握を目指す。

（５）在宅医療・介護連携推進事業

医師会が中心的役割を果たしている多職種（医療、福祉関係者等）による在宅医療・介護連携推進拠点会議に参画し、連携の促進、高齢者の在宅療養生活の支援体制強化のための事業（多職種連携研修や住民啓発セミナー等）実施を図っていく。

主な活動内容
在宅医療介護連携拠点会議への参画
多職種連携研修会の開催（市全体）
住民啓発セミナーの開催（市全体）
各圏域における住民啓発セミナーの開催
各圏域における医療出前講座の開催
暮らしの安心プロジェクトを通した医療機関との連携

（６）生活支援体制整備事業　重点的取組（北部）

多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供ができる体制を整備するために生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を配置する。

生活支援コーディネーターは担当する地域において多様な主体による多様な取組のコーディネート業務を実施することにより、地域における一体的な生活支援サービスの提供体制の整備を推進する。また、地域包括支援センターと連携し、地域課題に対応するための地域づくりに取り組む。

〇地域診断及び地域資源の開発に関すること
〇ネットワークの構築
〇ニーズと取組のマッチング
〇協議体の招集、統括に関すること（協議体設置後）
〇高齢者の生活支援に関すること

主な活動内容
岸和田市生活援助サービス従事者研修への参画、修了者へのマッチング
いきいき百歳体操支えて隊の発掘、養成
いきいき百歳体操の実施地域の開拓
地域に不足するサービスの創出
社会資源集の作成・地域資源の情報集約

【北部】高齢者や、そのサポートを行う地域住民の『生きがいや活躍の場』へのマッチング

（７）認知症総合支援事業　重点的取組（牛滝の谷）

新オレンジプラン、認知症施策推進大綱、共生社会の実現を推進するための認知症基本法に基づき、関係機関と連携しながら、認知症への理解を深めるための普及・啓発、認知症の早期診断・早期対応に努め、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを支援する。

〇認知症基本法に基づいた関係機関との連携・協力
〇認知症サポーター養成講座の開催
〇認知症初期集中支援チームとの連携等
〇認知症高齢者見守り事業への協力

主な活動内容
認知症初期集中支援チームとのスムーズな連携による支援体制の構築
認知症支援ネットワーク会議への参画（各法人１名）
認知症サポーター養成講座の企画・開催
認知症カフェとの連携
認知症疾患医療センターとの連携、協議会に参加
認知症高齢者等見守りネットワーク登録者または警察が保護した高齢者の実態把握

【牛滝の谷】 認知症の人を含めたひとりひとりの地域住民が互いに支えあえる街づくり。

（８）地域ケア会議等の実施

重点的取組（葛城の谷・中部）

医療、介護等の専門職や民生委員、町会・自治会、ＮＰＯ、社会福祉法人、ボランティアなど地域の多様な関係者の協働や、介護支援専門員のケアマネジメント支援を通じて、介護等が必要な高齢者が住み慣れたところでの生活を地域全体で支援していく環境を作っていくため、個別ケースや地域課題を検討する地域ケア会議を開催する。会議終了後は、議事録を作成し、決定事項を構成員で共有する。その他、市が主催する自立支援型の地域ケア会議へ出席する等、必要な連携・協力を行う。

○地域ケア個別会議の開催
○地域ケア推進会議の開催
○自立支援型地域ケア会議の出席及び連携・協力

【葛城の谷】 地域ケア会議の定例開催を継続し、地域課題の抽出から地域に必要な社会資源を創出していく。

【中部】 地域ケア会議の開催を行い、「自助・互助」の大切さを地域の方々に伝え、地域の力を引き出していく。

地域密着型サービス事業所の新規指定状況一覧（令和8年4月1日現在）

資料4

11月2日～4月1日

〇地域密着型通所介護

法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
有限会社メディカル・サポート・ツエンティーワン	MS21デイサービス	10名	上松町776番地の4	岸和田中部地域	令和8年4月1日	令和14年3月31日	

〇介護予防支援

該当事業所なし

地域密着型サービス事業所の廃止状況一覧（令和8年4月1日現在）

11月2日～4月1日

該当事業所なし

地域密着型サービス事業所の指定状況一覧（令和8年4月1日現在）

○定期巡回・随時対応型訪問介護看護

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	(社福)寺田萬寿会	定期巡回・随時対応訪問ケア　まんじゅ	※	南上町一丁目48番5号	都市中核地域	平成25年4月12日	令和13年4月11日	
2	(社福)寺田萬寿会	定期巡回・随時対応訪問ケア萬寿園	※	尾生町808番地	岸和田中部地域	令和5年4月1日	令和11年3月31日	

○夜間対応型訪問介護

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	(社福)寺田萬寿会	夜間対応型訪問介護　ナイトヘルパー萬寿園	※	尾生町808番地	岸和田中部地域	平成19年3月1日	令和13年2月28日	

○認知症対応型通所介護（介護予防認知症対応型通所介護）

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	(社福)寺田萬寿会	特別養護老人ホーム　萬寿園	24名	尾生町808番地	岸和田中部地域	平成18年4月1日	令和14年3月31日	2単位
2	(社福)寺田萬寿会	まんじゅ　デイサービスセンター	20名	南上町二丁目5番6号	都市中核地域	平成19年10月1日	令和13年9月30日	2単位
3	(社医)慈薫会	社会医療法人慈薫会認知症対応型通所介護大阪緑ヶ丘	6名	神須屋町662番地の2	葛城の谷地域	平成27年6月1日	令和9年5月31日	2単位

○地域密着型通所介護

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	社会福祉法人光生会	ピープルデイサービスセンターきしわだ	15名	尾生町2130番地4	岸和田中部地域	平成28年4月1日	令和14年3月31日	
2	株式会社グリーマリン	デイサービス　グリースマイル2号館	18名	沼町18－1	都市中核地域	平成28年4月1日	令和12年8月31日	R7.11.6～休止中
3	久米田池庵株式会社	元気でレッツゴー久米田池	13名	岡山町527番地の2	牛滝の谷地域	平成28年4月1日	令和13年4月30日	
4	医療法人大植医院	医療法人大植医院芙蓉メディカルサポート	10名	大町367番地	久米田地域	平成28年4月1日	令和10年2月29日	
5	株式会社凛花苑	デイサービスセンター凛花苑	10名	下野町一丁目11番23号	都市中核地域	平成28年4月1日	令和10年10月31日	
6	特定非営利活動法人クオリティー・オブ・ライフ	中央デイサービス	18名	藤井町二丁目5番34号	都市中核地域	平成28年4月1日	令和11年8月31日	

地域密着型サービス事業所の指定状況一覧（令和8年4月1日現在）

○地域密着型通所介護

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
7	株式会社ライフパートナー	アムールデイサービス岸和田	15名	池尻町686番地の7	久米田地域	平成28年4月1日	令和11年9月30日	
8	株式会社アキコーポレーション	樹楽団らんの家東岸和田	15名	土生町62番地の1	葛城の谷地域	平成28年4月1日	令和11年10月31日	
9	株式会社ヤマシタ	デイサービスときわ	15名	上松町1丁目7番1号	岸和田中部地域	平成28年4月1日	令和12年6月30日	
10	株式会社そうせい介護支援事業所	そうせいデイ春木	10名	春木本町9番15号	岸和田北部地域	平成28年4月1日	令和12年10月31日	
11	有限会社妙薫	すいめい介護支援センター	8名	三田町93番地の2	牛滝の谷地域	平成28年4月1日	令和8年11月30日	
12	株式会社グリーン介護サービス	デイサービス　グリーン	18名	荒木町一丁目8番3号	岸和田北部地域	平成28年4月1日	令和13年9月30日	
13	ウエルネスネット株式会社	アルケルデイサービス	7名	土生町309番地	葛城の谷地域	平成28年4月1日	令和13年11月30日	
14	株式会社結屋	結屋岸和田デイセンター	10名	作才町1181番地	葛城の谷地域	平成28年4月1日	令和8年9月30日	
15	有限会社結い	デイサービス　ゆいの集い	16名	西之内町10番2号	都市中核地域	平成28年4月1日	令和9年2月28日	
16	有限会社　マエダケアサービス	ソラーレ	10名	別所町1－19－13	都市中核地域	平成28年4月1日	令和9年4月30日	
17	ライジングサン株式会社	デイサービス花りぼん	15名	宮前町10－14	都市中核地域	平成28年4月1日	令和9年11月30日	
18	久米田池庵株式会社	元気でレッツゴー	15名	大北町6番5号	都市中核地域	平成28年8月1日	令和10年7月31日	
19	株式会社ピア	OKハウス	8名	小松里町2065番地 コマツビル105号	久米田地域	平成28年10月1日	令和10年9月30日	
20	株式会社ピア	OKハウス友	9名	小松里町2064番地 MKビル101号	久米田地域	平成28年10月1日	令和10年9月30日	

地域密着型サービス事業所の指定状況一覧（令和8年4月1日現在）

○地域密着型通所介護

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
21	株式会社ケアステーションさくら	白ゆりデイサービス岸和田	5名	極楽寺町182番地の9	葛城の谷地域	平成29年4月1日	令和11年3月31日	
22	アプリコットマネジメント株式会社	デイサービスセンター和み家	18名	畑町三丁目14番11号	葛城の谷地域	平成29年5月1日	令和11年4月30日	
23	ALLAGI株式会社	デイサービスきたえる一む岸和田下松	18名	下松町一丁目13番7号	岸和田中部地域	平成29年7月1日	令和11年6月30日	
24	特定非営利活動法人よりあい倶楽部	よりあいデイサービス　あおぞら	15名	磯上町五丁目19番14号	岸和田北部地域	平成29年8月1日	令和11年7月31日	
25	株式会社介護NEXT	GENKINEXT岸和田下松	10名	下松町三丁目5番52号	岸和田中部地域	平成29年10月1日	令和11年9月30日	
26	株式会社貴陽	ハツラツ倶楽部　みんなのふるさと	14名	三田町117番地の1	牛滝の谷地域	平成30年3月1日	令和12年2月28日	
27	社会福祉法人岸和田市社会福祉協議会	デイサービスセンターほっと久米田	10名	下池田町2丁目1番15号	久米田地域	平成30年8月1日	令和12年7月31日	
28	株式会社ユウリック	デイサービス1（ワン）	10名	宮本町20番3	都市中核地域	平成31年4月1日	令和13年3月31日	
29	株式会社サニーオーク	デイサービス　ティエール・岸和田	13名	荒木町1丁目18番3号	岸和田北部地域	令和2年3月1日	令和14年2月28日	
30	医療法人利田会	医療法人利田会　デイサービスセンターうらら	15名	尾生町2979番地4	岸和田中部地域	令和2年7月1日	令和8年6月30日	
31	合同会社FEED	デイサービス　ゆうび	10名	岡山町80－3	牛滝の谷地域	令和2年10月1日	令和8年9月30日	
32	有限会社文左ヱ門商店	ポシブル岸和田	14名	土生町2丁目30－39	葛城の谷地域	令和3年5月1日	令和9年4月30日	
33	有限会社エスオニオン	いきいきフィット	10名	岡山町355番地の1	牛滝の谷地域	令和元年10月1日	令和13年9月30日	
34	合同会社あすなろ	デイサービスセンター　あすなろ	18名	畑町四丁目3番1号	葛城の谷地域	令和3年12月1日	令和9年11月30日	
35	株式会社山下社中	デイサービスいろは	10名	春木本町13番8号	岸和田北部地域	令和4年9月1日	令和10年8月31日	
36	株式会社上野商店	デイサービス愛の実	9名	下野町五丁目11番4号	都市中核地域	令和5年4月1日	令和11年3月31日	
37	株式会社TAC	デイサービストップ	18名	岡山町452番地の1	牛滝の谷地域	令和6年10月1日	令和12年9月30日	
38	株式会社遊友	フレンドハウス遊友	10名	堺町3番16号	都市中核地域	令和7年1月1日	令和12年12月31日	
39	株式会社ハピネスプラス	ハピネス	10名	上松町三丁目7番30号	岸和田中部地域	令和7年4月1日	令和13年3月31日	
40	株式会社うるま	デイサービス笑場	13名	摩湯町726番地の4	牛滝の谷地域	令和7年6月1日	令和13年5月31日	R7．12.1～休止中
41	株式会社Link	Re;Life	10名	宮前町24番5号	都市中核地域	令和7年8月1日	令和13年7月31日	
42	有限会社メディカル・サポート・ツエンティーワン	MS21デイサービス	10名	上松町776番地の4	岸和田中部地域	令和8年4月1日	令和14年3月31日	

地域密着型サービス事業所の指定状況一覧（令和8年4月1日現在）

○小規模多機能型居宅介護（介護予防小規模多機能型居宅介護）

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	(有)マエダケアサービス	マエダケアフラット	12名	別所町一丁目19－13	都市中核地域	平成19年4月1日	令和13年3月31日	(通所6名宿泊2名)
2	(社福)寺田萬寿会	居宅介護　まんじゅ	25名	南上町一丁目48番5号	都市中核地域	平成19年10月1日	令和13年9月30日	(通所15名宿泊5名)
3	(株)生活支援センター・ひまわり	介護多機能型施設　つばらつばら	18名	大町448番地の5	久米田地域	平成19年10月1日	令和13年9月30日	(通所12名宿泊6名)
4	(株)そよかぜ	さくらの苑　内畑	25名	内畑町541番地　石谷マンション	牛滝の谷地域	平成20年1月1日	令和13年12月31日	(通所15名宿泊5名)
5	株式会社ヘリアントス	KumeLab(クメラボ)	25名	荒木町2－19－4	岸和田北部地域	令和3年5月1日	令和9年4月30日	(通所15名宿泊6名)

○認知症対応型共同生活介護（介護予防認知症対応型共同生活介護）

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	(社福)高陽会	グループホーム凪の里	18名	中井町三丁目2番27号	岸和田北部地域	平成19年5月1日	令和13年4月30日	
2	(社福)寺田萬寿会	グループホームまんじゅ	18名	南上町二丁目5番6号	都市中核地域	平成19年10月1日	令和13年9月30日	
3	(社福)嘉舟会	グループホームいなば	9名	稲葉町1066番地	牛滝の谷地域	平成18年4月1日	令和13年3月31日	
4	(社医)慈薫会	グループホーム大阪緑ヶ丘	18名	神須屋町662番地の2	葛城の谷地域	平成18年4月1日	令和8年5月31日	
5	(医)徳洲会	医療法人徳洲会　グループホーム三田	9名	三田町134番地	牛滝の谷地域	平成18年4月1日	令和8年5月31日	
6	(有)清寿会	グループホーム正寿苑	18名	稲葉町2552番地の2	牛滝の谷地域	平成18年4月1日	令和8年8月31日	
7	(医)利田会	グループホームやすらぎ	9名	尾生町2980番地の1	岸和田中部地域	平成18年4月1日	令和9年4月30日	
8	(株)ライフパートナー	グループホーム　アムール岸和田	18名	池尻町686番地の7	久米田地域	平成23年3月1日	令和11年2月28日	

○地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
1	(社福)和秀会	岸和田北特別養護老人ホーム	29名	磯上町三丁目3番13号	岸和田北部地域	平成26年4月1日	令和14年3月31日	
2	(社福)和成会	社会福祉法人和成会ひまわりの郷	29名	小松里町938番地の2	久米田地域	平成26年4月1日	令和14年3月31日	
3	(社福)レーベンダンク	特別養護老人ホーム　岸和田天神山荘	29名	流木町337－7	葛城の谷地域	平成27年2月1日	令和9年1月31日	

地域密着型サービス事業所の指定状況一覧（令和8年4月1日現在）

○介護予防支援

	法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生　活　圏　域	指定年月日	有効期間満了日
1	(社福)岸和田市社会福祉協議会	岸和田市地域包括支援センター社協	※	野田町1丁目5番5号	都市中核（浜、城内を除く）	平成18年4月1日	令和12年3月31日
2	(社福)寺田萬寿会	岸和田市地域包括支援センター萬寿園中部	※	尾生町808番地	岸和田中部地域、都市中核（浜、城内）	平成20年6月1日	令和8年5月31日
3	(社福)嘉舟会	岸和田市地域包括支援センターいなば荘牛滝の谷	※	稲葉町1066番地	牛滝の谷地域	平成20年6月1日	令和8年5月31日
4	(社福)嘉舟会	岸和田市地域包括支援センターいなば荘北部	※	荒木町2丁目21番59号	岸和田北部地域	平成25年10月1日	令和13年9月30日
5	(社福)寺田萬寿会	岸和田市地域包括支援センター萬寿園葛城の谷	※	土生町二丁目30番12号 泉洋ビル3F　302号	葛城の谷地域	平成25年10月1日	令和13年9月30日
6	(社福)岸和田市社会福祉協議会	岸和田市地域包括支援センター社協久米田	※	下池田町2丁目1番15号	久米田地域	平成25年10月1日	令和13年9月30日
7	株式会社山下社中	ケアプランいろは	※	岸和田市春木本町13番8号	岸和田北部地域	令和6年4月1日	令和12年3月31日
8	特定非営利活動法人大阪南高齢者福祉サポートアドバイスプロ	ケアセンターSAP	※	岸和田市宮本町40番12号	都市中核地域	令和6年4月1日	令和12年3月31日
9	社会福祉法人嘉舟会	いなば荘居宅介護支援事業所	※	岸和田市稲葉町1066番地	牛滝の谷地域	令和6年4月1日	令和12年3月31日
10	株式会社KIHプロダクト	ばらの木	※	岸和田市作才町一丁目6番6号	葛城の谷地域	令和6年4月1日	令和12年3月31日
11	株式会社貴陽	きぼうの輪	※	岸和田市三田町117番地の1	牛滝の谷地域	令和6年6月1日	令和12年5月31日
12	株式会社文衛門	ケアプランセンターつじい	※	尾生町三丁目3番50号	岸和田中部地域、都市中核（浜、城内）	令和7年6月1日	令和13年5月31日
13	株式会社萃聚会	ケアプランセンター　すいじゅの杜	※	作才町一丁目6番6号	葛城の谷地域	令和7年8月1日	令和13年7月31日

1	医療法人社団EMIFULL	ケアプランセンターさつき通り	※	泉北郡忠岡町忠岡東一丁目15番31－301号		令和6年9月1日	令和12年8月31日

資料5－1

令和８年度

地域密着型サービス整備に係る事業者募集要項

〔看護小規模多機能型居宅介護〕

令和８年６月

岸和田市福祉部介護保険課

１　募集の目的

岸和田市では、高齢者福祉計画・第９期介護保険事業計画に基づき、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、地域密着型サービスの基盤整備を進めています。第９期（令和６年～８年度）の整備計画においては、看護小規模多機能型居宅介護の整備を予定しており、今回の募集は、上記計画に基づく施設整備を行う事業所の募集を行うものです。

２　募集事業所

看護小規模多機能型居宅介護　１事業所

３　事業開始

令和８年度末までに事業開始をすること。

※天災その他避けることのできない事故、その他特段の事情がある場合はこの限りではない。

４　募集対象の日常生活圏域

市内全域（日常生活圏域の指定はしない）

５　応募要件

応募には、次の（１）～（５）の要件をすべて満たすこと。

（１）応募資格

①　法人格を有している運営事業者であること。

②　本事業の実施に必要な人員及び設備等を確保するとともに、本事業の開始当初から安定したサービスを提供することができる体制を整備するための十分な能力及び経験を有していること。

③　法人及び代表者、役員（就任予定者を含む）等が、介護保険法（平成９年法律第 123 号）第 78 条の２第４項各号（地域密着型サービス事業者指定）の規定に該当しないこと。

④　「岸和田市指定地域密着型サービス事業者の指定に関する基準並びに指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例（平成 25 年条例第８号)」の指定基準を満たし、本事業の指定をうけることができること。

⑤　法人及び代表者、役員（就任予定を含む）等が、岸和田市暴力団排除条例（平成 25 年条例第 35 号）第２条第１号、第２号及び第３号のいずれにも該当しないこと。

⑥　国税（法人税並びに消費税及び地方消費税）及び岸和田市税の滞納がないこと。（納めるべき岸和田市税が無い場合は、滞納が無いものとみなす。）

（２）関係法令等の遵守

①　社会福祉関係

・社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）

②　老人福祉法関係、老人福祉施設の設置

・老人福祉法（昭和 38 年法律第 133 号）

③　介護保険関係、介護事業者の指定

・介護保険法（平成９年法律第 123 号）

④　諸法令関係

・建築基準法（昭和 25 年法律第 201 号）

・都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）

・消防法（昭和 23 年法律 186 号）

・宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和 36 年法律第 191 号）

・労働基準法（昭和 22 年法律第 49 号）

・暴力団による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第 77 号）

・岸和田市暴力団排除条例（平成 25 年条例第 35 号）

・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成 18 年法律第 91 号）

・大阪府福祉のまちづくり条例（平成４年大阪府条例第 36 号）

（３）建設用地・建物

①　事業を実施するにあたり、事業所物件を確実に確保できる見込みのあるものとすること。

②　法令等に基づく規制解除や開発許可等が見込まれる土地であって、事業所の建設及び用途に支障がないようにすること。

※市街化調整区域の場合、開発行為や建築等行為が制限されているため、開発許可担当部局からの許可が見込まれるものに限る。

（用途地域等の確認は本市都市計画課へ、開発許可等及び市街化調整区域に関することは本市建設指導課へ確認のこと）

③　事業実施に必要な土地及び建物を借用し、事業を開始する場合は、（事業の存続に必要な）賃借期間及び額が記載された契約書や確約書等により、土地及び建物の確保を確認できるようにすること。

（４）地域密着型サービスは住み慣れた地域での生活を支えるためのサービスであり、地域に広くサービスを提供する観点から有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅との併設であっても、いわゆる囲い込み型のサービス提供とならない運営をすること。

（５）その他、関係省令・解釈通知などの内容を十分に理解・確認のうえ、申請を行うこと。

６　地域住民への説明

事業運営にあたり、地域住民等との連携及び協力を行う等、地域との交流を図ること。設置が義務付けられている「運営推進会議」の委員に地域住民の代表者が含まれていることから、地域との交流が不可欠となるため、事前に地域住民への説明を行うこと。なお、説明にあたっては、「岸和田市の地域密着型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）事業所の公募に応募するための事前説明であり、現時点では整備が確定したものではない。」旨、十分周知を行うこと。

７　補助金・交付金等

当該事業所整備については、「大阪府地域医療介護総合確保基金」を活用して行う補助事業の対象となります。

ただし、補助金については、府の予算の範囲内で審査・採択されるため、必ずしも交付されるものではありません。また、岸和田市単独の補助もありませんので、補助金が不採択となった場合等も念頭に置き、十分に対応できる場合に限り応募してください。

本補助を受けて事業所整備を行う場合の留意事項は下記のとおりです。

① 10 年以上継続して事業を実施できること。
② 補助金交付決定前に着手した場合には交付対象外となります。
③ 事業候補者以外が主体となり実施する事業は交付対象外となります。
④ 本事業により事業候補者に決定された場合でも、補助金の交付に係る手続き等は別途必要になります。
⑤ 工事請負業者等の選定は、市の手続きに準じた事業者主催による競争入札により決定することが必要になります。
⑥ 指定基準・運営基準等を満たさず地域密着型サービス事業所の指定が受けられない場合には、補助金は交付しません。
⑦ 補助金は、補助金の確定通知後（工事竣工後、検査終了後）の支払いを予定しています。
⑧ 災害レッドゾーン（都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 33 条第 1 項第８号）及び災害イエローゾーン（注１）における整備は、事業所等整備補助金の対象外となります。必ず事前にご相談ください。
⑨ その他、市長が定める事項を遵守する必要があります。

<参考> 補助金の概要(令和７年度) ※令和８年度は未定です。

事業所等整備補助金(限度額)： 41,500 千円／1 施設
（ただし空き家を活用した整備（限度額)：11,000 千円／１施設）
開設準備等経費(限度額)： 1,036 千円×宿泊定員数

＜注１＞災害イエローゾーンとは、次のいずれかに該当する区域とする。
ａ 土砂災害警戒区域
土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成 12 年法律第 57 号）第７条第 1 項の土砂災害警戒区域
ｂ 浸水想定区域等
浸水想定区域等に該当する区域は、次の区域とする。
（ａ）水防法（昭和 24 年法律第 193 号）第 14 条第 1 項又は第２項の洪水浸水想定区域、同法第 14 条の２第 1 項又は第２項の雨水出水浸水想定区域、同法第 14 条の３第 1 項の高潮浸水想定区域
（ｂ）津波防災地域づくりに関する法律（平成 23 年法律第 123 号）第 10 条第３項第２号の津波浸水想定に定める浸水の区域、同法第 53 条第 1 項の津波災害警戒区域
（ｃ）特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律（令和 3 年法律第 31 号）による改正前の特定都市河川浸水被害対策法（平成 15 年法律第 77 号）第 32 条第 1 項の都市洪水想定区域、同法第 32 条第２項の都市浸水想定区域

補助金を活用される場合は、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」等に基づき、処分制限期間を経過する前に事業の廃止、譲渡、抵当権の設定 等の財産処分を行うことのないようにしてください。 処分制限期間を経過する前に、補助財産を処分する場合には、

市長の事前の承認と、原則として補助金の一括返還が必要となります。

また、市長の承認を受けた後、財産を処分することにより収入を得た場合は、その収入の全部又は一部を、市に納付する必要があります。

８　募集要項の配付

令和８年度地域密着型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）整備に係る事業者募集要項は、令和８年６月２日（火）から令和８年６月15日（月）まで、岸和田市ホームページの介護保険課からダウンロードできます。

※　岸和田市ホームページ　https://www.city.kishiwada.lg.jp/

紙面での配布を希望する場合は、岸和田市福祉部介護保険課へご連絡ください。

電話番号　072-423-9474（介護保険課直通）

（午前９時から午後５時30分まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く）

９　応募手続き

応募希望事業者は、次のとおり公募申請書類を提出してください。

（１）事前協議申請書

全応募者に対し、事前協議を実施しますので、**必ず事前協議申請書を提出してください。**

①　受付期間

令和８年６月２日（火）から令和８年６月15日（月）まで

ただし、土・日曜日・祝日を除く。

②　受付時間

午前９時から午後５時30分まで

③　提出書類

「事前協議申請書」（様式１－１）

④　提出方法

直接、岸和田市福祉部介護保険課（岸和田市役所本館１階）へ持参。

なお、**事前に電話にて予約をお願いします。**

電話番号　072－423－9474（介護保険課直通）

（午前９時から午後５時30分まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く）

（２）質問の提出

募集要項等に関する質問受付および回答は、次のとおり行います。

①　質問方法

質問の内容を簡潔にまとめて、質問書（様式９）に記入の上、E-mailにより提出。

電話等による質問は、原則として受付けません。

②　受付期間

令和８年６月２日（火）から令和８年６月15日（月）まで

③　送付先

岸和田市福祉部介護保険課（E-mail）kaigo@city.kishiwada.lg.jp

④　質問の回答

令和８年６月 22 日（月）午後５時までに E-mail により、原則、すべての応募事業者へ回答します。

（３）本申請

本申請は、事前協議申請書を提出していない場合は受付しません。

① 受付期間

令和８年６月 23 日（火）から令和８年７月 23 日（木）まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く。

② 受付時間

午前９時から午後５時 30 分まで

③ 提出書類

「公募申請に必要な書類一覧表」のうち、「事前協議申請書」（様式１－１）を除く書類。

④ 提出方法

申請に係る書類は、原則として、Ａ４版（縦位置・横書き）に統一し、７部（正本１部、副本６部）を提出すること。「公募申請に必要な書類一覧表」（P７参照）の番号順にファイル等に綴り、書類番号のインデックスをつけること。契約関係書類等の写しを提出する際には、原本証明をすること。

例）

この写しは原本と相違ありません。 令和　　年　　月　　日 法人名〇〇〇〇 代表者職氏名　△　△　△　△　印（法人登記の印）

⑤ 留意事項

・提出された書類は、理由の如何を問わず返却いたしません。また、受付後は、応募書類の差替えはできません。ただし、本市が必要と判断した場合は、本市から追加資料の提出等を求めることがあります。

・受付後に、事業者側の事情により応募を取り下げる場合は、辞退届（様式 10）を提出すること。

・応募にかかる費用は、すべて応募者の負担になります。また、応募書類は返却しません。

・本整備事業者選定は、介護保険法上の指定を確約するものではありません。

・提出書類は、個人情報や法人固有の情報が記載された不開示部分を除き、公文書開示請求の対象となります。

10　整備事業者の選定

（１）事前協議

令和８年７月 24 日（金）から令和８年７月 31 日（金）までの指定する日時で、事務局より申請書類の調査を行い、必要があればヒアリングを実施します。

（２）プレゼンテーション審査

岸和田市地域密着型サービス整備運営事業受託候補者選考委員会にて、応募者からの

プレゼンテーションを実施します。日程は、令和８年８月中旬を予定。

（３）整備事業者の選定

選定については、岸和田市地域密着型サービス等運営委員会で定めた選考評価基準（別紙）に基づき、岸和田市特別養護老人ホーム等整備運営事業受託候補者選考委員会の審査により選考し、令和８年９月開催予定の岸和田市介護保険事業運営等協議会で決定します。

（４）選定結果の通知及び公表

選定後、「選定結果通知」を全ての応募者に通知します。また、選定された事業者名等を市ホームページで公表します。

※　選定後は速やかに広域事業者指導課に連絡を行い、指定申請のスケジュールを確認しておくこと

11　公募事業者の失格、応募の辞退、選定の取消しについて

（１）申請書等書類の提出期限後、次に該当する場合は失格とします。

①　応募要件を満たさない場合

②　応募事業者が提出した応募書類に虚偽その他不正があった場合

③　重大な事項（設置場所等）に変更があった場合

④　応募事業者又は当該応募事業者の整備事業に関わる設計会社及び建設会社等（工事請負契約入札参加予定者含む）が整備事業者の選定が有利になるよう、審査会委員又は整備事業者の選定事務に係る本市職員に接触する等、市民の疑惑や不信を招くような行為をしたと市長が認める場合

（２）応募書類の提出後、やむを得ない事情により取下げざるを得ない場合は、市長あて取下願（様式任意）を提出してください。また、整備事業者として選定された後、辞退することは本市施設整備計画全体に多大な支障を来すことになります。その影響を十分に認識した上で、確実に事業が実施できる見込みをもって応募してください。整備事業者として選定された後の辞退により、本市が今後実施する介護保険施設等整備事業者の募集に対する応募を受け付けできない場合があります。

（３）選定の取消しについては、以下のとおりとします。

①　整備事業者が応募書類に記載した内容を遵守しない場合及び施設整備に必要な開発許可又は、建築許可が得られない場合は、選定の取消しをすることがあります。ただし、整備事業者として選定後の整備計画の変更は、原則認められませんが、利用者サービスの向上につながるものや、事業所の実施設計に伴う等やむを得ないもので審査結果に影響を与えないもののみ、本市と協議の上、認める事ができる事とします。

②　応募書類に記載した内容を遵守しないことにより、整備事業者の選定が取消し等となった場合、この取消し等による損害及び費用負担等について本市は一切の補償等はしません。

12　日程

募集および事業者選定の日程（予定）は以下のとおりです。

令和８年６月２日（火）～ 令和８年６月 15 日（月）	募集要項配付期間 市ホームページからダウンロード可
令和８年６月２日（火）～ 令和８年６月 15 日（月）	事前協議申請受付期間
令和８年６月２日（火）～ 令和８年６月 15 日（月）	募集要項等に関する質問の受付期間 （事前協議申請書を提出しないと質問できない）
令和８年６月 22 日（月）	質問に対する回答日
令和８年６月 23 日（火）～ 令和８年７月 23 日（木）	本申請受付期間
令和８年７月 24 日（金）～ 令和８年７月 31 日（金）	事前協議期間（指定日） （応募書類の提出、調査・ヒアリング）
令和８年８月中旬	選考委員会でのプレゼンテーション審査（注）・選考
令和８年９月下旬	事業者の決定
令和８年 10 月上旬	事業者の通知・公表

※　現時点での予定であり、今後変更になる場合があります。

（注）プレゼンテーション審査の方法は以下のとおりです。

１．応募事業者の代表者（３名以内）によるプレゼンテーション

２．１応募事業者当たりの説明時間は 20 分以内

３．応募事業者から委託された事業者によるプレゼンテーションは認めません。

４．他の応募事業者のプレゼンテーションの内容を知る事は出来ません。

５．プレゼンテーション内容の主な説明事項は下記のとおり

①経営理念・事業実績

②職員勤務体制・採用・研修

③安全管理・苦情処理の体制

④地域・医療機関との連携

⑤利用者への配慮

⑥施設用地・面積

⑦防災・感染症対策

６．プレゼンテーション終了後、質疑を行います。

７．プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う場合、パソコン及び USB でバックアップ用データを用意してください。

８．選考評価基準、審査項目、配点は別紙のとおり

◆事前協議に必要な書類一覧表

	提出書類	様式等	備考
事前協議応募に必要な書類			
□	事前協議申請書	様式１－１	事前協議応募の時に提出
本申請に必要な書類			
□	申請書	様式１－２	
□	定款	（任意）	最新のもの
□	法人に係る登記事項証明書（全部事項証明）		３か月以内に発行されたもの
□	決算書の写し（直近３か年）	（任意）	他業を営んでいる場合、親会社がある場合等についてはそれらに関する同様の決算書
□	当該用地及び建物の（不動産に係る）登記事項証明書（全部事項証明）		・３か月以内に発行されたもの ・購入、賃貸借の場合は契約書の写しか確約書（賃貸借の場合は賃借期間及び額を明記すること）
□	納税証明書（最新年度分） 「法人税」及び「消費税及地方消費税」の納税証明書（その３の３）	所管の税務署	・３か月以内に発行されたもの ・納税義務がない場合は、納税義務がない旨の申立書（様式 11）
□	法人の完納証明書	本市市民税課	
□	施設整備図面	（任意）	配置図・平面図（Ａ３用紙）
□	現況写真・位置図	（任意）	・道路側から撮影したもの ・近隣の住宅地図
□	誓約書	様式２	
□	事業計画書（法人の概要及び実績）	様式３－１	
□	事業計画書（運営方針）	様式３－２	
□	経歴書	様式４	代表者・管理者・介護支援専門員（予定者）
□	設置予定内容について	様式５	
□	設備・備品等の概要	様式６	
□	運営推進会議の構成員	様式７	
□	法人概要	様式８－１	
□	役員名簿	様式８－２	
□	代表者履歴書	様式８－３	
□	質問書	様式９	
□	辞退届	様式 10	

【注意事項（申請書類）】

１　提出書類は、原則としてＡ４で作成（図面等はＡ３をＡ４縦型に折り綴じること）。

２　Ａ４判フラットファイルに綴じて提出。提出部数は正本１部、副本６部。
　　副本は正本をコピーしたもので可。

３　上記書類のほか、必要に応じ、書類の提出を依頼することがある。

（別紙）

看護小規模多機能型居宅介護選考評価基準

項目	評価内容	配点
基本的事項	法人の運営理念・実績	20
	介護保険事業の実績	
	法人の経営状況	
	法人代表者の実績	
運営に関する事項	運営理念と本市介護保険事業計画との整合性	70
	地域密着型サービスへの理解について	
	管理者の経験等	
	介護支援専門員の経験等	
	緊急時の対応	
	事故防止・発生時の対応	
	自然災害及び感染症対策	
	苦情処理の体制	
	勤務体制の確保、職員の育成	
	医療機関との連携（協力医療機関等）	
	地域との連携（運営推進会議等）	
	利用者等の人権・尊厳に対する考え方や取組み	
	ターミナルケアについて	
	進行性の難病者のケアについて	
事業所の状況	事業所の用地、建物の確保の状況	10
	事業所の立地条件、駐車スペースの確保	
合　　計		100

○　法人・施設の実績は令和８年６月１日時点とする。

○　60 点以上でかつ最高得点の法人を受託候補者とする。

○　最高得点者が同点の場合は選考委員会の合議により、順位を決定する。

資料5－2

令和８年度

特定施設入居者生活介護サービス、介護予防特定施設入居者生活介護事業者募集要項

令和８年６月

岸和田市福祉部介護保険課

１　募集の目的

岸和田市では、高齢者福祉計画・第９期介護保険事業計画に基づき、特定施設入居者生活介護、介護予防特定施設入居者生活介護の実施事業者を募集します。

２　募集の内容

（１）サービスの種類

混合型特定施設入居者生活介護（介護予防特定施設入居者生活介護を含む）

※既存の「住宅型有料老人ホーム」又は「サービス付き高齢者向け住宅」からの転換に限る。施設の新設や増築又は建て替えに伴う定員増の計画は対象外。

（２）募集施設等の要件

令和８年４月１日時点で開設している、以下のいずれかに該当している施設等

①　老人福祉法（昭和 38 年法律第 133 号）第 29 条第１項に規定する有料老人ホームに該当し、同項の規定により届出を行っており、「岸和田市有料老人ホーム設置運営指導指針」に適合している施設。

②　高齢者の居住の安定確保に関する法律（平成 13 年法律第 26 号）第７条第１項に規定するサービス付き高齢者向け住宅の登録を受けている住宅。

※市街化調整区域の場合、開発行為や建築等行為が制限されているため、事前に建設指導課へ確認すること。

（３）サービス提供形態

一般型又は外部サービス利用型のどちらも可。

（４）募集数

40 床以内。ただし、１施設当り 30 床以上で、その全ての床を転換すること。応募は１法人につき１施設とする。

３　事業開始

令和９年４月

※天災その他避けることのできない事故、その他特段の事情がある場合はこの限りではない。

４　整備地域

市内全域（日常生活圏域の指定はしない）

５　応募要件

応募には、次の（１）～（２）の要件をすべて満たすこと。

（１）応募資格

①　法人格を有している運営事業者であること。

②　本事業の実施に必要な人員及び設備等を確保するとともに、本事業の開始当初から安定したサービスを提供することができる体制を整備するための十分な能力及び経験を有していること。

③ 法人及び代表者、役員（就任予定者を含む）等が、介護保険法（平成９年法律第123号）第70条第２項各号（指定居宅サービス事業者の指定）及び第115条の２第２項（指定介護予防サービス事業者の指定）の規定に該当しないこと。

④ 「大阪府指定居宅サービス事業者の指定並びに指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例（平成24年大阪府条例第115号)」及び「大阪府指定介護予防サービス事業者の指定並びに指定介護予防サービス等の事業の人員、設備及び運営並びに指定介護予防サービス等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例（平成24年大阪府条例第116号)」の指定基準を満たし、本事業の指定をうけることができること。

⑤ 法人及び代表者、役員（就任予定者を含む）等が、岸和田市暴力団排除条例(平成25年条例第35号)第２条第１号、第２号及び第３号のいずれにも該当しないこと。

⑥ 国税（法人税並びに消費税及び地方消費税）及び岸和田市税の滞納がないこと。（納めるべき岸和田市税が無い場合は、滞納が無いものとみなす。）

（２）関係法令等の遵守

① 社会福祉関係

・社会福祉法（昭和26年法律第45号）

② 老人福祉法関係、老人福祉施設の設置

・老人福祉法（昭和38年法律第133号）

③ 介護保険関係、介護事業者の指定

・介護保険法（平成９年法律第123号）

④ 諸法令関係

・建築基準法（昭和25年法律第201号）
・都市計画法（昭和43年法律第100号）
・宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和36年法律第191号）
・消防法（昭和23年法律186号）
・労働基準法（昭和22年法律第49号）
・暴力団による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第77号）
・岸和田市暴力団排除条例（平成25年条例第35号）

６ 地域住民との関係

事業運営にあたり、地域住民等との連携及び協力を行う等、地域との交流を図ること。

７ 補助金・交付金等

本件の実施に係る補助金・交付金等はありません。

８ 募集要項の配付

令和８年度特定施設入居者生活介護サービス、介護予防特定施設入居者生活介護に係る事業者募集要項は、令和８年６月２日（火）から令和８年６月15日（月）まで、岸和田市

ホームページの介護保険課からダウンロードできます。

※　岸和田市ホームページ　https://www.city.kishiwada.lg.jp/

なお、紙面での配布を希望する場合は、岸和田市福祉部介護保険課へご連絡ください。

電話番号　072－423－9474（介護保険課直通）

（午前９時から午後５時30分まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く）

９　応募手続き

応募希望事業者は、次のとおり公募申請書類を提出してください。

（１）事前協議申請

本公募では、全応募者に対し、事前協議を実施しますので、必ず事前協議申請書を提出してください。

①　受付期間

令和８年６月２日（火）から令和８年６月15日（月）まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く。

②　受付時間

午前９時から午後５時30分まで

③　提出書類

「事前協議申請書」（様式１－１）

④　提出方法

直接、岸和田市福祉部介護保険課（岸和田市役所本館１階）へ持参。

なお、**事前に電話にて予約をお願いします。**　電話番号　072－423－9474（直通）

（午前９時から午後５時30分まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く）

（２）質問の提出

①　質問方法

質問の内容を簡潔にまとめて、質問書（様式９）に記入の上、E-mail により提出。電話等による質問は、原則として受付けません。

②　受付期間

令和８年６月２日（火）から令和８年６月15日（月）まで

③　送付先

岸和田市福祉部介護保険課

（E-mail）kaigo@city.kishiwada.lg.jp

④　質問の回答

令和８年６月22日（月）午後５時までにE-mailにより、原則、すべての応募事業者へ回答します。

（３）本申請

本申請は、事前協議申請書を提出していない場合は受付しません。

①　受付期間

令和８年６月23日（火）から令和８年７月23日（木）まで。ただし、土・日曜日・祝日を除く。

② 受付時間

午前９時から午後５時 30 分まで

③ 提出書類

「公募申請に必要な書類一覧表」のうち、「事前協議申請書」（様式１－１）を除く書類。

④ 提出方法

書類は、原則Ａ４版（縦位置・横書き）に統一し、部数７部（正本１部、副本６部）を提出。「公募申請に必要な書類一覧表」（Ｐ６参照）の番号順にファイル等に綴り、書類番号のインデックスをつけること。契約関係書類等の写しを提出する際には、代表者名で原本証明をすること。

例）

この写しは原本と相違ありません。 令和　　年　　月　　日 社会福祉法人　　○　○　○　○ 理事長　△　△　△　△　実印

この写しは原本と相違ありません。 令和　　年　　月　　日 社会福祉法人　○○　設立準備委員会 設立代表者　△　△　△　△　実印

⑤ 留意事項

・提出された書類は、理由の如何を問わず返却いたしません。また、受付後は本申請書類の差替えはできません。ただし、本市が必要と判断した場合は、本市から追加資料の提出等を求めることがあります。

・受付後に事業者側の事情により応募を取り下げる場合は、辞退届（様式 10）を提出すること。

・応募にかかる費用は、すべて応募者の負担になります。また、応募書類は返却しません。

・本事業者の選定は、介護保険法上の指定を確約するものではありません。

・提出書類は、個人情報や法人固有の情報が記載された不開示部分を除き、公文書開示請求の対象となります。

10　事業者の選定

（１）　事前協議審査

事務局で、提出された事前協議申請書の審査を行い、必要があればヒアリングを実施します。

（２）実施事業者の選定

実施事業者の選定について、募集数以上の応募があった場合は、岸和田市介護保険事業運営等協議会で定めた評価基準（別紙）に基づき、岸和田市特別養護老人ホーム等整備運営事業受託候補者選考委員会の審査により選考します。

令和８年９月開催予定の岸和田市介護保険事業運営等協議会で事業者を決定します。

（３）選定結果の通知および公表

選定後、「選定結果通知」を全ての応募者に通知します。また、選定された事業者名等を市のホームページで公表します。

※　選定後は速やかに広域事業者指導課に連絡を行い、指定申請のスケジュールを確認しておくこと

11　公募事業者の失格、応募の辞退、選定の取消しについて

（１）申請書等書類の提出期限後、次に該当する場合は失格とします。

①　応募要件を満たさない場合

②　応募事業者が提出した応募書類に虚偽その他不正があった場合

③　重大な事項（設置場所等）に変更があった場合

④　市民の疑惑や不信を招くような行為をしたと市長が認める場合

（２）応募書類の提出後、やむを得ない事情により取下げざるを得ない場合は、市長あて取下願（様式任意）を提出してください。また、整備事業者として選定された後、辞退することは本市施設整備計画全体に多大な支障を来すことになります。その影響を十分に認識した上で、確実に事業が実施できる見込みをもって応募してください。整備事業者として選定された後の辞退により、本市が今後実施する介護保険施設等整備事業者の募集に対する応募を受け付けできない場合があります。

（３）選定の取消しについては、以下のとおりとします。

①　整備事業者が応募書類に記載した内容を遵守しない場合及び施設整備に必要な開発許可又は、建築許可が得られない場合は、選定の取消しをすることがあります。ただし、整備事業者として選定後の整備計画の変更は、原則認められませんが、利用者サービスの向上につながるものや、事業所の実施設計に伴う等やむを得ないもので審査結果に影響を与えないもののみ、本市と協議の上、認める事ができる事とします。

②　応募書類に記載した内容を遵守しないことにより、整備事業者の選定が取消し等となった場合、この取消し等による損害及び費用負担等について本市は一切の補償等はしません。

12　日程

募集および事業者選定の日程（予定）は以下のとおりです。

令和８年６月２日（火）～ 令和８年６月 15 日（月）	募集要項配付期間 市ホームページからダウンロード可
令和８年６月２日（火）～ 令和８年６月 15 日（月）	事前協議申請受付期間
令和８年６月２日（火）～ 令和８年６月 15 日（月）	募集要項等に関する質問の受付期間 （事前協議申請書を提出しないと質問出来ません）
令和８年６月 22 日（月）	質問に対する回答日
令和８年６月 23 日（火）～ 令和８年７月 23 日（木）	本申請受付期間
令和８年８月中旬	選考委員会の審査・選考
令和８年９月下旬	事業者の決定
令和８年 10 月上旬	事業者の通知・公表

※現時点での予定であり、今後変更になる場合があります。

※書類審査における選考評価基準は別紙のとおり。

◆公募申請に必要な書類一覧表

	提出書類	様式等	備考
事前協議応募に必要な書類			
□	事前協議申請書	様式１－１	事前協議応募の時に提出
本申請に必要な書類			
□	申請書	様式１－２	
□	定款	（任意）	最新のもの
□	法人に係る登記事項証明書（全部事項証明）		３か月以内に発行されたもの
□	収支予算書の写し（令和７年度）	（任意）	
□	決算書の写し（直近３か年）	（任意）	他業を営んでいる場合、親会社がある場合等についてはそれらに関する同様の決算書
□	当該用地及び建物の（不動産に係る）登記事項証明書（全部事項証明）		３か月以内に発行されたもの
□	納税証明書（最新年度分） 「法人税」及び「消費税及地方消費税」の納税証明書（その３の３）	所管の税務署	・３か月以内に発行されたもの ・納税義務がない場合は、納税義務がない旨の申立書（様式 11）
□	法人の完納証明書	本市市民税課	
□	施設の基本設計図面等	（任意）	配置図・平面図（Ａ３用紙）
□	現況写真・位置図	（任意）	・道路側から撮影したもの ・近隣の住宅地図
□	有料老人ホームに関する届出の写し又はサービス付き高齢者向け住宅登録済証の写し		
□	誓約書	様式２	
□	事業計画書（法人の概要及び実績）	様式３－１	
□	事業計画書（運営方針）	様式３－２	
□	経歴書	様式４	代表者・管理者・介護支援専門員（予定者）
□	法人概要	様式８－１	
□	役員名簿	様式８－２	
□	代表者履歴書	様式８－３	
□	質問書	様式９	
□	辞退届	様式 10	

【注意事項（申請書類）】

１　提出書類は、原則としてＡ４で作成（図面等はＡ３をＡ４縦型に折り綴じること）。

２　Ａ４判フラットファイルに綴じて提出。提出部数は正本１部、副本６部。
　　副本は正本をコピーしたもので可。

３　上記書類のほか、必要に応じ、書類の提出を依頼することがある。

（別紙）

特定施設入居者生活介護、介護予防特定施設入居者生活介護選考評価基準

項目	評価内容	配点
基本的事項	法人の運営理念・実績	20
	介護保険事業の実績（又は今後取り組みたいこと）	
	法人の経営状況	
	法人代表者の実績	
運営に関する事項	運営理念	75
	管理者の経験等	
	緊急時の対応	
	事故防止・発生時の対応	
	自然災害及び感染症対策	
	苦情処理の体制	
	勤務体制の確保	
	職員の育成	
	医療機関との連携（協力医療機関等）	
	地域との連携	
	サービス向上策	
	利用者の権利擁護	
	介護相談体制	
	個人情報保護	
	利用料（食費、居住費等）の設定の考え方	
	認知症ケアに対する考え方	
事業所の状況	事業所の立地条件	5
合　　計		100

○　法人・施設の実績は令和８年６月１日時点とする。

○　同点の得点者が生じた場合は、選考委員会の合議により順位を決定する。